

**高等専門学校機関別認証評価**

**自己評価書**

**平成17年7月**

**釧路工業高等専門学校**



## 目 次

対象高等専門学校の現況及び特徴	1
目的	2
基準ごとの自己評価	
基準 1 高等専門学校の目的	6
基準 2 教育組織（実施体制）	15
基準 3 教員及び教育支援者	35
基準 4 学生の受入	92
基準 5 教育内容及び方法	119
基準 6 教育の成果	297
基準 7 学生支援等	353
基準 8 施設・設備	400
基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	428
基準 10 財務	499
基準 11 管理運営	522
選択的評価基準	
研究活動の状況	555
正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	585



## 対象高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

#### (1) 高等専門学校名

釧路工業高等専門学校

#### (2) 所在地

北海道釧路市

#### (3) 学科等構成

学 科：機械工学科，電気工学科，電子工学科，情報工学科，建築学科

専攻科：建設・生産システム工学専攻，  
電子情報システム工学専攻

#### (4) 学生数及び教員数

(平成17年5月1日現在)

学生数：学 科 988名

専攻科 32名

教員数：76名

### 2 特徴

#### (1) 沿革

釧路工業高等専門学校は、地域産業界の強い要望により、実践的技術者を養成するための高等教育機関として、昭和40年度に機械工学科、電気工学科、建築学科の3学科をもって設置された。その後、昭和45年度に電子工学科、昭和61年度には情報工学科が増設され、5学科の構成となった。平成16年度には、準学士課程の上に高度で複合・融合的な工学専門領域の教育を目指して、建設・生産システム工学専攻及び電子情報システム工学専攻の2専攻からなる専攻科が設置された。

本校は平成16年4月1日に独立行政法人国立高等専門学校機構によって設置される国立高等専門学校となった。現在では、本科988名、専攻科32名の学生に対して、創造性のある実践的技術者を育成するための教育を行なっている。

この間、平成12年度に本校の地域産業界への貢献を通じた実践的技術者教育のいっそうの充実を図るために、地域共同テクノセンターを創設した。平成7年には地域連携を促進するために、産学官共同研究・連携推進協議会を設置し、共同研究の促進を図った。さらに平成17年6月には、この協議会を発展的に解消し、地域企業や団体、個人会員から構

成される外部組織の釧路工業高等専門学校地域振興協会を設立していただいた。

本校は、北海道東部の帯広、釧路及び根室3支庁管内における唯一の工学系高等教育機関として、設立以来40年間に5000名を超える卒業生を社会に送りだすとともに、地域との連携を行なってきた。卒業生は企業の経営者や技術者、教育研究機関の教授、助教などとして活躍している。また、本校には電気系3学科、建築学科があるなど、ユニークな学科構成となっている。

#### (2) 理念・目的及びその背景

本校の理念・目的は、創造性のある実践的技術者の育成と地域貢献・地域連携である。創立以来40年の伝統をもつ校訓は信頼、努力、明朗であり、教育目標は、(1)人格をそなえ、自己を律する人物を育てる、(2)広い視野をもち、創造力豊かな技術者を育てる、(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てることである。本校では、この理念と目的に基づいて、自己の基盤となる専門分野の基礎知識を備え、多様な技術的課題に対するデザイン能力、コミュニケーション能力をもつ技術者の育成を目指して、教育・研究、地域連携を行なっている。

優秀な人材を積極的に集めるための中学校訪問、学校説明会、学校見学会、体験入学、地域イベントへの参加など、広報活動を展開している。これらの活動により、平成16年度までの3年間入試倍率が増加したが、地域における少子化の進行のため、平成17年度は漸減した。

本校の教育が国際的な学士教育課程のレベルにあることを立証し、学生及び社会の期待に応えるため、平成18年度に「生産情報システム工学」教育プログラムとして工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE認定を取得することを目指して、平成16年度に教育システムの再検討を行ない、平成17年度から検討結果を実施に移している。

学業の外に、技術者を目指す者の人間教育の一貫として、課外活動を重視し、成果を上げている。ロボコンにおける全国大会8年連続出場、準決勝進出、吹奏楽北海道大会大学部門における銀賞受賞などの実績がある。

## 目的

### 1 釧路工業高等専門学校の使命

本校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する高等教育機関として、工学の幅広い基礎知識、高度の専門知識、技術に関する能力をもつ、創造的な実践的技術者の養成を使命とする。また、本校は北海道東部に於ける唯一の技術系高等教育機関として、地域の社会的及び技術的養成に応え、地域と連携し、地域に貢献することも使命とする。

### 2 養成すべき人材像

養成すべき人材像は、(1)人格をそなえ、自己を律する人物、(2)広い視野をもち、創造力豊かな技術者、(3)チャレンジ精神に富んだ人物である。より具体的には、以下の能力や習慣をもつ人材である。

- (1) 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える能力、及び技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する能力
- (2) 実践的な経験を通して、地域の産業や社会の抱える課題に対処できる能力
- (3) 工学の幅広い基礎知識を修得し、それらを応用する能力
- (4) 技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力
- (5) 多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決するデザイン能力、及びチームワークで仕事をする能力
- (6) 文章、口頭、図表や視覚的方法によって、効果的にコミュニケーションができる能力
- (7) 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣。

### 3 教育活動等の基本的な方針

養成すべき人材を、以下の取り組みによって育成する。

地域の中学校卒業生から優秀な人材を集めるために、優れた教員と施設をもつ魅力的な教育環境を整備し、併せて、本校の魅力を周知させるための広範な広報活動を展開する。その上で、ものづくりを基盤とする体験重視型の早期創造教育を行なう。地域社会・産業界及び海外の協定校との連携により、課外活動や学寮生活をも含めた全人格的教育のもとに実践力と創造性を育成する。

このような技術者を養成する教育課程は、準学士課程における5年間のくさび型一貫教育、とくに低学年における全学科にわたる混合授業としての創造工学、3年、4年及び5年次での専門教育、ならびに専攻科課程での複合専攻（機械工学及び建築学からなる建設・生産システム工学専攻、電気工学、電子工学及び情報工学からなる電子情報システム工学専攻）から構成される。

### 4 学生の支援に関する基本的な方針

学習相談・支援や健康相談の充実、進路指導（就職支援、進学指導）の充実、生活指導の充実、学生寮運営の方針や寮生の生活指導の充実、経済的支援の充実、留学生受け入れシステムの充実を図る。

( 準学士課程・専攻科課程毎の独自の目的 )

1 準学士課程

教養教育では、専門を学ぶための基礎学力、コミュニケーション能力、社会人として必要な素養、広い視野を養う。専門教育では、ものづくりの実践を通して専門分野の基礎を学びそれを応用する能力を養う。

2 専攻科課程

建設・生産システム工学専攻及び電子情報システム工学専攻の 2 専攻があり、共通の教育方針は、本科 5 年間の教育で培われた実践的技術者としての素養に加え、創造的な技術開発能力、情報の高度処理技術、国際化への対応能力を総合的に兼ね備え、技術者倫理と地域への貢献意識をもった高度技術者の育成である。これに加えて、各専攻の特徴的な教育方針は以下の通りである。

(1) 建設・生産システム工学専攻

主として機械工学と建築学を基礎とする学生を対象として、機械設計と建築設計の両方の視野をもって対応できる設計・開発技術者や、地域の特色である低温環境における諸問題に対応できる技術者を育成する。

(2) 電子情報システム工学専攻

主として電子工学、電気工学、情報工学を基礎とする学生を対象として、それぞれの専門的基礎知識の上に、関連する境界領域に関する知識をもち、応用力と創造力を備えた高度な研究開発能力をもつ技術者を育成する。

( 選択的評価基準「研究活動の状況」に係る目的 )

本校は、実践的技術者を育成する高等教育機関として、教育内容を技術の進歩や社会の要請に即応させるための研究を行なうこと、及び地域連携の一環として地元企業との共同研究等を行ない、その成果を教育に還元すること、を研究活動の目的としている。

これは、高等専門学校設置基準第2条第2項「前条の場合において、高等専門学校は、その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように努めるものとする」、及び独立行政法人国立高等専門学校機構の目的「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ること」と業務の範囲「機構以外の者からの委託を受け、又はこれと共同して行なう研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行なうこと」に合致するものである。

本校の研究活動の目的及び方針は、以下の通りである。

- (1) 実践的技術者を育成する高等教育機関として、教員は教育内容を技術の進展や社会の要請に対応させるための研究活動を行なう。この研究活動の成果を教育に還元することによって、教育レベルの一層の向上を図る。
- (2) 地域産業界と連携して、これまで地域が培ってきた技術の、高度化と融合を図り、新産業の創出に寄与する共同研究等を行なう。この研究活動の成果を教育に還元することによって、実践的技術者教育の質の向上を図り、地域産業界の現状や課題に関する認識及びその解決に貢献する意識を育む。

本校の研究活動は、上記2つの目的のうち特に(2)に力点を置いている点に特徴がある。この目的を達成するための方針は以下の通りである。

- 2-1) 地域共同テクノセンターを中心とした地域の産官学連携を進める。
- 2-2) 釧路工業高等専門学校産官学共同研究・交流推進協議会の活動及び釧路根室圏産業技術振興センター(釧路工業技術センター)との連携を推進する。
- 2-3) 地域産業界との懇談会、地域企業訪問を行ない、地域企業との人的ネットワークを構築し、地域の技術的課題を発掘する。
- 2-4) 地域企業との共同研究やインターンシップに学生を積極的に参加させる。
- 2-5) 全教員の研究課題を印刷物として配付するとともに、ホームページに公開する。



( 選択的評価基準「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的 )

本校の理念・目的には、「実践的技術者の育成とともに、地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する」ことが含まれている。この目的に基づき、本校では地域社会との連携を積極的に推進し、施設設備の開放ならびに多様な催しを企画、発信して、地域社会への教育サービスに努めるとともに、学生の教育への還元を図る。

この目的を達成するための方針は、以下の通りである。

- (1) 全教員の研究内容をわかりやすく説明し、技術相談や各種団体の講師招聘などに寄与することを目的として、「教員シーズ集」を発行する。
- (2) 公開講座を毎年最低 5 件以上開催する。公開講座の内容は、一般市民の生涯学習意欲に応えるもの、青少年の科学や技術への興味喚起や理科離れに対応するためのもの、企業向けの先端技術に関するものなどとする。
- (3) 公開講座では、参加者アンケート等により、その 70%以上から良好な評価が得られる内容とする。
- (4) 中学校への出前授業を毎年最低 15 クラス以上実施する。また、夏休みこども開放プランを毎年実施する。これらを通じて、子どもたちへ科学技術の素晴らしさをわかりやすく伝える。
- (5) 図書館の蔵書情報を積極的に公開し、図書館開放における利用率の向上を図る。
- (6) 青少年科学館の実験教室講師や科学の祭典、科学屋台村へのブース出展等を積極的かつ組織的に行い、地域社会への教育サービスに努める。

## 基準ごとの自己評価

### 基準 1 高等専門学校の目的

#### (1) 観点ごとの分析

観点 1 - 1 - : 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校の目的として明文化されているものをあげると、以下のとおりである(資料 1 - 1 - - 1)。

資料 1 - 1 - - 1

#### 第 1 章 本校の目的

第 1 条 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典 釧路工業高等専門学校学則 昭和 40 年 8 月 9 日釧高専規第 1 号)

上記学則の規定は、本校創立の時期に定められ、以来、学校教育法の規定に基づき一貫したものである。なお、専攻科の設置に伴い、専攻科の目的を追加した(資料 1 - 1 - - 2)。

資料 1 - 1 - - 2

#### 第 1 1 章 専攻科

第 5 0 条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(出典 釧路工業高等専門学校学則 改正平成 16 年 3 月 31 日釧高専達第 9 号)

次に、本校が教育研究活動を実施する上での基本方針とも言うべき「教育理念」について述べる(資料 1 - 1 - - 3)。この教育理念は、以下に述べる法人化を目前にした平成 15 年度における「釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画」策定の議論の中で合意、明確化されたものである。

資料 1 - 1 - - 3

(前文)

#### 教育理念

釧路高専は北海道東部における唯一の技術系高等教育機関として、地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成、また、産業界への技術支援、技術者のキャリアアップ教育、地域住民の生涯教育や社会活動への支援を任務としている。これらの実現のために「創造力、問題発見・解決能力をもち即戦力となる技術者を育成し、地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する」ことを理念とする。

(出典 釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画)

教育目標として掲げられている次の 3 つの項目は、本校の学校要覧(昭和 63 年版)に初めて明確な形で掲載されている。翌平成元年からは、学校要覧とともに学生便覧にも掲載され、以降、様々な本校の学生・教職員・受験者向け印刷物等で定着してきたものである。その決定過程については、今では明らかにはではないが、前述の中期目標・中期計画策定の議論の中で、本校が「養成すべき人材

像」の一部として明確に位置づけられた。その教育目標を達成するために学生が身につけるべき能力として具体的に示されたのが学習目標である（資料 1 - 1 - - 4）。

資料 1 - 1 - - 4

#### 養成すべき人材像

##### 上記教育理念のもと

- ( 1 ) 人格をそなえ、自己を律する人物を育てる
- ( 2 ) 広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる
- ( 3 ) チャレンジ精神に富んだ人物を育てる

を、教育目標として掲げ、この教育目標を達成するために、学生が身につけるべき能力を学習目標として次のように定める。

- ( 1 ) ( 技術者として社会に貢献するために ) 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する能力を身につける。
- ( 2 ) ( 地域社会に貢献するために ) 実践的な体験を通して、地域の産業や社会が抱える課題に対処できる能力を身につける。
- ( 3 ) ( 多様な技術的課題を解決できるように ) 工学の幅広い基礎知識 ( 数学、自然科学、情報技術など ) を修得し、それを応用する能力を身につける。
- ( 4 ) 技術者として自己の基礎となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。
- ( 5 ) 多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、計画を実行して解決する能力 ( デザイン能力 ) を身につける。 ( チームワークで仕事をする能力を含む。 )
- ( 6 ) 文章、口頭、図表や視覚的方法によって、効果的コミュニケーションができる能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し、口頭で発表し討論する能力、および英語で論理的に記述し、口頭で発表し討論する基礎能力を身につける。
- ( 7 ) ( 技術の進展や社会の変化に対応できるように ) 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

( 出典 釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画 )

高専の中期目標・中期計画は、国立大学法人のそれとは異なり、法律上の位置づけはない。しかし、独立行政法人制度のもとで、学校がどのような形でその責務を果たそうとしているのかを社会に示すためのものとして、各校で策定作業が進められたものである。本校においては、校長補佐体制のもとで原案作りを進め、運営会議、WGや各学科による議論、教官会議といった全校をあげた議論を経て約1年をかけ校長が決定したものである（資料 1 - 1 - - 5）（資料 1 - 1 - - 6）。

資料 1 - 1 - - 5

#### 報告事項

##### 法人化ワーキンググループ

中村校務主事から、中期目標・中期計画（案）について、資料 6（各学科に配付済み）に基づき報告があり、この内容について、各学科毎の意見をまとめて今週中にWGに報告してほしい旨、改めて要請があった。

( 出典 平成 15 年 5 月 19 日 運営会議議事概要 )

資料 1 - 1 - - 6

報告事項

4. 中期計画について

校長から、釧路高専中期計画（案）について、配布資料のとおり 12月24日（水）に文部科学省に提出する旨報告があった。

（出典 平成 15 年 12 月 22 日 教官会議議事概要）

なお、本校の中期目標・中期計画はその性格上、本自己評価において各基準で引用されることとなると思われることから、ここで全文を資料として示す（資料 1 - 1 - - 7）。

資料 1 - 1 - - 7

本校の中期目標・中期計画（<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>）

（出典 本校ウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的は、学則により明文の規定として定めている。さらに、教育研究活動を実施する上での基本方針、養成しようとする人材像、達成しようとする基本的成果等は、法人化前に全校的な議論を経て決定された「中期目標・中期計画」の前文として明文化されている。以上のことから本校は高等専門学校として目的を明確に定めている。

観点 1 - 1 - : 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

（観点到に係る状況）

本校の目的（資料 1 - 1 - - 1）は、その条文中に「学校教育法に基づき」と規定されているとおり、法の精神をそのまま定めたものである。また、これを学生が身につけるべき能力としてより具体的に表現したのが学習目標（資料 1 - 1 - - 4）であることから、その対応関係を明らかにするために以下の作業を試みた（資料 1 - 1 - - 1）。

「深く専門の学芸を教授し」との対応	「職業に必要な能力を育成」との対応
<p>学習目標</p> <p>3. 工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術など）を修得し，それを応用する能力</p> <p>4. 技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を習得し，それを応用する能力</p>	<p>学習目標</p> <p>1.（の前段）人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える能力</p> <p>1.（の後段）技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対し負っている責任を理解する能力</p> <p>2. 実践的な体験を通して，地域産業や社会が抱える課題に対処できる能力</p> <p>3. 工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術など）を修得し，それを応用する能力</p> <p>4. 技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を習得し，それを応用する能力</p> <p>5.（本文）多様な技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，計画を実行して解</p>

	決する能力 5. (カッコ書き) チームワークで仕事をする能力 6. 文章, 口頭, 図表や視覚的方法によって, 効果的にコミュニケーションができる能力。すなわち, 日本語で論理的に記述し, 口頭で発表し討論する能力, および英語で論理的に記述し, 口頭で発表し討論する基礎能力 7. 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣
--	---

(出典 本自己評価のための作成資料)

以上のとおり, 結果的に見れば全部の学習目標は, 「職業に必要な能力を育成」に該当することとなった。そして, 「深く専門の学芸を教授し」に該当するのは, 工学の基礎教育と工学の専門教育である。

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的を定めた学則の規定は, 学校教育法第70条の2の規定を引用している。また, 目的をより具体的に表現した学習目標と法との対応関係を検討した結果, すべての項目が法の規定に対応していることが明らかになった。以上のことから, 本校の目的は学校教育法の定めを外れるものではない。

観点1-2- : 目的が, 学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点到に係る状況)

学生への周知の状況 本校の目的が, 学則に定められていることは先に述べた。学則は, 全文が

学生便覧に掲載されており, 学生は常に読むことができる。これを具体的に表現した学習目標(学生が身につけるべき能力)は, 学生玄関や各教室に掲示されているほか, 学生便覧にも掲載されている。これらについては, ただ渡すだけではなく, 入学時の新入生オリエンテーションの際, 教務ガイダンスで説明し, 理解を促している(資料1-2--1)。

資料1-2--1

#### 教務ガイダンス

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 高専の目的  | (学生便覧 とびら) |
| 2. 学期について | (学生便覧 5頁)  |
| (以下省略)    |            |

(出典 平成17年度釧路工業高等専門学校新入生オリエンテーション実施要項)

また, 各授業のシラバスには, 当該科目の内容と学習目標との関連が示され, 授業を受けることで自分がいま学習目標のどの能力を身につけるために勉強しているかが理解できる仕組みになっている。

教職員への周知の状況 先に述べた学生用印刷物は, 毎年教職員にも配布され, 周知が図られている。また, 学則や中期目標・中期計画はホームページに掲載され, 教職員はいつでもこれを見ることができる。なにより, 教育理念や「養成すべき人材像」に書かれた教育目標・学習目標は, 1年近

い時間をかけて学内の議論により合意されたものである。特に、学習目標は、J A B E E プログラムの学習・教育目標にもなっている。このため、企業や卒業生等による検証を経て必要があれば改訂していくべきものであるという考えに立ち、現在もアンケート調査などを通じて、全学的に引き続き検討が行われている。このため、教職員には広く周知され理解されている。また、新任教職員研修では、「中期目標・中期計画」に関するガイダンスが行われ、周知と理解が図られている（資料 1 - 2 - - 2）。

資料 1 - 2 - - 2

平成 16 年 4 月 1 日付け本校採用教員への説明会

日 時 平成 16 年 4 月 12 日（月） 15 : 00 ~  
 場 所 会議室  
 説明者 庶務課長，人事係長  
 対象者 5 名 電気工学科 教授 山 岡 勝  
           一般教科 助教授 田 村 聡 子  
           機械工学科 " 成 澤 哲 也  
           建築学科 " 森 太 郎  
           建築学科 " 井 上 圭 一  
 内容等 入職誓約書関係（就業規則第 10 条に基づく 既に提出済み）  
           労働条件の明示（労働時間は本則で表記）  
           就業規則関係（労働条件の明示と併せて説明）  
           変形労働時間制（制度内容，導入の経緯，適用の選択）  
 配付書類 労働条件通知書（各個人分）  
           就業規則（給与規則，労働時間・休暇等規則）  
           変形労働時間制関係資料  
           本校「中期目標・計画」，機構「中期目標・計画」  
           独立行政法人通則法  
           独立行政法人国立高等専門学校機構法  
           平成 16 年 4 月 1 日付け本校採用（事務系）者への説明会

日 時 平成 16 年 4 月 12 日（月） 13 : 30 ~  
 場 所 会議室  
 説明者 庶務課長，人事係長  
 対象者 2 名 庶務課人事係員 早 坂 暁  
           会計課用度係員 吉 泉 朋 亜  
 内容等 入職誓約書関係  
           労働条件明示  
           就業規則関係（労働及び休憩時間，身分関係）  
 配付書類 入職誓約書  
           就業規則（給与規則，労働時間・休暇等規則，出向規則）  
           その他（本校中期目標・計画，機構中期目標・計画）

<説明会の進め方>

1. 入職誓約書（既に提出済み）の内容に基づき、「独立行政法人通則法」，「独立行政法人国立高等専門学校機構法」について説明を行う。
2. 本校「中期目標・計画」，機構「中期目標・計画」の説明を行う。
3. 労働条件通知書に基づき各規則の説明を行う。
4. 変形労働時間制の説明及び適用の選択についての説明を行う。
5. その他，必要とされる事項の説明（例えば兼業・出張・研修の取り扱い）

（出典 庶務課作成説明会実施要項）

（分析結果とその根拠理由）

学生に対しては，学生便覧の配付や学習目標の玄関・各教室への掲示などにより周知を図っているほか，新入生オリエンテーションで説明し理解を促している。また，各授業のシラバスに学習目標と授業内容との関連を示し学生が理解できる仕組みを整えている。教職員には「中期目標・中期計画」策定の過程を通じ周知・理解され，また，現在も引き続く改定のための検討によりさらに理解が促進されている。新任教職員研修でも説明されている。これらのことから，本校の目的は構成員に周知されている。

観点 1 - 2 - : 目的が，社会に広く公表されているか。

（観点到に係る状況）

目的のうち，学則の定めはそれ自体としては抽象的でわかりにくい面があることから，次のとおり平易な表現に書き直して，「学校案内」「中学生向けパンフレット」という2種類の広報誌に掲載し，広く公表している（資料 1 - 2 - -1, 1 - 2 - -2）。

資料 1 - 2 - -1

制度と目的

高等専門学校（高専）は，技術者を志す人たちのための高等教育機関です。科学技術の急速な発展に適應できる，高度な知識と実践的な技術を身につけた技術者を養成することを目的として設けられた学校です。（以下略）

（出典 別添中学生向けパンフレット）

資料 1 - 2 - -2

募集要項等送付部数一覧

平成16年8月26日発送

機関名	募集要項	学校案内	学校パンフ	Q&A	KOSEN
文部科学省高等教育局専門教育課長	1	1			
独立行政法人国立高等専門学校機構	1	1			
各国立高等専門学校長	54	54			
各報道機関	23	23			
北海道教育委員会教育長	1	1			
北海道各地方教育局長	14	14			
各市町村教育委員会教育長	89	89			
道内各公立中学校長	714	714	36700	714	300
合計	897	897	36700	714	300

(出典 学生課資料)

なお、この他、高専見学会、体験入学、入試説明会、中学校訪問では、これらの広報誌を用い本校の目的を説明している。参加者数等を併せて資料で示す。(資料1-2--3)

資料1-2--3

平成16年度 学生募集PRの実施状況

実施事項	実施時期	担当者	摘要
見学会	7月24日(土) 7月25日(日)	校長 5学科主任 寮務主事・主事補 専門学科教員	ビデオ上映 校長挨拶 学科説明 自由見学・入試相談コーナー  329名(445名)
入試説明会	9月18日(土) 9月25日(土) 10月2日(土) 10月2日(土) 10月16日(土) 10月16日(土)	教務主事 校長・主事・学級主任 千葉教務主事補 澤柳教務主事補 澤柳教務主事補 千葉教務主事補	札幌市 23名(27名) 釧路市 93名(140名) 帯広市 47名(52名) 斜里町 13名(24名) 北見市 15名(25名) 中標津町 10名(29名)  計 201名(297名)
中学校訪問	7月上旬～中旬	校長	高校 10校 中学校 34校  計 44校(34校)
	9月上旬 ～11月中旬	入試委員 学科教員	釧路・根室・十勝・網走・札幌  計 174校(179校)
入試懇談会	11月12日(金) 11月16日(火) 11月24日(水)	校長 教務主事 学生課長 教務係長・係員	帯広市 9名(10名) 北見市 8名(8名) 釧路市 20名(18名)  計 37名(36名)
学習塾訪問	11月～12月	千葉教務主事補 澤柳教務主事補	帯広市内 2校(2校) 釧路市内 4校(4校)  計 6校(6校)
体験入学	11月13日(土)	5学科	機械工学科 26名(23名) 電気工学科 29名 電子工学科 34名 情報工学科 34名 建築学科 18名  計 141名(23名) (実人数 114名)
その他	7月2日(金) 7月2日(金) 8月24日(火) 10月29日(金)  6月9日(水) 7月7日(水) 9月17日(金)	教務主事 澤柳教務主事補 教務主事 澤柳教務主事補  佐藤主事・学級主任 藤原・学級主任 学科教員	富原中学校主催の説明会 庶務中学校主催の説明会 厚岸真龍中学校主催の説明会 景雲中学校主催の説明会  富原小学校6年 3名 中標津東小学校6年 4名 姉別南小学校4年 1名

( ) は前年度の実績



(出典 平成17年5月27日入試委員会配布資料)

教育研究活動を実施する上での基本方針である「教育理念」及び「養成すべき人材像」は、中期目標・中期計画として、その全文がホームページに掲載され、広く社会に公表されている。以下に、法人化に際し掲載した文書を示す(資料1-2--4)。

資料1-2--4

#### 釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画(案)について

本校は、独立行政法人国立高等専門学校機構により設置された国立工業高等専門学校です。中期目標・中期計画は、独立行政法人通則法の規定により、主務大臣が定めることとされています。そういう意味では、ここに掲載した本校の中期目標・中期計画は法律上の中期目標・中期計画とは異なります。

本校が、平成16年度からはじまる最初の中期計画期間にどんな取組を行おうとしているのかということを社会に説明するための資料としてご覧いただくことを目的に掲載しました。

なお、内容については、近く示されることとなる独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標・中期計画を勘案し変更する可能性があるものである点もご留意ください。

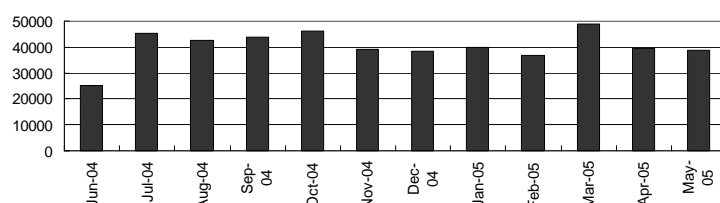
平成16年4月1日

(出典 釧路高専ホームページ掲載記事 <http://www.kushiro-ct.ac.jp/office/hp/jkoukai.html>)

なお、本校ホームページへの訪問数は、月当たり4万件前後であり、学内外の多くの人が本校の状況を知るために閲覧している(資料1-2--5)。

資料1-2--5

#### 「本校のホームページの訪問数」



(出典：<http://www.kushiro-ct.ac.jp/usage/>)

#### (分析結果とその根拠理由)

学則上の目的は、平易な文章に書きあらためられ中学生向けの広報誌に掲載し道内の中学生に配布されている。また、高専見学会、体験入学、入試説明会や中学校訪問ではこれらの広報誌を用いて本校の目的を説明している。教育理念・養成すべき人材像は中期目標・中期計画の一部としてホームページで公開されている。以上のことから、本校の目的は社会に広く公表されている。

#### (2) 優れた点及び改善を要する点

##### (優れた点)

特になし。

##### (改善を要する点)

特になし。

#### (3) 基準1の自己評価の概要

本校の目的は、学則において学校教育法を引用し定められている。また、平成16年度の法人化に

当たり全学的な議論を経て決定された「釧路工業高等専門学校中期目標・中期計画」により、「教育理念」、「養成すべき人材像・教育目標と学習目標」として明文化されている。

特に、「教育理念」においては、地域と連携し、地域に貢献することを目的として明記している。

また、「養成すべき人材像」では学生が身につけるべき能力として7項目の学習目標を定めている。

学習目標は、学則を具体的に表現したものとして学生玄関や各教室への掲示、学生便覧への掲載、ガイダンスなどでの説明を通じ学生に理解を促している。各授業のシラバスには、授業内容と学習目標との関連が示され、学生が理解できる仕組みが整えられている。また、学習目標は、JABEEプログラムの学習・教育目標にもなっているため、JABEE認定への取組を通じて教職員には広く周知され理解されている。これらの本校の目的は、よりわかりやすい表現にして中学生向けの広報誌に掲載され、また、学生募集PR活動などを通じ周知されている。教育理念や養成すべき人材像は、中期目標・中期計画の一部としてホームページで広く社会に公表されている。

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2 - 1 - : 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校の学科構成は、次の 5 学科構成となっている（資料 2 - 1 - -1）。

資料 2 - 1 - -1

第 7 条 学科，学級数および入学定員は，次のとおりとする。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	4 0
電 気 工 学 科	1	4 0
電 子 工 学 科	1	4 0
情 報 工 学 科	1	4 0
建 築 学 科	1	4 0

（出典 釧路工業高等専門学校学則）

各学科の概要は、以下に示されている（資料 2 - 1 - -2）。

資料 2 - 1 - -2

各学科の概要掲載箇所

（出典 別添本校学校要覧 10～24 頁）

本校は、創設時上記のうち機械・電気工学科，建築学科の 3 学科構成によりスタートした。その構成は、地元地域の強い要望に基づいていたことが以下の資料から伺える（資料 2 - 1 - -3）。

資料 2 - 1 - -3

陳情書によると、設置希望学科は地域的条件から機械，電気，建築の関係学科であった。このなかで、建築学科については、「地元業界からの強い要請もあり、建築科を是非ということをお願いしておいたので、文部省に対しても杉野目学長の助言もあって、全国で 4 番目に建築科設置が決まったという。」（「釧路高専だより」48.6，臨時号）と、当時の市教育長青山一二氏は回想している。

（出典 昭和 50 年 10 月発行釧路高専十年史）

その後、昭和 45 年に電子工学科，昭和 61 年に情報工学科をそれぞれ増設し、現在の構成に至ったもので、増設の経緯も、時代のニーズや地域産業界の要望を受け、それに応える形で実現されたものである。従って、現在の学科構成は、地元の地域的条件や産業界の要望に基づいたものということができ、これは、「職業に必要な能力を育成する」という本校の目的や、「地域の社会的・技術的要請に応え地域と連携し、地域に貢献する」という本校の教育理念に一致したものである。また、5 学科の専攻分野は、工学の幅広い分野を網羅するものとなっており、「職業に必要な能力」の基礎となるべき「深く専門の学芸を教授」するにふさわしい内容をもっている。

（分析結果とその根拠理由）

学科構成は、工学の幅広い分野を網羅するものとなっており、地域の要望に基づいて設置された経

緯からも適切なものとなっている。

観点 2 - 1 - : 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科の構成は以下のとおりである(資料 2 - 1 - - 1)。

資料 2 - 1 - - 1

第 5 1 条 専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

専 攻	入学定員
建設・生産システム工学専攻	8人
電子情報システム工学専攻	12人

(出典 釧路工業高等専門学校学則)

学則で定める専攻科の目的は、基準 1 で(資料 1 - 1 - - 2)として既に示した。これをよりわかりやすく表現したものが、次の記述である(資料 2 - 1 - - 2)。

資料 2 - 1 - - 2

専攻科の目的(わかりやすい表現)掲載箇所

The diagram, titled "Advanced Course", illustrates the educational structure. It features a central image of a lecturer in a classroom. To the right, a text box states: "専攻科は、5年間の高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く高度な専門知識及び技術を修得し、これまでに培われてきた実践的技術者としての素養に加え、より高度な技術開発能力と研究開発能力を身につけた創造型技術者の育成を目的としています。" (The Advanced Course aims to cultivate creative technical professionals by providing deeper and more advanced specialized knowledge and skills on top of the 5-year foundation of higher technical college education. In addition to the practical skills developed so far, it focuses on cultivating higher technical development capabilities and research and development capabilities.)

The diagram shows a flow from "専攻科 2年" (Advanced Course 2 years) to two specific fields: "建設・生産システム工学専攻 定員8名" (Construction/Production System Engineering, 8 seats) and "電子情報システム工学専攻 定員12名" (Electronics/Information System Engineering, 12 seats). Below these, a "本科 3年" (Bachelor's Course 3 years) is shown, which branches into five departments: "機械工学科" (Mechanical Engineering), "建築学科" (Architecture), "電気工学科" (Electrical Engineering), "電子工学科" (Electronic Engineering), and "情報工学科" (Information Engineering).

**専攻科における教育方針及び教育目標**

本専攻科では、本科課程の教育方針を引き継ぎ、発展させて、「創造的な技術開発能力、情報の高次処理能力、国際化への対応能力を総合的に兼ね備え、技術者倫理と地域への強い貢献意識をもった高度技術者の育成」を教育方針としています。

**(1) 機械・生産システム工学専攻**

機械・生産システム工学専攻は、主として機械工学、産業工学を基礎とする学生に対し、本科で修得した基礎学力、専門的能力をさらに高い水準に上げることのできるカリキュラムを編成しています。これにより問題解決能力・豊かな発想力をより高めた実践的技術者を養成します。さらに、学科の共通する基礎知識の分野に関しては、産業設計と機械設計の両方の視野のもとで対応できる設計・開発技術者や、地域の特色である低温環境における問題に対応できる技術者を養成します。

**(2) 電子情報システム工学専攻**

電子情報システム工学専攻は、主として電気工学、電子工学、情報工学を基礎とする学生に対し、本科の教育で修得した基礎学力を直接適用しながら、高度な専門技術を学ぶことにより、効率よく専門性を高めることができます。さらに、互いに関連する境界領域についても学ぶことにより、専門知識に広がりや応用能力を兼ね備えた創造性豊かな高度な研究開発能力を有する高度実践的技術者を養成します。



(出典 学校案内2004版 17頁)

ここでは、専攻科教育の目的とともに専攻科における教育方針及び教育目標が記載され、併せて、準学士課程5学科と専攻科2専攻との関係が示されている。また、両専攻の教育方針及び教育目的は、両専攻の概要を示しているものでもある。本校専攻科は、準学士課程5学科の専門分野を基礎として、その上に2専攻に集約する形で体系的に構成されており、準学士課程の「深く専門の学芸を教授し」を基礎とし、さらに「精深な程度において特別の事項(本校の場合は工学)を教授し、その研究を指導することを目的とする(学校教育法第70条の6第2項)」にふさわしい構成となっている。

(分析結果とその根拠理由)

本校の専攻科を構成する2専攻は、準学士課程5学科の専門分野を基礎とし、その上に各学科の専門分野を集約する形で体系的に構成されており、学校教育法の規定に適合しているとともに、教育の目的と整合性が取れている。

観点2-1- : 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

全学的なセンター等として次の2施設がある(資料2-1--1)(資料2-1--2)。

(資料2-1--1)

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、工業に関する研究開発、教育研究の推進及び地域産業の振興に貢献することを目的とした共同利用施設として、釧路工業高等専門学校地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)を置く。

(出典 釧路工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程)

(資料2-1--2)

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)における情報処理教育及び電子計算機システムの利用を円滑にすると共に、教育、研究及び事務等に関する情報処理の高度化を図るため、本校に情報処理センター(以下「センター」という。)を置く。

(出典 釧路工業高等専門学校情報処理センター規程)

地域共同テクノセンター設置目的は、工業に関する研究開発 教育研究の推進 地域産業の振興への貢献の3点のための共同利用施設である。これを具体化するため業務を以下のとおり定めている(資料2-1--3)。

(資料2-1--3)

(業務)

第2条センターは、次に掲げる業務を行う。

- 一 産官学交流に関すること。
- 二 共同研究及び研究交流に関すること
- 三 民間機関等に対する技術援助、技術相談及び学術情報の提供に関すること。
- 四 本校の学生及び地域社会に対する技術教育に関すること。
- 五 その他センターの目的を達成するために必要な事業に関すること。

(出典 釧路工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程)

センターの業務は、「産学連携事業の推進」とも言い換えることができ、このことは、本校の教育理念として示した「地域の社会的・技術的要請に応え地域と連携し、地域に貢献する」ことを推進する上で直接的に必要不可欠な事柄である。また、産学連携による研究活動の推進は、次の理由により「職業に必要な能力を育成する」という目的に貢献するものである。

高専における研究の位置づけは、次のとおり定められている(資料2-1--4)。

(資料2-1--4)

(教育水準の維持向上)

第2条(略)

2 前項の場合において、高等専門学校は、その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように努めるものとする。

(出典 高等専門学校設置基準)

本校の教員が、同センターを利用し産学連携による研究活動を推進し、教育の内容を学術の進展に即応させ、教育水準の維持向上に努めることによって、「職業に必要な能力の育成」に貢献しているということができる。

以上のことから、同センターの設置は本校の教育の目的を達成する上で適切なものである。

次に情報処理センターの設置目的は、情報処理教育(を行うこと) 電子計算機システムの利用を円滑にすること 教育、研究及び事務に関する情報処理の高度化の3点と明示されている。これを具体化するため業務を以下のとおり定めている(資料2-1--5)。

資料 2 - 1 - - 5

(業務)

第 2 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- 一 センターの管理，運営に関する事。
- 二 電子計算機（以下「電算機」という。）による情報処理教育の実施に関する事。
- 三 電算機による研究に関する事。
- 四 教育，研究及び事務等の情報処理に関する調査，研究，企画立案，及び啓蒙に関する事。
- 五 校内の情報ネットワークの構築及び管理に関する事。
- 六 校内・外の情報ネットワークの連絡・調整に関する事。
- 七 総合的情報処理化に関する事。
- 八 センターの事務に関する事。
- 九 その他電算機及び情報処理に関する事。

（出典 釧路工業高等専門学校情報処理センター規程）

第一号及び第二号は、情報処理教育の「場」としての機能を、第三号以下の各号は本校における情報処理あるいは情報ネットワークの中核を担う「組織」としての機能の両面を有していることがわかる。組織としての機能は、同規程で定められているセンター長，副センター長及び情報処理委員会が主として担い、場としての機能は各学科の教員がセンターの演習室を共同利用し行っている。情報社会の現代、これらの機能は学校にとって必要不可欠なものである。以上のことから、同センターの設置は教育の目的を達成する上で適切なものである。

（分析結果とその根拠理由）

地域共同テクノセンターと情報処理センターの 2 つの全学的なセンターを設置している。地域共同テクノセンターは共同研究の推進など産学連携活動の中核として、地域社会貢献と教員の研究活動を基礎とした教育水準の向上に貢献している。情報処理センターは情報処理教育の場として、また情報ネットワークの中核として機能しており教育研究に必要不可欠である。以上のことから、両センターの設置は、本校の教育の目的を達成する上で適切である。

観点 2 - 2 - : 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

（観点に係る状況）

検討・運営体制としては教務委員会がある（資料 2 - 2 - - 1）。

資料 2 - 2 - - 1

(委員会の設置)

第 1 条 釧路工業高等専門学校に校長の諮問機関として、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第 2 条 委員会において審議する時効は、次のとおりとする。

- 一 学校行事等に関する事項
- 二 教育課程の編成及び実施に関する事項

- 三 入学，転学，転科，進級及び卒業に関する事項
- 四 授業評価に関する事項
- 五 教育内容及び教育方法等の改善のための研修に関する事項
- 六 教育環境改善に関する事項
- 七 その他教務に関する事項

(組織)

第3条 委員会は，次の各号に掲げる者で組織する。

- 一 教務主事及び教務主事補
- 二 一般強化教員から2名
- 三 専門学科教員から各1名
- 四 学生課長
- 五 その他校長が必要と認めた者 若干名

(省略)

第4条 委員会に委員長を置き，教務主事をもって充てる。

2 委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

(以下省略)

(出典 釧路工業高等専門学校教務委員会規程)

委員会の位置づけは，校長の諮問機関である。これは，主事が校長の命を受けて各所掌事項を掌理するという組織体制をとっているからである(資料2-2--2)。

(資料2-2--2)

第3章 学科，学級数，入学定員及び教職員組織

(省略)

第9条 本校 本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。

2 教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。

4 寮務主事は，校長の命を受け，寄宿舍における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(以下省略)

(出典 釧路工業高等専門学校学則)

委員長は，教育計画の立案その他教務に関することを掌理している教務主事になっていることで，責任が明確になっている。委員構成は教務主事を補佐する役割を持つ教務主事補の他，一般科目担当教員及び各学科の専門科目担当教員がそれぞれの立場で企画立案に参画するほか，学科との綿密な連絡体制を担っている。また，学生課長が加わり専門的な見地から企画立案に携わる。次に，同委員会の活動の状況を示す。委員会は休業期間中を除く毎月定例で開催され，年間の開催回数は通常8回程度，他に必要に応じ臨時に開催されることもある。各年度の開催状況と，審議の様子を示すため直近の議事概要を以下に資料として示す(資料2-2--3，2-2--4)。

資料2-2--3

教務委員会の活動状況を示す資料(その1)



平成16年度 教務委員会(議事録)目次

3月定例教務委員会
臨時教務委員会
2月定例教務委員会

12月定例教務委員会
11月定例教務委員会
10月定例教務委員会
9月定例教務委員会
6月定例教務委員会
5月定例教務委員会
4月定例教務委員会

[前のページへ](#)

平成15年度 教務委員会(議事録)目次

3月定例教務委員会
2/25臨時教務委員会
2月定例教務委員会
12月定例教務委員会
11月定例教務委員会
10月定例教務委員会
9月定例教務委員会
6月定例教務委員会
5月定例教務委員会
4月定例教務委員会

[前のページへ](#)

( 出典本校学内向けウェブサイト議事録閲覧目次 )

資料 2 - 2 - - 4

教務委員会の活動状況を示す資料 ( その 2 )

6月定例教務委員会議事概要

日 時 : 平成17年6月3日(金) 16:25 ~ 18:10

場 所 : 小会議室

出席者 : 11名 欠席者 0名

1. 報告事項

( 1 ) 学生の修学状況について

( 資料 1 )

教務係長から, 資料 1 に基づき報告があった。

( 2 ) 北海道地区高専教務主事・専攻科長会議について

委員長から、今年度はレジュメのとおりで旭川高専が当番で行われる旨の報告があった。なお、学科で希望する協議題・承合事項があれば、9月の定例委員会で報告願いたい旨の補足があった。

(3) その他

なし

2. 審議事項

(1) 7・8・9月月間行事予定表(案)について (資料2)

委員長から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

なお、次のような補足があった。

- ・今年度は、7/8～10に開催される地区高専体育大会後の一週間、授業があること

- ・学寮防災研修は、当初9/10(土)に予定されていたが、寮務委員会での審議の結果、9/30(金)に変更となったこと

(2) 第4学年見学旅行計画について (資料3)

委員長から資料5に基づき説明があり、審議の結果了承された。なお、委員から、次のような意見が出された。

- ・見学旅行では工場見学をしなければいけないが、月末は工場見学を実施していない企業が多いので実施時期の変更を検討してもらえないか。

9月末の1～3・5学年の前期末試験時に併せて実施するため、変更はできない  
(委員長)

申し合わせでは、工場見学を必ず実施しなければならないという決まりはない  
(教務係長)

(3) 退学願について

委員長から 退学願について説明があり、審議の結果、了承された。

(4) 病欠欠席について (資料4)

委員長から資料4に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

(5) 特別学修の単位認定について (資料5)

委員長から、資料5に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

(6) 未修得進級除外科目について (資料6)

委員長から、各学科からお知らせいただいた未修得進級除外科目は資料6のとおりである旨の説明があった。

(7) その他

なし

3. その他

・オフィスアワー、補習・補講の実施状況について

委員長から、オフィスアワー、補習・補講の記録は半期ごとに提出することになっているが、現在、認証評価の自己評価書を作成中であり、その資料に取り入れるため、6/6(月)までの「学生指導記録」、「OH予定実施状況」、「補習願」及び「補講届」を6/10(金)までに教務係へ提出願いたい旨の要請があった。

なお、J A B E E 第 8 小委員会から、月曜日の昼休みと 7 時限終了後に放送している内容を教室に掲示、HP に掲載してほしいとの要請があったが、第 8 小委員会で検討してもらうこととなった。

また、オフィスアワーの時間に補習・補講が実施されているようだが、問題はないかとの質問があり、次のような意見交換があった。

- ・オフィスアワーは、原則、全教員が教官室で待機するべきである
- ・授業時間割上、月曜日しか補習・補講する時間がとれない
- ・オフィスアワーがまだ学生に十分定着していない状況なので、教官室で待機するという原則は守るべきである
- ・建築学科は、オフィスアワーの時間に学科の全教員が 1 年生に対して補習を行っているが、その間、オフィスアワーを利用して教官室を訪問した学生に対応することも可能である
- ・補講等を行う場合、居場所を掲示するなどして、教官室を訪れた学生へも対応できるようにしてはどうか

以上のような意見交換の後、委員長から、オフィスアワーの時間に補習・補講を行う場合は各教員がその旨を教官室に表示するなど訪れた学生への対応を十分考慮した上で実施することとしてはどうかとの発言があり、了承された。

・中間試験日程の見直しについて

委員長から、今回の前期中間試験は 5 M の試験科目数が多く、時間割上、7・8 時限まで実施しなければ試験期間内に収まりきれない状況であり、中間試験日程を 4 日間から 5 日間に見直しではどうかとの発言があった。その際、1・2 学年は試験実施科目が少ないため時間割上空き時間が生じるが、中間試験は授業回数に含まれることもあり、試験を実施しない座学の授業を入れることで対応する旨の説明があり、審議の結果、了承された。なお、後期中間試験から 5 日間の日程で実施することとなった。

・委員長から、授業評価アンケートの改善案と、授業公開の「教員相互評価表」を未提出の者は早急に提出するよう、委員から学科へ伝えていただきたい旨説明があった。その後、委員長から、授業公開について各委員の意見を伺いたい旨の発言があり、意見は次のとおりであった。

- ・評価方法は、5 段階評価より、いくつかの項目に対してよい点、改善する点をチェックする形式の方がよい
- ・今回、どの授業を参観するかは各人に委ねられていたが、ある程度、参観する授業を指定されたほうがよいのではないか

・委員から一意見として、5 月定例委員会で、留年生に係る「学外実習」の単位認定について、単位の持ち越しは認められないこととなったが、今年も希望者全員が学外実習に行けない厳しい状況であり単位の持ち越しを認めてほしいとの発言があり、委員長から、5 月定例委員会で決定済みであり、再検討する場合は来年度以降になるとの説明があった。

・委員から、専攻科に関する次のような質問があり、専攻科委員会へ伝えることとした。

- ・「現専攻科 1 年生に関し、本科 5 年の時の科目で「可」の評価となっているものについては、別途学力認定試験を実施し、60 点以上の評価を得てもらう」とあるが、具体的にはどのように対応すればいいのか

- ・専攻科生が本科科目の履修取消をする場合、本科の履修取消願を提出させるような仕組みはないのか
- ・教員から、校外HRを水・木・金曜に実施するよう要請があったにもかかわらず、その後、金曜日は避けて、水・木曜日に実施するよう要請があったのはなぜかとの質問があったことについて以下のような説明があった。
  - ・年度当初、授業回数をカウントしたときには前期の金曜日の授業回数は15回以上確保されていたが、その後、金曜日は授業回数が少ないことが判明し、校外HRの実施日は金曜日を外すよう学生委員会に要請したつもりだが、うまく伝わっていなかったようだ
  - ・前後期で授業回数が30回確保できればよいので、後期時間割を作成する際は、前期に回数の少なかった授業を回数の多い曜日に入れる等の考慮をすることもできるが、できれば、校外HRは水・木曜日に実施してほしいため、再度、日程の変更を要請する。

また、委員から、講義日数の一覧をHPに貼付けてはどうかとの提案があり、了承された。なお、この日数は曜日数でカウントしているので、午後に授業がないものも授業があるものとしてカウントされるため正確なものではなく、あくまで目安であり、各自で回数を確認するよう注意願いたい旨の補足があった。

以上

(出典 平成17年6月3日教務委員会議事概要)

議事概要は、学生課が作成し、校長決済を経てホームページに掲載される。(学内のみ閲覧可)また、審議の概要は、定例で開催される運営会議に報告される。

(分析結果とその根拠理由)

教育課程全体を企画調整し有効に展開するための検討・運営組織は、教務委員会である。委員会規程により役割、委員構成等を定め、委員長を教務主事として責任体制を明確にしている。毎月定例で会議を開催し重要事項を審議・決定し実際に運営している。活動内容は、運営会議に報告される。

観点2-2- : 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点到る状況)

はじめに、次の定例教務委員会議事概要を示す(資料2-2--1)。

(資料2-2--1)

#### 科目間調整会議の設置を示す資料

- ・一般教科と専門学科との科目調整会議について

委員長から、応用数学・物理(応用物理)の授業内容・進度等について、専門学科との調整の必要性が指摘されているため、応用数学については澤柳主事補、応用物理については坂口主事補が調整役となり、中間試験期間頃に科目調整会議を開催することとしたので、各学科から一名ずつ参加してほしい旨の要請があった。

また、JABEE小委員会から教員間ネットワーク構築の会議について教務委員会にて企画・開催することが提言されており、今後、上記二科目以外についても、必要に応じて、企画・開催していくこととなった。

(出典 平成17年5月11日教務委員会議事概要)

一般科目と専門科目との科目間の連動や調整のための打合せは、これまでも個別に行われていたが、それは組織的なものではなく記録も作成されていない。従って、調整結果や成果を具体的に明ら

かにすることができない。今回、教務委員会の企画により初めて組織的な取組が開始されたところである。以下にその記録を示す（資料 2 - 2 - - 2）。

資料 2 - 2 - - 2

### 科目間調整会議の活動を示す資料

科目調整会議第1回（6月7日）まとめ

1. 応数と専門学科(15:00～16:30)

出席者：荒井，山岡，浅水，神谷，草刈，澤柳

・個別の議論に入る前に、共通認識を作るため、他高専の応数のカリキュラム・シラバスをいくつか見て、本校と他高専との共通点や違いを説明。（本校は扱う分野・内容をかなり絞っており、扱う項目には時間をかけている。但し、応数5分野のうち4分野は扱っている。）

・次に、前もって各学科から出された意見・要望について、レジュメに基づき一通り返答があった。その中で、若干の意見交換がされた。

・レジュメの最初に戻り、「扱う内容」についての詳しい議論に入ったところで、次回への持越しとなった。

2. 物理・応物と専門学科(16:30～18:00)

出席者：成澤，松永，松本，大槻，神谷，井上，松崎，森，澤柳（司会）

・試験と学生の得点分布が資料として出された。また時間は物理：1年(2単位)，2年(3単位)，応物：3年(2単位)，4年(2単位)

・出された意見と返答

(1) レベルについて

・学生の理解度が低いといって、レベルを下げないで欲しい。

・高専レベルの目標を押さえた方が良い。専攻科に来る学生は、(学科によって専門のレベルが違うのは仕方ないが)せめて物理のベースは同じであって欲しい。

学年末に赤点が出ないようにやっている。必要な公式などは扱っている。2極化し、上の学生が退屈しているのは感じている。

(2) 専門とのつながり

・専門との関係をどう考えているか？

専門でどのように使われているか分からない。

・シラバスが詳しくないのでいつ何を扱うかが分かりにくい。実験もいつ何をしているか分かる、専門の実験でも対応させやすい。

(3) 扱う分野とその順番

・物理で力学が最後になっており、専門を教えるとき不便。

現在使っている検定教科書がオームの法則、波動、力学となっている。加速度、力が学生には難しいようなので、中学との関連をみると、この順番で良いように感じる。

・応物では力学、波動、熱学。他分野は扱わないのか？

電磁気は専門でやるはず。

・機械は物理で電磁気をやらなければ他にやる機会がない。逆に流体などは電気、電子、情報ではやる機会がない。

・現代物理は扱わないのか？

時間的に無理。下の学生を落とさないためには今で精一杯。1年生を見ていても、英語、数学で手一杯に見える。

- ・他高専ではどんなカリキュラムになっているのか？
- ・大学編入を目指す学生のことと考えて欲しい。

その他にも、「力」の理解の大切さ、物理的理解の大切さ、教科書の問題などについて意見が出された。

・次回に向けて

(1) 専門とのつながりを図るため、「いつ何を扱っているか(実験も含む)」がもう少し詳しく分かるものを物理・応物で用意してもらい、それを専門学科にまわして、専門との対応をチェック。

(2) 専門からは、物理の中で出せそうな専門の話題や問題を出してもらう。

(3) 物理・応物には、他高専のカリキュラム・シラバスを用意してもらう。

これらが準備できたら、前期末試験の時期をめどに第2回目を行う。

(出典 平成17年6月7日第1回科目調整会議記録)

(分析結果とその根拠理由)

教務委員会の企画により、組織的な取組が開始されたばかりである。「応用数学と専門」及び「物理・応用物理と専門」の2部会で検討が進められ、来年度のシラバス改定に向け準備が進んでいる。

観点2-2- : 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

はじめに、学級担任体制について述べる(資料2-2--1)。

(資料2-2--1)

#### 学級担任制を示す資料

(職の設置)

第2条 本校に、本学学則第9条の規定に基づく教務主事、学生主事及び寮務主事のほか次の職を置く。

- 一 校務主事
- 二 図書館主事
- 三 専攻科長
- 四 一般教科主任(副主任を含む。)
- 五 学科主任
- 六 専攻主任
- 七 学級総担任
- 八 学級担任
- 九 学級副担任

(以下省略)

第4章 学級総担任、学級担任及び学級副担任

(資格)

第14条 学級総担任及び学級担任は、教授、助教授または講師をもってあて、学級副担任は、教授、助教授、講師又は助手をもってあてる。

(職務)

第 15 条 学級総担任は、校長の命を受け、次の事項を掌理する。

- 一 各学年の学級担任の職務について連絡、調整を図ること。
- 二 その他各学年の学級の運営に関し、必要と認められること。

第 16 条 学級担任は、校長の命を受け、次の事項を掌理する。

- 一 学級の教務に関すること。
- 二 学級の厚生補導に関すること。
- 三 学級の特別教育活動に関すること。
- 四 その他学級の運営に関し、必要と認められること。

第 17 条 学級副担任は、校長の命を受け、学級担任の職務を補佐する。

( 出典 釧路工業高等専門学校教員組織及び職務分掌規程 )

本校の学級担任体制は、上記規程に示すとおり、学級総担任・学級担任・学級副担任から構成され、それぞれの職務が定められている。より具体的な職務内容は、教務・学生両委員会の審議を経て作成された「学級担任の手引き」により示され、毎年年度始めに開催される「担任会議」で配付・説明が行われる(資料 2 - 2 - - 2 )。

( 資料 2 - 2 - - 2 )

学級担任の具体的な職務内容を示す資料

目 次

1	ホームルームと学級担任の役割	1
1.1	ホームルームとは	1
1.2	ホームルームの機能	1
1.3	ホームルーム運営の留意事項	1
1.4	ホームルームでの具体的な指導事項	2
2	日常の指導	2
2.1	学生理解	3
2.2	生活上のしつけ	5
2.3	教室管理	6
2.4	学生への連絡	6
3	行事における指導	6
4	事件・事故への対処	8
4.1	連絡を受けた場合の処置	8
4.2	事後の処置	9
5	ロングホームルームの指導	9
5.1	LHRの取り扱い	9
5.2	LHRのテーマ(活動の内容)について	10
5.3	LHRに対する担任の心構え	10
5.4	LHRの工夫	10
5.5	LHRのテーマの具体例	10
5.6	視聴覚教材	12
5.7	進路資料室	13

6 事務手続き	13
6.1 教務関係の「取扱い及び申し合わせ類集」より	14
6.2 「学生便覧」より	16
6.3 表彰に関する内規	17
6.4 成績通知書	17
6.5 指導要録	17
7 職員相互の連絡	17
7.1 教員との連絡	18
7.2 事務職員との連絡	18
7.3 副担任	19

(出典 学級担任の手引き平成17年度版)

なお、学級担任体制の機能強化を図ることを目的に、最近いくつかの整備を図っている。その経緯を以下に示す(資料2-2--3)。

(資料2-2--3)

#### 学級担任体制の機能強化を示す資料

##### 審議事項

校務分掌について(担任2人制について)

校長から、資料に基づき説明があり、審議が行われた。主な発言は以下のとおり。

1. 「クラス担任は、そのクラスの授業担当であることを前提としない。」ことについて

・担任が授業を担当せず、毎朝のSHR、週1回のLHRを継続的に実施するのみでは、学生の状況把握(きめ細かな指導)には不十分ではないか。

・授業を担当していないと、学生指導や保護者への対応の際に不足を生じるおそれがあるのではないか。

2. 「原則として1年から3年まで持ち上がりとする。」ことについて

・3年間続くとマンネリ化するおそれがあるので、2年間(1年~2年または2年~3年)のほうが良いのではないか。

・学生と担任の相性が悪い場合、それが3年も続くと不測の事態が起こるおそれがある。環境の変化も必要であり、2年間が限度ではないか。

・低学年を3年連続で担任するのは負担が大きい。

3. 「1年~3年については主担任と副担任を置く。主担任は一般教官、副担任は当該専門学科の教官とする。副担任は、主担任の業務を補佐する。4年~5年のクラス担任は当該学科の専門教官1名とする。」ことについて

・他の校務分掌とのバランスも考慮しなければならないので、4~5年も従来どおり校長が担任を決定したほうが良いのではないか。

・副担任の任務が明確でないが、どの程度の仕事量なのか。

4. その他

・学年会議を定常的に開催し、横の連携を強化することで、学習指導・進路指導などへの効果が期待できる。(教務主事)

・SHRの実施にあたり、登校時間の規定、交通機関を利用している学生への配慮等については学



生委員会で審議する。(教務主事)

以上の発言をふまえて、16年度以降のクラス担任については次のとおりとし、関連する学内規程の改正については、2月の運営会議で審議事項として取り上げることが了承された。

- ・1年～3年については各クラスに主担任と副担任を置く。原則として主担任は一般教官、副担任は当該専門学科の教官とし、副担任は、主担任の業務を補佐する。
- ・各クラスの主担任を決定する際には、授業担当者であることを考慮するが、必ずしもそのことを前提としない。
- ・4年～5年のクラス担任は当該学科の専門教官1名とする。
- ・1年～3年の主担任及び4年～5年の担任は校長が任命する。
- ・1年～3年の副担任は学科が決定し、助手を含めることができる。
- ・原則として、主担任は1年～3年のうち2年間の持ち上がり(1年～2年または2年～3年)とし、3年までの持ち上がりについては経過を見ながら検討する。なお、担任が2年連続したら1年休むという慣例は廃止する。
- ・SHRを時間を定めて毎朝開催する。
- ・クラス担任の学年会議を定常的に開催し、学習指導、進路指導などの横の連絡を図る。

(出典 平成16年1月19日臨時運営会議議事概要)

以上のとおり、本校の学級担任体制は組織的に整備されており、さらに近年その機能強化を図るため、副担任制の導入や、原則として1年から3年までの持ち上がり制、学年会議の定常的な開催などが決定され充実を図っているところである。

次に、課外活動の指導教員等の支援体制について述べる。本校では、クラブ顧問の体制が整っている。課外活動指導に関する申し合わせ事項を以下に示す(資料2-2--4)。

(資料2-2--4)

#### 課外活動指導に関する申し合わせ事項

昭和55年3月19日教官会議了承  
 平成4年6月22日教官会議一部改正  
 平成11年12月2日学生委員会一部改正  
 平成13年3月5日学士委員会一部改正  
 平成17年6月7日学生委員会一部改正

#### ・課外活動に対する基本的考え方

課外活動は究極として自己の人間形成に資すべきもの、またそうでなければならない。異なる環境に育ち異なる考え方を持つ者同志が、同じ目標に向かって活動する中で心身は鍛練され集団意識は涵養され、正課教育では求められない人間形成の場が開けていく。

以上の基本的認識から課外活動も重要な教育活動の一環と考えるが、これは、正課教育に支障のない範囲にとどめるべきであり、そのための十分な配慮・指導が必要である。

実施に際しては、学生の自主的、自発的活動を主体に学校が指導、援助する。

#### ・クラブ顧問の指導体制

##### 1. 顧問の選任について

(1) 部及び同好会のクラブ顧問は全教官で当たることとする。

- (2) 各クラブの顧問には原則として2～3名の教官がつき、互選により代表顧問を決める。
- (3) 顧問の任期は4月教官会議の日より1年間（次年度4月教官会議まで）とするが、クラブとの結びつき及び地区連盟など外部団体との連携から継続して担当することが望ましく、変更の場合にも一度に全員の交替は避ける。
- (4) 顧問の就任依頼は原則として学生が行うものとし、毎年次年度の顧問就任依頼届を12月末まで学生係に提出する。なお、その結果を見て学生主事が調整措置を講ずることがある。
- (5) 顧問の任命は、学生主事の上申した最終調整案に対する校長の決裁によりなされる。

顧問名簿一覧表は、4月教官会議に提示される。

註 同好会新設の場合は学生準則第21条により、学生団体結成願を提出し校長の許可を得なければならない。顧問の任命はその手続きを経てから行う。

なお、継続活動に必要な顧問就任依頼届が提出されない同好会に対しては、調査の結果如何により廃止とすることがある。

## 2. 指導内容、範囲について

- (1) 顧問は、クラブ活動のスケジュールの把握、事故防止などについての一般的な指導を行う。
- (2) 随時の見回り指導。
- (3) 対外試合における引率。
- 技術指導は義務づけるものではない。

（出典 課外活動指導に関する申し合わせ事項）

上記申し合わせのとおり、本校では課外活動の指導体制を全教員により当たる旨の申し合わせを設けている。その結果としての本年度の体制が以下の「学生会・クラブ（部・同好会）顧問名簿である。名簿は、校長名で各教員に通知され、教員の職務として明確化されている（資料2-2--5）。

（資料2-2--5）

クラブ顧問を職務としていることを示す資料

平成17年4月13日

教 員 各 位

校 長 木 谷 勝

平成17年度学生会・クラブ（部・同好会）顧問について

標記のことについて、別紙のとおり決定しましたので、お知らせします。

顧問の先生には、課外活動に関する申し合わせ等に基づき、指導くださるようよろしくご協力願います。【別紙平成17年度学生会・クラブ（部・同好会）顧問名簿】

（別紙）

平成17年度 学生会・クラブ(部・同好会)顧問名簿

◎学生会関係

委員会・クラブ名	顧 問
評 議 会	
執 行 委 員 会	井 上 圭 一
監 査 委 員 会	
選 挙 管 理 委 員 会	成 澤 哲 也
行 事 委 員 会	
会 計 委 員 会	加 藤 雅 也
新 聞 委 員 会	* 小 田 島 本 有 片 岡 務

◎体育系クラブ

陸 上 部	* 林 幸 利
	依 田 有 康
	中 島 陽 子
	井 上 圭 一
男子バスケットボール部	* 西 澤 岳 夫
	浅 水 仁
	加 藤 雅 也
	柳 川 和 徳
男子バレーボール部	* 森 太 郎
	櫻 田 安 志
女子バレーボール部	* 館 岡 正 樹
ソフトテニス部	* 浦 家 淳 博
	高 山 晃 勝
	山 岡 勝
卓 球 部	* 小 杉 淳
	加 藤 岳 人
柔 道 部	* 三 島 利 紀
剣 道 部	* 渡 邊 聖 司
バドミントン部	* 山 崎 俊 博
	館 岡 正 樹
野 球 部	* 丹 国 夫
	千 葉 忠 弘
	成 澤 哲 也
アーチェリー部	* 佐 藤 英 樹
	佐々木 敦 潤
	須 田 潤
テ ニ ス 部	* 松 崎 俊 明
	中 島 敏 健
サ ッ カ ー 部	* 三 森 敏 司
	恐 神 邦 秀
	坂 口 直 志
ハンドボール部	* 本 間 宏 利
	草 苅 敏 夫
空 手 道 部	* 岩 渕 義 孝
	本 間 宏 利
	高 木 敏 幸
アイスホッケー部	* 館 岡 正 樹
応 援 団 (休)	* 荒 井 誠 治
	佐 藤 彰

◎文化系クラブ

写 真 部	* 片 岡 務
	吉 田 茂 尚
吹 奏 楽 部	* 山 田 昌 尚
	池 田 盛 一
美 術 部	* 麓 耕 二
	林 義 實
	山 岸 英 明
アマチュア無線部	* 松 永 繁 樹
	工 藤 信 博
茶 道 部	* 中 島 陽 子
	坂 田 篤 子
	大 槻 香 子
	土 江 田 織 枝

◎同好会

ドイツ語研究会	* 木 村 峰 明
	南 須 原 政 幸
	藤 本 一 司
軽音楽同好会	* 林 義 實
ロボット研究会	* 荒 井 誠 隆
	中 村 秀 一
	梶 原 和 範
基礎スキー同好会	* 坂 口 直 志
	柳 川 和 徳
スターリングエンジン同好会	* 田 中 孝 二 郎
	山 岸 英 明
航空技術研究同好会	* 麓 耕 二
RC(ラジコン)同好会	* 小 杉 淳
英会話同好会(休)	* 加 藤 岳 人
	* 佐 治 裕 利
スピードスケート同好会	* 林 幸 利
	* 三 島 利 紀
将棋同好会	* 高 橋 晃 紀
書道同好会	* 三 島 利 紀
	* 館 下 徹 志
マイコンカー同好会	* 坂 口 直 志
	大 槻 典 行
	高 木 敏 幸
映像研究会	* 中 島 陽 子
ステップ同好会	* 田 村 聡 子
チェス同好会	* 山 崎 俊 博
フットサル同好会	* 森 太 郎
	* 大 貫 和 永
自転車同好会	* 林 裕 樹
	土 江 田 織 枝
トランポリン同好会	* 大 槻 典 行

\*印は、代表顧問

(出典 学生課作成文書)

顧問教員は、上記の申し合わせに基づき、日々の学生指導に当たっているほか、クラブ顧問会議を開催し、活動全般にわたる指導上の問題等について話し合う機会を設け、教育活動を円滑に進めるた

めの方策について活発な議論を展開している（資料 2 - 2 - - 6）。

資料 2 - 2 - - 6

平成 16 年度クラブ顧問会議開催実績

平成 16 年 5 月 11 日（火）16：25～

審議事項

1. クラブ活動における遠征補助について
2. 課外活動中における事故について
3. 文化系クラブの交流について
4. 課外活動に関する申し合わせ事項について
5. 学生会予算関係について
6. その他
  - (1) 鶴翔寮の防災訓練（5月15日（土））への協力について
  - (2) 部員名簿の提出について
  - (3) その他

体育系クラブ代表顧問会議 平成 16 年 11 月 9 日（火）16：25～

審議事項

1. 全国高専体育大会の見直しについて

（出典 学生課作成文書）

学級担任やクラブ顧問の行う教育活動をさらに側面から支援するための業務は、学生課が行っている。学生課の事務分掌を示す（資料 2 - 2 - - 7）。

（資料 2 - 2 - - 7）

#### 学生課による教育活動の支援を示す資料

##### 第 4 節 学生課専門員及び各係の事務分掌

（専門員（進路指導・インターンシップ担当））

第 20 条 専門員は、次の事務を分掌する。

- (1) 学生の就職先開拓及び就職指導に関すること。
- (2) 進学希望学生への指導に関すること。
- (3) インターンシップに関すること。
- (4) その他進路指導に係る事務の企画，調査及び連絡調整に関すること。

（学生係）

第 21 条 学生係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 学生の課外活動に関すること。
- (2) 学生及び学生団体の指導に関すること。
- (3) 学生の掲示，集会及び印刷物に関すること。
- (4) 奨学生及び奨学金に関すること。
- (5) 授業料，入学料及び寄宿料の減免猶予に関すること。
- (6) 学生の福利施設の管理運営に関すること。
- (7) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (8) 学生旅客割引証及び通学証明書に関すること。

(9) 日本スポーツ振興センター及び学生傷害保険に関すること。

(10) 学生の賞罰に関すること。

(11) その他他の係に属しない学生課所掌事務を処理すること。

(教務係)

第 22 条 教務係においては、次の事務を分掌する。

(1) 入学者選抜に関すること。

(2) 修学指導に関すること。

(3) 教育課程に関すること。

(4) 学生の入学，進級及び卒業に関すること。

(5) 学生の休学，復学，転科，転学及び退学に関すること。

(6) 授業及び試験に関すること。

(7) 学生の成績，欠席及び欠課等に関すること。

(8) J A B E E に関すること。

(9) 教科書及び教材に関すること。

(10) 学生指導要録の記録及び保管等学籍に関すること。

(11) 学生の諸証明に関すること。

(12) 研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。

(13) 学生の海外語学研修に関すること。

(14) 教務事務システムに関すること。

(15) その他教務に関する事務を処理すること。

(寮務係)

第 23 条 寮務係においては、次の事務を分掌する。

(1) 学寮の管理及び運営に関すること。

(2) 学生の入寮及び退寮に関すること。

(3) 寮生の給食及び栄養管理に関すること。

(4) 寮費に関すること。

(5) 寮生の福利厚生に関すること。

(6) 寮生の健康管理に関すること。

(7) 学寮宿日直勤務に関すること。

(8) 外国人留学生に関すること。

(9) その他学寮に関する事務を処理すること。

(出典 釧路工業高等専門学校事務組織規程)

学生課は、上記の役割分担のもとで、例えば専門員は就職や進学指導面で学級担任と協力・連携し、学生係は課外活動や学生団体の指導面でクラブ顧問と協力し、教務係は就学指導面で、また寮務係は寮生の生活指導面で学級担任と連携して教育活動を支援している。

(分析結果とその根拠理由)

学級担任体制が整備されており、さらに近年副担任制や担任の学年持ち上がり制、学年会議の定常的開催を決めるなどの機能強化を図っている。課外活動においてはクラブ顧問を全教員で当たる旨の申し合わせを行い、課外活動を通じた教育活動を校長の命による職務として明確化している。クラブ顧問は日常的な個別の課外活動指導の他クラブ顧問会議を開催し、教育活動を円滑に進めるための方

策を検討している。学生課は、学級担任やクラブ顧問と協力・連携し、教育活動を支援している。以上のことから、本校では、教育活動を円滑に実施するための支援体制は機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

特になし

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準 2 の自己評価の概要

機械工学科，電気工学科，電子工学科，情報工学科，建築学科からなる 5 学科構成は，地域産業界の強い要望や時代のニーズに基づいて設置されてきた経緯があり，また，工学の幅広い分野を網羅しており，職業に必要な能力の育成にふさわしい内容を持っている。建設・生産システム工学専攻，電子情報システム工学専攻の 2 専攻で構成する専攻科は，準学士課程 5 学科を基礎とし，その上に各学科の専門分野を集約する形で体系的に構成されている。

2 つのセンターを設置し，地域共同テクノセンターは地域企業との共同研究など産学連携に基づく研究活動の中心として，また，情報処理センターは情報処理教育の場として及び情報ネットワークの中核としてそれぞれ機能しており，両センターとも本校にとって必要不可欠である。

教務主事を委員長とする教務委員会が置かれ，主事補，一般科目・専門学科教員及び学生課長で構成されたメンバーにより教育課程全体の企画調整や教育課程の有効な展開について定例の会議により審議され，様々な活動が行われている。このほど，教務委員会の企画により科目間調整会議が設置され，一般科目・専門科目間調整の組織的取組が開始されたところである。また，委員会の活動は，運営会議に報告され，全学に周知徹底されている。

学級担任体制が整備され，学級担任は，教務委員会・学生委員会により作成された「学級担任の手引き」に基づいてホームルームの運営や日常的な学生指導などに当たっている。さらに，副担任や学年会議の定常的開催などの機能強化が図られている。全教員によるクラブ顧問体制が整備され，課外活動を通じた教育活動を職務として明確化している。学生課は，学級担任やクラブ顧問と連携協力し，教育活動を支援している。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1- : 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

はじめに、本校の一般科目担当専任教員の配置状況を示す(資料3-1--1)。

資料3-1--1

一般教科担当教員配置状況掲載箇所

(出典 別添学校要覧8頁)

この表は、教員の定員上の配置を示すものである。教員の定員上の配置は、国による予算措置と実際の科目担当の乖離や、より柔軟で効率的な教員資源の配分の観点から、永年にわたる紆余曲折を経て現在の形に至ったものであり、必ずしも実際の教育の体制と一致していない面がある。具体的な例としては、同表中(兼)と表示されている教員である。(兼)の表示は、定員上の配置は専門学科に所属しながらも一般科目を担当している教員を示している。また、その反対に、定員配置上は一般科目に属しながら実質的には専門科目を担当している教員も含まれている。実質的な教員の配置状況を示すために、教育課程表と各科目の担当教員を対比する表を作成した(資料3-1--2)。

資料3-1--2

教育課程と担当教員対比表(一般)

教育課程表(平成17年度)

一般科目

区分	授業科目	単位数	学年別単位数					担当教員名	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修	国語	8	3	3	2			1MED 小田島, 1JA 館下, 2MDJA 加藤(岳), 2E 館下, 3MA 館下, 3E 加藤(岳), 3DJ 小田島	
	コミュニケーション実践	2				2		4M 小田島, 4EJ 館下, 4DA 加藤(岳)	
	社会	地理	2	2					1MEA(中西), 1DJ(山内)
		倫理・社会	2		2				藤本
		日本史	1		1				2MEJ(加藤文), 2DA 木村
	世界史	2			2			木村	

科          目		法学	2				2		南須原	
		数学	18	6	6	6			1M(片山)・山崎・加藤(雅), 1E(清野)・(片山), 1D(阿部義)・(清野), 1J(清野), 1A(阿部義)	
									2M加藤(雅)・(伊藤), 2E(阿部義)・林(義), 2D加藤(雅)・(東), 2J山崎・(辻), 2A山崎・(張間)	
									3M加藤(雅)・林(義), 3E林(義), 3D澤柳, 3J林(義)・山崎, 3A山崎・加藤(雅)	
		物理	5	2	3				1ME松崎, 1DJA森, 2ME森, 2DJA浦家	
		化学	5	3	2				1M加藤(隆), 1E浦家, 1D加藤(隆), 1J(本多正), 1A(坂田澄), 2年全加藤(隆)	
		生物	1			1			3MDA(成田), 3EJ(杉山)	
		保健・体育	7	3	2	2			保健 1MED三島, 1JA館岡 体育 1MED恐神, 1JA館岡, 2MED恐神, 2JA館岡, 3年全三島	
		外国語	英語	18	6	5	4	2	1	1ME林(幸), 1D伊関, 1JA田村, 2MJ片岡, 2EA吉田, 2D伊関, 3年混合 - 伊関, 吉田, 林幸, 田村, 片岡, (高村), (小松)



										(中村), 4M(高村), 4E 吉田, 4D(小松), 4J(中村), 4A(阿部孝), 5年全外国人講師
			ドイツ語	2				2		4ME 藤本, 4D 木村, 4JA 南須原
	修得単位計			75	25	24	17	8	1	
選 目 科 目	芸 術	音楽		2	2					1MEDJ(高橋)
		美術		2	2					1MEDJ(小川), 1A(加藤直)
	保健・体育			2				2		4M 恐神, 4EDJ 舘岡, 4A 三島
	数学			2				2		4年次編入生のみ選択可
	数学			2				2		澤柳, 林(義)
	英語演習( , )			2				1	1	4学年は英語演習( )田村・伊関 5学年は英語演習( )田村
	日本文学			2					2	(高井)
	歴史と文化			2					2	木村
	歴史と文化			2					2	(赤坂)
	思想史			2					2	藤本
	社会学			2					2	未定
	社会科学概論			2					2	南須原
	心理学			2					2	(小杉)
	環境学			2					2	(杉山)
	英会話			2				2		外国人講師
	英会話			2					2	外国人講師
	中国文化			1					1	前期開講
	中国文化			1					1	後期開講
	韓国文化			1					1	前期開講
	韓国文化			1					1	後期開講
開設単位計			36	4		(2)	(9)	23		

	修得単位計	6以上	2		4以上		
	修得単位合計	81以上	27	24	17~19	10~12以上	1~3以上

\*担当教員名の( )書きは非常勤講師を示す。

(出典 本自己評価のための作成資料)

これによれば、本年度の実質的な一般科目担当教員の配置は22名である。また、本年度内地研究員のため授業担当となっていない教員1名及び学生指導上の問題から授業担当からはずしている2名を加えると合計25名が本校の一般科目担当の専任教員の配置となる。

次に、非常勤講師の配置について同資料に基づき分析する。全一般科目454時間中123時間を非常勤講師が担当し(依存率27%)、実人数は28名である。本校では、非常勤講師の採用方針に関連し、中期計画で次のとおり定めている(資料3-1--3)。

資料3-1--3

適切な教職員の配置等に関する具体的方策

非常勤講師への依存率を適正化し、また、有能な人材の非常勤講師としての積極的登用を進め教育の充実を図る。

(出典：釧路工業専門学校中期目標・中期計画)

依存率の適正化とは、できる限り自前の教育を行おうという意図である。一般科目担当専任教員の週当たり授業担当は標準16時間である。この時間数は、他高専の例と比較しても決して少ないものではなく、一般科目のクラス数の多さからやむを得ないもので、全体としては妥当な数と思われる。科目ごとの非常勤講師への依存状況についてみると以下のことが言える。本校の一般科目は、学習目標(1)、(3)、(6)を主にカバーしているが、このうち(6)については、日本語による記述、発表、討論などに関わる必修科目はすべて専任教員によっており、また英語についてもクラス数の多さに比べ専任比率は高い。高学年の英語・英会話ではネイティブスピーカーを外国人(非常勤)講師として登用し、教育の充実を図っている。(3)は、主として数学・物理・化学に関連するが、特に数学で非常勤講師依存が高い。これは、クラス数の多さとともに前述の授業担当外教員3名が数学担当であったことが原因している。しかし、教育上は、専任教員の作成による同一シラバスによる授業展開や同一試験問題による成績評価などにより適切な教育が実施されている。次に学習目標(1)に関しては、一部科目(地理、生物、心理学、環境学など)で非常勤講師に全面依存している。これは、従来の専任教員の採用が国による予算定員の枠組みに拘束され、教育課程改変上の要求に即応しにくい国立高専の弊害が現れたものであり、法人化により徐々に改善されるものと考えている。一方、倫理・社会や法学、世界史などは専任教員によっており充実している。

設置基準上の必要専任教員数は22名であり、本校の配置教員数25名はこの基準を上回っている。  
(分析結果とその根拠理由)

本校の一般科目は、学習目標(1)(3)(6)を主にカバーしている。専任教員25名を配置しており、設置基準を十分に満たしている。また、学習目標を達成するための主要科目には適切な数の専任教員が配置され、科目によっては非常勤講師に依存している面もあるが中期計画を定めてその実現を図っており、一般科目全体としての教員配置は適切なものである。

観点3-1- : 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置さ

れているか。

(観点に係る状況)

各学科の専任教員配置状況を示す(資料3-1--1)。

資料3-1--1

専任科目担当教員配置状況掲載箇所

(出典 別添学校要覧11頁, 14頁, 17頁, 20頁, 23頁)

ここでも、配置上は専門学科に所属しながら事実上は一般科目を担当する者及び一般科目に配置されているが専門科目を担当する教員が混在しており、ダブルカウントを防ぐとともに実質的な教員配置を示すため、各学科の教育課程表と科目の担当教員を対比した表を作成した(資料3-1--2~3-1--6)。

資料3-1--2

教育課程と担当教員対比表(専門)

教育課程表(平成17年度)

機械工学科

区 分	授業科目	単 位 数	学 年 別 単 位 数					担 当 教 員 名
			1年	2年	3年	4年	5年	
必	応用物理	4			2	2		3年森, 4年松崎
	情報処理	1			1			荒井
	情報処理	2				2		荒井
	材料力学	2			2			麓
	材料力学	2				2		成澤
	材料力学	1					1	成澤
	機械材料	2			2			岩淵
	機械材料	2				2		岩淵
	材料評価学	1					1	岩淵
	熱力学	2				2		山岸
	熱力学	1					1	山岸
修	コンピュータサイエンス	1	1					荒井
	伝熱工学	2					2	麓
	流体工学	2				2		丹



目 科 目	応用数学 A	4				4		1 科目以上選択すること。 澤柳・(佐藤穆)
	応用数学 B	4					4	澤柳・(佐藤穆) 4 年次編入生のみ選択可
	工業英語	1					1	山岸
	空調工学	1					1	山岸
	表面工学	1					1	岩淵
	応用流体工学	1					1	丹
	生産システム工学	1					1	荒井
	応用数学	1					1	澤柳
	工業数学演習	1					1	山岸
	熱工学-工学	1					1	田中
	開設単位小計	21				(9)	(15)	
修得単位小計	8 以 上					8 以上		
専門科目開設単位計	99	7	10	17	(30)	(38)		

\* 担当教員名の ( ) 書きは非常勤講師を示す。

( 出典 本自己評価のための作成資料 )

教育課程と担当教員対比表 ( 専門 )

電気工学科

区 分	授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 単 位 数					備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
	応用物理	4			2	2		3 年松崎, 4 年浦家
	情報処理	2				2		高木
	電気磁気学	4			2	2		3 年松永, 4 年未定
	電気回路	4		2	2			2 年工藤, 3 年工藤



目	応用数学基礎	2				2		3年数学授業
	応用数学A	4				4		(佐藤穆), (東)
	応用数学B	4					4	4年次編入生のみ選択可
	通信工学	2					2	須田
	計測工学	1					1	未定
	電気法規・電気施設管理	1					1	(菊地)
	発変電工学	1					1	山岡
	電気設計	2					2	佐々木・野口
	電気応用	2					2	小林
	電力系統工学	2					2	山岡
	光エレクトロニクス	1					1	未定
	画像工学	1					1	未定
	計算機特論	2					2	未定
	応用数学	1					1	澤柳
開設単位小計	31				(11)	(25)		
修得単位小計	14以上				14以上			
専門科目開設単位計	103	6	8	17	(31)	(44)		

\*担当教員名の( )書きは非常勤講師を示す。

(出典 本自己評価のための作成資料)

教育課程と担当教員対比表（専門）

電子工学科

区 分	授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 単 位 数					
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必	応用物理	4			2	2		3年浦家，4年松崎
	電子工学総合演習	2	2					梶原
	電子工学基礎	2	2					中村
	電子工学基礎	2		2				佐治
	コンピュータリテラシー	2	2					山田・浅水
	情報処理	1		1				浅水・山田
	プログラム言語	2			2			坂田
	電子計算機工学	2		2				坂田
	電磁気学	2			2			櫻田
	電磁気学	2				2		松本
修	電気回路	2		2				浅水
	電気回路	2			2			中村
	電気回路	1					1	櫻田
	電子回路	2			2			坂口
	信号処理	2				2		中村
	電子材料	1				1		坂口
	電子材料	1					1	坂口
	論理設計	2				2		坂田
	演算工学	2				2		佐治
	電磁波工学	2					2	櫻田
科	通信伝送工学	2				2		戸谷
	システムプログラム	2					2	坂田
	制御工学	2					2	梶原



目	半導体工学	2				2	坂口	
	電子計測	2				2	松本	
	通信網工学	2				2	浅水	
	電子工学特論	2				2	(若原)・(古谷)	
	デバイス工学	1				1	松本	
	創造工学	2		2			松本・梶原・櫻田・戸谷	
	画像工学	2				2	未定	
	電子工学実験	2		2			浅水・櫻田・戸谷	
	電子工学実験	3			3		坂口・戸谷	
	電子工学実験	3			3		松本・戸谷	
	電子工学実験	3				3	梶原・山田	
	電子工学実験	3				3	梶原・山田	
	卒業研究	8					8	坂田・佐治・中村・坂口 ・櫻田・松本・梶原・浅水・戸谷・山田
	修得単位小計	79	6	11	16	19	27	
選 択 科 目	学外実習	1				1		
	学外実習	2				2		
	光エレクトロニクス	1				1	櫻田	
	メカトロニクス	1				1	梶原	
	応用数学基礎	2				2	3年数学授業	
	応用数学A	4				4	(佐藤穆)，(東)	
	応用数学B	4				4	4年次編入生のみ選択可	
	応用情報処理	1				1	山田	
	シーケンス制御	1				1	松本	
	計測システム	1				1	櫻田	
	電気応用	2				2	未定	
	電力系統工学	2				2	未定	
	情報論	2				2	未定	
	計算機特論	2				2	未定	

情報理論	1					1	未定
電子機器	2					2	佐治
応用数学	1					1	澤柳
開設単位小計	30				(12)	(24)	
修得単位小計	7以上				7以上		
専門科目開設単位計	109	6	11	16	(31)	(51)	

\*担当教員名の( )書きは非常勤講師を示す。

(出典 本自己評価のための作成資料)

教育課程と担当教員対比表(専門)

情報工学科

区分	授業科目	単位数	学年別単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修	応用物理	4			2	2		3年森, 4年松崎
	情報数学	4	2	2				1年大貫, 2年本間
	コンピュータリテラシー	4	4					林(裕)・土江田
	情報工学基礎	2		2				大貫・中島(陽)
	情報工学基礎	2		2				林(裕)
	情報工学演習	1		1				大貫
	プログラミング言語	4		2	2			高橋・中島(陽)
	創造工学	2		2				大貫・中島(陽)天元
	確率統計	2			2			天元
	電気回路	2			2			中島(陽)
	論理回路	2			2			大槻(典)
修得	アルゴリズム・グラフ論	2			2			本間
	コンピュータネットワーク	2			2			高橋・大貫
	電磁気学	2				2		大槻(典)

科 目	電子回路	2				2		本間
	計測制御	2				2		大槻（典）
	数値解析	2				2		神谷
	オートマトン	2				2		高橋
	オペレーティングシステム	2				2		大貫
	情報伝送工学	2					2	神谷
	計算機方式	1					1	大貫
	知的所有権	1					1	後期：（古谷）
	コンパイラ	2					2	林（裕）
	データベース	2					2	高橋
	ソフトウェア工学	2					2	本間
	図形処理	2					2	高橋
	情報論	2					2	神谷
	情報工学実験	4			2		2	3年林（裕）・土江田， 5年大槻（典）
	情報工学実験	2					2	天元
	卒業研究	7					7	神谷・大貫・大槻（典） ・高橋・本間・天元・林 裕・土江田・中島（陽）
	修得単位小計	72	6	11	16	16	23	
選 択	学外実習	1				1	} いずれか一方を選択する ことができる。	
	学外実習	2				2		
	情報工学実験	2				2	本間	
	コンピュータネットワーク	2				2	大貫・高橋	
	プログラミング言語	2				2	未定	
	論理回路	2				2	未定	
	確率統計	2				2	未定	
	応用数学基礎	2				2	未定	
	応用数学A	4				4	（佐藤穆），（東）	
	応用数学B	4					4	4年次編入生のみ選択可
人工知能	1					1	天元	

科              目	人工知能	1					1	天元
	ヒューマンインターフェイス	2					2	未定
	プログラミング方法論	2					2	未定
	画像処理	1					1	大槻(典)
	信号処理	1					1	大槻(典)
	通信網工学	2					2	未定
	光エレクトロニクス	1					1	未定
	画像工学	1					1	未定
	ソフトコンピュータ工学	1					1	神谷
	ハードコンピュータ工学	1					1	神谷
	応用情報処理	1					1	未定
	シーケンス制御	1					1	未定
	電気応用	2					2	未定
	電力系統工学	2					2	未定
	応用数学	1					1	澤柳
	開設単位小計	44				(19)	(28)	
修得単位小計	14 以上				14以上			
専門科目開設単位計	116	6	11	16	(35)	(51)		

\*担当教員名の( )書きは非常勤講師を示す。

(出典 本自己評価のための作成資料)

資料3 - 1 - 6

教育課程と担当教員対比表(専門)

建築学科

区分	授業科目	単位数	学年別単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
	応用数学	2				2		(佐藤穆)
	応用物理	3			2	1		3年松崎, 4年松崎
	住宅計画	1		1				西澤・(永田)

必	情報処理	1		1				佐藤(彰)・大槻(香)	
	建築構造力学	8		2	2	2	2	2年大楽, 3年井上, 4年中島(敏), 5年中島(敏)	
	創造工学	2		2				三森, 井上, 依田・大楽, 西澤・大槻(香)	
	建築一般構造	1	1					三森	
	建築概論	1	1					依田	
	建築材料	2			2				
	建築工学実験	2				2		三森, 佐藤(彰), 大槻	
	鋼構造	2				2		草苺	
	鉄筋コンクリート構造	2					2		
	建築計画	3			1	2			3年佐藤(彰), 4年西澤
科	建築設計製図	17	2	4	6	5		1年佐藤(彰), 2年西澤, 3年依田, 4年千葉	
	建築設計演習	1					1	西澤	
	建築史	2				2		西澤・依田	
	建築生産	3				1	2	4年大楽, 5年大楽	
	建築環境工学	3			2	1		3年中島(敏), 4年中島(敏)	
	コンピュータリテラシー	1	1					井上, 大槻(香)	
	情報処理	1			1				
	建築CAD	2				2		千葉, 大槻(香)	
	目	図学	1	1					井上
		測量学	1					1	(白木)
建築総合演習		1					1	草苺, 三森, 佐藤(彰), 千葉	
建築設備		2				1	1	4年佐藤(彰), 5年佐藤(彰)	
都市計画		2					2	千葉	
建築法規		2				2		4年(本田), 5年(本田)	
土質基礎工学		2					2	大楽	

	卒業研究	8				8	中島敏, 大楽, 依田, 草苺, 三森, 佐藤彰, 千葉, 西澤, 井上, 大槻香
	修得単位小計	79	6	10	16	25	22
選 択 科 目	学外実習	1				1	} いずれか一方を選択することができる。
	学外実習	2				2	
	耐震工学	1				1	井上
	建築防災工学	1				1	草苺
	建築構造解析	1				1	井上
	溶接工学	1				1	草苺
	環境概論	1				1	中島(敏)
	福祉住環境論	1				1	依田
	コンクリート工学特論	1				1	大楽
	開設単位小計	10				(3)	(10)
	修得単位小計	7 以上				7以上	
	専門科目開設単位計	89	6	10	16	(28)	(32)

\*担当教員名の( )書きは非常勤講師を示す。

(出典 本自己評価のための作成資料)

これによれば、各学科の実質的教員数は以下のとおりである(資料3-1 - -7)。

資料3-1 - -7

学科	配置専任教員数	助手人数	備考
機械工学科	9	1	
電気工学科	9	1	
電子工学科	9	1	
情報工学科	8	2	内地研究員1名を含む
建築学科	8	2	
計	43	7	

一般科目 25名, 校長1名 教員合計 76名

(出典 本自己評価のための作成資料)

設置基準上の必要専任教員数は36名で、本校の配置教員数43名はこの基準を上回っている。

各学科の専門科目は、学習目標の(2)(3)(4)(5)(7)に主として対応する。各学科ともほぼすべての講義科目を専任教員が担当しており、また、実験・実習科目、演習科目、卒業研究はすべて専任教員により指導されている。さらに、実験・実習・卒業研究には専任教員を補助して助手

も指導に当たっている。専門学科所属教員の週当たり平均授業担当時間数は、卒業研究も含み16.3時間である。各教員は、専攻科の授業も担当しており、その担当時間数は決して少ないものではないが、定員・予算上の制約と前記の非常勤講師採用に関する中期計画に基づき、可能な限りの自前教育を行うべく努力している。専門科目の一部として分類されている応用数学・応用物理は、専門学科との連携の下で一般科目配置教員が担当している。これは、中期計画の以下の事項（資料3-1- -8）の一部を実現したものである。

資料 3 - 1 - - 8

適切な教職員の配置等に関する具体的方策

教育において一般教育と専門学科間及び専門学科相互の連携を進め、教員の専門性を生かして、他学科の科目を担当できるよう検討する。

（出典：釧路工業専門学校中期目標・中期計画）

一部科目で見られる非常勤講師による科目担当は、（資料3-1- -3）に基づく有能な人材の積極登用の例であり、具体的には以下のような事例があげられる（資料3-1- -9）。

資料 3 - 1 - - 9

電気工学科（電気法規・電気施設管理） 民間企業の現職技術者による授業  
 電子工学科（電子工学特論） 現職大学教員による先端的技術に関する授業  
 電子工学科（電子工学特論）、情報工学科（知的所有権） 現職弁理士による知財教育  
 建築学科（住宅計画） 現職室内装飾デザイナーによる授業

（出典 本自己評価のための作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

専門学科配置教員数は45名であり、設置基準を十分に満たしている。授業担当においてはほぼすべての科目を専任教員が担当しており、また、実験・実習科目、演習や卒業研究には教員を補助する適切な数の助手が配置され、教員とともに指導に当たっている。教員の担当授業時間数は全体として多いが、中期計画に基づき一般科目配置教員による科目担当や有能な非常勤講師の積極登用などの工夫も行われており適切な配置が行われている。

観点3-1- : 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専攻科新設に伴い、教授3名の増員が予算上措置されたが、本校では専攻科単独の教員組織を設置せず、大学評価・学位授与機構による教員審査で適格の判定を得た一般科目・専門学科所属の全教員により教育に当たっている。授業担当の状況を（資料3-1- -1）に示す。

資料 3 - 1 - - 1

教育課程と担当教員対比表（専攻科）

建設・生産システム工学専攻

区 分	授業科目名	単 位 数	学年別 配 当		備 考	担当教員
			1 年	2 年		
	技術科学英語	2	2			吉田

一般科目	修	日本語表現技法	2	2		4 単位修得	舘下	
		小 計	4	4				
	選択	技術科学英語	2	2		4 単位以上修得	吉田	
		技術者倫理	2	2			藤本, 岩淵, 神谷	
		統計学	2	2			澤柳	
		応用解析学	2	2			山崎	
小 計		8	8					
一般科目開設単位小計			12	12		8 単位以上修得		
専門科目	専門共通科目	選択	熱力学特論	2	2		14 単位以上修得	山岸
			制御工学特論	2	2			千田
			多変量解析	2	2			天元
			数値計算特論	2	2			荒井
			ロボティクス	2	2			梶原
			人工知能特論	2		2		高木
			信号画像処理	2	2			中村
			環境マネジメント	2		2		加藤(雅)
			応用力学	2	2			井上
			設計支援システム	2	2			千葉
			アドバンスプログラミング	2	2			柳川
			アドバンスコンピューティング	2	2			林(裕)
	専門共通科目開設単位数小計			24	20	4		
専門展開科目	必修	建設・生産システム工学特別ゼミナル	2	1	1	24 単位修得	(各教員)	
		建設・生産システム工学特別演習	4	2	2		(各教員)	
		建設・生産システム工学特別実験	2	1	1		(各教員)	
		建設・生産システム工学特別研究	16	6	10		(各教員)	
		小 計	24	10	14			
	選択	材料システム工学	2	2		24 単位修得	岩淵	
		寒冷地工学	2		2		麓	
		空調設備	2	2			森	
		環境工学特論	2		2		佐藤(彰)	
		コンピュータ設計工学	2	2			荒井	
		品質工学	2		2		渡邊	
		内燃機関工学概論	2		2		田中	
		油空圧工学概論	2		2		丹	
機械制御工学特論	2	2		宮澤				
耐震構造	2		2	草苺				
建設材料学	2	2		大楽				
寒中コンクリート工学	2		2	三森				



	建築計画特論	2	2		16 単位以上修得	佐藤（彰）
	デジタルイメージ特論	2		2		千葉
	インターンシップ	4		4		
	小 計	32	12	20		
	専門展開科目開設単位小計	56	22	34	40 単位以上修得	
	専門科目開設単位小計	80	42	38	54 単位以上修得	
	全授業科目開設単位数合計	92	54	38		
	修得単位数合計	62 単位以上				

### 電子情報システム工学専攻

区分	授業科目名	単位数	学年別配当		備考	担当教員
			1年	2年		
一般科目	必修	技術科学英語	2	2	4 単位修得	吉田
		日本語表現技法	2	2		館下
		小 計	4	4		
	選択	技術科学英語	2	2	4 単位以上修得	吉田
		技術者倫理	2	2		藤本，岩淵，神谷
		統計学	2	2		澤柳
		応用解析学	2	2		山崎
		小 計	8	8		
	一般科目開設単位小計		12	12	8 単位以上修得	
	専門科目	専門共通科 選択	熱力学特論	2	2	
制御工学特論			2	2	千田	
多変量解析			2	2	天元	
数値計算特論			2	2	荒井	
目		ロボティクス	2	2	14 単位以上修得	梶原
		人工知能特論	2	2		高木
		信号画像処理	2	2		中村
		環境マネジメント	2	2		加藤（雅）
		応用力学	2	2		井上
		設計支援システム	2	2		千葉
		アドバンスプログラミング	2	2		柳川
		アドバンスコンピューティング	2	2		林（裕）
		専門共通科目開設単位数小計	24	16		8

専 門 展 開 科 目	必 修	電子情報システム工学特別ゼミナール	2	1	1	24 単位修得	(各教員)
		電子情報システム工学特別演習	4	2	2		(各教員)
		電子情報システム工学特別実験	2	1	1		(各教員)
		電子情報システム工学特別研究	16	4	12		(各教員)
		小 計	24	8	16		
	選 択	電磁気学特論	2	2		16 単位以上修得	松崎
		エネルギー変換工学	2		2		山岡
		プラズマ工学	2	2			小林
		電磁波工学特論	2		2		工藤
		ソフトウェアアーキテクチャ	2	2			野口
		デバイス材料工学特論	2	2			須田
		量子統計工学	2	2			坂口
		応用光学	2		2		櫻田
		機能デバイス工学	2	2			坂口
		ネットワーク工学特論	2	2			
		信号画像処理	2	2			佐治
		コンピュータアーキテクチャ	2	2			坂田
		計測工学特論	2	2			松本
		情報数学特論	2	2			大槻(典)
		ネットワークデザイン	2		2		高橋
		ソフトウェア工学特論	2		2		大貫
		ソフトコンピューティング特論	2		2		神谷
		並列・分散処理	2	2			本間
		インターンシップ	2		2		
小 計	38	24	14				
専門展開科目開設単位小計		62	32	30	40 単位以上修得		
専門科目開設単位小計		86	48	38	54 単位以上修得		
全授業科目開設単位数合計		98	60	38			
修得単位数合計		62 単位以上					

(出典 本自己評価のための作成資料)

すべての科目を専任教員が担当し、自前の教育を行っていることから、教員配置は適切である。なお、平成17年度に予算措置された教員については、予算措置の決定が年度末に至ったこと及び教育の目的に照らして企業経験者の採用を目指していることなどの理由から適任者が得られず、現在2回目の公募を行っている。早急な充当により教員配置を充実したい(資料3-1--2)。

資料3-1--2

専攻科教員公募に関する資料  
(<http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/>)

(出典 本校ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科教育のための単独の教員組織を設置せず、大学評価・学位授与機構の審査を経た一般科目・専門学科所属の全教員により教育に当たっている。すべての科目を専任教員が担当し自前の教育を行っており教員の配置は適切である。なお、現在は、企業経験者などの採用のための公募を行っている最中であり、さらに教員配置の充実を図っている。

観点3-1-1 : 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置(例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。)が講じられているか。

(観点に係る状況)

観点に関連する高専機構の中期計画(資料3-1--1)とこれらに対する本校の現状(資料3-1--2)(資料3-1--3)(資料3-1--4)を資料として以下に示す。

資料3-1--1

観点に関する高専機構の中期計画を示す資料

(3) 優れた教員の確保

多様な背景を持つ教員組織とするため、中期目標の期間中に、公募制の導入などにより、教授及び助教授については、採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が、全体として60%以上となるようにする。

専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。

中期計画期間中に、この要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%以上とし、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%以上となるようにする。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標及び中期計画)

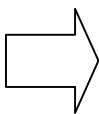
資料3-1--2

多様な背景を持つ教員に関する調査

平成15年度  
末

平成16年度  
末

多様な経験のある教員	45	人
(内訳)		
他学校勤務	25	人
民間等勤務	20	人
海外研究	0	人



多様な経験のある教員	47	人	
(内訳)			
他学校勤務	26	人	うち平成16年度採用者 4人
民間等勤務	21	人	1人
海外研究	0	人	0人

総教員数 74 人

総教員数 75 人

(出典 高専機構の調査に対する本校の回答文書)

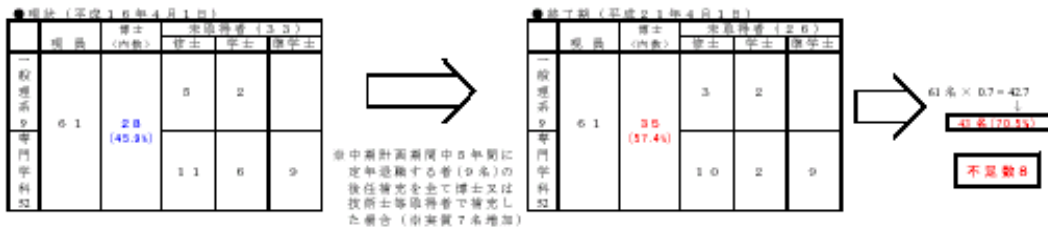
資料 3 - 1 - - 3

中期目標達成のための教員の学位に関する数値目標と現状分析

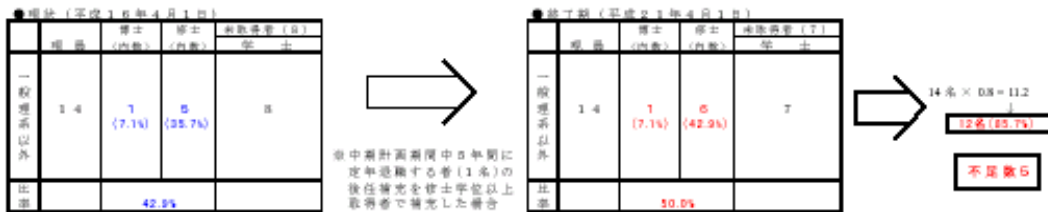
中期目標達成のための教員の学位に関する数値目標と現状分析

資料 2

1. 専門科目及び理系の一般教科担当教員 → 博士 OR 技術士等の比率70%以上



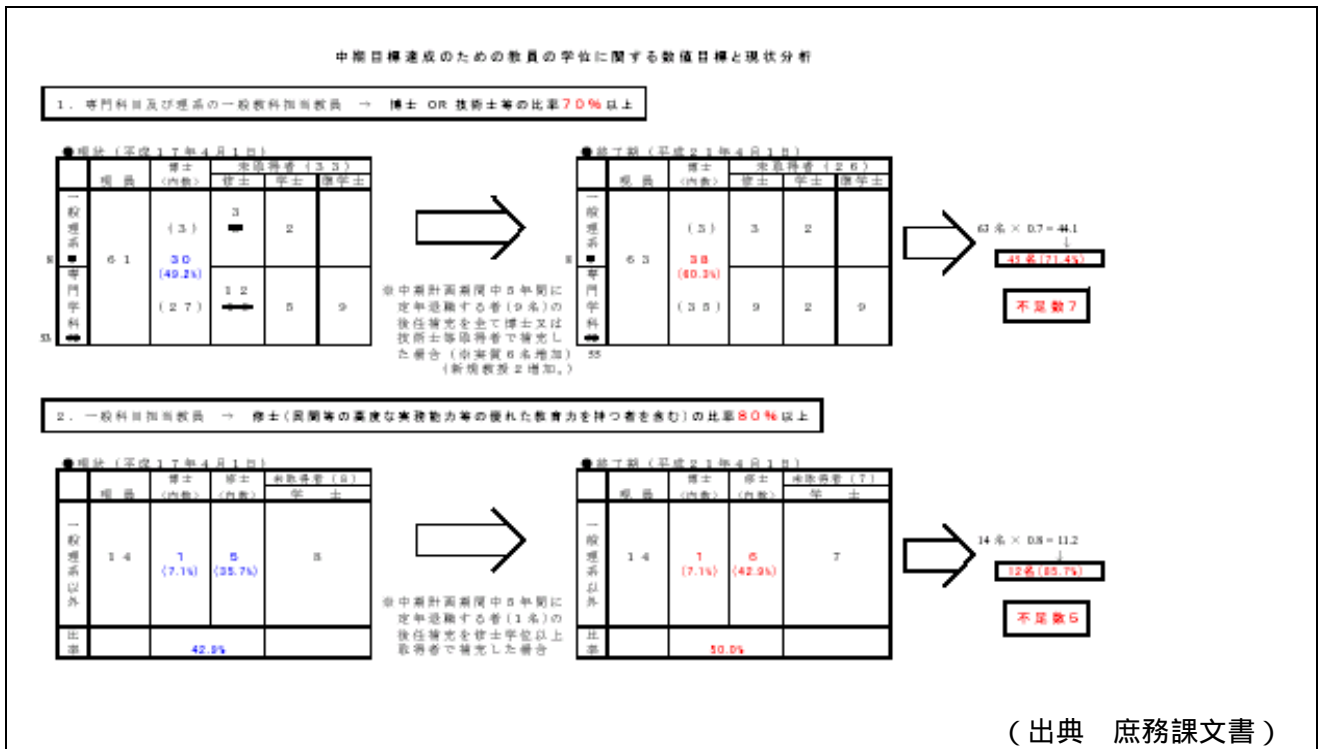
2. 一般科目担当教員 → 修士(同等等の高度な実務能力等の優れた教育力を持つ者を含む)の比率80%以上



(出典 平成16年4月26日教官会議配布資料)

資料 3 - 1 - - 4

中期目標達成のための教員の学位に関する数値目標と現状分析 (平成17年4月1日版)



資料3 - 1 - - 2のとおり、本校では他学校勤務及び民間等勤務経験者の数は既に高専機構の数値目標を達成している。このことは、本校がこれまで中等教育部分の年齢層にある学生教育を念頭に高等学校教員の経験を持つ者の採用や、実践的技術者教育の目的のため企業経験者の採用を積極的に行ってきたことの表れであると言える。教員の多様性には女性教員の登用も含まれが、これに関連する本校の中期計画を以下に示す(資料3 - 1 - - 5)。

資料3 - 1 - - 5

3 教職員の人事の適正化のための措置

外国人・女性等の教員採用の促進に関する具体的方策

- ・ 国際コミュニケーション能力育成のため、英語担当として、英語を母国語とする外国人教員を最低1名確保するように努める。
- ・ 教員選考は、出身、性別、ハンディキャップの有無に関わらず行うが、女性教員比率の向上に努める。

(出典：釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画)

専任教員のうち女性の占める率は、現在5.3%(75名中4名)だが、平成16年には女性の助教授を採用し、比率向上を図った。外国人の専任教員は現在在職していないが、平成12年度から15年度までについては文部科学省による予算措置があり、1名の外国人教師を任用し教育上の効果を上げている(資料3 - 1 - - 6)。

資料3 - 1 - - 6

外国人教師関連記事掲載箇所

# The Importance of English

Brian Nielsen

It is estimated that only 15% of the world population uses English. So why is it considered so important by the Japanese Momburo? The importance of English is not how many people speak it, but what it is used for.

## English for News and Information

Three quarters of all email, fax and telegram messages in the world are sent in English. Eighty percent of computer data are processed and stored in English. Much satellite communication is also carried in English. More than half of the newspapers in the world are published in English.

## English for Business, Diplomacy, and the Professions

English is the language that a Chinese and a Japanese businessman are most likely to use to communicate. In international stock markets important commodities such as gold and currency are traded in English. English is the official language of many international organizations, such as the United Nations. It is the language of international conferences and of international sporting events. Most professional papers are published in English. Even papers published in Japanese often have abstracts written in English.

## English for Entertainment

American and British movies and popular music are seen and heard all over the world. Books in English are sold even in countries where few people actually use English. One reason that Japanese students give for learning English is to understand these songs, movies and books.

## English for International Travel

English is spoken in large hotels and tourist attractions, at airports, and in shops that tourists frequent. Most international tours are conducted in English. In non-English speaking countries where there are international tourists, even bus drivers and street vendors can speak a little English.

## Other Uses of English

In India and in sixteen countries in Africa, English is the language of government. English is taught in schools in these countries because it is necessary for careers. In China, Two hundred fifty million Chinese (almost twice the population of Japan) are learning English on TV.

## The Situation for Japanese Graduates

Nowadays many Japanese college graduates will have opportunities to visit foreign countries on business, or to work. English is likely to be needed wherever they go, even if they are working in countries where English is not the dominant language. Local workers with whom they work may speak English but not Japanese.

Many people throughout the world are interested in Japanese business, technology, and culture. However, there are not many people who understand Japanese. More and more information about Japan needs to be transmitted in English, so that many people in the world will know what is going on in Japan and can learn about Japanese culture.

More Japanese will need to attend international conferences, which are held in English. They will need to present papers and participate in discussions using English.

Most information on the Internet is in English. To take advantage of this information Japanese need to be able to read English.

English is the most widely used language in the world today. It is used not only for communication between native English speakers, but also between non-native speakers. More and more people around the world will learn and use English in the future.

16 釧路工業高等専門学校 第74号



私は釧路高専で英会話を4年間教えました。学生諸君や他の教職員の方々と楽しく過ごせたこと、またいろいろお世話になったことを感謝したいと思います。

私はこのたび母国オーストラリアに帰国しますが、日本を去るにあたり、学生諸君の英語学習の一助になればと思い、グローバルな視点で見た英語の重要性を最後のメッセージにしたいと思います。

皆さんの今後益々のご多幸、ご健勝をお祈りします。さようなら。

## 英語の重要性

世界人口の15パーセントしか英語を使わないとされています。それなのになぜ文部科学省は英語をそんなに重要だとみなすのでしょうか？英語の重要性は、何人の人々が話すかということではなく、それが何のために使われるかということにあるのです。

## ニュースと情報のための英語

世界の全てのEメール、ファックス、電報の4分の3が英語で送られます。コンピュータのデータの80パーセントが英語で処理され、保存されます。多くの衛星通信も英語で行われます。世界の新聞の半数以上が英語で発行されます。

## ビジネス、外交、専門職のための英語

英語は中国と日本のビジネスマンが意思疎通をするときにもっとも使われるだろう言語です。国際的な株式市場では、金や通貨のような重要な商品は英語で取引されます。英語は国連のような多くの国際機関の公式言語です。英語は国際会議やスポーツの国際試合の言語です。ほとんどの専門的な論文は英語で発表されます。日本語で発表される論文でさえ、しばしば英語の要約が付されます。

## 娯楽のための英語

アメリカやイギリスの映画やポピュラー音楽が世界中で見られたり聴かれたりします。実際にはほとんど英語を話す人がいない国でも、英語の本が売られます。日本の学生が英語を学ぶ理由にすることの1つとして、これらの映画、音楽、本を理解することが挙げられます。

## 海外旅行のための英語

英語は大きなホテルや観光客のアトラクション、空港、観光客がよく行く店で話されます。ほとんどの海外旅行のツアーは英語で行われます。海外から観光客の来る英語を話さない国々では、バスの運転手や街頭の物売りさえ少しは英語を話します。

## 他の英語の役割

アフリカの16カ国とインドでは、英語が政府の言語です。これらの国々では、職を得るために必要なので、学校で英語が教えられます。中国では、2億5千万人の中国人がテレビで英語を勉強していますが、この数は日本の人口の約2倍です。日本の大学卒業生が置かれた状況

今日では、多くの日本人の大学卒業生が仕事や勉強で海外に行く機会があるでしょう。彼らがどこへ行くにせよ、たとえ英語をあまり使わない国で働くとしても、結局は英語が必要とされるでしょう。彼らがいっしょに働く地元の労働者は、日本語ではなく、たぶん英語を話さずでしょう。

世界中の多くの人々が日本のビジネス、テクノロジー、文化に興味を持っています。しかしながら、日本語を理解する人は多くはありません。世界中の人々が日本で何が起きているかを知り、日本の文化について学ぶために、日本についてのますます多くの情報が英語で伝えられる必要があります。

もっと多くの日本人が英語で行われる国際会議に出席しなければならなくなるでしょう。彼らは英語で論文を発表し、英語で議論に参加しなければならなくなるでしょう。インターネットではほとんどの情報が英語です。この情報を利用するために、日本人は英語を読めるようにならなければなりません。

英語は今日もっとも広く使われる言語です。それは英語の母国話者の間だけでなく、非母国話者の間でも使われます。将来、世界中のますます多くの人々が英語を学び、使うようになるでしょう。

(出典 高専だより)

学位の取得率は、徐々に向上しているが、現在のところ数値目標を達成していない。特に専門科目担当教員の博士取得については、専攻科設置の取組を開始した当初からの懸案事項であり学校としての支援を行ってきた。(資料3-1-7)は、寄付行為を基に設立された基金の実施要項である。

このうち、「学術に関する研究の推進事業」は、主に学位取得のために要する旅費等に対する支援として機能してきた（資料 3 - 1 - - 8）。

資料 3 - 1 - - 7

学術に関する研究の推進事業掲載箇所

（趣旨）

第 1 この要項は、釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金規程（以下「基金規程」という。）

第 12 条の規定に基づき、釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動及び国際交流活動事業の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

（事業）

第 2 基金規程第 3 条各号に掲げる事業は、次の表のとおりとする。

区 分	内 容	限 度 額
学術に関する研究の推進事業 （基金規程第 3 条第 1 号）	先端的な研究の推進又は最新の専門知識若しくは技術の習得の推進を図る上で必要な経費（旅費、講習会費、会議登録料、その他特に必要な場合は設備費等）	1 件につき 30 万円  （設備費等を含む場合は 150 万円）
産学官協力事業 （基金規程第 3 条第 2 号）	産学官の交流のために要する経費（会場費、運営費、講師等旅費、謝金等）	1 件につき 30 万円
教職員・学生の海外派遣事業 （基金規程第 3 条第 3 号）	国外で開催される国際学会等における研究成果の発表に要する経費、国外での調査・研究若しくは視察のために要する経費又は学生の海外語学研修に同行するために要する経費（旅費等）	1 件につき 40 万円
外国人研究者の招へい事業（基金規程第 3 条第 4 号）	外国人研究者を招へいするために要する経費（旅費等）	1 件につき 40 万円
	本邦内に滞在する外国人研究者に講演等を依頼するために要する経費（旅費、謝金等）	1 件につき 20 万円
外国人留学生の受入事業（基金規程第 3 条第 5 号）	私費外国人留学生に給する奨学金	1 人につき 月額 2 万円
その他本校の教育研究事業及び国際交流事業 （基金規程第 3 条第 6 号）	本校で開催するシンポジウムに要する経費（会場費、運営費、講師等旅費、謝金等）	1 件につき 20 万円
	外国人留学生との交流を深めることを目的とした経費（会議費等）	1 人につき 5 千円
	本校の学生が留学を目的として海外に渡航するために要する経費（旅費等）	1 件につき 20 万円
	本校の学生が海外語学研修のために要する経費（旅費等）	1 人につき 10 万円
	釧路工業高等専門学校教育業績賞受賞者への研究費・旅費等の補助	1 人につき 20 万円
	教育方法・学生指導方法等改善のための最新の専門知識若しくは技術の習得の推進を図る上で必要な経費（旅費、講習会費、会議登録料等）	1 件につき 20 万円

(申請)

第3 事業への援助を希望する者は、別紙様式1による申請書を別に定める期日までに校長に提出するものとする。

(年間予算)

第4 事業を実施するために必要な経費の年間予算は、350万円を目処とする。

(旅費等の積算)

第5 第2に係る旅費の積算については、国家公務員等の旅費に関する法律(昭和25年法律第114号)に準じるほか、文部省在外研究員規程実施細目(昭和47年9月22日大学学術局長決裁)の定めるところによる。

2 第2に係る謝金の積算については、本校における謝金額算定方式による。

(報告)

第6 事業(基金規程第3条第5号に掲げる事業を除く。)への援助を受けた者は、事業実施年度の翌年度の4月30日までに別紙様式2による報告書を校長に提出しなければならない。

(調整)

第7 事業の実施に関し、この要項により難しい場合は、運営会議で調整する。

(出典 釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金事業実施要項)

学位取得のための基金申請例

別紙様式 1

釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金事業経費申請書

平成14年2月8日

釧路工業高等専門学校長 殿

所 属 機械工学科  
 職 名 准 教 授  
 氏 名 丹 国 夫

標記のことについて、下記のとおり申請いたしますので、よろしくお取り計らい願います。

記

申請項目 (経費申請一覧から選択すること)	学術に関する研究の推進事業
申請金額  内 訳	旅費 (1)平成14年7月22日～8月10日 (北見工業大学) 20日19泊 282,200円 (2)平成15年3月25日～4月3日 (北見工業大学) 10日9泊 138,200円 合 計 420,400円 (30万円で打切り)



<p>申請事由 (取組の進捗に添付すること)</p>	<p>学位取得のため、北見工業大学機械システム工学科流体実験室にて、実験及びデータの収集を行う。 研究題目「流れに垂直方向に振動する円柱の流体力の抑制」 期待される効果は、平成14年12月に上記の研究題目にて、日本機械学会論文集B編に投稿予定</p>
<p>その他参考になる事項</p>	<p>14年度研究旅費については下記に使用します。 (1) 日本機械学会北海道支部講演会(9月下旬、予定) (2) 北見工業大学機械システム工学科坂本弘志教授との研究打合せ及データ整理</p>

1 学生及び外国人留学生在が申請する場合は、担任の推薦書を(様式適宜)を添付すること。  
 2 参考となる関係資料を添付すること。(航空賞(外国分)については、見積書を添付することとし、その他必要に応じ関係書類の提出を願う場合がある。)

(出典 教育研究・国際交流基金経費申請書)

高専機構の中期計画が公表され、学位取得に関する数値目標が設定された平成16年4月、校長は教官会議で資料3-1-3を示し、学位取得の現状と見通し及び学校としての支援策を説明した(資料3-1-9)。

資料3-1-9

・教官の学位取得について

校長から、高専機構中期計画達成のための学位取得の現状及び見通しについて、資料2に基づき説明があった。数値目標達成のためには現職教員の学位取得が不可欠であり、現在、特にマスター取得のために北教大釧路校に在学することについて調査中である旨と、その場合の支援策として、非常勤講師の補充、授業担当時間数の削減及び校務分掌の見直し等を考慮したい旨が述べられた。

(出典 平成16年4月26日教官会議議事要録)

教員の学位取得に関しては、以上のとおり学校として及び教員個人として様々な取り組みを行っており、以下に示す(資料3-1-10)のとおり、中期計画期間中の実現は十分に可能な状況になっている。

資料3-1-10

教員の学位取得計画の状況掲載箇所

中期計画	評価項目	評価項目・評価指標等に対する実績・特筆すべき事例等
(資料3-1-1)の	優れた教育能力を有する教員の採用状況	<p>学位(博士)取得を目指して現在6名の教員が博士課程に社会人学生として在学中。また、これ以外に6名が論文博士取得を準備中。</p> <p>学位(修士)取得のため一般教科の4名の教員が、修士課程(北海道教育大学釧路校)に社会人入学した。</p> <p>すべての教員公募において、学位を資格要件としており、特に現在行っている専攻科教員採用の公募では、技術士資格保有者を民間企業から採用しようとしている。</p>

		<p>学位未取得教員に対し、今後の計画調書を提出させ（17.3）現在の状況と取得見込みに関する実態を掌握している。これらに基づいて、学位取得を目指す教員には校務分掌の軽減等の措置を図り、学校として計画的に目標達成に取り組んでおり、中期計画期間中実現は十分に可能である。</p>
--	--	--

（出典 別紙平成16事業年度における釧路高専の実績・特筆すべき事例等について 高専機構本部への提出資料）

次に、教員の年齢構成については、（資料3-1-11）に示すとおり30歳代前半から60歳代まで均衡ある構成となっている。本校の教員採用の方法については、後述するが、教員採用の必要性が生じたときは、当該学科等の主任が教員選考委員会の設置を校長に申し出ることとされている。当該学科では、教員の年齢構成等を念頭に、職種とともに採用しようとする教員の年齢も含め教員公募の内容を検討し原案を作成することとなり、このため、均衡ある年齢構成への配慮は十分に行われる仕組みとなっている。

資料3-1-11

教員別年齢層（平成17年度末）  
（現地での閲覧資料を参照）

優秀教員評価制度について、本校では平成14年度に開始された国立高等専門学校協会の事業としての教員顕彰に当初から参加している。同事業は、法人化後も高専機構の事業として引き継がれ、本校は、これまでに最高賞である文部科学大臣賞のほか奨励賞受賞などの成果を上げている。本校から推薦した教員に対しては、本校独自に教育業績賞を授与している。また、同賞受賞者には基金から研究上の支援も行い教育活動の活性化を図っている（資料3-1-12）（資料3-1-13）（資料3-1-14）。

資料3-1-12

顕著な功績が認められる教員や教員グループの表彰状況掲載箇所

中期計画	評価項目	評価項目・評価指標等に対する実績・特筆すべき事例等
<p>教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。</p>	<p>顕著な功績が認められる教員や教員グループの表彰状況</p>	<p>機構の実施する教員顕彰に参加し、本校から推薦した教員が文部科学大臣賞を受賞する成果を得た。</p> <p>本校の教育活動に顕著な成績を挙げた教員1名に釧路工業高等専門学校教育業績賞を授与し表彰した。表彰式は学生総会の際に行い、当該教員から学生に対し教育に対する心情等を話してもらうこととしている。</p> <p>本校の教員表彰制度により表彰された教員は、より高い質を持った教育を目指すことが予想され、また高専機構の教員顕彰では今年度の文部科学大臣賞のほか過去には奨励賞も受賞しており、これらの成果を学生に発表することで、学生の勉学意欲への相乗効果も期待できる。（良い</p>

		先生に教わっているという意識付けの効果)
(出典 平成16事業年度における釧路高専の実績・特筆すべき事例等について 高専機構本部への提出資料)		

資料 3 - 1 - - 1 3

平成 1 6 年度高専機構教員顕彰実施要項

平成 1 6 年 8 月 5 日

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定

1. 顕彰要項

(1) 趣旨

高等専門学校教員は主として教育者の面を持つが、一方で研究者の面を持つとともに高等専門学校の管理運営にも果たすべき役割がある。高等専門学校教員個々に対する業績評価は、これらを総合して行われるべきものであるが、現状においては、ともすれば専門の研究業績のみが重視され、学生教育や管理運営に係る業績が適正に評価されていない恐れがある。このような観点から、管理運営やFD活動を含み、学生教育を中心とする分野において顕著な業績を上げている教員を顕彰するとともに、顕彰を通じて高専における教育の充実・向上を目指すものである。

(2) 顕彰基準

国立高等専門学校における教育活動、学生生活指導、地域社会への貢献等において顕著な功績があったと認められる者とする。

(3) 賞の名称

国立高等専門学校教育業績賞とし、以下の賞を設ける。

文部科学大臣賞	1名
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長賞	若干名
独立行政法人国立高等専門学校機構理事長奨励賞	若干名

(4) 候補者の推薦

下記2の候補者推薦要領により、各国立高等専門学校校長が行う。

(5) 顕彰対象者の決定

上記によって推薦された候補者の中から、下記3の顕彰対象者選考要領に基づいて選考委員会が顕彰教員を選考・決定し、文部科学省へ表彰の依頼をする。

(6) 顕彰の時期

平成 1 7 年 3 月開催予定の校長会議の席上で行う。

2. 候補者推薦要領

(1) 推薦基準

別に定める教員による自己評価(第1部)、教員による相互評価(第2部)、

学生による教員の評価（第3部）の総合評価に基づき候補者の選考を行う。

教員による自己評価（第1部）の点数集計を行う際に，一般教科担当教員で卒業研究，留学生を担当しない場合は，「A．5 卒業論文指導の状況等」及び「A．6 留学生の指導等」を自己採点しないので合計点（満点）が変わることとなり，不利になるため，この場合の取扱いを次のようにする。

専門学科教員のA．5（満点 11 点），A．6（満点 6 点），合計（満点 17 点）の自己採点結果の平均点（例えば，A．5（7 点），A．6（2 点），合計（9 点））を一般教科担当教員全員の共通の点数とする。なお，合計点（満点 170 点）は，変更しないこととする。

教員による自己評価，教員による相互評価及び学生による教員評価の結果がともに良好で，かつ，文部科学大臣等の表彰をするにふさわしい教員を選考する。（必ずしも最高点の者でなくてもよい。）

（2）推薦人員

各国立高等専門学校から 1 名とする。ただし，昨年度の実績者は除く。

（3）提出書類

教員顕彰申請書（様式 1）

当該教員の自己採点集計表を添付

顕彰題目及び顕彰内容は受賞後に公表されることを前提に記入すること。

自己申請書（A 4 版 1～2 枚，任意書式）

特に必要と思われる場合は，裏付けとなる資料を添付（返却しない）

受賞後に公表されることを前提に記入すること。

校長の所見（A 4 版 1 枚，任意書式）

各高等専門学校における教員の教育業績等評価実績資料（様式 2）

3．顕彰対象者選考要領

（1）選考委員会の構成

独立行政法人国立高等専門学校機構教育・FD委員会委員 3 名及び長岡及び豊橋技術科学大学等の教授 2 名の計 5 名で構成する。

（注：委員となった校長は当該学校の教員の審査には加わらない。）

委員会に委員長を置き，教育・FD委員会委員の中から互選する。

（2）選考方法

審査項目及び配点は下記のとおりとし，選考委員が採点を行う。

採点結果を踏まえ，提出書類を総合的に審査し，選考する。

教員の自己申請書の内容 40 点

当該教員の教育業績自己採点 20 点

教員の相互評価結果 20 点

学生の評価結果 20 点

合計 100 点

#### 4 . 日程

- 1 0月中旬 候補者募集
- 1 2月中旬 候補者締め切り
- 1 月上旬 選考委員会開催，顕彰教員を決定
- 2 月下旬 文部科学省へ顕彰教員への表彰を依頼
- 3 月下旬 校長会議において表彰

( 出典 高専機構発各高専あて文書 )

資料 3 - 1 - - 1 4

#### 釧路工業高等専門学校教育業績賞実施要項

〔平成14年10月8日〕  
校 長 裁 定

##### (趣旨)

第1条 この要項は、釧路工業高等専門学校において、教育上特に顕著な功績のあった者に対し、教育業績賞を授与する場合の必要事項を定めるものとする。

##### (被表彰者の選考方法)

第2条 被表彰者の選考は、次に掲げる事項を総合的に勘案し校長が行うものとする。

- イ 国立高等専門学校協会が実施する教員顕彰制度における候補者選考経過
- ロ 教育研究重点経費配分審査における教育貢献度評価

##### (表彰の日)

第3条 表彰は、毎年その都度校長が定める日に行うものとする。

##### (表彰状等の授与)

第4条 表彰は、校長が被表彰者に表彰状(別紙様式)を授与することにより行う。

- 2 前項の表彰状に併せて釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金事業実施要項の第2に定める研究費・旅費等の補助を行うことができる。

##### (庶務)

第5条 表彰に関する事務は、庶務課人事係において処理する。

別紙様式

<p>第 号</p> <p style="margin-top: 20px;">表 彰 状</p> <p style="margin-top: 20px;">殿</p> <p style="margin-top: 20px;">あなたは、○○○○○○○○○○○○○○○○○○により</p> <p style="margin-top: 10px;">本校の教育に顕著な業績をあげられました。</p> <p style="margin-top: 20px;">よって、ここに釧路工業高等専門学校教育業績賞を</p> <p style="margin-top: 10px;">授与し、表彰します。</p> <p style="margin-top: 20px;">年 月 日</p> <p style="margin-top: 10px;">釧路工業高等専門学校長 <span style="float: right;">㊟</span></p>
--

1. 表彰状は、A4版，縦長，横書きとする。
2. 表彰状は，盾としても置けるようなケース等に収納して授与する。
3. 表彰状の文面は，被表彰者の功績等の内容に合わせ，その都度定めるものとする。

（出典 庶務課法人文書）

（分析結果とその根拠理由）

多様な背景を持つ教員組織とするための取組は，他学校勤務経験者・民間企業経験者の率が高専機構の定めた中期計画上の数値目標を既に達成しているほか，女性教員や外国人教員の確保に関しても学校として中期計画を定め取組んでいる。学位取得の状況は十分とはいえないが，促進のための様々な取組や支援が行われており，目標達成は十分に可能である。また，教員の年齢構成に配慮された教員採用の仕組みが整備されて，その結果，均衡ある年齢構成が実現されている。高専機構の教員顕彰で大きな成果を上げ，学校独自の表彰制度とともに教員組織の活動の活発化に貢献している。

観点3 - 2 - : 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

専任教員の採用，昇格等の選考手続きについて，平成13年に以下の校長裁定を定めている。（資料3 - 2 - - 1）さらに，同校長裁定に基づく評価項目その他の基準を明確にすることを目的として平成16年には教員選考基準を定めている（資料3 - 2 - - 2）。

資料 3 - 2 - - 1

釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて

平成 13 年 9 月 10 日

校長裁定

本校の教員（教授，助教授，講師及び助手をいう。）の採用又は昇任（以下「採用等」という。）の選考（他の学科及び一般教科（以下「学科等」という。）から異動させる場合を含む。）は，次により行うものとする。

1 各学科等において，教員の採用等を必要と認めるときは，当該学科等主任が校長に申し出るものとする。

2 校長は，上記の申し出がありこれを必要と認めるとき又は教育研究上特に必要があると認めるときは，教員選考委員会を設置する。

3 教員選考委員会は，次の業務を行う。

- (1) 候補者の審査
- (2) 公募の内容
- (3) 欠員に対応する学内関連異動の有無の検討（欠員とは，退職時によるものの外，上位官職に空きがある場合も含む。）

4 教員選考委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事，学生主事及び寮務主事
- (3) 当該学科等主任
- (4) 事務部長
- (5) 校長が必要と認める者若干名

5 教員選考委員会は，校長が招集し，議長となる。

6 教員選考委員会は，当該業務の終了をもって解散する。

7 教員の採用等の選考は，教員選考委員会の議及び面接結果に基づき，校長が行う。

8 欠員補充の採用等（学科等からの昇任及び学科等間で昇任を伴わない異動は除く。）は，原則として公募によるものとする。

9 学科主任は，公募にあたっては，公募官職，専門分野，担当科目及び資格条件の設定を行い，教員選考委員会の承認を受けなければならない。

10 公募に必要な書類は，次に掲げるものとする。

- (1) 履歴書（所定様式）（写真貼付）
- (2) 著書・論文等一覧（第 1 号様式）
- (3) 著書・論文等の概要（第 2 号様式，主要なもの 5 編以内）
- (4) 主要著書・論文の別刷（(3)に掲げたもの，複製可）
- (5) 教育，学生指導の実績（企業からの採用者の場合は，社内教育等の実績）
- (6) 高等専門学校における教育，研究，学生指導等に関する抱負（2，000 字以内）
- (7) 推薦状
- (8) その他必要とする書類

11 公募の方法は，インターネット（国立情報学研究所「研究者公募情報」）によるほか，関連

高等教育機関，企業及び学会誌等への依頼により行うものとする。

12 学科等からの昇任及び学科等間で昇任を伴わない異動をさせる場合は，教員選考個人 調書（第3号様式）及び10(2)，(3)を提出させるものとする。

13 教員選考委員会及び公募に関する事務は，選考の対象となる学科等の主任の協力を得て庶務課人事係において処理する。

附 記

この裁定は，平成13年7月1日から適用する。

（出典 庶務課文書）

資料3 - 2 - - 2

### 釧路工業高等専門学校教員選考基準

平成16年11月22日

校長裁定

#### 第1．目的

この基準は，「釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて」（平成13年9月10日校長裁定）（以下「選考手続き」という。）第7項に定める教員選考に際し，必要な評価項目その他の基準を定めることを目的とする。

#### 第2．選考の透明性，客観性

教員選考の透明性を図るため，公募に当たってはこの基準を明らかにして行うとともに，この基準に則った選考の過程を記録，保存（別紙様式）することにより説明責任を果たすとともに，その客観性の保持を図るものである。

#### 第3．評価基準の適用

1．選考は，第4に定める評価項目による5段階の客観的評価に基づくものとする。各評価項目は，補充しようとする教員の職務内容，職位等を勘案し，その都度適切な重みづけ（係数）を付して適用する。

2．各評価項目には，それぞれ具体的な「評価の観点例」を定めるものとする。

#### 第4．評価項目

##### 1．教育能力

（1）「担当授業科目」に関して広く知識を有し，教育する能力を有すること。また，時代の要請により変化するカリキュラムへの対応も可能とする柔軟な思考力に基づき企画，実行する能力を有すること。

（2）学生の学習への思いやりや授業のスキル改善に対し熱意をもっていること。

〔評価の観点例〕

担当授業科目に関連し作成した教科書・教材等

担当授業科目に関連した教育法・教授法の改善等に関する論文・研究発表等

他の教育機関における教員としての経験

高専における担当科目についての授業計画・内容についての構想

大学等における非常勤講師・助手又はTA等としての経験

高専の設置目的・現状等に対する理解



企業等における教育経験

企業等との連携による高専や大学での技術者教育への参画

教育関係の表彰や受賞

教育関係 F D への参画や参加

教育関係学協会（日本工学教育協会など）への参加

学内の教育関係委員会等での経験，特に努力したこと

補講・補習等への参画

その他必要な事項

## 2. 研究能力

（1）教育内容を学術の進展に即応させるため，必要な研究を行っていること。

（2）研究成果の社会への還元及び社会との共同研究等の場への学生の参加を通じて研究指導を行う能力を有していること。

〔評価の観点例〕

査読付き論文

その他の学術論文・誌上発表等

著書

学会発表，学会活動

今後の研究計画・展望

科学研究費補助金その他研究助成等の採択・申請状況

研究関連の表彰や受賞

特許の取得

卒業研究・特別研究の学会等での発表

地域社会や企業等との共同研究，技術相談等への取組

その他必要な事項

## 3. 学生指導能力

学級担任，クラブ活動指導及び寮における生活指導などの学生指導に熱意があり，これら指導上の能力を有していること。

〔評価の観点例〕

教育機関又は社会における青少年指導の実績

自身のクラブ活動・ボランティア活動等の実績や体験

カウンセリング技法・青年心理学等の履修又は講習等への参加

学内の学生指導関係委員会の経験，特に努力したこと

学生指導に当たって特に努力したこと

その他必要な事項

## 4. 学校運営・社会貢献能力

（1）高等専門学校の歴史的経緯や取り巻く環境を知り，社会の変化や教育に関する国民のニーズ等に対応して，教育・研究以外の学校運営に関する業務に積極的に取り組む姿勢を有していること。

（2）地域社会又は学協会の行事等にも積極的に貢献できる教養・人格・品格・エネルギー等

を備えていること。

〔評価の観点例〕

（学校運営）

社会の動きや最新の技術動向に対する関心  
 高専制度に関する理解度  
 高専や大学，企業等における管理職の経験  
 高専や大学，企業等における広報活動の経験  
 主事・主事補等の経験，特に努力したこと  
 その他必要な事項

（社会貢献）

地域社会における審議会・委員会委員等の経験  
 地域社会における行事の企画や運営  
 学会活動の内容  
 海外技術協力への参加  
 その他必要な事項

#### 第5 その他の望ましい能力・条件等

第4による客観的な評価には，以下の「その他望ましい能力・条件等」を加算することができる。

1. 企業経験を有し，産業界のニーズを教育に反映させる識見や能力を有していること。

〔評価の観点例〕

企業における研究・開発・設計等の実務経験  
 社内教育への参画  
 学協会会員の経験  
 高専や大学との共同研究等の産学連携の経験  
 高専や大学における非常勤講師等の経験

2. 十分な国際性をもっており，国際的に通用する技術者の育成ができること。

〔評価の観点例〕

海外企業の技術者との連携の経験  
 JAICA等への協力の経験  
 国際的な技術者教育認定，国際的な技術者資格に関する関心と知識

3. 技術士などの資格を有していること。

〔評価の観点例〕

技術士，PE，CEなどの資格

#### 第6 学内昇任人事に関する準用

この基準は，「選考手続き」第8の括弧書きにある公募によらない選考の場合においても準用される。

附則 この基準は，平成16年11月22日から施行する。

（出典 庶務課文書）

（資料3-2- -1）では，校長による教員選考委員会の設置を定め，また採用等は原則的に公募によることを明記している。教員選考委員会設置状況を資料に示す（資料3-2- -3）。

教員選考委員会設置状況調べ

委員会等名	設置年月日	発令予定日
一般教科（助教授）採用	15.2.6	16.4.1
電気工学科（教授）採用	15.2.6	16.4.1
電気工学科（助教授）採用	15.2.6	16.4.1
電子工学科（助手）採用	15.2.6	16.4.1
建築工学科（助教授）採用	15.2.6	16.4.1
一般教科（助教授）昇任（5件）	15.2.20	15.4.1
機械工学科（助教授）昇任	15.2.20	15.4.1
情報工学科（助教授）昇任	15.2.20	15.4.1
一般教科（教授又は助教授）採用	15.8.11	16.4.1
機械工学科（助教授）採用	16.1.16	16.4.1
電子工学科（助教授）昇任	16.2.9	16.4.1
一般教科（教授）昇任	16.2.26	16.4.1
電子工学科（助教授）採用	16.7.12	16.4.1
機械工学科（助手）採用	17.3.1	16.10.1
電気工学科（助教授）昇任	17.3.1	17.4.1
電子工学科（教授）昇任	17.3.1	17.4.1
電子工学科（教授）昇任	17.3.1	17.4.1
情報工学科（教授）採用	17.3.1	16.10.1
電気工学科（助教授）採用	17.6.16	17.4.1

（出典 本自己評価のための作成資料）

選考は、次のとおり行われる。以下、採用の実例を資料で示す（資料 3 - 2 - - 4 , 3 - 2 - - 5 , 3 - 2 - - 6）。選考委員会では、候補者の提出資料に基づき、設置基準に対する候補者の該当性に関する審査を経て、候補者の 教育能力 研究能力 学生指導能力 学校運営・社会貢献能力を比較検討し、また、その他の望ましい能力・条件等の項目により総合的に判断し、さらに最終段階では面接によって確認し、決定するというプロセスにより、適切な選考が行われる。選考委員が候補者の能力評価を行うため用いる様式も併せて資料として示す（資料 3 - 2 - - 7）。

資料 3 - 2 - - 4

第1回電子工学科教員（助教授）選考委員会

日 時 平成16年7月14日（水） 16:00～

場 所 会議室

（議 題）

1. 教員公募内容について
2. 選考委員会等の日程について
3. その他

（配布資料）

- |                               |      |
|-------------------------------|------|
| ●教員の公募について                    | 資料 1 |
| ●電子工学科教員（助教授）選考関係日程表（案）       | 資料 2 |
| ●高等専門学校設置基準（教員の資格）            | 資料 3 |
| ●教員選考委員会の設置について               | 資料 4 |
| ●釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて（校長議定） | 資料 5 |

（出典 電子工学科教員選考委員会配布資料）

資料 3 - 2 - - 5

公募文書（実際の例）

釧高専庶第186号  
平成16年7月20日

各関係機関の長 殿

釧路工業高等専門学校長

木 谷 勝 「公印省略」

教員の公募について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本校では下記の要領で教員を公募することになりました。

つきましては、ご多用中のところ恐縮ですが、貴機関関係者へご周知くださいますとともに、適任者のご推薦についてよろしくお願い申し上げます。

記

1. 公募人員 助教授 1名
2. 所 属 電子工学科
3. 専門分野 情報通信・無線通信システム関連分野
4. 担当科目 無線通信工学，電子回路実験，プログラム演習  
(専攻科) ネットワーク工学特論，特別研究，実験・実習・ゼミナル等

5 . 応募資格	以下の条件をすべて満たす方 博士の学位を有する方、または本年度内に取得見込みの方 高等専門学校の教育・研究、学生指導に理解と熱意を持つ方 年齢30歳前後の方
6 . 採用予定時期	平成17年4月1日
7 . 選考方法	第一次選考：書類審査 平成16年11月15日(予定) 第二次選考：面接審査(第一次選考合格者) 平成16年11月26日(予定) 最終選考：決定 平成16年11月29日(予定) 面接に伴う旅費等は、応募者の負担となります。
8 . 提出書類	履歴書「写真貼付」(所定様式) 著書・論文等一覧(第1号様式)(所定様式) 著書・論文等の概要(第2号様式, 主要なもの5編以内)(所定様式) 主要著書・論文等の別刷( にあげたもの, 複写可) 「高等専門学校における教育、研究、学生指導等」に関する抱負をまとめたもの(2000字以内) 推薦状(自薦の場合は、本人に関する所見を求め得る方1名を明記)
9 . 応募期限	平成16年10月29日(金)必着
10 . 提出先	〒084-0916 釧路市大楽毛西2丁目32番1号 釧路工業高等専門学校 庶務課人事係( 0154-57-7205 ダイヤル) 郵送の場合は「簡易書留」とし、封筒に「電子工学科教員公募」と明記して下さい。 原則として提出された書類は返却いたしません。返却を希望される場合は、返信用封筒を同封して下さい。
11 . 問合わせ先	釧路工業高等専門学校 電子工学科主任 坂田 篤 E-mail : sakata@kushiro-ct.ac.jp 0154-57-7332 ダイヤル
12 . その他	カリキュラム等の詳細については、本校ホームページ ( <a href="http://www.kushiro-ct.ac.jp/">http://www.kushiro-ct.ac.jp/</a> )をご覧ください。 提出書類中の , , の様式は、本校ホームページからダウンロードにより使用可能です。 (出典 関係大学・高専・研究機関・企業向け公文書)

第5回電子工学科教員選考委員会議事録

日 時 平成17年1月28日(金) 16:36~17:10

場 所 会議室

出席者 校長, 教務主事, 寮務主事, 坂田電子工学科主任,  
事務部長, 神谷教授(情報工学科)

(オブザーバー: 人事係長)

校長より開会宣言がなされた後、1月27日(木)に行われた面接結果について報告する旨が述

べらた。

(坂田主任報告)

：

- ・学生の時、クラシックギターのクラブのマネージャーを経験している。明るい人柄だと感じた。物事もプラス思考で考えられるのではないかと思う。
  - ・電子工学科の課程を修了し、教育の能力としては、大学で非常勤講師として従事し、現在は大学で助手として光工学のマスターを教えている実績がある。
  - ・研究能力としても十分な能力がある。
  - ・学生指導能力としては、学生に対してやさしさと厳しさを持って接している。
  - ・クラブ活動や担任について、積極的な姿勢を示していた。
  - ・社会貢献についても、子供への教育についての考え方を持っていた。
  - ・国際性を持っている。
  - ・専門性について、電子回路の基礎及び実験・実習も修得され、実験・実習の教育実績もある。
- 以上から、電子工学科において十分な教育をできる資質を有している。

：

- ・教育能力としてコーチトレーニングやT・Aの実績あるが、実績としては少し足りない。
- ・研究能力では、共同研究等で頑張っておりと甲乙付けがたい。
- ・学生指導能力は、研究しながら教育もしていきたいと考えておりと大差ない。
- ・社会貢献につては、資質があり、甲乙付けがたい。
- ・専門性については、と比較して足りない。

(教務主事報告)

：

- ・電子工学科が求めている担当科目は判断できないが、印象としては人当たりがよい。話をそらさないで適格に答えていたし、人間性も温厚で好印象を受けた。学生に人気が良いのではないか。抱負で述べているとおりの印象を受けた。
- ・配偶者は勤務しているが 月退職予定で、父親が 市と縁の深い人であり、 に勤務上の心配はないようである。

：

- ・先生の資質としては申し分ない。
  - ・担当科目が多少弱いかもしれない。
- 以上から 2 人とも甲乙付けがたいが、どちらかと言えば が適切である。

(校長)

：

- ・教育能力は公募書類で把握できた。学生と接してどうかと面接したが、明るくハキハキして印象は人当たりがよい。学生に好かれるタイプかなと思う。スキル改革の熱意もある。
- ・研究能力は、現在執筆中の論文がある。科研はない。
- ・地域との共同研究をやっている。地域と連携して指導してくれそうである。
- ・学生指導では、学生の時クラブ活動をやっていて、担任及びクラブ活動を一生懸命やるような積極性がある。

・学校運営能力については、「主事補もやります。」という姿勢を持っている。  
 ・国際性については、学会発表等で研究者との交流がある。  
 以上から、  
 は教員として適切である。  
 :

・積極性があり、高専に対する理解もある。T・Aの経験もある。  
 ・学生指導についても積極的にコーチングを学んだり教員に対する志向ある。  
 ・電子工学科の担当科目は、現在自分で勉強している。

総合的に見ると  
 を 点としたら、  
 は 点か 点。結論は  
 が本校の教員として適切である。

面接結果としては、順位は第1位  
 , 第2位  
 と判断した。

校長より、以上の面接結果報告を踏まえて、各委員へ意見を求めたが特になく、両者の面接結果の見解でもある第1位の  
 を候補者とする事で決定することが述べられ、了承された。

以上の結果、校長より最終決定として、  
 を平成 年 月 日付けで電子工学科  
 として決定し、同人へ採用内定通知書を通知する旨が述べられた。

続いて校長より、本委員会の選考資料として記録・保存するため、各委員は1月24日開催の第4回選考委員会（資格審査、面接候補者の決定）において、  
 名の応募者について評価項目により評価した「電子工学科教員選考資料」を、及び1月27日実施した面接の面接官は、面接の評価について同資料を別途作成し、同資料を人事係長まで提出するよう、並びに本委員会としての所見の作成について電子工学科主任である坂田教員へ依頼され、了承された。

また、電子工学科坂田主任から電子工学科教員選考資料に評価項目として専門性を追加してほしい旨意見がなされ、了承された。

以上をもって、第5回電子工学科助教授選考委員会を終了し、同委員会を解散した。

(出典 電子工学科教員選考委員会議事録)

資料3 - 2 - - 7

教員選考資料

選考に関する能力の評価

候補者氏名 \_\_\_\_\_

評価項目	用いた評価の観点例 数字を記入する	重み付け	評価 1～5
1. 教育能力 (評価の観点例) 担当授業科目に関連し作成した教科書・教材等 担当授業科目に関連した教育法・教授法の改善等に関する論文・研究発表等 他の教育機関における教員としての経験 高専における担当科目についての授業計画・内容についての構想 大学等における非常勤講師・助手又はTA等としての経験 高専の設置目的・現状等に対する理解			

<p>企業等における教育経験                  企業等との連携による高専や大学での技術者教育への参画                  教育関係の表彰や受賞                  教育関係FDへの参画や参加                  教育関係学協会(日本工学教育協会など)への参加                  学内の教育関係委員会等での経験,特に努力したこと                  補講・補習等への参画                  その他必要な事項</p>			
<p>(1)「担当授業科目」に関して広く知識を有し,教育する能力を有すること。また,時代の要請により変化するカリキュラムへの対応も可能とする柔軟な思考力に基づき企画,実行する能力を有すること。</p>			
<p>(2)学生の学習への思いやりや授業のスキル改善に対し熱意をもっていること。</p>			
<p>2. 研究能力                  [評価の観点例]                  査読付き論文                  その他の学術論文・誌上発表等                  著書                  学会発表,学会活動                  今後の研究計画・展望                  科学研究費補助金その他研究助成等の採択・申請状況                  研究関連の表彰や受賞                  特許の取得                  卒業研究・特別研究の学会等での発表                  地域社会や企業等との共同研究,技術相談等への取組                  その他必要な事項</p>			
<p>(1)教育内容を学術の進展に即応させるため,必要な研究を行っていること。</p>			
<p>(2)研究成果の社会への還元及び社会との共同研究等の場への学生の参加を通じて研究指導を行う能力を有していること。</p>			
<p>評価項目</p>	<p>用いた評価の観点例</p>	<p>重み付</p>	<p>評価</p>



	数字を記入する	け	1～5
<p>3. 学生指導能力 〔評価の観点例〕</p> <p>教育機関又は社会における青少年指導の実績 自身のクラブ活動・ボランティア活動等の実績や体験 カウンセリング技法・青年心理学等の履修又は講習等への参加 学内の学生指導関係委員会の経験, 特に努力したこと 学生指導に当たって特に努力したこと その他必要な事項</p>			
学級担任, クラブ活動指導及び寮における生活指導などの学生指導に熱意があり, これら指導上の能力を有していること。			
<p>4. 学校運営・社会貢献能力 〔評価の観点例〕</p> <p>(学校運営)</p> <p>社会の動きや最新の技術動向に対する関心 高専や大学, 企業等における管理職の経験 高専や大学, 企業等における広報活動の経験 主事・主事補等の経験, 特に努力したこと その他必要な事項</p> <p>(社会貢献)</p> <p>地域社会における審議会・委員会委員等の経験 地域社会における行事の企画や運営 学会活動の内容 海外技術協力への参加 その他必要な事項</p>			
(1) 高等専門学校の歴史的経緯や取り巻く環境を知り, 社会の変化や教育に関する国民のニーズ等に対応して, 教育・研究以外の学校運営に関する業務に積極的に取り組む姿勢を有していること。			
(2) 地域社会又は学協会の行事等にも積極的に貢献できる教養・人格・品格・エネルギー等を備えていること。			
		計	
その他の望ましい能力・条件等			
評価項目	用いた評価の観点例 数字を記入する	重み付 け	評価 1～5

<p>1. 企業経験を有し、産業界のニーズを教育に反映させる 識見や能力を有していること。 〔評価の観点例〕</p> <p>企業における研究・開発・設計等の実務経験 社内教育への参画 学協会会員の経験 高専や大学との共同研究等の産学連携の経験</p> <p>高専や大学における非常勤講師等の経験 その他必要な事項</p>			
<p>2. 十分な国際性をもっており、国際的に通用する技術者の 育成ができること。 〔評価の観点例〕</p> <p>海外企業の技術者との連携の経験 JICA 等への協力の経験 国際的な技術者教育認定、国際的な技術者資格に 関する 関心と知識 その他必要な事項</p>			
<p>3. 技術士などの資格を有していること。 〔評価の観点例〕</p> <p>技術士、PE、CE などの資格</p>			
<p>「用いた評価の観点例」欄 その他必要な事項の場合は、必要な事項を記入すること。</p>			<p>総計</p>
<p style="text-align: right;">選考年月日：平成 年 月 日</p> <hr/> <p style="text-align: right;">委員氏名</p> <hr/> <p style="text-align: center;">( 出典 別紙教員選考で実際に用いられている様式 )</p>			

新採用の場合とは異なり、現職教員の昇任人事は、公募によらないことが通例である。しかし、この場合でも選考の手順は新採用の場合と同様の能力評価を行うとともに、候補者自身が作成する能力に関する自己評価等の資料による選考（資料 3 - 2 - - 8 ），既に昇任している教員との能力比較を行う（資料 3 - 2 - - 9 ）などにより選考の客観性・透明性を確保している。

資料 3 - 2 - - 8

昇任候補者自身が作成する能力に関する自己評価資料

教員選考資料（候補者作成用）

候補者氏名 \_\_\_\_\_

客観的評価に基づく選考の資料とするため、次の 1～5 について、該当する全ての○付番号とその自己評価又は自己 P R の内容を記載すること。（裏付け書類を添付すること。）

1. 教育能力

- ①担当授業科目に関連し作成した教科書・教材等
- ②担当授業科目に関連した教育法・教授法の改善等に関する論文・研究発表等
- ③他の教育機関における教員としての経験
- ④高専における担当科目についての授業計画・内容についての構想
- ⑤大学等における非常勤講師・助手又は TA 等としての経験
- ⑥高専の設置目的・現状等に対する理解
- ⑦企業等における教育経験
- ⑧企業等との連携による高専や大学での技術者教育への参画
- ⑨教育関係の表彰や受賞
- ⑩教育関係 F D への参画や参加
- ⑪教育関係学協会（日本工学教育協会など）への参加
- ⑫学内の教育関係委員会等での経験，特に努力したこと
- ⑬補講・補習等への参画
- ⑭その他必要な事項

番号	自己評価 又は 自己 P R	添付書類

2. 研究能力

- ①査読付き論文
- ②その他の学術論文・誌上发表等
- ③著書
- ④学会発表，学会活動
- ⑤今後の研究計画・展望
- ⑥科学研究費補助金その他研究助成等の採択・申請状況
- ⑦研究関連の表彰や受賞
- ⑧特許の取得
- ⑨卒業研究・特別研究の学会等での発表
- ⑩地域社会や企業等との共同研究，技術相談等への取組
- ⑪その他必要な事項

番号	自己評価	添付書類の有無

3. 学生指導能力

- ①教育機関又は社会における青少年指導の実績
- ②自身のクラブ活動・ボランティア活動等の実績や体験
- ③カウンセリング技法・青年心理学等の履修又は講習等への参加
- ④学内の学生指導関係委員会の経験，特に努力したこと
- ⑤学生指導に当たって特に努力したこと
- ⑥その他必要な事項

番号	自己評価	添付書類の有無

4. 学校運営・社会貢献能力

(学校運営)

- ①社会の動きや最新の技術動向に対する関心
- ②高専制度に関する理解度
- ③高専や大学、企業等における管理職の経験
- ④高専や大学、企業等における広報活動の経験
- ⑤主事・主事補等の経験，特に努力したこと
- ⑥その他必要な事項

(社会貢献)

- ①地域社会における審議会・委員会委員等の経験
- ②地域社会における行事の企画や運営
- ③学会活動の内容
- ④海外技術協力への参加
- ⑤その他必要な事項

番号	自己評価	添付書類の有無

5 その他の望ましい能力・条件等

1. ①企業における研究・開発・設計等の実務経験

- ②社内教育への参画
- ③学協会会員の経験
- ④高専や大学との共同研究等の産学連携の経験
- ⑤高専や大学における非常勤講師等の経験
- ⑥その他必要な事項

2. ①海外企業の技術者との連携の経験

- ②海外大学等の研究者との連携の経験
- ③ JAICA 等への協力の経験
- ④国際的な技術者教育認定，国際的な技術者資格に関する関心と知識
- ⑤その他必要な事項

3. 技術士，PE，CE などの資格

番号	自己評価	添付書類の有無

( 出典 教員選考で実際に用いられている様式 )

既昇任他教員との能力比較を示す資料

第 1 回電子工学科教員（教授）選考委員会

日 時 平成 1 7 年 3 月 2 日（水） 1 4 : 4 0 ~

場 所 小会議室

（議 題）

- 1 . 候補者の選考協議について
- 2 . その他

（配布資料）

教員選考委員会の設置について	資料 1
高等専門学校設置基準（教員の資格）	資料 2
教員選考個人調書	資料 3
著書・論文等一覧	資料 4
著書・論文等の概要	資料 5
釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて（校長裁定）	資料 6
釧路工業高等専門学校教員選考基準	資料 7

他教員の教授昇任時の選考資料 資料 8

電子工学科教員選考資料

教員選考資料（候補者作成用）

（出典 電子工学科教授昇任選考委員会レジュメ）

非常勤講師の採用に関しては、以下の校長裁定によっている。ここでは、設置基準上の講師の資格を有しているかどうかの判定の他、本校の教育目標に沿った教育指導能力の判定を校長が行うこととなっており、システムとして機能している（資料 3 - 2 - - 1 0）。

釧路工業高等専門学校非常勤講師任用に関する申し合わせ

平成 1 5 . 1 1 . 2 5

校長裁定

（趣旨）

- 1 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の任用については、教育効果の向上と人事管理等の適切な運用を行うため、この申し合わせによるものとする。

（任用範囲）

- 2 非常勤講師の任用にあたっては、依頼担当科目について学科等内での関連性・効率性等の要素を十分に検討考慮した上で、担当できる適任者がいない等、真にやむを得ない理由により必要と認められる場合に限るものとする。

（任用基準）

- 3 非常勤講師は、優れた識見を持ち、本校の教育目標及び方針に添った教育指導のできる者で、次の各号に該当するものとする。

(1) 高等専門学校設置基準(昭和36年8月30日文部省令第23号)に定められた教員の資格(講師の資格以上)を有すること。

(2) 年齢70歳未満(各年度の4月1日現在)であること。

(3) 心身ともに健全であること。

(任用方法)

4 任用は選考により行う。

(1) 選考は、年度授業計画に基づき提出された任用候補者名簿の中から、校長が行う。

(2) 任用候補者名簿は、教務主事が学科等主任の協力を得て作成するものとする。

(選考書類)

5 選考に必要な書類は、次に掲げるものとする。

(1) 非常勤講師選考個人調書

(2) 著書・論文等一覧

(3) その他必要と認める書類

(特例)

6 特別な事情により、この申し合わせにより難しい場合は、校長は別段の取扱いをすることができる。

(事務)

6 事務は、庶務課人事係で処理する。

附記

この裁定は、平成15年11月25日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

(出典 庶務課文書)

(分析結果とその根拠理由)

専任教員の採用、現職教員の昇格等に関する規程が校長裁定により定められ、教員選考委員会が、教育能力 研究能力 学生指導能力 学校運営・社会貢献能力に区分された評価項目に従い選考しており、適切な運用が行われている。また、これらの過程はすべて記録として保管され客観性・透明性の確保を図っている。非常勤講師の任用についても規程が整備され、システムとして機能している。

観点3-2- : 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。

(観点に係る状況)

本観点は、教員の採用及び昇格等に関するものであり、本校では、教員の教育活動に関する評価は、教員自身の資質向上と学校全体としての教育力の向上を目的としている。このため、これを実施する体制等については、基準9に記述する。ただし、本校では、毎年、教員の勤務評定が実施されている。文部科学省通知に基づき校長の責任と権限のもとで法人化の後も実施され、評価要素として「責任」「知識」「教授」「研究」「指導」があり総合評価が行われる。その結果は、昇給、昇格、ボーナスの査定などに反映される。校長は、勤務評定に際し、学生による授業評価と教員による改善レポートの提出、予算配分におけるポイント制の申告、教員顕彰における自己申告などを総合的に判断しており、また、評定要素には教育に関することも含まれていることから、この意味では校長が本観点における実施体制といえる(資料3-2--1)。

教員の勤務評定

人事考課評定記録書

定期評定

臨時評定

評定期間 平成 年 月 日～平成 年 月 日  
 評定日付 平成 年 月 日

学校名  
 釧路工業高等専門学校

整理番号  
 1

(ふりがな) 氏 名		満 才
所属部課係及び職名	職務の級 教育職 級	

勤務実績の評定欄

評 定 要 素	1 責 任	2 知 識	3 教 授	4 研 究	5 指 導	評 価 点 数 の 合 計	総 合 評 価 記 号	調 整 記 号	実 績 評 語
評 価	-----	-----	-----	-----	-----	-----			
備 考									

性格、能力及び適性の評定欄

性 格	能 力	
適 性	(1) 現在の仕事に対して <input type="checkbox"/> 非常に適している。 <input type="checkbox"/> おおむね適している。 <input type="checkbox"/> やや適していない。 <input type="checkbox"/> 適していない。	
	(2) 現在の仕事よりもさらに本人にむく 仕事があればその説明	



参考事項欄	氏 名		
出勤状況	欠 勤 時間 病気休暇 時間	健康状態	<input type="checkbox"/> 健 康 持病又は既往症 <input type="checkbox"/> やや不健康 <input type="checkbox"/> 不健康
特記事項	特に行った指導上の措置，その効果，その他勤務評定について参考となる事項		
評 定 者 平成 年 月 日 職 名 釧路工業高等専門学校 氏 名 印			
調 整 者 平成 年 月 日 職 名 釧路工業高等専門学校 氏 名 印			
実 施 権 者 平成 年 月 日 職 名 釧路工業高等専門学校長 氏 名 木 谷 勝 公印			

( 出典 勤務評定で実際に用いられている様式 )

( 分析結果とその根拠理由 )

観点に係る教育活動の評価は，勤務評定として校長により実施されている。

観点 3 - 3 - : 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

( 観点に係る状況 )

教育課程の展開をサポートする事務組織及び技術職員による組織構成は，次のとおりである

(資料3 - 3 - - 1)。

資料3 - 3 - - 1

事務組織及び技術職員の組織構成掲載箇所

(出典 別添学校要覧4頁, 5頁)

事務組織は, 32名の職員で構成され, このうち, 教育課程に関わる事務を直接行うのは学生課である。全員が試験合格者であり, 司書は1名配置されている(資料3 - 3 - - 2)。

資料3 - 3 - - 2

教育課程の展開に直接関わる事務組織の(学生課及び庶務課情報資料係)事務分掌

\*各係の人数を( )書きで加えた。

(学生課)(課長1名)

(専門員(進路指導・インターンシップ担当))(1名)

第20条 専門員は, 次の事務を分掌する。

- (1) 学生の就職先開拓及び就職指導に関すること。
- (2) 進学希望学生への指導に関すること。
- (3) インターンシップに関すること。
- (4) その他進路指導に係る事務の企画, 調査及び連絡調整に関すること。

(学生係)(3名)

第21条 学生係においては, 次の事務を分掌する。

- (12) 学生の課外活動に関すること。
- (13) 学生及び学生団体の指導に関すること。
- (14) 学生の掲示, 集会及び印刷物に関すること。
- (15) 奨学生及び奨学金に関すること。
- (16) 授業料, 入学料及び寄宿料の減免猶予に関すること。
- (17) 学生の福利施設の管理運営に関すること。
- (18) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (19) 学生旅客割引証及び通学証明書に関すること。
- (20) 日本スポーツ振興センター及び学生傷害保険に関すること。
- (21) 学生の賞罰に関すること。
- (22) その他他の係に属しない学生課所掌事務を処理すること。

(教務係)(4名)

第22条 教務係においては, 次の事務を分掌する。

- (1) 入学者選抜に関すること。
- (16) 修学指導に関すること。
- (17) 教育課程に関すること。
- (18) 学生の入学, 進級及び卒業に関すること。
- (19) 学生の休学, 復学, 転科, 転学及び退学に関すること。
- (20) 授業及び試験に関すること。
- (21) 学生の成績, 欠席及び欠課等に関すること。
- (22) J A B E Eに関すること。

- (23) 教科書及び教材に関すること。
- (24) 学生指導要録の記録及び保管等学籍に関すること。
- (25) 学生の諸証明に関すること。
- (26) 研究生，聴講生及び科目等履修生に関すること。
- (27) 学生の海外語学研修に関すること。
- (28) 教務事務システムに関すること。
- (29) その他教務に関する事務を処理すること。

(寮務係) (2名)

第 23 条 寮務係においては，次の事務を分掌する。

- (10) 学寮の管理及び運営に関すること。
- (11) 学生の入寮及び退寮に関すること。
- (12) 寮生の給食及び栄養管理に関すること。
- (13) 寮費に関すること。
- (14) 寮生の福利厚生に関すること。
- (15) 寮生の健康管理に関すること。
- (16) 学寮宿日直勤務に関すること。
- (17) 外国人留学生に関すること。
- (18) その他学寮に関する事務を処理すること。

(庶務課)

(情報資料係) (3名，うち1名は司書)

第 15 条 情報資料係においては，次の事務を分掌する。

- (1) 情報資料の収集及び整備に関すること。
- (2) 情報資料の受入れ及び保管に関すること。
- (3) 利用者に対する閲覧，貸出及び参考業務等のサービスに関すること。
- (4) 情報資料の目録データベースの利用者への提供及び維持管理に関すること。
- (5) 学外機関との相互貸借業務に関すること。
- (6) その他図書館運営に関すること。
- (7) 研究紀要の発行に関すること。
- (8) 情報公開に関すること。
- (9) 広報の方策に関すること。

(出典 釧路工業高等専門学校事務組織規程)

技術職員は 12 名配置され，以下の規程により技術室に組織されている(資料 3 - 3 - - 3)。

資料 3 - 3 - - 3

(目的)

第 1 条 この規程は，釧路工業高等専門学校の技術に関する専門的業務を円滑かつ効果的に処理するとともに，技術職員(技術室所属職員に限る。以下同じ。)の能力及び資質等の向上を図り，もつて教育研究支援体制の充実に資することを目的とする。

(技術室)

第 2 条 前条の目的を達成するため，事務部に技術室を置き，技術職員並びに第 3 条に規程する技術

専門員及び技術専門職員をもつて組織する。

2 技術室に専門分野ごとに、次に掲げる系を置き、教育研究支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導等に関する業務を処理させる。

- 一 物理学・化学系
- 二 機械工学系
- 三 電気工学系
- 四 電子工学系
- 五 情報工学系
- 六 建築学系

3 前項に定める業務のほか技術室に、次に掲げる業務を処理させる。

- 一 技術室の業務計画の策定等に関すること。
- 二 技術研修（一般・専門）、技術発表会及び技術講演会等の企画・実施等に関すること。
- 三 技術資料の作成、保管及び提供等に関すること。
- 四 各学科等の共通機器等の保守・管理に関すること。
- 五 その他技術室の技術分野に関し必要なこと。

（職の設置）

第3条 技術室に、「独立行政法人国立高等専門学校機構における技術専門員及び技術専門職員の配置等の取扱について（独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定）」に定めるところにより、技術専門員及び技術専門職員を置く。

（技術専門員）

第4条 技術専門員は、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。

2 技術専門員は、次の各号の一に該当する者のうちから選考するものとする。

- 一 職務に関連する技術系の国家資格試験（大卒程度以上）に合格した者
- 二 特許取得等の独創的な技術開発を行つた者
- 三 学会賞等を受賞した者
- 四 科学研究費補助金等の公募採択型の各種助成金を受けた者
- 五 修士以上の学位を有する者
- 六 学会等において職務に関連する論文発表等を行つた者
- 七 職務に関連する著作を発表した者
- 八 技術職員研修会等において講師の経験を有する者

（技術専門職員）

第5条 技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する調査研究を行う。

2 技術専門職員は、次の各号の一に該当する者のうちから選考するものとする。

- 一 前条第2項各号に該当する者
- 二 職務に関連する技術系の国家資格試験に合格した者（前条第2項第1号に該当する者を除

く。)

三 技術発表会等において職務に関連する技術発表等を行つた者

四 技術職員研修会等の研修を修了した者

(技術室長及び技術室次長)

第6条 技術室に技術室長及び技術室次長を置く。

2 技術室長は、技術室における所管業務を総括する。

3 技術室次長は、技術室長を補佐する。

4 技術室長及び技術室次長は、技術専門員又は技術専門職員をもつて充てる。

(出典 釧路工業高等専門学校技術職員の組織等に関する規程)

技術職員は、以下の資料で示すとおり(資料3-2- -4)実験・実習,創造工学,卒業研究等の授業を直接サポートしている他,ネットワークの運用・管理にも当たっている。

資料3-3- -4

技術室業務予定表(次頁)

(出典 技術室作成資料)

平成17年度前期	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
技術室長 伊藤 三喜夫																																								
技術室次長 奥山 政博																																								
技術専門職員 小林 勲																																								
技術専門職員 的野 卓司																																								
技術専門職員 石塚 和則																																								
高下 智行																																								
技術専門職員 横山 安弘																																								
技術専門職員 高坂 宣宏																																								
二谷 聡志																																								
技術専門職員 村上 誠一																																								
小清水 誠																																								
技術専門職員 榎地 敏春																																								

ネットワーク運用と管理(ユーザ管理、ファイル管理、通信障害の対応、運用と管理、セキュリティの維持と管理、第1・2演習室システム管理他)

※本科 M 機械工学科、E 電気工学科、D 電子工学科、J 情報工学科、A 建築学科、専攻科 K 建設生産システム工学、S 電子情報システム工学

(出典 別紙技術室作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

必要な能力を持った事務職員，技術職員が適切な数で組織的に配置され十分機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教員組織の活動をより活発化するための取組として，高専機構の実施する教員顕彰を活用し，文部科学大臣賞を受賞するなどの成果を上げている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準3の自己評価の概要

一般科目担当教員，専門科目担当教員ともに設置基準を十分に上回る数が配置されている。主要な一般科目は専任教員が担当し，一部科目で非常勤講師に依存している面もあるが，依存率の適正化に関する中期計画を定め実現を図っている。専門科目では，ほぼすべての科目を専任教員が担当し，実験・実習科目，卒業研究等では教員の補助として助手も指導に当たっている。教員の授業担当時間数は全体的に多いが，有能な非常勤講師の登用などの工夫も行っている。専攻科教育のための単独の組織は置かず，審査を経た全教員により教育に当たっており，すべての科目を専任教員が担当し自前の教育を行っている。現在，企業経験者等を採用するための公募を行っており，さらに教員配置の充実を図ろうとしている。

他学校・民間企業勤務等の多様な経歴を持つ教員が多く配置され，また，女性教員や外国人教員の確保に関しても中期計画を定め取組んでいる。学位取得の状況は十分とはいえないが，教員の努力や学校の支援策により十分に改善可能である。高専機構の実施する教員顕彰では文部科学大臣賞を受賞する成果を上げ，また，学校独自の表彰制度も設けて活動の活発化を図っている。教員の年齢構成に配慮された採用の仕組みが整備され，その結果，均衡のとれた組織構成となっている。

教員の採用，昇格等の規定が校長裁定により定められ，教育能力，研究能力，学生指導能力，学校運営・社会貢献能力に区分された各評価項目に従い客観的で透明な選考を行っている。

また，必要な能力を持った職員で構成される事務組織と技術職員の組織が置かれ，教育活動を支援している。

## 基準 4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点 4 - 1 - : 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到る状況）

本校の目的、教育理念、教育目標及び学習目標等を踏まえ、以下のとおり関係する委員会等における議論を経て各段階でのアドミッション・ポリシーを明確に定めている（資料 4 - 1 - - 1）。

資料 4 - 1 - - 1

準学士課程入学者選抜 - 釧路高専が求める人の姿 - の掲載箇所

（出典 別添中学生向けパンフレット）

アドミッション・ポリシーの必要性に鑑み、入試広報としての観点を踏まえた検討がなされるよう、広報委員会と連携したWGの設置が入試委員会において決定された（資料 4 - 1 - - 2）。

（資料 4 - 1 - - 2）

#### 7 入試広報の在り方について

- ・ 広報委員との連携（アドミッション・ポリシーの検討等）

委員長から、広報委員会と連携をとり入試広報の在り方について具体的に検討していくためWGを立ち上げたいこと、また、メンバーを広報委員会から加藤(岳)先生・草苺先生、入試委員会からは同じく加藤(岳)先生・松崎先生、入試委員ではないが千田先生をお願いしたい旨発言があり、審議の結果、了承された。

ついては、このWGで早急にアドミッション・ポリシーを作成し、今年度作成予定の入試関係広報物に掲載したいことや、今後の入試広報物の大幅な内容検討等を継続的に行っていただきたい旨要望があった。

（出典 平成 16 年 5 月 31 日入試委員会議事概要）

この後、同WGにおいて検討を重ね、アドミッション・ポリシー及び学科ごとの“求める人材像”の案が策定され、運営会議において審議・了承されている（資料 4 - 1 - - 3, 4 - 1 - - 4, 4 - 1 - - 5）。

（資料 4 - 1 - - 3）

#### 3 本科及び各学科のアドミッションポリシーについて

校長から、以下の作成経過とともに資料 4 に基づき本校のアドミッションポリシーについて提案があり、了承された。また、このアドミッションポリシーは本年度作成の入試広報に掲載することとした。

- ・ 入試広報の在り方について検討するため、入試委員会と広報委員会が連携し、6月1日にWG(加藤岳, 草苺, 松崎, 千田の4名)を設置した。当面、アドミッションポリシーの作成が急務との認識から、約1週間で本科アドミッションポリシー(案)を作



成し、併せて各学科に検討を依頼した結果が、学科アドミッションポリシー(案)である。

- ・ 作成に当たっては、1)表現を簡潔かつ平易にし、高専の要求を強調しないこと。2)教育目標等に整合していること。3)一度に多くを語らず、項目の数を抑えること。を基本方針とした。

なお、入試広報の在り方検討WGは引き続き入試広報物の内容見直しを行うこと、アドミッションポリシーを入学者選抜の具体的な方法にどのように反映させるかが今後の検討課題であることが併せて述べられた。

(出典 平成16年6月28日運営会議議事概要)

資料4 - 1 - - 4

編入学生募集のアドミッションポリシーの掲載箇所

(<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>)

(出典 本校ウェブサイト)

料4 - 1 - - 5

専攻科のアドミッションポリシーの掲載箇所

(<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>)

(出典 本校ウェブサイト)

JABEE受審に係る様々な懸案事項の検討を進めるための小委員会設置が運営会議において決定され(資料4 - 1 - - 6)、8つの小委員会の設置並びに各小委員会への付託事項が教員会議において示され、審議・了承された(資料4 - 1 - - 7)。

資料4 - 1 - - 6

## 2 教育改善のためのスパイラルアップシステムの構築について

校長から、標記の件について資料3に基づき提案があり、JABEE準備WGによる自己評価により抽出された課題に対し、「課題ごとに問題解決の方策を立案するための小委員会」を必要数設置することとなった。この小委員会組織は、全教職員の参加意識と問題解決の効率性を図るという意味があり、また小委員会の立案する方策を実現する過程と今後計画される「評価委員会」や「学習・教育レビュー室」等と相まって、全体として本校のPDCAサイクルを構成する重要な要素となる旨の説明があった。

なお、最初にJABEE準備WGメンバーを中心とする第1小委員会を立ち上げ、第2小委員会以下の各小委員会のミッションや設置数等について早急に検討することとした。

(出典 平成16年6月28日運営会議議事概要)

## 議題：JABEE認定に向けての小委員会活動について

校長から、今回の教官会議について以下のとおり説明があった。

教育機関は、その使命を達成するため「教育方法の不断の改善」を図る必要があり、JABEEや認証評価への取組はそのための格好の契機である。特に平成18年度のJABEE受審は、本校の生き残りのため必ずクリアしなければならない戦略的取組であるが、JABEE準備WGが本校の教育システムに関してJABEEの評価基準1～6に基づく自己評価を行った結果、多くの課題が抽出された。しかし、既存組織・従来手法（委員会 学科 委員会 全学）による課題解決を図るだけの時間的余裕がないため、校長直轄の組織として「課題ごとに問題解決の方策を立案するための小委員会」（4～5名程度）を必要数設置することが6月運営会議で決定され、まずJABEE準備WGのメンバーを中心とする第1小委員会を立ち上げた。

第1小委員会で審議の結果、第2小委員会以下の各委員会の任務や設置数を決めた。各小委員会が立案した事項については、校長の責任においてそのまま実施することになるので、今回の第1小委員会からの説明・報告を受け、各小委員会委員に適任と思う教員を自薦・他薦し、積極的に参画してほしい。

続いて、第1小委員会の神谷教授から第1～第8小委員会の期待成果、ガイドライン等について資料に基づき説明があり、その後、内容について質疑応答が行われた。主なものは以下のとおり。

（質疑応答 略）

最後に校長から、第2～第8小委員会（各4～5人）に出来るだけ多くの教員が参加しJABEE認定に向けて一致協力の下、作業を進めていくのが理想であり、自分の能力を最大限発揮できる小委員会を選んで、多くの自薦・他薦（特に自薦）により、特に若手教員に積極的に参画してほしい旨が改めて述べられた。

なお、小委員会メンバーの自薦・他薦については、庶務課長から電子メールで教職員に案内を出し、8月4日（水）までに質問等も併せて返信してもらうこととし、その結果を校長及び第1小委員会で審議の上、各小委員会委員を決定して教職員に通知することとなった。

（出典 平成16年7月28日教官会議議事概要）

このなかで編入学者選抜及び専攻科入学者選抜に係るアドミッション・ポリシーについては第3小委員会において検討することとされ、その後8回にわたる小委員会での議論を重ねた結果、編入学者選抜及び専攻科入学者選抜に係るアドミッション・ポリシーが策定され、教員会議において報告されている（資料4-1--8）。

なお、専攻科入学者選抜に係るアドミッション・ポリシーについては、その後の専攻科委員会における審議の結果、一部修正がなされている（資料4-1--9）。

資料 4 - 1 - - 8

議題：JABEE各小委員会活動の結果報告について

校長から、今回の教官会議について以下のとおり説明があった。

7月末にJABEE受審に向けた小委員会を立ち上げて以降、担当の先生方にはそれぞれのテーマに沿って、精力的に活動していただいた。今回の教官会議は、これまで検討してきた事項について、各小委員会のキャップから報告・説明してもらい、教員全体の共通理解を深めようとするものである。

続いて、第2～第8小委員会のキャップから各テーマに沿った内容の検討結果について各小委員会作成の資料（各章委員会の検討結果は、その都度HPで公開されており、本教官会議での資料はそれらを説明のため要約したもの）に基づき説明があり、その後、質疑応答が行われた。主なものは以下のとおり。

（質疑応答 略）

（出典 平成16年11月29日教官会議議事概要）

資料 4 - 1 - - 9

2 アドミッションポリシーについて

委員長から、資料3に基づき、本案はJABEE第3小委が作成したものに一部修正を加えたものであり、先日作成したパンフレットでもすでに使用している旨の説明があった。

この後、意見交換が行われ、次のような意見が出された。

（意見交換 一部略）

・5)について、「“地域”に貢献」とあるが、釧路地域に限定しているように受け取られないか。 “地域・社会”としてはどうか。

これらの意見を踏まえて審議の結果、5)の「地域に貢献する」を「地域・社会に貢献する」に修正の上、原案のとおり了承された。

（出典 平成17年4月8日専攻科委員会議事概要）

次に、本校教職員への周知であるが、本校では各種委員会の議事録をHPへ掲載しており、掲載と同時に審議事項の概要とともに全教職員へその旨メールにて通知している。また、必要に応じ、教員会議などでも報告している。さらに、アドミッション・ポリシーが記載されている各種広報物の配付により周知がなされている。

また、将来の学生を含めた社会への公表については、HP及び学生募集要項への掲載はもとより、アドミッション・ポリシーを記載した各種広報物を作成し、近隣の中学校及び高等学校に配付するとともに、中学生、保護者及び中学校教諭等を対象とした学校見学会や入試説明会の際にも資料として配付し、説明を行っている。（資料1-2-2参照）

さらに、受入予定の留学生に対しては、入学前の事前面談の際に説明を行っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では選抜対象ごとのアドミッション・ポリシーが明確に定められており、かつ、HPをはじめ、学生募集要項や学校案内などの各種広報物に記載しており、これら広報物を近隣の中学校及び高等学

校に配付するとともに、学校見学会及び入試説明会などの際に資料として配付し、説明を行うなど、積極的に社会に対して公表している。また、教職員に対しても、各種委員会等の議事録、教員会議及び各種広報物配付により周知がなされている。

以上のことから、アドミッション・ポリシーが明確に定められ、それらが教職員に周知され、将来の学生を含めた社会に対する公表が十分になされている。

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

準学士の入学者選抜方法は、推薦選抜及び学力選抜からなり、推薦選抜は定員の4割以内である。

推薦選抜については、一定の学力を有することを出願資格として明記しており、また、選抜にあたっては、内申点のほか、国・数・理・英に関する各種検定試験合格者に対する優遇措置を設けたり、生徒会活動などを重視した面接を行うなど、勉学に対する意欲や向上心及び協調性などを重視している(資料4-2--1)。

資料 4 - 2 - -

1

#### IV.推薦による入学者の選抜

##### 1. 募 集 人 員

推薦入学による募集人員は、各学科それぞれ定員の40%までとする。

##### 2. 出 願 資 格

推薦による選抜に出願できる者は、下記のすべての条件に該当する者で在籍する中学校長の推薦を得た者とする。

- (1) 平成17年3月に中学校を卒業見込みの者。(中等教育学校の前期課程を修了見込みの者を含む)
- (2) 本校への入学意志が強固であること。
- (3) 志望学科に対し適性及び関心を有すること。
- (4) 健康で人物が優れていること。
- (5) 中学校第3年度の学業成績5段階評定の合計が36以上(平均4.0以上)の成績であること。

※ (5)の学業成績は、3学期制の場合1学期末・2学期末を総合したものであること。また、2学期制の場合は1学期末のものであること。

○学習成績一覧表 中学校長は、学習成績一覧表（公立高等学校に提出するものと同じもの）  
1部を平成17年2月28日（月）までに提出すること。

(3) 出願に当たっての注意事項

- ① 出願書類の記入に当たっては、各書類の裏面等の記入要領を参照すること。
- ② 出願は、第2志望学科までできる。

※ 推薦選抜により第2志望学科へ入学するより、学力検査を受け第1志望学科へ入学することを希望する者の出願は、推薦入学については第1志望学科のみ記入すること。  
※ 推薦選抜の結果、第2志望学科へ合格内定になった者は、合格内定を辞退して学力検査により第1志望学科を受検することはできない。

- ③ 願書の出願学科欄には「推薦」と「学力」両方の志望学科欄に記入すること。
- ④ 願書受付後は、志望学科の変更を認めない。
- ⑤ 出願書類の不備なものは受け付けない。また、出願書類に不正の記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがある。

(4) 出願書類等の提出

出願者は、上記書類等を整理し、一括して在籍中学校長を経由して、本校学生課に提出すること。

郵送の場合は、本校所定の封筒を使用すること。

(5) 受検票等の送付

本校で出願書類等を受理した後、「受検票」・「受検者心得」等を受検者に送付する。

#### 4. 選 抜 方 法

推薦による入学者の選抜は、本校が行う面接及び在籍中学校長からの推薦書、調査書（健康診断を含む。）を総合して行うこととし、その際、下記の検定合格者に対しては一定の評価を加える。

- ・ 実用数学技能検定 4 級以上      ・ 実用英語技能検定 3 級以上      ・ 理科検定 3 級以上
- ・ 日本漢字能力検定 2 級以上      ・ 日本語文章能力検定 4 級以上

なお、面接の際に基礎的な学力に関する質問を行うことがある。

（出典 平成 17 年度学生募集要項 5・6 頁）

学力選抜については、中学在学時の数学の評価及び学力検査時の数学の得点をそれぞれ 2 倍換算することにより、本校における勉学に対する適性を重視するとともに、中学 1・2 年時の成績よりも 3 年時の成績にウエイトを置いた内申点評価を行うことにより、より直近の勉学意欲や努力が反映されるよう工夫をしている（資料 4 - 2 - - 2）。

取 扱 注 意

平成 17 年度学力検査の選抜に関する事項

1. 学力点及び内申点の算出方法

- (1) 学力点は、学力検査 5 教科の得点を合算したものとす。この場合、数学の得点についてのみ 2 倍にする。
- (2) 内申点は、中学校 1～3 学年の 5 教科の学業成績 5 段階評定に基づき、次により計算したものとす。

$$\begin{array}{l}
 1 \text{ 学年} \quad 1 \times (\text{数学} 2 \text{ 倍} + \text{理科} + \text{英語} + \text{国語} + \text{社会}) \\
 2 \text{ 学年} \quad 1 \times (\text{数学} 2 \text{ 倍} + \text{理科} + \text{英語} + \text{国語} + \text{社会}) \\
 3 \text{ 学年} \quad 3 \times (\text{数学} 2 \text{ 倍} + \text{理科} + \text{英語} + \text{国語} + \text{社会})
 \end{array}
 \left. \vphantom{\begin{array}{l} 1 \text{ 学年} \\ 2 \text{ 学年} \\ 3 \text{ 学年} \end{array}} \right\} \text{1} \sim \text{3 学年の合計}$$

2. 教科代表教員・学科主任は、次の事項について検討し、判定会議の席上で発表することとする。

なお、これらの事項については、各教科・学科の要望として尊重・考慮する。

(1) 教科代表教員

- (イ) 教科としての合格最低基準点数

(2) 学科主任

- (イ) 合格予定者数
- (ロ) 補欠予定者数

3. 「調査書」について特に問題のある者は、判定会議の席上で学科主任から発表することとする。

例： 学習の記録に「1」があるもの

3 年次における欠席が「15 日以上」ある者

4. 「健康診断書」の審査結果について、判定会議の席上で学生課長から発表することとする。

5. 判定会議資料（入学者選抜学力検査成績一覧表）の様式は、別紙のとおりとする。

※ 判定会議資料は、できるだけ早く教科代表教員・学科主任へ渡すものとする。

（遅くても判定会議当日の午前 10 時までに渡す。）

6. 合否は、学力点・内申点・対象枠・教科及び学科の意見を考慮して判定する。

（出典 学生課資料）

さらに、合格内定者に対して、公立高校の学力試験日に実施する入学説明会への出席を義務づけるいわゆる複数出願方式を採用していることから、本校への入学意思が希薄な学生（公立高校不合格による本校の選択）を極力排除し、より強く本校への入学を希望する学生を選抜することが可能となっている。この方式は管内中学校における進路指導とも連携するものであり、本校は道内高専の中で唯一の複数出願方式採用校である。本方式の採用が、見かけの競争率の引き上げよりも、よりアドミッ

ション・ポリシーに沿った学生の受け入れに寄与していると判断している（資料 4 - 2 - - 3 , 4 - 2 - - 4）。

資料 4 - 2 - - 3

7. 入学意志確認書の提出

合格内定通知を受けた者は、平成17年3月1日(火)までに「入学意志確認書」を提出すること。

8. 入学説明会

合格内定者は、平成17年3月3日(木)に本校で実施する入学説明会に出席すること。  
なお、欠席した場合は、本校への入学意志がないものとして取り扱う。

(出典 平成17年度学生募集要項4頁)

資料 4 - 2 - - 4

道立高等学校の学力検査日程の掲載箇所

平成 1 7 年 度

道立高等学校入学者選抜の手引

北海道教育委員会

(平成16年9月)

主な日程

<一般の選抜>

1 出願の受付	1月20日(木)～1月25日(火)正午
2 出願状況の発表	1月27日(木)午前10時
3 出願変更の受付	1月28日(金)～2月3日(木)午後4時
4 出願変更状況の発表	2月15日(火)午前10時
5 学力検査	3月3日(木)
6 合格発表	3月16日(水)午前10時
7 第2次募集の出願の受付	3月24日(木)～3月28日(月)正午
8 第2次募集の合格発表	3月30日(木)まで

(出典 平成17年度道立高等学校入学者選抜の手引)

編入学生の入学者選抜については、選択した専門分野に対する関心の度合いを見極めるため、工業高校の各専門系を履修した学生に対しては基礎的な専門科目及び英語・数学の試験を課し、高等学校普通科及び理数科の生徒に対しては、数学・英語・理科の試験を課している。また、この他に編入学に対する目的意識や勉学意欲などに関する面接も併せて実施している（資料 4 - 2 - - 5）。

資料 4 - 2 - - 5
編入学者選抜方法の掲載箇所 ( <a href="http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/">http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/</a> )
( 出典 本校ウェブサイト )

専攻科の入学者選抜方法は、推薦選抜・学力選抜・社会人特別選抜に分けられている。

推薦選抜については、出身高等専門学校長の推薦を受けた学生に対して、目的意識や勉学意欲等に関する面接（専門科目に関する口頭試問を含む）を行い、その結果と推薦書、調査書及び健康診断書の内容を総合的に判断して合否を決定している（資料 4 - 2 - - 6）。

資料 4 - 2 - - 6
専攻科の入学者選抜方法の掲載箇所 ( <a href="http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/">http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/</a> )
( 出典 本校ウェブサイト )

学力選抜については、各専門分野に係る専門科目、数学及び英語の試験を課し、技術・科学に関する素養や基本的な教養を見極めるとともに、目的意識や勉学意欲などに関する面接も併せて実施している（資料 4 - 2 - - 7）。

資料 4 - 2 - - 7
専攻科の入学者選抜方法の掲載箇所 ( <a href="http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/">http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/</a> )
( 出典 本校ウェブサイト )

また、専攻科のアドミッション・ポリシーに沿った多様な人材を受け入れることができるよう、企業等の在職期間が1年以上ある者を対象に面接等により選抜を行う社会人特別選抜を平成17年度入学者選抜から導入したが、出願者はいなかった（資料 4 - 2 - - 8）。

資料 4 - 2 - - 8
専攻科の入学者選抜方法の掲載箇所 ( <a href="http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/">http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/</a> )
( 出典 本校ウェブサイト )

なお、各選抜の実施状況は次のとおり（資料 4 - 2 - - 9 , 4 - 2 - - 10 , 4 - 2 - - 11）。



資料 4 - 2 - - 9
平成 13 ~ 17 年度入学志願者状況
( 出典 別添学校要覧 33 頁 )

資料 4 - 2 - - 10
平成 10 ~ 17 年度 編入学者選抜学力検査成績一覧表 ( 現地での閲覧資料を参照 )
( 出典 学生課資料 )

資料 4 - 2 - - 11
専攻科生平成 16 , 17 年度入学志願者状況
( 出典 学校要覧 33 頁 )

( 分析結果とその根拠理由 )

準学士課程，編入学，専攻科の入学者選抜は，各募集要項に明記されているとおり学力選抜のほか推薦選抜（編入学生選抜を除く）も実施しており，選抜方法を問わず実施している面接等により，基礎的な学力，目的意識，勉学意欲等を十分見極めるとともに，準学士課程の選抜では傾斜配分や各種検定試験合格者への優遇措置を設けている。

従って，アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されている。

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

( 観点に係る状況 )

準学士課程において，アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われているかについては，年度当初に前年度の選抜方法について入学生の各種アンケートの集計結果等を入試委員会において詳細に検証し，次年度の選抜方法に反映させる方式を採っている。

例えば，平成 16 年度の入試委員会においては，推薦選抜の出願基準，推薦選抜への検定各種試験合格者の優遇，中学内申点と学力試験のウエイトの配分について，内申点ウエイト変更によるシミュレーションの実施，各種PR方法などについての検証を行っており，これらの検証を基に，選抜方法の見直しが継続的に行われている（資料 4 - 2 - - 1 , 4 - 2 - - 2 ）。

(資料4 - 2 - - 1)

第1回入試委員会議事要録

開催日時 平成16年4月28日(水) 16時40分～18時00分  
開催場所 会議室  
出席者 19名(欠席者1名)

(現地での閲覧資料を参照)

(資料4 - 2 - - 2)

第2回入学試験委員会議事要録

開催日時 平成16年5月31日(月) 15時35分～17時25分  
開催場所 会議室  
出席者 20名

(現地での閲覧資料を参照)

また、推薦選抜の方法が適切なものとなっているかどうかを検証するため、推薦選抜による入学生の成績追跡調査(資料4 - 2 - - 3)を継続的に行っており、また、公立高校からの大学進学状況(資料4 - 2 - - 4)、入学者のアンケート調査(資料4 - 2 - - 5)、高専見学会・体験入学のアンケート調査(資料4 - 2 - - 6, 4 - 2 - - 7)などあらゆる機会を捉えて受験生の動向調査を行い、次年度以降の選抜方法の改善に役立てている。

資料4 - 2 - - 3

推薦選抜による入学生の成績追跡調査

(現地での閲覧資料を参照)

公立高校からの大学進学状況（釧路市内）

学校名	高等学校						高等学校						高等学校					
	14年度		15年度		16年度		14年度		15年度		16年度		14年度		15年度		16年度	
卒業年度	319																	
卒業生数																		
現役浪人の別	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人	現役	浪人
旭川医科大学	5	1	2	4	2	1												
小樽医科大学	4	4	3	2	5	2												
新広産大学	2		1	2		1												
北星工業大学	2	1	1		3								3					1
北海道大学	12	9	14	6	16	7							1					
北教大旭川校	1		5	3	5													
北教大岩見沢校																		
北教大釧路校	13	3	4	3	11	2							4		6	3	2	
北教大札幌校	3		3	1	6	1												
北教大函館校	3		2		1													
室蘭工業大学	4	3	6	4	17	1							2		2		11	1

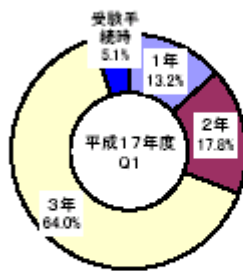
弘前大学	8	2	8	1	5	2													
岩手大学			1			1													
東北大学	1		2	2	3	2													
宮城教育大学			1																
秋田大学				1															
山形大学		1		1															
福島大学						1													
茨城大学	2	1		2	1														
筑波大学	2		2	1	1														
宇都宮大学																			
群馬大学	1	1				1													
埼玉大学	1	1			1	1	1												
千葉大学	3	1				2													
電気通信大学						2													
東京大学						1													
東京外国語大学		1	1			1													
東京学芸大学																			
東京芸術大学																			1
東京工業大学		1	1																
東京水産大学		2																	
東京農工大学				1	1														1
横浜国立大学		1																	2
上野教育大学	1																		
新潟大学						1													
富山大学																			
富山医科大学																			
金沢大学		2	1																
福井大学																			
山梨大学																			
信州大学		1	1	1															
静岡大学	1	1	1				1												
名古屋大学	1																		
名古屋工業大学																			
三重大学																			
滋賀大学				1	1														
京都大学		1	1																
大阪外国語大学																			
鳥取大学																			1
鳥取医科大学		1																	
広島大学					1														
山口大学				1															
香川大学																			
愛媛大学			1																
高知大学																			
長崎大学																			
鹿児島大学																			
鹿児島大学		1																	
琉球大学						1													
国立大学計	71	39	65	39	87	26	0	0	0	0	0	0	0	10	0	8	3	4	1
ほこだて未来大学	1	1	1		2	1													
釧路公立大学	12	1	7	5	14	3													
札幌医科大学		1	5	2	3	2													
その他公立大学	9	7	10	2	6	5													
公立大学計	22	10	23	9	25	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学計	195	122	167	133	203	98													
大学校計	2		3		2	1													
国公立短期大学計	13	8	7	7	8	2													
私立短期大学計	13	2	20	6	19	1													
合計	316	181	285	194	344	139	0	0	0	0	0	0	0	10	0	8	3	4	1

(出典 学生課資料)

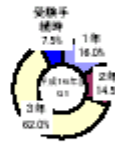
### 入学者のアンケート調査

平成17年度 調査アンケート集計結果

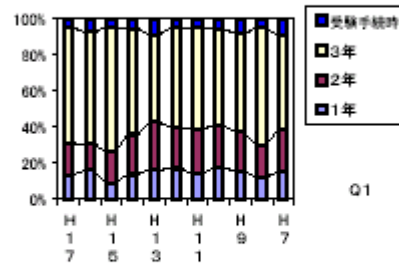
1. 中学校で釧路高専について説明を受けたのはいつ頃ですか？



(平成17年度)

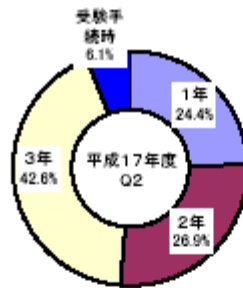


(平成16年度)

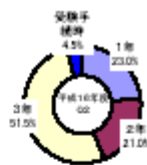


(年度別推移)

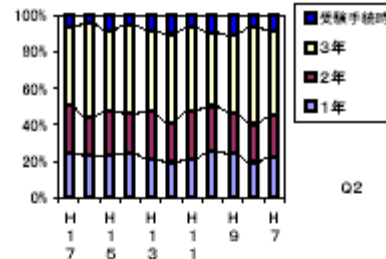
2. 釧路高専を受験することに決めたのはいつ頃ですか？



(平成17年度)

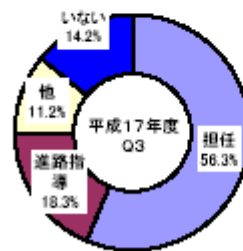


(平成16年度)



(年度別推移)

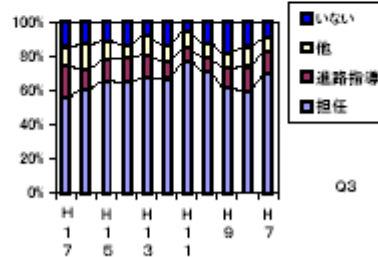
3. 中学校で釧路高専について最も良く説明してくれた人は誰ですか？



(平成17年度)

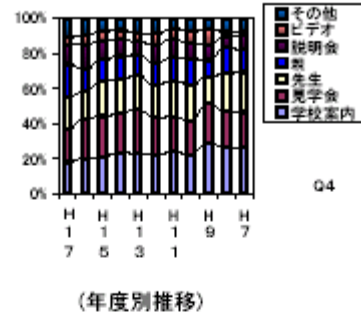
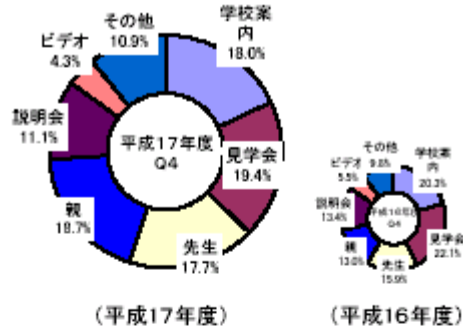


(平成16年度)



(年度別推移)

4. 釧路高専の情報は主に何によって得ましたか？



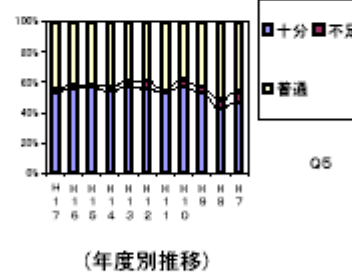
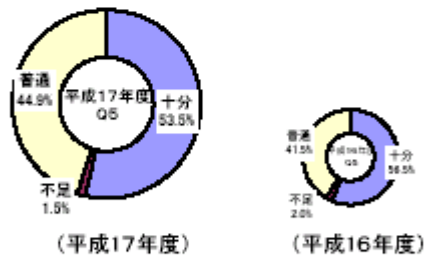
その他の内容 (平成17年度)

(1)	インターネット	20
(2)	兄・姉	12
(3)	高専生	9
(4)	塾	3
(5)	知人	1
(6)	友人	1

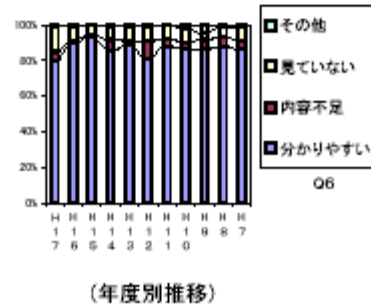
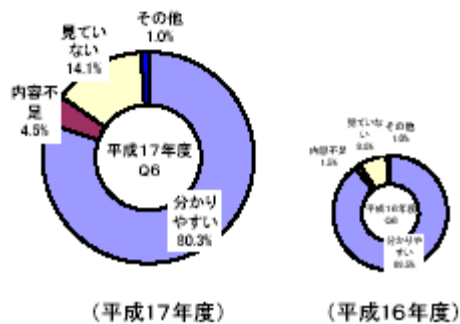
その他の内容 (平成16年度)

(1)	インターネット	12
(2)	兄・姉	9
(3)	高専生	4
(4)	塾	3
(5)	先輩	3
(6)	親類(おじ・いとこ)	3
(7)	テレビ(ロボコン)	2
(8)	知人	2
(9)	パンフレット	1
(10)	友人	1

5. その情報は十分でしたか？



6. 釧路高専の学校案内について？



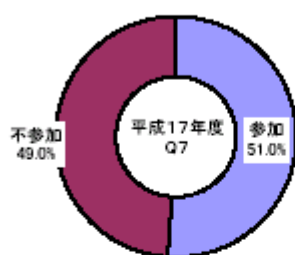
学校案内について意見(平成17年度)

(1)	部活のこと	1
(2)	いいと思う	1
(3)	もっとくわしい情報がほしかった	

学校案内について意見(平成16年度)

(1)	部活のこと	3
(2)	いいと思う	2
(3)	授業の内容のこと	1
(4)	寮のこと	1
(5)	夏休みのこと	1

7. 高専見学会に参加しましたか?



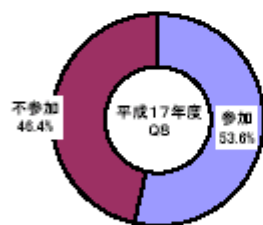
参加していない理由(平成17年度)

(1)	都合で	32
(2)	進路未定	16
(3)	知らなかった	24
(4)	遠いため	6
(5)	高専の情報を知ってた	5
(6)	志望校が違った	4

参加していない理由(平成16年度)

(1)	都合で	30
(2)	進路未定	25
(3)	知らなかった	16
(4)	遠いため	2
(5)	高専の情報を知ってた	2
(6)	志望校が違った	1

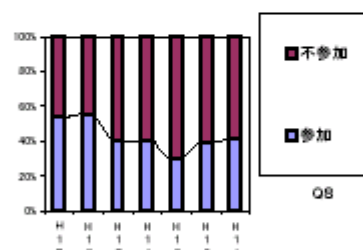
8. 釧路高専の入試説明会に参加しましたか?



(平成17年度)

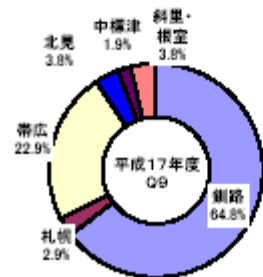


(平成16年度)

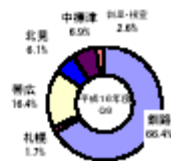


(年度別推移)

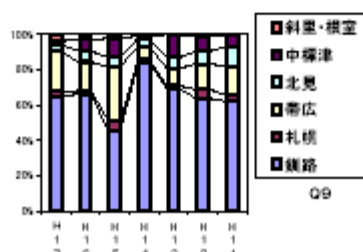
9. 入試説明会の会場はどこでしたか?



(平成17年度)



(平成16年度)



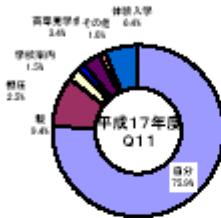
(年度別推移)

10. 体験入学に参加しましたか？



※16年度の体験入学は機械工学科のみ

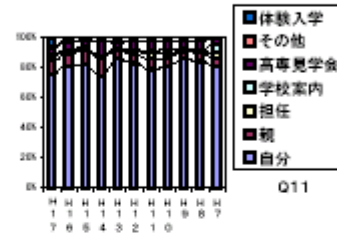
11. 釧路高専受検の決定に最も影響が強かったものは何ですか？



(平成17年度)



(平成16年度)



(年度別推移)

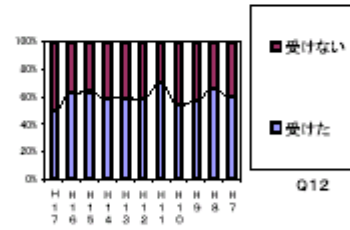
12. 中学校の先生から高専に合格した場合は高専に入学するように指導を受けましたか？



(平成17年度)

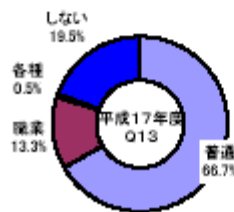


(平成16年度)



(年度別推移)

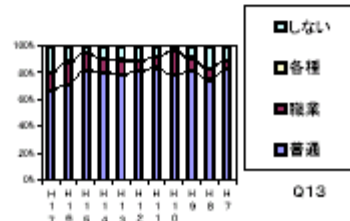
13. 他の学校にも受験の手続きをしていますか？



(平成17年度)



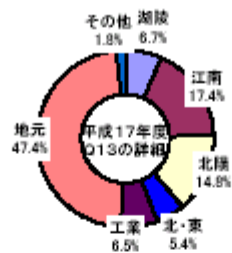
(平成16年度)



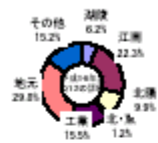
(年度別推移)



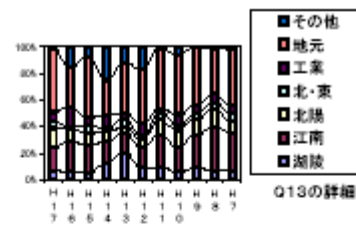
13-2. Q13の詳細



(平成17年度)

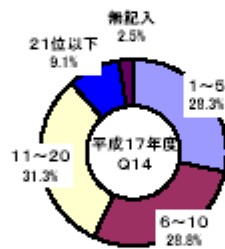


(平成16年度)

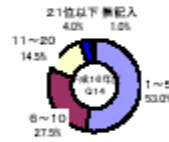


(年度別推移)

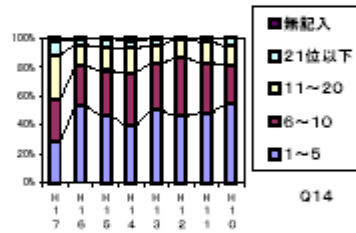
14. 中学3年生の成績はクラスで次のどの範囲に入りますか？



(平成17年度)

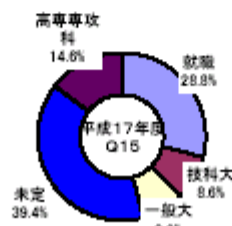


(平成16年度)

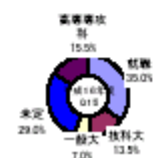


(年度別推移)

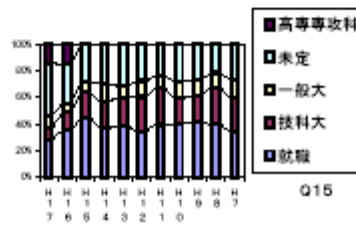
15. 高専卒業後の進路についてどう考えますか？



(平成17年度)



(平成16年度)



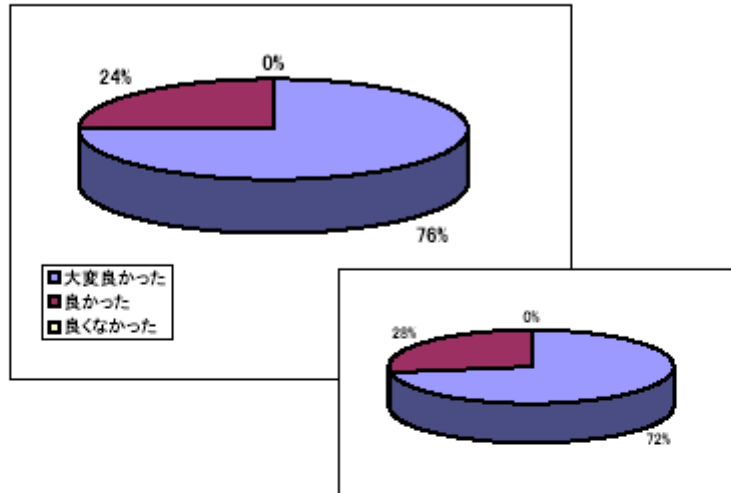
(年度別推移)

(出典 学生課資料)

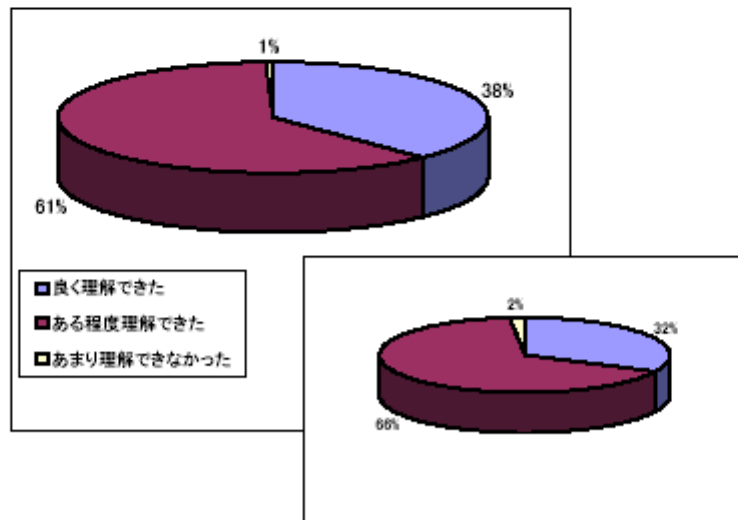
### 見学会アンケート集計結果

※右下のグラフは平成15年度のアンケート結果  
回答者数 193/329名(58.7%)

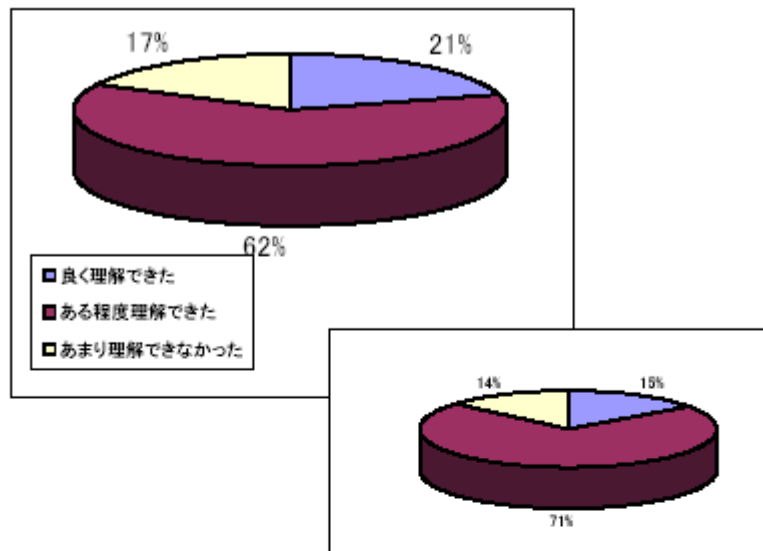
Q1 見学会に参加して良かったと思いますか。



Q2 見学会に参加して釧路高専のことを理解できましたか。  
Q2-1 学科の内容について

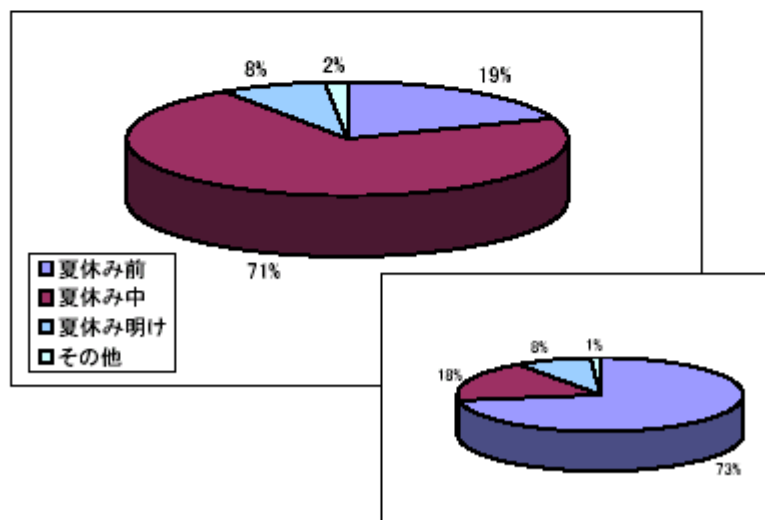


Q2-2 学校行事やクラブ活動などの学生生活について

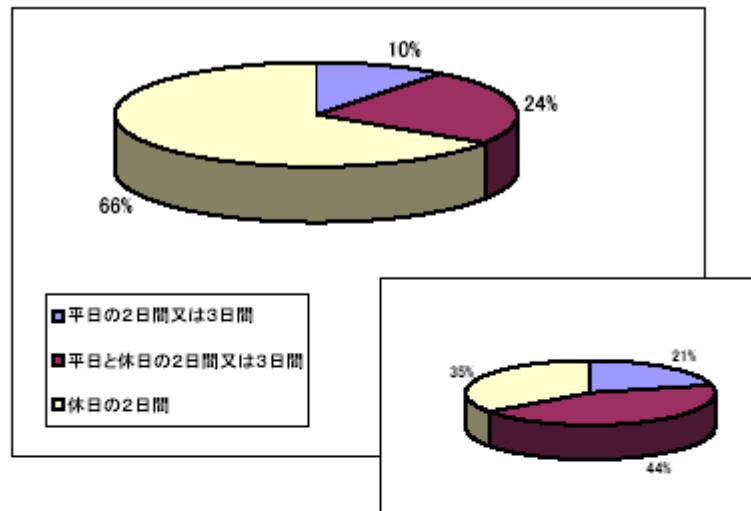


Q3 見学会の開催時期はいつ頃が良いと思いますか。

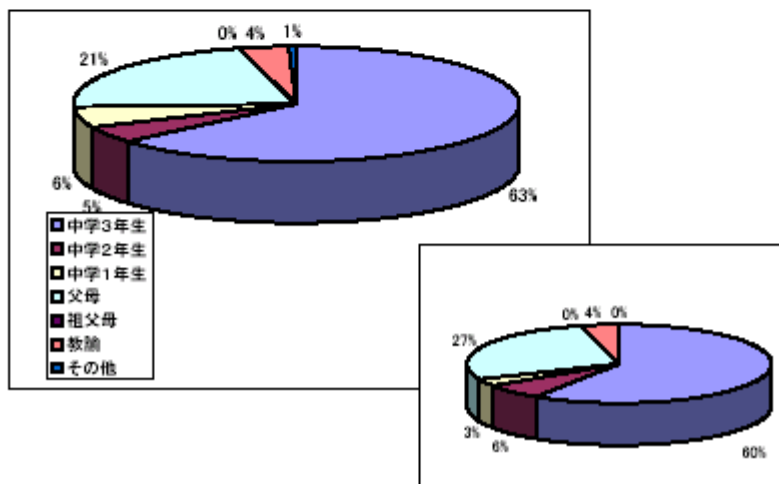
Q3-1 開催時期について



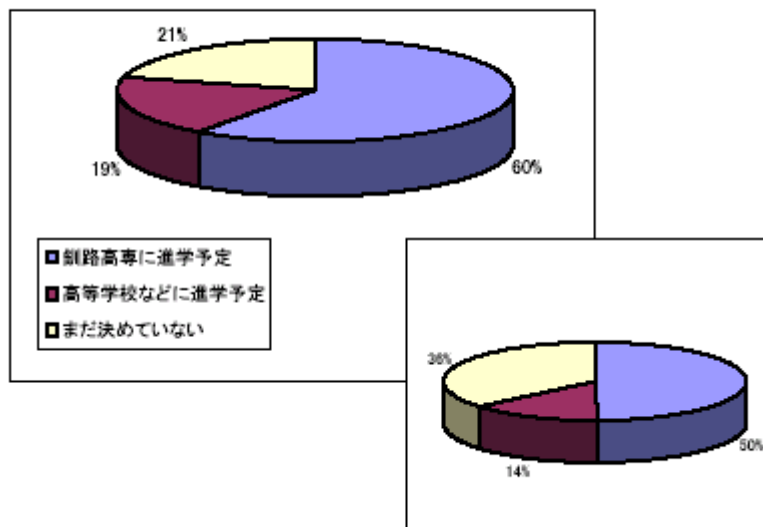
Q3-2 開催曜日について



Q4 あなたはどの立場で見学会に参加しましたか

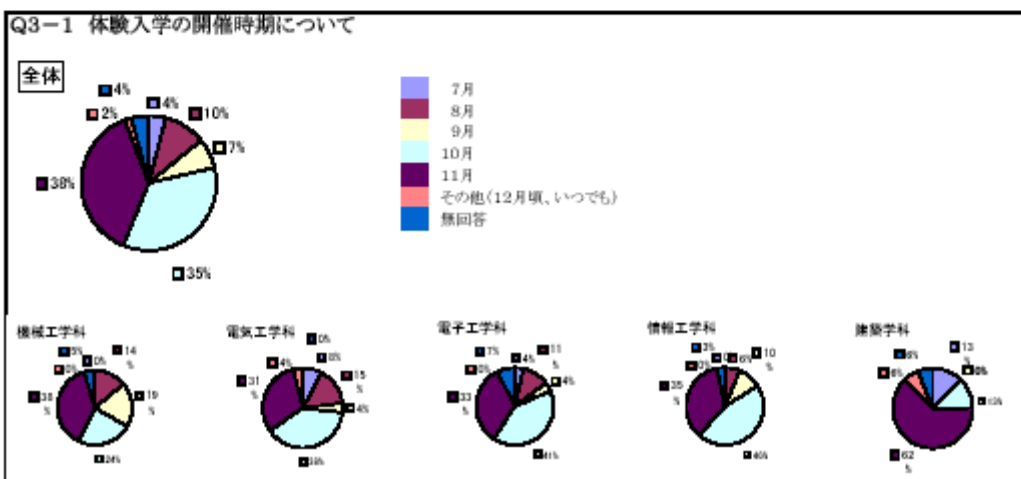
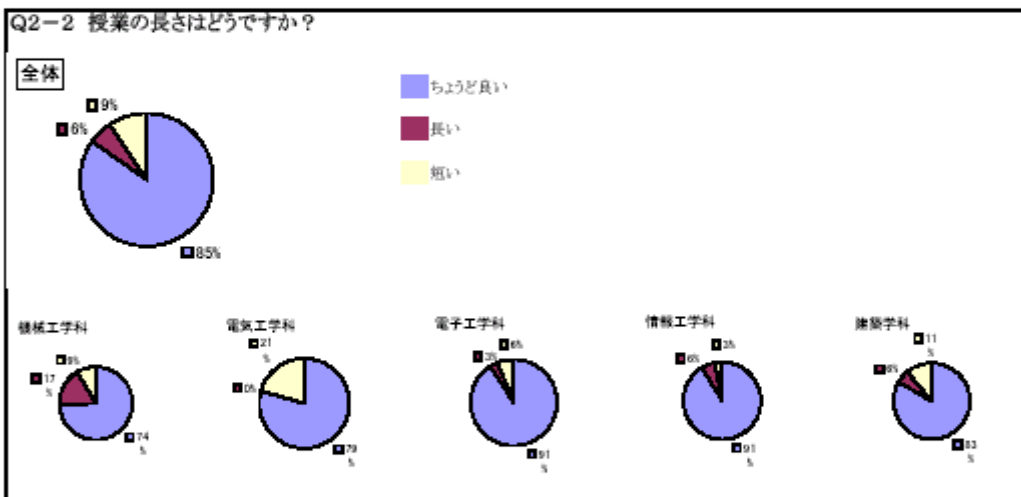
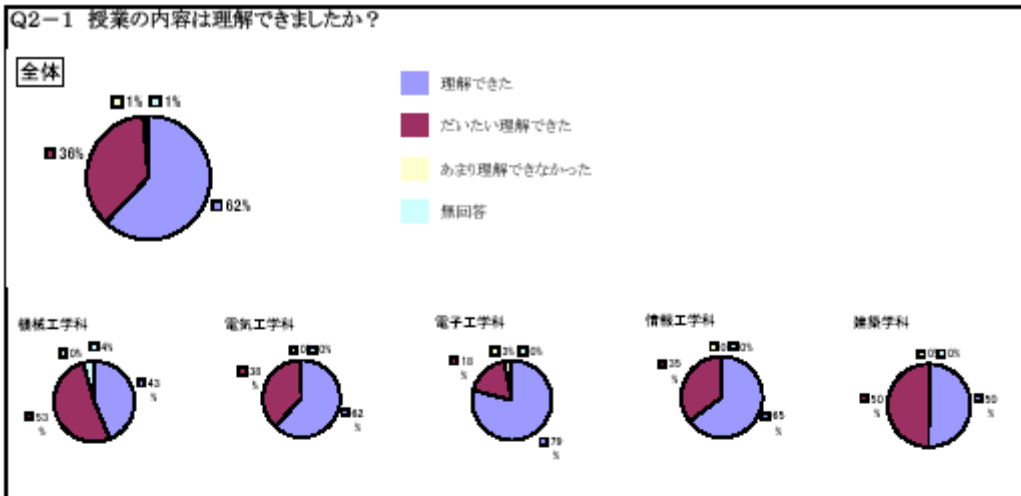


Q6 中学3年生の皆さんに伺います。あなたは、中学卒業後の進路について決めていますか。



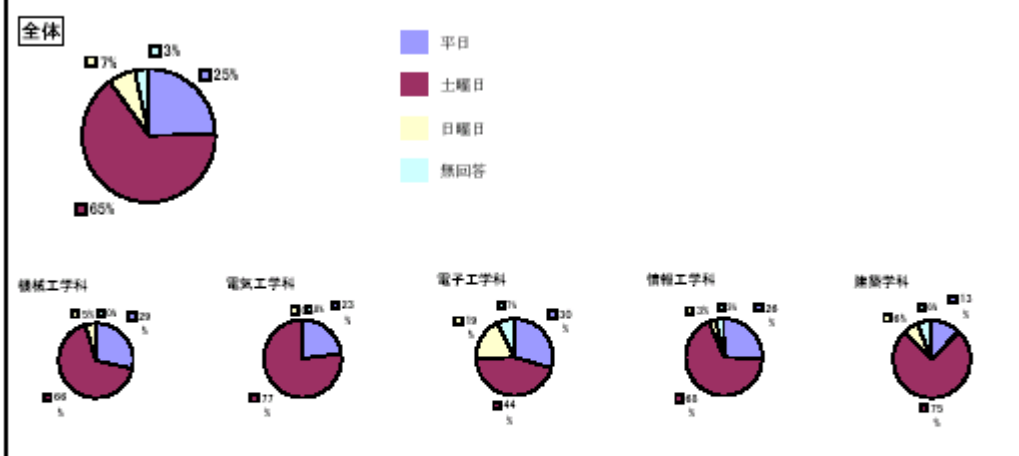
(出典 学生課資料)

体験入学アンケート集計結果

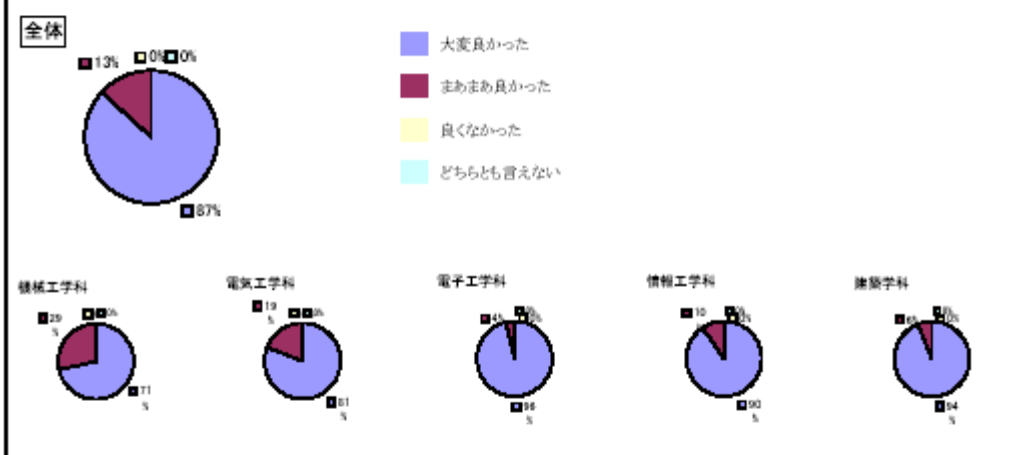


体験入学アンケート集計結果

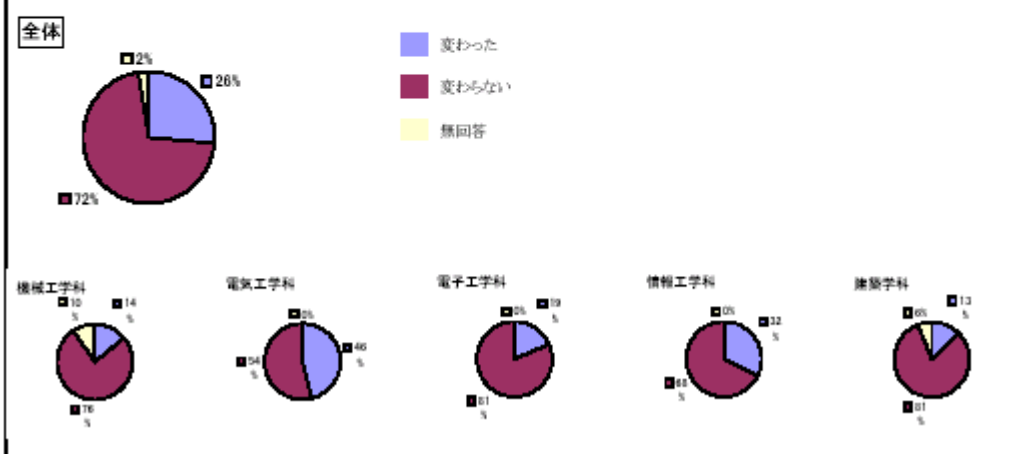
Q3-2 体験入学の開催曜日について



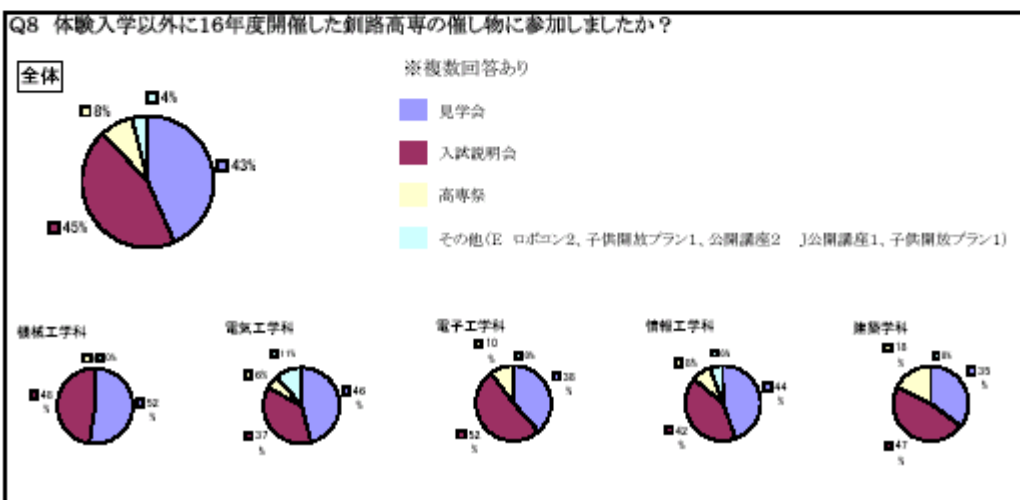
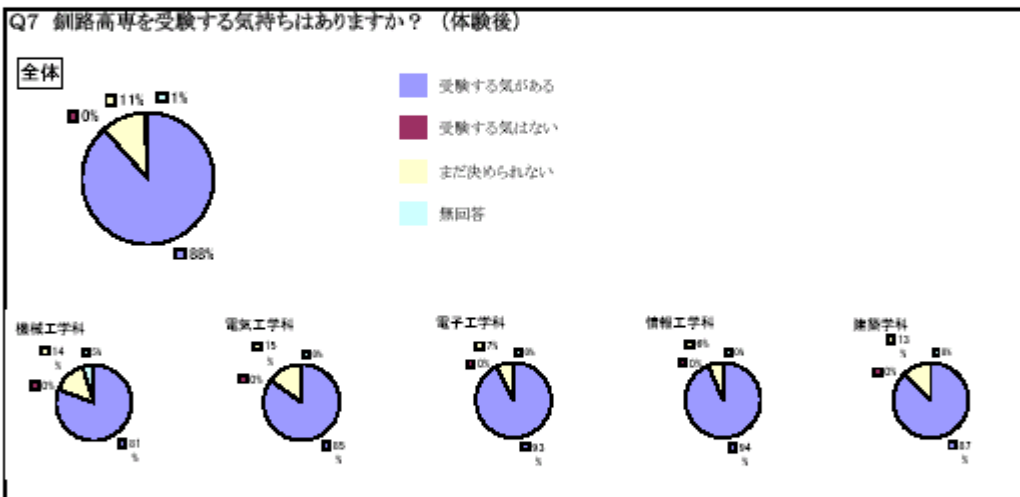
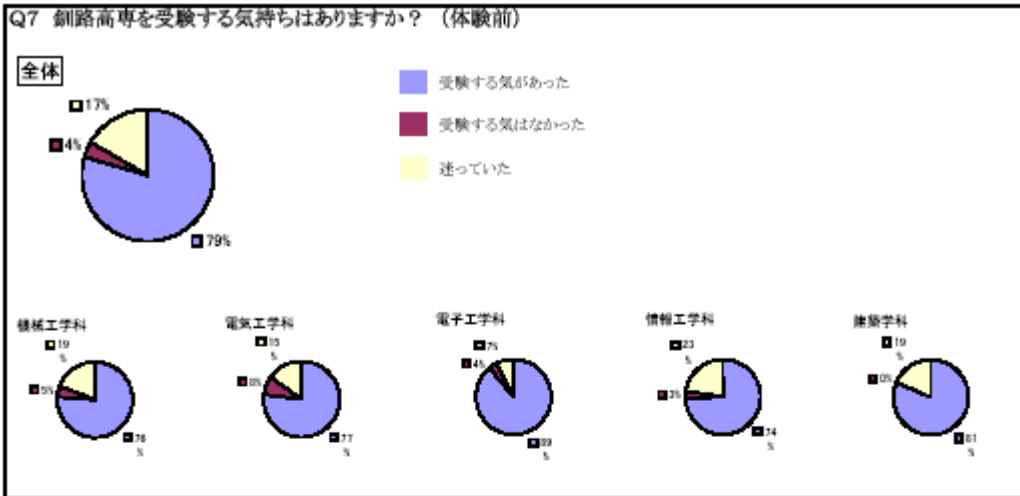
Q5 体験入学に参加して良かったと思いますか？



Q6 体験入学に参加する前と後で、高专に対する印象は変わりましたか？



体験入学アンケート集計結果



（出典 学生課資料）

編入学生の選抜については、入学後の追跡調査等（資料4-2-8）を参考に、次年度以降の選抜方法の検証や編入学後の学生支援の改善（基準7-1-で詳述）が図られている。



編入学生進路等状況

( 現地での閲覧資料を参照 )

( 分析結果とその根拠理由 )

観点に係る状況からアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入について分析・検証を行い、その結果を入学者選抜方法の改善に役立て、よりよい学生の選抜方法について継続的に議論され改善が図られるように十分配慮している。

観点 4 - 3 - : 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

( 観点に係る状況 )

準学士課程の入学試験実施状況 ( 資料 4 - 2 - - 9 参照 ) で明らかなように定員割れは無く、超過人数は定員の10%以内である。これらは本校が複数出願方式を採用していることから、入学辞退者が極端に少ないことによるものである。

( 分析結果とその根拠理由 )

実入学者数が入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況にはなっていない。

( 2 ) 優れた点及び改善を要する点

( 優れた点 )

- ・準学士課程の推薦選抜において、内申点及び理数系各種検定合格、国語、英語検定合格、生徒会活動などを重視した面接を通して、本校アドミッション・ポリシーに沿った学生を選抜している。
- ・学力選抜においては内申点及び学力検査の数学を2倍換算することや、内申点についても、中学1・2年生の成績よりも3年の成績のウエイトを高くし直近の勉学意欲や努力を反映させ、学力検査と内申点の比重を変更することにより、絶対評価の弊害を排除する方式を採用している。

( 改善を要する点 )

- ・特になし

( 3 ) 基準 4 の自己評価の概要

学生の受け入れについて、アドミッション・ポリシーが入学対象者ごとに明確に定められ、それらは募集要項、学校要覧、各種パンフ、HPなどに記載され、これが管内各中学校・高校に配布されるとともに、入試説明会、道内合同入試説明会、高専見学会等の説明資料にも記載され説明されている。これらの実施状況は、将来の学生や社会に対して本校が求める学生像を具体的に公表している。また、教職員に対して種々の機会 ( 各種会議、合同HR ( 集会 )、高専見学会、入試説明会、中学校訪問 ) を捉えて周知している。以上の結果から、教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針

などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されており、将来の学生を含め社会に公表している。

準学士入学生、編入学生、専攻科生のアドミッション・ポリシーは明確に定められており、推薦選抜、学力選抜の配分も適切であり、選抜方針も各募集要項に明確に記載されている。これらの選抜方針は、入試委員会・専攻科委員会において、アドミッション・ポリシーに沿った選抜となっているが議論され、より適切な選抜となるよう不断の改善が実施されている。従って、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用され、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入について分析・検証を行い、その結果を入学者選抜方法の改善に役立て、よりよい学生の選抜方法について継続的に議論され改善が図られるように十分配慮している。

実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下る状況にはなっていない。

## 基準 5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの分析

#### < 準学士課程 >

観点 5 - 1 - : 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

#### ( 観点に係る状況 )

国際化、情報化が進む中、社会情勢や産業構造の変化に伴い創造型技術が求められており、受動的な学習から学生自らが自発的、能動的に学習する意欲を持つ教育が必要とされている。そのために基礎教育を重視しつつ、学生の心身・学力の発達に合わせて一般科目と専門科目を楔形に配置する教育課程を編成しており、各学科ともに低学年においては物理・数学・英語など一般科目の単位数が多く配置され、専門科目は1年で6単位程度、2年で10単位程度、高学年の5年では30単位前後となっている（資料 5 - 1 - - 1）（資料 5 - 1 - - 2）（資料 5 - 1 - - 3）。

資料 5 - 1 - - 1

平成 17 年度教育課程表の掲載箇所

( 出典 別添本校学校要覧 12, 15, 18, 21, 24 頁 )

資料 5 - 1 - - 2

平成 17 年度前期授業時間割 ( 各学科毎 )

( 次頁 )

( 出典 学生課資料 )



平成17年度前期授業時間割

電気工学科

	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
1	物理	化学	英語	H	R	浦家			電気回路	図学	製図	英語	英語	英語	体育		英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
2	体育	英語	英語	H	R	浦家			電気回路	図学	製図	英語	英語	英語	体育		英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
3	電子計算機	英語	英語	H	R	浦家			電気回路	図学	製図	英語	英語	英語	体育		英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
4	電子計算機	英語	英語	H	R	浦家			電気回路	図学	製図	英語	英語	英語	体育		英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
5	電子計算機	英語	英語	H	R	浦家			電気回路	図学	製図	英語	英語	英語	体育		英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語

非常勤講師  
 情報処理センター(第1)  
 情報処理センター(第2)  
 語学演習室

別記2

3・4 時 限
日本文学(高野), 思想史(榎本), 歴史と文化I(林村)
歴史と文化II(斎藤), 社会科学概論(南原)
心理学(小野), 英語読書(藤), 演義学(杉山)

別記1

7・8 時 限
数学II(澤柳・林義)
英会話II(外国人講師)



平成17年度前期授業時間割

情報工学科

	月								火								水								木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
1	国語	山下	英語	田村	英語	大村	情報学R	H R	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村
2	物理	田村	英語	田村	英語	田村	英語	H R	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村
3	物理	田村	英語	田村	英語	田村	英語	H R	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村
4	電気	田村	英語	田村	英語	田村	英語	H R	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村
5	情報	田村	英語	田村	英語	田村	英語	H R	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村	英語	田村

別記1

火曜	7・8時限
曜	数学II (湯柳・林義)
日	英会話II (外国人講師)

別記2

水曜	3・4時限
曜	日本文学 (高井), 植物史 (清水), 歴史と文化I (木村)
日	歴史と文化II (高井), 社会科学概論 (情報部)

心算学 (山本), 英会話II (湯), 機械学 (杉山)

- 非常勤講師
- 情報処理センター (第1)
- 情報処理センター (第2)
- 語学演習室
- 情報処理実習室
- 情報基礎実習室
- 応用情報処理

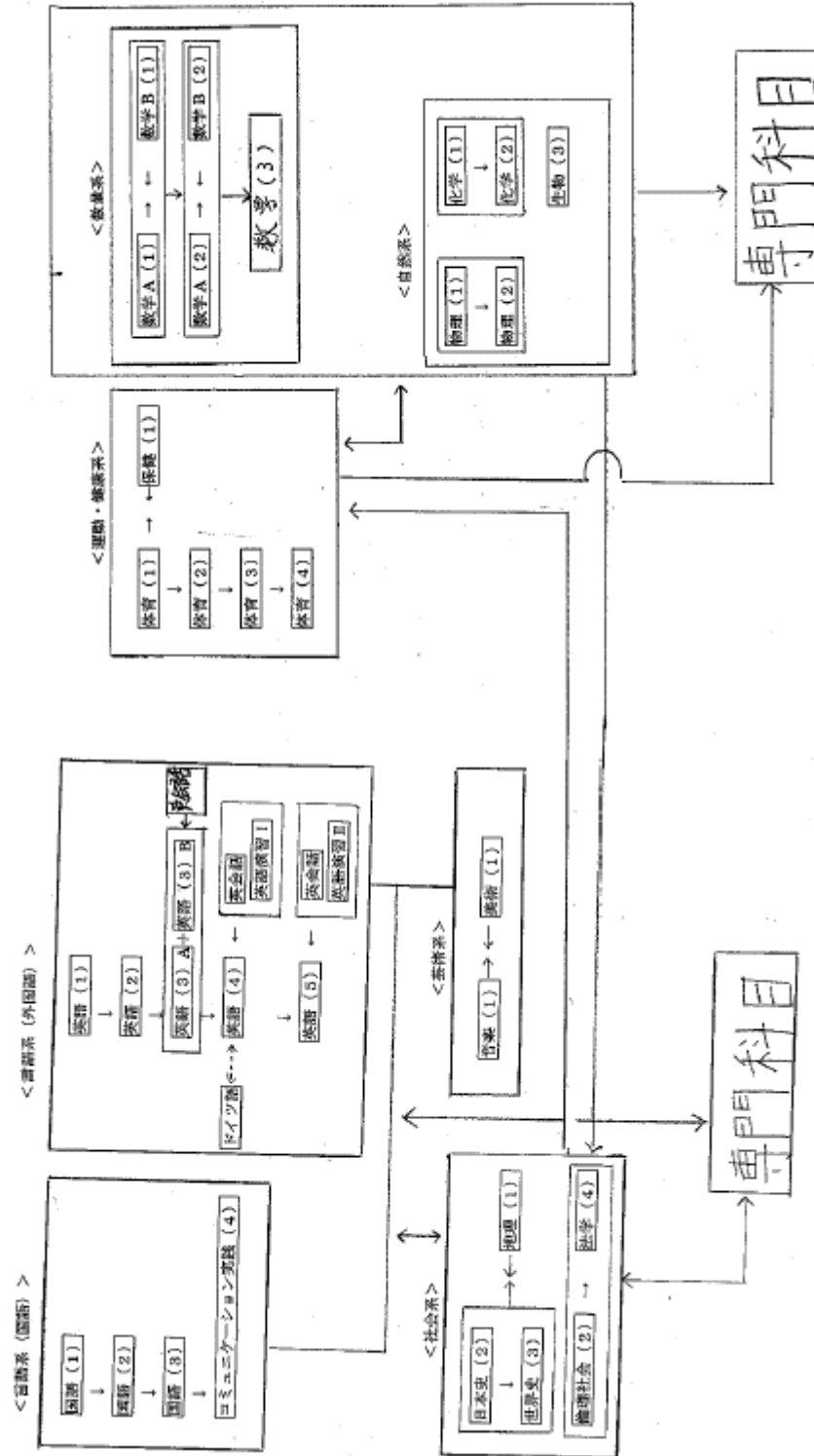




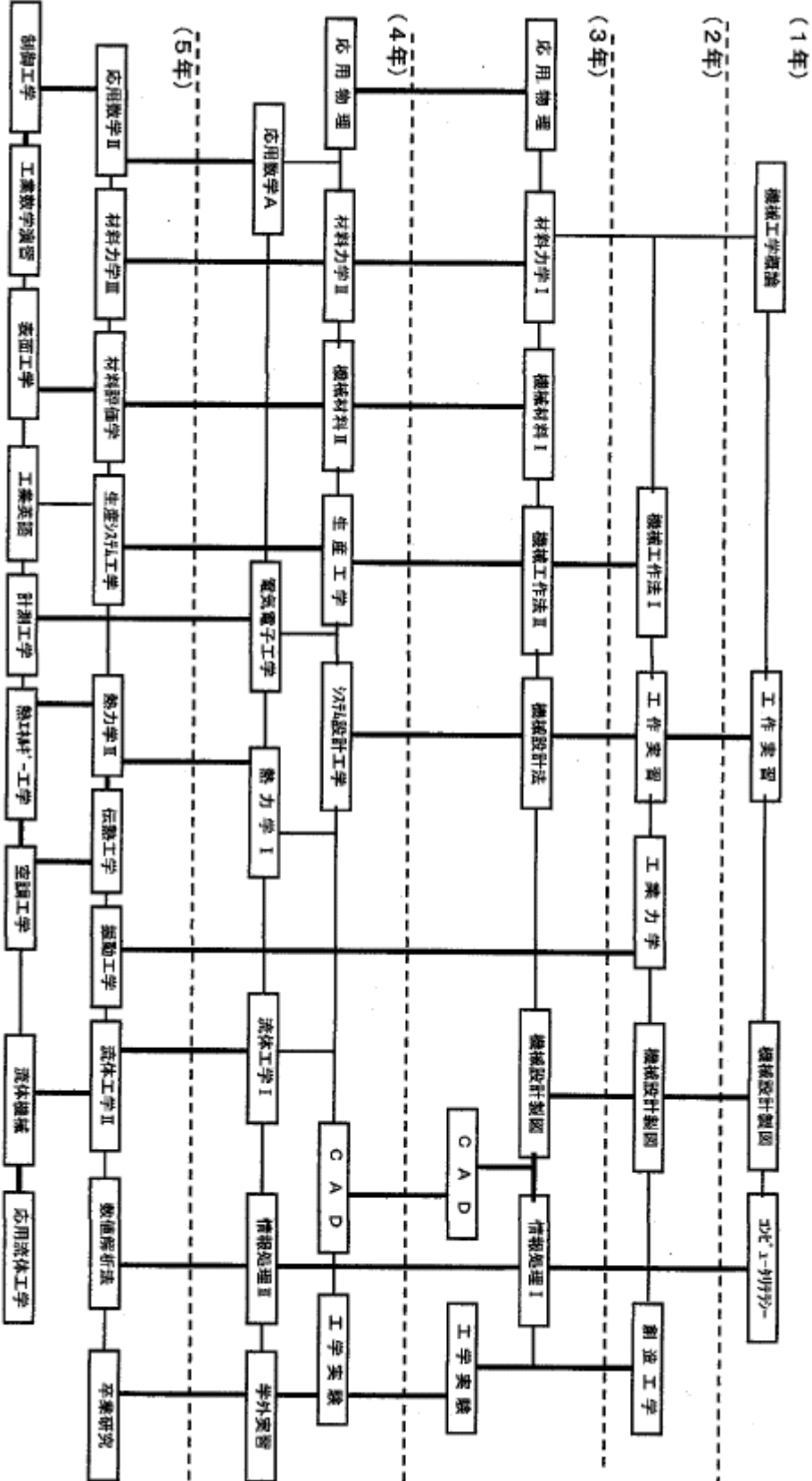
科目系統図

人文科 科目系統図

自然科 科目系統図

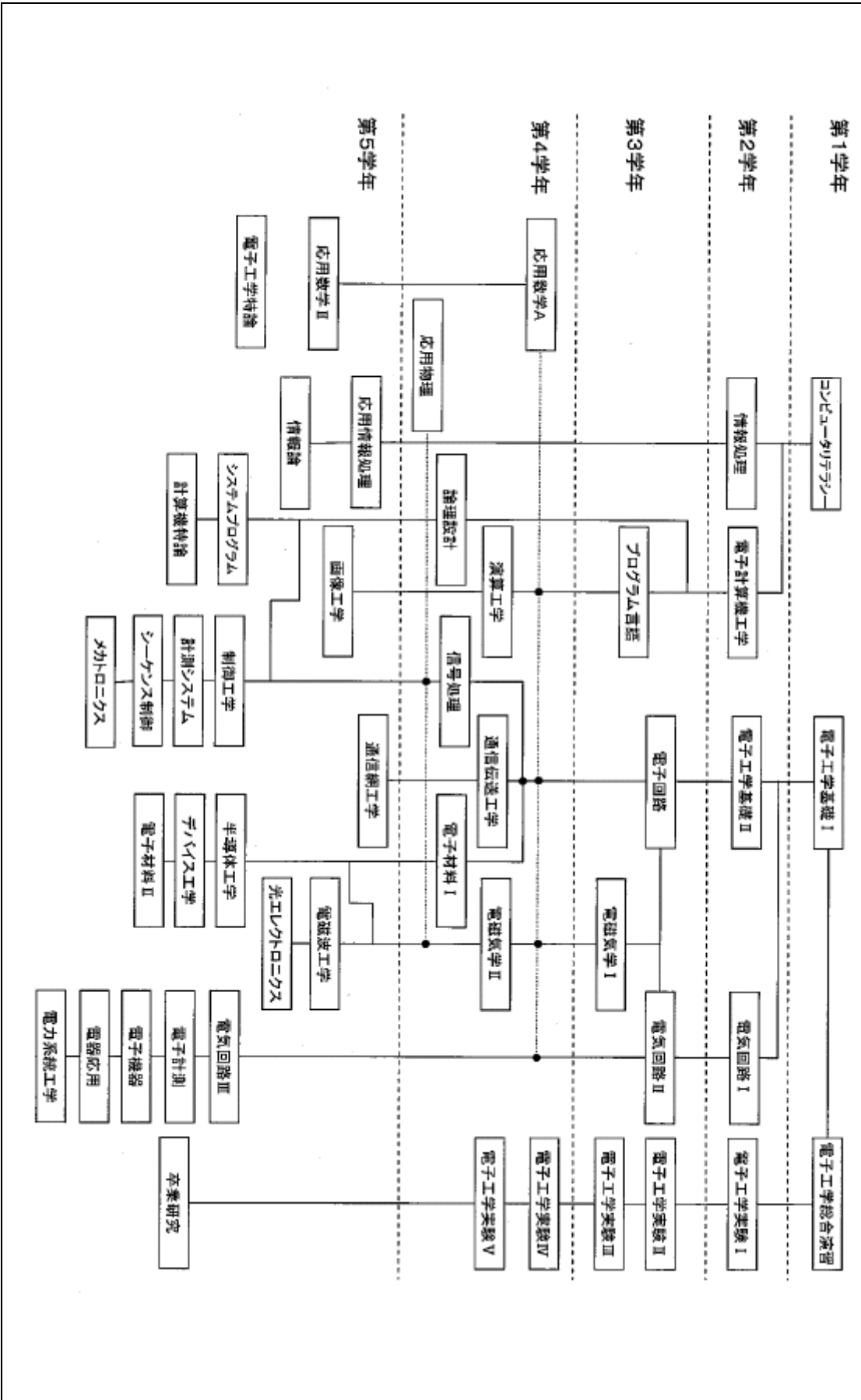


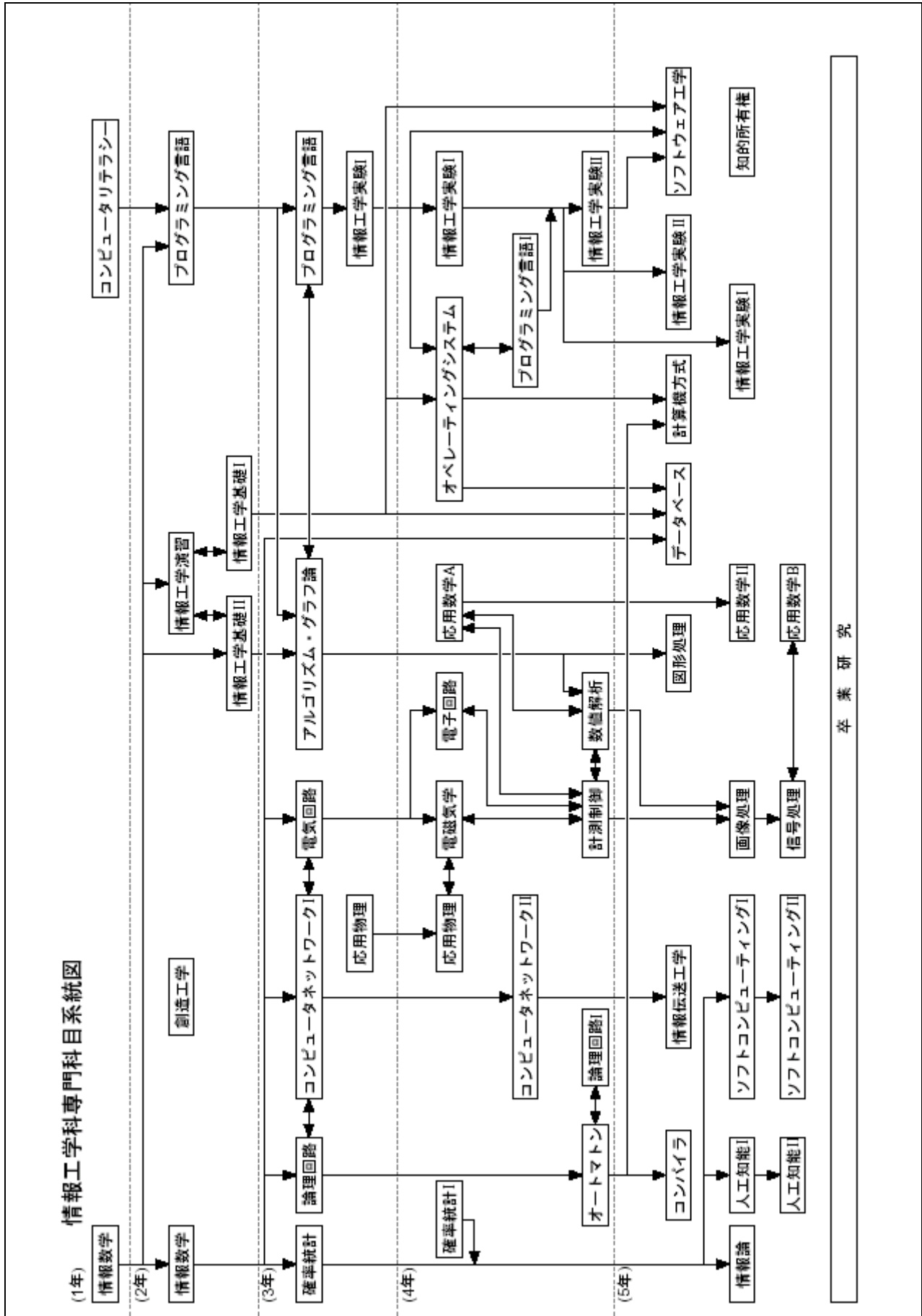
機械工学科専門科目系統図



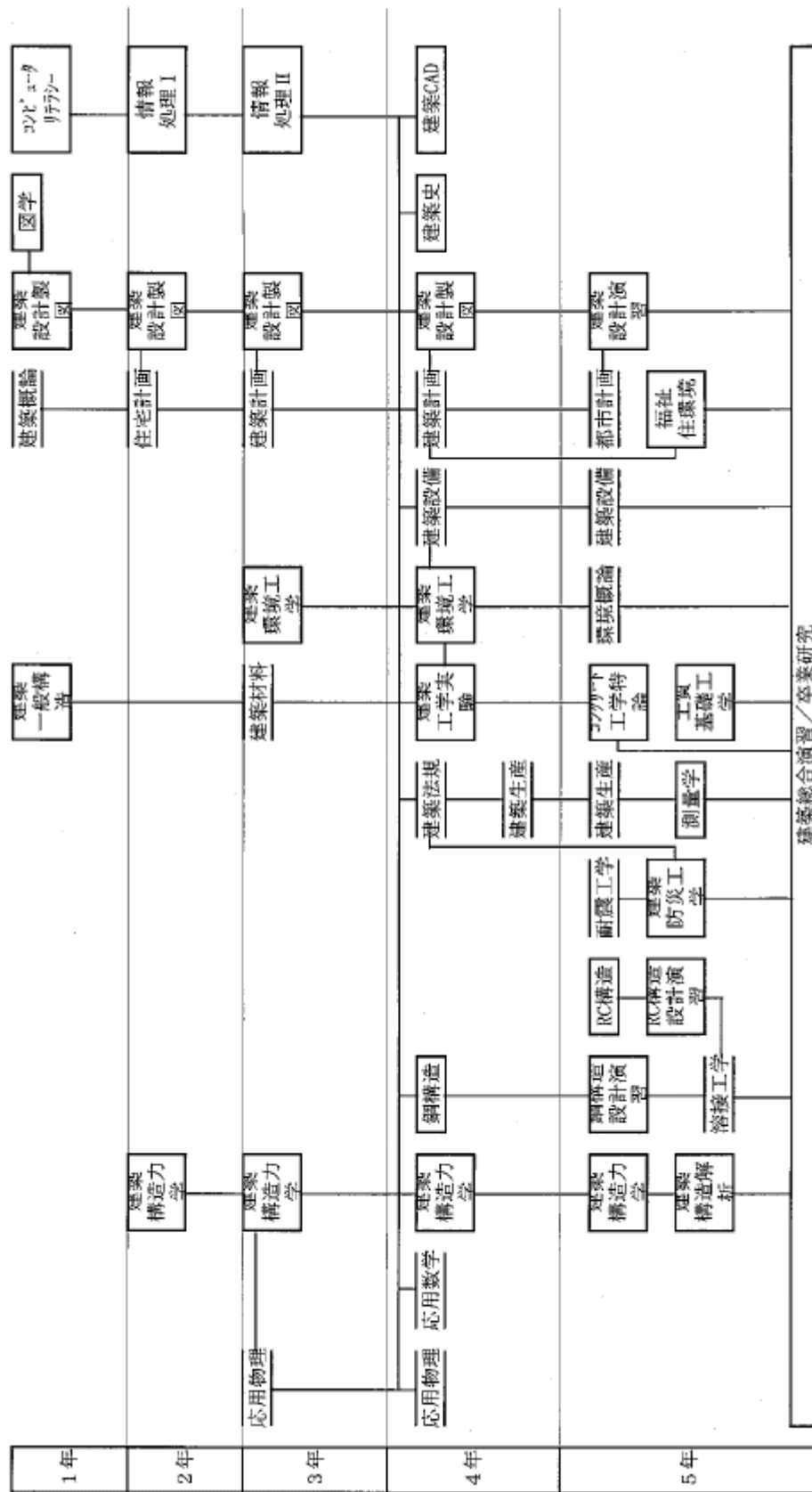


### 電子工学科専門科目系統図





建築学科 授業科目系統図



(出典 JABEE認定のに向けた小委員会 第4小委員会作成資料)

専門科目は、学科ごとに定める実践的技術者として備えるべき内容・水準(資料5-1-4)

が達成されるように、各学年において取得すべき単位数が設定されており、また、職業に必要な実践的な能力を養成するために、実験・実習・製図に関する科目を適切に配置するとともに、卒業研究による創造型・問題解決型教育も設定されている。

資料5 - 1 - - 4

学科ごとに定める実践的技術者として備えるべき内容・水準を示す資料

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成すべき内容・水準(徳育, 創造性教育を含む)

(学科ごとの記載)

機械工学科

- (1)ものづくりに必要な,力学・材料・加工・設計・製図等の幅広い基礎知識を有し,熱・流体・振動・計測・制御など機械工学の専門知識を有すること。
- (2)ものづくりに関する諸分野の技術を適切に構成して,システムをデザインするとともに,それらをマネジメントできる能力を有すること。
- (3)自ら新しい課題を発見し,その解決に必要な手段・方法を創生し,得られた成果を工学的に解析・評価出来る能力を有すること。
- (4)設計(CAD)・製造(CAM)・解析(CAE)・シミュレーションなどの各種ソフトウェアツールを駆使して,課題を解決できる能力を有すること。

電気工学科

- (1)エネルギー,情報通信,制御の分野に関する基礎知識を有すること。
- (2)これらの分野を統合した複合領域に対応した応用力と問題解決能力を持つこと。
- (3)他の技術者と連携した活動ができるコミュニケーション能力を持つこと。

電子工学科

- (1)電子デバイス,電子制御,情報通信の分野における十分な基礎力と応用力を持つこと。
- (2)上記の分野について,自ら問題を発見し解決する能力を有すること。
- (3)関連分野に関しても十分な知識を持ち,専門分野との関連の上に自ら課題を創出する高いデザイン能力を持つこと。
- (4)ラジオ音響技能検定2級,デジタル検定2級,情報処理技術者(基本情報技術者,初級システムアドミニストレータ)のいずれかの資格取得ができる教育水準とする。

情報工学科

- (1)様々なソフトウェアツールを駆使した文書作成技術及び問題解決技術を持つこと。
- (2)様々なプログラミング言語を駆使したソフトウェア開発技術をもつこと。
- (3)様々な形態の情報ネットワークに対する管理・運用技術を修得していること。
- (4)基本的なハードウェア技術を持つこと。
- (5)ソフトウェア開発技術者,初級システムアドミニストレータ,基本情報処理技術者,テクニカルエンジニアのいずれかの資格試験に合格する教育水準とする。優秀な学生についてはCCNA(シスコ社認定ネットワークアソシエイト)資格取得を目指す。

建築学科

- (1)芸術,技術,文化,社会,法律,経済などの多様な文脈と歴史やライフサイクルなどの時間的展開の中で建築を理解できること。
- (2)建築と生活環境に関する企画・設計・生産・維持管理などに関して全体的かつ体系的に考え実

施できる基礎能力を持つこと。

(3)建築企画，建築設計・計画，住居，建築環境，建築設備，建築構造，建築防災，建築材料，建築生産，建築運用，建築保全・再生などの特定領域に関する，より専門的な知識や技術を身につけるとともに，包括的専門知識を持つこと。

(4)上記の分野に関連した高専卒業以上を対象とした各種資格試験に合格できる水準であること。

(出典 釧路工業高等専門学校中期目標・中期計画)

また，新入学生への専門科目への導入に当たっては，平易な内容と興味を引き出す内容となっている（資料 5 - 1 - - 5）。

資料 5 - 1 - - 5

専門科目への導入を示す資料

(次頁)



平成 17 年度

機械工学科		機械工学概論			
学年	第 1 学年	担当教員名	渡邊聖司		
単位数・期間	1 単位	適当りの開講回数	1 回	通年	必修科目
授業の目標と概要	新入生にとって、これから学ぶ専門教科に対する不安感を取り除くために、機械工学の概観をわかりやすく明らかにするとともに、勉学に対する意欲の向上を計ることを目的とする。また、入学と同時に専門的知識を詰め込むのではなく、これからの学習がどのような結びつきがあるのかを理解させ、2 学年以降の専門科目の学習に意欲的に取り組めるようにする。釧路高専教育目標 (C-1,2,G-1,3,4)				
履修上の注意 (準備する用具・前座となる知識等)	機械工学における学問体系のわかりやすい紹介や、設計を中心とした具体的な「ものづくり」や「機械のしくみ」を 1 回完結で学習します。また、10 分間程度の電卓小テストを定期試験前を過ぎ、毎授業開始時に行います。				
到達目標	設計を中心とした具体的な「ものづくり」や「機械のしくみ」の話から思考することにより、学生の創造力の育成を促すことができるようになること。また、社会に機械工学がどのように関わっているのかを理解できるようになること。				
成績評価方法	課題と講義の感想 60% (評価: 課題 [A 90~100 点, B 80~89 点, C 70~79 点, D 60~69 点, 提出遅延は 60 点から -1 点/日で減点]), 定期試験 25% (前後期中間 20%, 前期末, 学年末 30% の比率)), 電卓小テスト 15%				
テキスト・参考書	電卓使い方マニュアル				
メッセージ	講義の内容に関する質問は大歓迎です。受講して興味・関心を持ったことへの自己啓発も歓迎します。毎週電卓小テストを実施しますので、忘れないでください。理由の如何を問わず欠席した場合、必ず放課後等に補講を受講してもらいます。早めに申し出て、日程調整をして補講を受講してください。				
授業内容					
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標			
1. 授業ガイダンス (技術というもの) 2. 機械工学で学ぶこととは? 3. 機械工学入門ビデオの視聴 4. 科学と技術の違い 5. 技術と工学 6. 電卓の使い方 (1) 7. 電卓演習 (1)	1 1 1 1 1 1 1	講義内容、他の科目との関連性が理解できる。 機械工学で学ぶ意義を理解できる。 機械工学がさまざまな分野で利用されていること 理解できる。 科学と技術の違いを理解できる。 工学 (機械工学) = 「ものづくり」の科学が理解 できる。 電卓の基礎的な使い方を身に付けることができる。 効率的な電卓の使い方を身に付けることができる。			
前期中間試験	50 分	授業項目 6, 7 から出題			
8. 道具から機械へ 9. ヘロンの機械と「機械学」 10. 自転車ができるまで 11. わじのつくり方 12. 和包丁のつくり方 13. 電卓の使い方 (2) 14. 電卓演習 (2)	1 1 1 1 1 1 1	道具のはじまり、道具から機械への流れを理解 できる。 機械の 5 つの原理とその応用が理解できる。 自転車の開発、製造から流通までが理解できる。 わじの製造工程が理解できる。 和包丁の製造工程が理解できる。 電卓の有効桁数、小数点以下指定の使い方を身に 付けることができる。 効率的な電卓の使い方を身に付けることができる。			
前期期末試験	50 分	授業項目 6, 7, 14, 15 から出題			
15. 日本刀のつくり方 16. からくり人形のしくみ 17. 携帯電話と PHS の違い 18. 家電製品のしくみ 19. 燃料電池 20. 電卓の使い方 (3) 21. 電卓演習 (3)	1 1 1 1 1 1 1	日本刀の製造工程が理解できる。 からくり人形のしくみを理解することができる。 携帯電話と PHS の違いと FAX が画像を送れる しくみが理解できる。 家電製品のしくみが理解できる。 燃料電池 (自動車) が理解できる。 電卓の角度 ( $^{\circ}$ , rad), ENG キーの使い方を身に 付けることができる。 効率的な電卓の使い方を身に付けることができる。			
後期中間試験	50 分	授業項目 14, 15, 21, 22 から出題			
22. 新幹線 23. リニアモーターカーのしくみ 24. 工業材料について 25. 機械加工 (切る、削る、穴をあける、磨く) 26. 電卓の使い方 (4) 27. 電卓演習 (4)	1 1 1 2 1 1	新幹線のさまざまな技術を理解できる。 リニアモーターカーのしくみを理解できる。 工業材料の原料から製造方法までを理解できる。 機械加工の原理を理解できる。 電卓の EQN モードの使い方を身に付けることが できる。 効率的な電卓の使い方を身に付けることができる。			
後期期末試験	50 分	1 年間の復習と授業項目 26, 27 から出題			

(出典 シラバス)

カリキュラム編成に当たっては、教員相互及び一般教科と専門学科との連携を深め、一般と専門の連続性・統一性を図る体系となっている (資料 5 - 1 - - 6) (5 - 1 - - 7)。

資料 5 - 1 - - 6

・一般教科と専門学科との科目調整会議について

委員長から、応用数学・物理（応用物理）の授業内容・進捗等について、専門学科との調整の必要性が指摘されているため、応用数学については澤柳主事補、応用物理については坂口主事補が調整役となり、中間試験期間頃に科目調整会議を開催することとしたので、各学科から一名ずつ参加してほしい旨の要請があった。

また、JABEE小委員会から教員間ネットワーク構築の会議について教務委員会で企画・開催することが提言されており、今後、上記二科目以外についても、必要に応じて、企画・開催していくこととなった。

（出典 平成 17 年 5 月 11 日教務委員会議事概要）

資料 5 - 1 - - 7

科目調整会議の内容を示す資料

科目調整会議第1回（6月7日）まとめ

1. 応数と専門学科(15:00~16:30)

出席者：荒井，山岡，浅水，神谷，草刈，澤柳

・個別の議論に入る前に、共通認識を作るため、他高専の応数のカリキュラム・シラバスをいくつか見て、本校と他高専との共通点や違いを説明。（本校は扱う分野・内容をかなり絞っており、扱う項目には時間をかけている。但し、応数5分野のうち4分野は扱っている。）

・次に、前もって各学科から出された意見・要望について、レジュメに基づき一通り返答があった。その中で、若干の意見交換がされた。

・レジュメの最初に戻り、「扱う内容」についての詳しい議論に入ったところで、次回への持越しとなった。

2. 物理・応物と専門学科(16:30~18:00)

出席者：成澤，松永，松本，大槻，神谷，井上，松崎，森，澤柳（司会）

・試験と学生の得点分布が資料として出された。また時間は物理：1年(2単位)，2年(3単位)，応物：3年(2単位)，4年(2単位)

・出された意見と返答

(1) レベルについて

・学生の理解度が低いといって、レベルを下げないで欲しい。

・高専レベルの目標を押さえた方が良い。専攻科に来る学生は、(学科によって専門のレベルが違うのは仕方ないが)せめて物理のベースは同じであって欲しい。

学年末に赤点が出ないようにやっている。必要な公式などは扱っている。2極化し、上の学生が退屈しているのは感じている。

(2) 専門とのつながり

・専門との関係をどう考えているか？

専門でどのように使われているか分からない。

・シラバスが詳しくないのでいつ何を扱うかが分かりにくい。実験もいつ何をしているか分か

ると、専門の実験でも対応させやすい。

(3) 扱う分野とその順番

- ・物理で力学が最後になっており、専門を教えるとき不便。

現在使っている検定教科書がオームの法則、波動、力学となっている。加速度、力が学生には難しいようなので、中学との関連をみると、この順番で良いように感じる。

- ・応物では力学、波動、熱学。他分野は扱わないのか？

電磁気は専門でやるはず。

・機械は物理で電磁気をやらなければ他にやる機会がない。逆に流体などは電気、電子、情報ではやる機会がない。

- ・現代物理は扱わないのか？

時間的に無理。下の学生を落とさないためには今で精一杯。1年生を見ていても、英語、数学で手一杯に見える。

- ・他高専ではどんなカリキュラムになっているのか？

- ・大学編入を目指す学生のことも考えて欲しい。

その他にも、「力」の理解の大切さ、物理的理解の大切さ、教科書の問題などについて意見が出された。

- ・次回に向けて

(1) 専門とのつながりを図るため、「いつ何を扱っているか(実験も含む)」がもう少し詳しく分かるものを物理・応物で用意してもらい、それを専門学科にまわして、専門との対応をチェック。

(2) 専門からは、物理の中で出せそうな専門の話題や問題を出してもらおう。

(3) 物理・応物には、他高専のカリキュラム・シラバスを用意してもらおう。

これらが準備できたら、前期末試験の時期をめどに第2回目を行う。

(出典 平成17年6月7日 第1回科目調整会議記録)

次に、本校の教育目標に沿った教育課程の体系性については、学習・教育目標ごとに一般科目、専門科目及び実験実習科目が適切に配置されている(資料5-1-8)(資料5-1-9)。

資料5-1-8

JABEEにおける学習教育目標の掲載箇所

(<http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/>)

注：本校の学習目標(1)～(7)がA～Gに対応する

(出典 本校ウェブサイト)

学習・教育目標と各科目との対応表

一般科目

学習・教育目標		学年		授業科目名（太字は選択科目で、それ以外は必修科目）	
A	A-1	本科	3年	応用物理	
			4年	法学 ドイツ語 応用物理 英語 <b>英会話 英語演習</b>	
			5年	英語 <b>英会話 英語演習</b> 日本文学 心理学 <b>歴史と文化 歴史と文化 思想史 社会科学概論 環境学</b>	
		専攻科	1年	<b>技術科学英語</b> , <b>技術科学英語</b> , 中国文化	
			2年	<b>中国文化</b>	
		A-2	本科	3年	
	4年				
	5年			<b>心理学</b>	
	専攻科		1年	<b>技術者倫理</b>	
			2年		
	B		B-1	本科	3年
		4年			
5年					
専攻科		1年			
		2年			
B-2		本科		3年	
			4年		
			5年		
		専攻科	1年		
			2年		
		C	C-1	本科	3年
4年					応用物理 応用数学 A
5年	<b>応用数学</b>				
専攻科	1年			<b>統計学, 応用解析学</b>	
	2年				
C-2	本科			3年	応用物理
			4年	応用物理	
			5年		
	専攻科		1年		
			2年		
	C-3		本科	3年	

			4年	応用数学A		
			5年	応用数学		
		専攻科	1年	統計学, 応用解析学		
			2年			
		D	D-1	本科	1-3年	
					4年	
5年						
専攻科	1年					
	2年					
D-2	本科		1-3年			
			4年			
			5年			
	専攻科		1年			
			2年			
E	E-1	本科	1-3年			
			4年	体育		
			5年			
		専攻科	1年			
			2年			
	E-2	本科	1-3年			
			4年	体育		
			5年			
		専攻科	1年			
			2年			
	E-3	本科	1-3年			
			4年	体育		
			5年			
		専攻科	1年			
			2年			
	E-4	本科	1-3年			
			4年	体育		
			5年			
		専攻科	1年			
			2年			
F	F-1	本科	1-3年			
			4年	体育		
			5年			
		専攻科	1年			
			2年			

	F-2	本科	1-3 年	
			4 年	
			5 年	
		専攻科	1 年	
			2 年	
		F-3	本科	1-3 年
	4 年			コミュニケーション実践 体育
	5 年			
	専攻科		1 年	日本語表現技法
			2 年	
	F-4		本科	1-3 年
		4 年		コミュニケーション実践
		5 年		
		専攻科	1 年	日本語表現技法
			2 年	
		F-5	本科	1-3 年
	4 年			英語 英語演習
	5 年			英語 英語演習
専攻科	1 年		科学技術英語 , 科学技術英語	
	2 年			
F-6	本科		1-3 年	
		4 年	英語 英会話	
		5 年	英語 英会話	
	専攻科	1 年	技術科学英語 , 技術科学英語	
		2 年		
	G	G-1	本科	1-3 年
4 年				
5 年				
専攻科			1 年	
			2 年	
G-2			本科	1-3 年
		4 年		
		5 年		
		専攻科	1 年	
			2 年	
		G-3	本科	1-3 年
4 年				
5 年				
専攻科			1 年	

		科	2年		
	G-4	本科	1-3年		
			4年		
			5年		
		専攻科	1年		
			2年		
<b>機械工学科</b>					
学習・教育目標		学年		授業科目名（太字は選択科目で，それ以外は必修科目）	
A	A-1	本科	4年		
			5年	卒業研究	
		専攻科	1年	技術者倫理，特別研究	
			2年	特別研究	
	A-2	本科	4年		
			5年	卒業研究	
		専攻科	1年	技術者倫理，特別研究	
			2年	特別研究	
B	B-1	本科	4年		
			5年	卒業研究	
		専攻科	1年	特別研究	
			2年	特別研究	
	B-2	本科	4年		
			5年	卒業研究	
		専攻科	1年	特別研究	
			2年	特別研究	
C	C-1	本科	4年	情報処理 ，機械材料 ，熱力学，流体力学，生産工学，システム設計工学，工学実験，電気電子工学	
			5年	材料評価学，熱力学 ，伝熱工学，流体力学 ，流体機械，制御工学，数値解析法，卒業研究， <b>表面工学，応用流体力学</b>	
		専攻科	1年	<b>機械制御工学特論</b> ，特別研究	
			2年	<b>品質工学，寒冷地工学</b> ，特別研究	
		C-2	本科	4年	情報処理 ，機械材料 ，生産工学，CAD，工学実験
				5年	材料評価学，制御工学，数値解析法，卒業研究， <b>表面工学</b>
	専攻科		1年	<b>機械制御工学特論</b> ，材料システム工学，コンピュータ設計工学，数値計算特論，特別ゼミナール，特別演習，特別研究	
			2年	<b>品質工学</b> ，特別ゼミナール，特別演習，特別研究	

C-3	本科	4年	情報処理 ， 材料力学 ， 流体工学 ， 生産工学 ， システム設計工学 ， C A D ， 工学実験	
		5年	熱力学 ， 流体工学 ， 流体機械 ， 制御工学 ， 計測工学 ， 数値解析法 ， 卒業研究 ， <b>生産システム工学 ， 工業数学演習 ， 応用流体工学 ， 空調工学</b>	
	専攻科	1年	<b>機械制御工学特論</b> ， 熱力学特論 ， <b>材料システム工学 ， コンピュータ設計工学</b> ， 数値計算特論 ， 特別ゼミナール ， 特別演習 ， 特別実験 ， 特別研究	
		2年	<b>油空圧工学特論 ， 内燃機関工学概論 ， 品質工学 ， 寒冷地工学</b> ， 特別ゼミナール ， 特別演習 ， 特別実験 ， 特別研究	
D	本科	4年	情報処理 ， 材料力学 ， 熱力学 ， 流体工学 ， 生産工学 ， システム設計工学 ， 工学実験	
		5年	材料力学 ， 材料評価学 ， 熱力学 ， 伝熱工学 ， 流体工学 ， 流体機械 ， 熱エネルギー工学 ， 振動工学 ， 制御工学 ， 計測工学 ， 数値解析法 ， 卒業研究 ， <b>表面工学 ， 工業数学演習 ， 応用流体工学 ， 空調工学</b>	
	専攻科	1年	<b>機械制御工学特論</b> ， 熱力学特論 ， <b>材料システム工学</b> ， 特別ゼミナール ， 特別演習 ， 特別実験 ， 特別研究	
		2年	<b>油空圧工学特論 ， 内燃機関工学概論 ， 品質工学 ， 寒冷地工学</b> ， 特別ゼミナール ， 特別演習 ， 特別実験 ， 特別研究	
D-2	本科	4年	材料力学 ， 機械材料 ， 流体工学 ， 生産工学 ， システム設計工学 ， 工学実験 ， 電気電子工学	
		5年	材料力学 ， 材料評価学 ， 熱力学 ， 伝熱工学 ， 流体工学 ， 流体機械 ， 熱エネルギー工学 ， 振動工学 ， 制御工学 ， 計測工学 ， 卒業研究 ， <b>表面工学 ， 生産システム光学 ， 応用流体工学 ， 空調工学</b>	
	専攻科	1年	<b>機械制御工学特論</b> ， 熱力学特論 ， <b>材料システム工学</b> ， 数値計算特論 ， 特別ゼミナール ， 特別演習 ， 特別実験 ， 特別研究	
		2年	<b>油空圧工学特論 ， 内燃機関工学概論 ， 品質工学 ， 寒冷地工学</b> ， 特別ゼミナール ， 特別演習 ， 特別実験 ， 特別研究	
E	E-1	本科	4年	機械材料 ， 生産工学 ， C A D ， 工学実験 ， 電気電子工学
			5年	材料力学 ， 材料評価学 ， 伝熱工学 ， 熱エネルギー工学 ， 振動工学 ， 制御工学 ， 数値解析法 ， 卒業研究 ， 工業数学演習



	専攻科	1年	機械制御工学特論，熱力学特論，材料システム工学，技術者倫理，数値計算特論，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
		2年	内燃機関工学概論，品質工学，寒冷地工学，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
E-2	本科	4年	生産工学，CAD，電気電子工学	
		5年	材料力学，振動工学，制御工学，卒業研究	
	専攻科	1年	機械制御工学特論，材料システム工学，コンピュータ設計工学，技術者倫理，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
		2年	品質工学，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
E-3	本科	4年	システム設計工学，CAD，工学実験，電気電子工学	
		5年	数値解析法，卒業研究	
	専攻科	1年	材料システム工学，コンピュータ設計工学，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
		2年	品質工学，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
E-4	本科	4年	工学実験	
		5年	卒業研究	
	専攻科	1年	技術者倫理，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
		2年	技術者倫理，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
F	F-1	本科	4年	情報処理，CAD，工学実験，電気電子工学
			5年	計測工学，数値解析法，卒業研究，生産システム工学
		専攻科	1年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
			2年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	F-2	本科	4年	
			5年	数値解析法，卒業研究
		専攻科	1年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
			2年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	F-3	本科	4年	
			5年	卒業研究
		専攻科	1年	技術者倫理，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
			2年	技術者倫理，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	F-4	本科	4年	
			5年	卒業研究
		専攻科	1年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
			2年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
F-5	本科	4年	システム設計工学	
		5年	卒業研究，工業英語	
	専攻科	1年	数値計算特論，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	

G	F-6	科	2年	数値計算特論，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
		本科	4年	
			5年	<b>工業英語</b>
		専攻科	1年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	2年		特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
	G-1	本科	4年	生産工学，電気電子工学
			5年	流体工学，計測工学，卒業研究，生産システム工学
		専攻科	1年	<b>コンピュータ設計工学</b> ，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
			2年	<b>油空圧工学特論</b> ，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	G-2	本科	4年	
			5年	卒業研究，工業英語
		専攻科	1年	技術者倫理，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
			2年	<b>品質工学</b> ，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	G-3	本科	4年	工学実験
			5年	卒業研究
		専攻科	1年	<b>コンピュータ設計工学</b> ，数値計算特論，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
			2年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	G-4	本科	4年	
5年			卒業研究	
専攻科		1年	技術者倫理，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	
		2年	<b>品質工学</b> ，特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究	

電気工学科

学習・教育目標		学年		授業科目名（太字は選択科目で，それ以外は必修科目）
A	A-1	本科	3-4年	<b>学外実習</b> ， <b>学外実習</b>
			5年	<b>学外実習</b> ， <b>学外実習</b>
		専攻科	1年	
			2年	<b>インターンシップ</b>
	A-2	本科	3-4年	<b>学外実習</b> ， <b>学外実習</b>
			5年	<b>学外実習</b> ， <b>学外実習</b>
専攻科		1年		
		2年	<b>インターンシップ</b>	
B	B-1	本科	3-4年	<b>学外実習</b> ， <b>学外実習</b>
			5年	<b>学外実習</b> ， <b>学外実習</b> ，卒業研究
		専攻科	1年	特別研究
	2年		特別研究， <b>インターンシップ</b>	
B-2	本科	3-4年	<b>学外実習</b> ， <b>学外実習</b>	
		5年	<b>学外実習</b> ， <b>学外実習</b> ，卒業研究	

		専攻科	1年	特別研究	
		専攻科	2年	特別研究， <b>インターンシップ</b>	
C	C-1	本科	3-4年 5年	電気磁気学(3年)，電気磁気学	
		専攻科	1年 2年	<b>電磁気学特論</b>	
	C-2	本科	3-4年 5年	電気機器 (3年)電子計算機(3年)，電気回路 (3年)，電子工学(3年)，電気工学実験(3年)，電気計測(3年)，情報処理，電子回路，制御工学， <b>電気機器</b> <b>通信工学，電力系統工学</b> ，電気回路，制御工学	
		専攻科	1年 2年	<b>ソフトウェアテクチャー</b> <b>人工知能特論</b>	
	C-3	本科	3-4年 5年	送配電工学，高電圧工学 <b>電気法規</b> ，電気材料， <b>電気応用</b> ，電子回路，電磁波工学， <b>電気設計</b> ，卒業研究	
		専攻科	1年 2年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験 特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験	
	D	D-1	本科	3-4年 5年	電気磁気学(3年)，電子工学(3年)，電気工学実験 (3年)，電気機器 (3年)， 電気磁気学，送配電工学，電子回路， <b>電気機器</b> ，制御工学，高電圧工学 <b>発変電工学，電力系統工学，電気法規</b> ，電気材料， <b>電気応用</b> ，電子回路，電気回路，電磁波工学
			専攻科	1年 2年	<b>電磁波工学特論，電磁気学特論，プラズマ工学，デバイス材料工学特論</b>
		D-2	本科	3-4年 5年	電子工学(3年)，電気機器 (3年)，電気工学実験 (3年)，送配電工学， <b>電気機器</b> ，高電圧工学 制御工学， <b>電気設計</b> ，卒業研究
			専攻科	1年 2年	<b>制御工学特論，ソフトウェアテクチャー</b> ，特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験 <b>人工知能特論，エネルギー変換工学</b> ，特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
E		E-1	本科	3-4年 5年	電気工学実験 (3年)，電気工学実験， 電気工学実験，卒業研究
			専攻科	1年 2年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験 特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	E-2	本科	3-4年 5年	電気工学実験， 電気工学実験，卒業研究	
		専攻科	1年 2年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験 特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験	
	E-3	本科	3-4年 5年	電気工学実験 (3年) 電気工学実験，卒業研究	
		専攻科	1年 2年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験 特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験	
	E-4	本科	3-4年		

		5年	電気工学実験
	専攻科	1年	
		2年	
F	F-1	本科	3-4年 5年 卒業研究
		専攻科	1年
	2年		特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	F-2	本科	3-4年 5年 卒業研究
		専攻科	1年
	2年		特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	F-3	本科	3-4年 5年 電気工学実験 ， 電気工学実験 ， ，卒業研究
		専攻科	1年
	2年		特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	F-4	本科	3-4年 5年 電気工学実験（3年），電気工学実験 ， 電気工学実験 ， ，卒業研究
		専攻科	1年
	2年		特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	F-5	本科	3-4年 5年
		専攻科	1年
	2年		特別研究
	F-6	本科	3-4年 5年
		専攻科	1年
	2年		
G	G-1	本科	3-4年 5年 卒業研究
		専攻科	1年
	2年		特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	G-2	本科	3-4年 5年 卒業研究
		専攻科	1年
	2年		特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	G-3	本科	3-4年 5年 卒業研究
		専攻科	1年
	2年		特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験

G-4	本科	3-4年		
		5年	卒業研究	
	専攻科	1年	特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験	
		2年	特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験	
<b>電子工学科</b>				
学習・教育目標	学年	授業科目名 (太字は選択科目で, それ以外は必修科目)		
A	A-1	本科	4年	<b>学外実習</b>
			5年	<b>学外実習</b>
		専攻科	1年	
			2年	<b>インターンシップ</b>
	A-2	本科	4年	<b>学外実習</b>
			5年	<b>学外実習</b>
		専攻科	1年	
			2年	<b>インターンシップ</b>
B	B-1	本科	4年	<b>学外実習</b>
			5年	<b>学外実習</b> , 卒業研究
		専攻科	1年	特別研究
			2年	<b>インターンシップ</b> , 特別研究
	B-2	本科	4年	<b>学外実習</b>
			5年	<b>学外実習</b> , 卒業研究
		専攻科	1年	特別研究
			2年	<b>インターンシップ</b> , 特別研究
C	C-1	本科	3,4年	電磁気学 I (3年), 電磁気学
			5年	電磁波工学
		専攻科	1年	
			2年	
	C-2	本科	3,4年	電気回路 (3年), 電子回路 (3年), プログラム言語 (3年), 電子工学実験 (3年), 論理設計, 信号処理, 通信伝送工学
			5年	電気回路, システムプログラム, 制御工学, 電磁波工学, <b>光エレクトロニクス</b>
		専攻科	1年	<b>コンピュータアーキテクチャ, 信号画像処理 I</b>

C-3	攻科	2年	応用光学	
	本科	3,4年	論理設計, 信号処理, 演算工学	
		5年	応用情報処理, 電子計測, 画像工学, 電子機器, メカトロニクス, 通信網工学, 卒業研究	
	専攻科	1年	統計学, コンピュータアーキテクチャ, 信号画像処理Ⅰ, ロボティクス, 特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験	
2年		特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験		
D-1	本科	3,4年	プログラム言語 (3年), 電気回路 (3年), 電子回路 (3年), 電磁気学Ⅰ (3年), 電子工学実験 (3年), 論理設計, 信号処理, 電磁気学, 演算工学, 電子材料Ⅰ, 通信伝送工学, 電子工学実験	
		5年	システムプログラム, 電子計測, デバイス工学, 電子材料, 半導体工学, 制御工学, 電気回路, 画像工学, 電磁波工学, 電子機器, メカトロニクス, 光エレクトロニクス	
	専攻科	1年	コンピュータアーキテクチャ, 信号画像処理Ⅰ, 計測工学特論, ロボティクス	
		2年	応用光学	
D-2	本科	4年	論理設計, 信号処理	
		5年	応用情報処理, デバイス工学, メカトロニクス, 卒業研究	
	専攻科	1年	コンピュータアーキテクチャ, 信号画像処理, 計測工学特論, 量子統計工学, 機能デバイス工学, ロボティクス, 特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験	
		2年	特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験	
E	E-1	本科	4年	信号処理
			5年	計測システム, シーケンス制御, 卒業研究
		専攻科	1年	信号画像処理Ⅰ, 特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験
	2年		特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験	
	E-2	本科	4年	信号処理
			5年	計測システム, シーケンス制御, 卒業研究
		専攻科	1年	信号画像処理Ⅰ, 特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験
			2年	特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験
	E-3	本科	4年	信号処理
5年			計測システム, シーケンス制御, 卒業研究	
専攻科		1年	信号画像処理Ⅰ, 特別ゼミナール, 特別研究, 特別演習, 特別実験	

	攻 科	2 年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
E-4	本 科	4 年	信号処理，電子工学実験
	専 攻 科	1 年	<b>信号画像処理 I</b>
		2 年	
F 1	本 科	5 年	卒業研究
	専 攻 科	1 年	<b>計測工学特論</b> ，特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
		2 年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
F-2	本 科	4 年	
		5 年	卒業研究
	専 攻 科	1 年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
		2 年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
F-3	本 科	4 年	
		5 年	卒業研究
	専 攻 科	1 年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
		2 年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
F-4	本 科	4 年	
		5 年	卒業研究
	専 攻 科	1 年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
		2 年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
F-5	本 科	4 年	
		5 年	
	専 攻 科	1 年	特別研究
		2 年	特別研究
F-6	本 科	4 年	

			5年	
		専攻科	1年	
			2年	
G	G-1	本科	5年	卒業研究
		専攻科	1年	計測工学特論，特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
			2年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	G-2	本科	4年	
			5年	卒業研究
		専攻科	1年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
			2年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	G-3	本科	4年	
			5年	卒業研究
		専攻科	1年	<b>機能デバイス工学</b> ，特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
			2年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験
	G-4	本科	4年	
5年			卒業研究	
専攻科		1年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験	
		2年	特別ゼミナール，特別研究，特別演習，特別実験	

情報工学科

学習，教育目標		学年		授業科目名（太字は選択科目で，それ以外は必修科目）
A	A-1	本科	4年	<b>学外実習Ⅰ</b> ， <b>学外実習Ⅱ</b>
			5年	<b>学外実習Ⅰ</b> ， <b>学外実習Ⅱ</b>
		専攻科	1年	
			2年	<b>インターンシップ</b>
	A-2	本科	4年	<b>学外実習Ⅰ</b> ， <b>学外実習Ⅱ</b>
			5年	<b>学外実習Ⅰ</b> ， <b>学外実習Ⅱ</b>
		専攻科	1年	
			2年	<b>インターンシップ</b>
B	B-1	本科	4年	<b>学外実習Ⅰ</b> ， <b>学外実習Ⅱ</b>
			5年	<b>学外実習Ⅰ</b> ， <b>学外実習Ⅱ</b> ，卒業研究
		専攻科	1年	特別研究



C	B-2	科	2年	インターンシップ, 特別研究	
		本科	4年	学外実習Ⅰ, 学外実習Ⅱ	
			5年	学外実習Ⅰ, 学外実習Ⅱ, 卒業研究	
		専攻科	1年	特別研究	
	2年		インターンシップ, 特別研究		
	C-1	本科	3,4年	確率統計(3年), 電磁気学, <b>確率統計Ⅰ</b>	
			5年		
		専攻科	1年	<b>多変量解析</b>	
			2年		
		C-2	本科	3,4年	情報工学実験Ⅰ(3年), 電子回路, 計測制御
5年					
専攻科	1年		<b>アドバンスドコンピューティング</b>		
	2年				
C-3	本科	4年	数値解析		
		5年	卒業研究		
	専攻科	1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究		
		2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究		
D	D-1	本科	3,4年	プログラミング言語(3年), 電気回路(3年), 論理回路(3年), アルゴリズム・グラフ論(3年), コンピュータネットワークⅠ(3年), 情報工学実験Ⅰ(3年), 数値解析, オートマトン, オペレーティングシステム, <b>コンピュータネットワークⅡ, プログラミング言語Ⅰ, 論理回路Ⅰ, 確率統計Ⅰ, 情報工学実験Ⅰ, 情報工学実験Ⅱ</b>	
			5年	情報伝送工学, 計算機方式, コンパイラ, データベース, ソフトウェア工学, 図形処理, 情報論, 情報工学実験Ⅰ, 情報工学実験Ⅱ, 卒業研究, <b>人工知能Ⅰ, 人工知能Ⅱ, 画像処理, 信号処理, ソフトコンピューティングⅠ, ソフトコンピューティングⅡ</b>	
		専攻科	1年	<b>多変量解析, 情報数学特論, 並列・分散処理</b>	
			2年	<b>ネットワークデザイン, ソフトウェア工学特論, ソフトコンピューティング特論</b>	
		D-2	本科	3,4年	情報工学実験Ⅰ(3年), <b>情報工学実験Ⅰ</b> , 情報工学実験Ⅱ
				5年	知的所有権, 情報工学実験Ⅰ, 情報工学実験Ⅱ, 卒業研究
	専攻科		1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	E	E-1	本科	3,4年	情報工学実験Ⅰ(3年), <b>情報工学実験Ⅰ</b> , 情報工学実験Ⅱ
				5年	知的所有権, 情報工学実験Ⅰ, 情報工学実験Ⅱ, 卒業研究
専攻科			1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
E-2		本科	3,4年	情報工学実験Ⅰ(3年), <b>情報工学実験Ⅰ</b> , 情報工学実験Ⅱ	
			5年	情報工学実験Ⅰ, 情報工学実験Ⅱ, 卒業研究	

	専攻科	1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究		
		2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究		
	E-3	本科	3,4年	情報工学実験Ⅰ(3年), <b>情報工学実験Ⅰ</b> , 情報工学実験Ⅱ	
			5年	情報工学実験Ⅰ, 情報工学実験Ⅱ, 卒業研究	
		専攻科	1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	E-4	本科	3,4年	情報工学実験Ⅰ(3年), <b>情報工学実験Ⅰ</b> , 情報工学実験Ⅱ	
			5年	情報工学実験Ⅰ, 情報工学実験Ⅱ	
		専攻科	1年		
			2年		
	F	F-1	本科	3,4年	情報工学実験Ⅰ(3年), <b>情報工学実験Ⅰ</b> , 情報工学実験Ⅱ
				5年	情報工学実験Ⅰ, 情報工学実験Ⅱ, 卒業研究
専攻科			1年	特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別演習, 特別実験, 特別研究	
F-2		本科	4年		
			5年	卒業研究	
		専攻科	1年	特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別演習, 特別実験, 特別研究	
F-3		本科	4年		
			5年	卒業研究	
		専攻科	1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
F-4		本科	4年		
			5年	卒業研究	
		専攻科	1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
F-5		本科	4年		
			5年		
		専攻科	1年	特別研究	
			2年	特別研究	
F-6		本科	4年		
			5年		
		専攻科	1年		
			2年		
G	G-1	本科	4年		
			5年	卒業研究	
		専攻科	1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	G-2	本科	4年		

G-3	専攻科	5年	卒業研究
		1年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	専攻科	2年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
		4年	
	専攻科	5年	卒業研究
		1年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	専攻科	2年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
		4年	
	専攻科	5年	卒業研究
		1年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究
	専攻科	2年	特別ゼミナール，特別演習，特別実験，特別研究

建築学科

学習・教育目標		学年	授業科目名（太字は選択科目で，それ以外は必修科目）	備考（主要科目）	
A	A-1	本科	3,4年	建築史， <b>学外実習</b>	技術者倫理， （一般科目）
			5年	都市計画，建築生産， <b>環境概論</b> ， <b>コンクリート工学特論</b> ， <b>建築防災工学</b> ， <b>学外実習</b> ，卒業研究	
		専攻科	1年	<b>建設材料学</b> ， <b>建築計画特論</b> ，技術者倫理，特別研究	
			2年	<b>環境マネジメント</b> ， <b>環境工学特論</b> ， <b>インターンシップ</b> ，特別研究	
	A-2	本科	4年	建築法規， <b>学外実習</b>	技術者倫理
			5年	都市計画， <b>環境概論</b> ， <b>学外実習</b> ，卒業研究	
		専攻科	1年	技術者倫理，特別研究	
			2年	<b>環境マネジメント</b> ， <b>インターンシップ</b> ，特別研究	
B	B-1	本科	3,4年	<b>学外実習</b>	学外実習， インターンシ ップ
			5年	<b>学外実習</b> ，卒業研究	
		専攻科	1年	特別研究	
			2年	<b>インターンシップ</b> ，特別研究	
	B-2	本科	4年	建築設計製図， <b>学外実習</b>	建築設計製図， 卒業研究，特別 研究
			5年	建築総合演習，卒業研究， <b>学外実習</b>	
		専攻科	1年	特別研究	
			2年	<b>インターンシップ</b> ，特別研究	
C	C-1	本科	3,4年	建築構造力学（3年），建築構造力学，建築環境工学（3年）建築環境工学	（応用数学，応 用物理）建築構 造力学（3年）
			5年	土質基礎工学，建築生産， <b>コンクリート工学特論</b> ， <b>耐震工学</b> ， <b>構造解析</b>	
		専攻科	1年	<b>応用力学</b>	
			2年	<b>環境マネジメント</b> ，	
	C-2	本科	4年	情報処理（3年）建築CAD，建築設計製図，	情報処理（3 年）建築CAD，設 計支援システム
			5年		
専攻科	1年	<b>空調設備</b> ， <b>設計支援システム</b>			

D	C-3	科	2年	環境マネジメント, デジタルイメージ特論	
		本科	3,4年	建築設計製図, 鋼構造	卒業研究, 建築総合演習, 特別研究
			5年	卒業研究, 建築総合演習, 鉄筋コンクリート構造, 溶接工学	
		専攻科	1年	空調設備, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	2年		特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究		
	D-1	本科	3,4年	建築設計製図(3年), 建築計画(3年), 建築環境工学(3年), 建築構造力学(3年), 建築材料(3年)情報処理(3年), 建築史, 建築工学実験, 建築構造力学, 建築CAD, 建築設計製図, 建築法規, 建築生産, 建築設備, 建築計画, 鋼構造, 建築環境工学, 建築計画	建築環境工学, 建築計画, 建築生産, 鉄筋コンクリート構造, 建築設備, 建築構造力学, 空調設備, 建設材料学,
			5年	都市計画, 建築総合演習, 建築生産, 土質基礎工学, 鉄筋コンクリート構造, 建築設備, 建築設計演習, 建築構造力学, 福祉住環境論, コンクリート工学特論, 溶接工学, 建築防災工学, 耐震工学, 構造解析,	
		専攻科	1年	空調設備, 設計支援システム, 建設材料学, 応用力学,	
			2年	デジタルイメージ特論, 環境工学特論, 耐震構造, 寒中コンクリート工学	
	D-2	本科	3,4年	建築工学実験, 建築環境工学(3年), 建築環境工学, 建築設計製図	建築工学実験, 建築総合演習, 卒業研究, 特別研究
			5年	建築構造力学, 建築設計演習, 建築総合演習, 建築生産, 卒業研究,	
		専攻科	1年	空調設備, 建設材料学, 建築計画特論, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
2年			環境工学特論, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究		
E	E-1	本科	3,4年	建築設計製図, 建築法規	卒業研究, 建築総合演習, 特別実験, 特別研究
			5年	卒業研究, 建築総合演習, 建築設計演習	
		専攻科	1年	空調設備, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	E-2	本科	3,4年	建築設計製図(3年), 建築設計製図	建築設計製図, 建築設計演習, 卒業研究, 特別研究
			5年	卒業研究, 建築設計演習	
		専攻科	1年	空調設備, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	E-3	本科	4年	建築設計製図	卒業研究, 特別研究
			5年	卒業研究, 建築総合演習, 建築設計演習	
		専攻科	1年	空調設備, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	E-4	本科	4年		建築総合演習, 空調設備
			5年	建築総合演習	
		専攻科	1年	空調設備	
			2年		
F	F-1	本科	3,4年	情報処理(3年), 建築設計製図, 建築計画	卒業研究, 特別研究
			5年	卒業研究, 都市計画	
		専攻科	1年	空調設備, 建築計画特論, 特別研究	

	科	2年	環境マネジメント, 特別研究		
F-2	本科	4年	建築設計製図	卒業研究, 特別研究	
		5年	卒業研究, 都市計画		
	専攻科	1年	空調設備, 特別研究		
		2年	環境マネジメント, 特別研究		
F-3	本科	4年		卒業研究, 特別研究	
		5年	卒業研究		
	専攻科	1年	特別研究		
		2年	特別研究		
F-4	本科	3,4年		卒業研究, 特別研究	
		5年	卒業研究,		
	専攻科	1年	特別研究		
		2年	特別研究		
F-5	本科	4年		特別研究	
		5年			
	専攻科	1年			
		2年	特別研究		
F-6	本科	4年			
		5年			
	専攻科	1年			
		2年			
G	G-1	本科	4年		卒業研究, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究
			5年	卒業研究, 建築生産, コンクリート工学特論	
		専攻科	1年	建設材料学, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	G-2	本科	4年		卒業研究, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究
			5年	卒業研究,	
		専攻科	1年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	G-3	本科	3,4年	情報処理(3年), 建築計画	卒業研究, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究
			5年	建築防災工学, 卒業研究	
		専攻科	1年	空調設備, 建設材料学, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
	G-4	本科	4年		卒業研究, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究
			5年	卒業研究,	
		専攻科	1年	空調設備, 建設材料学, 特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	
			2年	特別ゼミナール, 特別演習, 特別実験, 特別研究	

(出典 JABEE認定のに向けた小委員会 第4小委員会作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目と専門科目との連携のもと、楔形の科目配置を踏まえたうえで段階的に学習・教育目標が達成されるよう各授業科目が各学年に適切に配置されている。

以上のことから、本校準学士課程の教育課程では、教育の目的に照らして、授業科目が、学年ごとに適切に配置され、教育課程の体系性が十分確保されている。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点 5 - 1 - : 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

(観点に係る状況)

観点に係る配慮の事例として、以下の資料を示す(資料 5 - 1 - - 1)。

資料 5 - 1 - - 1		
取 組	概 要	参 考 資 料
数学補講	平成9年度より、1学年の定期試験で成績不良の者に対して課外補講を実施。	資料 5 - 1 - - 2 資料 5 - 1 - - 3
大学編入学補講	平成10年度より、学力選抜による大学進学を目指す学生のために、土曜日に3・4年生を対象に数学・英語・物理の進学講座を開講して学力向上を支援している。その後、平成16年度より、平日の課外授業として授業時間割表に配置し、より多くの進学希望者を支援している。	資料 5 - 1 - - 2 資料 5 - 1 - - 4
他学科開講科目履修制度	例えば、電気工学科の「電気応用」を情報工学科の学生が選択履修できることや、4年編入学生が高校在学中に未履修であった数学の履修範囲をカバーするため、3年の数学を履修できるようにするなど、選択科目に幅を持たせてある。	資料 5 - 1 - - 1 資料 5 - 1 - - 2
特別学修による単位認定	文部科学省認定の各種検定試験合格者に対して、選択科目の単位を認定する制度である。	資料 5 - 1 - - 5
インターンシップによる単位認定	選択科目として、実習期間に応じ1~2単位を認定する。評価に関しては、学生の報告書や受入企業からの評価、学内での実施報告会などを通して、複数教員による評価を行うこととしている。	資料 5 - 1 - - 6 資料 5 - 1 - - 7

<p>外部講師による 集中講義</p>	<p>特許取得への啓蒙を図ることを目的とした集中講義(知的所有権)を設定しており,その成果が卒業生の特許出願となって具体化し始めている。 また,基礎技術とその効率化技術について技術の発展の状況を学ぶことを目的とした集中講義(電子工学特論)も設定されている。</p>	<p>資料5 - 1 - - 8 資料5 - 1 - - 9 資料5 - 1 - - 10 資料5 - 1 - - 11 資料5 - 1 - - 12</p>
<p>海外語学研修支援</p>	<p>平成9年に豪州メルボルン市のヴィクトリア工業大学と学術交流協定を締結し,学生の海外語学研修を実施。</p>	<p>資料5 - 1 - - 13 資料5 - 1 - - 14</p>

(出典 本自己点検書のための作成資料)

資料5 - 1 - - 2

#### 4 教育内容の見直しと工夫・改善

##### (2) 教授方法の工夫・改善

留年・退学を減少させるための方策

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。成績不振の学生には教科担当教官の指導もさることながら学校全体の教育指導体制の問題として対応する必要がある。数学については,平成9年度から1年生で定期試験の成績が不良の者に対する補講を実施している。・・・

(出典 H13自己点検・評価報告書P39)

審議事項

(4) 1年次学生の数学補講について(資料8)

委員長から、現在の数学補講のあり方では効果がみえてこなかったことから、資料8のとおり宿題方式での提案が数学科からあった旨説明があり、審議の結果、了承された。

なお、実施方法を宿題方式にするか従来方式にするかについては、各学科に一任することとなった。

資料 8

数学補講(宿題方式)

1. 対象学生を集め、プリントを配布。例題をやらせる。
2. 例題ができた学生は、残りを家でやってくるように指示して帰す。例題が出来ない学生は指導して理解させ、同じく残りを家でやってくるように指示して帰す。(教官1-2名)
3. 数日後、再度対象学生を集め、宿題ができていることを確認の上、教官用に用意した確認用の類題を黒板等でやらせる。(各例題に対応した類題1問ずつで十分。)(教官数名、1人当り学生数名)
4. 確認用類題が滞りなくできれば終わり。できなければ宿題の問題をやらせて見る。
5. 宿題ができれば、確認用類題に再挑戦(+指導)。
6. 宿題の問題ができなければペナルティー。

(出典 平成16年5月10日教務委員会議事概要)

6 卒業生の進路指導

(1) 進路指導の方針と実施状況

卒業生の大学編入学

・・・・・・・・・・。また、4年次に数学、英語の選択科目を各2単位設け、さらに、土曜日に英語、数学、物理の進学講座を開講している。

(出典 H13自己点検・評価報告書P41)



釧路工業高等専門学校学業成績の試験，評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規

第 6 条 学則第 28 条の 2 に規定する文部科学大臣が定める学修（以下「特別学修」という。）に対応する本校の科目及び単位は，別表のとおりとする。

別表 特別学修

検 定 試 験	級	科 目 名	単位数	認定学年	該当学科
文部科学省認定 実用英語技能検定試験	2 級 以上	英会話（選択）	2	5 学年	一般科目 (各学科共通)
文部科学省認定 工業英語能力検定試験					
文部科学省認定 ラジオ音響技能検定試験	2 級	通信工学（選択）	2	5 学年	電気工学科
		電子機器（選択）	2	5 学年	電子工学科
		応用情報処理(選択)	1	5 学年	情報工学科
		シーケンス制御（選択）	1		
	1 級	通信工学（選択）	2	5 学年	電気工学科
		電気応用（選択）			
		電子機器（選択）	2	5 学年	電子工学科
		電気応用（選択）			
応用情報処理(選択)	2	5 学年	情報工学科		
シーケンス制御（選択）					
電気応用（選択）	2	5 学年	情報工学科		
				電気応用（選択）	
文部科学省認定 デジタル技術検定試験	2 級 情報	メカトロニクス （選択）	1	5 学年	電子工学科
	2 級 制御				

備考 文部科学省認定ラジオ・音響技能検定試験の 2 級に合格し単位の認定を受けた者が同一検定試験の 1 級に合格した場合は，当該学科における電気応用（選択）2 単位について認定するものとする。

（出典 釧路工業高等専門学校学業成績の試験，評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規）

## 釧路工業高等専門学校学外実習取扱要項

### (目的)

第 1 条学外実習以下実習というは釧路工業高等専門学校の学生が企業等（「国又は地方公共団体の機関を含む。以下「実習機関」という）において実習（実習機関の計画する研究・開発に関する研修及び技術講習等を含む）を通じて工業技術の体得及び実習機関での就業体験をすることを目的とする。

### (実習学年及び期間)

第 2 条実習は、選択科目（学外実習 及び学外実習 ）として第 4 学年以上において実施する。なお、第 3 学年末休業から第 4 学年春季休業の間の実習については、第 4 学年とみなして、本要項を適用するものとする。

2 実習を行う期間は、5 日間以上で長期休業期間中とする。

3 実習の期間が正当な理由によって休業期間外にわたる場合は、特別欠席扱いとすることができる。

### (実習機関の選定)

第 3 条実習機関の開拓及び選定は、原則として進路指導委員会委員が行い、進路指導委員会委員長を経て、学級担任が学生に開示する。

2 前項による実習機関の選定にあたっては実施機関から提出される学外実習受入調書第、（1 号様式）により行う。

3 前項の学外実習受入調書は、実施機関所定の様式をもって替えることができる。

### (履修の手続き)

第 4 条実習の履修を希望する学生は、学外実習履修願（第 2 号様式）を学級担任を経て、校長に提出しなければならない。

2 学外実習履修願を提出した学生の派遣先実習機関は、学級担任が調整し決定する。

### (学外実習履歴書及び誓約書の提出)

第 5 条前条第 2 項により派遣先実習機関が決定した学生（以下「実習生」という）は、学外実習履歴書（第 3 号様式）及び学外実習誓約書（第 4 号様式）を校長を経て、実習機関へ提出しなければならない。

2 前項の学外実習履歴書及び誓約書は実施機関所定の様式をもって替えることができる。

### (事前及び実習期間中の指導等)

第 6 条進路指導委員会委員長は、実習の開始に先だち実習生に対してガイダンス等必要な事前指導を行うものとする。

2 学級担任は、実習生の状況を把握し、実習が円滑に行われるよう努めるものとする。

3 実習中に事故の発生又は制約事項に違反する行為等があった場合は、学級担任等関係教職員が緊密に連携し、迅速に対応するものとする。

### (学外実習心得)

第 7 条実習生は、別に定める学外実習心得を守らなければならない。

( 報告書等 )

第 8 条 実習生は、学外実習終了後、速やかに学外実習報告書（第 5 号様式）を学級担任に提出しなければならない。

2 校長は、学外実習終了後、実施機関の責任者から学外実習証明書（第 6 号様式）の提出を受け取るものとする。

3 前各項の学外実習報告書及び学外実習証明書は、実施機関所定の様式をもって替えることができる。

( 成績評価及び単位修得科目の認定 )

第 9 条 成績評価及び単位修得科目の認定は、第 6 条第 1 項に規定する事前指導及び前条により提出された学外実習報告書、学外実習証明書並びに各学科が実施する学外実習報告会等に基づき各学科が行い、認定科目は、実習時間 30 時間をもって学外実習、実習時間 60 時間をもって学外実習とする。

2 学級担任は、前項により単位修得科目を認定した場合は、遅滞なく、学外実習単位認定届（第 7 号様式）を教務主事を経て、校長に提出するものとする。

( 事務 )

第 10 条 実習に関する事務は、学生課が行う。

( 雑則 )

第 11 条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則（平成 17 年 4 月 1 日釧高専達第 4 号）

1 この要項は、平成 17 年 4 月 1 日から実施する。

( 出典 釧路工業高等専門学校学外実習取扱要項 )

資料 5 - 1 - - 7

平成 1 6 年度

学 外 実 習 報 告 書

釧路工業高等専門学校  
進路指導委員会

平成16年度インターンシップ実施状況

	企業等名	実習期間	日数	参加者数	備考
1	(株)アサヒインテックファミリー	7/26(月)~7/30(金)	5日間	2名	
2	アシアエンゾ/アソグ(株)創路ソフトハウス	7/26(月)~8/ 6(金)	10日間	3名	
3	(株)エイチ・シー・シー	7/26(月)~7/30(金)	5日間	1名	
4	NTT東日本(株)創路支店	7/26(月)~7/30(金)	5日間	9名	
5	王子製紙(株)創路工場	8/23(月)~8/27(金)	5日間	2名	
6	(株)おが和	8/ 2(月)~8/ 6(金)	5日間	1名	
7	創路ガス(株)	8/ 2(月)~8/ 6(金)	5日間	1名	
8	創路市漁業協同組合	7/21(水)~7/31(土)	10日間	6名	創路市内3事業所
9	創路市水産加工振興センター	7/26(月)~7/30(金)	5日間	4名	
10	創路日産自動車(株)	7/20(火)~7/26(月)	5日間	15名	創路管内8店舗
11	(株)茂岡金属工業	7/26(月)~8/ 6(金)	10日間	1名	
12	(株)数高商会	8/ 2(月)~8/ 7(土)	6日間	1名	
13	太平洋建設工業(株)	7/20(火)~7/26(月)	5日間	2名	
14	東邦コンサルタント(株)	7/26(月)~8/27(金)	10日間	5名	
15	トーフ計装(株)	7/26(月)~8/ 6(金)	10日間	1名	
16	得達ファニチャー工業(株)	7/20(火)~7/30(金)	5日間	2名	1名ずつ2回
17	(有)トマトシステム	7/26(月)~7/30(金)	5日間	1名	
18	藤田印刷(株)	8/23(月)~8/27(金)	5日間	1名	
19	北海道エナ・オータ(株)道東支店	7/20(火)~7/26(月)	5日間	1名	
20	北海道電力(株)創路支店	7/26(月)~7/30(金)	5日間	3名	
21	(株)ポータス	8/ 2(月)~8/13(金)	10日間	1名	
22	(財)北海道電気保安協会道東総括支部	8/ 2(月)~8/ 6(金)	5日間	3名	
23	宮本機械(株)創路支店	8/ 9(月)~8/13(金)	5日間	1名	
24	村井建設(株)	7/26(月)~7/30(金)	5日間	2名	
25	アラク建材(有)	7/26(月)~7/31(土)	6日間	1名	
26	(株)石井組 海星町	7/20(火)~8/ 2(月)	10日間	1名	
27	市橋建設(株) 音別町	8/ 2(月)~8/18(水)	10日間	1名	
28	(株)ユー・ジー総合設計 札幌市	7/20(火)~7/30(金)	10日間	1名	
29	(株)クワインテック・ネットワークソリューション	7/16(金)~8/ 5(木)	10日間	1名	
30	ぐりえいと創	8/ 9(月)~8/27(金)	10日間	1名	
31	コウノク建設創路営業所	7/26(月)~8/ 6(金)	10日間	1名	
32	(有)坂野鉄工所 北見市	8/17(火)~8/27(金)	10日間	1名	
33	ツルハドッグ島取店	7/17(日)~7/30(金)	10日間	1名	
34	(有)丸岡鉄工と工務店 小樽市	7/20(火)~8/ 2(月)	10日間	1名	
35	マルタカ塗装	7/19(月)~7/31(土)	12日間	1名	
36	(有)マルヨシ伊藤建設	7/19(月)~7/30(金)	10日間	1名	
37	ヤマシタ工業(株) 阿寒町	7/26(月)~8/ 7(土)	12日間	1名	
38	(株)理創ホーム 北見市	7/20(火)~8/ 2(月)	10日間	1名	
39	(株)渡辺建築設計 恵庭市	8/23(月)~8/27(金)	5日間	1名	
40	岩田建設(株) 札幌市	7/20(火)~7/30(金)	9日間	1名	
41	(株)創路製作所創路工場	7/26(月)~7/30(金)	5日間	2名	
42	(株)齊建設事務所 札幌市	7/20(火)~7/30(金)	9日間	1名	
43	(株)チンヌ・マジックシステムズ	8/ 9(月)~8/27(金)	10日間	1名	
44	自衛隊札幌地方連絡所 札幌市	8/23(月)~8/27(金)	5日間	2名	
45	大丸藤井(株) 札幌市	8/17(火)~8/27(金)	9日間	1名	
46	(株)ツルハ	7/22(水)~8/ 4(木)	10日間	3名	創路市2店舗、青丘市1店舗
47	網走開発建設部北見河川事務所 北見市	7/26(月)~8/ 6(金)	10日間	1名	
48	札幌開発建設部札幌道庁事務所 札幌市	7/26(月)~8/ 6(金)	10日間	1名	
49	(株)ポストフル(創路店)	7/22(水)~8/ 4(木)	10日間	3名	
50	NHK創路放送局	7/26(月)~7/30(金)	5日間	3名	
51	翼システム(株) 旭川市	7/22(水)~8/ 5(木)	14日間	1名	
52	中野電力(株) 名古屋市	7/26(月)~7/30(金)	5日間	1名	
53	リコーテクノシステム(株) 東京都	7/26(月)~8/ 3(火)	7日間	1名	

1~24：本校が開拓し協力いただいた企業等      25~39：学生が個人的に開拓し協力いただいた企業  
 40~49：北海道地域インターンシップ推進協議会関係企業等      50~53：企業が単独で実施する夏季実習等

実習先 北海道エア・ウォーター株式会社釧路営業所

実習期間 平成16年7月20日(火)～7月26日(月) 5日間

実習テーマ 工場・病院における高圧ガスの利用状況

電子工学科 第4学年

◎7月20日(火)

**業務内容**

企業説明、ガスの種類・性質の説明、医師会病院で酸素・吸引等の配管・CEなどの設備視察、CE・可搬式超低温容器の説明、ガススタンバイ施設視察。

**感想等**

初日なので最初は緊張したが、皆さん優しく接してくれたので良かった。釧路の色々な施設を視察することができ、貴重な体験をすることができた。

**【教育担当者のコメント】**

当社の基幹である医療分野での設備工事の見学、また、当社の商品の主力であるガスの充填施設を見学してもらいました。職種は違いますが、どれも安全に留意し、事故を発生させない工夫と努力をしていることを理解し、今後の実習に役立てて下さい。

◎7月21日(水)

**業務内容**

新日本石油タンクでホースの回収・供給設備(炭酸ポンプ、温水蒸発器)の撤去。水産加工場(大坪商店、広洋水産)の窒素タンクの視察。大塚薬品の窒素タンク視察。大塚食品の炭酸タンク視察。釧路高専(機械科実験室)、釧路工業技術センターを視察。

**感想**

今日は実際に作業ができて良かった。施設の廃止のため、ガソリンタンクのガソリンを回収するために、タンクの中に炭酸ガスを入れる。そのまま回収してしまうと酸欠によりガソリンが爆発してしまうので、タンク内に炭酸ガスを入れ、タンク中の酸素濃度を下げてから回収している。事故が起きてしまうと大変なので、何度も安全を確認しなければならない。

高専に行くのは予想外だったし、工業技術センター長の〇〇〇〇さんに就職に関する話を聞くことができとても為になった。〇〇〇〇さんの行動が楽しかったです。

**【教育担当者のコメント】**

現場における簡単な作業の体験と弊社顧客案内、技術センター東藤センター長との対面により職場の雰囲気、釧路管内の会社、就職活動に対し必要な事などを、多少なりとも感じてもらえたと思うので、今後の学業や就職活動に役立てて下さい。

◎7月22日(木)

**業務内容**

荒川工業㈱にて、ローリーからCEに液体窒素の充填。営業・配送活動のための企業回り。

**感想**

今日は色々な工場を回りガスを使うための周辺機器などを届けたりした。ローリーからCEへのガスの充填を見ることができたので良かった。営業を見ていて、ガスとガスの周辺機器のほか、それらに関連する商品を販売していたことに驚いた。営業で回っている途中に注文を受けるため、

抱えず携帯電話が鳴っていて大変そうだった。  
飲み物を出してくれたところがあり、嬉しかった。

**【教育担当者のコメント】**

今回は、ガスを消費する客先に加え、産業機材の営業先へ同行してもらいました。昨日に引き続き、ガスの使用用途が多岐にわたると同時に、多くの商品知識が営業に必要であることが分かってもらえたかと思います。

**◎7月23日(金)**

**業務内容**

市立病院、医師会病院ほか医療機関へ酸素・窒素等の配送及び回収作業。

**感 想**

病院を回ったが、酸素がよく使われるということが分かった。一つの病院でも一ヶ所に配送するのではなく、その階ごとに使用されたものを回収し補充していった。大きなポンペを運ぶにはポンペを回しながら運ぶが、技術がなくてとても運ぶことができない。実際に少しやってみたが難しかった。そのため、大きなポンペの時は何もできなくて残念だった。

**【教育担当者のコメント】**

今日は、エア・ウォーター物流ドライバーと医療関係（病院）へのガス配送を行いました。医療・産業とも色んなガスを使用されていることに感心していました。今後、高圧ガス容器を扱うことがありましたら十分に気を付けてほしいと思います。

**◎7月26日(月)**

**業務内容**

医療関連器具の説明。労災病院にて赤ちゃんの人工呼吸器の交換。薬の仕分け装置を視察。

**感 想**

人工呼吸器の交換を行った。命に関わることなので点検をきちんと行った。医療関係の仕事は人の命に関わることなので、精神的に疲れる。釧路脳神経外科で高圧酸素治療装置を見る予定であったが、見る事が出来なく残念であった。

**【教育担当者のコメント】**

当社の医療部門における事業について、主力である医療ガス事業、在宅酸素療法事業を重点に説明しました。又、人工呼吸器の入れ替えがあったため、実際に小児科病棟に入りまして実物を見ながら、呼吸器というのはどういうものなのかを理解していただけたと思います。

薬局で使用されている薬の自動払出装置など、一般的にはなかなか見ることのできない分野で面白かったのではないのでしょうか。医療担当の精神的な疲労感についても話しましたが、将来、どの様な仕事についても楽な仕事はありません。いかに楽しくやるかがポイントでは！

**◎実習を終えて**

インターンシップを体験し、挨拶の重要性、仕事の責任など高専生活では特に気にしていなかったことが、とても重要であるということを感じ、社会に出る前にとっても貴重な体験をすることができました。

実習先は主にガスを取り扱っていて、資格を持っていないとできないこともあり、それらに取り組むことができなかったのがとても残念でした。医療ガスは人の命に関わるものであり、安全の確認を何回もし、一つ一つの作業に責任の重大さを感じられました。

担当者の方も社員の方も、皆さん優しく親切にいただき、とても充実した実習でした。この5日間の実習で得た経験を将来に役立てていきたいと思っています。

平成 17 年度

情報工学科		知的所有権			
学年	第 5 学年	担当教員名	古谷栄男, 大貫和永		
単位数・期間	1 単位	適当りの開講回数	1 回	後期	必修科目
授業の目標と概要	技術者にとって重要な特許法を中心として知的財産法について学ぶ。特許法の理論を学び、特許を取得するための要件、特許権侵害について考え方を理解する。さらに、自分の発明を特許化するために必要となる特許調査、発明届出書、意見書などについて演習を行う。 釧路高専目標 (D-2)(E-1), JABEE(d-2-c)(d-2-d)				
履修上の注意 (準備する用具・ 前袋となる知識等)	特許法の基本から解説を行うので、前提となる法律知識は不要である。ただし、各人の発明について、特許調査や発明届出書作成などの演習を行ってもらうので、各人1つずつアイデアを事前に考えておくことが好ましい。 2日連続の集中講義(8時限分)を、4回行う。				
到達目標	開発者・技術者として、他人の特許権侵害を未然に防ぎ、自分の発明を特許化できる能力を身につける。				
成績評価方法	7回の小テスト、3回の提出課題、授業中の演習成果物などに基づいて評価する。 各小テスト:10点、各提出課題:20点、演習成果物など:60点の総和の半分が点数となる。 各演習の詳細な評価基準は、第1回目授業の際に公表する。				
テキスト・参考書	教科書:古谷栄男著「特許の理論と実務(仮題)」講義時に配布するプリント				
メッセージ	社会に出てから役立つ内容である。 集中講義であるため出欠には特に注意すること。				
授業内容					
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験					
前期期末試験					
1. 特許を学ぶ必要性 (1) 2. 知的財産権とは (1) 3. 特許制度の概要 (2) 4. 何が特許になるのか (特許要件) (3)	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特許とは何か、特許の概要について理解できる。</li> <li>・知的財産について説明できる。</li> <li>・特許制度を説明できる。</li> <li>・特許の要件を説明できる。</li> </ul>			
後期中間試験	なし				
5. 特許権の効力 (1) 6. 誰が特許権者になれるのか (1) 7. 発明から特許出願まで (5)	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特許権の効力について説明できる。</li> <li>・特許権者の条件について説明できる。</li> <li>・自分のアイデアに基づいて、特許の明細書を記述する演習を行う。また先願特許の調査、補正等の手続きも体験し、特許出願手続きの実際を体験する。</li> </ul>			
後期期末試験	なし				

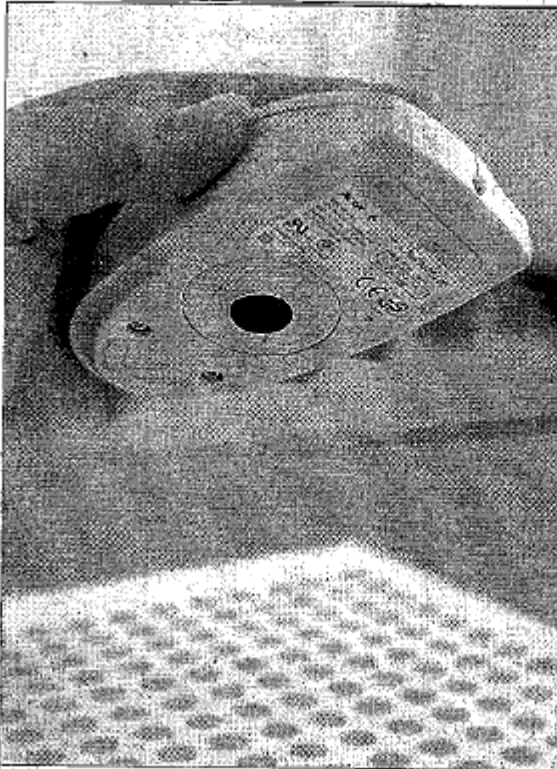
(出典 シラバス)



外部講師（非常勤講師）による集中講義の成果を示す資料

朝日新聞 2005年(平成17年)6月1日 水曜日

12版 ▲ 第2社会 38



### 空中クリック 3次元マウス

パソコンの操作に欠かせないマウス。「水平な動きはできるのに、何で縦の動きがないのだから」。こんな疑問を持った釧路工業高等専門学校（北海道釧路市）の学生が授業で、「3次元マウス」を考案。特許庁への特許出願が受理された。立体的な動きがそのまま入力でき、建築設計やコンピュータ・グラフィックス（CG）などの分野で役立つと期待されている。同校を

### 高専生が考案、特許出願

3月に卒業し、現在はソフトウェア開発会社に勤める柳堀智紀さん（20）は、札幌市白石区。4月下旬に特許出願し、受理の返事が特許庁から届いた。3次元マウスは、小さな円が等間隔に描かれたパッドの上で持ち上げると、底に付けた小型カメラが、円と円の間隔を読み取る。「見た目」の間隔が本来の長さに近いければマウスの位置は「低い」、間隔が短くなるほど「高い」と認識する仕組みだ。センサーでパッドの模様を読み取る光学マウスをヒントにした。柳堀さんは「高専の認識にはこれまで特別な手順が必要だった。これならより直感的に動かせる。費用も数千円でできて経済的」。指導する大貫和夫教授（情報工学）は「わずか30時間の授業で出願できる発明が出てくるとは驚きだった」と話す。（井上恵）



©朝日新聞社 2005年  
発行所・札幌市中央区北2条  
西1丁目1番地 〒060-8602  
朝日新聞北海道支社  
電話 011-281-2131

38	37	22	17	4	3
3次元操作のマウス	御手洗さんの父が手記	東京エハ大学、早大完全V	北海道観光・フォーラム	夏の軽装は関内不一致	仏首相にドビルバン氏
社会	社会	スポーツ	特集	政治・経済	国際

国際 7/9 / 経済 7/10/11  
オビニオン 7/10  
スポーツ 7/10  
生活 7/10 / 文化 7/10  
金融情報 7/10 / 芸能 7/10  
囲碁・将棋 7/10 / 科学 7/10  
小説 7/10 / 道内 7/10/11  
テレビ・ラジオ 7/10

平成 17 年度

電子工学科		電子工学特論 (前期)				
学年	第 5 学年	担当教員名	若原昭宏			
単位数・期間	2 単位	週当りの開講回数		集中講義		必修科目
<b>授業の目標と概要</b>	近年、化石エネルギーの枯渇、地球温暖化が叫ばれる中、太陽光発電が注目され、広く普及しつつある。この太陽光発電システムの核となる太陽電池は、半導体 p-n 接合ダイオードが基本構造となっており、高効率化のため半導体ダイオードの電気伝導機構に基づき高効率化技術が開発されている。本講義では、ダイオードによる光発電の基礎特性を理解し、高効率化技術を開発するための基礎力を身につける。また、システム全体のバランスを図ることが、高い結合変換効率を得るために重要であることを修得させる。 前掲高等目標 (D-1) (D-2) JABEE( ) ( ) ( ) ( )					
<b>履修上の注意 (準備する用具・前装となる知識等)</b>	科目名副題 太陽光発電システム 集中講義形式で行うので、事前に配布された資料をよく読んでおくこと。また、半導体の基礎的な知識が随所に出てくるので、電子材料 I、II および半導体工学の講義を履修しておくこと。 毎回、数値計算を行うので、電卓あるいはポケコンを持参すること。					
<b>到達目標</b>	pn 接合ダイオードの等価回路を用いて、太陽電池の発電原理が説明できる。実際にダイオードアレイを用いて太陽光発電システムを構築するための仕様を決め、モジュールを組み合わせた設計を行うことができる。					
<b>成績評価方法</b>	講義中の演習 (20%) および毎回の集中講義後に課す課題レポート (定期試験の代わり、トータルで 80%) を用いて評価する。					
<b>テキスト・参考書</b>	テキスト：配布します。 参考書：(半導体工学のテキスト)					
<b>メッセージ</b>	講義はプロジェクトと板書の併用で進める。課題レポートは、数値計算の簡単なプログラミングを含むのでコンピュータの利用環境を整えておくこと。質問は、e-mail で受け付ける。 電子工学特論としての年度末成績評価方法は、(前期の評価点+後期の評価点) / 2 とする。					
授 業 内 容						
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標				
1. 新エネルギーと太陽光発電 2. 太陽電池の発電原理 2-1 半導体の基本的な性質 2-2 太陽電池の原理とエネルギー変換効率		<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電の新エネルギーにおける位置づけが説明できる。</li> <li>p 型、n 型半導体のキャリア濃度が求められる。半導体中での光の吸収と、光起起キャリアの発生・再結合が説明できる。</li> <li>太陽電池の発電原理が理解でき、電流-電圧特性よりエネルギー変換効率を求められる。</li> </ul>				
前期中間試験	50 分					
3 理論限界効率と損失、高効率化技術 3-1 シリコン太陽電池 3-2 化合物半導体太陽電池 3-3 色素増感太陽電池 (光合成型太陽電池)		<ul style="list-style-type: none"> <li>理論限界効率が、バンドギャップで決まる事を説明できる。</li> <li>代表的な太陽電池の特徴と、高効率化技術について説明できる。</li> </ul>				
前期期末試験	50 分					
4. 太陽電池システムと応用 5. 将来展望		<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽電池システムの構成を理解し基礎日射量調査に基づき、与えられた地域、太陽電池モジュールで発電し得る電力量を見積もることができる。</li> </ul>				
後期中間試験	50 分					
後期期末試験	50 分					

(出典 シラバス)

資料 5 - 1 - - 1 1

非常勤講師について（依頼）

このことについて，下記のとおり非常勤講師を予定していますので，委嘱方よろしく願  
いします。

記

- |          |   |
|----------|---|
| 1 講師名    | (豊橋技術科学大学電気電子工学系助教授)  |
| 2 授業日    | 平成16年4月19日(月)～平成16年4月20日(火)<br>平成16年5月24日(月)～平成16年5月25日(火)<br>平成16年6月14日(月)～平成16年6月15日(火) |
| 3 派遣依頼期間 | 平成16年4月18日(日)～平成16年4月20日(火)<br>平成16年5月23日(日)～平成16年5月25日(火)<br>平成16年6月13日(日)～平成16年6月15日(火) |
| 4 科目     | 「電子工学特論」 集中講義   |
| 5 時間数    | 30時間(内訳別紙のとおり)  |
| 6 対象     | 第5学年 電子工学科  |

(別紙)

平成16年度 電子工学特論の集中講義について

- |     |               |       |
|-----|---------------|-------|
| 1回目 | 平成16年4月19日(月) | 1～7時限 |
|     | 平成16年4月20日(火) | 1～4時限 |
| 2回目 | 平成16年5月24日(月) | 1～7時限 |
|     | 平成16年5月25日(火) | 1～4時限 |
| 3回目 | 平成16年6月14日(月) | 時間未定  |
|     | 平成16年6月15日(火) | ”     |

非常勤講師について（依頼）

このことについて，下記のとおり非常勤講師を予定していますので，委嘱方よろしく願  
いします。

記

- |       |  |
|-------|--|
| 1 講師名 | (古谷国際特許事務所 弁理士)  |
| 2 授業日 | 平成16年10月 4日(月)～平成16年10月 5日(火)<br>平成16年10月18日(月)～平成16年10月19日(火) |

3 派遣依頼期間	平成16年11月 8日(月)～平成16年11月 9日(火) 平成16年12月13日(月)～平成16年12月14日(火) 平成16年10月 3日(日)～平成16年10月 5日(火) 平成16年10月17日(日)～平成16年10月19日(火) 平成16年11月 7日(日)～平成16年11月 9日(火) 平成16年12月12日(日)～平成16年12月14日(火)
4 科 目	「電子工学特論」(電子工学科) 集中講義 「計算機方式」(情報工学科) 集中講義
5 時 間 数	30時間(内訳別紙のとおり)
6 対 象	第5学年 電子工学科 第5学年 情報工学科
(別紙)	
平成16年度 電子工学特論及び計算機方式の集中講義について	
1回目	平成16年10月 4日(月) 5～8時限 平成16年10月 5日(火) 1～4時限
2回目	平成16年10月18日(月) 5～8時限 平成16年10月19日(火) 1～4時限
3回目	平成16年11月 8日(月) 5～8時限 平成16年11月 9日(火) 1～4時限
4回目	平成16年12月13日(月) 5～6時限 平成16年12月14日(火) 1～4時限
(出典 非常勤講師委嘱に係る決裁文書)	

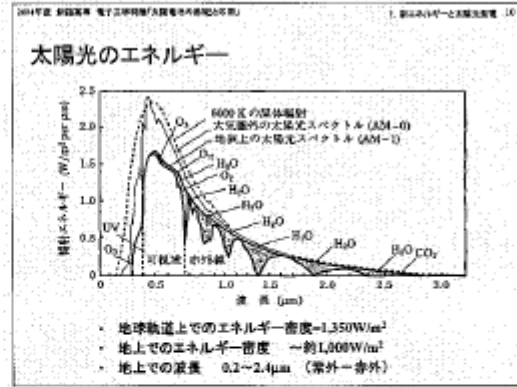
若原氏による「電子工学特論」講義資料

2014年度 創設以来 電子工学特論(大規模電力の発展と応用) 3. 創設入ルビーンと太陽光発電 9

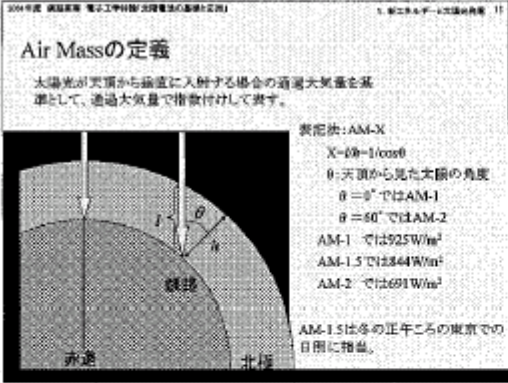
### ニューサンシャイン計画による開発目標

分野	平成20年度目標	平成22年度モジュール目標
薄膜多結晶シリコンモジュール	発電コスト<140円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、変換効率>15%、サイズ>30cm <sup>2</sup>	発電コスト<100円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、<140円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、変換効率>15%、サイズ>30cm <sup>2</sup>
CECモジュール	発電コスト<110円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、<100円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、変換効率>17%、サイズ>30cm <sup>2</sup>	発電コスト<100円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、<140円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、変換効率>17%、サイズ>30cm <sup>2</sup>
アモルファスシリコン薄膜多結晶シリコンモジュール	変換効率>10%以上、サイズ>30cm <sup>2</sup> 以上	発電コスト<100円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、<140円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、変換効率>10%以上、サイズ>30cm <sup>2</sup> 以上
その他の薄膜シリコン系ハイブリッドモジュール	変換効率>10% (セル)、サイズ>6cm <sup>2</sup> (セル)	発電コスト<100円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、<140円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、変換効率>10%、サイズ>6cm <sup>2</sup> ×12cm
マイクログラウ	変換効率>15% (セル)	発電コスト<100円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、<140円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、変換効率>15%、サイズ>9cm <sup>2</sup>
銅薄膜多結晶シリコン	変換効率>10% (セル)、サイズ>10cm <sup>2</sup>	発電コスト<100円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、<140円/W (1000W/m <sup>2</sup> 時)、変換効率>10%、サイズ>10cm <sup>2</sup> ×10cm

太陽電池の材料開発は、従来の「シリコン」から「薄膜シリコン」へシフト。  
 開発分野：銅薄膜多結晶シリコン



太陽光は、6000Kの物体からの放射(電磁波)とほぼ同じ。  
 地球の大気により、紫外線部分と赤外線部分が吸収される。



**Air Massの定義**

太陽光が天頂から赤道に入射する場合の透過大気量を基準として、透過大気量で指数付けして表す。

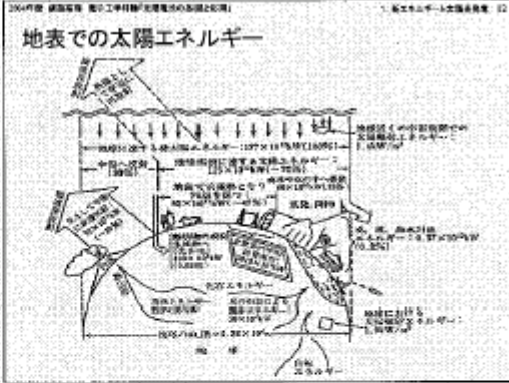
表記法: AM-X  
 $X = \frac{1}{\cos\theta}$   
 $\theta$ : 天頂から見た太陽の角度  
 $\theta = 0^\circ$  では AM-1  
 $\theta = 60^\circ$  では AM-2  
 AM-1 では 925 W/m<sup>2</sup>  
 AM-1.5 では 844 W/m<sup>2</sup>  
 AM-2 では 691 W/m<sup>2</sup>

AM-1.5 は冬の正午ごろの東京での日照に相当。

Air Massの定義: 太陽光が天頂から赤道に入射する場合の透過大気量を基準として、透過大気量で指数付けして表す。天頂からの距離を  $r$  とすると、 $\theta = 0^\circ$  では AM-1、 $\theta = 60^\circ$  では、太陽放射大気中を通過する距離は、 $1/\cos\theta = 2$  となるので AM-2 となる。AM-1 では 925 W/m<sup>2</sup>、AM-1.5 では 844 W/m<sup>2</sup>、AM-2 では 691 W/m<sup>2</sup> となる。

透過大気量係数も各資料集の TC-431714、および太陽放射の測定値と対比し、925 W/m<sup>2</sup> の値に 0.4 年一で定めておく。

装置: 赤道の北緯を  $\theta$  としたとき、赤道、季節、季節の日の正午の Air Mass を表す。



**地表での太陽エネルギー**

地表に降り注ぐ太陽エネルギーは、地表を加熱し、地表から大気や地表水へエネルギーを伝達する。地表からのエネルギーは、反射、吸収、伝導、対流、放射などの形で大気や地表水へ伝達される。

地表からのエネルギーのやり取りは、地表の温度、湿度、風速などに依存する。地表からのエネルギーは、地表を加熱し、地表から大気や地表水へエネルギーを伝達する。

地表からのエネルギーは、地表を加熱し、地表から大気や地表水へエネルギーを伝達する。地表からのエネルギーは、地表の温度、湿度、風速などに依存する。

( 出典 集中講義資料 )

( 目的 )

第 1 海外語学研修 ( 以下「研修」という。 ) は、釧路工業高等専門学校 ( 以下「本校」という。 ) の学生が、本校の主催する研修に参加することにより、英会話の実践的能力を高めるとともに国際感覚を身に付けることを目的とする。

( 申請 )

- 第 2 研修を希望する者は、次の各号に該当する場合に申請できるものとする。
- 一 研修実施時期において第 3 学年以上に在学する者で、生活指導上問題のない者
  - 二 文部省認定実用英語技能検定試験準 2 級以上の合格者又は本校の英語の成績評価が各学年とも 80 点以上の者

( 許可 )

第 3 派遣の許可は、所定の審査を経て校長が決定する。

( 期間 )

第 4 研修期間は、長期休業期間中の 3 週間程度とする。

( 成績評価及び単位認定 )

第 5 成績の評価は、外国の大学等が発行した証明書等に基づき一般教科「英語」の教科代表教員が行う。

2 認定科目は英会話 ( 選択科目 ) とする。

( 事務 )

第 6 研修に関する事務は、学生課専門職員が行う。

( 雑則 )

第 7 この要項に定めるもののほか，必要な事項は別に定める。

附則

この要項は，平成11年 4 月 1 日から実施する。

( 出典 釧路工業高等専門学校海外語学研修実施要項 )

**平成 16 年度**  
**海外語学研修報告書**  
**"Hello! Aussie English"**  
**2004. 7. 17~8. 8**



**釧路工業高等専門学校**



目	次
◎はじめに	校長 木谷 勝
◎研修日程表	… 1
◎オーストラリア語学研修日記	… 2
情報工学科 第4学年	
情報工学科 第5学年	
情報工学科 第5学年	
建築学科 第5学年	
建築学科 第5学年	
建築学科 第5学年	
◎海外語学研修を終えて	
一般教科(英語) 林 幸 利	…16
( 資 料 )	
平成16年度「学生の海外語学研修」派遣学生の募集について	…19

(分析結果とその根拠理由)

学生の多様なニーズに対応して、数学課外補習など種々の取り組みが行われており、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成に十分配慮している。

観点 5 - 2 - : 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

はじめに授業形態別の比率を示す（資料 5 - 2 - - 1）。

資料 5 - 2 - - 1

授業形態別比率を示す資料  
（次頁）

（出典 学生課資料）





授業形態別比率表

		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
機械工学科	一般	82%	68%	62%	50%	18%
	専門講義	3%	11%	24%	37%	67%
	専門実習	15%	21%	14%	13%	15%
電気工学科	一般	85%	76%	60%	52%	19%
	専門講義	6%	12%	32%	32%	43%
	専門実習	9%	12%	8%	16%	38%
電子工学科	一般	83%	69%	66%	47%	18%
	専門講義	6%	14%	11%	36%	67%
	専門実習	11%	17%	23%	17%	15%
情報工学科	一般	82%	69%	62%	51%	18%
	専門講義	6%	17%	22%	38%	53%
	専門実習	12%	8%	16%	11%	29%
建築学科	一般	82%	72%	66%	46%	15%
	専門講義	6%	22%	17%	27%	51%
	専門実習	12%	17%	17%	27%	34%

(出典 学生課資料)

次に、学習指導法の工夫の例としては、以下のようなものが挙げられる。(資料5-2--2)

資料5-2--2

観 点	内 容	参 考 資 料
習熟度別授業	3学年の「英語」において、全学科の学生を習熟度別にクラス分けして授業を実施。	資料5-2--3
課題解決・チームワーク養成型授業	2年全学生を対象とした「創造工学」では、20名程度の10グループに分けられ、各グループに与えられたテーマに沿ったものづくりを通して、課題解決能力やチームワークを養成する。	資料5-2--4
少人数教育	実験科目などにおいて、数名ずつの班を編成し、班毎にローテーションを組んで授業を行っている。	資料5-2--5
視聴覚機器の利用	全教室にプロジェクタ投影設備、ビデオ・DVD再生装置などを備えており、多様な授業形態・教材利用に対応できるよう配慮している。	資料5-2--6
情報機器の利用	低学年よりコンピュタリテラシーを展開し、インターネットの早期活用に配慮している。また、コンピュータ利用の講義形態も多く、情報処理演習室も有効に活用され	資料5-2--7

	も多く、情報処理演習室も有効に活用されている。	
基礎学力不足の学生に対する配慮	補習・補講やO/Aの積極活用などを図り、落伍者が減るよう配慮している。	資料 5 - 2 - - 8 資料 5 - 2 - - 9

( 出典 本自己点検書のための作成資料 )

資料 5 - 2 - - 3
<p>3 年英語で習熟度別授業を実施しているシラバス ( 次頁 )</p>

平成 17 年度			
機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科			英語
学年	第 3 学年	担当教員名	吉田茂, 伊関敏之, 片岡務
単位数・期間	2 単位	週当りの開講回数	1 回 通年 必修科目
授業の目標と概要	テキスト、単語集を活用することによって、英語検定準 2 級に合格できるレベルの単語、熟語、文法知識の習得、英文の読解力の向上、聞き取り能力の向上を目指す 釧路高専目標 (F-6) JABEE (f)		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	年間 16 回、単語集から出題する「単語テスト」を実施する		
到達目標	英語検定準 2 級レベルの英語力の習得		
成績評価方法	年間 4 回の定期試験の成績の平均を 70%、単語テストの成績の平均を 30% とし、その合計点を学科別クラスで行う授業の成績を平均し、その平均点を 0.7 を乗じた点数に英語検定準 2 級の試験で 1 次試験合格者には 26 点、A 判定の者は 21 点、B 判定の者は 15 点を加えた点数を成績とする		
テキスト・参考書	教科書 1: 英検準 2 級合格セミナー (旺文社) 教科書 2: 英検文で覚えるプラス単語集 準 2 級 (旺文社)		
メッセージ	授業では大量の英文と接するが、必要な量である		
授 業 内 容			
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標	
1) 教科書: Lesson 1~7 2) 単語テスト NO. 1~No. 5	14	1) 各設問の正答に至るプロセスが理解できる 2) 単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える	
前期中間試験	50 分		
3) 教科書: Lesson 8~11 4) 単語テスト NO. 6~No. 8	14	1) 各設問の正答に至るプロセスが理解できる 2) 単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える	
前期期末試験	50 分		
1) 教科書: Lesson 12~17, 23 2) 単語テスト NO. 9No. 14	14	1) 各設問の正答に至るプロセスが理解できる 聞かれた質問に適切に答えることができる (23) 2) 単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える	
後期中間試験	50 分		
3) 教科書: Lesson 18~22, 24 4) 単語テスト NO. 15~No. 16	14	1) 各設問の正答に至るプロセスが理解できる 聞かれた質問に適切に答えることができる (24) 2) 単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える	
後期期末試験	50 分		

平成 17 年度

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科		英語			
学年	第 3 学年	担当教員名	田村聡子		
単位数・期間	2 単位	週当たりの開講回数	1 回	通年	必修科目
授業の目標と概要	テキスト、単語集を活用することによって、英語検定 2 級に対応できるレベルの単語、熟語、文法知識の修得、英文の読解力の向上、聞き取り能力の向上を目指す。 釧路高専目標 (F-6)、JABEE(F)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	毎週 (年間 16 回) 単語集から出題する「単語テスト」を実施する。 (*2 級クラス、準 2 級クラス、共通)				
到達目標	英語検定 2 級レベルの英語に対応するための英語力の習得。				
成績評価方法	定期試験の成績の平均を 7 割、単語テストの成績の平均を 3 割として、その合計点と学科別の授業の成績を平均し、0.7 を乗じた点数に英語検定準 2 級取得者には 30 点、1 次試験のみ合格者には 26 点、A 判定者には 21 点を加えた点数を成績とする。2 級取得者には、これに 10 点を加算する				
テキスト・参考書	教科書：英検 2 級合格セミナー (旺文社) 参考書：英検 pass 単語集 2 級 (旺文社)				
メッセージ	英検 2 級レベルに見合った文法の習得を優先させる。教科書の vocabulary & Idiom の箇所は辞書を用いて各自予習しておくこと。 Composition & Reading Comprehension の箇所は授業前に事前に指示をだすので予習しておくこと。				
授 業 内 容					
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標			
1. ガイダンス 2. Lesson 3 Grammar (1) 3. 単語のテスト No.1~No.5 4. Composition & Reading Comprehension	14	授業の進み方について理解する 単語集の与えられた範囲の語句の意味が理解できる 仮定法過去・過去完了の構文が理解できる 時・条件を表す副詞節の用法を理解する 不定詞と動名詞をとる動詞の用法を理解する 代名詞 one, another, other を用いた表現を理解する 文の組み立て方と長文問題の取り組み方を理解する			
前期中間試験	50 分				
1. 単語のテスト No.6~No.8 2. Lesson 4 Grammar (2) 3. Composition & Reading Comprehension	14	単語集の与えられた範囲の語句の意味が理解できる 比較級を用いた基礎構文を理解する 分詞構文の基礎の定義 倒置構文の作り方を理解する 時制の一致と例外を理解する 文の組み立て方と長文問題の取り組み方を理解する			
前期期末試験	50 分				
1. 単語のテスト No.9~No.14 2. Lesson14 Grammar (3) 3. Composition & Reading Comprehension	14	単語集の与えられた範囲の語句の意味が理解できる 助動詞 + have + 過去分詞の用法を理解する 使役動詞 (have, got, make) + O + 分詞の構文を理解する 仮定法現在の構文を理解する 文の組み立て方と長文問題の取り組み方を理解する			
後期中間試験	50 分				
1. 単語のテスト No.15~No.16 2. Lesson15 Grammar (4) 3. Composition & Reading Comprehension	14	単語集の与えられた範囲の語句の意味が理解できる 仮定法を用いたいろいろな構文を理解する 知覚動詞 + O + 分詞の構文を理解する 複合関係代名詞の構文を理解する 分詞構文の慣用的表現を覚える 文の組み立て方と長文問題の取り組み方を理解する			
後期期末試験	50 分				

(出典 シラバス)



平成 17 年度

機械工学科, 電気工学科, 電子工学科, 情報工学科, 建築学科			創造工学		
学年	第 2 学年	担当教員名	松本和健		
単位数・期間	2 単位	適当りの開講回数	1 回	通年	必修科目
授業の目標と概要	工学の基礎は「ものづくり」であり、発想・検討・計画・設計・製作・完成品の機能の評価の過程を通じて、発想力・創造力・問題解決能力等の育成を行う。釧路高専目標 (E)(F)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	第一回目は創造工学ガイダンスになりますが、このときにテーマの希望調査を行います。必ず筆記用具を持参の上、出席すること				
到達目標					
成績評価方法	各授業における製作活動の状況と完成品・報告書及びプレゼンテーションを総合して評価する。成績は作品またはレポートが 60%、発表態度が 20%、実践態度が 20%とする。また、学年末の評価は 2 テーマの成績の平均で行う。				
テキスト・参考書					
メッセージ	授業項目などの詳細は各テーマ毎に異なる。学生の関心・希望・発想力・思考力に応じた多様な授業展開を想定しているため、自発的かつ積極的な授業参加を希望する。なお、試験はありません。				
授 業 内 容					
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標			
オリエンテーション、クラス、グループ分け テーマのガイダンス 設計、製図 (イメージスケッチ) 同上、目的物の設計開始 製作継続、検討・修正 製作継続、検討・修正 製作継続、検討・修正 製作継続、検討・修正	7	担当者 機械工学科：成澤哲也、藤 耕二 電気工学科：須田 義、佐々木敦 電子工学科：松本和健、梶原秀一 情報工学科：大貫和永、天元 宏 建築学科：依田有康、大塚隆男			
前期中間試験					
製作継続、検討・修正 製作継続、検討・修正 製作継続、検討・修正 製作継続、検討・修正 製作継続、検討・修正 製作継続、検討・修正 目標物の完成、発表会の準備 完成発表会	8				
前期期末試験					
前期と同じ 担当者 機械工学科：成澤哲也、藤 耕二 電気工学科：須田 義、佐々木敦 電子工学科：松本和健、梶原秀一 情報工学科：大貫和永、天元 宏 建築学科：三森敏司、西澤岳夫	7				
後期中間試験					
	8				
後期期末試験					

(つづき)

テーマ名	振動で動くおもちゃ																				
学 科	機械工学科	担当教官名	成澤 哲也 的野 卓司	実施場所	創造ラボ室A																
授 業 の 概 要	<p>振動現象を利用して、材料や部品を運ぶ機構は多くの工場で利用されています。本授業では、振動で動くおもちゃの製作を行い、機械振動の原理を勉強します。授業は重力を振動に変えるタイプのおもちゃを製作します。5班構成としてグループとなり製作します。製作したおもちゃで動くスピードを競う大会を開催します。最後にレポートにまとめ、提出します。 授業の流れは以下になります。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンスおよび班分け。</td> <td>9. 組み立て調整②</td> </tr> <tr> <td>2. 基本設計と工作法の学習。</td> <td>10. 振動実験</td> </tr> <tr> <td>3. シャフト部の製作。</td> <td>11. コンテスト</td> </tr> <tr> <td>4. 台座の製作。</td> <td>12. まとめと</td> </tr> <tr> <td>5. スライダの製作。</td> <td>13. レポート作成</td> </tr> <tr> <td>6. 振動ばねの製作。</td> <td>14. レポート提出</td> </tr> <tr> <td>7. キツツキの製作。</td> <td>15. 発表会</td> </tr> <tr> <td>8. 組み立て調整①</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンスおよび班分け。	9. 組み立て調整②	2. 基本設計と工作法の学習。	10. 振動実験	3. シャフト部の製作。	11. コンテスト	4. 台座の製作。	12. まとめと	5. スライダの製作。	13. レポート作成	6. 振動ばねの製作。	14. レポート提出	7. キツツキの製作。	15. 発表会	8. 組み立て調整①	
1. ガイダンスおよび班分け。	9. 組み立て調整②																				
2. 基本設計と工作法の学習。	10. 振動実験																				
3. シャフト部の製作。	11. コンテスト																				
4. 台座の製作。	12. まとめと																				
5. スライダの製作。	13. レポート作成																				
6. 振動ばねの製作。	14. レポート提出																				
7. キツツキの製作。	15. 発表会																				
8. 組み立て調整①																					
テーマ名	スパゲティータワー																				
学 科	機械工学科	担当教官名	麓 耕二	実施場所	創造ラボ室A																
授 業 の 概 要	<p>本授業では、スパゲッティを用いて、①底面積当たりの高さが一番大きいタワーを競うコンテスト、②規定重さのボール(例えば100g)を規定高さ(例えば200mm)以上の位置に保持できる土台自身の重さを競うコンテスト(単純で軽い支持物がベスト)の2つのコンテストを行います。</p> <p>授業ではまず、自分が創造する構造物のイメージをスケッチしてもらいます。スケッチを基に市販のスパゲティと瞬間接着剤を用いて構造物を制作します。完成後は簡単な発表会(コンセプト、難しかった点、自慢したい点)を行い、学生同士による評価を行います。最後にレポート(発表会の要点をまとめた物、構造物の写真、スケッチ、感想)を提出してもらいます。構造物は一人または何名かのグループで製作します(テーマにより異なる)。</p> <p>スパゲッティ、瞬間接着剤等の材料は提供されます。</p> <p>この授業の評価は</p> <p>①「①(高さ/底面積)→値の大きい方が優秀、②(構造物の重さ/支持する規定重さ)→値の小さい方が優秀」</p> <p>②「イメージ(スケッチ)との整合性」</p> <p>③「芸術点」(相互評価)</p> <p>④「完成度」</p> <p>⑤ レポートにより行います。</p>																				

(つづき)

テーマ名	ラジオ工作				
学 科	電気工学科	担当教官名	須田,佐々木	実施場所	電気工作実験室
授 業 の 概 要	<p>トランジスタ 8 個を使ったラジオを次の行程により製作し、各自製作したラジオが放送電波を受信できることを確かめる。</p> <p>製作の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 製作ガイダンス (回路図とプリント基板)</li> <li>2. プリント基板の設計 (回路パターン設計)</li> <li>3. プリント基板の製作 (レタリング)</li> <li>4. プリント基板の製作 (エッチングと加工)</li> <li>5. プリント基板の完成 (点検と修正)</li> <li>6. プリント基板へ部品取り付け (半田付け)</li> <li>7. ラジオの完成 (点検と調整)</li> </ol>				
テーマ名	プラネタリウム作り				
学 科	電気工学科	担当教官名	佐々木,須田	実施場所	創造ラボE室
授 業 の 概 要	<p>ピンホール式のプラネタリウムを作成する。ピンホール式のプラネタリウムとは、中心に小さな電球を置き、その周囲を小さな穴 (ピンホール) をあけたもので覆い、そのピンホールを通った光を半円形のドームに投影する方式である。</p> <p>製作の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 製作ガイダンス (製作の流れを説明)</li> <li>2. 投影機の設計 (形状、素材、星の数を決める)</li> <li>3. 星のプロット (星図から投影機の型紙を作る)</li> <li>4. 穴あけ (型紙をもとに穴をあける)</li> <li>5. 光源の作成 (プラネタリウムの光源を作る)</li> <li>6. 投影機の組み立て (投影機、光源の組み立て)</li> <li>7. 投影用ドームの作成 (4m程度のドームを作る)</li> <li>8. 投影、評価、投影機の改良</li> </ol>				

(つづき)

テーマ名	ロボットコンテスト				
学 科	電子工学科	担当教官名	櫻田 安志 梶原 秀一	実施場所	電子工学系実験室
授 業 の 概 要	<p>本授業では、設定された競技テーマにそったロボットを数週間かけて製作し、ロボット完成後は競技会（ロボットコンテスト）を開催します。</p> <p>授業ではまず、設定された競技テーマにそったロボットのアイデアを考えてもらい、アイデア発表会を開催します。次に、ロボットを製作するための基礎（ロボットのメカニズム、電気回路など）を学んだ後、ロボットの製作が始まります。ロボット完成後は競技会を開催し、最後に、ロボコン体験レポートを提出してもらいます。</p> <p>ロボットは一人一台または何名かのグループで製作します（テーマにより異なる）、ロボットの部品はあらかじめ決められた材料が提供されます。</p> <p>この授業の評価はロボットの</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「創意工夫」</li> <li>②「ロボットとしての完成度」</li> <li>③「芸術点」</li> <li>④「得点」</li> <li>⑤レポート</li> </ol> <p>により行います。</p>				
テーマ名	生体を測る				
学 科	電子工学科	担当教官名	松本 和健 戸谷 伸之	実施場所	電子工学応用実験室
授 業 の 概 要	<p>本テーマでは、電気的又はその他の方法による計測を通じて身近な対象である生体（人間）を測定してもらいます。基本的には、何を使って、何を測定し、何を評価するのかは、このテーマを選択した学生の皆さんに考えてもらうことになります。</p> <p>このテーマで用いる測定は、電磁誘導のような簡単な方法や、熱電対などのように便利なセンサを利用することになります。原理は詳しくわからなくても、どんな信号が測定できるかを理解できると様々なアイデアが出てきます。例えば、磁石と、コイルを用いると簡単なマイクを作ることができます。マイクで音を測定できるのですが、これを用いると声の成分の測定からうそを測定したり、運動をした時の心音の変化などを測定できます。このように、一つの簡単な測定方法で、様々な生体の測定が可能となります。</p> <p>授業では、4人一組のグループに分かれてもらい、生体の何を測定し、何を評価したいかを決めます。各グループで計画と予測を立てた後、さらにグループ内で二人づつに分かれて、簡単な測定装置を作成し、実際の測定をしてもらいます。実際の生体測定では、予測どおりには行かない事が多いものです。しかし、この授業では、どんどん失敗して、改良を加え、再度測定にトライしてもらいたいと思っています。そして、自分たちで考えたり、工夫して測定したことを、授業の最終回にグループで協力して発表してもらいます。</p> <p>この授業の評価の70%は、授業への出欠や取り組み方、グループでの計画と予測、装置の工夫に重点をおきます。残りの30%は、結果の評価とその発表内容になります。そこで、毎回の授業の最後には、グループ内でその日に検討した内容の簡単なレポートを提出してもらって予定にしています。</p>				

(つづき)

テーマ名	POV-Ray/GIMPによるコンピュータグラフィクス				
学 科	情報工学科	担当教官名	天元 宏	実施場所	情報基礎実験室
授業の概要	<p>このテーマでは大きく分けて二つの内容を扱います。</p> <p>一つは、POV-Rayというフリーソフトウェアを使って、レイトレーシングで3次元コンピュータグラフィクス(以下CG)を作るものです。光源から発した光が被写体に当り、その反射光がカメラで捕らえられる一連の物理現象をコンピュータでシミュレートすることで、美しいCGを作る一連の技術を学習します。また最後に、自由課題として、各自の好きなテーマでCGを作ります。現実世界に存在する何らかの物体をそれらしく見えるようにCG化することを目標とします。</p> <p>二つめは、GIMPという高機能なグラフィックツールを使う画像処理です。広告や出版業界などのプロフェッショナルな現場では「Photoshop」という高価なソフトウェアが良く使われていますが、GIMPはそれに劣らない豊富な機能を持つフリーなソフトウェアです。このテーマではGIMPの様々な機能の中から、タイトルロゴの作成やフィルタによる画像効果などの、ウェブページ作りに役立つものを中心に取り上げます。そして、最終的に素材とテクニックを駆使し、自由に作品を創ります。</p> <p>上記のPOV-RayやGIMPで用いる各種の素材は、こちらで用意したスキャナーやデジタルカメラを使って各自で自由に準備してもらいます。また、完成した作品は写真画質のカラー印刷が可能なプリンタで出力し、最後の発表会で公開・配布します。</p>				
テーマ名	ムービ・メーカー				
学 科	情報工学科	担当教官名	大貫 和永	実施場所	情報処理実験室
授業の概要	<p>コンピュータを使って、Legoを利用した映画を作ります。</p> <p>映画を作製するためには、まず映画を見る人に伝えたいことを決め、そのテーマを伝えるために役立つストーリーを作らなければなりません。それから初めてストーリーに従ったシーンの作製、一コマ一コマのつなぎ合わせという地道で細かい根気の必要な作業に入ります。</p> <p>ストーリーを作成する段階で、グループのメンバー（3人）が話し合わなければなりません。ここで3人がチームワークを高めて、メンバー一人一人が納得できるストーリーとしなければなりません。半年間かけてメンバー全員が、手分けして、作業を分担しそれぞれの能力を発揮しなければ良い作品はできないからです。</p> <p>たった一人の人間が自分勝手に考えて良いものを作ることはできません。アイデアを出すのが上手な人、出されたアイデアに磨きをかけるのが上手な人、みんなでまとめたアイデアを実現する時に、創造力を発揮できる人、いろんなタイプの人たちの協力により優れた作品が作られることを身をもって体験します。</p> <p>毎回の作業内容の報告をWebのページからしてもらいます。映画作成前にシナリオを提出してもらいます。これらの提出物と作成された映画により評価されます。</p> <p>この経験により、目標達成のために協力する仲間のことを、常に意識し、互いに尊敬の念を持ちあわねば、個々人の能力を最大限活かすことができないことも確かめられる予定です。</p>				

(つづき)

テーマ名		おもちゃチャレンジ2005			
学 科	建築学科	担当教官名	三森敏司, 井上圭一	実施場所	創造ラボ室C
授 業 の 概 要	<p>皆さんが一度は遊んだことがある「おもちゃ」を作ります。  「おもちゃ」といっても色々な形のものがあったり、色々な材料（木、ブリキ、アルミ、ガラス、鉄、粘土、紙、etc.）で作られたり、動力を使うものや使わないものまで幅広い種類があります。</p> <p>たかが「おもちゃ」と思うかもしれませんが、その中には多くの知識や技術が凝縮されているのです。時間が限られているので、それほど精密で大きなものは作れないと思いますが、皆さんの想像（創造）力を駆使してユニークな「おもちゃ」を作ってください。</p> <p>「おもちゃ」作りは、3人1グループで行い、グループごとに1作品を提出してもらいます。どのような形で、どのような材料を使い、どのように組み立てていくかは皆さんに考えてもらい、企画・立案・設計の後に、工具等を使って加工・組立を行っていきます。授業の最後に完成した作品の発表会を実施し、作品を使って実際に遊びます。</p>				
テーマ名		卓上照明のデザインと製作			
学 科	建築学科	担当教官名	依田有康, 大楽隆男	実施場所	創造ラボ室D
授 業 の 概 要	<p>[授業の目的]  電球および電気部品は規格を統一したものを使用し、自然・人工素材を用いて独創的なデザインによる卓上照明器具を製作する。建築調度の設計、製作、発表を通して、感性、発想力、表現力などを養うことを目的とする。</p> <p>[授業予定]  第1週 ガイダンス, 班分け  第2週 同種の作品例紹介, 情報・資料収集  第3週 設計開始 (イメージスケッチ等)  第4週 設計・製図  第5週 設計チェック, 発表  第6週 材料調達 (見積) ・製作開始  第7週～第9週 製作作業  第10週 中間発表会  第11週～第13週 製作作業  第14週 製作・完成・発表準備  第15週 完成発表会・コンペティション (表彰)</p>				

(出典 シラバス)

工学実験班編成表

2004 年度 第 3 学年工学実験前期日程

班編成

	A 班	B 班	C 班	D 班
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				

日 程

回	月 / 日	生産システム実験室	材料実験室	精密実験室	実習工場
1	4/14	A	B	C	D
2	4/21	A	B	C	D
3	4/28	A	B	C	D
4	5/12	A	B	C	D
5	5/19	B	C	D	A
6	5/26	B	C	D	A
7	6/2	B	C	D	A
8	6/16	B	C	D	A
9	6/30	C	D	A	B
10	7/7	C	D	A	B
11	7/14	C	D	A	B
12	9/1	C	D	A	B
13	9/8	D	A	B	C
14	9/15	D	A	B	C
15	9/22	D	A	B	C

注意事項

前期実験は 4/14 より各実験室にて実験を行う。レポート用紙 (A4) , 筆記用具 , 電卓 , ポケットコンピュータ PC-G850 と説明書 (生産システム実験室) を忘れずに持参すること。

服装は実習服を着用し , 履物は各実験室の指示に従うこと。

特別の理由がない限り欠席は認められないので注意すること。やむおえず欠課となった場合は ,

当実験室教官と打ち合わせて実験補講を行うこと。

(出典 学生課資料)

資料 5 - 2 - - 6

視聴覚機器の配置を示す資料

ＯＨＰ・オーバーヘッドプロジェクター	少額資産	H 14.09.30	講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L780NT
ＯＨＰ・オーバーヘッドプロジェクター	少額資産	H 14.09.30	講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L780NT
ＯＨＰ・オーバーヘッドプロジェクター	少額資産	H 14.09.30	講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L780NT
ＯＨＰ・オーバーヘッドプロジェクター	少額資産	H 14.09.30	講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L780NT
ＯＨＰ・オーバーヘッドプロジェクター	少額資産	H 14.09.30	講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L780NT
ＯＨＰ・オーバーヘッドプロジェクター	少額資産	H 15.03.27	講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L780NT
保管庫(ケース含)	少額資産	H 14.09.17	講義室	学生課	機器収納用ラック 特注 800 × 530 × 500
保管庫(ケース含)	少額資産	H 14.09.17	講義室	学生課	機器収納用ラック 特注 800 × 530 × 500
	少				



	額 資 産	14.09.17			× 530 × 500
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.09.17	講義室	学生課	機器収納スチールラック 特注 800 × 530 × 500
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.09.17	講義室	学生課	機器収納スチールラック 特注 800 × 530 × 500
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 15.03.20	講義室	学生課	機器収納ラック 光映堂特注品
機器収納ラック（特 注）	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	鋼板製 特注 800 × 530 × 505
機器収納ラック（特 注）	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	鋼板製 特注 800 × 530 × 505
機器収納ラック（特 注）	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	鋼板製 特注 800 × 530 × 505
機器収納ラック（特 注）	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	鋼板製 特注 800 × 530 × 505
機器収納ラック（特 注）	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	鋼板製 特注 800 × 530 × 505
液晶プロジェクター （松下）	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	松下電器 TH-L785
	少				

(松下)	額 資 産	16.10.01			
液晶プロジェクター (松下)	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	松下電器 TH-L785
液晶プロジェクター (松下)	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	松下電器 TH-L785
液晶プロジェクター (松下)	少 額 資 産	H 16.10.01	講義室	学生課	松下電器 TH-L785

OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15	低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15	低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15	低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15	低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
	少				

プロジェクター	額 資 産	14.01.15		講義室		TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
OHP・オーバーヘッド プロジェクター	少 額 資 産	H 14.01.15		低学年棟 講義室	学生課	液晶プロジェクター 松下電器 TH-L770J
	少					

プロジェクター	額 資 産	14.01.15		講義室		TH-L770J
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.15		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
	少					

	額 資 産	14.02.15		講義室		1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.28		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.28		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.28		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.28		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S
保管庫（ケース含）	少 額 資 産	H 14.02.28		低学年棟 講義室	学生課	AV 機器収納ラック ILFE LK- 1000S

（出典 資産管理台帳）

資料 5 - 2 - - 7

平成 17 年度前期の情報処理センター時間割

第 1 演習室（情報処理センター内プログラミング演習室）

	月	火	水	木	金
1	4 E 高木	4 D 佐治	5 D 佐治	5 M 荒井	2 E 野口
2	4 E 高木	4 D 佐治	5 D 佐治	5 M 荒井	2 E 野口
3	4 M 荒井	5 D 坂田		1 K 荒井	5 D 佐治
4	4 M 荒井	5 D 坂田		1 K 荒井	5 D 佐治
5	1 K 2 S 千葉	5 M 荒井	3 M 荒井	卒業研究	5 E 野口・佐藤
6	1 K 2 S 千葉	5 M 荒井		卒業研究	5 E 野口・佐藤
7		卒業研究	4 M 荒井	卒業研究	5 E 野口・佐藤
8		卒業研究	4 M 荒井	卒業研究	

第2 演習室（新棟プログラミング演習室）

	月	火	水	木	金
1	4 A 佐藤	5 E 佐々木	4M J 澤柳佐藤	2 D 坂田	3 D 坂田
2	4 A 佐藤	5 E 佐々木	4M J 澤柳佐藤	2 D 坂田	3 D 坂田
3					2 K S 高木
4					2 K S 高木
5		4 E D 東・佐藤	1 A 井上・大槻	1 D 山田・浅水	1 K S 千田
6		4 E D 東・佐藤	1 A 井上・大槻	1 D 山田・浅水	1 K S 千田
7					
8					

（出典 情報処理センター資料）

資料5 - 2 - - 8

補講・補習の実施方法等について

1. 授業時間数が不足したり、クラス全体に補足的に授業が必要な時などは、「補講届」（別紙様式1）に記入のうえ補講を行うことができる。
2. 学生の要望があったり、一部の学生に補習が必要と判断される時には、学生に「補習願」（別紙様式2）を書かせた上で補習を行うことができる。なお、教員側から補習を設定する場合は「教員記入欄」のみの記入でもよい。
3. 担任は留年、単位未修得及び学習遅進の学生に「補習・質問の記録」（別紙様式3）を付けさせ、定期的に学習状況の確認をする。「補習・質問の記録」は、学年末にまとめて担任が教務係に提出する。
4. 学生指導の証拠とするため、「補講届」、「補習願」は保存し、半期毎に教務係へ提出する。
5. 教科の評点が60点を超えた場合は、「補習・質問の記録」に見られる努力を、評価に加えることができる。

【補足】：

- (1) 授業時間数は、なるべく授業振替等で確保する。特別な事情で不足した場合は補講を行うが、出欠に入れない。
- (2) 1, 2, 5 は教員に対する強制ではない。簡単な個人指導や説明ですむものや OH などに対応可能なものについては、「補講届」「補習願」として記録しなくてもよい。
- (3) 学生が自ら学ぼうとする姿勢を養うため、当面、担任が学生の学習状況を把握し、補習依頼に行くように指導したり、遅進学生が質問に行くように指導することが必要である。
- (4) 「学習遅進の学生」の選定は、担任が教科担当と協議して決める。

（出典 学内向けウェブサイト）

オフィスアワー実施要領

学生指導及びオフィスアワー（OH）について

- (1) 全教員はオフィスアワーを設定する。日時は原則，月曜日 8 時間目または 9 時間目とする。
  - (2) 学生指導の内容は OH 時間以外のもも含めて「学生指導記録」に記録する。
  - (3) OH が実施できたか否かは，「OH 予定・実施状況」に記録する。
  - (4) 「学生指導記録」及び「OH 予定・実施状況」は，半期毎に教務係に提出する。
- (つづき)

学 生 指 導 記 録

( 年 月 ~ 年 月

No. )

	月 / 日	時 間	来 室 学 生	内 容	記 録 ・ 対 応 ・ 備 考
1		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
2		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
3		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
4		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
5		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
6		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
7		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	

8		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
9		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
10		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
11		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	
12		OH OH 外 ( )		質問( ) 相談( ) その他( )	

半期毎に学生課教務係へ提出願います。(全教員 教務係)

(出典 学内向けウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

講義，演習，実験，実習等の授業形態別の構成比率からバランスは適切である。習熟度別授業の実施や視聴覚機器の整備など教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫・配慮が十分に行われている。

観点 5 - 2 - : 教育課程の編成の趣旨に沿って，適切なシラバスが作成され，活用されているか。

(観点到係る状況)

シラバスは平成7年度から作成しているが，当初は記載されていた内容が授業時間ごとの講義内容のみで，その目的を十分果たしているとはいえなかった。その後，H16年度にシラバスの様式を全面改訂して授業項目ごとの達成目標を具体的に記述することとし，さらにH17年度からは本校の学習・教育目標との対応を明確にするとともに，成績評価方法を明確にして学生の到達度評価が可能となるようにした(資料5 - 2 - - 1)。

資料 5 - 2 - - 1



### シラバス記入要領

- 1) 学科、学年、講義名、担当教員名、単位数・期間、の欄はそれぞれ該当する内容を選択記入。
  - 2) 授業の目標と概要欄(1行37文字で6行以内)
    - ・学習教育目標との関連を意識しながら、該当科目の目標と概要を記載
    - ・学習教育目標及びJABEE科目のどの基準に当てはまるかその番号を本欄の末尾に記載する。

例 釧路高専教育目標 (D)(E)、JABEE (c)(d)(g)など  
ただし、JABEE科目以外については、釧路高専教育目標との対応記号のみ記載
  - 3) 履修上の注意(準備する用具、前提となる知識など)(1行37文字で6行以内)
    - ・授業の進め方、必要な用具、前提となる知識などの授業に関する情報を記載。
  - 4) 到達目標(1行37文字で4行以内)
    - ・本校学習教育目標および学科の教育目標に沿って到達すべきレベルを総括的に記載する。
  - 5) 成績評価方法(1行37文字で4行以内)
    - ・主要授業科目の評価方法
- ① 実験(工学実験・機械実習)：学科で共通の評価基準を作成し適用し記載  
例) 実験(30%)＋レポート(60%)＋実験態度(10%) など

- ② 試験のない演習・実習(計算機実習・製図)：共通のものは学科で基準作成し記載  
例) レポート(80%) + 授業態度(20%) など
- ③ 試験のある演習・実習：共通のものは学科で基準作成し記載  
例) 試験(30%) + レポート(50%) + 授業態度(20%) など
- ④ 講義を中心とした授業：基本的に各教科担当者が、具体的算定方法を決めて記載  
例) 試験(100%) + 授業態度(±10%) ※  
※60点以上の時に限り授業態度を加算することができる。  
・試験の算定例・・・第3小委員会答申の資料3を参照し、明瞭な算定方法とする。  
・評価方法は進級認定等に深く関与しますので、十分検討のうえ記載してください。
- ⑤ 卒業研究の複数教員による採点方法：学科で共通の評価基準を作成し記載するが、以下の答申内容を満たす方法で作成する。  
・複数の教員による評価を行う。具体的方法は学科にて作成  
・中間発表(10%), 卒業研究発表(30%), 卒業論文(25%), 卒業研究期間中に指導教員が所定項目について複数回の口頭試問(25%), 研究態度(10%)  
・卒業研究期間中に指導教員が行う所定項目についての複数回の口頭試問時期は中間発表前、ゼミ、卒業研究発表前とする。  
・学生は、毎回の卒業研究の内容を日誌に記録する。
- 6) テキスト・参考書・メッセージ欄(1行37文字で4行以内)  
・使用するテキスト・参考書名を記載し、メッセージ欄には履修に当たっての留意事項を記載する。
- 7) 授業の内容  
・授業項目(1行24文字で9行以内)  
：各授業期間ごとの履修項目を記載。(1行24文字で9行以内)  
( )内に同じ項目での授業回数を記載。  
・時間：期間ごと項目ごとの授業時間数を記載。  
前期中間・末、後期中間・末の試験時間を時間欄に記載する。  
・授業項目ごとの達成目標(1行24文字で9行以内)  
：授業項目ごとの達成目標を・・・できる。・・・が説明できる。・・・が求められる。・・・が解ける。など具体的な達成目標を記載する。

#### シラバス入力上の条件

##### 【文字数】

項目欄名	文字数と行数
授業の目標と概要 履修上の注意	各欄 1行全角37文字で6行以内
到達目標 成績評価方法 テキスト・参考書	各欄 1行全角37文字で4行以内

メッセージ	
授業項目	各欄 1行全角24文字で9行以内
授業項目ごとの達成目標	

- ・ この文字数や行数を超えると、文字が小さくなったり、罫線の位置が変わってしまったり文字がはみでたりします。上表の範囲以内で入力するようにしてください。
- ・ また、半角のカタカナやひらがな、JIS 第 1 水準と JIS 第 2 水準以外の全角文字は使用しないでください。
- ・ ○で囲まれた数字やローマ数字などは、メーカフォントであるためコンピュータ共有文字ではありません。最悪の場合、システムの動作を止めてしまう可能性があります。

#### 【シラバスの更新】

前年度のシラバスを利用して新年度のシラバスを作成したい方は、「登録」ではなく、「修正」で前年度のシラバスを選択し内容を書き換えてください。

保存すると、新年度のシラバスとして保存されます。

#### 【新機能】

##### (1). 閲覧用PDFファイルの自動生成

シラバス書き込み保存後にPDFに変換すると、自動的に閲覧のページにPDFファイルが保存されるようになりました。

##### (2). 閲覧用PDFファイルインデックスの自動生成

H16 年度版までは、教務係がおこなっていたインデックスの作成をPDFシラバスファイル閲覧時に自動生成するようにしました。

##### (3). 作成者によるファイル削除

H16 年度版までは、教務係がおこなっていたデータファイルの削除が登録修正ページより、作成者が削除できるようにしました。

#### 【アドレス】

シラバス登録修正のページ(作成者のみアクセス可能)

<http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/syllabus/2005/index.html>

シラバス閲覧のページ(誰でもアクセス可能)

<http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/syllabus-pdf/index.html>

(出典 学内向けウェブサイト)

また、シラバスの学生への周知方法については、以下のとおりである。(資料5 - 2 - - 2)

資料 5 - 2 - - 2

学 年	周 知 方 法 等	参 考 資 料
1 年	入学時に全科目のシバスを配付するとともに、保管用ファイルを購入させ、その活用を促している。また、授業開始時に担当教員がシバスの内容について説明を行う。	
2 ~ 5 年	各科目の授業開始時にシバスを配付し、担当教員がその内容について説明を行う。 なお、4 年生については、JABEE履修生となることを考慮し、シバス保管用ファイルを購入させた。	資料 5 - 2 - - 3 資料 5 - 2 - - 4 資料 5 - 2 - - 5
全学年共通	本校HPにおいて常時閲覧が可能となっているほか、各ホームルーム教室にも紙媒体で配置している。	

( 出 典 本 自 己 点 検 評 価 の た め の 作 成 資 料 )

資料 5 - 2 - - 3

### 年度始第1学年担任スケジュール

平成 1 7 年 度 ( 2 0 0 5 年 )

4 / 5 ( 火 )		
時 限	事 項	内 容
1 4 : 0 0	新入生オリエンテーション参加教職員打合せ会議 引き続き、1 年担任会議	

4 / 6 ( 水 )		
時 限	事 項	内 容
1 0 : 0 0 1 0 : 4 5	入学式 ( 第 2 体 育 館 )	◎校長から、保護者に対し担任の紹介あり。 ◎式終了後、退場の際の誘導。引き続きHRに移る。
1 0 : 5 0	HR ( 各 教 室 )  ( 5 0 分 間 )	◎配付物 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 1 7 年 度 前 期 授 業 時 間 割</li> <li>② 1 7 年 度 行 事 予 定 表</li> <li>③ 学 生 証 ( 登 校 の と き、い つ も 携 行 す る こ と を 説 明 )</li> <li>④ 領 取 書 ( 郵 送 で 入 学 手 続 を し た 者 の み )</li> <li>⑤ 在 学 証 明 書 ( 健 康 保 険 証 を 交 付 し て も ら う と き 卒 に 必 要 な 証 明 書 だ と い う こ と を 説 明 )</li> <li>⑥ オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 実 施 要 項</li> <li>⑦ 学 生 便 覧</li> <li>⑧ 高 専 だ よ り</li> <li>⑨ シ ラ バ ス</li> </ul> ( 教 科 書 と 一 緒 に 購 入 す る フ ァ イ ル に 保 存 す る よ う 説 明 ) <div style="float: right; margin-top: 10px;">                         入学式当 教室へ ( 学 生 宛 に 封 筒 )                     </div> <div style="float: right; margin-top: 10px;">                         入学式当 教室へ 作成次第配付                     </div> ◎副担任の紹介  ◎話しておくべき主な内容 ◇これからの心構え 高専の学生としての自覚、普段の学習の大切さ、生活についての全般的な注意  ◇寮生・下宿生への励ましと注意 共同生活、上級生との関係、盗難のこと、健康管理、規則正しい生活など

	<p>◇時間厳守 遅刻をしないこと。（毎朝SHRがある。）</p> <p>◇体育館は土足禁止のため上靴をロッカーに入れておくこと</p> <p>◎今後の日程 ◇今日このあと、教科書、ジャージ、教材などの購入。 音楽・美術の履修者名簿を示し、教科書を購入させる。 ※美術を選択した者は購入不要</p> <p>◎オリエンテーションの説明（7日(木)～8日(金)） ◇オリエンテーションの目的・意義 ◇実施要項の配付 ◇日程・内容・注意事項の説明 ◇持ち物の確認</p> <p>◎11日(月)・・・対面式（挨拶する者を1名決めておく。挨拶の内容を指示しておくとうい。）</p> <p>◎前期の授業時間割は今日渡した袋に入っているが、12日(火)までは特別時間割になっているので、その間の日程について説明する。（特別時間割も袋に入っている。）</p>
--	---

（出典 1年担任会議配付資料）

（資料5 - 2 - - 4）

釧路高専教務関連規定・申合わせ及び学生支援体制等の改訂に伴う説明資料（抜粋）

60点合格のための学生支援対策

1. シラバスの学生への周知（科目毎に担当教員が説明）

- 1) 各教科の授業開始に先立って、担当教科に関するシラバスを印刷配布の上、内容を十分に説明すること。
- 2) 1年及び4年についてはシラバス用ファイルを始業日に購入しているので、これに綴じ込みいつでも参照できるように指導する。（2, 3, 5年についても各自シラバスがいつでも参照できるようにファイルを作することを薦める。）
- 3) 特に達成目標及び項目ごとに「・・・何々ができる」「・・・が説明できる」などの説明と成績評価方法については十分に学生に説明する。
- 4) 担当科目が本校の学習教育目標やJABEE基準のどの項目に対応しているかを説明する。
- 5) ホームページでの閲覧が可能であることも周知する。

（出典 教務主事作成による全教員への配付資料）

(資料 5 - 2 - - 5)

(7)授業開始時のシラバス配付について

委員長から1学年については入学式当日、教務係から配付する予定であるが、2～5学年については、授業開始時に各教員が配付をしてほしい旨説明があった。

なお、例年どおり、各HR教室に1部ずつ置くことになった。

(出典 平成17年4月4日教務委員会議事概要)

シラバス活用の状況については、授業評価アンケートによるQ1, Q2が該当の項目であり、H15年度は3.2程度であったがH16年度は3.4程度となっており、学生に意識され始めた結果であるといえる(資料5-2--6)(資料5-2--7)。

資料 5 - 2 - - 6

(次頁)

## 釧路高専受講アンケート(講義・演習用)

1. このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に生かされます。
2. アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはありませんので、率直な回答をお願いします。
3. 設問は全部で14問あります。自由意見欄がありますので、この授業に対する自由な意見を述べてください。

年 度	学 科	学 年	出 席 番 号	科 目 名	教 官 名	文 理 別
①	①	①	①	①	①	①- 文系
①	①	②	②	①	①	②- 理系
②	②	①	③	②	②	③- 健康体育
③	③	①	④	③	③	④- 基礎専門
④	④	②	⑤	④	④	
⑤	⑤			⑤	⑤	
⑥	⑥			⑥	⑥	
⑦	⑦			⑦	⑦	
⑧	⑧			⑧	⑧	
⑨	⑨			⑨	⑨	

(記入上の注意)

1. HB以上の鉛筆またはシャープペンシルを使用して下さい。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
4. 年度、学科、学年、出席番号、科目名(コード番号)、教官名(コード番号)、文理別の各欄は、担当教官の指示により正しくマークして下さい。

記入例 (良い例) ● (悪い例) ⊗ ⊙ ⊖ ⊕ ⊖

この授業(講義・演習)について、以下の各設問に対してどう考えますか。それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号をマークして下さい。その評価は、以下のとおり5段階とします。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そうは思わない 1. 強くそう思わない

※体育については、\*印の設問のみ回答して下さい。

	5 強く そう 思う	4 そう 思う	3 ど ち ら と も い え な い	2 さ う は 思 わ な い	1 強 く さ う 思 わ な い
*1 シラバスは授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。	⑤	④	③	②	①
*2 授業はシラバスに沿って行われていた。	⑤	④	③	②	①
*3 教官の熱意が感じられた。	⑤	④	③	②	①
*4 教官の話し方(声の大きさと明瞭さ)は聞き取りやすかった。	⑤	④	③	②	①
*5 授業は良く工夫され、わかりやすかった。	⑤	④	③	②	①
6 プロジェクタ、ビデオ、プリント、教科書等補助教材の利用が適切で理解に役立った。	⑤	④	③	②	①
*7 教官は効果的に学生の参加(発言、作業、私語・居眠りに対する注意など)を促した。	⑤	④	③	②	①
*8 教官は学生の質問・発言等に明快に答えてくれた。	⑤	④	③	②	①
9 小テスト・演習・課題・定期試験の解説・添削は適切で理解に役立った。	⑤	④	③	②	①
*10 自分にとって、この授業の難易度は適切であった。	適切 ⑤	ほぼ適切 ④	やさしい ③	やや難しい ②	難しい ①
11 自分のこの授業の試験点数(素点)は、小テスト・定期試験含めて100点満点で平均( )であった。	100~90点 ⑤	89~70点 ④	69~50点 ③	49~30点 ②	29点以下 ①
*12 自分にとって、この授業の理解の程度は( )程度であった。	100% ⑤	80% ④	60% ③	40% ②	20% ①
*13 この授業の自分の欠席率は( )程度であった。	欠席なし ⑤	5%以下 ④	5~10% ③	10~15% ②	20%以上 ①
14 質問、発言、演習、宿題、予習などにより、あなたはこの授業に積極的に参加したと思いますか。	⑤	④	③	②	①

=自由意見欄=

## 釧路高専受講アンケート(実験・実習・製図用)

1. このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に生かされます。
2. アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはありませんので、率直な回答をお願いします。
3. 設問は全部で15問あります。自由意見欄がありますので、この授業に対する自由な意見を述べてください。

年 度	学 科	学 年	出 席 番 号	科 目 名	教 官 名
①	①	①	①	①	①
①	①	②	②	②	②
②	②	③	③	③	③
③	③	④	④	④	④
④	④	⑤	⑤	⑤	⑤
⑤	⑤				
⑥	⑥				
⑦	⑦				
⑧	⑧				
⑨	⑨				

【記入上の注意】

1. HB以上の鉛筆またはシャープペンシルを使用して下さい。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
4. 年度、学科、学年、出席番号、科目名(コード番号)、教官名(コード番号)の各欄は、担当教官の指示により正しくマークして下さい。

記入例 (良い例) ●

(悪い例) ⊗ ⊘ ⊙ ⊖ ⊞

この授業(実験・実習・製図)について、以下の各設問に対してどう考えますか。それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号をマークして下さい。  
その評価は、以下のとおり5段階とします。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そうは思わない 1. 強くそう思わない

	5 強く そう 思う	4 そう 思う	3 どちら とも い え な い	2 そう は 思 わ な い	1 強く そう 思 わ な い
1 シラバスは授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。	⑤	④	③	②	①
2 授業はシラバスに沿って行われていた。	⑤	④	③	②	①
3 教官の熱意が感じられた。	⑤	④	③	②	①
4 事前説明は適切でわかりやすかった。	⑤	④	③	②	①
5 助言を受けやすい雰囲気があった。	⑤	④	③	②	①
6 プロジェクト、ビデオ、プリント、教科書等補助教材の利用が適切で理解に役立った。	⑤	④	③	②	①
7 教官は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。	⑤	④	③	②	①
8 教官は学生の質問・発言等に明快に答えてくれた。	⑤	④	③	②	①
9 設備・機材・用具の数は十分だった。	⑤	④	③	②	①
10 課題・レポートの分量は適切だった。	⑤	④	③	②	①
11 課題・レポートの提出期限は適切であった。	⑤	④	③	②	①
12 自分にとって、実験・実習・製図の作業の難易度は適切であった。	適切 ⑤	ほぼ適切 ④	やさしい ③	やや難しい ②	難しい ①
13 自分にとって、この授業の理解の程度は( )程度であった。	100% ⑤	80% ④	60% ③	40% ②	20% ①
14 この授業の自分の欠席率は( )程度であった。	欠席なし ⑤	5%以下 ④	5~10% ③	10~15% ②	20%以上 ①
15 質問、発言、演習、宿題、予習などにより、あなたはこの授業に積極的に参加したと思いますか。	⑤	④	③	②	①

=自由意見欄=



16年度講義科目学科別等平均

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
全体	3.43	3.42	3.67	3.66	3.34	3.48	3.56	3.63	3.42	3.19	3.38	3.18	4.38	3.32
一般文系	3.44	3.42	3.70	3.73	3.40	3.50	3.51	3.64	3.42	3.41	3.51	3.27	4.38	3.38
一般理系	3.70	3.68	3.90	3.88	3.66	3.61	3.74	3.89	3.63	3.15	3.38	3.26	4.50	3.49
一般教科体育	3.58	3.56	4.07	4.35	3.72		3.96	4.01		4.16		4.14	4.58	
基礎専門	3.34	3.31	3.73	3.79	3.47	3.60	3.45	3.65	3.50	3.29	3.29	3.13	4.31	3.24
機械工学科	3.39	3.41	3.47	3.42	3.05	3.41	3.38	3.37	3.27	2.94	3.22	2.95	4.46	3.18
電気工学科	3.20	3.21	3.30	3.18	2.92	3.07	3.45	3.27	3.16	2.78	3.14	2.75	4.17	2.98
電子工学科	3.16	3.13	3.49	3.40	3.10	3.40	3.50	3.39	3.32	2.82	3.36	2.92	4.27	3.10
情報工学科	3.28	3.29	3.43	3.21	2.98	3.44	3.48	3.48	3.32	2.88	3.41	2.98	4.28	3.20
建築学科	3.46	3.47	3.74	3.74	3.39	3.60	3.58	3.72	3.58	3.05	3.36	3.10	4.31	3.53
全体1年	3.75	3.74	3.82	3.84	3.53	3.53	3.67	3.77	3.53	3.34	3.55	3.48	4.68	3.58
全体2年	3.65	3.63	3.82	3.84	3.52	3.60	3.75	3.75	3.57	3.23	3.36	3.26	4.39	3.46
全体3年	3.27	3.25	3.59	3.61	3.27	3.47	3.47	3.60	3.38	3.16	3.31	3.09	4.27	3.19
全体4年	3.29	3.28	3.59	3.59	3.24	3.48	3.54	3.55	3.35	3.16	3.33	3.14	4.39	3.26
全体5年	3.15	3.16	3.52	3.38	3.09	3.32	3.37	3.43	3.29	3.00	3.36	2.89	4.09	3.09
一般文系1年	3.69	3.68	3.82	3.84	3.49	3.41	3.61	3.76	3.46	3.41	3.57	3.46	4.65	3.60
一般文系2年	3.65	3.61	4.04	4.04	3.73	3.75	3.78	3.86	3.66	3.53	3.48	3.35	4.35	3.51
一般文系3年	3.19	3.17	3.45	3.48	3.19	3.35	3.28	3.47	3.28	3.39	3.53	3.13	4.20	3.16
一般文系4年	3.20	3.19	3.48	3.57	3.17	3.51	3.34	3.43	3.24	3.26	3.41	3.09	4.30	3.21
一般文系5年	3.17	3.23	3.61	3.61	3.29	3.52	3.39	3.62	3.41	3.56	3.69	3.26	4.13	3.30
一般理系1年	3.83	3.80	3.98	3.90	3.69	3.67	3.77	3.88	3.62	3.19	3.48	3.36	4.67	3.55
一般理系2年	3.72	3.70	3.75	3.77	3.56	3.58	3.73	3.82	3.60	3.01	3.26	3.13	4.38	3.48
一般理系3年	3.39	3.37	3.90	3.97	3.71	3.51	3.70	3.98	3.69	3.22	3.29	3.18	4.27	3.33
一般理系4年	3.31	3.35	4.06	4.31	3.98	3.51	3.88	4.37	3.83	3.00	3.29	3.29	4.59	3.60
一般理系5年	3.26	3.31	3.93	3.81	3.42	3.85	3.11	3.74	3.41	4.00	4.04	3.70	3.78	3.74
基礎専門1年	3.72	3.71	3.50	3.56	3.24	3.48	3.51	3.55	3.51	3.17	3.67	3.47	4.70	3.61
基礎専門2年	3.55	3.57	3.62	3.58	3.19	3.43	3.68	3.57	3.42	2.83	3.30	3.02	4.43	3.37
基礎専門3年	3.26	3.25	3.40	3.35	3.05	3.47	3.43	3.42	3.32	2.74	3.14	2.85	4.29	3.18
基礎専門4年	3.32	3.31	3.53	3.42	3.13	3.47	3.58	3.50	3.39	2.94	3.30	3.01	4.43	3.28
基礎専門5年	3.15	3.15	3.49	3.34	3.05	3.29	3.36	3.39	3.26	2.92	3.32	2.82	4.09	3.04
機械工学科1年	3.85	3.86	3.98	3.97	3.72	3.65	3.82	3.88	3.63	3.38	3.36	3.48	4.72	3.71
機械工学科2年	3.83	3.81	3.91	3.77	3.75	3.67	3.85	3.84	3.67	3.48	3.51	3.49	4.25	3.67
機械工学科3年	3.47	3.49	3.68	3.71	3.35	3.54	3.45	3.71	3.43	3.41	3.21	3.22	4.43	3.40
機械工学科4年	3.23	3.22	3.38	3.44	2.98	3.29	3.34	3.28	3.09	2.97	3.18	2.93	4.67	3.00
機械工学科5年	3.21	3.23	3.40	3.31	2.88	3.18	3.22	3.27	3.13	2.80	3.15	2.79	4.26	2.98
電気工学科1年	3.76	3.80	3.65	3.78	3.42	3.41	3.61	3.67	3.38	3.28	3.51	3.45	4.71	3.50

電気工学科2年	3.53	3.49	3.76	3.79	3.36	3.39	3.75	3.67	3.44	3.05	3.11	3.07	4.47	3.50
電気工学科3年	3.27	3.25	3.65	3.68	3.44	3.56	3.57	3.68	3.48	3.20	3.26	3.03	4.27	3.15
電気工学科4年	3.43	3.46	3.81	3.83	3.48	3.59	3.68	3.76	3.44	3.30	3.13	3.20	4.20	3.23
電気工学科5年	2.98	3.00	3.23	2.98	2.82	2.91	3.18	3.07	3.07	3.01	3.46	2.77	3.87	2.75
電子工学科1年	3.84	3.74	3.95	3.96	3.73	3.76	3.75	3.94	3.67	3.49	3.69	3.57	4.76	3.69
電子工学科2年	3.19	3.19	3.69	3.70	3.25	3.43	3.64	3.61	3.36	3.01	3.43	3.18	4.46	3.12
電子工学科3年	3.07	3.02	3.64	3.60	3.15	3.42	3.53	3.51	3.30	2.98	3.33	3.02	4.36	2.99
電子工学科4年	3.16	3.16	3.59	3.49	3.16	3.41	3.48	3.51	3.39	3.11	3.48	3.15	4.30	3.24
電子工学科5年	3.11	3.13	3.47	3.52	3.28	3.44	3.34	3.43	3.31	3.15	3.45	2.98	4.08	3.10
情報工学科1年	3.82	3.80	4.06	4.02	3.63	3.58	3.76	3.91	3.65	3.33	3.56	3.48	4.56	3.62
情報工学科2年	3.88	3.87	3.90	3.93	3.72	3.85	3.83	3.87	3.72	3.30	3.49	3.29	4.48	3.57
情報工学科3年	3.35	3.30	3.52	3.52	3.16	3.48	3.44	3.47	3.35	3.08	3.38	3.14	4.23	3.27
情報工学科4年	3.10	3.08	3.36	3.41	3.05	3.37	3.41	3.42	3.23	3.21	3.48	3.25	4.43	3.22
情報工学科5年	3.02	3.00	3.47	2.97	2.79	3.22	3.47	3.44	3.17	2.97	3.47	2.82	3.95	2.88
建築学科1年	3.51	3.50	3.47	3.52	3.18	3.24	3.42	3.48	3.32	3.20	3.62	3.40	4.64	3.38
建築学科2年	3.84	3.83	3.85	3.97	3.56	3.67	3.68	3.79	3.66	3.41	3.30	3.33	4.25	3.45
建築学科3年	3.17	3.15	3.45	3.53	3.21	3.29	3.33	3.62	3.33	3.10	3.38	3.04	4.03	3.13
建築学科4年	3.56	3.53	3.84	3.81	3.56	3.76	3.80	3.83	3.64	3.25	3.32	3.21	4.31	3.59
建築学科5年	3.32	3.34	3.88	3.85	3.48	3.65	3.59	3.80	3.61	3.07	3.33	3.00	4.19	3.51

( 出典 学内向けウェブサイト )

平成16年度実験・実習・製図学科別平均

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q1 0	Q1 1	Q1 2	Q1 3	Q1 4	Q1 5
全 体	3.44	3.44	3.50	3.26	3.53	3.40	3.48	3.59	3.51	3.15	3.24	3.15	3.22	4.41	3.53
機械工学科	3.58	3.59	3.67	3.42	3.55	3.51	3.64	3.64	3.67	3.36	3.49	3.42	3.45	4.70	3.69
電気工学科	3.48	3.45	3.59	3.29	3.74	3.49	3.57	3.76	3.61	3.14	3.32	3.04	3.12	4.52	3.52
電子工学科	3.05	3.04	3.25	2.97	3.37	3.11	3.15	3.36	3.07	2.72	2.79	2.85	2.90	4.02	3.20
情報工学科	3.28	3.27	3.01	2.97	3.18	3.18	3.19	3.18	3.36	2.99	3.00	2.85	2.80	3.76	3.24
建築学科	3.54	3.56	3.53	3.31	3.59	3.46	3.53	3.74	3.53	3.21	3.12	3.15	3.39	4.38	3.67

( 出典 学内向けウェブサイト )

資料 5 - 2 - - 7

15年度授業評価アンケート集計表(講義・演習)

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q9	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
全体	3.18	3.19	3.65	3.64	3.35	3.48	3.51	3.63	3.41	3.2	3.38	3.15	4.36	3.23
一般文系	3.21	3.17	3.74	3.67	3.46	3.65	3.53	3.66	3.43	3.52	3.59	3.33	4.38	3.29
一般理系	3.34	3.33	3.79	3.83	3.53	3.48	3.71	3.83	3.54	3.14	3.27	3.18	4.45	3.37
一般教科体育	3.04	3.13	3.81	4.08	3.56	2.71	3.65	3.68	3.09	4.04	3.8	3.95	4.56	3.92
基礎専門	3.03	3.05	3.53	3.45	3.28	3.3	3.2	3.48	3.37	3.06	3.31	2.93	4.32	3.1
機械工学科	3.11	3.11	3.5	3.48	3.17	3.32	3.39	3.47	3.23	3.13	3.29	3.07	4.44	3.15
電気工学科	3.22	3.22	3.68	3.68	3.38	3.49	3.49	3.62	3.42	3.28	3.34	3.14	4.42	3.23
電子工学科	3.05	3.05	3.63	3.56	3.31	3.41	3.44	3.56	3.36	3.07	3.38	3.1	4.37	3.13
情報工学科	3.17	3.17	3.64	3.62	3.37	3.57	3.57	3.71	3.47	3.26	3.47	3.21	4.22	3.19
建築学科	3.37	3.39	3.81	3.85	3.51	3.62	3.64	3.81	3.56	3.29	3.42	3.23	4.35	3.46
全体1年	3.45	3.44	3.7	3.68	3.39	3.43	3.57	3.64	3.42	3.23	3.44	3.34	4.54	3.43
全体2年	3.16	3.12	3.68	3.7	3.51	3.65	3.61	3.71	3.47	3.38	3.47	3.3	4.49	3.35
全体3年	3.15	3.17	3.74	3.72	3.34	3.48	3.58	3.7	3.47	3.27	3.27	3.14	4.34	3.21
全体4年	2.98	3.01	3.5	3.49	3.19	3.42	3.33	3.49	3.27	3.07	3.36	2.98	4.37	3.11
全体5年	3.1	3.15	3.64	3.58	3.32	3.44	3.42	3.63	3.42	3.04	3.35	2.93	3.96	3.01
一般文系1年	3.43	3.39	3.74	3.57	3.4	3.44	3.59	3.61	3.42	3.35	3.48	3.35	4.48	3.47
一般文系2年	3.15	3.02	3.8	3.81	3.61	3.87	3.59	3.81	3.56	3.68	3.72	3.46	4.47	3.37
一般文系3年	3.19	3.17	3.95	3.84	3.46	3.68	3.74	3.78	3.51	3.64	3.61	3.31	4.27	3.17
一般文系4年	3	3.05	3.52	3.54	3.34	3.66	3.23	3.46	3.23	3.51	3.62	3.22	4.32	3.05
一般文系5年	2.97	2.91	3.64	3.55	3.45	3.53	3.35	3.6	3.35	3.22	3.44	2.96	3.56	3.08
一般理系1年	3.42	3.41	3.77	3.79	3.39	3.44	3.59	3.73	3.47	3.01	3.34	3.18	4.52	3.36
一般理系2年	3.26	3.25	3.8	3.75	3.74	3.59	3.94	3.93	3.57	3.2	3.16	3.2	4.48	3.41
一般理系3年	3.27	3.25	3.85	4.04	3.64	3.54	3.77	3.97	3.74	3.42	3.22	3.19	4.28	3.39
一般理系4年	3.03	3.13	3.75	3.95	3.38	2.83	3.6	3.98	3.26	2.8	3.3	2.9	4.58	3.15
一般理系5年	3.17	3.28	3.72	3.5	3.33	3.29	3.11	3.39	3.18	3.72	3.76	3.47	3.78	3.28
基礎専門3年	3.01	2.98	3.18	3.04	2.66	2.84	2.46	2.94	2.96	2.63	2.95	2.58	4.16	2.73
基礎専門4年	3.04	3.06	3.63	3.55	3.48	3.52	3.44	3.64	3.51	3.2	3.43	3.02	4.38	3.21
基礎専門5年	3.1	3.3	4.3	4.5	4.3	2.89	4.2	4.5	3.8	3.7	3.85	3.7	4.3	3.8
機械工学科1年	3.34	3.32	3.53	3.38	3.29	3.26	3.49	3.5	3.3	3.11	3.43	3.3	4.5	3.45
機械工学科2年	3.22	3.09	3.8	3.76	3.6	3.79	3.61	3.71	3.49	3.54	3.37	3.33	4.61	3.47
機械工学科3年	2.94	3.05	3.55	3.61	3.04	3.22	3.39	3.41	3.21	3.27	3.29	3.14	4.53	3.09
機械工学科4年	2.99	3.02	3.41	3.46	3.1	3.33	3.23	3.42	3.11	3.01	3.18	2.93	4.44	2.99
機械工学科5年	3.06	3.05	3.3	3.28	2.94	3.1	3.29	3.37	3.13	2.89	3.21	2.77	4.17	2.85
電気工学科1年	3.43	3.44	3.64	3.62	3.32	3.4	3.63	3.53	3.41	3.16	3.31	3.28	4.61	3.41
電気工学科2年	3.16	3.13	3.72	3.85	3.55	3.76	3.58	3.77	3.46	3.44	3.48	3.13	4.63	3.32
電気工学科3年	3.22	3.18	3.95	3.94	3.51	3.59	3.64	3.81	3.49	3.3	2.92	3	4.33	3.03

電気工学科 4 年	2.87	2.88	3.43	3.35	3.05	3.29	3.12	3.34	3.21	3.15	3.6	3.1	4.42	3.16
電気工学科 5 年	3.39	3.42	3.65	3.57	3.48	3.4	3.32	3.62	3.55	3.38	3.48	3.2	3.9	3.13
電子工学科 1 年	3.26	3.23	3.87	3.77	3.47	3.45	3.62	3.8	3.47	3.2	3.47	3.38	4.59	3.44
電子工学科 2 年	3.09	3.05	3.76	3.59	3.57	3.68	3.7	3.73	3.53	3.34	3.51	3.34	4.62	3.4
電子工学科 3 年	3.1	3.13	3.68	3.58	3.23	3.28	3.47	3.56	3.4	3.1	3.37	3.11	4.28	3.08
電子工学科 4 年	2.81	2.83	3.24	3.21	2.89	3.18	3.02	3.08	2.98	2.72	3.23	2.68	4.26	2.8
電子工学科 5 年	2.94	3.01	3.58	3.62	3.41	3.46	3.39	3.59	3.43	3	3.33	2.94	4.01	2.91
情報工学科 1 年	3.64	3.59	3.87	3.85	3.57	3.64	3.6	3.81	3.51	3.44	3.65	3.46	4.46	3.48
情報工学科 2 年	3.08	3.05	3.45	3.59	3.36	3.54	3.56	3.53	3.43	3.27	3.47	3.36	4.19	3.18
情報工学科 3 年	3.03	3.06	3.56	3.6	3.28	3.59	3.6	3.68	3.46	3.34	3.39	3.27	4.36	3.29
情報工学科 4 年	3.06	3.09	3.57	3.54	3.31	3.56	3.57	3.75	3.5	3.19	3.41	3	4.17	2.99
情報工学科 5 年	3	3.03	3.81	3.46	3.35	3.49	3.49	3.8	3.41	2.94	3.43	2.83	3.71	2.94
建築学科 1 年	3.58	3.59	3.6	3.75	3.32	3.43	3.52	3.58	3.41	3.26	3.4	3.31	4.5	3.38
建築学科 2 年	3.27	3.29	3.69	3.72	3.47	3.52	3.59	3.82	3.45	3.37	3.5	3.36	4.45	3.42
建築学科 3 年	3.45	3.44	3.98	3.9	3.64	3.69	3.79	4.01	3.74	3.34	3.35	3.17	4.2	3.52
建築学科 4 年	3.17	3.22	3.87	3.89	3.6	3.7	3.71	3.87	3.59	3.33	3.48	3.24	4.57	3.67
建築学科 5 年	3.24	3.33	4.01	4.06	3.59	3.9	3.64	3.88	3.68	3.14	3.41	2.98	3.88	3.3
機械工学科 1 年	3.34	3.32	3.53	3.38	3.29	3.26	3.49	3.5	3.3	3.11	3.43	3.3	4.5	3.45
電気工学科 1 年	3.43	3.44	3.64	3.62	3.32	3.4	3.63	3.53	3.41	3.16	3.31	3.28	4.61	3.41
電子工学科 1 年	3.26	3.23	3.87	3.77	3.47	3.45	3.62	3.8	3.47	3.2	3.47	3.38	4.59	3.44
情報工学科 1 年	3.64	3.59	3.87	3.85	3.57	3.64	3.6	3.81	3.51	3.44	3.65	3.46	4.46	3.48
建築学科 1 年	3.58	3.59	3.6	3.75	3.32	3.43	3.52	3.58	3.41	3.26	3.4	3.31	4.5	3.38
機械工学科 2 年	3.22	3.09	3.8	3.76	3.6	3.79	3.61	3.71	3.49	3.54	3.37	3.33	4.61	3.47
電気工学科 2 年	3.16	3.13	3.72	3.85	3.55	3.76	3.58	3.77	3.46	3.44	3.48	3.13	4.63	3.32
電子工学科 2 年	3.09	3.05	3.76	3.59	3.57	3.68	3.7	3.73	3.53	3.34	3.51	3.34	4.62	3.4
情報工学科 2 年	3.08	3.05	3.45	3.59	3.36	3.54	3.56	3.53	3.43	3.27	3.47	3.36	4.19	3.18
建築学科 2 年	3.27	3.29	3.69	3.72	3.47	3.52	3.59	3.82	3.45	3.37	3.5	3.36	4.45	3.42
機械工学科 3 年	2.94	3.05	3.55	3.61	3.04	3.22	3.39	3.41	3.21	3.27	3.29	3.14	4.53	3.09
電気工学科 3 年	3.22	3.18	3.95	3.94	3.51	3.59	3.64	3.81	3.49	3.3	2.92	3	4.33	3.03
電子工学科 3 年	3.1	3.13	3.68	3.58	3.23	3.28	3.47	3.56	3.4	3.1	3.37	3.11	4.28	3.08
情報工学科 3 年	3.03	3.06	3.56	3.6	3.28	3.59	3.6	3.68	3.46	3.34	3.39	3.27	4.36	3.29
建築学科 3 年	3.45	3.44	3.98	3.9	3.64	3.69	3.79	4.01	3.74	3.34	3.35	3.17	4.2	3.52
機械工学科 4 年	2.99	3.02	3.41	3.46	3.1	3.33	3.23	3.42	3.11	3.01	3.18	2.93	4.44	2.99
電気工学科 4 年	2.87	2.88	3.43	3.35	3.05	3.29	3.12	3.34	3.21	3.15	3.6	3.1	4.42	3.16
電子工学科 4 年	2.81	2.83	3.24	3.21	2.89	3.18	3.02	3.08	2.98	2.72	3.23	2.68	4.26	2.8
情報工学科 4 年	3.06	3.09	3.57	3.54	3.31	3.56	3.57	3.75	3.5	3.19	3.41	3	4.17	2.99
建築学科 4 年	3.17	3.22	3.87	3.89	3.6	3.7	3.71	3.87	3.59	3.33	3.48	3.24	4.57	3.67
機械工学科 5 年	3.06	3.05	3.3	3.28	2.94	3.1	3.29	3.37	3.13	2.89	3.21	2.77	4.17	2.85
電気工学科 5 年	3.39	3.42	3.65	3.57	3.48	3.4	3.32	3.62	3.55	3.38	3.48	3.2	3.9	3.13

電子工学科 5年	2.94	3.01	3.58	3.62	3.41	3.46	3.39	3.59	3.43	3	3.33	2.94	4.01	2.91
情報工学科 5年	3	3.03	3.81	3.46	3.35	3.49	3.49	3.8	3.41	2.94	3.43	2.83	3.71	2.94
建築学科 5年	3.24	3.33	4.01	4.06	3.59	3.9	3.64	3.88	3.68	3.14	3.41	2.98	3.88	3.3
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q9	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
全体	3.18	3.19	3.65	3.64	3.35	3.48	3.51	3.63	3.41	3.2	3.38	3.15	4.36	3.23
一般文系	3.21	3.17	3.74	3.67	3.46	3.65	3.53	3.66	3.43	3.52	3.59	3.33	4.38	3.29
一般理系	3.34	3.33	3.79	3.83	3.53	3.48	3.71	3.83	3.54	3.14	3.27	3.18	4.45	3.37
一般教科体育	3.04	3.13	3.81	4.08	3.56	2.71	3.65	3.68	3.09	4.04	3.8	3.95	4.56	3.92
基礎専門	3.03	3.05	3.53	3.45	3.28	3.3	3.2	3.48	3.37	3.06	3.31	2.93	4.32	3.1
機械工学科	3.11	3.11	3.5	3.48	3.17	3.32	3.39	3.47	3.23	3.13	3.29	3.07	4.44	3.15
電気工学科	3.22	3.22	3.68	3.68	3.38	3.49	3.49	3.62	3.42	3.28	3.34	3.14	4.42	3.23
電子工学科	3.05	3.05	3.63	3.56	3.31	3.41	3.44	3.56	3.36	3.07	3.38	3.1	4.37	3.13
情報工学科	3.17	3.17	3.64	3.62	3.37	3.57	3.57	3.71	3.47	3.26	3.47	3.21	4.22	3.19
建築学科	3.37	3.39	3.81	3.85	3.51	3.62	3.64	3.81	3.56	3.29	3.42	3.23	4.35	3.46
全体 1年	3.45	3.44	3.7	3.68	3.39	3.43	3.57	3.64	3.42	3.23	3.44	3.34	4.54	3.43
全体 2年	3.16	3.12	3.68	3.7	3.51	3.65	3.61	3.71	3.47	3.38	3.47	3.3	4.49	3.35
全体 3年	3.15	3.17	3.74	3.72	3.34	3.48	3.58	3.7	3.47	3.27	3.27	3.14	4.34	3.21
全体 4年	2.98	3.01	3.5	3.49	3.19	3.42	3.33	3.49	3.27	3.07	3.36	2.98	4.37	3.11
全体 5年	3.1	3.15	3.64	3.58	3.32	3.44	3.42	3.63	3.42	3.04	3.35	2.93	3.96	3.01
一般文系 1年	3.43	3.39	3.74	3.57	3.4	3.44	3.59	3.61	3.42	3.35	3.48	3.35	4.48	3.47
一般文系 2年	3.15	3.02	3.8	3.81	3.61	3.87	3.59	3.81	3.56	3.68	3.72	3.46	4.47	3.37
一般文系 3年	3.19	3.17	3.95	3.84	3.46	3.68	3.74	3.78	3.51	3.64	3.61	3.31	4.27	3.17
一般文系 4年	3	3.05	3.52	3.54	3.34	3.66	3.23	3.46	3.23	3.51	3.62	3.22	4.32	3.05
一般文系 5年	2.97	2.91	3.64	3.55	3.45	3.53	3.35	3.6	3.35	3.22	3.44	2.96	3.56	3.08
一般理系 1年	3.42	3.41	3.77	3.79	3.39	3.44	3.59	3.73	3.47	3.01	3.34	3.18	4.52	3.36
一般理系 2年	3.26	3.25	3.8	3.75	3.74	3.59	3.94	3.93	3.57	3.2	3.16	3.2	4.48	3.41
一般理系 3年	3.27	3.25	3.85	4.04	3.64	3.54	3.77	3.97	3.74	3.42	3.22	3.19	4.28	3.39
一般理系 4年	3.03	3.13	3.75	3.95	3.38	2.83	3.6	3.98	3.26	2.8	3.3	2.9	4.58	3.15
一般理系 5年	3.17	3.28	3.72	3.5	3.33	3.29	3.11	3.39	3.18	3.72	3.76	3.47	3.78	3.28
基礎専門 3年	3.01	2.98	3.18	3.04	2.66	2.84	2.46	2.94	2.96	2.63	2.95	2.58	4.16	2.73
基礎専門 4年	3.04	3.06	3.63	3.55	3.48	3.52	3.44	3.64	3.51	3.2	3.43	3.02	4.38	3.21
基礎専門 5年	3.1	3.3	4.3	4.5	4.3	2.89	4.2	4.5	3.8	3.7	3.85	3.7	4.3	3.8
機械工学科 1年	3.34	3.32	3.53	3.38	3.29	3.26	3.49	3.5	3.3	3.11	3.43	3.3	4.5	3.45
機械工学科 2年	3.22	3.09	3.8	3.76	3.6	3.79	3.61	3.71	3.49	3.54	3.37	3.33	4.61	3.47
機械工学科 3年	2.94	3.05	3.55	3.61	3.04	3.22	3.39	3.41	3.21	3.27	3.29	3.14	4.53	3.09
機械工学科 4年	2.99	3.02	3.41	3.46	3.1	3.33	3.23	3.42	3.11	3.01	3.18	2.93	4.44	2.99
機械工学科 5年	3.06	3.05	3.3	3.28	2.94	3.1	3.29	3.37	3.13	2.89	3.21	2.77	4.17	2.85
電気工学科 1年	3.43	3.44	3.64	3.62	3.32	3.4	3.63	3.53	3.41	3.16	3.31	3.28	4.61	3.41
電気工学科 2年	3.16	3.13	3.72	3.85	3.55	3.76	3.58	3.77	3.46	3.44	3.48	3.13	4.63	3.32

電気工学科 3年	3.22	3.18	3.95	3.94	3.51	3.59	3.64	3.81	3.49	3.3	2.92	3	4.33	3.03
電気工学科 4年	2.87	2.88	3.43	3.35	3.05	3.29	3.12	3.34	3.21	3.15	3.6	3.1	4.42	3.16
電気工学科 5年	3.39	3.42	3.65	3.57	3.48	3.4	3.32	3.62	3.55	3.38	3.48	3.2	3.9	3.13
電子工学科 1年	3.26	3.23	3.87	3.77	3.47	3.45	3.62	3.8	3.47	3.2	3.47	3.38	4.59	3.44
電子工学科 2年	3.09	3.05	3.76	3.59	3.57	3.68	3.7	3.73	3.53	3.34	3.51	3.34	4.62	3.4
電子工学科 3年	3.1	3.13	3.68	3.58	3.23	3.28	3.47	3.56	3.4	3.1	3.37	3.11	4.28	3.08
電子工学科 4年	2.81	2.83	3.24	3.21	2.89	3.18	3.02	3.08	2.98	2.72	3.23	2.68	4.26	2.8
電子工学科 5年	2.94	3.01	3.58	3.62	3.41	3.46	3.39	3.59	3.43	3	3.33	2.94	4.01	2.91
情報工学科 1年	3.64	3.59	3.87	3.85	3.57	3.64	3.6	3.81	3.51	3.44	3.65	3.46	4.46	3.48
情報工学科 2年	3.08	3.05	3.45	3.59	3.36	3.54	3.56	3.53	3.43	3.27	3.47	3.36	4.19	3.18
情報工学科 3年	3.03	3.06	3.56	3.6	3.28	3.59	3.6	3.68	3.46	3.34	3.39	3.27	4.36	3.29
情報工学科 4年	3.06	3.09	3.57	3.54	3.31	3.56	3.57	3.75	3.5	3.19	3.41	3	4.17	2.99
情報工学科 5年	3	3.03	3.81	3.46	3.35	3.49	3.49	3.8	3.41	2.94	3.43	2.83	3.71	2.94
建築学科 1年	3.58	3.59	3.6	3.75	3.32	3.43	3.52	3.58	3.41	3.26	3.4	3.31	4.5	3.38
建築学科 2年	3.27	3.29	3.69	3.72	3.47	3.52	3.59	3.82	3.45	3.37	3.5	3.36	4.45	3.42
建築学科 3年	3.45	3.44	3.98	3.9	3.64	3.69	3.79	4.01	3.74	3.34	3.35	3.17	4.2	3.52
建築学科 4年	3.17	3.22	3.87	3.89	3.6	3.7	3.71	3.87	3.59	3.33	3.48	3.24	4.57	3.67
建築学科 5年	3.24	3.33	4.01	4.06	3.59	3.9	3.64	3.88	3.68	3.14	3.41	2.98	3.88	3.3
機械工学科 1年	3.34	3.32	3.53	3.38	3.29	3.26	3.49	3.5	3.3	3.11	3.43	3.3	4.5	3.45
電気工学科 1年	3.43	3.44	3.64	3.62	3.32	3.4	3.63	3.53	3.41	3.16	3.31	3.28	4.61	3.41
電子工学科 1年	3.26	3.23	3.87	3.77	3.47	3.45	3.62	3.8	3.47	3.2	3.47	3.38	4.59	3.44
情報工学科 1年	3.64	3.59	3.87	3.85	3.57	3.64	3.6	3.81	3.51	3.44	3.65	3.46	4.46	3.48
建築学科 1年	3.58	3.59	3.6	3.75	3.32	3.43	3.52	3.58	3.41	3.26	3.4	3.31	4.5	3.38
機械工学科 2年	3.22	3.09	3.8	3.76	3.6	3.79	3.61	3.71	3.49	3.54	3.37	3.33	4.61	3.47
電気工学科 2年	3.16	3.13	3.72	3.85	3.55	3.76	3.58	3.77	3.46	3.44	3.48	3.13	4.63	3.32
電子工学科 2年	3.09	3.05	3.76	3.59	3.57	3.68	3.7	3.73	3.53	3.34	3.51	3.34	4.62	3.4
情報工学科 2年	3.08	3.05	3.45	3.59	3.36	3.54	3.56	3.53	3.43	3.27	3.47	3.36	4.19	3.18
建築学科 2年	3.27	3.29	3.69	3.72	3.47	3.52	3.59	3.82	3.45	3.37	3.5	3.36	4.45	3.42
機械工学科 3年	2.94	3.05	3.55	3.61	3.04	3.22	3.39	3.41	3.21	3.27	3.29	3.14	4.53	3.09
電気工学科 3年	3.22	3.18	3.95	3.94	3.51	3.59	3.64	3.81	3.49	3.3	2.92	3	4.33	3.03
電子工学科 3年	3.1	3.13	3.68	3.58	3.23	3.28	3.47	3.56	3.4	3.1	3.37	3.11	4.28	3.08
情報工学科 3年	3.03	3.06	3.56	3.6	3.28	3.59	3.6	3.68	3.46	3.34	3.39	3.27	4.36	3.29
建築学科 3年	3.45	3.44	3.98	3.9	3.64	3.69	3.79	4.01	3.74	3.34	3.35	3.17	4.2	3.52
機械工学科 4年	2.99	3.02	3.41	3.46	3.1	3.33	3.23	3.42	3.11	3.01	3.18	2.93	4.44	2.99
電気工学科 4年	2.87	2.88	3.43	3.35	3.05	3.29	3.12	3.34	3.21	3.15	3.6	3.1	4.42	3.16
電子工学科 4年	2.81	2.83	3.24	3.21	2.89	3.18	3.02	3.08	2.98	2.72	3.23	2.68	4.26	2.8
情報工学科 4年	3.06	3.09	3.57	3.54	3.31	3.56	3.57	3.75	3.5	3.19	3.41	3	4.17	2.99
建築学科 4年	3.17	3.22	3.87	3.89	3.6	3.7	3.71	3.87	3.59	3.33	3.48	3.24	4.57	3.67
機械工学科 5年	3.06	3.05	3.3	3.28	2.94	3.1	3.29	3.37	3.13	2.89	3.21	2.77	4.17	2.85

電気工学科 5 年	3.39	3.42	3.65	3.57	3.48	3.4	3.32	3.62	3.55	3.38	3.48	3.2	3.9	3.13
電子工学科 5 年	2.94	3.01	3.58	3.62	3.41	3.46	3.39	3.59	3.43	3	3.33	2.94	4.01	2.91
情報工学科 5 年	3	3.03	3.81	3.46	3.35	3.49	3.49	3.8	3.41	2.94	3.43	2.83	3.71	2.94
建築学科 5 年	3.24	3.33	4.01	4.06	3.59	3.9	3.64	3.88	3.68	3.14	3.41	2.98	3.88	3.3

平成 15 年度授業評価アンケート（実験・実習・製図）

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
全体	3.18	3.23	3.52	3.32	3.62	3.47	3.58	3.7	3.7	3.11	3.2	3.1	3.17	4.43	3.51
機械工学科	3.23	3.26	3.52	3.33	3.5	3.3	3.58	3.67	3.64	2.8	2.97	3.21	3.39	4.61	3.57
電気工学科	3.23	3.28	3.35	3.22	3.6	3.41	3.51	3.61	3.71	3.21	3.41	3.22	3.19	4.52	3.6
電子工学科	2.99	3.05	3.53	3.2	3.46	3.3	3.38	3.49	3.36	3.12	3.22	2.84	2.8	4.34	3.1
情報工学科	3.01	3.07	3.5	3.36	3.57	3.62	3.6	3.8	4.03	3.14	3.26	2.89	3.08	4.23	3.37
建築学科	3.4	3.44	3.64	3.44	3.9	3.69	3.79	3.92	3.85	3.26	3.21	3.29	3.4	4.44	3.87

（出典 学内向けウェブサイト）

（分析結果とその根拠理由）

シラバスには、教育課程編成の基本方針に基づいて、学習・教育目標に対する当該科目の位置づけ、授業科目の達成目標や成績評価方法を明確に記載するとともに、学生の自己（到達度）評価が可能なように講義項目ごとに達成目標が記載されている。また、シラバスが学生により良く活用されるように、各種の意識付けの取り組みが行われ、その成果は授業評価アンケートにも現れている。

したがって、教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され十分活用されている。

観点 5 - 2 - : 創造性を育む教育方法（PBL など）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点到係る状況）

観点到係る本校の取り組みの事例は以下のとおりである。（資料 5 - 2 - - 1）

資料 5 - 2 - - 1

取組事例	取組の概要	参考資料
創造工学	2年全学科の学生を10テーマ(1テーマ約20名)に配属して混合学級を構成し、与えられた課題の問題解決を図る授業である。 他学科生とのコミュニケーションや発想・検討・設計・製作・完成品の機能評価・報告書作成・プレゼンテーションなどPBLに近い多様な教育効果が期待される。	資料 5 - 2 - - 3
卒業研究	習得した知識や思考方法を応用発展させ、創造的能力や成果発表を通じたプレゼンテーション能力の養成及び総合的判断力を養うようなテーマ選定や指導・評価を行っている。	資料 5 - 2 - - 2 資料 5 - 2 - - 3
インターンシップ	H15年度までの本校のインターンシップ実施学生数は10名程度であったが、多様な進路を選択するためにはインターンシップが何より効果的であるとの結論から、受入企業の開拓を行った。 その結果、H16年度インターンシップ実施学生は106名を数えた。評価に関しては、学生	資料 5 - 2 - - 4 資料 5 - 2 - - 5 資料 5 - 2 - - 6
	の報告書や受入企業からの評価、学内での実施報告会など単に就労体験に終わらせることなく、報告書作成・プレゼンテーション能力など多彩な学習の一つとして定着してきている。	

(出典 本自己点検評価のための作成資料)

資料 5 - 2 - - 2

卒業研究テーマ

氏名	卒業研究テーマ
	フレーク状氷の連続生成装置の開発
	AI - Motor を使ったメカトロニクス教材の開発
	軽量造粒体と廃棄アルミニウムの複合材料創製
	表面に凸部形状を有する円柱の抗力係数に関する研究
	MTS 法によるパターン認識に関する基礎研究
	平面ローラバニシング加工の加工条件最適化



	難切削材の切削加工条件の最適化に関する基礎研究
	交通渋滞緩和のための信号表示の最適化に関するアプローチ
	極低温加工熱処理を利用したアルミニウム合金の強靱化に関する研究
	人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
	軽量造粒体と廃棄アルミニウムの複合材料創製
	大気乱流拡散に関する風洞実験
	トランペットのマウスピースに生じる圧力損失と音色の関係
	感温磁性流体を用いた小型熱輸送機器の開発
	NiAl 系金属間化合物の諸特性
	LabView を用いた熱線風速計の構築
	VB を用いた振動実験装置の製作
	岩盤調査ロボットの設計製作
	極低温加工熱処理を利用したアルミニウム合金の強靱化に関する研究
	鍛造解析ソフト(Super Forge)による型鍛造解析に関する基礎研究
	MATLAB によるシーソー倒立振子の安定化制御
	蓄冷，蓄熱カプセル装置の数値シミュレーション
	人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
	蓄冷，蓄熱カプセル装置の数値シミュレーション
	過冷却液滴の物体衝突による急速凝固挙動に関する研究
	メカニズムシミュレーションを主体とした 3 次元 CAD 教育システムの開発
	NiAl 系金属間化合物の諸特性
	表面に凸部形状を有する円柱の抗力係数に関する研究
	人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
	リッツ法を用いた偏平 FRP シェルの振動解析
	高強度軽量 FRP 構造材の実用化に関する研究
	寒冷地域における氷冷熱貯蔵に関する基礎研究
	高強度軽量 FRP 構造材の実用化に関する研究
電気工学科	
氏 名	卒業研究テーマ
	ワンチップマイクロコンピュータ(PIC)学習支援システムの開発
	FDTD 法によるマイクロストリップラインおよびパッチアンテナの解析
	ARCS モデルに基づいたシーケンス制御学習教材の開発
	レーダ画像上の雲の陰影の除去
	全方向移動のための速度検出システム

	リビングの照明設計
	遺伝的アルゴリズムと画像処理を用いたアイリスリングの測定
	電力系統工学解析用プログラムの開発
	PIC を用いた制御実験のためのインターフェースの開発
	光センサーの基礎研究 半導体レーザーを用いた場合の ATR 特性の評価
	インテリジェントパッドを用いた文書画像のサムネイル作成
	片側短絡型方形 M S A の F D T D 法による放射特性の解析
	FDTD 法による八木・宇田アンテナの解析
	全方向移動台車の構築
	風力発電が電力系統に与える影響
	円形マイクロストリップアンテナの F D T D 法による放射特性の解析
	方形マイクロストリップアンテナの F D T D 法による放射特性の解析
	光を用いた音波測定
	放電図形の研究
	教室の照明設計
	妨害電磁波の可視化
	FDTD 法による導波管の解析
	碍子の絶縁特性
	強化学習を用いた氷海の最適航法の開発
	片側短絡型円形マイクロストリップアンテナの F D T D 法による放射特性の解析
	畜産廃棄物バイオマスの現状と展望
	災害対応型太陽光発電装置
	交流高電圧プラズマ発生装置の製作
	双方向通信可能な力覚提示装置の開発
	BaWO4 に関するフォノン特性シミュレーション
	パルス変調伝送
	フリーストル牛舎における画像認識処理技術を用いた乳牛の運動量に基づく発情発見システムの構築
	コアに粉末金属を使ったトランスの基礎研究圧力依存性測定装置の構想
電子工学科	
氏 名	卒業研究テーマ
	全方位視覚センサによる情報取得
	定点カメラ映像のための動きを用いた物体認識
	離散コサイン変換を用いた画像への電子透かしの埋込み

	ISO データ法及び K-means 法によるカラー画像の領域分割
	携帯電話を用いた学習システムの作成
	光散乱を用いた魚の雌雄判別法の開発
	ロウ管からの光学的音声再生装置の開発
	Java を用いた生徒用教材の作成
	未広方式を用いた CDMA 通信方式に関する研究
	OpenGL を用いたライントレースカーのシミュレーション
	オーディオアナライザーの設計と製作
	D S P による I I R フィルタの作成と F I R フィルタとの比較
	熱電半導体を用いた煙突の廃熱を応用した温度差発電装置の研究
	FDTD 法を用いた多層膜構造の光学特性解析
	J A V A による演算装置シミュレータの作成
	人間の流動量調査のための人物の頭部検出
	定点カメラ映像保存のためのカット点抽出
	PLD 法を用いた超電導 MgB2 薄膜の作成
	MusicXML を用いた楽譜処理
	Pulsed Laser Deposition ( PLD ) による YBCO 薄膜の作製
	J a v a による S I M A C シミュレータの作成
	Si や SiGe と , Ni と Zr の多層膜界面の評価
	分光スペクトルからの任意表色表現
	M 系列による乱数の発生
	携帯電話用学習システムの開発
	MgB2 厚膜の超電導回路化への検討
	Squid 磁束計を用いた土壌インピーダンスの測定
	熱電半導体を用いた温度差発電装置の研究
	オーディオアナライザーの設計と製作
	SQUID 磁束計を用いた土壌インピーダンス測定のための低周波領域における磁気シールドの検討
	USB カメラによる物体認識と動き検出
	Web 上での電子工学科 P R
	DeIphi による周波数成分を考慮した立体的なイミタンスチャータの製作
	CPLD によるモータ制御コントローラの製作
	自律移動型ロボットによるロボットトリアスロン
	光と音によるロボットの感情表現に関する研究

	高速ライントレースカーの精密制御
	蝶翅の持つ構造色の分光特性測定装置の開発
情報工学科	
氏名	卒業研究テーマ
	動画像によるユーザインターフェイスの開発
	ネットワークシミュレートシステムの開発
	3次元空間マルチエージェントシステムの構築と考察
	携帯型ゲーム機を用いた音楽演奏装置の開発
	ウェブカメラを用いた指し棒の指示動作抽出
	風紋を利用した除雪道シミュレーション
	Circular-arc Graph の最大マッチングアルゴリズム
	部分的演奏から検索可能な楽曲検索システムの開発
	非協力的非ゼロ和 $2 \times 2$ 対称ゲーム(チキンゲーム)における最適複合戦略
	Bipartite Permutation Graph の最短路アルゴリズム
	ルータ実習支援システム " EMERALD " の開発
	輝度成分に影響されない対象領域の抽出
	メタリック塗装のCG表現
	周波数領域における雑音除去の評価基準の提案
	OpenGL を用いた手話学習ソフトウェアの作成
	JPEG 復号データの圧縮についての研究
	変化球の軌道シミュレーション
	写真の汚損部位検出と修復
	多脚型ロボットの姿勢制御に関する研究
	携帯電話の Java を用いた学習システムの開発
	Permutation Graph の最大独立節点集合アルゴリズム
	卒業研究論文支援アーカイブ " ZAcro " の開発
	仮想マシンによる Linux カーネルの実習用材料の開発
	自己組織化モデルを用いた楽曲の分類
	支点固定の倒立振子の制御
	釧路高専のボイラーの最適負荷配分制御
	有限オートマトン学習ツール FADraw 2004 開発
	蟻の理論のシミュレーションと数学的考察
	Web アプリケーションによるネットワークカメラ制御

	ハンドボール戦術シミュレーターの開発
	T-Engine プラットフォームでのミドルウェアの検討と開発
	認識候補保持ラティスを用いたオンライン手書き文字列認識
建築学科	
氏 名	卒業研究テーマ
	新多機能素材開発における耐久性の実験
	軽量造粒品を用いたコンクリートの強度と凍害性
	ing-store ~繋がる好奇心~
	木造住宅における床面剛性が耐震性におよぼす影響
	軽量造粒品を用いたコンクリートの強度と凍害性
	道内の気温変化について
	北海道漁村の市街地空間構成に関する研究
	地盤凍結が住宅の振動特性に及ぼす影響
	施設複合 ~地域住民が集う場の提案~
	地盤凍結が住宅の振動特性に及ぼす影響
	湿り空気の状態計算を行うプログラムの作成
	濃霧地域におけるサンルームの調湿効果に関する実験研究
	学校教室における照明環境改善のための実測調査
	環境工学実験明瞭度試験のための単音節リスト再生プログラム作成
	フーリエ変換を用いたプレキャストコンクリート接合面の形状分析
	昭和保育園建設案 ~
	時間日影図の作成
	Refine Architecture ~廃校舎再生へ向けての一試み~
	自遊林 ~自然の声を聴く場所~
	北海道漁村の市街地空間構成に関する研究
	2003年十勝沖地震における地震動特性に関する研究
	集合住宅のかたち ~北方型集合住宅の提案~
	濃霧地域におけるサンルームの調湿効果に関する実験研究
	鉄筋拘束による高強度コンクリートの耐凍害性に関する研究
	ガラス廃材(カレット)の有効利用によるタイルブリックの開発
	CUBE BOX ~リバーサイドにおけるホテル計画~
	Base of Welfare
	The Place of the Life in area
	新多機能素材開発における耐久性の実験

	釧路駅と駅前の再生
	高齢者と若年者の日常生活に関する調査研究
	フーリエ変換を用いたプレキャストコンクリート接合面の形状分析

(出典 学生課資料)

資料 5 - 2 - - 3

平成 16 年度  
 釧路工業高等専門学校  
 第 36 期 機械工学科

卒業研究発表会  
 講演予稿集

日時：平成<sup>17</sup>16年2月4日(金) 9:00~16:05  
 場所：釧路高専 大講義室  
 講演時間：7,10,13分、質疑応答：5分

Name *T. Miya*

## 講演プログラム



9:05~10:30 第1セッション【熱工学, 動力】

【司会進行: . . . . .】

1. 蓄冷、蓄熱カプセル装置の数値シミュレーション
2. 過冷却液滴の物体衝突による急速凝固挙動に関する研究
3. フレーク状氷の連続生成装置の開発
4. 感温磁性流体を用いた小型熱輸送機器の開発
5. 寒冷地域における氷冷熱貯蔵に関する基礎研究
6. 人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作

~ 休憩 (10分) ~

10:40~12:05 第2セッション【機械材料, 材料力学】

【司会進行: . . . . .】

7. 軽量造粒体と廃棄アルミニウムの複合材料創製
8. NiAl 系金属間化合物の諸特性
9. 極低温加工熱処理を利用したアルミニウム合金の強靱化に関する研究
10. 高強度軽量 FRP 構造材の実用化に関する研究
11. リッツ法を用いた偏平 FRP シェルの振動解析
12. YB を用いた振動実験装置の製作

~ 休憩・昼食 (55分) ~

13:00~14:30 第3セッション【流体工学, その他】

【司会進行: . . . . .】

13. 表面に凸部形状を有する円柱の抗力係数に関する研究
14. 大気乱流拡散に関する風洞実験
15. LabView を用いた熱線風速計の構築
16. トランペットのマウスピースに生じる圧力変動と音色
17. 難切削材の切削加工条件の最適化に関する基礎研究
18. 平面ローラバニシング加工の加工条件最適化
19. TS 法によるパターン認識に関する基礎研究

~ 休憩 (10分) ~

14:40~15:55 第4セッション【制御工学, メカトロニクス, 生産加工・管理, 情報処理】

【司会進行: . . . . .】

20. AI-Motor を使ったメカトロニクス教材の開発
21. 岩盤調査ロボットの設計製作
22. MATLAB によるシーソー倒立振子の安定化制御
23. 交通渋滞緩和のための車両流れのモデル化に関する基礎実験
24. 鍛造解析ソフト(Super Forge)による型鍛造解析に関する基礎研究
25. メカニズムシミュレーションを主体とした3次元CAD 教育システムの開発

球カプセル潜熱蓄熱装置の性能の数値シミュレーション

学 (伝熱実験室)  
正 山岸 英明(伝熱実験室)

学 (伝熱実験室)  
正 龍 耕二(伝熱実験室)

1. 緒言

近年、石油に替わる新しいエネルギーとして、太陽、地熱および風力など各種自然エネルギー利用などが積極的になされている。しかし、エネルギー密度や不規則性に加えて、低温度レベルのエネルギーであるという問題を克服しなければならない。そのためにはエネルギーの平準化や、エネルギー貯蔵技術の開発が不可欠である。

このような観点より、本研究では球カプセルを封入した蓄熱・蓄冷槽の性能についての数値シミュレーションを試みた。その結果、カプセル内相変化物質(PCM)としてリン酸水素二ナトリウムと水の2つを選び、蓄熱槽やカプセルの時間変動特性を明らかにした。

2. 数値シミュレーションの方法

2-1. 解析モデル

本解析においては、球カプセル潜熱蓄熱方式のモデルを採用した。まず、熱媒体(流体)に関してはFig.1中の矢印の通り、垂直に蓄熱部を通過して出口へと流出する。槽の壁は断熱されており熱が逃げることはない。解析に用いた蓄熱槽は、容量0.3m<sup>3</sup>の立体形状、l=0.67mである。また、球カプセルの外径はD=0.073m、内半径はRc=0.035mのものであり、蓄熱部に10段重ねたPCMの界面位置Rの定義はFig.2に示すように、球カプセル内の層変化していない部分の半径で表わされる。

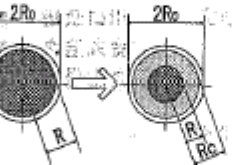
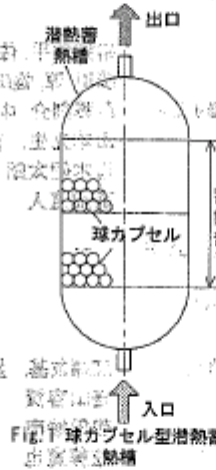


Fig. 2 界面位置Rの理論

2-2. 基礎方程式

本解析は、熱媒体が球カプセル1段進む経過時間を1タイムステップとし、垂直に10段で流出するとして行った。これをC++言語プログラムを用いて数値シミュレーションを行い、徐々に流入する熱媒体の影響で変化していく熱量q、流体温度T、界面位置Rの時間経過に対する変化の値をR=0.05になるまで求めた。以下にその手順を示す。

蓄熱槽内の温度は同じ段では一様であり、z軸方向にのみ変化するとし、流速uで熱媒体が流入するとする。熱媒体と球カプセルの温度差ΔTは10kとした。解析にあたり次のよ

うに無次元化を行う。

$$\left. \begin{aligned} T^* &= \frac{T - T_c}{T_h - T_c} & u^* &= \frac{Rc}{R} u & r^* &= \frac{r}{Rc} \\ \frac{\partial T^*}{\partial t^*} + u^* \frac{\partial T^*}{\partial z^*} &= \frac{\partial^2 T^*}{\partial z^{*2}} + q^*(z) \end{aligned} \right\} \quad (1)$$

球カプセルまわりの熱媒体の温度は、次のエネルギー式で表される。

$$(1) \text{の} \frac{\partial T^*}{\partial t^*} + u^* \frac{\partial T^*}{\partial z^*} = \frac{\partial^2 T^*}{\partial z^{*2}} + q^*(z) \quad (2)$$

腸解法により式(2)を次のように変換し、

$$(1-\alpha) \frac{T_i^{*n+1} - T_i^{*n}}{\Delta t} + u \frac{T_{i+1}^n - T_i^n}{\Delta z} = \frac{T_{i+1}^n - 2T_i^n + T_{i-1}^n}{\Delta z^2} + q_i^*$$

整理すると

$$T_i^{*n+1} = \frac{u}{1-\alpha} \frac{(T_{i+1}^n - T_i^n)}{\Delta z} \Delta t + \frac{\Delta t}{(1-\alpha)\Delta z^2} (T_{i+1}^n - 2T_i^n + T_{i-1}^n) + \frac{q_i^*}{1-\alpha} \Delta t + T_i^{*n} \quad (3)$$

ここでq<sub>i</sub><sup>\*</sup>はPCMを封入した球カプセルによる単位体積あたりの発熱速度を表し、凝固の際、界面の移動量から以下のよう求められる。

$$q_i^*(z) = \Gamma \frac{k_j}{k_j} \frac{T_f - T^*}{R^* - 1 + \beta} \quad (4)$$

無次元界面位置R<sup>\*</sup>は次式のように表せる。

$$(R^*)^2 + \frac{2}{3}(\beta - 1)(R^*) = 2 \frac{S_0}{\sigma_j} S_0 \int \left( \frac{T_f}{T_f - T^*} \right) dz + \frac{1}{3}(2R + 1) \quad (5)$$

以降、無次元を表す指標は省略する。

2-3. 解析手順

以下に解析の手順を示す。各球カプセルからばq、Tの値の3つの値を求めることができる。まず、qを求めるためには一つ前の時間のRとTを用いる。Fig.3の中で示すと(灰色の

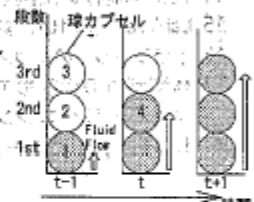


Fig. 3 時間経過におけるシミュレーションの手順

のところまで流体が流れているとする)。カプセル4のqを求めるには、一つ前の時間のカプセル1のTとカプセル2のRから求める。Tの値を求めるには、一つ前の時間の3つ(カプセル1,2,3)のTと、求めたい時間(カプセル4)のqから、4のTを求める。次にRの値を求めるには、求めたい時間(カプセル4)のTと経過時間t(q)から求める。この操作を繰り返して、各段・各時間ステップの計算を行う。また、熱媒体は



国立高等専門学校協会 平成15・16年度教育方法改善共同プロジェクト

## 高専における進路指導のあり方について

- 第1テーマ 進路指導に関する制度的検討
- 第2テーマ 低学年における進路指導対策
- 第3テーマ 高学年における進路指導対策

# 中間報告書

平成16年3月

プロジェクト担当：北海道地区高等専門学校  
世 話 校：釧路工業高等専門学校

## 第4章 進路指導改善のための試行

4.1 低学年における進路指導	87
4.1.1 釧路高专における従来の進路指導	87
4.1.2 低学年進路指導の必要性	87
4.1.3 進路指導の考え方1～自己理解の重要性	87
4.1.4 進路指導の考え方2～共感性の育成	88
4.1.5 具体的な進路指導内容	89
(1) 1年生での実践試行	
(2) 2年生での実践試行	
(3) 1～3年生での実践試行	
(4) 今後の展望(計画)	
4.2 高学年における指導のあり方	96
4.2.1 進路の手引きの作成と活用	96
4.2.2 進路の手引きの活用方法	97
4.2.3 情報提供と支援体制のあり方	97
(1) 支援体制	
(2) 情報提供	
(3) 情報提供のための行事(道内高专の実践から)	

### 4.2.3 情報提供と支援体制のあり方

#### (1) 支援体制

##### (1.1) 就職支援

学生の就職支援に主として当たる職員として担任と主任があり、それぞれ利点があげられる。各校での歴史的な経緯、事情などにより役割分担されていると考えられる。担任が就職支援に当たる場合は、4,5年の2年間を連続してクラス担任を受け持つように配慮されている例が多いようである。この場合、個々の学生の性格を担任がしっかり把握した状況で就職の支援が行える利点がある。主任が就職支援にあたる場合は、数年間の主任の任期の間、専門的に企業との窓口になるため就職先企業の状況に詳しくなるという利点がある。

##### (1.2) 進学支援

3,4学年より進学に向けた補習講座を行う等の支援が行われており、特に英語、数学、物理等の一般教科担当教官による篤い学生支援が行われている。実際に希望の大学に応募する際は、担任教官により、願書提出のために必要な各種書類の準備が行われる。

##### (1.3) インターンシップ支援

本科の学生のインターンシップは第4学年の夏休みに行われる。学生のインターンシップの希望と、企業からの募集のマッチングは主として4学年の担任が取り扱う。インターンシップの意義や目標、企業でのマナーなどについてはインターンシップ受講者全員に対して事前指導が進路指導委員会主催の特別講演として行われている。

##### (1.4) 事務取扱

就職・進学のための願書の提出、インターンシップのために必要な各種事務取扱などについては、相当な事務量があるが、すべて学生課の職員によるサポートがあり、志望先への郵送業務まで事務によるサポートが受けられる。

##### (1.5) 担当教官への支援

進路指導委員会には、各学科の主任、4,5学年の担任教官が所属しており、必要な場合には進路指導委員会により、各教官に対する支援が適宜行われている。

(3) 情報提供のための行事 (道内高専の実践から)

4月

- ・ 第4学年進路指導レクチャー  
学生が1年間の時間を有効に使い、小手先ではできない進路対策を行う指針を与える。
- ・ 編入試験対策ゼミ開始  
大学編入を目指す学生のため、数学、英語、物理の補習講座を開講している過去の編入問題なども教材として取り上げる。前期は数学を金曜日放課後、英語・物理を土曜日に交互に開講した。後期は数学・英語を木曜日の8,9時 限に交互に行い、物理は土曜日に集中的に開講した。

6月

- ・ 第3学年オリエンテーション  
企業見学、学校の進学・就職状況の説明、卒業生による講演を3学年の学生に聞かせ、高専生活の後半に向けての指針を与え技術者としてのモチベーションを向上させる。本報告書資料編に苫小牧高専の日程表を掲載している。

7月

- ・ インターンシップ事前指導  
第4学年のインターンシップ履修予定者に対して、インターンシップの意義、目的、礼儀、就業規則などを、昨年インターンシップを受け入れてくれ、実際に学生を指導してくれた企業の方の講演も含めて指導した。

9月

- ・ インターンシップ報告会  
インターンシップの経験を学生にプレゼンテーションさせた。

10月

- ・ 進路指導ガイダンス  
第1学年の学生に、既に企業から内定をもらっていたり、大学への編入試験に合格した5年生の体験談を聞かせ、1年生が、残りの4年間の学生生活を送る指針を得られるようにしている。

11月

- ・ 進学ガイダンス  
3,4年次の進学希望学生に、学力試験で大学編入に合格した先輩の体験談を聞かせ、これからどのような準備を始められるのか情報を提供する。

12月

- ・ 就職試験適性検査模試  
4学年の学生全員に企業の就職試験で実施される適性検査の模擬試験を実施した。社会で活躍するために必要な基本的な能力に対する理解を深めた。

1月

- ・ 就職ガイダンス  
第4学年の学生全員に、企業で実際に採用面接にたずさわっている、人材開発の専門家から就職活動に対する心構えを講演していただいた。併せて模擬面接も行った。

2月

- ・ 企業説明会  
企業の方に学校にきてもらい、第4学年の学生に直接、企業説明をしていただいた。例年は30社程度の企業が参加し、学生の保護者の見学も多数ある。

(出典 平成15・16年度教育方法改善共同プロジェクト中間報告書)

## 2. 審議事項

### (1) インターンシップについて

委員長から、資料 1 に基づき説明があった後、種々意見交換が行われ、審議の結果、次の要領により、インターンシップ協力依頼のための企業訪問を実施することで了承された。

訪問予定企業へ校長名による依頼文書を送付する。なお、依頼文書については、専攻科に関する記述等を追加する。

依頼文書送付後、各学科において、割り振られた企業へのアポイントを取る。

訪問時には、産学連携関連資料（岩淵教官に作成を依頼）もあわせて持参する。

訪問時期は 3 / 2 4 から 4 月初旬を目途とする。

なお、企業訪問にあたり、以下の点が確認された。

- ・各学科への割り振りが決定次第、一覧を各学科へ提示する。
- ・訪問にあたり公用車又は営業車の使用が可能となるよう事務側で検討してもらう。
- ・今回の訪問は近隣の企業にとどめ、他の地域の企業については学生の希望等を調査した上で、随時訪問することとする。
- ・今後、インターンシップを推進していくにあたっては、学科主任はもとより 4 年担任にも大きな役割を担ってもらう必要がある。

（出典 平成 1 6 年 3 月 1 1 日進路指導委員会議事概要）

## 2. インターンシップについて

### (1) 平成 16 年度の実施結果と平成 17 年度に向けての取り組みについて

インターンシップ担当である大貫委員から、平成 16 年度は 54 の参加企業等があり 106 名の学生が参加した。その成果を学外実習報告書（席上配布，HP 掲載略）に取りまとめるとともに、企業向けパンフレット（席上配付，HP 掲載略）を作成した。報告書は、参加学生への配布と図書館・進路資料室へ配架するとともに、本年度の参加企業への配布及び新年度に向けての企業開拓の資料として活用する。パンフは、今後の企業開拓に活用するためのものであるが、既に 1 月 3 1 日（月）7 時限に実施した 3 年生対象のインターンシップ説明会で資料として一部配布した。また、シラバス（案）（席上配布，HP 掲載略）を作成したが、今後更に記載内容を検討し正式なシラバスとして仕上げたいとの説明があった。

併せて来年度に向けた企業開拓訪問計画について大貫委員から資料 4 に基づき説明があり、釧路地域以外の地域については学科主任に担当願い、釧路地域については 3 月末までに 4・5 年の担任教員に企業訪問をお願いしたいとの説明があった。

引き続き審議に入り、次のような意見交換が行われた後、了承された。

- 1) 企業訪問計画に関し、委員長から、釧路以外の地域の訪問企業については訪問時期を含め各学科主任間で打合せ済みであり、各担任の訪問計画の具体的な内容については、後日改めて相談したい旨の発言の後、委員から、訪問担当者として来年度の 4 年担任となる教員にも本委員会としての協力要請をしてはどうかとの発言があり、大貫委員から、個別に協力を要請したいとの発言があった。また、委員長から、新 4 年の担任への

協力要請に関しては、運営会議での本委員会報告の中でも触れて行きたい旨発言があった。

2) シラバスに関連して、委員から、各学科間でバラツキのない評価がなされるよう、統一した評価基準を設けるべきではとの発言があり、委員長から、来年度に向けて検討したいとの発言があった。

(出典 平成17年2月4日進路指導委員会議事概要)

(分析結果とその根拠理由)

創造性を育む教育方法として、2学年の混合学級による創造工学や卒業研究においてPBLに近い教育方法の工夫が行われている。また、インターンシップでは、学生の進路決定、専門科目への興味の喚起やプレゼンテーション能力の向上など多くの教育効果を生み出しており、多様な教育方法への活用が十分に行われている。

観点5-3- : 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定や進級・卒業認定については、学則をはじめとする規程や申し合わせにおいて定められている。(資料5-3--1)(資料5-3--2)(資料5-3--3)

(資料5-3--1)

第5章の2 課程修了の認定、卒業等

第27条 全課程の修了の認定に必要な単位数は、167 単位以上(そのうち、一般科目については81 単位以上、専門科目については86 単位以上とする。)とする。

第28条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30 単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第28条の2 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30 単位を超えないものとする。

第28条の3 前2条に関し、必要な事項は別に定める。

第28条の4 各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、学生の平素の成績を評価して行うものとする。

第28条の5 前条の認定の結果、原学年にとどめられた者は、当該学年に係る全授業科目を再履修するものとする。

第29条 全学年の課程を修了した者には、校長は、所定の卒業証書を授与する。

2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。

(出典 釧路工業高等専門学校学則)

資料5 - 3 - - 2

## 第1章 総則

第1条 本校学生の学業成績の試験，評価の方法及び進級並びに卒業の認定について学則その他別に定めるもののほか，この内規の定めるところによる。

## 第2章 試験

第2条 試験は，定期試験，追試験，再試験及びその他の試験とする。

第3条 試験は，次のとおり実施する。

### 一 定期試験

- (1) 前期中間試験
- (2) 前期末試験
- (3) 後期中間試験
- (4) 学年末試験

### 二 追試験

病気，忌引その他やむを得ない事由により定期試験の一部又は全部を受験することができない場合には，原則として当該試験終了後1週間以内に追試験を行う。追試験を受けようとする者は，直ちに追試験受験願（医師の診断書等添付）（第1号様式）を学級担任教員及び科目担当教員を経て学生課教務係に提出するものとする。

### 三 再試験

- (1) 学年成績が60点未満の科目及び出席が年間授業時数の5分の4に満たない科目が，下記の制限科目数以内の者に対し，再試験を実施する。

結果の処理はその年度内に終了する。

- 1 年..... 4科目
- 2 年..... 4科目
- 3 年..... 4科目以内とする。
- 4 年..... 5科目
- 5 年..... 5科目

- (2) 正当な理由がなく欠席の多い者は，再試験を受けることができない。

### 四 その他の試験

必要に応じて行う。

- 2 実験，実習又は演習など平素の学業成績により評価することができる科目については，前項の規定にかかわらず試験の一部又は全部を実施しないことがある。

## 第3章 成績の評価及び単位の認定

第4条 学業成績の評価は，次のとおりとする。

- 一 期末及び学年成績は，試験の成績及び出欠状況・学習態度を参しゃくして評価を行うものとする。
- 二 出席が年間授業時数の5分の4に満たない科目の評点は，60点未満とする。

三 成績の評価は次の方法による。

(1) 評価は、100 点法により60 点以上を合格とする。

(2) 評価の段階は、次の基準による。

評点評語

80 点以上優

80 点未満～70 点以上良

70 点未満～60 点以上可

60 点未満不可

四再試験等の結果、合格した者の評点は60 点とする。

五 第6条の規定により単位の認定を受けた科目の学業成績の評語は、第3号の規定にかかわらず「認」とする。

2 学年成績を指導要録に登載する場合は、評点と評語を併用し、成績証明書を発行する場合は、評語を用いるものとする。

第5条 単位修得の認定は、学年成績が60 点以上の科目について行うものとする。

第6条 学則第28条の2に規定する文部大臣が定める学修（以下「特別学修」という。）に対応する本校の科目及び単位は、別表のとおりとする。

2 特別学修の単位の認定は、本人からの特別学修単位認定申請書（第2号様式）の提出に基づき、校長が認定する。

#### 第4章 進級及び卒業の認定

第7条 当該学年課程の修了及び卒業の認定は、原則として教員会議の議を経て、校長が行う。

2 当該学年課程の修了及び卒業の認定にあたっては、次の各号の条件が全て満たされていなければならない。

ただし、校長が特別の事情があると認めた場合は、この限りでない。

一 各科目の学年成績の評点が、60 点以上である者

二 原則として年間出席すべき日数の5分の4以上出席した者

三 原則として各科目の年間授業時数の5分の4以上出席した者

3 不合格科目がある者に係る進級の取扱いについては、別に定める。

第8条 授業料その他国庫納入金の未納又は学校備品等の未返還の者は、原則として進級及び卒業は認めない。

第9条 在学年数は、次のとおりとする。

一 同一学年に3か年在学することはできない。

二 全在学年数は、7か年を限度とする。ただし、休学期間は在学年数に通算しない。

2 特別の事情があると校長が認めた場合は、前項の規定にかかわらず引き続きその年数を延長することができる。

#### 第5章 雑則

第10条 故意に試験を欠席したと認められる者、又は答案を提出しない者の試験評点は、零点とする。

第11条 試験について、不正行為を行なった者は、当該試験以後の受験を停止させるとともに、当該期間中の全科目の評点を零点とし、懲戒を加えることがある。

第12条 前期及び学業成績は、学業成績通知書によつて、学生の父母に通知する。

（出典 釧路工業高等専門学校学業成績の試験、評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規）

資料 5 - 3 - 3

教務関係申し合わせ類集

( 現地での閲覧資料を参照 )

学則と内規は学生便覧に掲載され、申し合わせを含む教務関係事項のガイダンスは各クラス担任からの説明あるいは新入生オリエンテーションでの教務ガイダンスや始業式の教務関係訓話で学生への周知を図っている ( 資料 5 - 3 - - 4 ) ( 資料 5 - 3 - - 5 ) ( 資料 5 - 3 - - 6 )。

資料 5 - 3 - - 4

教務主事作成による全教員への配付資料

釧路高専教務関連規定・申し合わせおよび学生支援体制等の改訂に伴う説明資料

学業成績の試験・評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規 ( 改訂全文 )

第 1 章 総則

第 1 条 本校学生の学業成績の試験，評価の方法及び進級並びに卒業の認定について学則その他別に定めるもののほか，この内規の定めるところによる。

第 2 章 試験

第 2 条 試験は，定期試験，追試験，再試験及びその他の試験とする。

第 3 条 試験は，次のとおり実施する。

一 定期試験

- (1) 前期中間試験
- (2) 前期末試験
- (3) 後期中間試験
- (4) 学年末試験

二 追試験

病気，忌引その他やむを得ない事由により定期試験の一部又は全部を受験することができない場合には，原則として当該試験終了後 1 週間以内に追試験を行う。追試験を受けようとする者は，直ちに追試験受験願 ( 医師の診断書等添付 ) ( 第 1 号様式 ) を学級担任教員及び科目担当教員を経て学生課教務係に提出するものとする。

三 再試験

(1) 学年成績が 60 点未満の科目及び出席が年間授業時数の 5 分の 4 に満たない科目が，下記の制限科目数以内の者に対し，再試験を実施する。

結果の処理はその年度内に終了する。

- 1 年..... 4 科目以内とする。
- 2 年..... 4 科目以内とする。
- 3 年..... 4 科目以内とする。
- 4 年..... 5 科目以内とする。
- 5 年..... 5 科目以内とする。



(2) 正当な理由がなく欠席の多い者は、再試験を受けることができない。

#### 四 その他の試験

必要に応じて行う。

2 実験、実習又は演習など平素の学業成績により評価することができる科目については、前項の規定にかかわらず試験の一部又は全部を実施しないことがある。

### 第3章 成績の評価及び単位の認定

第4条 学業成績の評価は、次のとおりとする。

- 一 期末及び学年成績は、試験の成績及び出欠状況・学習態度を参しゃくして評価を行うものとする。
- 二 出席が年間授業時数の5分の4に満たない科目の評点は、60点未満とする。
- 三 成績の評価は次の方法による。
  - (1) 評価は、100点法により60点以上を合格とする。
  - (2) 評価の段階は、次の基準による。

#### 評点評語

80点以上優

80点未満～70点以上良

70点未満～60点以上可

60点未満不可

四 再試験等の結果、合格した者の評点は60点とする。

五 第6条の規定により単位の認定を受けた科目の学業成績の評語は、第三号の規定にかかわらず「認」とする。

2 学年成績を指導要録に登載する場合は、評点と評語を併用し、成績証明書を発行する場合は、評語を用いるものとする。

第5条 単位修得の認定は、学年成績が60点以上の科目について行うものとする。

第6条 学則第28条の2に規定する文部科学大臣が定める学修（以下「特別学修」という。）に対応する本校の科目及び単位は、別表のとおりとする。

2 特別学修の単位の認定は、本人からの特別学修単位認定申請書（第2号様式）の提出に基づき、校長が認定する。

### 第4章 進級及び卒業の認定

第7条 当該学年課程の修了及び卒業の認定は、原則として教員会議の議を経て、校長が行う。

2 当該学年課程の修了及び卒業の認定にあたっては、次の各号の条件が全て満たされていないならない。ただし、校長が特別の事情があると認めた場合は、この限りでない。

- 一 各科目の学年成績の評点が、60点以上である者
- 二 原則として年間出席すべき日数の5分の4以上出席した者
- 三 原則として各科目の年間授業時数の5分の4以上出席した者

3 不合格科目がある者に係る進級の取扱については、別に定める。

第8条 授業料その他納付金の未納又は学校備品等の未返還の者は、原則として進級及び卒業は認めない。

第9条 在学年数は、次のとおりとする。

- 一 同一学年に3か年在学することはできない。

- 二 全在学年数は、7か年を限度とする。ただし、休学期間は在学年数に通算しない。
- 2 特別の事情があると校長が認めた場合は、前項の規定にかかわらず引き続きその年数を延長することができる。

#### 第5章 雑則

第10条 故意に試験を欠席したと認められる者、又は答案を提出しない者の試験評点は、零点とする。

第11条 試験について、不正行為を行なった者は、当該試験以後の受験を停止させるとともに、当該期間中の全科目の評点を零点とし、懲戒を加えることがある。

第12条 前期及び学年成績は、学業成績通知書により、学生の父母に通知する。

【改訂の骨子】は（現地での閲覧資料を参照）

教務関係申し合わせ類集の改訂（現地での閲覧資料を参照）

#### 1. シラバスの学生への周知（科目毎に担当教員が説明）

- 1) 各教科の授業開始に先立って、担当教科に関するシラバスを印刷配布の上、内容を十分に説明すること。
- 2) 1年及び4年についてはシラバス用ファイルを始業日に購入しているので、これに綴じ込みいつでも参照できるように指導する。（2, 3, 5年についても各自シラバスがいつでも参照できるようにファイルを作ること薦める。3月教務委員会決議事項）
- 3) 特に達成目標及び項目ごとに「・・・何々ができる」「・・・が説明できる」などの説明と成績評価方法については十分に学生に説明する。
- 4) 担当科目が本校の学習教育目標やJABEE 基準のどの項目に対応しているかを説明する。
- 5) ホームページでの閲覧が可能であることも周知する

<http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/gakusei/gakusei.html>

各教科の最初の授業で、シラバス説明を行った後、遅滞なくその実施報告書を教務係へ提出することが義務付けられていますので、忘れずに提出ください。

#### 2. 補講及び補習に関するガイドライン（第3小委員会答申）

- 1) 授業時間数が不足したり、クラス全体に補足的授業が必要なときなどは、「補講届」（様式あり）に記入の上補講を行うことができる。
- 2) 学生の要望があったり、一部学生に補習が必要と判断されるときには、学生に「補習願い」（様式あり）を書かせた上で補習を行うことができる。なお、教員側から補習を設定する場合は「教員記入欄」のみの記入でもよい。
- 3) 留年、単位未修得及び学習遅進学生は「補習・質問の記録」（様式あり）を記載し、定期的に担任に見せて学習状況の確認を受けねばならない。
- 4) 学生指導の根拠とするため、「補講届」「補習願い」は一定期間保存する。「補講届」は半期ごとに教務係に提出する。
- 5) 教科の評点が60点を超えた場合は、「補習・質問の記録」に見られる努力を評価に加えるこ

とができる。

補足：

- 1) 上記1), 2), 5) は教員に対する強制ではない。「補講届」「補習願い」が不必要と判断した場合は記録の必要はない。
- 2) 学生が自ら学ぼうとする姿勢を養うため、当面担任が学生の学習状況を把握し、補習依頼に行くように指導したり、遅進学生に質問に行くよう指導することが必要である。  
補講・補修の実施要領等については、本ガイドラインを参考に新年度早期に教務委員会へ実施案を提出し、審議の上実施する。

学生指導について

#### 1. オフィスアワー（OH）の設定

- 1) 全教員はオフィスアワーを原則週一回は設定する。
- 2) 学生指導の内容はOH 時間以外のものも含めて指導記録に記録保管する。
- 3) OH が実施できたか否かは、「OH 予定・実施状況」（様式あり）に記録保管する。  
オフィスアワーに関しては、新年度早期に教務委員会にて原案作成し、全教員へ提示し、OHの曜日、時間帯等を審議のうえ実施していく予定。

#### 2. HR 教室の清掃について

- 1) 17年度より、経費節減及び学生の公德心・社会性向上の指導の観点から、HR 教室(全学年)の清掃は学生自ら実施することとなったことを年度当初に学生に周知していく。
- 2) HR 教室の汚れのチェックを担当だけに任せるのではなく、その教室に講義に行く先生がいつも関心を持って、時には注意をすることも大切であると考えます。全教員がいつも清掃について学生を指導していくようにしていただきたい。
- 3) 特に4, 5年生に対する指導は学科ごとに十分対応していただきたい。
- 4) 創造工学教室・共用教室等の清掃は今まで通り隔週の清掃が入ります。  
また、長期休業時には、床のワックスがけ等も行われます。

(出典 学生課資料)

資料5 - 3 - - 5

平成17年度新入生オリエンテーション実施要項

1. 目的新入生に対して、高専制度と具体的な学園生活について理解を深めさせるとともに団体宿泊生活を通じ新入生相互の交流を図り、高専生としての自覚並びにクラス内における融和を促す。また、教職員に対する親近感を育成させるとともに、充実した修学と健全な学生生活の方途を助言し、学園環境への速やかな順応を図ることを目的とする。
2. 実施期日平成17年4月7日(木)・8日(金) 1泊2日
3. 実施場所「ホテルエメラルド」(阿寒町阿寒湖温泉) (0154)67-2011
4. 参加者新入生全員、教職員(参加数等は次頁)
5. 携行品実施要項, 学生便覧, 筆記用具, 洗面具, 下着類, パジャマ, 防寒着, タオル, バスタオル, 健康保険証の写し
6. 輸送方法借上バス5台

1号車機械工学科，2号車電気工学科，3号車電子工学科，4号車情報工学科，5号車建築学科  
7. 注意事項(1) 団体行動をとるので，常に5分前には必ず集合のこと。

(2) 服装は学校指定のジャージとする。

(3) 携帯電話，PHS等は持っていかないこと。

(4) バスの車中及びホテル内は常に清潔を心掛け，静粛にすること。

(5) 各部屋に入室後，あらかじめ研修室及び非常口・避難経路の確認をすること。

(6) 部屋の鍵は，各班長が責任をもって保管し，帰る際にはテーブルに置いて出ること。

(7) 貴重品の取り扱いには十分注意し，必要な場合はフロントへ預けること。

(8) 各部屋の冷蔵庫及び電話は使用しないこと。また，非常用避難ロープ等はいたづらをしないこと。

(9) 体調の悪い者は早目に学級担任又は引率の教職員に申し出ること。

(10) ホテル内のゲームコーナー及び喫茶室は利用しないこと。

(11) 3・4階の学生で1・2階へ移動する場合は，階段を使用すること。

(12) 外出は禁止する。

(13) 欠席の連絡（連絡先は「新入生保護者の皆様へ」の14頁参照）

前日：学級担任へ連絡

当日：学生課学生係へ連絡

#### 8. 参加者数及び部屋割

(1) 参加学生数204(30)名( )は女子で内数

機械工学科40(0)名，電気工学科41(2)名

電子工学科41(6)名，情報工学科41(10)名

建築学科41(12)名，

(2) 参加教職員及び部屋割

教務主事宮澤武

学生主事小田島本有2518号室，学生主事補井上圭一2313号室

学生主事補成澤哲也2717号室，学生主事補加藤雅也2418号室

学生相談室長大槻香子2318号室，学生相談室三島利紀2617号室

学生相談室中島陽子2413号室，

学生相談室館岡正樹，学生相談室佐藤英樹

学級担任

機械工学科林幸利2700号室，電気工学科浦家淳博2601号室

電子工学科加藤隆2502号室，情報工学科田村聡子2402号室

建築学科森太郎2303号室

学級副担任

機械工学科小杉淳2713号室，電気工学科松永繁樹2613号室

電子工学科山田昌尚2513号室，情報工学科大貫和永2412号室

建築学科井上圭一2313号室

事務局

学生課長栗原智，学生係長中野幸雄2315号室

予備室（教務主事，学生相談員控室）2317号室

印は日帰り

日 程

第1日 [4月7日(木)]

時 間	日 程	備 考
8 : 5 0 9 : 0 0	ショートホームルーム	出欠確認場所 (各HR教室)
9 : 1 0	荷物搬入	バスに荷物を搬入し、大講義室へ移動
9 : 2 0	出発式	大講義室
	バス乗車(出発)	1号車 機械工学科 4号車 情報工学科 2号車 電気工学科 5号車 建築学科 3号車 電子工学科
	(ホテル到着)	
10 : 2 0	ガイダンス	全 員 (レストラン) 荷物携行
10 : 3 5	クラスミーティング (自己紹介) 写真撮影	荷物携行 実施要項・筆記用具用意 機械 (鳳凰) 情報 (ベガサスⅡ) 電気 (宝来) 建築 (ベガサスⅢ) 電子 (ベガサスⅠ) 部屋鍵の受渡し
11 : 5 0	各部屋に荷物搬入	
12 : 1 0	昼 食 (自由時間)	全 員 (レストラン)
13 : 0 0	教務ガイダンス	全 員 (宝来) 実施要項・学生便覧持参
13 : 4 0	休 憩	
14 : 0 0	学年ミーティング (人間関係づくり)	全 員 (レストラン) 筆記用具、「入学後の出会いのために」 のワークシート持参
15 : 3 0	休 憩	
16 : 0 0	クラスミーティング (学科の勉強) 班(部屋毎)活動を意識させる クラス役員選出	実施要項・学生便覧・筆記用具持参 機械 (鳳凰) 情報 (ベガサスⅡ) 電気 (宝来) 建築 (ベガサスⅢ) 電子 (ベガサスⅠ)
17 : 0 0	休 憩	
18 : 0 0	夕 食 (夕食後自由時間)	全 員(レストラン) 諸注意及び連絡 入浴は21:00まで
22 : 0 0	点 呼・消 灯	各担任が各室点検

日 程

第2日 [4月8日(金)]

時 間	日 程	備 考
7:00	起床・洗面, 整理・整頓	点呼
7:30	朝食 (帰り支度)	(レストラン) 諸注意及び連絡 朝食後, 部屋の後かたづけ 部屋鍵の返却(部屋のテーブルへ置く) 荷物搬出(クラスミーティング会場へ)
8:40	学年ミーティング (生活の心得)	実施要項・学生便覧・筆記用具持参 全 員 (宝来)
9:10 9:15	クラスミーティング (人間関係トレーニング) 「オリエンテーションを 終えて」作文	機械 (鳳凰) 情報 (ペガサスⅡ) 電気 (宝来) 建築 (ペガサスⅢ) 電子 (ペガサスⅠ)
11:00	終了式	
	バス乗車(出発)	
12:00	到着・解散	本校玄関前

※ 途中下車可能 (阿寒町及び高専～釧路駅間のバス停留所。)

途中下車を希望する者は、1日目の夕食時刻までに学級担任に申し出ること。

(出典 平成17年度新入生オリエンテーション実施要項)

資料 5 - 3 - - 6

資料 3

### 始 業 式 実 施 要 項

日 時 平成 1 7 年 4 月 8 日 ( 金 ) 2 時 限  
 場 所 第 2 体 育 館  
 進 行 教 務 主 事 補

- 1 . 開 式 の こと ば
- 2 . 校 長 講 話
- 3 . 教 務 主 事 訓 話
- 4 . 寮 務 主 事 訓 話
- 5 . 新 任 教 員 紹 介 ( 校 長 )
- 6 . 平 成 1 6 年 度 出 席 優 良 者 表 彰 ( 校 長 )

別紙 ( 読 み 上 げ 学 生 課 長 , 介 添 え 教 務 主 事 補 )

表 彰 状 等 は , 皆 勤 ・ 精 勤 の 代 表 者 に 渡 す 。 代 表 者 以 外 の 者 に は , 閉 式 後 に 教 務 係 か ら 渡 す 。

- 7 . 留 学 生 の 紹 介 ( 教 務 主 事 )
  - ・ 第 学 年 工 学 科 ( )  
君
  - ・ 第 学 年 工 学 科 ( )  
君
- 8 . 閉 式 の こと ば

( 出 典 平 成 1 7 年 4 月 4 日 教 務 委 員 会 議 事 概 要 )

こ れ ら の 規 定 に 基 づ き , 進 級 認 定 会 議 , 卒 業 認 定 会 議 等 が 開 催 さ れ , 単 位 修 得 ・ 進 級 ・ 卒 業 の 認 定 を 適 切 に 実 施 し て い る ( 資 料 5 - 3 - - 7 ) ( 資 料 5 - 3 - - 8 ) ( 資 料 5 - 3 - - 9 ) 。

( 資 料 5 - 3 - - 7 )

### 成 績 打 合 せ 会 議 議 事 概 要

日 時 平 成 1 7 年 3 月 9 日 ( 水 ) 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 4 0  
 場 所 会 議 室  
 出 席 者 6 8 名 ( 別 紙 名 簿 の と お り )

審 議 に 先 立 ち , 校 長 か ら 3 月 7 日 提 出 期 限 の 成 績 評 価 に 基 づ く 資 料 2 の 「 制 限 科 目 数 オ ー バ ー の 者 」 に 対 し , そ の 後 の 指 導 等 に よ る 評 価 の 訂 正 が あ れ ば 報 告 願 い た い 旨 の 発 言 が あ り , 科 目 担 当 教 員 か ら そ れ ぞ れ 資 料 2 に 記 載 の と お り 評 価 訂 正 の 報 告 が あ っ た 。

議 題 1 . 再 試 験 該 当 者 以 外 の 者 に つ い て



(1) 1 / 3 欠課オーバーの者について

資料1の該当者7名について学級担任から事情説明があり、審議の結果、再試験非該当に決定した。

(2) 制限科目数オーバーの者について

各該当者について学級担任から事情説明及び学科主任の補足説明があり、審議の結果、資料2に記載のとおり決定した。

(3) 制限科目数以内で総欠課制限時数をオーバーしている者について

該当者について、教務主事から3月定例教務委員会で審議した「正当な理由の有無」についての報告の後、学級担任から事情説明があり、審議の結果、資料3に記載のとおり決定した。

(4) 総欠課制限時数以内で1 / 5 欠課のある者について

該当者について、教務主事から3月定例教務委員会で審議した「正当な理由の有無」についての報告があり、審議の結果、資料4に記載のとおり決定した。

最後に、教務係長から、資料1から資料4について評価の訂正と再試験該当・非該当の確認が行われた。

また、成績評価について、3月7日提出期限後から修正の必要が生じた場合（学生から試験答案について指摘があった等）、修正後の評価及び修正理由を記入し、本日中に教務係へ提出願いたい旨、発言があった。

(資料5 - 3 - - 8)

教員会議（進級認定）議事概要

日 時 平成17年3月23日（水） 15時00分～15時43分

場 所 会議室

出席者 65名（欠席者11名）

配付資料 ・再試験非該当者一覧（資料1）  
 ・再試験結果欠点者一覧（資料2）  
 ・修了退学願提出者一覧（資料3）  
 ・復学・退学予定者（資料4）

審議に先立ち、教務係長から資料説明があり、引き続き、校長から再試験成績評価に基づく資料2の「再試験結果欠点者」に対し、その後の指導による評価の訂正があれば報告願いたい旨の説明があり、各科目担当教員から評価訂正の報告があった。

審議事項

1. 再試験非該当者について

校長から、成績打合せ会議で再試験非該当となった資料1の学生のうち、退学願提出者（10名）と除籍予定者（1名）を除いた18名について、特に異議がなければ原級と認定したい

旨の提案があり、了承された。

なお、校長から、修了退学願提出者については、議題 3 で審議する旨の説明があった。

2. 再試験結果欠点者について

校長から、各学科と一般教科との間で行われた事前打ち合わせを踏まえ、さらに説明を要する者がいれば発言願いたい旨の説明があったが特に意見はなく、資料 2 に記載の 60 名のうち、48 名の進級と 12 名の原級が認定された。

3. 修了退学について

各該当者について学級担任から事情説明があり、校長から、資料 3 に記載の 12 名について、特に異議がなければ当該学年修了として認定したい旨の提案があり、了承された。

4. 進級・原級・修了退学の認定について

教務係長から、資料 1・2・3 により、審議結果の確認が行われた。

5. 復学・退学について

校長から、復学・退学について、資料 4 のとおり確認が行われた。

6. その他

(1) 校長から、原級者及び条件付き進級者に対し、懸案科目の補習を行う等、担当学科・教科での協力体制を強化し、学業を継続できるよう、指導要請があった。

(2) 教務主事から、J A B E E への対応として、再試験結果欠点科目をその後の打ち合わせ等により合格点に引き上げた場合には、その妥当性の根拠となる資料（例えば、加点措置としてレポート提出をさせた場合は、その内容について質問されることがある）の保存をお願いしたい旨が述べられた。

(3) 教務係長から、以下のとおり連絡があった。

- ・ 新年度の在籍予定学生数と教室配置については、後日全教員へ通知する。
- ・ 1 学科 について、本日（3 / 23）現在で授業料未納（2 期分）となっており、今年度中（3 / 31）に納入されなければ除籍となる。
- ・ 原級決定者のうち、新たに修了退学を希望する者がいる場合は、明日（3 / 24）中に教務係へ申請書類を提出してほしい。

以 上

資料 5 - 3 - - 9

教員会議（卒業認定）議事要録

日 時 平成 17 年 3 月 4 日（金） 14 時 30 分～ 14 時 44 分  
 場 所 会議室  
 出席者 60 名（欠席者 16 名）  
 配付資料 ・ 総欠課制限時数超過者一覧（資料 1）  
 ・ 認定会議用成績一覧表  
 ・ 第 7 回（2 / 18）欠課時数集計表

議事に先立ち、教務係長から配付資料の確認が行われた。

続いて宮澤教務主事から、本日の資料は期限（3月3日正午）までに入力された成績評価を基に作成されており、資料1に記載の者について、以後の指導等により成績評価の修正等があれば報告願いたい旨が述べられたが、科目担当教員から修正等の報告はなかった。

#### 審議事項

##### 1. 総欠課制限時数超過者について

宮澤教務主事から、標記の件について、2月25日（金）の臨時教務委員会での審議結果の報告が資料1に基づき行われた。発言内容は以下のとおり。

- ・5月、5月 はともに、総欠課制限時数超過に関して「正当な理由なし」と判断した（担任である荒井教員、千田教員から補足説明があった。）。
- ・この他に2名が審議対象となったが、5月（欠課時数84時間）については、再集計の結果、制限時数内（75時間）であった。また、5月（104時間）については、同委員会において病気欠席が認められたため制限時数内となった。

その後宮澤教務主事から、5月については、総欠課制限時数を超過しているが欠点科目がないので卒業認定とし、5月については、欠点科目も多数あるため、卒業認定しないこととしたい旨が述べられ、審議の結果了承された。

##### 2. 卒業認定について

宮澤教務主事から、機械工学科：33名全員、電気工学科：33名、電子工学科：38名全員、情報工学科：32名全員、建築学科：32名全員、計168名について、卒業を認定したい旨の説明があり、それぞれ異議なく了承された。

また、授業料未納者は卒業を認めないことになっているが、授業料免除申請者5名（5月、5月、5月、5月）に係る口座引き落としが2月下旬に行われており、3月7日（月）に全員の納入が確認できる予定である旨が述べられた。

#### （分析結果とその根拠理由）

成績評価等に関する諸規定は、学則その他の規程や申し合わせにおいて定められ、学生便覧に掲載している。また、これらの教務関係事項は様々な機会に学生へ周知を図っている。

以上の状況から成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知され、規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されている。

観点5-4- : 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

#### （観点到る状況）

観点到る取組は以下のとおりである。（資料5-4- -1）

資料 5 - 4 - - 1		
学 年	概 要	参 考 資 料
新入学時	クラスづくりを目的に，新入生オリエンテーションにおいてクラス内の人間関係を構築する取組が行われ，これに続く 1～3 年生では，LHRにおける進路のしおりを活用した取組も実施している。	資料 5 - 3 - - 5 資料 5 - 4 - - 2
1～3 年	特別活動の時間(LHR)が教育課程に定められており，LHR指導にあたる学級担任に対しては「学級担任の手引き」等を配付し，LHR指導に関する情報を提供している。	資料 5 - 1 - - 1 資料 5 - 1 - - 2 資料 5 - 4        3 資料 5 - 4        4
4・5 年	教育課程上に特別活動時間は設定されていないが，高専祭や校内体育大会などクラス単位で企画・参加することにより人間関係を広げられるような行事を年間スケジュールに組み込んでいる。	資料 5 - 4 - - 5 資料 5 - 4 - - 6

( 出典 本自己点検評価のための作成資料 )

2005 年度 低学年進路学習の予定

学年	時期	題目	内容	備考
1 年	9 月 12 日	進路学習が目指すこと	資料配布、進路学習の予定、今の考え	
	11 月 24 日	高専の特徴と低学年での進路選択	工学系専門学校の特徴、留年、進路変更	
	1 月 16 日	職業調べに向けて	過去の求人情報をみる。疑問や感想を書く。	3 組
	1 月 23 日			2 組
2 年	5 月 16 日	職業調べ 1	職業データベース等を眺め、調べたい職業を決める	3 組
	23 日			2 組
	6 月 20 日	職業調べ 2	インターネットや他の資料により専門に関係した職業を調べる	3 組
	6 月 27 日			
	7 月 4 日			2 組
	7 月 11 日			
	11 月 14 日	職業調べ 3 とまとめ	調べた内容を発表用にまとめる	3 組
	11 月 24 日			
11 月 21 日		2 組		
11 月 28 日				
1 月 16 日	職業調べ発表	まとめた内容を発表	2 回 又は 1 回 2 時間	
1 月 23 日				
1 月 30 日				
2 月 6 日				
3 年	5 月 16 日	大学等編入学について 1	大学に行くメリット・デメリット	
	5 月 23 日	大学等編入学について 2	金銭的負担、編入方法	
	11 月 14 日	雇用をめぐる現状 1	請負、派遣など雇用の現状の一端を知る	
	11 月 21 日	雇用をめぐる現状 2	成果主義賃金など雇用の現状の一端を知る	
主に 3 年	12 月 12 日	職業ガイダンス	卒業生に現場の実状を聞く	

- 注：1. 各予定日の 1 週間前に担任（副担任）との打ち合わせ  
 2. 情報処理センター、第 2 演習室と情報実験室（1J）を予定

（出典 クラス担任会議配付資料）

## 5 ロングホームルームの指導

ロングホームルーム（LHR）は、第3学年まで週1時間が設定されている。

### 5.1 LHRの取り扱い

- 1.出席をとり，授業と同様に，出欠を教務システムに入力する。
- 2.欠課時数オーバーの規定はないが，LHRの欠席は，総欠課制限時数に含まれる。
- 3.成績評価はしないが，認定会議の際，総合的な判断材料として審議の対象となる。

### 5.2 LHRのテーマ（活動の内容）について

- 1.年間のLHRの使用計画の立案を年度当初にするとよい。
- 1.年度始めの担任会議の際，教務委員会からLHRの実施予定表が出され，それを参考に全校的なテーマ，学年のテーマ，各HR等の計画を設定する。
- 3.全校的なテーマは
  - (a) 学級役員の選出等，学生課に書類として提出するもの。
  - (b) 長期休業前の諸注意（学生委員会から資料が配布される）。
  - (c) 校内体育大会や高専祭等学生会行事の選手や係を決める。
  - (d) その他，LHRの時間帯を利用して校内大掃除，防火訓練等がある。
- 4.学年のテーマは，交通安全講習会（学生委員会による）など学年独自に設定されたものである。
- 5.各HRのテーマは，クラスが独自で使用するもので，担任講話，個人面談，長期休業の反省等，1年間を見通して必要なテーマを担任が設定する。
- 6.LHRのテーマについては，「5.5 LHRのテーマの具体例」を参照のこと。なお，進路指導委員会企画による「進路学習」が予定されている週があるので留意する必要がある。

### 5.3 LHRに対する担任の心構え

- 1.LHRを単なる連絡や諸注意だけで終わらせず，実りあるものにする工夫が大切である。
- 2.学生会行事に関わるものは，学級代表や行事委員会等学生を積極的に使って討論決定させることが必要である。
- 3.担任は，学生と積極的に接する機会を多く作り，特に1年生は，中学校と高専の学校の違いから生ずるギャップがあるため，きめ細かな人間味ある慎重な対応が望まれる。
- 4.高専は，学年制なのでクラスは5年間という長い期間殆ど変わらない。従って，クラスの融和や生活面でのけじめ，学習面での積極性を付けさせるとともに，LHRリーダーを育成していくという側面も考慮していきたい。

### 5.4 LHRの工夫

- 1.テーマ別に学生の担当者を決めて学生を大いに使う。
- 2.LHR日誌などをつけさせ，大切に時間を使わせる。
- 3.学年で，又は，クラス共同で取り組む時間があってもよい。

### 5.5 LHRのテーマの具体例

- 1.諸連絡・諸注意
- 2.出欠確認と教室清掃
- 3.個人面談
  - (a) テスト成績を基にした個人面談

- (b) 4～5月にかけて全員面談
- 10～11月は成績について全員個人面談
- 12月必要な者の個人面談
- (c) 成績，生活についての個人面談
- (d) 平素の学習・生活指導について
- 4. 座席替え
- 5. 学校行事・学生会行事についての討議
  - (a) 学校祭について
  - (b) 体育大会の選手選出
  - (c) 校外ホームルームについて
- 6. ビデオ視聴
  - (a) 「喫煙と健康」等のビデオを視聴させる
  - (b) 個人面談と平行してのビデオ視聴
  - (c) 科学映画を見て，後で皆で感想を述べ合う
- 7. アンケート調査
  - (a) 意識調査
  - (b) 学業，生活一般についての意識調査
  - (c) アルバイト，バイク，自動車等に関するもの。
  - (d) 自己評価に関するもの
- 8. 作文を書かせる
  - (a) 高専に入学して
  - (b) 高専に来た理由
  - (c) 高専の1年を振り返って
  - (d) 2年生になって思うこと
  - (e) 夏（冬）季休暇を終えて
  - (f) 1年間の反省
  - (g) 自分の将来について
  - (h) 最近の時事問題からテーマを選んで
- 9. 討論
  - (a) 時に応じた問題（学校祭，体育大会，交通安全等）について
  - (b) 学生会について
  - (c) 校則について
  - (d) 学習問題
  - (e) 生活問題
  - (f) 企業について

（出典 学級担任の手引き 9～13頁）

平成 17 年度前期 LHR 指導について

月	日	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年	備 考
4	6 水	入学式・編入学式			
	7 木	新入生オリエンテーション			
	8 金	"	HR (1 時限) 諸届・諸調査等、学級役員の選出 始業式 (2 時限) 11:00~教科書販売		
	11 月	対面式 (1・2 時限) 図書館リエンション (3・4 時限)	対面式 (1・2 時限) 特別時間割 (3・4 時限)	初面式 (1・2 時限) 健康診断 (3 時限) 特別時間割 (4 時限)	特別時間割 4/11(日)~4/12(火)
	12 火	共通テスト (数・英, 1・2 時限) 健康診断・HR (3・4 時限)	特別時間割 (1, 3, 4 時限) 健康診断 (2 時限)	特別時間割 (午前授業) 健康診断 (2 時限)	
	18 月		校外ホームルームの実施計画		学寮閉寮 4/29(金) 開寮 5/5(木)
	25 月				
	5 9 月		大 掃 除		
	16 月				
	23 月				
6	30 月				
	6 月	前期中間試験の事前指導			前期中間試験 6/7(火)~6/10(金)
	13 月	春季校内体育大会の選手選出			学生会 6/21(火) 春季校内体育大会 6/21(火)~6/22(水) 地区体育大会 6/22(水)
	20 月				
	27 月				
	4 月	前期中間試験の成績結果についての個別指導			道地区高専体育大会 7/8(金)~7/10(日) 閉寮日 7/16(土)
7	11 月	夏季休業期間中の諸注意			夏季休業 7/16(土)~8/26(金) 全国高専体育大会 8/4(木)~8/7(日) 閉寮日 8/28(日)
	29 月	夏季休業の反省・今後の予定等			
	5 月	防災訓練			4 年前期末試験 9/16(金)~9/22(木) 前期末試験 9/26(日)~9/30(金) 4 年見学旅行 9/26(日)~10/3(日)
8	12 月	前期末試験の事前指導			



平成17年度後期 LHR 実施予定表

月	日	曜	第1学年	第2学年	第3学年	備考
10	3	月				後期授業開始 10/3(月)
	17	月				創立40周年記念式典 10/14(金) 高専祭準備 10/20(木)~10/21(金) 高専祭 10/22(土)~10/23(日)
	31	月				
11	7	月				保護者懇談会, 授業参観日 11/5(土)
	14	月				
	21	月				
	24	木	(月曜授業)			
	28	月				
12	5	月				後期中間試験の事前指導
	12	月				後期中間試験 12/6(木)~12/9(金) 閉寮日 12/23(金) 冬季休業 12/24(土)~1/6(金)
	19	月				冬季休業の諸注意
1	16	月				閉寮日 1/9(日)
	23	月				学生總會 1/24(木)
	30	月				学生会役員選挙 1/25(木) 冬季校内体育大会 1/24(木)~1/25(木)
	6	月				閉寮日 1/9(日)
2	6	月				平成18年度入試 2/19(日)
	13	月				5年学年末試験 2/13(日)~2/17(金) 学年末試験 2/20(日)~2/24(金) 5年退寮日 2/28(木)
	17	金				答案返却期間 2/27(日)~3/2(木) 再試験 3/13(日)~3/14(木)
	24	金				閉寮日 3/16(木) 学年末休業 3/23(木)~3/31(金)
						HR (4時間) 入試関連についての諸注意, 学年末試験についての事前指導 (試験終了後) 一年間の反省と来年度への心構えなど 再試験・進級認定等について 教科書購入・新学期の日程について

(出典 学生課資料)

第 4 0 回高専祭 企画一覧

実施企画	企画団体	内容	時間/期定	場所	責任者	担当教官	主幹	学生会役員	備考
学科展	機械工学科	展示等		5M教室	5M	荒井誠			
	電気工学科	展示等		4E教室	4E	千原和範			
	電子工学科	展示等		4D教室	4D	佐藤祐	中島	安藤千鶴	
	情報工学科	展示等		4M教室	4J	高橋原			
	建築学科	展示等		4A教室	4A	佐藤彰治			
	専攻科	展示等		リフレクシムルーム	5J	中村謙	中島	荒井泰明	
クラス企画	1M	スノーボール争い			1M	岡原浩人			
	1E	ひもひも			1E	林義典			
	1D	ヨーヨー争い			1D	新藤原政幸			
	1J	字速くじ			1J	藤間正樹			
	1A	かたぬき			1A	木村輝樹			
	2M	射的			2M	斎藤聖司			
	2E	ダーツ			2E	伊藤敏之			
	2D	ストラックアウト キックターゲット		第一体育館	2D	片岡源	中島	堀田英道	※教室移動時、ロウカ一の移動は行わない。
	2J	カジノ 相撲&麻雀後 ダーツ			2J	山崎博			
	2A	ピンゴ輪投げ フリスビー投げ			2A	加藤泰志			
	3M	スワム			3M	田中孝二郎			
	3E	ミサンガ アクセサリー			3E	工藤悠輝			
	3D	プラ板 アクセサリー ビーズ			3D	坂口直志			
3J	バットゴルフ			3J	本間弘志				
3A	ペタ対抗ルロケット			3A	橋下健志				
バザー	3D	水鏡子競 美ビオカジュース		ラビC	3D	坂口直志			
	4M	焼き菓子		ラビC	4M	山崎英明			
	5M	焼きうどん おやき		学生玄関前	5M	荒井誠			
	5E	塩焼きそば クレープ		学生玄関前	5E	千原和範			
	5D	ポットサンド フレンチドック フライド		ラビD	5D	横田安志	中島	堀田英道	
	5J	キムチチャーハン フルーツ白玉		学生玄関前	5J	林祐樹			
	5A	焼きそば 焼きうどん フライド		学生玄関前	5A	大森雄男			
	アーチェリー	肉まん 揚げパンアイス		ラビC	3D	佐藤英樹			
クラブ展示・発表	美術部	絵画、陶芸展示			5J	林義典			23,24日の両日
	写真部	写真展示		図書館ホール	2E	片岡源			23,24日の両日
	書道研究会	書道作品展			2J	橋下健志			23,24日の両日
	観望会	ジェットエンジン <small>(※10:00~10:30)</small>		体育館(外)	4D	小塚淳			23,24日の両日
	アマ無線部	通信	23日 13:00~13:00	図書館ホール	4E	松永繁樹			23,24日の両日
	茶道部	お茶会	23日 12:30~13:30 24日 10:00~12:00 12:00~13:00	4J教室	5E	中島陽子	中島	荒井泰明	23,24日の両日
	空手部	演武会	24日 10:00~11:30	5D前	4M	堀田英道			24日(日)2日目
	吹奏楽部	コンサート	24日 10:00~11:30	大講	4M	山田昌典			24日(日)2日目
	ロボット部	ロボット演武	24日 12:00~14:00	4E前	4E	千原和範			24日(日)2日目
	経営同好会	ライブ	24日 10:00~11:00	第2体育館	5M	井敷寛			24日(日)2日目
実行委員会企画	本祭(1日目)	パフォーマンスライブ スライム 車スリ クイズ	23日 10:30~13:00	第2体育館	3M	中島陽子	中島	堀田英道 山本康志 張内輝	23日(土)1日目
	開会式	全体発進	23日 12:00~14:00	第2体育館	4M 3A	中島陽子			22日(金)
	学芸フェスタ	学芸フェスタ	24日 10:00~11:30	5D前		中島陽子			23日(土)1日目
	夜祭	打ち上げ花火、スライム	24日 11:00~11:30	グラウンド	5E	中島陽子		荒井泰明	24日(日)2日目
その他	パンフレット	配布案内			4M 3M	中島陽子	中島	山下拓真	
	シャトルバス	来客送迎			3J	中島陽子	中島	青山光輝	23,24日の両日
	食事	バザー食事、クラス企画等の作業および販売			4A, 5A, 2A	藤林二	藤	堀田英道 堀田英道 松尾あやか	
	裝飾(看板類)	校内案内表示		玄関前	4M 3D	坂本和徳	坂本	山下拓真 横田秀徳	
	ボスター	市内宣伝			3M	中島陽子	中島	中村未来	
	土足シート	床面保護(24日午前中に撤去)		1,2体育館	5A	坂本和徳	坂本	堀田英道	予算11万円
	校内清掃	校内ごみ収集		ゴミ回収場横前	3A	中島陽子	中島	堀田英道	バザー関係者が担当
	障害保護	高専祭中の事故保護				中島陽子	中島		予算2.6万

2023/10/14 現在

(出典 学生課資料)

## 平成 17 年度春季校内体育大会要項

実施日：平成 17 年 6 月 21 日（火）22 日（水）

種目：

男子 ・バレー（21日）、バスケ（21日）、フットサル（22日）、  
ソフトボール（21日・22日）、野球（21日・22日）

女子 ・バレー（22日）

クラス ・クラス対抗障害物リレー（22日）

部活 ・部活対抗駅伝（22日）

自由参加 ・ダーツ（22日）

\*本部は第2体育館のステージになります。

### 目次

- 1 バレー（第2体育館）
- 2 バスケットボール（第1体育館）
- 3 フットサル（第1体育館）
- 4 ソフトボール（グラウンド）
- 5 野球（グラウンド）
- 6 部活対抗駅伝（鶴峰会館）
- 7 クラス対抗障害物リレー（グラウンド）
- 8 ダーツ（鶴峰会館）

日程：

21日（火）

8：50 出欠調査、(二体にて)

9：00 学生総会、開会式

10：00 競技開始

13：00 ~ 14：30 出欠調査（担任の指示に従ってください）

16：30 競技終了

22日（水）

8：50 出欠調査（HR 教室にて）

9：10 競技開始

12：30 部活対抗駅伝

13：00 出欠調査（担任の指示に従ってください）

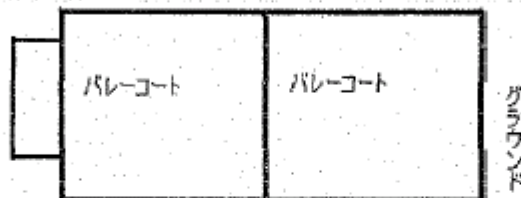
- 13:10 壮行会（玄関前）  
 16:00 競技終了  
 16:10 出欠調査  
 16:15 閉会式・特別表彰（グラウンドにて）

- \* 備考 天候不順の場合グラウンド競技は中止となります。  
 競技が早期に終了した場合閉会式が早く行われる可能性もあります。  
 体育館は土足厳禁ですので上履きを忘れないようにしてください。

## バレーボール

### [ルール]

- ・ 1チーム6人（バレー部員の出場は二人まで）
- ・ 試合時間は15分間25ポイント1ゲームとする（決勝は25ポイント3ゲーム）。  
同点の場合次のポイントを取った側の勝利
- ・ 審判はバレー部員が担当する
- ・ 試合開始予定時刻より3分経過してもメンバーが集まらない場合棄権とみなす
- ・ 女子のサーブは羽球のエンドライン後方より打つこと
- ・ 女子の試合が早期終了した場合男子は両面使うこと
- ・ 女子は同じ学年での混合チームは認めるが、同一人物が掛け持ちをしてはいけない
- ・ 掛け持ちが発覚した場合、掛け持ちさせた両チームとも失格とする
- ・ 25ポイント1ゲームとする



\*左側コートが (A)、右側コートが (B) となります。

### 試合開始時間

(21日) 男子

- ① 10:00 ②10:20 ③10:40 ④11:00 ⑤11:20 ⑥11:40  
 ⑦12:00 ⑧12:50 ⑨13:10 ⑩13:30 ⑪13:50 ⑫14:10  
 ⑬14:30 ⑭15:00

(22日) 女子

- ① 9:30 ②9:50 ③10:10 ④10:40

(出典 校内体育大会資料)

(分析結果とその根拠理由)

低学年の特別活動の時間は教育課程表に明記され、授業時間割にもある。その実施内容、LHRの年間スケジュールが示されるなど組織的な取組みが行われている。新入生に関しては入学当初より、クラス内の人間関係を良好なものとするための取組みが行われ、さらに、年間数回、LHRを活用して進路のしおりを手引きにした進路指導プログラムも準備している。4,5年生については、学校行事を通して、人間の素養の涵養を図る取組みが行われるように配慮している。

観点5 - 4 - : 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

観点に係る本校の取組みの事例は以下のとおりである。(資料5 - 4 - - 1)

資料5 - 4 - - 1		
取組事例	概要	参考資料
クラス担任制	全学科全学年にそれぞれ学級担任を配置し、かつ、1～3学年には副担任も配置して生活指導全般について学生から直接相談を受ける体制となっている。	資料5 - 4 - - 2
学生相談室	進路や人間関係など様々な悩みを気軽に相談できるよう、毎日本校教員又は非常勤カウンセラーを相談員として配置し、相談を受け付けている。	資料5 - 4 - - 3
オフィスアワー	毎週月曜日の8-9時限目に全教員がオフィスアワーを実施し、学生が気軽に教員室へ訪問できるようになっている。	資料5 - 2 - - 8
課外活動	クラブ顧問として教員が配置され、その指導・監督にあたっている。	資料5 - 4 - - 4
ボランティア活動	吹奏楽部による老人ホーム慰問演奏などの各種ボランティア活動が、クラブ顧問等の指導のもとで行われている。	資料5 - 4 - - 5
教室清掃	HR教室の清掃をすべて学生に行わせている。	資料5 - 4 - - 6

(出典 本自己点検評価のための作成資料)

資料5 - 4 - - 2
クラス担任を示す資料(次頁)

平成17年度校務分掌

◎主事及び主事補

教務主事	宮澤 武
教務主事補	澤柳 博文
〃	坂口 直志
学生主事	小田島 本有
学生主事補	井上 圭一
〃	成澤 哲也
〃	加藤 雅也
寮務主事	伊関 敏之
寮務主事補	館下 徹志
〃	松崎 俊明
〃	浅水 仁
〃	七江田 織枝
校務主事	中村 隆
校務主事補	天元 宏
〃	佐藤 彰治
図書館主事	大楽 隆男

◎学科主任

一般教科	吉田 茂
〃(副)	加藤 岳人

◎学級担任及び総担任

1年	機械	林 幸利
	電気 ○	浦家 淳博
	電子	加藤 隆
	情報	田村 聡子
2年	建築	森 太郎
	機械	加藤 岳人
	電気 ○	林 義實
	電子	南須原 政幸
3年	情報	館岡 正樹
	建築	木村 峰明
	機械	渡邊 聖司
	電気	須田 潤
4年	電子	恐神 邦秀
	情報	山崎 俊博
	建築 ○	三森 敏司
	機械 ○	丹 国夫
4年	電気	千田 和範
	電子	梶原 秀一
	情報	本間 宏利
	建築	千葉 忠弘

機械工学科	岩 渕 義 孝
電気工学科	野 口 孝 文
電子工学科	松 本 和 健
情報工学科	神 谷 昭 基
建築学科	草 薊 敏 夫

◎専攻科長及び主任

専攻科長	中 村 隆
主任(建設・生産)	岩 渕 義 孝
主任(電子情報)	神 谷 昭 基

◎センター長

テクニカルセンター長	岩 渕 義 孝
副センター長	荒 井 誠
情報処理センター長	高 橋 晃
副センター長	林 裕 樹

5年	機 械	山 岸 英 明
	電 気	高 木 敏 幸
	電 子 ○	佐 治 裕
	情 報	高 橋 晃
	建 築	中 島 敏

○印は学級総担任

◎学級副担任

1年	機 械	小 杉 淳
	電 気	松 永 繁 樹
	電 子	山 田 昌 尚
	情 報	大 貫 和 永
2年	建 築	井 上 圭 一
	機 械	麓 耕 二
	電 気	佐 藤 英 樹
	電 子	櫻 田 安 志
3年	情 報	中 島 陽 子
	建 築	西 澤 岳 夫
	機 械	田 中 孝 二 郎
	電 気	佐 々 木 敦
3年	電 子	坂 田 篤
	情 報	天 元 宏
	建 築	大 槻 香 子

( 出典 校務分掌 )

資料 5 - 4 - - 3

学生相談室に関する事項の掲載箇所

( <http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/soudan/index.html> )

( 出典 本校ウェブサイト )

資料 5 - 4 - - 4

平成17年度 学生会・クラブ(部・同好会)顧問名簿

◎学生会関係

委員会・クラブ名	顧問
評議委員会	井上圭一
執行委員会	
監査委員会	
選挙管理委員会	成澤哲也
行事委員会	加藤雅也
会計委員会	
新聞委員会	* 小田島本有務 片岡

◎体育系クラブ

陸上部	* 林幸利
	依田有康
	中島陽子
	井上圭一
男子バスケットボール部	* 西澤岳夫
	浅水仁
	加藤雅也
	柳川和徳
男子バレーボール部	* 森太郎
	櫻田安志
女子バレーボール部	* 館岡正樹
ソフトテニス部	* 浦家淳博
	高橋晃勝
	山岡
卓球部	* 小杉淳人
	加藤岳人
柔道部	* 三島利紀
剣道部	* 渡邊聖司
バドミントン部	* 山崎俊博
	館岡正樹
野球部	* 丹国夫
	千葉忠弘
	成澤哲也
アーチェリー部	* 佐藤英樹
	佐々木敦
	須田潤
テニス部	* 松崎俊明
	中島敏
	松本和健
サッカー部	* 三森敏司
	恐神邦秀
	坂口直志
ハンドボール部	* 本間宏利
	草苺敏夫
空手道部	* 岩淵義孝
	本間宏利
	高木敏幸
アイスホッケー部	* 館岡正樹
応援団(休)	* 荒井誠治
	佐藤彰

◎文化系クラブ

写真部	* 片岡務
	吉田茂
吹奏楽部	* 山田昌尚
	池田盛一
美術部	* 麓耕二
	林義實
	山岸英明
アマチュア無線部	* 松永繁樹
	工藤信博
茶道部	* 中島陽子
	坂田篤
	大槻香子
	土江田織枝

◎同好会

ドイツ語研究会	* 木村峰明
	南須原政幸
	藤本一司
軽音楽同好会	* 林義實
ロボット研究会	* 荒井誠隆
	中村秀一
	梶原和範
基礎スキー同好会	* 坂口直志
	柳川和徳
スターリングエンジン同好会	* 田中孝二郎
	山岸英明
	麓耕二
航空技術研究同好会	* 小杉淳
RC(ラジコン)同好会	* 加藤岳人
英会話同好会(休)	* 佐治裕利
スピードスケート同好会	* 三島利紀
	* 高橋晃
将棋同好会	* 三島利紀
書道同好会	* 館下徹志
	* 坂口直志
	大槻典行
マイコンカー同好会	高木敏幸
映像研究会	* 中島陽子
ステップ同好会	* 田村聡子
チェス同好会	* 山崎俊博
フットサル同好会	* 森太郎
自転車同好会	* 大貫和永
	林裕樹
	土江田織枝
トランポリン同好会	* 大槻典行

\*印は、代表顧問

(出典 学生課資料)



資料 5 - 4 - - 5

ボランティア活動状況

平成 16 年度 ボランティア活動などの社会奉仕体験活動についての調査

学校名	1	2	3	4 教員	4 事務員	5	左で の場合	6-1	6-2	7	8	左で の 場合
釧路	大掃除	学校近隣の清掃活動	30	3	0	1		16.5.10	1	2	4	学校行事として実施
	献血	釧路赤十字血液センターへの協力	84	0	0	2		16.5.28	1	2	4	実施を知らせるポスターの掲示
	アムカ伊能 大図里帰 りフロア 展	受付, 展示物の警備等	11	2	1	2		16.7.16 ~ 19	4	2	4	地域貢献事業として実施
	阿寒川と 遊ぶ会	近隣地域住民主催の催しでの演奏会	24	1	0	4	吹奏楽部としての活動	16.7.18	1	2	4	課外活動として実施
	献血	釧路赤十字血液センターへの協力	112	0	0	2		16.5.28	1	2	4	実施を知らせるポスターの掲示
	高専祭準備	学校近隣の清掃活動	30	3	0	1		16.10.21	1	2	4	学校行事として実施
	釧路市芸術祭「吹奏楽フェスタ 2004」	市主催の催しでの演奏会	49	1	0	4	吹奏楽部としての活動	16.10.30	1	2	4	課外活動として実施
	さよなら科学館おもしろサイエンス	市主催の催しでの実験補助	12	12	1	2		17.1.15	1	2	4	地域貢献事業として実施

献血	釧路赤十字血液センターへの協力	113	0	0	2		16.5.28	1	2	4	実施を知らせるポスターの掲示
慰問演奏会	老人福祉施設での慰問演奏会	13	1	0	4	吹奏楽部としての活動	17.3.11	1	2	4	課外活動として実施

学生の参加した社会奉仕体験活動の実態について（活動ごとに記入して下さい）

1．社会奉仕体験活動の名称があれば記入し

て下さい。

2．社会奉仕体験活動の具体的な実施内容を記入して

下さい。

3．社会奉仕体験活動の参加者人数を記入して下さい。（延べ人数で記入して

下さい）

4．社会奉仕体験活動に随行した教員，事務職員がいればその人数を記入して下さい。（延べ人数で記入し

て下さい）

5．社会奉仕体験活動の参加形態について

学校が主催する活動に参加している。

学外の慈善団体等の主催する社会奉仕活動に参加している。

学生達が独自に実施している社会奉仕活動に参加している。

その他（具体的に記入願います）

6 - 1．社会奉仕体験活動の学生の参加期間を記入願

います。

6 - 2．参加期間中の実質参加日数を記入願

います。

7．この社会奉仕体験活動は学校のカリキュラムとして実施された  
ものですか。

はい      いいえ

8．この社会奉仕体験活動にあたり，上記 - 2 で記入した策で実施したものがあれば記  
入して下さい。

単位取得の対象としている      参加した日や時間を休日とカウントしていない

（平日の場合）

表彰や学生への報告を行っている      その他（具体的に記

入願います）

（出典 高専機構からの照会に対する回答）

4 . 教室清掃のチェックについて

委員長及び成澤主事補から，新年度から外注による教室清掃は無くなり，各クラスの学生が教室清掃を行うため，校内の美化を保つことがこれまで以上に重要となった。

学生が自発的に清掃を行う意識を持たせるため，とりあえず 4・5 月に各 1 回，主事補が教室を廻り，教室清掃チェック表（資料 10）により確認を行い，結果を教室に掲示したい。この実施には委員及び担任の協力が必要となるが，最終的には学生が自らチェックできる体制に持っていきたい旨の説明があり審議の結果教室内の掲示物，飾り物，放置物，私物等もチェックの対象に加え，了承された。

資料 10

教室清掃チェック表（案）

クラス

学生委員会

--

チェック項目		4月	コメント
黒板まわり	黒板の掃除.	○	
	チョーク入れの掃除.	△	
	黒板消しの掃況.	△	
	クリーナーの掃除(フィルタの洗浄).	×	
床	床の清掃.	○	
	教室内のごみの掃除.	○	

机, 椅子	教壇上の清掃.	○	
	教卓, 補助卓の整頓.	△	
	机, 椅子の整頓.	○	
	机の中の私物の撤去.	×	
その他	ロッカー上の私物の撤去.	△	
	窓ガラスの清掃.	○	
	掃除ロッカー内の掃除.	×	
備 考			

( 出典 平成 1 7 年 4 月 1 日 学生委員会議事要録, 資料 )

( 分析結果とその根拠理由 )

生活指導面においては, 担任, 各種委員会やクラブ顧問の指導あるいは全教員が一斉に行うOHなどを通じて, 授業以外で学生と接触し相談や指導を行っている。課外活動は, 全教員がクラブ顧問に就任し, 対外試合の引率や, クラブ運営・指導などを通して学生と人間的な交流を行っている。

また, 学生の自主性を養う観点からHR教室の清掃や各種ボランティア活動などを通して社会性や人間の素養の涵養を図るために配慮している。

( 2 ) 優れた点及び改善を要する点

( 優れた点 )

- ・ 数学補講, 大学編入学補講, 他学科開講科目の履修制度, 特別学修による単位認定, インターンシップの積極的支援と単位認定, 海外語学研修制度の取り組みなど, 学生の多様なニーズに対応した取り組みが行われている。
- ・ 2学年の混合学級による創造工学や3学年の習熟度別英語教育など新しい試みが行われている。
- ・ 特別活動 ( LHR ) の年間スケジュールや進路指導上の学年ごとの対応など学生の人間的素養の涵養に関する種々の試みが行われている。

( 改善を要する点 )

特になし

< 専攻科課程 >

観点 5 - 5 - : 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

( 観点に係る状況 )

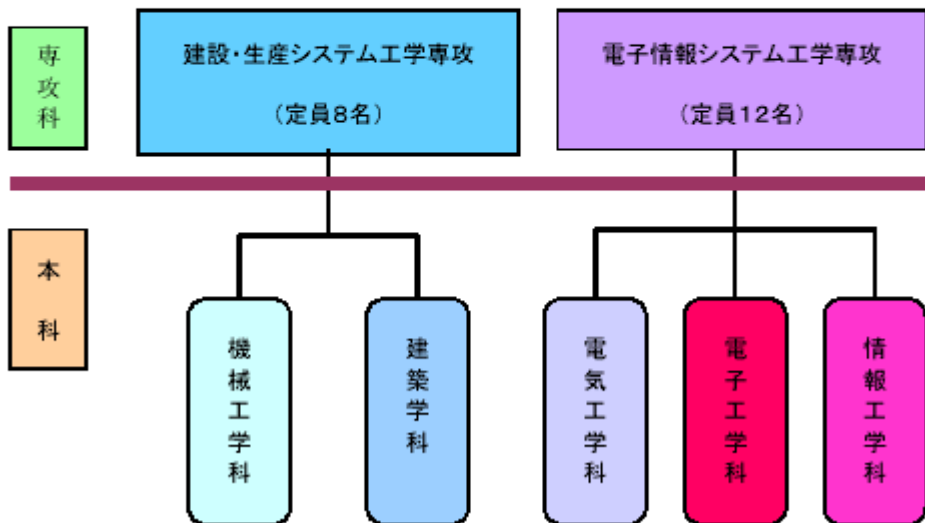
専攻科課程は、準学士課程における教育学習内容を考慮して、次の2専攻で構成される(資料5 - 5 - - 1)。

資料 5 - 5 - - 1

専攻科と本科の構図が掲載されている箇所

◆ 釧路高専専攻科の概要

本専攻科は、5年間の高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く高度な専門知識及び技術を教授し、これまでに培われてきた実践的技術者としての素養に加え、より高度な技術開発能力と研究開発能力を身につけた創造型技術者の育成を目的としています。



( 出典 本校ウェブサイト <http://www.kushiro-ct.ac.jp/office/kyoumu/senkouka/annai04.pdf> )

各専攻は、準学士課程の学習内容を基礎として、専門性の深化と周辺境界領域の知識・技術の修得を考慮した教育課程を設計している(資料5 - 5 - - 2)。

専攻科の教育課程の掲載箇所  
(次頁)

**専攻科教育課程表**

建設・生産システム工学専攻

電子情報システム工学専攻

区分	授業科目名	必修 選択 の別	単 位 数	学年別配当 (単位数)	
				1年	2年
一般 科目	技術科学英語Ⅰ	必修	2	2	
	日本語表現技法	必修	2	2	
	技術科学英語Ⅱ	選択	2	2	
	技術者倫理	選択	2	2	
	統計学	選択	2	2	
応用解析学	選択	2	2		
一般科目開設単位小計			12	12	0
専 門 共 通 科 目	熱力学特論	選択	2	2	
	制御工学特論	選択	2	2	
	多変量解析	選択	2	2	
	数値計算特論	選択	2	2	
	ロボティクス	選択	2	2	
	人工知能特論	選択	2		2
	信号画像処理Ⅰ	選択	2	2	
	環境マネジメント	選択	2		2
	応用力学	選択	2	2	
	設計支援システム	選択	2	2	
	アドバンスドプログラミング	選択	2	2	
	アドバンスドコンピュータ	選択	2	2	
	専門共通科目開設単位小計			24	20
専 門 展 開 科 目	建設・生産システム工学 特別セミナー	必修	2	1	1
	建設・生産システム工学 特別演習	必修	4	2	2
	建設・生産システム工学 特別実験	必修	2	1	1
	建設・生産システム工学 特別研究	必修	16	6	10
	材料システム工学	選択	2	2	
	寒冷地工学	選択	2		2
	空調設備	選択	2	2	
	環境工学特論	選択	2		2
	コンピュータ設計工学	選択	2	2	
	品質工学	選択	2		2
	内燃機関工学概論	選択	2		2
	油空圧工学概論	選択	2		2
	機械制御工学特論	選択	2	2	
	耐震構造	選択	2		2
	建設材料学	選択	2	2	
寒中コンクリート工学	選択	2		2	
建築計画特論	選択	2	2		
デジタルイメージング特論	選択	2		2	
インターンシップ	選択	4		4	
専門展開科目開設単位小計			56	22	34
専門科目開設単位小計			80	42	38
全授業科目開設単位数合計			92	54	38
修得単位数合計			62単位以上		

区分	授業科目名	必修 選択 の別	単 位 数	学年別配当 (単位数)	
				1年	2年
一般 科目	技術科学英語Ⅰ	必修	2	2	
	日本語表現技法	必修	2	2	
	技術科学英語Ⅱ	選択	2	2	
	技術者倫理	選択	2	2	
	統計学	選択	2	2	
応用解析学	選択	2	2		
一般科目開設単位小計			12	12	0
専 門 共 通 科 目	熱力学特論	選択	2	2	
	制御工学特論	選択	2	2	
	多変量解析	選択	2	2	
	数値計算特論	選択	2	2	
	ロボティクス	選択	2	2	
	人工知能特論	選択	2		2
	信号画像処理Ⅰ	選択	2	2	
	環境マネジメント	選択	2		2
	応用力学	選択	2	2	
	設計支援システム	選択	2	2	
	アドバンスドプログラミング	選択	2	2	
	アドバンスドコンピュータ	選択	2	2	
	専門共通科目開設単位小計			24	16
専 門 展 開 科 目	電子情報システム工学 特別セミナー	必修	2	1	1
	電子情報システム工学 特別演習	必修	4	2	2
	電子情報システム工学 特別実験	必修	2	1	1
	電子情報システム工学 特別研究	必修	16	4	12
	電磁気学特論	選択	2	2	
	エネルギー変換工学	選択	2		2
	プラズマ工学	選択	2	2	
	電磁波工学特論	選択	2		2
	ソフトウェア・ハードウェア	選択	2	2	
	デバイス材料工学特論	選択	2	2	
	電子統計工学	選択	2	2	
	応用光学	選択	2		2
	機能デバイス工学	選択	2	2	
	ネットワーク工学特論	選択	2	2	
	信号画像処理Ⅱ	選択	2	2	
コンピュータ・ハードウェア	選択	2	2		
計測工学特論	選択	2	2		
情報数学特論	選択	2	2		
ネットワークデザイン	選択	2		2	
ソフトウェア工学特論	選択	2		2	
ソフトウェア・ハードウェア特論	選択	2		2	
並列・分散処理	選択	2	2		
インターンシップ	選択	2		2	
専門展開科目開設単位小計			62	32	30
専門科目開設単位小計			86	48	38
全授業科目開設単位数合計			98	60	38
修得単位数合計			62単位以上		

(出典 本校ウェブサイト<http://www.kushiro-ct.ac.jp/office/kyoumu/senkouka/annai04.pdf>)

また、以下の科目関連図(資料5-1-3~7)に示すように、準学士課程と専攻科課程の科目の連携がすべての学科・専攻について考慮されている。

本科と専攻の科目関連図(次頁から)

本科機械工学科と建設・生産システム工学専攻の科目関連図

(学科別-1)

本科機械工学科

専攻科教育科目全てに関わる科目	
応用数学	4
応用物理	4
応用数学Ⅱ	1
工業英語	1
工業数学演習	1
機械工学概論	1
工作実習	6
工学実験	6
創造工学	2
卒業研究	8
学外実習Ⅰ、Ⅱ	1,2
機械材料Ⅰ、Ⅱ	2,2
材料評価学	1
表面工学	1
機械工作法Ⅰ、Ⅱ	1,2
材料力学、演習	4,1
生産工学	1
制御工学	2
流体工学、演習	2,1
流体機械	2
計測工学	2
空調工学	1
熱力学、演習	2,1
生産システム工学	1
情報処理Ⅰ、Ⅱ	1,2
数値解析法	2
伝熱工学	2
工業力学	2
熱エネルギー工学	1
機械設計法	2
システム設計工学	2
CAD	2
コンピュータリテラシー	1
電気電子工学	2
振動工学	2
機械設計製図	6

(一般科目は記載を省略)

専攻科

本科教育科目全てに関わる科目	
特別ゼミナール	2
特別演習	4
特別実験	2
特別研究	16
インターンシップ	2
専門科目	
人工知能特論	2
設計支援システム	2
環境マネジメント	2
アドバンスプログラミング	2
アドバンスコンピューティング	2
熱力学特論	2
多変量解析	2
数値計算特論	2
応用力学	2
制御工学特論	2
ロボティクス	2
信号画像処理Ⅰ	2
材料システム工学	2
建設材料学	2
寒冷地工学	2
空調設備	2
寒中コンクリート工学	2
環境工学特論	2
コンピュータ設計工学	2
デジタルイメージ特論	2
品質工学	2
油空圧工学概論	2
内燃機関工学概論	2
機械制御工学特論	2
耐震構造	2
建築計画特論	2
一般科目	
科学技術英語Ⅰ	2
科学技術英語Ⅱ	4
日本語表現技法	2
技術者倫理	16
統計学	2
応用解析学	2

(出典 専攻科設置概算要求書説明資料)

本科電気工学科と電子情報システム工学専攻の科目関連図

(学科別-3)



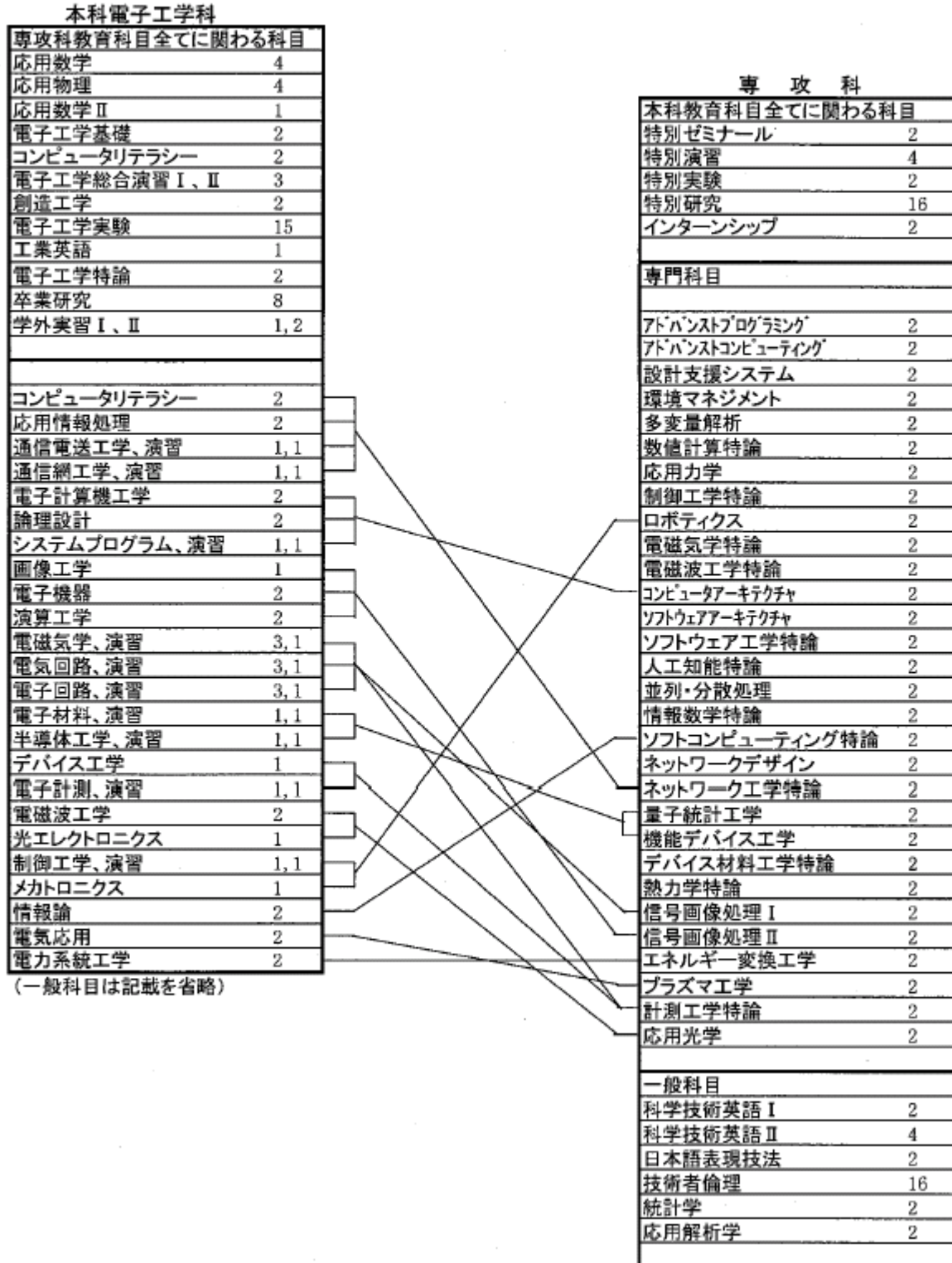
(一般科目は記載を省略)

(出典 専攻科設置概算要求書説明資料)



本科電子工学科と電子情報システム工学専攻の科目関連図

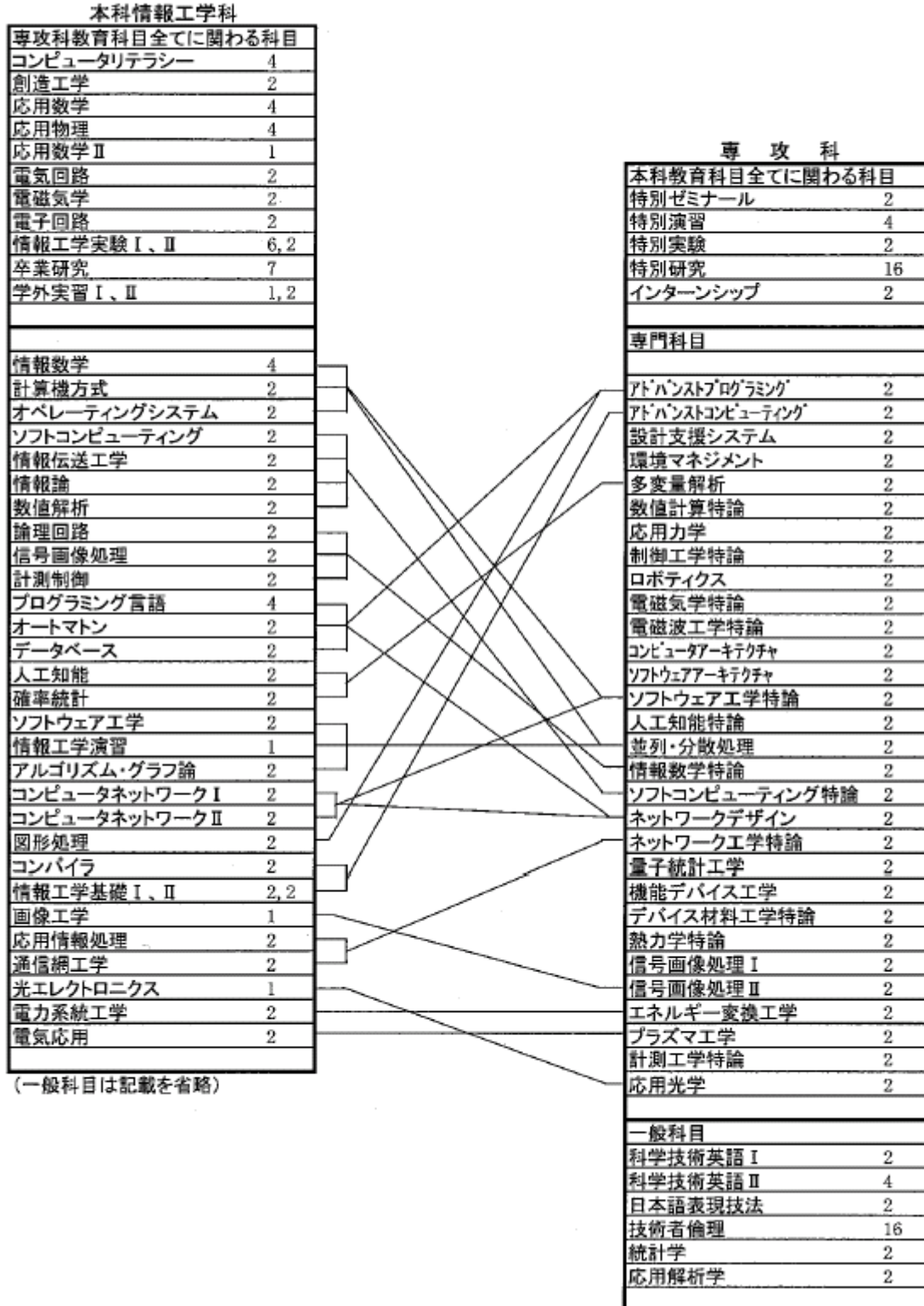
(学科別-4)



(出典 専攻科設置概算要求書説明資料)

本科情報工学科と電子情報システム工学専攻の科目関連図

(学科別-5)



(出典 専攻科設置概算要求書説明資料)

本科建築学科と建設・生産システム工学専攻の科目関連図

(学科別-2)



(出典 専攻科設置概算要求書説明資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程 2 専攻の教育課程は、科目関連図に示すとおり準学士課程の教育との連携を考慮したもののとなっている。

観点 5 - 5 - : 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置(例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。)され、教育課程の体系性が確保されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

はじめに、専攻科課程の編成を示す。(資料 5 - 5 - - 1)

資料 5 - 5 - - 1

専攻科案内、教育課程表の掲載箇所

(出典 別添学校要覧 25 ~ 28 頁)

一般科目では国語、英語教育によるコミュニケーション能力育成と深い数学的解析力の育成を考慮している。専門共通科目では、各専門分野の基礎科目として両専攻に共通な科目群を設定し、専門分野の基礎の充実と周辺分野の知識習得による視野の拡大を考慮している。専門展開科目ではそれぞれの専攻において発展的な内容の科目を配置し、それぞれの専門分野についてより高度な知識、技術の修得を考慮している。また、他専攻科目の履修を規定し、専門の深化ばかりではなく、関連分野、周辺分野の高度な知識・技術の修得についても考慮している。一般科目では必修科目を設定するとともに、一般・専門共通・専門展開科目それぞれにおいて、履修単位の下限を設定し、履修内容に偏りが生じないように制限している。さらに、履修モデルを提示し、学生が希望する分野に合わせた履修ができるよう指導することにより、設計した教育体系から大きなずれが生じないように配慮している(資料 5 - 5 - - 2)。

資料 5 - 5 - - 2

履修モデルの例(次頁)

機械工学を基礎とし、デザインの分野を深める場合

	1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		科目別計
一般科目	技術科学英語Ⅰ(2*)	基	技術科学英語Ⅱ(2)	基					10
	日本語表現技法(2*)	基	技術者倫理(2)	基					
	統計学(2)	基	応用解析学(2)	基					
専門共通科目	熱力学特論(2)	5	多変量解析(2)	基	人工知能特論(2)	7			14
	制御工学特論(2)	7	数値計算特論(2)	7	環境マネジメント(2)	3			
	信号画像処理Ⅰ(2)	7	ロボティクス(2)	7					
	設計支援システム(2)	3	応用力学(2)	6					
	アドバンストコンピューティング(2)	7	アドバンストプログラミング(2)	7					
専門展開科目	材料システム工学(2)	1	機械制御工学特論(2)	6	寒冷地工学(2)	5	品質工学(2)	2	20
	コンピュータ設計工学(2)	3	空調設備(2)	4	内燃機関工学概論(2)	5	油空圧工学概論(2)	6	
	建設材料科学(2)	1			耐震構造(2)	6	環境工学特論(2)	5	
	建築計画特論(2)	3			寒中コンクリート工学(2)	1	デジタルイメージ特論(2)	7	
			特別ゼミナール(1*)		特別ゼミナール(1*)		インターンシップ(4)	周	24
	特別演習(1*)		特別演習(1*)		特別演習(1*)		特別演習(1*)		
			特別実験(1*)		特別実験(1*)				
	特別研究(2*)		特別研究(4*)		特別研究(6*)		特別研究(4*)		
計	15		23		15		15		68
講義時間数	20		35		31		20		

(注) インターンシップは講義時間数から除く。  
 ( )内の数字は単位数。\*は必修科目。  
 ■は必修科目の履修 ■は選択科目の履修を示す。

A群 (>=30.4区分)									B群 (>=6)	関連(>=4)	
分類	1	2	3	4	5	6	7	計		基	関
単位数		2	8	2	2	6	8	28	24	12	4

(出典 専攻科学生便覧 9頁)

授業内容は、専門の深化、周辺境界領域分野の学習という教育目的を満たすものとなっている(資料 5 - 5 - - 3 シラバスの例) (資料 5 - 5 - - 4 授業時間割)。

資料 5 - 5 - - 3

一般科目、専門共通科目、専門展開科目の授業内容を示す資料(次頁)

平成 17 年度

建設・生産システム工学専攻科, 電子情報システム工学専攻科		技術科学英語 I			
学年	専攻科 1 年	担当教員名	吉田茂		
単位数・期間	2 単位	週当たりの開講回数	1 回	前期	必修科目
授業の目標と概要	1) 英検準 2 級、あるいは TOE I C 400 点レベルの単語の意味を的確に把握し、早く、正確に英文が読める力の養成 2) 同レベルの英語音声に触れることでの聴解力、発話力の養成 釧路高等目標 (F-6) J A B E E (f 5,6)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	講義時間は文法・読解・音声・作文等の時間に分かれており、4 技能を均等に養成する。課題教材は、当専科が将来触れるであろう工業英語を中心に、英字新聞、TOE I C、TOE F L、諸雑誌、工業英語パンフレット等から中級レベルの英文を厳選して配布する。				
到達目標	英検準 2 級あるいは TOE I C 4 0 0 点に相当する英語力の習得				
成績評価方法	1) 定期試験 (期末試験のみ行う) (70%) 2) 小テスト、宿題 (30%) (上記の合計点が 6 割を超えた学生を対象に、英検および TOE I C の受験結果に応じ最大 20 点を加点する) 英検準 2 級あるいは TOE I C 400 点以上を必ず習得すること、あるいはこれと同レベルの学内模試で合格すること。				
テキスト・参考書	教科書 1:「英検準 2 級 TOE F L 対策問題集」松柏社 教科書 2:「英検 P a s s 単熟語準 2 級」旺文社				
メッセージ					
授 業 内 容					
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標			
第 1 週 ガイダンスおよび実力テスト	2				
第 2 週 単熟語 (p.8-31) テキスト (p.3-7) 課題 1	2				
第 3 週 # (p.32-53) テキスト (p.8-12) 課題 2	2				
第 4 週 # (p.54-76) テキスト (p.13-19) 課題 3	2	1) 単語集の与えられた範囲の語句の意味が書える。			
第 5 週 # (p.77-102) テキスト (p.23-26) 課題 4	2	2) テキストの各設問の正答に至るプロセスが理解できる。			
第 6 週 # (p.103-128) テキスト (p.27-30) 課題 5	2	3) 与えられた課題の英文が早く正確に読め、的確に内容がつかめる。また文中の重要表現を利用し、簡単な英文が書ける。			
第 7 週 # (p.129-154) テキスト (p.31-34) 課題 6	2				
第 8 週 # (p.155-173) テキスト (p.35-39) 課題 7	2				
英検問題演習					
前期中間試験					
第 9 週 単熟語 (p174-206) テキスト (p43-46) 課題 8	2				
第 10 週 テキスト (p.47-50) 課題 9	2				
第 11 週 テキスト (p.51-54) 課題 10	2	1) 単語集の与えられた範囲の語句の意味が書える。			
第 12 週 テキスト (p.55-58) 課題 11	2	2) テキストの各設問の正答に至るプロセスが理解できる。			
第 13 週 テキスト (p.59-61) 課題 12	2	3) 与えられた課題の英文が早く正確に読め、的確に内容がつかめる。また文中の重要表現を利用し、簡単な英文が書ける。			
第 14 週 テキスト (p.64-73) 課題 13	2				
第 15 週 期末試験	2				
前期期末試験		50 分			
後期中間試験					
後期期末試験					

平成 17 年度

建設・生産システム工学専攻科, 電子情報システム工学専攻科		信号画像処理 I			
学年	専攻科 1 年	担当教員名	中村 隆		
単位数・期間	2 単位	週当りの開講回数	1 回	前期	選択科目
授業の目標と概要	信号処理は工学のあらゆる分野において重要である。特にデジタル信号を扱うことは技術者にとって必須事項である。本講義では、デジタル信号処理をメインテーマとして、信号処理を行う際に必要な知識と技術を身に付けることを目的とする。 釧路高等専門学校教育目標 (C-2,C-3)(D-1,D-2), J A B E E (c)(d(1)2,d(2)a),b),c),d))				
履修上の注意 (準備する用具・前姿となる知識等)	信号処理を行う上で、数学、情報技術の基礎知識は必須である。アナログ信号とデジタル信号の違い、デジタル信号を扱う際の注意事項などについては、本講義で復習するが、既に学んでいることを前提とする。また、デジタル信号処理を行うには、コンピュータ技術が必要である。これについても、本科で十分に修得していることを前提とする。				
到達目標	アナログとデジタルの相違について十分に理解できること。 ラプラス変換、フーリエ変換を活用できること。 デジタルフィルタのブロック図を理解できること。				
成績評価方法	定期試験 100% (+提出物などの平常点 20%) (定期試験 60 点以上の時のみ平常点を加算する)				
テキスト・参考書	テキスト「よくわかる信号処理」(オーム社) 参考図書「信号解析のための数学」(森北出版), 「ユーザーズデジタル信号処理」(東京電機大学出版局), など				
メッセージ	本講義を通じて、「信号処理とは何か」についての理解、特にデジタル信号処理の基礎を身につけてほしい。				
<b>授 業 内 容</b>					
授業項目		時間	授業項目ごとの達成目標		
信号, 信号処理システム 連続時間信号の解析 連続時間システムの解析 離散時間信号の解析		4 4 4 4	連続信号と離散信号を説明できる。 信号処理システムを表現できる。 簡単な関数について、フーリエ解析、フーリエ変換、ラプラス変換を適用して解析できる。 システムの伝達関数、周波数特性、応答を求めることができる。 z 変換ができる。DFT ができる。		
前期中間試験					
離散時間システムの解析 サンプリングと窓関数 フィルタ 演習		4 2 4 4	たたみこみができる。離散時間システムの伝達関数、周波数特性、応答を求めることができる。 サンプリング定理を適用できる。窓関数を適用できる。 アナログフィルタの設計、デジタルフィルタへの変換ができる。IIR, FIR フィルタを設計できる。 総合演習		
前期期末試験		90 分			
後期中間試験					
後期期末試験					

平成 17 年度

電子情報システム工学専攻科		計測工学特論				
学年	専攻科 1 年	担当教員名	松本和健			
単位数・期間	2 単位	週当たりの開講回数	1 回	前期	選択科目	
授業の目標と概要	<p>本講義では、信号と雑音の統計的な扱い、信号と雑音の物理的な性質や時空間における性質とその処理方法といった基礎的な事項と、広範囲に応用され、多くの計測手法がある最近の電子計測の技術の中から、一つのトピック的な計測技術を取り上げる。授業では、前半を計測手法の理解を深めてもらうための座学を中心として、後半をトピックとして取り上げた計測法の輪講と実験を中心と進める。</p> <p>釧路高専目標 (D-1,D-2,F-1)、JABEE (c,d2-a,d2-b,d2-c,d2-d,g)</p>					
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)	<p>本講義では、電気電子工学、情報工学で学んできた事、特に電気回路、電磁気学、計測工学を元にして、不確かさの少ない信頼できる計測について学ぶ。</p>					
到達目標	<p>このトピックの基礎的な事項から信号伝送やデジタル処理も含めた専門分野との関連を通して、物理的な現象をいかに信頼できる信号や数値に変換するかといった電子計測の本質的で基礎的な知識を理解してもらい、計測技術に関する設計能力を身につけてもらう。</p>					
成績評価方法	<p>定期試験 (年一回) [50%]                      輪講と発表会 [20%]                      実験レポート [30%]</p>					
テキスト・参考書	<p>参考書：電気電子計測、新妻弘明他 (朝倉書店)、バイオマグネトロニクス、温美和彦他 (オーム社)、生体用センサと計測装置、山越憲一他 (コロナ社)、SQUID Sensors: Fundamentals and Applications, Harold Weinstock ed. (Kluwer Academic Publishers)</p>					
メッセージ	<p>今年度は、生体の電磁界信号の計測をトピックとして取り上げる予定です。この分野の計測では、SQUID 磁束計を用いた生体磁気計測や、MRI など計測技術で比較的 S/N 比の確保が困難な分野になります。トピックとして取り上げた技術を理解することによって、様々な計測分野に応用できるような力を修得することを期待します。</p>					
授 業 内 容						
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標				
1. 信号源 2. 雑音 3. 雑音の時間的、空間的性質 4. 電磁気量の測定 5. 信号処理	2 4 4 2 4	<p>後半のトピックで取り上げる計測技術で各自が議論するために必要な基本的知識に関連する、信号と雑音の物理的性質と解析的な取り扱い方、技術的処理方法の関連について理解する。</p>				
前期中間試験						
6. トピックで用いられるセンサ 7. トピックで用いている計測技術 8. 輪講 9. トピックに関連した実験計画と計測実験	2 4 4 4	<p>トピックとして取り上げる計測技術を理解した後、これに基づいて最近の動向を英文で調査し発表する、自分自身で簡単な計測応用を設定して設計し、計測実験してもらう。</p>				
前期期末試験	90 分					
後期中間試験						
後期期末試験						

(出典 専攻科シラバス)



平成17年度 前期授業時間割(専攻科)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9
		8:50~10:25	10:35~12:10	13:00~14:35	14:40~16:15	16:20~17:05				
月	建設 生産 電子 情報	創始工学特論(千田) 創造ラボ室E、電気計算機室	ト・バ・ソ・ワ・ロ・ウ・エ・ア・ラ・イ・フ(林(悠)) 応用情報処理実験室	設計支援システム(千葉) 情報処理センター、建築CAD室 デバイス材料工学特論(須田) 創造ラボ室E	設計支援システム(千葉) 創造ラボ室E	内務機関工学特論(田中) 選択教養 選択教養	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等			
	建設 生産 電子 情報	創始工学(藤) 選択教養	電磁波工学特論(工藤) 選択教養	情報工学特論(工藤) 選択教養	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等					
火	建設 生産 電子 情報	情報数学特論(大綱) 創造ラボ室E	建築計画特論(佐藤(彰)) 建築関係実験室	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等					
	建設 生産 電子 情報	高中コンクリート工学(三枝) 建築材料研究室B エネルギー変換工学(山岡) 選択教養	電磁気学特論(松浦) 応用物理実験室 耐震構造(草刈) 選択教養	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等						
水	建設 生産 電子 情報	材料システム工学(岩淵) 創造ラボ室D コンピュータアーキテクチャ(坂田) 選択教養	信号画像処理 I (中村) 選択教養	熱力学特論(山岸) 創造ラボ室E						
	建設 生産 電子 情報	環境マネジメント(加藤(雅)) 創造ラボ室E	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等							
木	建設 生産 電子 情報	統計学(澤柳) 選択教養	コンピュータ設計工学(荒井) 第2演習室 計測工学特論(松本) 選択教養、電子応用実験室	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等					
	建設 生産 電子 情報	電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等							
金	建設 生産 電子 情報	建設材料科学(大塚) 建築材料研究室B 量子統計工学(坂口) 選択教養、多目的共用実験室	技術科学英語 I (吉田) 選択教養	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等					
	建設 生産 電子 情報	建設・生産システム工学特別ゼミナール(各教員) ソフトウェア工学特論(大貫) 創造ラボ室E	人工知能特論(高木) 第2演習室	建設・生産システム工学特別研究(各教員) 実験室等 電子情報システム工学特別研究(各教員) 実験室等						

※ 科目名の太字は必修科目

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目，専門共通科目，専門展開科目がバランスよく配置され，それぞれ履修単位の下限を設定することで履修内容に偏りが出ないように工夫している。さらに，履修モデル提示により学生の履修計画を指導し，教育体系からのずれが生じないように工夫している。以上のことから，授業科目は体系的に配置され，教育の目的を達成するために適切なものである。

観点 5 - 5 - : 学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば，他専攻の授業科目の履修，他高等教育機関との単位互換，インターンシップによる単位認定，補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

(観点に係る状況)

他専攻授業科目の履修，他高等教育機関での単位認定を定めている(資料 5 - 5 - - 1)。

資料 5 - 5 - - 1

他専攻授業科目の履修，他高等教育機関での単位認定に関する資料

(他の専攻で履修した単位の認定)

第 9 条 本校の他専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は，あらかじめ指導教官の許可を得た上で，「他専攻授業科目履修届」(別紙第 3 号様式)を所定の期日までに提出しなければならない。これにより修得した単位は，8 単位を限度として自専攻における単位として認定することができる。

(他の大学等で履修した単位認定)

第 10 条 大学及び他の教育施設(以下「大学等」という。)で開設される授業科目の履修を希望する者は，あらかじめ大学等の許可を得た上で，「大学等履修届」(別紙第 4 号様式)を提出しなければならない。

2 前項の規定により修得した単位は，16 単位を超えない範囲で，専攻科における授業科目の履修とみなし，単位を認定することができる。ただし，これにより認定できる一般科目の単位は 2 単位，専門科目の単位は 14 単位をそれぞれ限度とする。

(出典 釧路工業高等専門学校専攻科の履修等に関する規則)

次に他専攻の科目履修実績を示す(資料 5 - 5 - - 2)。

資料 5 - 5 - - 2

他専攻科目履修・修得状況

年度	専攻・学年	人数	履修した他専攻科目	履修期	単位修得状況
H16	電子情報システム工学専攻 1 年	2	空調設備	後期	修得
		1	機械制御工学特論	後期	修得
H17	建設・生産システム工学専攻 1 年	2	情報数学特論	前期	

(出典 学生課資料)

インターンシップは現在 2 年次選択科目として設定しているため，今年度が実施初年度となる。(資料 5 - 5 - - 3)。単位互換は，現在相手先と交渉中である。

## 専攻科のインターンシップを示す資料（次頁）

### 専攻科のインターンシップについて

#### 1. 目的

企業、官庁、国公立大学および試験研究機関において、現場指導者の監督のもとに実務に参加し、実践的な技術者となるための素養を磨くこと、また、技術に対する社会の要請、試験・研究活動における知識や技術の必要性を認識し、学ぶことの重要性を再確認すると共に、自分の進路について考察する機会を持つこと、を目的とする。

#### 2. 形態

基本姿勢として、釧路高专を離れ、相手先で実務を経験することを対象とする。具体的には以下を例示するが、これら以外の場合については専攻科委員会で協議の上、単位認定対象かどうかを決定する。

##### 2.1. 相手先に出向き、指導を受けながら実務を経験する。

（本科のインターンシップと同様。）

##### 2.2. 相手先の指導の下に、釧路工業技術センター、あるいは他の公的機関において試作、研究などの作業に携わる。

（釧路高专における共同研究、試験研究などは除く）

（研究員としての参加を想定。）

##### 2.3. 相手先の指導の下に、大学などの学術機関における研究開発に携わる。

（民間会社以外にも、たとえば大学との共同研究の延長として相手先でチームに参加するようなことを想定。）

（豊橋、長岡技術科大における専攻科生を対象とする夏休みインターンシップ講座への参加を想定。）

#### 3. 時間

相手先における体験時間が75時間以上を2単位、150時間以上を4単位とする。ただし、長岡技術科大のオープンハウスのように、相手先が時間を規定しているものについては、専攻科委員会で協議の上、単位認定対象かどうかを決定する。

#### 4. 時期

専攻科生が専攻科に在籍する期間内であれば、時期を問わない。

#### 5. 高专側の体制

##### 5.1. 集中して行う場合（2週間を想定）

少なくとも1回、指導教員（専攻科長、専攻主任、学科主任、指導教員いずれか）が企業訪問し、本人、先方担当者との面談を行い、状況把握、内容の充実を図る。

##### 5.2. 継続的に行う場合

少なくとも期間中に1回、同様に企業訪問を行う。

##### 5.3. 遠隔地における場合

可能な限り企業訪問する。不可能な場合は、電話などにより直接連絡をとり、状況把握に努める。

（いずれの場合にも訪問レポートを作成し、該当学生のインターンシップ記録として保存する。）

##### 5.4. インターンシップ終了後、発表会を行う。（学生、教員、場合によって受け入れ先企業担当者が聴講する。）

##### 5.5. 企業担当者による実習評価、学生のレポート、発表会におけるプレゼンテーション評価により行う。

##### 5.6. 事前指導、事後指導（発表会など）を行う。

#### 6. 評価について

6.1. 企業担当者による評価は、本科と同様な学外実習証明書を用意し、これに所見、評価（5段階）等を記入してもらう。

6.2. 学生のレポート評価は専攻主任と指導教官が評価する（5段階）。

6.3. プレゼンテーションは専攻主任の指名する複数教官が評価する（5段階）。

以上を総合し、専攻主任が評価点数を出す。

（出典 平成17年4月22日専攻科委員会議資料）

なお、インターンシップについては、専攻科課程在学中の任意の時期における単位取得を可能とし、また、必修科目への変更を申請する予定である（資料5 - 5 - - 4）。

資料 5 - 5 - - 4

専攻科教育  
(略)

- ・インターンシップ(全ての学生が1ヶ月程度)及び地元企業や地域社会との連携を通じ、地域への貢献意識を備えていること

(出典 本校中期目標・中期計画4頁)

当地域の経済的状況から、受け入れ企業はわずかであり、実習期間を1週間とする補充単位を設定し、少しでも学生が技術的な経験を積むことができるようにしている(資料5-5--5)。

資料 5 - 5 - - 5

平成17年度

電子情報	インターンシップ		
学年	第2学年	担当教員	
単位数・期間	2単位	選当たりの開講回数	選択科目
授業の目標と概要	企業、官庁、国公立大学および試験研究機関において、現場指導者の監督のもとに実務に参加し、実践的な技術者となるための素養を磨くこと、また、技術に対する社会の要請、研究・設計・生産・試験・建設・保守などの活動における知識や技術の必要性を認識し、これらの活動を公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理等の観点で考察すると共に、自分の進路について考察する機会を持つこと、を目的とする。		
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	インターンシップは、受入企業に貴重な時間と労力を割いていただいで実現するものである。このことを常に念頭に置き、社会人としてのマナー、技術者としての姿勢を学ぶことを心がける。(詳細はガイダンス、実施要綱を参照)		
到達目標	実体験を通じ、技術者としての素養を磨く。 与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる。 グループ業務において、自分の役割を積極的に果たす。 明快かつ論理的な実習報告書を作成し、これを元にプレゼンテーションすることができる。 実社会における技術への要請、必要性を認識する。 社会が要求する科学技術を認識できる。 科学技術が社会に及ぼす影響を認識できる。		
成績評価方法	受入企業による実習評価(70%) + 実習報告書評価(20%) + 実習報告会におけるプレゼンテーション評価(10%) 60点以上で合格である。		
テキスト・参考書	受け入れ先機関の指定する技術資料、参考図書等を使用する。		
メッセージ			
授業内容			
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標	
受け入れ先機関の計画に従う			
受け入れ先機関提示およびマッチング 受入可能な機関を掲示し、希望調査・調整を行う。			
ガイダンス ビジネスマナー、企業秘密、事故の場合の対応など			

事前準備 調整後に決定した機関の担当者に各自が連絡を取り、実習内容・注意事項などの指導を受ける。		
実習		
報告書提出 守秘義務などを考慮した上で実習報告書を作成する。		
インターンシップ報告会 実習内容について、口頭発表を行う。		

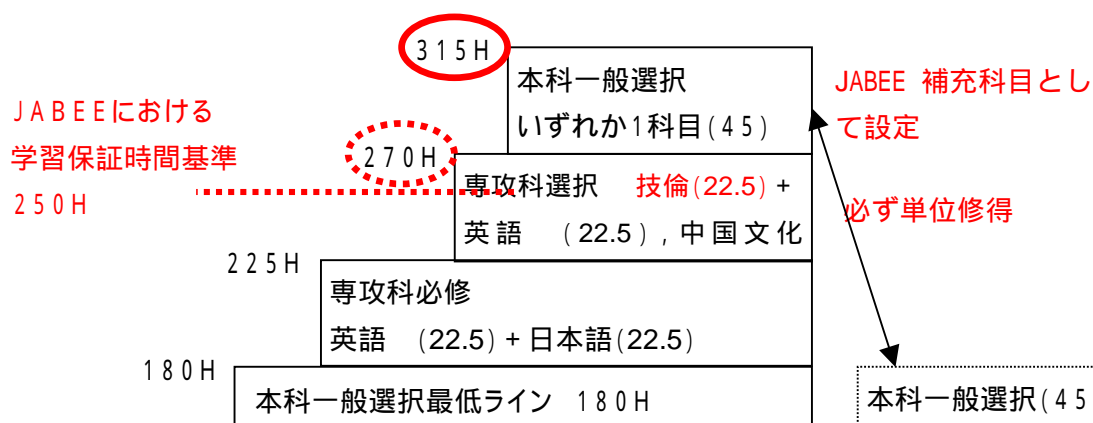
(出典 専攻科シラバス)

人文系科目の履修単位数が少ないまま進学した学生に対する補充科目として当該科目の履修を奨励している(資料5 - 5 - - 6)。

資料5 - 5 - - 6

学習保証時間：

教育プログラムは、「最低限これだけの学習時間は保証する」という時間を規定します。高専本科・専攻科というルートでは、専門分野に関する学習時間は大学と比べても十分すぎるくらいにあります。しかし、「人文科学，社会科学等（語学教育を含む）の学習 250 時間以上」という制限については、クリアするのがむずかしい場合があります。高専のもうひとつの弱点である、一般教養科目の少なさが原因です。これについてクリアするための条件について説明します。



上の図で説明します。図は欠課がない場合を示したものです。本科において修得する人文科学・社会科学系の科目の総学習保証時間は「一般選択で人文系を選択しないと」180時間です（ここで「時間」は実時間60分です）。250時間には程遠く、専攻科の一般必修科目を加えると225時間になりますが、まだ不足です。したがって、これをクリアするためには

- (1) 専攻科の選択科目である技術者倫理を必ず履修・修得し、
- (2) 科学技術英語 と(新規開講の)中国文化のうちどちらかを履修・修得する。

という必要があります。これで、総学習時間は270時間となり、JABEE 基準をクリアします。

(出典 専攻科ガイダンス資料)

さらに、英語によるコミュニケーション能力育成のため、補習を実施して学生の能力向上を目指し

ている(資料5 - 5 - - 7)。

資料5 - 5 - - 7

### 平成17年度 専攻科生対象英検準2級取得講座案内

以下の要領で専攻科生を対象に英検準2級取得を目指す特別講座を開講いたします。参加希望者は関係教員まで期日までに申し込みをして下さい。

#### 記

- 1 実施期間 平成18年1月16日(月)～20日(金)の5日間
- 2 実施時間 午後3時～4時30分
- 3 場 所 C217教室(予定)
- 4 テキスト
  - 1)学校で用意をするので、購入の必要はない
  - 2)冬休み前に配布をするので、休み中に予習が必要
  - 3)12月1日から入手可能(吉田先生まで)
- 5 試 験
  - 1)講座の最終日に、学習した範囲で試験を行う。
  - 2)7割が合格基準である(リスニングあり)
- 6 申し込み締切日 12月 9日(金)
- 7 申し込み先 吉田先生まで

(出典 英語学科資料)

(分析結果とその根拠理由)

他専攻授業科目の履修，他高等教育機関の単位認定制度があり実績もある。インターンシップは選択科目として教育課程に組み込まれている。地域の状況を考慮し，補充科目による企業実習を設定し学生の実社会経験を奨励している。人文系科目は補充科目により不足を補う措置を講じ，英語教育は補習教育で能力向上を図っている。以上のことから，学生の多様なニーズに配慮している。

観点5 - 6 - : 教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば，教材の工夫，少人数授業，対話・討論型授業，フィールド型授業，情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況)

授業形態は、一般科目ではコミュニケーション能力育成のための科目を、専門展開科目では特別ゼミナール、特別演習、特別実験、特別研究という実験・実習・演習科目を配置している。これらの科目配置により、高度な実践的技術者の養成という目的の達成を目指している(資料5-6-1)。

資料5-6-1

専攻科教育課程表の掲載箇所

(出典 別添学校要覧27・28頁)

講義科目でも、情報処理技術基礎科目(アドバンストコンピューティング, CAD等)は実技演習を含め、知識ばかりではなく技術修得指導に努めている(資料5-6-2)。

資料5-6-2

実技・実習を含め技術修得指導に努めている授業科目の例

平成17年度

建設・生産システム工学専攻科, 電子情報システム工学専攻科		アドバンストコンピューティング			
学年	専攻科1年	担当教員名	林裕樹		
単位数・期間	2単位	週当りの開講回数	1回	前期	選択科目
授業の目標と概要	コンピュータで定型的な作業を効率良く実行できるように、GUI環境でのマウスによる操作ではなく、CUI環境での操作を修得することを目標とする。コマンドシェルによって多数のファイルに対する連続操作を自動化するなど、CUI環境ならではの効率の良い作業の方法を学ぶ。 釧路高専目標(C-2)、JABEE目標(c, d-1-2)				
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)	キーボードによる文字の入力が中心となるので、ある程度のタイピングができることが望ましい。				
到達目標	コマンドシェルの使い方が分かる。 ファイルやディレクトリの操作方法が分かる。 複数のコマンドを組み合わせて使うことができる。				
成績評価方法	レポート評価80%+授業態度20%で総合評価する。 レポート評価は、各回の課題に対する評価を合計したものである。ただし、すべてのレポートの評価が合格に達していることを合格の条件とする。				
テキスト・参考書	参考書: 川口直樹著 入門ビジュアル・コンピューティング ここからはじめる UNIX (日本実業出版社)				
メッセージ	GUIとCUIのそれぞれの環境が持つ得手・不得手を知ること、コンピュータを更に便利な道具として扱えるようにしましょう。				
授 業 内 容					
授業項目		時間	授業項目ごとの達成目標		
コマンドシェル環境の基本		2	基本的なコマンドシェルの使い方が分かる		
テキストエディタの使い方		2	テキストエディタの使い方が分かる		
ディレクトリツリーとファイル操作(1)		2	ディレクトリのツリー構造を理解する		
ディレクトリツリーとファイル操作(2)		2			
様々なコマンド		2	コマンドの調べ方や使い方が分かる		
シェルスクリプト(1)		2	基本的なシェルスクリプトを作成できる		
シェルスクリプト(2)		2			

前期中間試験		
シェルスクリプト (3)	2	
grep (1)	2	grep を使った検索方法が分かる
grep (2)	2	
awk (1)	2	awk の基本とパターン駆動の操作が分かる
awk (2)	2	
awk (3)	2	
総合課題 (1)	2	必要な機能を持ったスクリプトを作成できる
総合課題 (2)	2	
前期期末試験		
後期中間試験		
後期期末試験		

( 出典 専攻科シラバス

日本語表現技法では対話・討論型授業を展開し、日本語によるコミュニケーション能力育成を行っている(資料5-6-3)。

資料5-6-3

対話・討論型授業展開の例

平成 17 年度

建設・生産システム工学専攻科, 電子情報システム工学専攻科		日本語表現技法			
学年	専攻科 1 年	担当教員名	館下徹志		
単位数・期間	2 単位	週当たりの開講回数	1 回	前期	必修科目
授業の目標と概要	他者に働きかける言語表現は、どのような条件が整うとき説得力を持ち得るのか、また、他者との望ましい対話的関係を作り上げるには、どのようなことを求められるのか。本授業では、課題に即した小論文を書き上げ、それを口頭発表し、相互に批評し合うという体験を通して日本語による効果的な説明の技法を学ぶとともに、他者とのコミュニケーション能力を高め、自己表現と討論の作法や手法を身につけることを目標とする。 釧路高専目標 (F) J A B E E (f)				
履修上の注意 (準備する用具・前提となる知識等)	国語辞典を用意すること。				
到達目標	論理的な思考内容を文章表現することができ、それを効果的に口頭発表できる。他者の言語表現を公平な観点から批評することができる。コミュニケーション能力に関連する「ライフスキル」を身につける。討論の作法や手法が理解でき、それを実践できる。				
成績評価方法	口頭発表を含む言語表現 (50%)、筆記試験 (30%)、確認シート (20%) を総合的に評価する。				



テキスト・参考書	特に指定しないが、授業の中で参考図書・文献等を紹介する。	
メッセージ	効果的なコミュニケーション能力が問われる時代である。まじめに、巧みに、柔軟に、多様な他者と共に生きる術を身につけたい。講義と演習を組み合わせた授業形態をとる。積極的に参加してほしい。	
授 業 内 容		
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標
1. コミュニケーション能力 2. 事実と見解の区別 (1) 3. 積極的傾聴 4. 文章表現に適した言葉遣い・アサーション 5. 小論文の準備 (1)・DESC法 6. 小論文の準備 (2) 7. 小論文発表会 (1)	2 2 2 2 2 2 2	1. コミュニケーションの成立条件が理解できる。 2. 事実と見解の違いが分かる。 3. 他者の話に傾聴することの大切さが理解できる。 4. 言葉を選び、述べ方を工夫することができる。 5. アサーティブな自己表現について理解できる。 6. 主題に結び付く具体例の挙げ方が理解できる。 7. 想定された場面でアサーションを実践できる。 8. 主題に即して論拠を活用することができる。 9. 聞き手を意識した効果的な口頭発表ができる。
前期中間試験	なし	
8. ディベートの準備 (1) 9. ディベートの準備 (2)・討論の手法 10. ディベート 11. 小論文の準備 (1) 12. 小論文の準備 (2) 13. 小論文発表会 (2) 14. 集団の意思決定 15. 討論番組に学ぶ	2 2 2 2 2 2 2	8. ディベートのきまりが理解できる。 9. 根拠を検討し、立場を明確にすることができる。 10. 討論における効果的な技法が理解できる。 11. 討論の在り方を公平に批評することができる。 12. 論題に即して素材を選ぶことができる。 13. 論理的な文章構成法について理解できる。 14. 主題が明確な、効果的な口頭発表ができる。 15. 困難な事態に対処するための討議ができる。 16. 建設的な討論を成立させる条件を理解できる。
前期期末試験	50分	
後期中間試験		
後期期末試験		

(出典 専攻科シラバス)

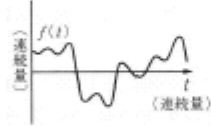
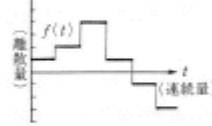
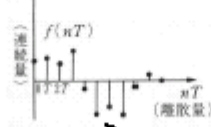
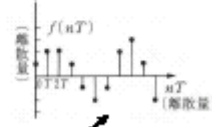
教室にはA V機器を備えていることから，各教員がそれぞれ情報機器を利用した講義展開を工夫している（資料5 - 6 - - 4）。

資料5 - 6 - - 4

情報機器を利用した講義展開の工夫例

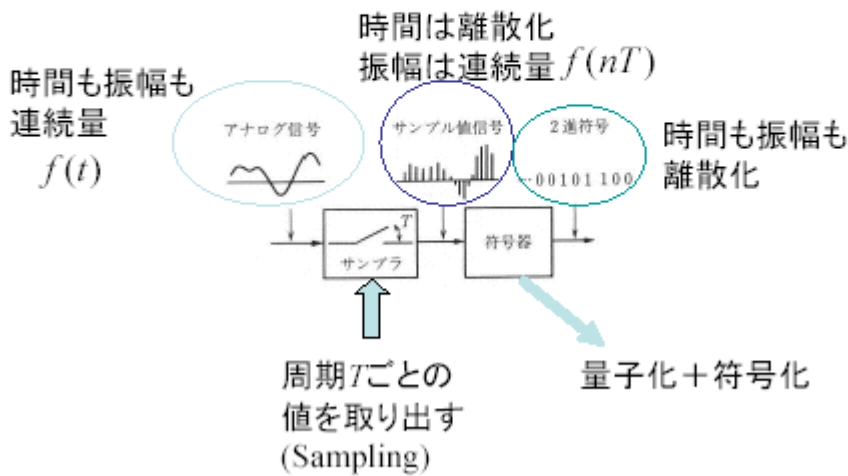
# 1. 信号の分類

1変数のみを扱う →  $f(x)$   $g(t)$  など

信号 独立変数		縦軸が	
		連続量	離散量
縦軸が	連続量	<b>アナログ信号</b> 	<b>多値信号</b> 
	離散量	<b>サンプル値信号</b> 	<b>デジタル信号</b> 

よーく見ると違う

## サンプリングと量子化



(出典 専攻科担当教員資料)

学年定員が20名で講義当たりの受講者数は少ない。このため、すべての科目で少人数授業によるきめ細やかな指導体制がとられている。(資料5-6-1-5)

資料5-6- - 5

専攻科科目履修者数一覧 (人)

科目名	1年	2年
技術科学英語	14	
日本語表現技法	14	
統計学	14	
熱力学特論	11	
制御工学特論	16	
人工知能特論		10
環境マネジメント		15
設計支援システム	10	
アドバンスコンピューティング	9	
材料システム工学	7	
コンピュータ設計工学	7	
耐震構造		7
建設材料学	4	
寒中コンクリート		7
建築計画特論	5	
電磁気学特論	7	3
エネルギー変換工学		5
デバイス材料工学特論	3	
量子統計工学	2	
コンピュータ-キテクチャ	2	
計測工学特論	6	
情報数学特論	9	
ソフトウェア工学特論		6

(出典 本自己評価のための作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

講義科目の中でも演習を取り入れて技術修得を目指す科目や対話・討論型の科目を置くなどしており、単なる知識の教授にとどまることなく、学生に意見発表、討論を積極的に促す工夫を取り入れている。情報機器の使用を前提として教室設備が用意され、これを駆使した指導方法の工夫をしている。少人数教育は入学者数から当然である。以上のことから、教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点5-6- : 創造性を育む教育方法(PBLなど)の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

インターンシップ及び地元企業や地域社会との連携を通じ、地域への貢献意識を備えていることを専攻科課程における教育目標として設定しており、これを実現するため努力している。また、釧路地域の経済的状況から、インターンシップの受け入れ企業はわずかであり、実習期間を1週間とする補充単位を設定し、少しでも学生が技術的な経験を積むことができるようにしている。今年度が実施初年度ではあるが、その実施状況を示す(資料5 - 6 - - 1)。

資料5 - 6 - - 1

専攻科	期間(1)	期間(2)	企 業 名	
1K				
1	調整中	10日間	村井建設(株)	建築
2	7/27(水)~7/29(金)+2日	5日間	釧路工業技術センター	機械
	8/1(月)~8/5(金)	5日間	JR貨物(株)北海道支社	
3	7/25(月)~7/29(金)	5日間	鈴木健夫デザイン室	建築
	冬・春休み		クシロインテリアコーディネートステーション	
4	8/8(月)~8/19(金)	10日間	釧路工業技術センター	機械
5	8/8(月)~8/19(金)	10日間	釧路工業技術センター	機械
	8/1(月)~8/5(金)	5日間	JR貨物(株)北海道支社	
6				建築
7	7/25(月)~7/29(金)	5日間	萬木建設(株)	建築
1S				
1	8/22(月)~8/26(金)	5日間	王子製紙(株)釧路工場	
2	8/22(月)~8/26(金)	5日間	池田暖房工業(株)	札幌市
	8/8(月)~8/12(金)	5日間	釧路工業技術センター	
3	7/19(火)~7/29(金)	9日間	北海道大学大学院情報科学研究科 メディアネットワーク専攻情報通信システム学 講座 教授	情報
4	7/25(月)~8/5(金)	10日間	北海電気工事(株)釧路支店	
5	8/1(月)~8/5(金)+5日	10日間	釧路工業技術センター	情報
6	8/22(月)~8/26(金)	5日間	王子製紙(株)釧路工場	
7	8/15(月)~8/19(金)	5日間	釧路工業技術センター	電子

2 K						
1			調整中	5日間	村井建設(株)	
2			7 / 25(月) ~ 7 / 29(金)	5日間	釧路工業技術センター	建築
3						建築
4			7 / 25(月) ~ 7 / 29(金)	5日間	千葉工務店	北見市 建築
5						建築
6			7 / 19(火) ~ 7 / 25(月)	5日間	太平洋建設工業(株)	
7			7 / 25(月) ~ 7 / 29(金)	5日間	残間金属工業(株)	
2 S						
1			8 / 1(月) ~ 8 / 5(金)	5日間	北檜山町役場	情報
2						
3			7 / 25(月) ~ 8 / 5(金)	10日間	釧路工業技術センター	情報
4			8 / 22(月) ~ 9 / 2(金)	10日間	(株)日立製作所日立事業所 勤労部 さま 〒317-8511 日立市幸町3 - 1 - 1	日立市
5						電気
6						
7			8 / 1(月) ~ 8 / 5(金)	5日間	釧路工業技術センター	電子
8			8 / 22(月) ~ 9 / 2(金)	10日間	豊橋技科大 電気電子工学系 助 教授	豊橋市
9						
10			7 / 25(月) ~ 7 / 29(金)	5日間	釧路工業技術センター	電子

(出典 学生課資料)

なお、インターンシップは、専攻科課程在学中の任意の時期における単位取得を可能とし、また、教育目標をより確実に達成するため必修科目への変更を申請する予定である。

(分析結果とその根拠理由)

インターンシップが教育課程に組み込まれ、実施されている。地域の特性を考慮し、補充科目としてでも実社会経験を積ませようとしている。選択科目であること、実施率が100%ではないことなど実施の程度として不十分ではあるが、今後の改善が計画されており活用が行われている。

観点 5 - 6 - : 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

シラバス作成の指針が示され、それぞれ学習内容を明確にしていると同時に、必要な事前知識、全体計画、達成目標、評価方法を明示している(資料 5 - 6 - - 1)。

資料 5 - 6 - - 1

#### シラバス記入要領

1) 学科, 学年, 講義名, 担当教員名, 単位数・期間, の欄はそれぞれ該当する内容を選択記入。

2) 授業の目標と概要欄(1行37文字で6行以内)

- ・学習教育目標との関連を意識しながら, 該当科目の目標と概要を記載
- ・学習教育目標及びJABEE 科目のどの基準に当てはまるかその番号を本欄の末尾に記載する。

例 釧路高専教育目標(D)(E), JABEE (c)(d)(g) など

3) 履修上の注意(準備する用具, 前提となる知識など)(1行37文字で6行以内)

- ・授業の進め方, 必要な用具, 前提となる知識などの授業に関する情報を記載。

4) 到達目標(1行37文字で4行以内)

- ・本校学習教育目標および学科の教育目標に沿って到達すべきレベルを総括的に記載する。

5) 成績評価方法(1行37文字で4行以内)

- ・主要授業科目の評価方法

実験(工学実験・機械実習): 学科で共通の評価基準を作成し適用し記載

例) 実験(30%) + レポート(60%) + 実験態度(10%)

試験のない演習・実習(計算機実習・製図): 共通のものは学科で基準作成し記載

例) レポート(80%) + 授業態度(20%)

試験のある演習・実習: 共通のものは学科で基準作成し記載

例) 試験(30%) + レポート(50%) + 授業態度(20%)

講義を中心とした授業: 基本的に各教科担当者が, 具体的算定方法を決めて記載

例) 試験(100%) + 授業態度(±10%)

60点以上の時に限り授業態度を加算することができる。

試験の算定例・・・第3小委員会答申の資料3を参照し, 明瞭な算定方法とすること。

卒業研究の複数教員による採点方法: 学科で共通の評価基準を作成し記載するが, 以下の答申内容を満たす方法で作成する。

- ・複数の教員による評価を行う。具体的方法は学科にて作成
- ・中間発表(10%), 卒業研究発表(30%), 卒業論文(25%), 卒業研究期間中に指導官教員が所定項目について複数回の口頭試問(25%), 研究態度(10%)
- ・卒業研究期間中に指導官教員が所定項目について複数回の口頭試問時期は中間発表前, ゼミ, 卒業研究発表前とする。
- ・学生は, 毎回の卒業研究の内容を日誌に記録する。

6) テキスト・参考書・メッセージ欄(1行37文字で4行以内)

- ・使用するテキスト・参考書名を記載し, メッセージ欄には履修に当たっての留意事項を記載する。

7) 授業の内容

・授業項目(1行24文字で9行以内)

: 各授業期間ごとの履修項目を記載。(1行24文字で9行以内)

( )内に同じ項目での授業回数を記載。

・時間: 期間ごと項目ごとの授業時間数を記載。

前期中間・末, 後期中間・末の試験時間を時間欄に記載する。

・授業項目ごとの達成目標(1行24文字で9行以内)

: 授業項目ごとの達成目標を・・・できる。・・・が説明できる。・・・が求められる。・・・が解ける。など具体的な達成目標を記載する。

シラバス入力上の条件

【文字数】

項目欄名	文字数と行数
授業の目標と概要 履修上の注意	各欄 1行全角37文字で6行以内
到達目標 成績評価方法 テキスト・参考書 メッセージ	各欄 1行全角37文字で4行以内
授業項目 授業項目ごとの達成目標	各欄 1行全角24文字で9行以内

・この文字数や行数を越えると, 文字が小さくなったり, 罫線の位置が変わってしまったり, 文字がはみでたりします。上表の範囲以内で入力するようにしてください。

・また, 半角のカタカナやひらがな, JIS 第1水準とJIS 第2水準以外の全角文字は使用しないでください。

・で囲まれた数字やローマ数字などは, メーカーフォントであるためコンピュータ共有文字ではありません。最悪の場合, システムの動作を止めてしまう可能性があります。

【シラバスの更新】

前年度のシラバスを利用して新年度のシラバスを作成したい方は, 「登録」ではなく, 「修正」で前年度のシラバスを選択し内容を書き換えてください。

保存すると, 新年度のシラバスとして保存されます。

【新機能】

(1). 閲覧用PDFファイルの自動生成

シラバス書き込み保存後にPDFに変換すると, 自動的に閲覧のページにPDFファイルが保存されるようになりました。

(2). 閲覧用PDFファイルインデックスの自動生成

H16年度版までは, 教務係がおこなっていたインデックスの作成をPDFシラバスファイル閲覧時に自動生成するようにしました。

(3). 作成者によるファイル削除

H16年度版までは, 教務係がおこなっていたデータファイルの削除が登録修正ページより, 作成者が削除できるようにしました。

【アドレス】

シラバス登録修正のページ（作成者のみアクセス可能）

<http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/syllabus/2005/index.html>

シラバス閲覧のページ（誰でもアクセス可能）

<http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/syllabus-pdf/index.html>

（平成17年2月3日教務委員会資料）

シラバスは内部向けウェブ上に掲載されるとともに、第1回目の講義において学生に配布し、内容説明を行うことを義務付けている(資料5 - 6 - - 2)。

資料5 - 6 - - 2

内部向けウェブサイトのシラバス掲載箇所

## 学 生 情 報

新着情報

図書関係 [図書館](#)

会計関係 [受付窓口](#)

[公務員受験情報](#)

[求人企業一覧](#)

学生関係

[体育館等の使用](#)

[企業説明会](#)

[学生関連行事](#)

[自動車通学関係](#)

[学生相談室](#)

お知らせ

教務関係 [教育・学習目標](#)

授業評価アンケート

[シラバス](#)

[15年度](#) [16年度](#)

お知らせ



寮生関係 [寮生数一覧](#)

お知らせ

[寮生名簿](#)

(本校内部向けウェブサイト学生用)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスの記載内容は学習目標，概要，履修上の注意など必要な事項を網羅しており，特に，詳細な講義内容，それぞれの講義項目に対する達成目標，科目全体としての達成目標が明確に示されている。これらは学生の履修選択決定，自学自習のための資料として有効である。第1回講義においてシラバスの説明を行うことは，その科目の学習内容について学生の理解を高めることに有効である。以上のことから，シラバスは適切に整備され，活用されている。

観点5-7- : 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば，技術職員などの教育的機能の活用，複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

(観点到係る状況)

特別研究一覧を示す(資料5-7--1)。

資料5-7--1

特別研究の内容を示す資料  
専攻科特別研究一覧

【建設・生産システム工学専攻】

学年	氏名	研究テーマ	指導教員	備考
1 K		廃棄アルミニウム - P S 灰造粒体「ブリッド」材の創製	M岩淵義孝	
1 K		感温磁性流体を利用した小型熱輸送機器に関する研究	M麓 耕二	
1 K		M T S 法によるパターン認識に関する研究(仮)	M荒井 誠	
1 K		P S 灰造粒品を用いた珪砂・コンクリートの性状	A三森敏司	と共同研究
1 K		北海道沿岸地域の空間構造に関する基礎的研究	A千葉忠弘	
1 K		ガラスレットの有効利用によるタイルブリックの開発	A大楽隆男	
1		釧路におけるグループホームに関する実態調査	A千葉忠弘	A 依田有康

K				
2 K				休学中
2 K		都市計画マスタープラン策定後の住民参加の実態に関する研究	A 千葉忠弘	
2 K		釧路市浪花町に現存する明治期木骨煉瓦造倉庫について	A 千葉忠弘	A 西澤岳夫
2 K		開口部からの日照時間算定	A 草苺敏夫	A 中島 敏
2 K		P S 灰造粒品を用いた珪砂・コンクリートの性状	A 三森敏司	と共同研究
2 K		学校教室の照明環境改善に関する実験研究(仮)	A 佐藤彰治	
2 K		凍結防止剤のコンクリート表層剥離(スケーリング)に及ぼす影響	A 大楽隆男	
2 K		角形鋼管柱・H形梁接合部パネル架構の強度関係について	A 草苺敏夫	

【電子情報システム工学専攻】

学年	氏 名	研 究 テ ー マ	指 導 教 員	備 考
1 S		ハイマス発電プラントの運転実績調査と課題解決	E 山岡 勝	
2 S			E 千田和範	
2 S		幾何学学習支援システムに関する研究開発(仮)	E 野口孝文	
1 S		F D T D法による微小光学素子の特性解析	D 中村 隆	
1 S			D 松本和健	
1 S		音楽信号からの雑音除去の研究	J 大貫和永	
1 S		ネットワークセキュリティに関する研究(仮)	J 高橋 晃	
1			D 梶原 季一	

S				
1 S		ICP スパッタ装置で作製した 2 元系薄膜 (Ni と Cu,Zr と Ni) と Si 及び SiGe との界面反応の基礎研究	D 坂口直志	
2 S		蝶翅鱗粉の持つ光学的特性の解析	D 中村 隆	
2 S			D 梶原秀一	
2 S		可変ブロックを用いた動画像符号化における計算量削減法の検討	D 浅水 仁	
2 S		自己相似構造を持つ多層膜による発色現象(仮)	D 櫻田安志	
2 S			J 神谷昭基	J 中島陽子
2 S		画像中の顔の位置特定に関する研究(仮)	J 林 裕樹	
2 S		仮想マシンによるルータ実習支援環境の構築に関する 研究(仮)	J 高橋 晃	
2 S			J 大槻典行	

( 出典 平成 17 年 4 月 22 日専攻科委員会資料 )

特別研究テーマは基本的に入学までの学科指導で決定し、指導教員との関係確立を早期に行っている。また、技術職員は必要に応じて研究指導に参加する(資料 5 - 7 - - 2)。

資料 5 - 7 - - 2

技術職員が必要に応じて研究指導に参加している状況を表す資料(次頁)



(分析結果とその根拠理由)

研究テーマ決定は学科指導の下，入学までに決定し，指導体制を明確にしている。技術職員の研究指導への参加は的確に行われている。従って，専攻科での修学にふさわしい研究指導が行われている。

観点 5 - 8 - : 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定諸規定は，以下のとおり適切に整備されている(資料 5 - 8 - - 1)。

資料 5 - 8 - - 1

専攻科の成績評価・単位認定諸規定(その1)

第 1 1 章 専攻科

(略)

第 5 5 条 専攻科の授業科目及びその単位数は，別表第 4 のとおりとする。

(略)

第 5 7 条 専攻科に 2 年以上在学し，所定の授業科目を履修し，62 単位以上を修得した者については，修了を認定する。

2 校長は，修了認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

3 第 1 項に規定する単位の修得については，別に定める。

(略)

第 5 9 条 本章に定めるもののほか，専攻科に関する事項は，別に定める。

(出典 釧路工業高等専門学校学則)

専攻科の成績評価・単位認定諸規定(その2)

(目的)

第 1 条 この規則は，釧路工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第 5 7 条第 3 項及び第 5 9 条の規定に基づき，専攻科の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定等について定めることを目的とする。

(授業)

第 2 条 授業の 1 単位時間は，標準 5 0 分とし，単位制とする。

2 授業は，講義，演習，実験及び実習のいずれか，又はこれらの併用により行うものとする。

3 各授業科目の単位数は，1 単位の授業科目を 45 単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については，15 単位時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 演習については，30 単位時間の授業をもって 1 単位とする。

(3) 実験及び実習については，45 単位時間の授業をもって 1 単位とする。

(履修方法)

第 3 条 専攻科に開設する授業科目のうち，選択科目の履修にあたっては，年度当初に，別に定め

る「選択科目履修届」（別紙第 1 号様式）を所定の期日までに提出しなければならない。

（試験）

第 4 条 試験は，定期試験，追試験及びその他の試験とする。

2 定期試験は，各学期末に実施する。なお，平素の学業成績により評価することができる授業科目については，定期試験の一部又は全部を実施しないことがある。

3 追試験は，病気，忌引，その他やむを得ない理由により，定期試験を受験できなかった者で，「追試験願」（別紙第 2 号様式）を所定の期日までに校長に提出し，その許可を得た者に対し実施する。

4 その他の試験は，科目担当教官が必要と認めたときに実施することがある。

（成績の評価）

第 5 条 成績は，授業科目ごとに前条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して 100 点法で評価し，次の区分により評語で評定する。

評	評 語	優	良	可	不可
定	評 価	100～80	79～70	69～60	59～0

2 特別研究は，前項の評語により評定する。

（単位の認定）

第 6 条 前条の規定に基づき，評語が優，良及び可に評価された授業科目については，当該授業科目の単位を修得したのものとして，単位を認定する。

（再履修）

第 7 条 単位を認定されなかった授業科目は，次年度において再履修することができる。

（修了に必要な単位）

第 8 条 専攻科の修了にあたっては，学則第 5 7 条第 1 項に定めるもののほか，次の区分により単位を修得しなければならない。

専 攻	科 目		専 門 科 目			合 計
	一 般 科 目		必修科目	選 択 科 目		
	必修科目	選択科目		共通科目	展開科目	
建設・生産システム 工学専攻	4 単位	4 単位 以上	24 単位	14 単位 以上	16 単位 以上	62 単位 以上
電子情報システム 工学専攻	4 単位	4 単位 以上	24 単位	14 単位 以上	16 単位 以上	62 単位 以上

（他の専攻で履修した単位の認定）

第 9 条 本校の他専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は，あらかじめ指導教官の許可を得た上で，「他専攻授業科目履修届」（別紙第 3 号様式）を所定の期日までに提出しなければならない。これにより修得した単位は，8 単位を限度として自専攻における単位として認定することができる。

（他の大学等で履修した単位認定）

第 10 条 大学及び他の教育施設（以下「大学等」という。）で開設される授業科目の履修を希望す

る者は、あらかじめ大学等の許可を得た上で、「大学等履修届」（別紙第4号様式）を提出しなければならない。

- 2 前項の規定により修得した単位は、16 単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる。ただし、これにより認定できる一般科目の単位は2 単位、専門科目の単位は14 単位をそれぞれ限度とする。

（雑則）

第11条 この規則に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

（出典 釧路工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則）

諸規程は学生便覧に示されている。各科目の成績評価方法はシラバスに明記され、これらの資料は、入学ガイダンス(資料5 - 8 - - 2)において学生に配布・周知している。

諸規定の学生への周知に関する資料

資料 4

平成 17 年度専攻科ガイダンス日程

実施日：平成 17 年 4 月 7 日（木）

場所：選択教室

時 間	事 項						
9 : 0 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長挨拶 ※挨拶後、専攻科長及び両専攻主任の紹介</li> <li>○専攻科長挨拶</li> <li>○両専攻主任挨拶</li> <li>○配付資料確認（教務係長）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生便覧(本科用を含む。) ・前期時間割(特別時間割を含む。)</li> <li>・選択科目履修届 ・他専攻授業科目履修届</li> <li>・シラバス ・行事予定表</li> <li>・教科書等一覧 ・学位授与制度の概要</li> <li>・JABEE プログラムについて（パンフ含む。)</li> </ul> </li> </ul>						
9 : 1 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専攻科の概要                             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(1)教育課程</td> <td style="width: 50%;">(4)試験(60点合格)</td> </tr> <tr> <td>(2)単位制、選択制</td> <td>(5)学位取得</td> </tr> <tr> <td>(3)在籍期間</td> <td>(6)修了要件</td> </tr> </table> </li> <li>【休 憩】</li> </ul>	(1)教育課程	(4)試験(60点合格)	(2)単位制、選択制	(5)学位取得	(3)在籍期間	(6)修了要件
(1)教育課程	(4)試験(60点合格)						
(2)単位制、選択制	(5)学位取得						
(3)在籍期間	(6)修了要件						
1 0 : 0 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○履修について                             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(1)履修モデル</td> <td style="width: 50%;">(3)開設科目の説明(必修・選択)</td> </tr> <tr> <td>(2)学位取得に係る単位</td> <td>(4)特別時間割と履修計画</td> </tr> </table> </li> </ul>	(1)履修モデル	(3)開設科目の説明(必修・選択)	(2)学位取得に係る単位	(4)特別時間割と履修計画		
(1)履修モデル	(3)開設科目の説明(必修・選択)						
(2)学位取得に係る単位	(4)特別時間割と履修計画						
1 1 : 0 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○その他                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)学内の施設利用                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室(HR 教室なし)、鶴峰会館、コンピュータ室、図書館</li> </ul> </li> <li>(2)学生生活関係                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車通学、掲示(メール)、学生相談室、喫煙</li> </ul> </li> <li>(3)その他                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書購入</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>						
1 1 : 3 0	終了						

( 出典 平成 17 年 3 月 3 1 日教務委員会資料 )

各科目では、シラバスに示す評価方法に従って成績評価を行い、単位認定を行っている(資料 5 - 8 - - 3)。



資料 5 - 8 - - 3

専攻科学生成績一覧（平成 1 6 年度前期）  
（現地での閲覧資料を参照）

欠課状況についても認定を行い，成績評価に用いている（資料 5 - 8 - - 4）。

資料 5 - 8 - - 4

科目名：技術科学英語（金曜 3・4 時限  
目）

担当教員名：吉田

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
月日	4/15	4/22	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1
1 K											
1 K											
1 K				×							
1 K											
1 K											
1 K							×				
1 K											
1 S											
1 S											
1 S											
1 S											
1 S					×						
1 S											
1 S											

（出典 本校内部向けウェブサイト）

専攻科課程では，平成 1 7 年度末に第 1 期生が修了となるため実績はないが，修了要件に従い専攻科委員会において修了認定を行うことが規定により定められている（資料 5 - 8 - - 5）。

資料 5 - 8 - - 5

（設置）

第 1 条 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という）に，専攻科に関する事項を審議するため，専攻科委員会（以下「委員会」という）を置く。

( 審議事項 )

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程に関する事
- 二 教育計画及び授業時間の編成に関する事
- 三 入学者選抜に関する事
- 四 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関する事
- 五 試験及び学業成績に関する事
- 六 学生の進学及び就職に関する事
- 七 学生の厚生補導に関する事
- 八 その他専攻科の教務及び学生指導に関する事

( 組織 )

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる者で組織する。

- 一 専攻科長
- 二 専攻主任
- 三 専攻主任の所属する学科以外の学科の教員から校長が任命した者各 2 名以内
- 四 教務主事
- 五 学生主事
- 六 寮務主事
- 七 校務主事
- 九 学生課長
- 八 校長が必要と認めた者

( 出典 釧路工業高等専門学校専攻科委員会規程 )

( 分析結果とその根拠理由 )

成績評価・単位認定に関する規定が定められ、学生便覧、シラバス等で学生に周知されている。各科目の成績評価はシラバス記載事項に従い行われている。修了認定の実績はないが、適切に実施できる状況にある。

( 2 ) 優れた点及び改善を要する点

( 優れた点 )

特になし。

( 改善を要する点 )

特になし。

( 3 ) 基準 5 の自己評価の概要

準学士課程において、授業科目は、学校教育法に定める高等専門学校の目的と、それを具体化した本校の学習目標に基づき、一般科目と専門科目との連携のもと、基礎教育を重視し、楔形の配置により系統的に基礎から応用へと履修できるよう各学年に適切に配置され、また、取得すべき単位が設定されている。授業内容は、各科目の段階を追った系統図や学習目標との対応表からも学習目標の実現という教育課程編成の趣旨に合致していると言える。さらに、科目間調整会議により学習内容や講義時期・順序などについて調整・連絡を行うことで、カリキュラム改善・授業内容の改善を行い連続性

と統一性を図っている。

数学補講，大学編入学補講などが実施され，他学科開講科目履修制度，特別学修による単位認定，インターンシップの積極的支援などが行われ，また，学術の発展に対応して特許に関する科目の設置や先端技術の基礎から応用までが学習できる集中講義の実施，及び社会から要請の多いものとしての海外語学研修制度など，活発な取り組みが行われ，学生の多様なニーズ，学術の発展，社会の要請等に対応した教育課程の編成に十分配慮している。

講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切になるようカリキュラムを編成し，習熟度別授業や少人数教育など教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫を行っている。また，全教室にはプロジェクタ投影設備，ビデオ・DVD再生装置などの視聴覚機器を備え，多様な授業形態・教材利用に対応できるよう配慮し，情報処理演習室も有効活用されている。基礎学力不足の学生には，補習・補講やオフィスアワーの積極活用を促す取組が行われ，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫が十分に行われている。

シラバスには，教育課程の編成の基本方針に基づいて，学習目標に対する当該科目の位置づけ，科目の達成目標や成績評価方法を明確に記載するとともに，学生が到達度を自己評価できるよう講義項目ごとに達成目標が記載されている。また，シラバスが学生によってより良く活用されるよう，各種の意識付けの取組が行われ，その成果は授業評価アンケート結果にも現れている。

創造性を育む教育方法として，混合学級による創造工学や卒業研究において，PBLに近い工夫が行われている。また，インターンシップでは，学生の進路決定や専門科目への興味の喚起，プレゼンテーション能力の向上など多くの教育効果が生み出されている。

成績評価，単位認定，進級・卒業認定等については，学則をはじめとする諸規程が定められ，これに基づいて進級認定会議，卒業認定会議等が開催され，適切に実施されている。諸規定は，学生便覧に掲載されているほか，各クラス担任からの説明，新入生オリエンテーションでの教務ガイダンスや始業式の教務関係訓話等で学生への周知を図っている。

低学年における特別活動の時間は教育課程表に明記され，授業時間割にも記載されている。その実施内容についても，年間スケジュールが示されるなど組織的な取組が行われている。特に，新入生に関しては，入学当初よりクラス内の人間関係を良好なものとするための取組が行われ，さらに，「進路のしおり」を活用したプログラムも用意されている。4，5年生については，学校行事を通じて，人間的素養の涵養を図る取組が行われるように配慮している。

生活指導面においては，学級担任，各種委員会やクラブ顧問の指導，あるいは全教員が一斉に行うオフィスアワーなどを通じて，授業以外で学生と接触し相談や指導を行っている。課外活動では，全教員がクラブ顧問に就任し，対外試合の引率や，クラブ運営・指導などを通して学生と人間的な交流を行っている。また，学生の自主性を養う観点から教室の清掃，各種ボランティア活動などを通して社会性や人間の素養の涵養を図るための取組を行っている。

専攻科課程 2 専攻の教育課程は，準学士課程の学習内容を基礎とし専門性の深化と周辺境界領域の知識・技術の修得を目指したものとして編成されている。一般科目・専門共通科目・専門展開科目をバランスよく配置し，履修単位の下限を設定して偏りが出ないように工夫している。また，履修モデルの提示による履修指導も行っている。

学生の多様なニーズに応えるため，他専攻科目の履修，他高等教育機関の単位認定制度がある。インターンシップは，現在のところ選択科目としているが，必修科目への変更を予定している。地域事情から受入企業が少なく，補充科目として企業実習を設定し実社会経験を奨励している。人文系科目

及び英語の補習教育の実施も学生のニーズに応えようとするものである。講義科目の中にも演習を取り入れ、また、対話・討論型の授業展開などにより、単なる知識の教授にとどまらない教育方法の工夫を行っている。

シラバスは、学習目標・授業科目の概要・履修上の注意など必要な事項が網羅されている。特別研究のテーマは、入学までの学科指導で決定し、指導教員との関係確立を早期に行い明確な指導体制となるよう配慮している。

成績評価や単位認定・修了認定に係る諸規定は整備され、学生便覧や入学ガイダンス等により学生にも十分説明されている。

## 基準 6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

観点 6 - 1 - : 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点到る状況）

（準学士課程）卒業時において学生に身に付けさせる学力や資質・能力、養成する人材像について、科目ごとに成績評価基準がシラバスに定められ（資料 6 - 1 - - 1）、全教員による卒業認定会議において成績一覧表から達成状況の把握・評価を行い、卒業認定基準に沿って認定を行っている（資料 6 - 1 - - 2）（資料 6 - 1 - - 3）（資料 6 - 1 - - 4）。

資料 6 - 1 - - 1

### シラバス記入要領

- 1) 学科、学年、講義名、担当教員名、単位数・期間、の欄はそれぞれ該当する内容を選択記入。
- 2) 授業の目標と概要欄（1行37文字で6行以内）
  - ・学習教育目標との関連を意識しながら、該当科目の目標と概要を記載
  - ・学習教育目標及び JABEE 科目のどの基準に当てはまるかその番号を本欄の末尾に記載する。

例 釧路高専教育目標 (D)(E)、JABEE (c)(d)(g) など

ただし、JABEE 科目以外については、釧路高専教育目標との対応記号のみ記載
- 3) 履修上の注意（準備する用具、前提となる知識など）（1行37文字で6行以内）
  - ・授業の進め方、必要な用具、前提となる知識などの授業に関する情報を記載。
- 4) 到達目標（1行37文字で4行以内）
  - ・本校学習教育目標および学科の教育目標に沿って到達すべきレベルを総括的に記載する。
- 5) 成績評価方法（1行37文字で4行以内）
  - ・主要授業科目の評価方法
  - ① 実験（工学実験・機械実習）：学科で共通の評価基準を作成し適用し記載  
例) 実験(30%) + レポート(60%) + 実験態度(10%) など
  - ② 試験のない演習・実習（計算機実習・製図）：共通のものは学科で基準作成し記載  
例) レポート(80%) + 授業態度(20%) など
  - ③ 試験のある演習・実習：共通のものは学科で基準作成し記載  
例) 試験(30%) + レポート(50%) + 授業態度(20%) など

- ④ 講義を中心とした授業 : 基本的に各教科担当者が、具体的算定方法を決めて記載  
 例) 試験(100%) + 授業態度(±10%)※  
 ※60点以上の時に限り授業態度を加算することができる。  
 ・試験の算定例・・・第3小委員会答申の資料3を参照し、明瞭な算定方法とする。  
 ・評価方法は進級認定等に深く関与しますので、十分検討のうえ記載してください。
- ⑤ 卒業研究の複数教員による採点方法: 学科で共通の評価基準を作成し記載するが、  
 以下の答申内容を満たす方法で作成する。  
 ・複数の教員による評価を行う。具体的方法は学科にて作成  
 ・中間発表(10%), 卒業研究発表(30%), 卒業論文(25%), 卒業研究期間中に指導教員が所定項目について複数回の口頭試問(25%), 研究態度(10%)  
 ・卒業研究期間中に指導教員が行う所定項目についての複数回の口頭試問時期は中間発表前, ゼミ, 卒業研究発表前とする。  
 ・学生は、毎回の卒業研究の内容を日誌に記録する。

- 6) テキスト・参考書・メッセージ欄(1行37文字で4行以内)  
 ・使用するテキスト・参考書名を記載し、メッセージ欄には履修に当たっての留意事項を記載する。
- 7) 授業の内容  
 ・授業項目(1行24文字で9行以内)  
     : 各授業期間ごとの履修項目を記載。(1行24文字で9行以内)  
     ( )内に同じ項目での授業回数を記載。  
 ・時間 : 期間ごと項目ごとの授業時間数を記載。  
     前期中間・末、後期中間・末の試験時間を時間欄に記載する。  
 ・授業項目ごとの達成目標(1行24文字で9行以内)  
     : 授業項目ごとの達成目標を・・・できる。・・・が説明できる。・・・が求められる。・・・が解ける。など具体的な達成目標を記載する。

シラバス入力上の条件

【文字数】

項目欄名	文字数と行数
授業の目標と概要 履修上の注意	各欄 1行全角37文字で6行以内
到達目標 成績評価方法 テキスト・参考書 メッセージ	各欄 1行全角37文字で4行以内
授業項目 授業項目ごとの達成目標	各欄 1行全角24文字で9行以内

- ・ この文字数や行数を超えると、文字が小さくなったり、罫線の位置が変わってしまったり文字がはみでたりします。上表の範囲以内で入力するようにしてください。
- ・ また、半角のカタカナやひらがな、JIS 第 1 水準と JIS 第 2 水準以外の全角文字は使用しないでください。
- ・ ○で囲まれた数字やローマ数字などは、メーカフォントであるためコンピュータ共有文字ではありません。最悪の場合、システムの動作を止めてしまう可能性があります。

#### 【シラバスの更新】

前年度のシラバスを利用して新年度のシラバスを作成したい方は、「登録」ではなく、「修正」で前年度のシラバスを選択し内容を書き換えてください。

保存すると、新年度のシラバスとして保存されます。

#### 【新機能】

##### (1). 閲覧用PDFファイルの自動生成

シラバス書き込み保存後にPDFに変換すると、自動的に閲覧のページにPDFファイルが保存されるようになりました。

##### (2). 閲覧用PDFファイルインデックスの自動生成

H16 年度版までは、教務係がおこなっていたインデックスの作成をPDFシラバスファイル閲覧時に自動生成するようにしました。

##### (3). 作成者によるファイル削除

H16 年度版までは、教務係がおこなっていたデータファイルの削除が登録修正ページより、作成者が削除できるようにしました。

#### 【アドレス】

シラバス登録修正のページ(作成者のみアクセス可能)

<http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/syllabus/2005/index.html>

シラバス閲覧のページ(誰でもアクセス可能)

<http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/syllabus-pdf/index.html>

( 出典 学生課資料 )

資料 6 - 1 - - 2

議事に先立ち、教務係長から配付資料の確認が行われた。

続いて宮澤教務主事から、本日の資料は期限（3月3日正午）までに入力された成績評価を基に作成されており、資料1に記載の者について、以後の指導等により成績評価の修正等があれば報告願いたい旨が述べられたが、科目担当教員から修正等の報告はなかった。

#### 審議事項

##### 1. 総欠課制限時数超過者について

宮澤教務主事から、標記の件について、2月25日（金）の臨時教務委員会での審議結果の報告が資料1に基づき行われた。発言内容は以下のとおり。

- ・ 5 , 5 はともに、総欠課制限時数超過に関して「正当な理由なし」と判断した（担任である荒井教員、千田教員から補足説明があった）。
- ・ この他に2名が審議対象となったが、5（欠課時数84時間）については、再集計の結果、制限時数内（75時間）であった。また、5（104時間）については、同委員会において病気欠席が認められたため制限時数内となった。

その後宮澤教務主事から、5については、総欠課制限時数を超過しているが欠点科目がないので卒業認定とし、5については、欠点科目も多数あるため、卒業認定しないこととしたい旨が述べられ、審議の結果了承された。

##### 2. 卒業認定について

宮澤教務主事から、機械工学科：33名全員、電気工学科：33名、電子工学科：38名全員、情報工学科：32名全員、建築学科：32名全員、計168名について、卒業を認定したい旨の説明があり、それぞれ異議なく了承された。

また、授業料未納者は卒業を認めないことになっているが、授業料免除申請者5名（5 , 5 , 5）に係る口座引き落としが2月下旬に行われており3月7日（月）に全員の納入が確認できる予定である旨が述べられた。

（出典 平成17年3月4日開催教員会議（卒業認定）議事要録）

資料 6 - 1 - - 3

平成16年度認定会議用成績一覧表  
（現地での閲覧資料を参照）



(資料 6 - 1 - - 4)

釧路工業高等専門学校学業成績の試験，評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規（抄）

第7条 当該学年課程の修了及び卒業の認定は，原則として教員会議の議を経て，校長が行う。

2 当該学年課程の修了及び卒業の認定にあたっては，次の各号の条件がすべて満たされていなければならない。ただし，校長が特別の事情があると認めた場合は，この限りではない。

- 一 各科目の学年成績の評点が，60点以上である者
- 二 原則として年間出席すべき日数の5分の4以上出席した者
- 三 原則として各科目の年間授業時数の5分の4以上出席した者

(出典 本校規程)

また，年度ごとの進級・原級・退学・除籍など学生の達成状況の集計（資料 6 - 1 - - 5）は教務委員会において分析・評価され教育方法改善や学生支援の取組に活用されている。

資料 6 - 1 - - 5

原級・休学・退学・除籍者一覧

異動事項	学 科	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
原 級	機械工学科	7	7	5	4	5
	電気工学科	5	2	3	7	5
	電子工学科	4	5	8	4	5
	情報工学科	2	6	3	5	6
	建 築 学 科	4	1	7	1	4
	計	22	21	26	21	25
休 学	機械工学科	0	1	1	0	1
	電気工学科	0	3	0	1	0
	電子工学科	0	0	0	0	0
	情報工学科	1	0	2	1	0
	建 築 学 科	1	0	0	1	0
	計	2	4	3	3	1
退 学	機械工学科	3	15	13	8	6
	電気工学科	7	8	8	8	8
	電子工学科	1	13	2	5	2
	情報工学科	8	9	10	13	8
	建 築 学 科	4	7	7	5	6
	計	23	52	40	39	30
除 籍	機械工学科	0	0	0	0	0
	電気工学科	0	0	0	0	0
	電子工学科	0	0	0	0	0
	情報工学科	0	0	2	0	1
	建 築 学 科	0	0	0	1	0
	計	0	0	2	1	1

計	機械工学科	10	23	19	12	12
	電気工学科	12	13	11	16	13
	電子工学科	5	18	10	9	7
	情報工学科	11	15	17	19	15
	建築学科	9	8	14	8	10
	合計	47	77	71	64	57

(出典 平成17年4月4日開催教務委員会資料)

(専攻科課程) 科目ごとにシラバスに定められた成績評価方法に基づいて成績一覧表を作成し、専攻科委員会において達成状況の把握・評価・単位認定を行うとともに、専攻科修了要件が満たされたかを検証した上で修了認定を行う予定である(資料6-1-6)(資料6-1-7)。

資料6-1-6

専攻科成績一覧(平成16年度前期)  
(現地での閲覧資料を参照)

資料6-1-7

釧路工業高等専門学校学則

第57条 専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、62単位以上を修得した者については、修了を認定する。

- 2 校長は、修了認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。
- 3 第1項に規定する単位の修得については、別に定める。

(出典 本校規程)

釧路工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

第8条 専攻科の修了にあたっては、学則第57条第1項に定めるもののほか、次の区分により単位を修得しなければならない。

専攻	一般科目		専門科目			合計
	必修科目	選択科目	必修科目	選択科目		
				共通科目	展開科目	
建設・生産システム工学専攻	4単位	4単位以上	24単位	14単位以上	16単位以上	62単位以上
電子情報システム工学専攻	4単位	4単位以上	24単位	14単位以上	16単位以上	62単位以上

(出典 本校規程)

(分析結果とその根拠理由)

高専の目的に沿って、各課程に応じた学生が身に付けるべき学力や資質・能力、養成する人材像等について、達成状況を評価する方法がシラバスに記載されており、これに基づいて提出された成績一覧表を基に全教員による卒業認定会議が開催されて認定されている。専攻課程においては、専攻科委員会が達成状況を把握・評価し、修了要件が満たされたかを基に認定を行うこととしている。

以上の理由から、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力・資質・能力、養成する人材像などの達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

観点 6 - 1 - : 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

進級状況・卒業時の状況は、学生の異動状況から判断すると、退学・原級ともに3%前後で推移しており、1～4年次学生（退学者を除く。）の進級率は97%、5年次学生は退学者を除き全員卒業している（資料6-1--1）。

資料 6 - 1 - - 1

区分	学科	A 入学者数	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		卒業者数	
			B 人数	B/A	C 人数	C/A	D 人数	D/A	E 人数	E/A	F 人数	F/A	G 人数	G/A
12 年度 入学	M	42	42	100.0%	42	100.0%	39	92.9%	34	81.0%	31	73.8%	31	73.8%
	E	42	42	100.0%	42	100.0%	41	97.6%	37	88.1%	32	76.2%	32	76.2%
	D	41	41	100.0%	41	100.0%	39	95.1%	35	85.4%	34	82.9%	34	82.9%
	J	40	40	100.0%	39	97.5%	37	92.5%	34	85.0%	32	80.0%	32	80.0%
	A	41	41	100.0%	40	97.6%	38	92.7%	32	78.0%	32	78.0%	32	78.0%
	計	206	206	100.0%	204	99.0%	194	94.2%	172	83.5%	161	78.2%	161	78.2%
13 年度 入学	M	42	42	100.0%	40	95.2%	36	85.7%	31	73.8%	29	69.0%		
	E	42	42	100.0%	39	92.9%	38	90.5%	28	66.7%	27	64.3%		
	D	42	42	100.0%	40	95.2%	40	95.2%	37	88.1%	35	83.3%		
	J	43	43	100.0%	41	95.3%	37	86.0%	32	74.4%	29	67.4%		
	A	42	42	100.0%	42	100.0%	42	100.0%	38	90.5%	37	88.1%		
	計	211	211	100.0%	202	95.7%	193	91.5%	166	78.7%	157	74.4%		
14 年度 入学	M	41	41	100.0%	39	95.1%	39	95.1%	36	87.8%				
	E	42	42	100.0%	39	92.9%	38	90.5%	32	76.2%				
	D	41	41	100.0%	40	97.6%	40	97.6%	38	92.7%				
	J	42	42	100.0%	40	95.2%	37	88.1%	31	73.8%				

	A	41	41	100.0%	39	95.1%	38	92.7%	34	82.9%		
	計	207	207	100.0%	197	95.2%	192	92.8%	171	82.6%		
15年度 入学	M	42	42	100.0%	41	97.6%	38	90.5%				
	E	42	42	100.0%	42	100.0%	40	95.2%				
	D	42	42	100.0%	42	100.0%	41	97.6%				
	J	41	41	100.0%	40	97.6%	38	92.7%				
	A	42	42	100.0%	41	97.6%	38	90.5%				
	計	209	209	100.0%	206	98.6%	195	93.3%				
16年度 入学	M	42	42	100.0%	42	100.0%						
	E	41	41	100.0%	40	97.6%						
	D	40	40	100.0%	39	97.5%						
	J	42	42	100.0%	42	100.0%						
	A	41	41	100.0%	41	100.0%						
	計	206	206	100.0%	204	99.0%						
17年度 入学	M	40	40	100.0%								
	E	40	40	100.0%								
	D	40	40	100.0%								
	J	41	41	100.0%								
	A	41	41	100.0%								
	計	202	202	100.0%								

(出典 学生課資料)

資格取得(資料6-1--2),卒業研究テーマ(資料6-1--3),卒業研究発表会予稿集(資料6-1--4,6-1--5)にみられるように,資格取得者数も増加傾向にあり,卒業研究も水準の高い研究・論文発表がなされている。

(資料6-1--2)

検 定 試 験 名	資 格 取 得 者 数			
	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度
実用英語技能検定試験 2級	1	3	3	1
ラジオ・音響技能検定試験 2級	11	10	15	17
デザイン技術検定試験 2級	-	8	27	10

(出典 本自己評価のための作成資料)

卒業研究テーマ

機械工学科

氏名	卒業研究テーマ
	フレーク状氷の連続生成装置の開発
	AI - Motor を使ったメカトロニクス教材の開発
	軽量造粒体と廃棄アルミニウムの複合材料創製
	表面に凸部形状を有する円柱の抗力係数に関する研究
	MTS 法によるパターン認識に関する基礎研究
	平面ローラバニシング加工の加工条件最適化
	難切削材の切削加工条件の最適化に関する基礎研究
	交通渋滞緩和のための信号表示の最適化に関するアプローチ
	極低温加工熱処理を利用したアルミニウム合金の強靱化に関する研究
	人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
	軽量造粒体と廃棄アルミニウムの複合材料創製
	大気乱流拡散に関する風洞実験
	トランペットのマウスピースに生じる圧力損失と音色の関係
	感温磁性流体を用いた小型熱輸送機器の開発
	NiAl 系金属間化合物の諸特性
	LabView を用いた熱線風速計の構築
	VB を用いた振動実験装置の製作
	岩盤調査ロボットの設計製作
	極低温加工熱処理を利用したアルミニウム合金の強靱化に関する研究
	鍛造解析ソフト (Super Forge) による型鍛造解析に関する基礎研究
	MATLAB によるシーソー倒立振子の安定化制御
	蓄冷，蓄熱カプセル装置の数値シミュレーション
	人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
	蓄冷，蓄熱カプセル装置の数値シミュレーション
	過冷却液滴の物体衝突による急速凝固挙動に関する研究
	メカニズムシミュレーションを主体とした 3 次元 CAD 教育システムの開発
	NiAl 系金属間化合物の諸特性
	表面に凸部形状を有する円柱の抗力係数に関する研究

	人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
	リッツ法を用いた偏平 FRP シェルの振動解析
	高強度軽量 FRP 構造材の実用化に関する研究
	寒冷地域における氷冷熱貯蔵に関する基礎研究
	高強度軽量 FRP 構造材の実用化に関する研究
電気工学科	
氏 名	卒業研究テーマ
	ワンチップマイクロコンピュータ(PIC)学習支援システムの開発
	FDTD 法によるマイクロストリップライン及びパッチアンテナの解析
	ARCS モデルに基づいたシーケンス制御学習教材の開発
	レーダ画像上の雲の陰影の除去
	全方向移動のための速度検出システム
	リビングの照明設計
	遺伝的アルゴリズムと画像処理を用いたアイリスリングの測定
	電力系統工学解析用プログラムの開発
	PIC を用いた制御実験のためのインターフェースの開発
	光センサーの基礎研究 半導体レーザーを用いた場合の ATR 特性の評価
	インテリジェントパッドを用いた文書画像のサムネイル作成
	片側短絡型方形 M S A の F D T D 法による放射特性の解析
	FDTD 法による八木・宇田アンテナの解析
	全方向移動台車の構築
	風力発電が電力系統に与える影響
	円形マイクロストリップアンテナの F D T D 法による放射特性の解析
	方形マイクロストリップアンテナの F D T D 法による放射特性の解析
	光を用いた音波測定
	放電図形の研究
	教室の照明設計
	妨害電磁波の可視化
	FDTD 法による導波管の解析
	碍子の絶縁特性
	強化学習を用いた氷海の最適航法の開発
	片側短絡型円形マイクロストリップアンテナの F D T D 法による放射特性の解析
	畜産廃棄物バイオマスの現状と展望

	災害対応型太陽光発電装置
	交流高電圧プラズマ発生装置の製作
	双方向通信可能な力覚提示装置の開発
	BaWO4 に関するフォノン特性シミュレーション
	パルス変調伝送
	フリーストル牛舎における画像認識処理技術を用いた乳牛の運動量に基づく発情発見システムの構築
	コアに粉末金属を使ったトランスの基礎研究圧力依存性測定装置の構想
電子工学科	
氏 名	卒業研究テーマ
	全方位視覚センサによる情報取得
	定点カメラ映像のための動きを用いた物体認識
	離散コサイン変換を用いた画像への電子透かしの埋込み
	ISO データ法及び K-means 法によるカラー画像の領域分割
	携帯電話を用いた学習システムの作成
	光散乱を用いた魚の雌雄判別法の開発
	口ウ管からの光学的音声再生装置の開発
	Java を用いた生徒用教材の作成
	未広方式を用いた CDMA 通信方式に関する研究
	OpenGL を用いたライトレースカーのシミュレーション
	オーディオアナライザの設計と製作
	DSP による IIR フィルタの作成と FIR フィルタとの比較
	熱電半導体を用いた煙突の廃熱を応用した温度差発電装置の研究
	FDTD 法を用いた多層膜構造の光学特性解析
	JAVA による演算装置シミュレータの作成
	人間の流動量調査のための人物の頭部検出
	定点カメラ映像保存のためのカット点抽出
	PLD 法を用いた超電導 MgB2 薄膜の作成
	MusicXML を用いた楽譜処理
	Pulsed Laser Deposition (PLD) による YBCO 薄膜の作製
	Java による SIMAC シミュレータの作成
	Si や SiGe と, Ni と Zr の多層膜界面の評価
	分光スペクトルからの任意表色表現
	M 系列による乱数の発生

	携帯電話用学習システムの開発
	MgB2 厚膜の超電導回路化への検討
	Squid 磁束計を用いた土壌インピーダンスの測定
	熱電半導体を用いた温度差発電装置の研究
	オーディオアナライザの設計と製作
	SQUID 磁束計を用いた土壌インピーダンス測定のための低周波領域における磁気シールドの検討
	USB カメラによる物体認識と動き検出
	Web 上での電子工学科 P R
	Delphi による周波数成分を考慮した立体的なイミタンスチャータの製作
	CPLD によるモータ制御コントローラの製作
	自律移動型ロボットによるロボットトライアスロン
	光と音によるロボットの感情表現に関する研究
	高速ライトレースカーの精密制御
	蝶翅の持つ構造色の分光特性測定装置の開発
情報工学科	
氏 名	卒業研究テーマ
	動画像によるユーザインターフェイスの開発
	ネットワークシミュレートシステムの開発
	3次元空間マルチエージェントシステムの構築と考察
	携帯型ゲーム機を用いた音楽演奏装置の開発
	ウェブカメラを用いた指し棒の指示動作抽出
	風紋を利用した除雪道シミュレーション
	Circular-arc Graph の最大マッチングアルゴリズム
	部分的演奏から検索可能な楽曲検索システムの開発
	非協力的非ゼロ和 2 × 2 対称ゲーム(チキンゲーム)における最適複合戦略
	Bipartite Permutation Graph の最短路アルゴリズム
	ルータ実習支援システム " EMERALD " の開発
	輝度成分に影響されない対象領域の抽出
	メタリック塗装の C G 表現
	周波数領域における雑音除去の評価基準の提案
	OpenGL を用いた手話学習ソフトウェアの作成
	JPEG 復号データの圧縮についての研究
	変化球の軌道シミュレーション



	写真の汚損部位検出と修復
	多脚型ロボットの姿勢制御に関する研究
	携帯電話の Java を用いた学習システムの開発
	Permutation Graph の最大独立節点集合アルゴリズム
	卒業研究論文支援アーカイブ "ZAcro" の開発
	仮想マシンによる Linux カーネルの実習用材料の開発
	自己組織化モデルを用いた楽曲の分類
	支点固定の倒立振子の制御
	釧路高専のボイラーの最適負荷配分制御
	有限オートマトン学習ツール FADraw 2004 開発
	蟻の理論のシミュレーションと数学的考察
	Web アプリケーションによるネットワークカメラ制御
	ハンドボール戦術シミュレーターの開発
	T-Engine プラットフォームでのミドルウェアの検討と開発
	認識候補保持ラティスを用いたオンライン手書き文字列認識

建築学科

氏 名	卒業研究テーマ
	新多機能素材開発における耐久性の実験
	軽量造粒品を用いたコンクリートの強度と凍害性
	ing-store ~繋がる好奇心~
	木造住宅における床面剛性が耐震性におよぼす影響
	軽量造粒品を用いたコンクリートの強度と凍害性
	道内の気温変化について
	北海道漁村の市街地空間構成に関する研究
	地盤凍結が住宅の振動特性に及ぼす影響
	施設複合 ~地域住民が集う場の提案~
	地盤凍結が住宅の振動特性に及ぼす影響
	湿り空気の状態計算を行うプログラムの作成
	濃霧地域におけるサンルームの調湿効果に関する実験研究
	学校教室における照明環境改善のための実測調査
	環境工学実験明瞭度試験のための単音節リスト再生プログラム作成
	フーリエ変換を用いたプレキャストコンクリート接合面の形状分析
	昭和保育園建設案 ~

	時間日影図の作成
	Refine Architecture ~ 廃校舎再生へ向けての一試み ~
	自遊林 ~ 自然の声を聴く場所 ~
	北海道漁村の市街地空間構成に関する研究
	2003年十勝沖地震における地震動特性に関する研究
	集合住宅のかたち ~ 北方型集合住宅の提案 ~
	濃霧地域におけるサンルームの調湿効果に関する実験研究
	鉄筋拘束による高強度コンクリートの耐凍害性に関する研究
	ガラス廃材(カレット)の有効利用によるタイルブリックの開発
	CUBE BOX ~ リバーサイドにおけるホテル計画 ~
	Base of Welfare
	The Place of the Life in area
	新多機能素材開発における耐久性の実験
	釧路駅と駅前の再生
	高齢者と若年者の日常生活に関する調査研究
	フーリエ変換を用いたプレキャストコンクリート接合面の形状分析

( 出典 別紙学生課資料 )

平成 16 年度  
釧路工業高等専門学校  
第 36 期 機械工学科

卒業研究発表会  
講演予稿集

日時：平成<sup>17</sup>年 2 月 4 日（金）9：00～16：05  
場所：釧路高専 大講義室  
講演時間：7, 10, 13 分，質疑応答：5 分

Name T. Miza

## 講演プログラム



9:05~10:30 第1セッション【熱工学, 動力】

【司会進行: 】

1. 蓄冷、蓄熱カプセル装置の数値シミュレーション
2. 過冷却液滴の物体衝突による急速凝固挙動に関する研究
3. フレーク状氷の連続生成装置の開発
4. 感温磁性流体を用いた小型熱輸送機器の開発
5. 寒冷地域における氷冷熱貯蔵に関する基礎研究
6. 人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作

～ 休憩 (10分) ～

10:40~12:05 第2セッション【機械材料, 材料力学】

【司会進行: 】

7. 軽量造粒体と廃棄アルミニウムの複合材料創製
8. NiAl 系金属間化合物の諸特性
9. 極低温加工熱処理を利用したアルミニウム合金の強靱化に関する研究
10. 高強度軽量 FRP 構造材の実用化に関する研究
11. リッツ法を用いた偏平 FRP シェルの振動解析
12. VB を用いた振動実験装置の製作

～ 休憩・昼食 (55分) ～

13:00~14:30 第3セッション【流体力学, その他】

【司会進行: 】

13. 表面に凸部形状を有する円柱の抗力係数に関する研究
14. 大気乱流拡散に関する風洞実験
15. LabView を用いた熱線風速計の構築
16. トランペットのマウスピースに生じる圧力変動と音色
17. 難切削材の切削加工条件の最適化に関する基礎研究
18. 平面ローラバニシング加工の加工条件最適化
19. TS 法によるパターン認識に関する基礎研究

～ 休憩 (10分) ～

14:40~15:55 第4セッション【制御工学, メカトロニクス, 生産加工・管理, 情報処理】

【司会進行: 】

20. AI-Motor を使ったメカトロニクス教材の開発
21. 岩盤調査ロボットの設計製作
22. MATLAB によるシーソー倒立振子の安定化制御
23. 交通渋滞緩和のための車両流れのモデル化に関する基礎実験
24. 鍛造解析ソフト(Super Forge)による型鍛造解析に関する基礎研究
25. メカニズムシミュレーションを主体とした3次元CAD 教育システムの開発

球カプセル潜熱蓄熱装置の性能の数値シミュレーション

学 正 山岸 英明(伝熱実験室) 学 正 藤 耕二(伝熱実験室)

1. 緒言

近年、石油に替わる新しいエネルギーとして、太陽、地熱および風力など各種自然エネルギー利用などが積極的になされている。しかし、エネルギー密度や不規則性に加えて、低密度レベルのエネルギーであるという問題点を克服しなければならない。そのためにはエネルギーの平準化や、エネルギー貯蔵技術の開発が不可欠である。

このような観点より、本研究では球カプセルを封入した蓄熱・蓄冷槽の性能についての数値シミュレーションを試みた。その結果、カプセル内相変化物質(PCM)としてリン酸水素二ナトリウムと水の2つを選び、蓄熱槽やカプセルの時間変動特性を明らかにした。

2. 数値シミュレーションの方法

2-1. 解析モデル

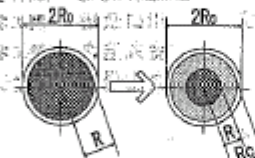
本解析においては、球カプセル潜熱蓄熱方式のモデルを採用した。まず、熱媒体(流体)としてはFig.1中の矢印の如く垂直に蓄熱部を通過して出口へと流出する。積の壁は断熱されており熱が逃げることはない。解析に用いた蓄熱槽は、容量0.3m<sup>3</sup>の立体形状、l=0.67mである。また、球カプセルの外径はD=0.073m、内半径はR<sub>c</sub>=0.035mのものであり、壁面に10段重ねたPCMの層を有している。PCMの層厚は、球カプセル内の層厚と異なる部分の半径で表わされる。



2-2. 基礎方程式

本解析は、熱媒体が球カプセル1段進む経過時間を1タイムステップとし、垂直に10段で流出するとして行った。これをC++言語プログラムを用いて数値シミュレーションを行い、次々に流入する熱媒体の影響で変化していく熱量q、流体温度T、界面位置Rの時間経過に対する変化の値をR=0.05になるまで求めた。以下にその手順を示す。蓄熱槽内の温度は同じ段では一様であり、z軸方向にのみ変化するとし、流速uで熱媒体が流入するとする。熱媒体と球カプセルの温度差ΔTは10kとした。解析にあたり次のよ

Fig. 2 界面位置Rの理論



うに無次元化を行う。

$$T^* = \frac{T - T_c}{T_m - T_c}, \quad u^* = \frac{R_c}{g_f} u, \quad t^* = \frac{a_f}{R_c^2} t \quad (1)$$

球カプセルまわりの熱媒体の温度は、次のエネルギー式で表される。

$$(1+\alpha) \frac{\partial T^*}{\partial t^*} + u^* \frac{\partial T^*}{\partial z^*} = \frac{\partial^2 T^*}{\partial z^{*2}} + q^*(z) \quad (2)$$

腸解法により式(2)を次のように変換し、

$$(1-\alpha) \frac{T_i^{k+1} - T_i^k}{\Delta t} + u \frac{T_{m+1}^k - T_{m-1}^k}{\Delta z} = \frac{T_{m+1}^k - 2T_i^k + T_{m-1}^k}{\Delta z^2} + q_i^k$$

整理すると

$$T_i^{k+1} = \frac{u}{1-\alpha} \frac{(T_{m+1}^k - T_{m-1}^k)}{\Delta z} \Delta t + \frac{\Delta t}{(1-\alpha)\Delta z^2} (T_{m+1}^k - 2T_i^k + T_{m-1}^k) + \frac{q_i^k}{1-\alpha} \Delta t + T_i^k \quad (3)$$

ここでq<sup>\*</sup>(z)はPCMを封入した球カプセルによる単位体積あたりの発熱速度を表し、壁面の積、界面の移動量から以下の関係が得られる。

$$q^*(z) = \Gamma \frac{k_f}{k_f} \frac{\Delta T}{R^* - 1 + \beta} \quad (4)$$

無次元界面位置R<sup>\*</sup>は次式のように表せる。

$$(R^*)^3 + \frac{2}{3}(R^* - 1)(R^*) = 2 \frac{\alpha}{a_f} S_{fc} \int_{T_c}^{T_i} \left( \frac{T_f}{2T^* - T_c} \right) dt + \frac{1}{3}(2R^* + 1) \quad (5)$$

以降、無次元を文字で指数は省略する。

2-3. 解析手順

以下に解析の手順を示す。各球カプセルからはq、T、Rの3つの値を求めることができる。まず、qを求めるためには一つ前の時間のRとTを用いる。Fig.3の中で示すと(灰色のところまで流体が流れているとする)。カプセル4のqを求めるには、一つ前の時間のカプセル1のTとカプセル2のRから求める。Tの値を求めるには、一つ前の時間の3つ(カプセル1,2,3)のTと、求めたい時間(カプセル4)のqから、4のTを求める。次にRの値を求めるには、求めたい時間(カプセル4)のTと経過時間(Δt)から求める。この操作を繰り返して、各段・各時間ステップの計算を行う。また、熱媒体は

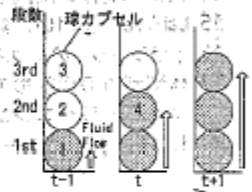


Fig. 3 時間経過におけるシミュレーションの手順

時間経過ごとに常に流入し流出しているものとした。Fig.4に簡易化したプログラムのフローチャートを記す。

3. シミュレーションの結果および検討

本章では実用的な球カプセル型潜熱蓄熱槽の、得られた蓄熱・蓄冷の場合の結果についての説明と検討考察を行う。PCMは蓄熱の場合はリン酸二ナトリウム ( $\text{Na}_2\text{HPO}_4 \cdot 12\text{H}_2\text{O}$ )、蓄冷の場合は水であり、熱媒体は蓄熱の場合は水、蓄冷の場合は空気を想定している。

3-1. 蓄熱槽についての結果

1段目のカプセルの潜熱がほぼ放出し終えた時間までについて計算を行い、の結果について検討する。

Fig.5に横軸に経過時間  $t(a)$ 、縦軸に界面位置  $R$  を取り、段ごとの時間経過による半径変化を示す。パラメータは段数である。1段目では直に低温の水が外部から流入するので、流入した水と球カプセル周りの温度差が大きく、界面位置  $R$  は急激に減少する。5段目では水の温度は下段の球カプセルによって上昇しており、温度変化が小さく、 $R$  の変化も小さい。10段目に達するときには、すでに温度変化はほとんどない状態であるので、 $R$  の変化が極端に小さい。

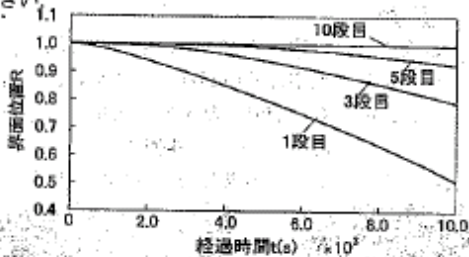


Fig.5 蓄熱の界面位置の経過時間に対する段数の影響

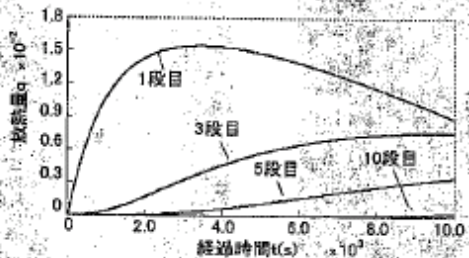


Fig.6 蓄熱の放熱量の経過時間に対する段数の影響

Fig.6に、Fig.5と同じ条件の下で、縦軸に放熱量  $q$  を取り、段ごとの時間経過による放熱量の変化を示す。1段目の経過時間が短いときは、凝固量が多いので  $q$  も多い。経過時間の増加によって  $R$  が減少すると、 $q$  は徐々に減少する。3段目の  $q$  は、下段の  $q$  が減少すると、温度差が大きくなるので高くなる。他の段についても、その段より下の  $q$  が減少すると、次の段の  $q$  が増加すると予想できる。Fig.6は、1段目の  $R$  が 0.05 になるまでを示したものであるため、その範囲内では、

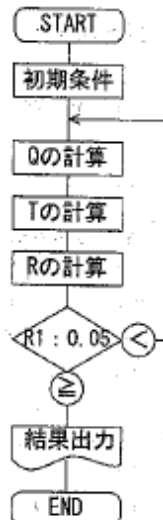


Fig.4 プログラムの簡易フローチャート

10段目の温度差が少なく、融解量もほぼないため、 $q$  の増加が極端に少ない。

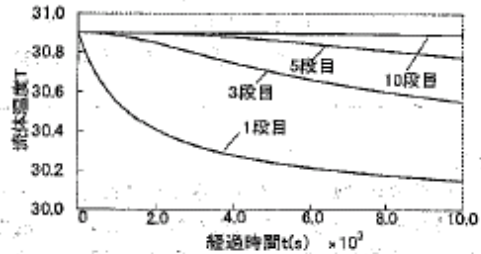


Fig.7 蓄熱の流体温度の経過時間に対する段数の影響

Fig.7に、Fig.5と同じ条件の下で、縦軸に球カプセル周りの流体温度  $T$  を、横軸に時間を取り、段をパラメータに取って示す。1段目で急激に温度が減少しているのは、1段目は直に低温の水が外部から流入するので、水と球カプセル周りの温度差が大きくそれに対応する凝固潜熱の放出速度も大きいために、多量の熱を奪われるからである。

3-2. 蓄冷槽についての結果

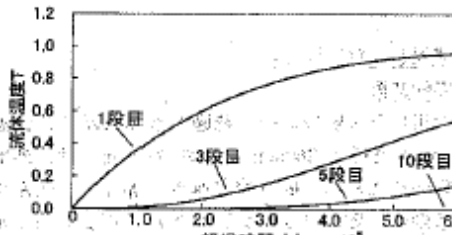


Fig.8 蓄冷の流体温度の経過時間に対する段数の影響

Fig.8に、Fig.7と同じ条件の下で、熱媒体に空気、PCMを水としたときの、段数ごとの時間変化による温度変化を示す。蓄冷シミュレーションなのでFig.7の蓄熱シミュレーションを対称にした特性を示すしている。

4. 結言

PCMを用いた蓄熱・蓄冷槽の性能の、時間特性のシミュレーションプログラム作成を試み、限定された条件ではあるが結果を得た。

- (I) PCM液相-固相界面とPCMの潜熱放出量の、熱媒体の温度の段ごとでの時間変動特性を明らかにした。
- (II) すべてのカプセルの潜熱が完全に放出するためのシミュレーションは本プログラムを一部変更することにより容易に実行できる。

記号

- $a_s$ : PCM固相の熱拡散率( $\text{m}^2/\text{s}$ )     $a_r$ : 熱媒体の熱拡散率( $\text{m}^2/\text{s}$ )
- $k_s$ : PCM固相の熱伝導率( $\text{W}/(\text{m}\cdot\text{K})$ )     $k_r$ : 熱媒体の熱伝導率( $\text{W}/(\text{m}\cdot\text{K})$ )
- $T_f$ : 融点(K)     $T$ : 流体温度(K)     $T_a$ : 流入温度(K)
- $\Delta T = |T_{in} - T|$  (K)     $i$ : 経過時間     $k$ : 段数
- $\alpha$ : 球カプセルの体積比     $\beta = \left(\frac{1}{R_c} - \frac{1}{R_0}\right) \frac{k_s}{k_c} + \frac{k_s}{hR_0^2}$ : 係数

参考文献

- (1) 齊藤 武雄 広瀬 宏一 球カプセル潜熱蓄熱ユニットの性能シミュレーション



北海道学生会

第34回 学生員卒業研究発表講演会

講演論文集

開催日 平成17年3月6日(日)

会場 室蘭工業大学



日本機械学会 北海道学生会

平成17年 3月 6日 発行

日本機械学会 北海道学生会  
第34回 学生員卒業研究発表講演会

開催日 2005年3月6日(日)

会場 室蘭工業大学(室蘭市水元町27)

日程 9:00 ~ 10:20/卒業研究発表講演会  
10:40 ~ 12:10/卒業研究発表講演会  
12:50 ~ 13:20/北海道学生会下半期総会  
13:30 ~ 14:15/特別講演  
14:30 ~ 16:00/卒業研究発表講演会  
16:10 ~ 17:30/懇親会(Best Presentation Award 表彰式)

卒業研究発表講演会

道内会員校4大学・4高専の学生員による卒業研究発表講演会  
会場: 第1室 ~ 第8室

北海道学生会下半期総会

議題: 1. 平成16年度事業報告  
2. 平成16年度会計報告  
3. その他  
会場: A304 講義室

特別講演

題目: 「利雪最前線2005年春」  
講師: 室蘭工業大学助教授 媚山政良先生  
会場: A304 講義室

懇親会

参加費: 無料  
会場: 室蘭工大 大学会館

Best Presentation Award

セッション(7~9件)毎に優秀な Presentation を行った講演者を選出し、懇親会にて表彰します。



●第2室●

9:00 ~ 10:20 機械材料 [座長 (北大), ]	
211	酸化皮膜形成による銅の耐食性向上の実験的検証/○ (室蘭工大), ◎境 昌宏, ◎世利 修美 ..... 35
212	アルミニウム合金5052における金属間化合物除去法の適用/○ (室蘭工大), ◎境 昌宏, ◎世利 修美..... 37
213	走査型振動電極を用いたNaCl水溶液中におけるアルミニウムの腐食評価法/○ (室蘭工大), ◎境 昌宏, ◎世利 修美..... 39
214	銅管の淡水腐食に及ぼすシリカおよび各種アニオンの影響/○ (室蘭工大), ◎境 昌宏, ◎世利 修美..... 41
215	多結晶材料の非比例負荷応答の結晶塑性解析/○ (北見工大), ◎大橋鉄也..... 43
216	KAl系金属間化合物の諸性質/○ (釧路高専), ◎岩淵義孝, ◎小林 勲..... 45
217	鍛造解析ソフト(Super Forge)による型鍛造解析に関する基礎研究/○ (釧路高専), ◎宮澤 武, ◎荒井 誠..... 47
218	繰り返し切削における切削表面の加工層の挙動について/○ (道工大), ◎, ◎, ◎古田 協, ◎渡 純一郎..... 49
10:40 ~ 12:10 機械加工 [座長 (苫小牧高専), ]	
221	鍛ぐるみ接合継手部の疲労強度/○ (北大), ◎, ◎野口 徹, 中村 孝..... 51
222	複合化鍛造の接合状態改善法/○ (北大), ◎, ◎野口 徹..... 53
223	高強度鋼の疲労強度特性に及ぼす表面微小欠陥の影響/○ (北大), ◎, ◎中村孝, 野口 徹 ..... 55
224	内面研削用小径CBNケイルのドレッシング性能/○ (北見工大), ◎, ◎, ◎田牧純一, 関紀旺..... 57
225	大気中コロナ放電処理し乾式切削したステンレス鋼の切削集合組織/○ (室蘭工大), ◎田頭孝介..... 59
226	ステンレス鋼の乾式切削機構に及ぼす有機極性物質塗布の影響/○ (室蘭工大), ◎田頭孝介 ..... 61
227	大気中コロナ放電処理したステンレス鋼の乾式切削挙動/○ (室蘭工大), ◎田頭孝介..... 63
228	オレイン酸を塗布したアルミニウムの切削抵抗に及ぼす切削速度の影響/○ (苫小牧高専), ◎, ◎池田慎一, ◎中津正志, ◎藤川 昇..... 65
229	WC-Co系超硬合金と純鉄とのCO <sub>2</sub> レーザー溶接/○ (苫小牧高専), ◎, ◎高澤幸治, 田中義勝, 桑原克典..... 67
14:30 ~ 15:50 材料加工 [座長 (室蘭工大), ]	
231	5軸制御工作機械における工具軸傾斜加工に関する研究/○ (函館高専), ◎, ◎山田 誠..... 69
232	金属型を用いた高加圧力放電プラズマ焼結に関する研究/○ (函館高専), ◎, ◎山田 誠..... 71
233	CFRPの超音波振動切削における切削条件の影響/○ (苫小牧高専), ◎中津正志, 池田慎一..... 73

- 234 無方向 GFRP の切削条件による切削状態の変化 / ○ (苫小牧高専), 大村俊輔, ◎中津正志, 池田慎一 ..... 75
- 235 漁網切断実験装置の試作 / ○ (苫小牧高専), 渡辺 智, ◎中津正志, 池田慎一, 藤川 昇 ..... 77
- 236 炭酸ガスレーザによる板厚 2mm Ni/Cu の異種金属の接合 / ○ (室蘭工大), ◎田頭孝介 ..... 79
- 237 超サブゼロ処理した SUJ2 の耐摩耗性 / ○ (室蘭工大), ◎田頭孝介 ..... 81
- 238 FRP 廃材の再利用 (焼却処理の実用化) / ○ (北大), ◎鎌和田忠男, ◎原田宏幸 ..... 83

●第3室●

9:00 ~ 10:20 流体力学 I (座長 (室蘭工大), )

- 311 Taylor 渦を利用した固液分離の実験解析 / ○ (室蘭工大), ◎河合秀樹, ◎高橋洋志, 福士肇介 ..... 85
- 312 二次元コールドモデルを用いた高炉シャフト部における粒子異常降下挙動の解析 / ○ (室蘭工大), ◎河合秀樹, ◎高橋洋志 ..... 87
- 313 Taylor-Couette 渦流れにおける光合成微生物の増殖特性 / ○ (室蘭工大), 隅田真一郎, 堤 剛生, ◎河合秀樹, ◎高橋洋志 ..... 89
- 314 貫通孔による円柱後流の制御に関する研究 / ○ (函館高専), ◎本村真治 ..... 91
- 315 CAD データを利用した建物群まわりの流れ解析 / ○ (函館高専), ◎本村真治 ..... 93
- 316 石油系作動油の噴流衝突式キャビテーション壊食に関する実験 / ○ (室蘭工大), 嶋根大輔, 清水賢治, ◎風間俊治, ◎藤原 潤 ..... 95
- 317 水中ウォータージェットのキャビテーション発生に及ぼす強制旋回流の効果 / ○ (北大), ◎藤川重雄, ◎矢野 猛, ◎早川道雄 ..... 97
- 318 乱流境界層内の静圧変動の測定 / ○ (北大), ◎藤川 重雄, ◎矢野 猛, ◎一條 真古人 ..... 99

10:40 ~ 12:00 流体力学 II (座長 (函館高専), )

- 321 超音速矩形ダクト内の疑似衝撃波に関する実験的研究 / ○ (室蘭工大), ◎杉山 弘, ◎清端一秀, ◎渡亮二郎, 東條 啓, 武藤洋平 ..... 101
- 322 超音速インテークの内部流れに関する実験的研究 (流れ構造に及ぼす境界層抽気の影響) / ○ (室蘭工大), ◎杉山 弘, ◎清端一秀, ◎渡亮二郎, 餅田憲宏, 浅利元紀 ..... 103
- 323 流動液体泡沫の粘度に関する実験的研究 / ○ (室蘭工大), ◎戸倉郁夫 ..... 105
- 324 吹雪障害防止のための多機能複合型防雪柵の研究開発 / ○ (北見工大), ◎坂本弘志, ◎高井和紀, 小畑芳弘 ..... 107
- 325 クロスフロー振動する矩形柱の流体力学特性と制御 / ○ (北見工大), ◎坂本弘志, ◎高井和紀, 小畑芳弘 ..... 109
- 326 渦伸張された縦渦と乱流後流の相互干渉 / ○ (北見工大), ◎松村昌典 ..... 111
- 327 スオリッタープレートによる物体後流特性と背圧の制御 / ○ (北見工大), ◎松村昌典 ..... 113
- 328 大気乱流拡散に関する風洞実験 / ○ (釧路高専), ◎小杉 淳, ◎丹 国夫 ..... 115

426	アルミ溶解炉の伝熱流動モデル化/〇	(北大), ◎工藤一彦, 黒田明慈, 持田明野, 水島伸哉	159
427	乾燥空気を用いた風冷式クールジャケットの開発/〇	(北大), ◎工藤一彦, 黒田明慈, 持田明野, 若林太郎	161
428	感温磁性流体を用いた小型熱輸送機器の開発/〇	(釧路高专), ◎麓 耕二, ◎山岸英明	163
14:30 ~ 15:40 熱工学Ⅲ (座長 (室蘭工大), (釧路高专))			
431	DME の高温空気低酸素燃焼場における火炎挙動およびすす生成/〇	(北大), ◎藤田 修	165
432	非定常噴流拡散火炎先端部の高 NOx 生成現象とその低減方法/〇	(北大), ◎田部 豊, ◎近久武美	167
433	混合拡散制御によるディーゼル噴霧火炎の NOx 低減に関する研究/〇	(北大), ◎田部 豊, ◎近久武美	169
434	固体高分子形燃料電池内現象の可視化と電流密度分布の同時計測/〇	(北大), ◎菊田和重, ◎田部 豊, ◎近久武美	171
435	固体高分子形燃料電池内の凍結現象計測/〇	(北大), ◎菊田和重, ◎田部 豊, ◎近久武美	173
436	自然吸気型燃料電池性能に及ぼす GDL 厚さ及び流路形状の影響/〇	(北大), ◎菊田和重, ◎田部 豊, ◎近久武美	175
437	化合物半導体の結晶成長制御のための混合ガス流動解析/〇	(北大), ◎菊田和重, ◎近久武美	177
●第5室●			
9:00 ~ 10:10 熱工学Ⅳ (座長 (北見工大), )			
511	ホクテ貝殻等の蓄熱材利用に関する基礎研究/〇	(室蘭工大), ◎堀山政良, ◎櫻清	179
512	雪水を用いたガスハイドレートの生成に関する基礎研究 ~過圧量の変化がメタンハイドレートの生成に及ぼす影響~/〇	(室蘭工大), ◎堀山政良, ◎櫻清	181
513	流水冷房に関する基礎研究 -落下高さによる塔内温度の違いについて~/〇	(室蘭工大), ◎堀山政良, ◎櫻清	183
514	熱交換器をもつ開放型二重サーモサイフォンによる蓄冷熱に関する基礎研究 -冷熱輸送管の長さによる特性の把握~/〇	(室蘭工大), ◎堀山政良, ◎櫻清	185
515	雪利用温室の開発に関する基礎研究 ~光環境の実験・解析と夏季の連続冷房~/〇	(室蘭工大), ◎堀山政良, ◎櫻清	187
516	寒冷地域における水冷熱貯蔵に関する基礎研究/〇	(釧路高专), ◎麓 耕二, ◎山岸英明	189
517	球カプセル蓄熱装置の数値シミュレーション/〇	(釧路高专), ◎山岸英明, ◎麓 耕二	191

10:40 ~ 11:40 航空宇宙工学 I (座長 藤田 修 (北大), 工藤 勲)	
521	小型超音速無人機のためのターボジェットエンジンの性能解析 / Oki (室蘭工大), ©杉山弘, ©溝端一秀, ©渡亮二郎, 富田 耕平 . . . . . 193
522	宇宙船内における二酸化炭素除去システムの検討 / Oki (北大), ©藤田 修 . . . . . 195
523	大型化に向けた CANUI ハイブリッドロケットの燃料形状の最適化 / Oki (北大), ©藤田 修, ©永田晴紀, 工藤 勲, 戸谷 剛 . . . . . 197
524	液滴ラジエータの循環に関する研究 / Oki (北大), ©藤田 修, ©永田晴紀, ©戸谷 剛, ©工藤 勲 . . . . . 199
525	二段燃焼式ハイブリッドロケット一次燃焼室の燃焼特性 / Oki (北大), ©藤田 修, ©永田晴紀, ©戸谷 剛, ©工藤 勲 . . . . . 201
526	窒素希釈条件での PDE 連続作動における反射板効果に関する研究 / Oki (北大), ©藤田 修, ©永田晴紀, ©戸谷 剛, ©工藤 勲 . . . . . 203
14:30 ~ 15:20 航空宇宙工学 II (座長 藤田 修 (室蘭工大), 工藤 勲 (北大))	
531	宇宙環境に曝露した PEEK 膜材の機械特性に及ぼす張力負荷の影響 / Oki (北大), ©中村 孝, 野口 徹, 今川吉郎 . . . . . 205
532	フッ素化高分子膜材の耐宇宙環境特性 / Oki (北大), ©中村 孝, 野口 徹, 佐々木啓能 (高松帝酸), 森 一高, 竹林 仁 (東洋炭素), 今川吉郎 (JAXA) . . . . . 207
533	スペースデブリの再利用を目的とした人工衛星のランデブー軌道計算に関する研究 / Oki (道工大), ©竹澤 聡 . . . . . 209
534	太陽熱推進用水スラスタの加熱噴射実験 / Oki (北大), ©藤田 修, ©工藤 勲 . . . . . 211
535	酸化剤しみ点近傍におけるポリエチレン燃料の基礎燃焼特性 / Oki (北大), ©藤田 修, ©工藤 勲 . . . . . 213
●第6室●	
9:00 ~ 10:20 機械力学 I (座長 成田 吉弘 (北大), 成田 吉弘)	
611	積層平板の減衰評価における各理論について / Oki (道工大), ©太田 佳樹 . . . . . 215
612	積層平板の減衰特性に関する実験的検証 / Oki (道工大), ©太田 佳樹 . . . . . 217
613	MOGAを用いた積層円筒殻の非線形振動最適化について / Oki (道工大), ©太田 佳樹 . . . . . 219
614	減衰層を有する積層平板の減衰評価における各理論について / Oki (道工大), ©太田 佳樹 . . . . . 221
615	はく離を有する積層平板の減衰特性に関する実験的検証 / Oki (道工大), ©太田 佳樹 . . . . . 223
616	対称積層された平行四辺形板の振動特性最適化 / Oki (北大), ©成田吉弘, ©佐々木克彦, ©真山剛 . . . . . 225
617	リッツ法を用いた偏平FRPシェルの振動解析 (固有振動数およびモード計算の収束判定) / Oki (釧路高専), ©成澤哲也, ©高下智行 . . . . . 227
618	V Bを用いた振動実験装置の製作 / Oki (釧路高専), ©成澤哲也, ©高下智行 . . . . . 229

12:10	機械力学II	〔座長 〃 (道工大), 〃〕	
621	高強度軽量FRP構造材の実用化に関する研究(第1報、成形法および強度) / ○	(釧路高専), ◎成澤哲也, ◎高下智行・・・・ 231	
622	高強度軽量FRP構造材の実用化に関する研究(第2報、振動特性および応用事例) / ○	(釧路高専), ◎成澤哲也, ◎高下智行・・・・ 233	
623	滑アラスカの摩擦特性に関する模擬実験 / ○	(室蘭工大), ◎風間 俊治, ◎篠原 満・・・・ 235	
624	走行中の滑り転倒防止に関する研究 滑り装置の試作と性能評価 / ○	(苫小牧高専), ◎野口 勉, ◎奥山徳宏・・・・ 237	
625	足底圧データ処理システムのGUI化 / ○	(苫小牧高専), ◎野口 勉・・・・ 239	
626	二次元加速度センサによる靴底の防滑性評価 / ○	(苫小牧高専), ◎野口 勉・・・・ 241	
627	くわい運動による物質内推進の粒子シミュレーション / ○	(北大), ◎原田宏幸, ◎鍵和田忠男・・・・ 243	
628	アイススケートスケールにおける積雪の機械的性質 / ○	(北大), ◎原田宏幸, ◎鍵和田忠男 ・・・・ 245	
629	ワイオメタルで駆動されるロボットアームの運動制御 / ○	(北大), ◎小林幸徳, ◎星野洋平 ・・・・ 247	
14:30	15:40	機械力学III	〔座長 〃 (北大), 〃〕
631	小型拍動流型人工心臓ポンプハウジングの応力解析 / ○	(苫小牧高専), ◎見藤 歩, 田島 勲, ◎蘇武栄治, ◎岡本英治(北海道東海大), ◎三田村好矩(北大)・・・・ 249	
632	シューティングマシンの研究開発 / ○	(苫小牧高専), ◎高橋 誠, ◎高橋 誠, ◎高橋 誠・・・・ 251	
633	岩盤調査ロボットの設計製作 / ○	(釧路高専), ◎荒井 誠, ◎宮澤 武, ◎梶原秀一・・・・ 253	
634	ゴルフロボットによるゴルフクラブのパラメータ同定 / ○	(北大), ◎小林幸徳, ◎星野洋平 ・・・・ 255	
635	倒立振り子ロボットの障害物回避と姿勢制御 / ○	(北大), ◎小林幸徳, ◎星野洋平・・・・ 257	
636	アイスホッケースティックの動特性について / ○	(苫小牧高専), ◎田島 勲, ◎見藤 歩, ◎蘇武栄治・・・・ 259	
637	平地受動歩行の研究 / ○	(北大), ◎原田宏幸, ◎鍵和田忠男・・・・ 261	
●第7室●			
9:00 ~ 10:00	音響工学	〔座長 〃 (北見工大), 〃〕	
711	磁気粘性流体を用いた減衰器の特性に関する研究 / ○	(室蘭工大), ◎齊当建一, ◎松本大樹 ・・・・ 263	
712	粘弾性体の力学モデルの構築に関する基礎研究 / ○	(室蘭工大), ◎齊当建一, ◎松本大樹 ・・・・ 265	
713	石膏ボードのリサイクルに関する研究(粉碎後の粉末の遮音材としての再利用) / ○	(室蘭工大), ◎齊当建一, ◎松本大樹・・・・ 267	
714	共鳴管型熱音響冷凍機に関する研究 / ○	(室蘭工大), ◎松本大樹, ◎齊当建一 ・・・・ 269	
715	溶血試験装置の開発 / ○	(苫小牧高専), ◎見藤 歩, 田島 勲, ◎蘇武栄治, ◎三田村好矩(北大) ・・・・ 271	

10:40 ~ 12:10 制御工学 [座長 (室蘭工大), ]	
821	走行領域を考慮した牽引車両の運転制御/CAD (室蘭工大), ©山下光久, ©疋田弘光, ©花島直彦 ..... 309
822	DMM制御系CADにおける考点因子候補の提示機能の開発/O (室蘭工大), ©花島直彦, ©山下光久, ©疋田弘光 ..... 311
823	マスタスレーブシステムの遠隔制御/O (室蘭工大), ©疋田弘光, ©花島直彦, ©山下光久 ..... 313
824	デジタル化スライディングモード制御によるロボットアームの制御/O (室蘭工大), ©疋田弘光, ©花島直彦, ©山下光久 ..... 315
825	磁気浮上系のPID制御を用いたロボスタ安定性に関する研究/O (道工大), ©竹澤 聡 ..... 317
826	磁気浮上系の最適状態フィードバックにおけるデジタル制御に関する研究/O (道工大), ©竹澤 聡 ..... 319
827	過励振される片持ち弾性支持円柱の振動制御/O (北大), ©小林幸徳, ©星野洋平 ..... 321
828	ブームスプレーヤの振動と姿勢の制御/O (北大), ©小林幸徳, ©星野洋平 ..... 323
829	3次元点群データに基づく自由曲面生成処理—曲面の品質評価法について—/O (旭川高専), ©後藤孝行(旭川高専), 高谷裕浩(大阪大学), 三好隆志 ..... 325
14:30 ~ 16:00 情報工学 [座長 (道工大), ]	
831	Linuxを用いたPlayer/Stageによる2次元地図獲得手法の研究/O (道工大), ©竹澤 聡 ..... 327
832	RBFネットワーク関数を用いたセンサリング精度に関する研究/O (道工大), ©竹澤 聡 ..... 329
833	画像処理に基づく移動体の遠隔操作に関する基礎研究/O (国館高専), ©浜 克己 ..... 331
834	カラー画像を用いた物体追跡の研究/O (国館高専), ©近藤 司 ..... 333
835	MATLABによるシーソー倒立振子の安定化制御/O (釧路高専), ©宮澤 武, ©荒井 誠 ..... 335
836	メカニズムシミュレーションを主体とした3次元CAD教育システムの開発/O (釧路高専), ©荒井 誠, ©宮澤 武 ..... 337
837	交通渋滞緩和のための車両流れのモデル化に関する基礎研究/O (釧路高専), ©荒井 誠, ©宮澤 武 ..... 339
838	MTS法を利用したパターン認識に関する基礎研究/O (釧路高専), ©荒井 誠, ©宮澤 武 ..... 341
839	AI-Motorを使ったメカトロニクス教材の開発/O (釧路高専), ©荒井 誠, ©宮澤 武 ..... 343

(分析結果とその根拠理由)

各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について, 進級の状況, 卒業(修了)時の状況, 資格取得の状況, 卒業研究, 卒業制作などの内容・水準から本校の教育成果や効果が十分に上がっている。

観点6-1- : 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について, 就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して, 教育の成果

や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

進学や就職の状況は(資料6-1-1)のとおりである。平成16年度には800社を超える求人があり、公務員志望や自家就業を除けば例年就職希望者の就職率はほぼ100%を達成している(資料6-1-2)。

資料6-1-1

卒業後の進路，就職状況の掲載箇所

(出典 学校要覧36頁)

資料6-1-2

平成12～16年度就職内定状況

平成12年度就職内定状況

平成13年 3月31日現在

学 科	機械工学科	電気工学科	電子工学科	情報工学科	建築学科	計
求人会社数	社 140	社 197	社 175	社 120	社 80	712
昨年の求人 会社数	社 120	社 192	社 115	社 108	社 60	595
卒業生予定者	人 (2) 36	人 (3) 36	人 (6) 37	人 (4) 30	人 (16) 39	(31) 178
編入学希望者	人 (1) 6	人 ( ) 3	人 (3) 10	人 ( ) 8	人 (2) 5	(6) 32
編入学合格者	人 (1) 6	人 ( ) 3	人 (3) 9	人 ( ) 8	人 (2) 5	(6) 31
公務員志望者	人 ( ) 1	人 ( ) ( )	人 ( ) ( )	人 ( ) ( )	人 ( ) 3	( ) 4
公務員合格者	人 ( ) 1	人 ( ) ( )	人 ( ) ( )	人 ( ) ( )	人 ( ) 2	( ) 3
そ の 他	人 ( ) ( )	人 ( ) ( )	人 ( ) ( )	人 ( ) 2	人 ( ) ( )	( ) 2
就職希望者	人 (1) 29	人 (3) 33	人 (3) 27	人 (4) 20	人 (14) 31	(25) 140
就職内定者数	道内 10 道外 19	道内 9 道外 24	道内 6 道外 21	道内 7 道外 13	道内 25 道外 6	道内 57 道外 83
備 考	100%	100%	100%	100%	100%	100%

編入学：大学3年次編入学及び高専専攻科の進学希望者及び合格者数をあらわす。  
 その他：大学入学，専門学校入学希望学生数及び自家就業学生数をあらわす。  
 ( ) 内の数字は，内数で女子学生数をあらわす。

平成13年度就職状況

平成14年3月31日現在

学 科	機械工学科	電気工学科	電子工学科	情報工学科	建 築 学 科	計
求人会社数	社 150	社 217	社 160	社 121	社 47	695
昨年の求人 会 社 数	社 140	社 197	社 175	社 120	社 80	712
卒業生予定者	人 (0) 40	人 (2) 39	人 (3) 38	人 (4) 42	人 (16) 41	(25) 200
編入学希望者	人 (0) 10	人 (0) 3	人 (0) 8	人 (0) 15	人 (1) 5	(1) 41
編入学合格者	人 (0) 10	人 (0) 3	人 (0) 7	人 (0) 13	人 (1) 5	(1) 38
公務員志望者	人 (0) 0	人 (0) 1	人 (0) 3	人 (0) 2	人 (0) 3	(0) 9
公務員合格者	人 (0) 0	人 (0) 0	人 (0) 3	人 (0) 2	人 (0) 3	(0) 8
そ の 他	人 (0) 1	人 (1) 1	人 (0) 3	人 (1) 2	人 (1) 8	(3) 15
就職希望者	人 (0) 29	人 (1) 34	人 (3) 24	人 (3) 23	人 (14) 25	(21) 135
就職内定者数	人 (0) 29 道内 7 道外 22	人 (1) 34 道内 12 道外 22	人 (3) 24 道内 7 道外 17	人 (3) 23 道内 8 道外 15	人 (8) 18 道内 9 道外 9	(15) 128 道内 43 道外 85
備 考	100%	100%	100%	100%	72%	95%

編入学：大学3年次編入学及び高専専攻科の進学希望者及び合格者数をあらわす。  
 その他：大学入学、専門学校入学希望学生数及び自家就業学生数をあらわす。  
 ( )内の数字は、内数で女子学生数をあらわす。

資料 1

平成14年度就職状況

平成15年3月31日現在

学 科	機械工学科	電気工学科	電子工学科	情報工学科	建 築 学 科	計
求人会社数	社 150	社 209	社 150	社 128	社 40	677
昨年の求人 会 社 数	社 150	社 217	社 160	社 121	社 47	695
卒業生数	人 (1) 29	人 (1) 32	人 (3) 34	人 (6) 29	人 (14) 40	(25) 164
編入学希望者	人 (0) 7	人 (1) 2	人 (1) 11	人 (1) 8	人 (6) 10	(9) 38



編入学者	人 (0) 7	人 (1) 2	人 (1) 11	人 (1) 8	人 (6) 10	人 (9) 38
公務員志望者	人 (0) 0	人 (0) 3	人 (0) 0	人 (0) 4	人 (1) 3	人 (1) 10
公務員合格者	人 (0) 0	人 (0) 1	人 (0) 0	人 (0) 3	人 (1) 2	人 (1) 6
その他	人 (0) 3	人 (0) 0	人 (0) 1	人 (0) 0	人 (2) 3	人 (2) 7
就職希望者	人 (1) 19	人 (0) 27	人 (2) 22	人 (5) 17	人 (5) 24	人 (13) 109
就職者数	人 (1) 19	人 (0) 27	人 (2) 22	人 (5) 17	人 (4) 22	人 (12) 107
	道内 7 道外 12	道内 12 道外 15	道内 5 道外 17	道内 6 道外 11	道内 10 道外 12	道内 40 道外 67
就職率	100%	100%	100%	100%	92%	98%

編入学：大学3年次編入学及び高専専攻科の進学者数をあらわす。  
 その他：大学入学、専門学校入学、自家就業、臨時職員、無業者をあらわす。  
 ( ) 内は、内数で女子学生数をあらわす。

平成15年度卒業者の進路状況

平成16年3月31日現在

	機械工学科	電気工学科	電子工学科	情報工学科	建築学科	計
卒業者	人 (1) 31	人 (2) 36	人 (2) 34	人 (8) 33	人 (11) 31	人 (24) 165
進学希望者	人 6	人 8	人 (1) 13	人 (3) 18	人 (6) 14	人 (10) 59
進学者	人 6	人 8	人 (1) 13	人 (3) 18	人 (6) 14	人 (10) 59
内訳	大学編入学			人 (2) 14	人 (3) 6	人 (5) 43
	釧路高専専攻科		人 (1) 3	人 (1) 4	人 (3) 8	人 (5) 16
	他高専専攻科					人 (0) 0
求人会社数 (前年度)	182社 (150社)	220社 (209社)	170社 (150社)	142社 (128社)	45社 (40社)	759社 (677社)
企業就職希望者	人 (1) 25	人 (2) 27	人 (1) 21	人 (3) 12	人 (4) 15	人 (11) 100
企業就職者	人 (1) 25	人 (2) 27	人 (1) 21	人 (3) 12	人 (3) 13	人 (10) 98
内訳	道内企業	9	5	4	2	8
	道外企業	人 (1) 16	人 (2) 15	人 (1) 16	人 (1) 8	人 (1) 5
未就職者	人	人	人	人	人 (1) 2	人 (1) 2
企業就職率	100%	100%	100%	100%	87%	98%
公務員希望者	人	人	人	人 (1) 1	人 (1) 2	人 (2) 3
公務員就職者	人	人	人	人	人 1	人 (0) 1

公務員 浪 人	人	人	人	人 (1) 1	人 (1) 1	人 (2) 2
その他の者	人	人 1	人	人 (1) 2	人	人 (1) 3

- 注1. 進学者とは、高専専攻科入学及び大学編入学者をあらわす。  
 2. 公務員とは、公務員及び独立行政法人職員をあらわす。  
 3. その他の者とは、大学入学者、専門学校入学者及び自家就業者をあらわす。

平成16年度卒業生の進路状況

平成17年3月31日現在

		機械工学科	電気工学科	電子工学科	情報工学科	建築学科	計
卒業生数		(2) 33	(2) 33	(4) 38	(7) 32	(12) 32	(27) 168
進学希望者		人 10	人 2	人 (1) 12	人 (2) 12	人 (5) 9	人 (8) 45
進学者		人 10	人 2	人 (1) 12	人 (2) 12	人 (5) 9	人 (8) 45
内 職	大学編入学	8	1	9	10	5	33
	創設高専専攻科	2	1	3	2	4	12
	他高専専攻科	0	0	0	0	0	0
進学未決定者		人 0	人 0	人 0	人 0	人 0	人 0
求人会社数 (前年度)		214社 (182社)	243社 (220社)	201社 (170社)	145社 (142社)	53社 (45社)	856社 (759社)
企業就職希望者		(2) 22	人 27	(2) 23	(2) 16	(6) 22	(12) 110
企業就職者		(2) 22	人 27	(2) 23	(2) 16	(6) 22	(12) 110
内 限	道内企業	(1) 8	9	(2) 12	(1) 7	(5) 17	(9) 53
	道外企業	(1) 14	18	11	(1) 9	(1) 5	(3) 57
就職未決定者		人 0	人 0	人 0	人 0	人 0	人 0
企業就職率		100%	100%	100%	100%	100%	100%
公務員希望者		人 1	人 (2) 2	人 2	人 (1) 1	人	人 (3) 6
公務員就職者		( ) 1	(1) 1	( ) 1	(1) 1	( )	(2) 4
公務員未決定者		( ) 0	(1) 1	( ) 1	( ) 0	( ) 0	(1) 2
その他の者		人 0	人 2	人 (1) 1	人 (2) 3	人 (1) 1	人 (4) 7

- 注1. 進学者とは、高専専攻科入学及び大学編入学者をあらわす。  
 2. 公務員とは、公務員及び独立行政法人職員をあらわす。  
 3. その他の者とは、大学入学者、専門学校入学者及び自家就業者等をあらわす。

(出典 学生課資料)

これらは本校卒業生が社会的な要請に沿った人材であることを証明するものでもある。

近年、専攻科設置に伴い進学率が向上しているが、進学率向上のみを目指すのではなく、本校の学習・教育目標に沿って、高専設置の目的である創造的・実践的技術者を養成し、地場企業はもとより広く全国の手企業からの求人(資料6-1-2参照)に対応できる体制を堅持していくことが本校の特色でもある。

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒

業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果は十分上がっている。

観点 6 - 1 - : 学生が行う学習達成度評価等から判断して，学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

学生が行う学習達成度評価は，主に授業評価アンケートの集計結果から判断することとなるが，学生の自己評価に関連する Q11から Q14は総じて平均以上の評価が得られている(資料 6 - 1 - - 1)。

授業評価アンケート用紙及び平成 16 年度集計表

釧路高専受講アンケート(講義・演習用)

1. このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に生かされます。
2. アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはありませんので、率直な回答をお願いします。
3. 設問は全部で14問あります。自由意見欄がありますので、この授業に対する自由な意見を述べてください。

年 度	学 科	学 年	出 席 番 号	科 目 名	教 官 名	文 理 別
(00)	(00)	(00)	(00)	(00)	(00)	(00)
(01)	(01)	(01)	(01)	(01)	(01)	(01)
(02)	(02)	(02)	(02)	(02)	(02)	(02)
(03)	(03)	(03)	(03)	(03)	(03)	(03)
(04)	(04)	(04)	(04)	(04)	(04)	(04)
(05)	(05)	(05)	(05)	(05)	(05)	(05)
(06)	(06)	(06)	(06)	(06)	(06)	(06)
(07)	(07)	(07)	(07)	(07)	(07)	(07)
(08)	(08)	(08)	(08)	(08)	(08)	(08)
(09)	(09)	(09)	(09)	(09)	(09)	(09)
(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
(11)	(11)	(11)	(11)	(11)	(11)	(11)
(12)	(12)	(12)	(12)	(12)	(12)	(12)
(13)	(13)	(13)	(13)	(13)	(13)	(13)
(14)	(14)	(14)	(14)	(14)	(14)	(14)

(記入上の注意)

1. H8以上の鉛筆またはシャープペンシルを使用して下さい。
2. 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
3. 用紙を折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
4. 年度、学科、学年、出席番号、科目名(コード番号)、教官名(コード番号)、文理別の各欄は、担当教官の指示により正しくマークして下さい。

記入例 (良い例) ●  
(悪い例) ⊗ ⊙ ⊕ ⊖ ⊗

この授業(講義・演習)について、以下の各設問に対してどう考えますか。それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号をマークして下さい。  
その評価は、以下のとおり5段階とします。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そうは思わない 1. 強くそう思わない

\*※体育については、\*印の設問のみ回答して下さい。

	5 強く そう 思う	4 そう 思う	3 どちら とも い え な い	2 そう は 思 わ な い	1 強く そう 思 わ な い
*1 シラバスは授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*2 授業はシラバスに沿って行われていた。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*3 教官の熱意が感じられた。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*4 教官の話し方(声の大きさと明瞭さ)は聞き取りやすかった。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*5 授業は良く工夫され、わかりやすかった。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*6 プロジェクタ、ビデオ、プリント、教科書等補助教材の利用が適切で理解に役立った。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*7 教官は効果的に学生の参加(発言、作業、私語・居眠りに対する注意など)を促した。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*8 教官は学生の質問・発言等に明快に答えてくれた。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*9 小テスト・演習・課題・定期試験の解説・添削は適切で理解に役立った。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
*10 自分にとって、この授業の難易度は適切であった。	適切 (0)	ほぼ適切 (1)	やさしい (2)	やや難しい (3)	難しい (4)
*11 自分のこの授業の試験点数(素点)は、小テスト・定期試験合せて100点満点で平均( )であった。	100~90点 (0)	89~70点 (1)	69~50点 (2)	49~30点 (3)	29点以下 (4)
*12 自分にとって、この授業の理解の程度は( )程度であった。	100% (0)	80% (1)	60% (2)	40% (3)	20% (4)
*13 この授業の自分の欠席率は( )程度であった。	欠席なし (0)	5%以下 (1)	5~10% (2)	10~15% (3)	20%以上 (4)
*14 質問、発言、演習、宿題、予習などにより、あなたはこの授業に積極的に参加したと思いますか。	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
=自由意見欄=					



	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
全体	3.43	3.42	3.67	3.66	3.34	3.48	3.56	3.63	3.42	3.19	3.38	3.18	4.38	3.32
一般文系	3.44	3.42	3.73	3.73	3.43	3.53	3.51	3.64	3.42	3.41	3.51	3.27	4.38	3.38
一般理系	3.73	3.68	3.93	3.88	3.66	3.61	3.74	3.89	3.63	3.15	3.38	3.26	4.54	3.49
一般教科体育	3.58	3.56	4.07	4.35	3.72		3.96	4.01		4.16		4.14	4.58	
基礎専門	3.34	3.31	3.73	3.79	3.47	3.63	3.45	3.65	3.53	3.29	3.29	3.13	4.31	3.24
機械工学科	3.39	3.41	3.47	3.42	3.05	3.41	3.38	3.37	3.27	2.94	3.22	2.95	4.46	3.18
電気工学科	3.23	3.21	3.33	3.18	2.92	3.07	3.45	3.27	3.16	2.78	3.14	2.75	4.17	2.98
電子工学科	3.16	3.13	3.49	3.43	3.13	3.43	3.53	3.39	3.32	2.82	3.36	2.92	4.27	3.13
情報工学科	3.28	3.29	3.43	3.21	2.98	3.44	3.48	3.48	3.32	2.88	3.41	2.98	4.28	3.23
建築学科	3.46	3.47	3.74	3.74	3.39	3.63	3.58	3.72	3.58	3.05	3.36	3.13	4.31	3.53
全体1年	3.75	3.74	3.82	3.84	3.53	3.53	3.67	3.77	3.53	3.34	3.55	3.48	4.68	3.58
全体2年	3.65	3.63	3.82	3.84	3.52	3.63	3.75	3.75	3.57	3.23	3.36	3.26	4.39	3.46
全体3年	3.27	3.25	3.59	3.61	3.27	3.47	3.47	3.63	3.38	3.16	3.31	3.09	4.27	3.19
全体4年	3.29	3.28	3.59	3.59	3.24	3.48	3.54	3.55	3.35	3.16	3.33	3.14	4.39	3.26
全体5年	3.15	3.16	3.52	3.38	3.09	3.32	3.37	3.43	3.29	3	3.36	2.89	4.09	3.09
一般文系1年	3.69	3.68	3.82	3.84	3.49	3.41	3.61	3.76	3.46	3.41	3.57	3.46	4.65	3.63
一般文系2年	3.65	3.61	4.04	4.04	3.73	3.75	3.78	3.86	3.66	3.53	3.48	3.35	4.35	3.51
一般文系3年	3.19	3.17	3.45	3.48	3.19	3.35	3.28	3.47	3.28	3.39	3.53	3.13	4.23	3.16
一般文系4年	3.23	3.13	3.43	3.53	3.13	3.53	3.33	3.43	3.23	3.23	3.43	3.03	4.23	3.23

		9	8	7	7	1	4	3	4	6	1	9		1
一般文系5年	3.1 7	3.2 3	3.6 1	3.6 1	3.2 9	3.5 2	3.3 9	3.6 2	3.4 1	3.5 6	3.6 9	3.2 6	4.1 3	3.3
一般理系1年	3.8 3	3.8	3.9 8	3.9	3.6 9	3.6 7	3.7 7	3.8 8	3.6 2	3.1 9	3.4 8	3.3 6	4.6 7	3.5 5
一般理系2年	3.7 2	3.7	3.7 5	3.7 7	3.5 6	3.5 8	3.7 3	3.8 2	3.6	3.0 1	3.2 6	3.1 3	4.3 8	3.4 8
一般理系3年	3.3 9	3.3 7	3.9	3.9 7	3.7 1	3.5 1	3.7	3.9 8	3.6 9	3.2 2	3.2 9	3.1 8	4.2 7	3.3 3
一般理系4年	3.3 1	3.3 5	4.0 6	4.3 1	3.9 8	3.5 1	3.8 8	4.3 7	3.8 3	3	3.2 9	3.2 9	4.5 9	3.6
一般理系5年	3.2 6	3.3 1	3.9 3	3.8 1	3.4 2	3.8 5	3.1 1	3.7 4	3.4 1	4	4.0 4	3.7	3.7 8	3.7 4
基礎専門1年	3.7 2	3.7 1	3.5	3.5 6	3.2 4	3.4 8	3.5 1	3.5 5	3.5 1	3.1 7	3.6 7	3.4 7	4.7	3.6 1
基礎専門2年	3.5 5	3.5 7	3.6 2	3.5 8	3.1 9	3.4 3	3.6 8	3.5 7	3.4 2	2.8 3	3.3	3.0 2	4.4 3	3.3 7
基礎専門3年	3.2 6	3.2 5	3.4	3.3 5	3.0 5	3.4 7	3.4 3	3.4 2	3.3 2	2.7 4	3.1 4	2.8 5	4.2 9	3.1 8
基礎専門4年	3.3 2	3.3 1	3.5 3	3.4 2	3.1 3	3.4 7	3.5 8	3.5	3.3 9	2.9 4	3.3	3.0 1	4.4 3	3.2 8
基礎専門5年	3.1 5	3.1 5	3.4 9	3.3 4	3.0 5	3.2 9	3.3 6	3.3 9	3.2 6	2.9 2	3.3 2	2.8 2	4.0 9	3.0 4
機械工学科1年	3.8 5	3.8 6	3.9 8	3.9 7	3.7 2	3.6 5	3.8 2	3.8 8	3.6 3	3.3 8	3.3 6	3.4 8	4.7 2	3.7 1
機械工学科2年	3.8 3	3.8 1	3.9 1	3.7 7	3.7 5	3.6 7	3.8 5	3.8 4	3.6 7	3.4 8	3.5 1	3.4 9	4.2 5	3.6 7
機械工学科3年	3.4 7	3.4 9	3.6 8	3.7 1	3.3 5	3.5 4	3.4 5	3.7 1	3.4 3	3.4 1	3.2 1	3.2 2	4.4 3	3.4
機械工学科4年	3.2 3	3.2 2	3.3 8	3.4 4	2.9 8	3.2 9	3.3 4	3.2 8	3.0 9	2.9 7	3.1 8	2.9 3	4.6 7	3
機械工学科5年	3.2 1	3.2 3	3.4	3.3 1	2.8 8	3.1 8	3.2 2	3.2 7	3.1 3	2.8	3.1 5	2.7 9	4.2 6	2.9 8
電気工学科1年	3.7 6	3.8	3.6 5	3.7 8	3.4 2	3.4 1	3.6 1	3.6 7	3.3 8	3.2 8	3.5 1	3.4 5	4.7 1	3.5
電気工学科2年	3.5 3	3.4 9	3.7 6	3.7 9	3.3 6	3.3 9	3.7 5	3.6 7	3.4 4	3.0 5	3.1 1	3.0 7	4.4 7	3.5
電気工学科3年	3.2 7	3.2 5	3.6 5	3.6 8	3.4 4	3.5 6	3.5 7	3.6 8	3.4 8	3.2	3.2 6	3.0 3	4.2 7	3.1 5

電気工学科4年	3.4 3	3.4 6	3.8 1	3.8 3	3.4 8	3.5 9	3.6 8	3.7 6	3.4 4	3.3	3.1 3	3.2	4.2	3.2 3
電気工学科5年	2.9 8	3	3.2 3	2.9 8	2.8 2	2.9 1	3.1 8	3.0 7	3.0 7	3.0 1	3.4 6	2.7 7	3.8 7	2.7 5
電子工学科1年	3.8 4	3.7 4	3.9 5	3.9 6	3.7 3	3.7 6	3.7 5	3.9 4	3.6 7	3.4 9	3.6 9	3.5 7	4.7 6	3.6 9
電子工学科2年	3.1 9	3.1 9	3.6 9	3.7	3.2 5	3.4 3	3.6 4	3.6 1	3.3 6	3.0 1	3.4 3	3.1 8	4.4 6	3.1 2
電子工学科3年	3.0 7	3.0 2	3.6 4	3.6	3.1 5	3.4 2	3.5 3	3.5 1	3.3 3	2.9 8	3.3 3	3.0 2	4.3 6	2.9 9
電子工学科4年	3.1 6	3.1 6	3.5 9	3.4 9	3.1 6	3.4 1	3.4 8	3.5 1	3.3 9	3.1 1	3.4 8	3.1 5	4.3	3.2 4
電子工学科5年	3.1 1	3.1 3	3.4 7	3.5 2	3.2 8	3.4 4	3.3 4	3.4 3	3.3 1	3.1 5	3.4 5	2.9 8	4.0 8	3.1
情報工学科1年	3.8 2	3.8	4.0 6	4.0 2	3.6 3	3.5 8	3.7 6	3.9 1	3.6 5	3.3 3	3.5 6	3.4 8	4.5 6	3.6 2
情報工学科2年	3.8 8	3.8 7	3.9	3.9 3	3.7 2	3.8 5	3.8 3	3.8 7	3.7 2	3.3	3.4 9	3.2 9	4.4 8	3.5 7
情報工学科3年	3.3 5	3.3	3.5 2	3.5 2	3.1 6	3.4 8	3.4 4	3.4 7	3.3 5	3.0 8	3.3 8	3.1 4	4.2 3	3.2 7
情報工学科4年	3.1	3.0 8	3.3 6	3.4 1	3.0 5	3.3 7	3.4 1	3.4 2	3.2 3	3.2 1	3.4 8	3.2 5	4.4 3	3.2 2
情報工学科5年	3.0 2	3	3.4 7	2.9 7	2.7 9	3.2 2	3.4 7	3.4 4	3.1 7	2.9 7	3.4 7	2.8 2	3.9 5	2.8 8
建築学科1年	3.5 1	3.5	3.4 7	3.5 2	3.1 8	3.2 4	3.4 2	3.4 8	3.3 2	3.2	3.6 2	3.4	4.6 4	3.3 8
建築学科2年	3.8 4	3.8 3	3.8 5	3.9 7	3.5 6	3.6 7	3.6 8	3.7 9	3.6 6	3.4 1	3.3	3.3 3	4.2 5	3.4 5
建築学科3年	3.1 7	3.1 5	3.4 5	3.5 3	3.2 1	3.2 9	3.3 3	3.6 2	3.3 3	3.1	3.3 8	3.0 4	4.0 3	3.1 3
建築学科4年	3.5 6	3.5 3	3.8 4	3.8 1	3.5 6	3.7 6	3.8	3.8 3	3.6 4	3.2 5	3.3 2	3.2 1	4.3 1	3.5 9
建築学科5年	3.3 2	3.3 4	3.8 8	3.8 5	3.4 8	3.6 5	3.5 9	3.8	3.6 1	3.0 7	3.3 3	3	4.1 9	3.5 1

実験・実習・製図学科別平均

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14
全 体	3.4	3.4	3.5	3.2	3.5	3.4	3.4	3.5	3.5	3.15	3.24	3.15	3.22	4.41



	4	4	0	6	3	0	8	9	1						
機械工学科	3.5 8	3.5 9	3.6 7	3.4 2	3.5 5	3.5 1	3.6 4	3.6 4	3.6 7	3.36	3.49	3.42	3.45	4.70	3.69
電気工学科	3.4 8	3.4 5	3.5 9	3.2 9	3.7 4	3.4 9	3.5 7	3.7 6	3.6 1	3.14	3.32	3.04	3.12	4.52	3.52
電子工学科	3.0 5	3.0 4	3.2 5	2.9 7	3.3 7	3.1 1	3.1 5	3.3 6	3.0 7	2.72	2.79	2.85	2.90	4.02	3.20
情報工学科	3.2 8	3.2 7	3.0 1	2.9 7	3.1 8	3.1 8	3.1 9	3.1 8	3.3 6	2.99	3.00	2.85	2.80	3.76	3.24
建築学科	3.5 4	3.5 6	3.5 3	3.3 1	3.5 9	3.4 6	3.5 3	3.7 4	3.5 3	3.21	3.12	3.15	3.39	4.38	3.67

( 出典 学生課資

料 )

個々の授業で学生の達成度が低い評価を得るのはQ10の授業内容の難易度によるが、講義平均の難易度は3.19(5段階評価)であり、学生の平均という観点から見るとほぼ妥当な数値であると判断している。

また、学生の達成度評価を容易にするためにシラバスの授業項目ごとの達成目標を「・・・が説明できる。」「・・・が計算できる。」など具体的に記載(資料6-1--2)している。

具体的に記載しているシラバスの例

機械工学科		機械工作法II			
学年	第3学年	担当教員名	宮澤武		
単位数・期間	2単位	週当たりの開講回数	1回	通年	必修科目
授業の目標と概要	機械工作法I及び工作実習によって修得した各種材料の加工法について、工作技術の原理を科学的に理解させ、それらの特徴を把握して適切な加工法を選択できる能力を養成する。更に機械工作に使用される各種の工具や設備、加工機械の構造と作業に関する知識を養成して、生産設備を適切に取扱い生産向上が図れる能力を養う。 創設高等教育目標 C-1,2,3,D-1,2 JABEE目標 c, d-1-①,③,④,d-2-d				
履修上の注意 (準備する用具・前設となる知識等)	教科書を中心に各種加工方法の原理と特徴を把握させる。適宜VTRやビジュアル教材を提示して、実際の加工状況を認識させる。 身の回りにある実際の製品について、どのように加工したのだろうかという疑問を持って物を見る眼を養ってほしい。それが機械に対する集中力や興味につながる。				
到達目標	工作法Iに引き続き各種加工方法の特徴を把握した上で、機械部品を設計するときに適切な加工方法を選択できる能力を養成する。				
成績評価方法	4回の定期試験80%及び学習ノート評価点20%を総合して評価する。				
テキスト・参考書	実教出版 新機械工作 図書館に参考書多数蔵書しているので、より詳しい内容の学習に利用してほしい。				
メッセージ	各種加工方法に関して体系的に認識すること。例えば、塑性加工、切削加工、研削加工などそれぞれに属する加工方法の原理と特徴を把握してほしい。				
授 業 内 容					
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標			
1. ガイダンス (1回) 2. 接合・切断により部品をつくる。(3回) ・ガス溶接・ガス切断・アーク溶接・ろう接 3. その他の接合 (4回) ・機械的接合・抵抗溶接・接着剤	16	・ガス溶接・切断の原理が説明できる。 ・各種アーク溶接の特徴が説明できる。 ・ろう接の特徴が説明できる。 ・各種の接合方法の中から機械部品の組み立て接合の方法を選択できる。			
前期中間試験		50分			
4. 切削加工により部品を作る。(3回) ・切削加工・旋削・平削り・穴あけ・フライス削り ・リーマ・タップ 5. 工具材料のいろいろ (2回) ・炭素鋼・合金鋼・高速度工具鋼・超硬 ・コーティング 6. 良い切削加工をするために (2回) ・切削理論・切くずの観察	14	・各種切削加工の原理と特徴が説明できる。 ・工具材料についての特徴とその切削条件が分かる。 ・切削理論の必要性が理解出来る。			
前期期末試験		50分			
・切削に作用する力・切削条件 (3回) 7. 工作機械とその仕組み (2回) ・工作機械の仕組み ・工作機械のいろいろ 8. 研削加工により部品を作る (3回) ・研削加工の仕組み ・研削といふ ・よい研削加工をするために	16	・加工物の材質・硬度・形状に応じて切削方法と条件を適切に選択できること。 ・工作機械の仕組みが説明できる。 ・各種工作機械の特徴と加工できる形状が説明できる。 ・研削加工の原理が説明できる。 ・研削といふ性質と加工精度の関係が説明できる。			
後期中間試験		50分			
9. ホーニング・ラッピング (2回) 10. 光・電子・化学反応による加工・表面処理 (5回) ・レーザー加工・放電加工・電子ビーム加工 ・電気メッキ・気相メッキ・塗装	14	・ホーニング、ラッピングの加工方法についてその概要が説明できる。 ・光・電子・化学反応を利用した各種加工法を機械部品の製作に適用する方法について説明できる。			
後期期末試験		50分			

(出典 シラバス)

学生の授業の理解度や達成度は、全学的・組織的な取組ではないが、教員が個々の授業の中で行う小テストや学習ノート・理解度チェックテスト・授業に対する要望など(資料6-1--3)(資料6-1--4)からも判断することができる。これらによって個々の教員が授業の中ですばやく

対応することで、学生の積極性を引き出すよう努力が行われている。

学習ノートの例

学習ノート 講義名 **機械工作法I** 授業日: 17. 6. 20.  
 機械工学科 3 年 番 氏名 \_\_\_\_\_

1. 講義中その概要をメモしながら講義を聴いてください。  
 【講義要旨】

・溶接は応用が広い。溶接機 → 焼き溶かし? 軽合金。  
 (熱処理)

・変形を考慮しておく (溶接歪み)



・溶接歪み防止 - 溶接順序、溶接温度、溶接速度、溶接位置、溶接材の選定、溶接後の熱処理、溶接後の検査

【溶接機】 - 溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類

【溶接材】 - 溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類

【溶接歪み】 - 溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因

【溶接検査】 - 溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類

【溶接機】 - 溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類

【溶接材】 - 溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類

【溶接歪み】 - 溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因

【溶接検査】 - 溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類

【溶接機】 - 溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類

【溶接材】 - 溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類

【溶接歪み】 - 溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因

【溶接検査】 - 溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類

(溶接) 温度 150°C X 1t  
 ・溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類  
 ・溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類  
 ・溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因  
 ・溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類

3つの特徴  
 ・溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類  
 ・溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類  
 ・溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因  
 ・溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類

(溶接) 温度 150°C X 1t  
 (溶接) 温度 150°C X 1t

2. 講義内容や授業方法について、質問や要望があれば記入してください。

・溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類  
 ・溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類  
 ・溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因  
 ・溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類

・溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類  
 ・溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類  
 ・溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因  
 ・溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類

3. 今日の講義についてあなたの理解度を10点法で自己採点してください。(該当番号に○)

理解できた 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

A

解った日付= //

・溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類、溶接機の種類  
 ・溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類、溶接材の種類  
 ・溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因、溶接歪みの原因  
 ・溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類、溶接検査の種類

E-mail: niva@mach.kushiro.ac.jp

(出典 学習ノート機械工作法)

理解度チェックテストの例

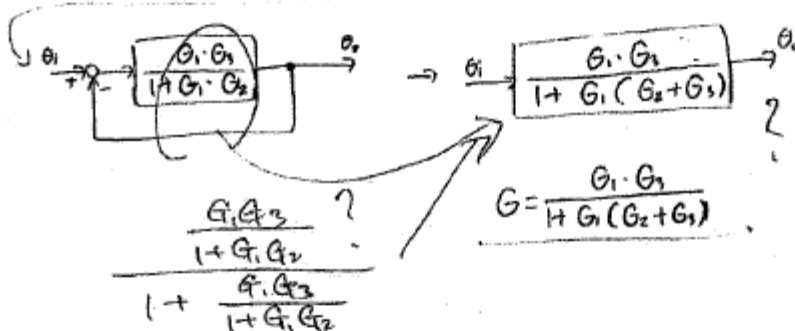
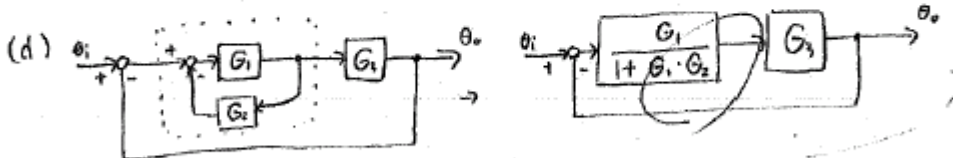
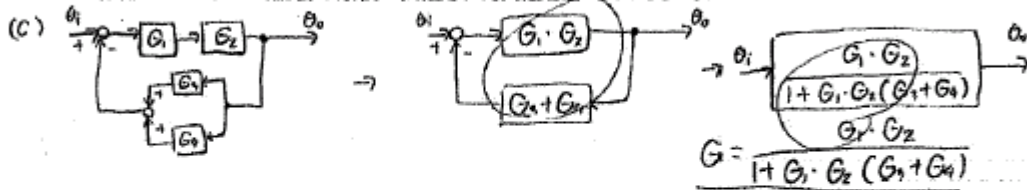
学習ノート

制御工学

授業日: 2005. 6. 24.

機械工学科 5 年 番 氏名

1. 理解度チェックテスト(講義の最後に出題された問題を解いてください。)



2. 講義内容に関する質問。授業方法についての感想や要望があれば記入してください。

3. 今日の講義についてあなたの理解度を 10 点法で自己採点してください。(該当番号に○)

理解できた 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

β

授業担当: 宮澤 武

E-mail: miya@mech.kushiro-ct.ac.jp

(出典 制御工学実施テスト)

また、学生自ら理解できていない科目の補習を申請出来る制度（資料 6 - 1 - - 5）や、オフィスアワーを活用した疑問箇所の質問（資料 6 - 1 - - 6）などの対策も講じている。

資料 6 - 1 - - 5

### 補講・補習の実施方法等について

1. 授業時間数が不足したり、クラス全体に補足的に授業が必要な時などは、「補講届」（別紙様式 1）に記入のうえ補講を行うことができる。
2. 学生の要望があったり、一部の学生に補習が必要と判断される時には、学生に「補習願」（別紙様式 2）を書かせた上で補習を行うことができる。なお、教員側から補習を設定する場合は「教員記入欄」のみの記入でもよい。
3. 担任は留年、単位未修得及び学習遅進の学生に「補習・質問の記録」（別紙様式 3）を付けさせ、定期的に学習状況の確認をする。「補習・質問の記録」は、学年末にまとめて担任が教務係に提出する。
4. 学生指導の証拠とするため、「補講届」、「補習願」は保存し、半期毎に教務係へ提出する。
5. 教科の評点が 60 点を超えた場合は、「補習・質問の記録」に見られる努力を、評価に加えることができる。

#### 【補足】：

- (1) 授業時間数は、なるべく授業振替等で確保する。特別な事情で不足した場合は補講を行うが、出欠に入れない。
- (2) 1, 2, 5 は教員に対する強制ではない。簡単な個人指導や説明ですむものや OH などに対応可能なものについては、「補講届」「補習願」として記録しなくてもよい。
- (3) 学生が自ら学ぼうとする姿勢を養うため、当面、担任が学生の学習状況を把握し、補習依頼に行くように指導したり、遅進学生が質問に行くように指導することが必要である。
- (4) 「学習遅進の学生」の選定は、担任が教科担当と協議して決める。

（出典 学生課資料）

資料 6 - 1 - - 6

### 学生指導及びオフィスアワー（OH）について

- (5) 全教員はオフィスアワーを設定する。日時は原則、月曜日 8 時間目または 9 時間目とする。
- (6) 学生指導の内容は OH 時間以外のものも含めて「学生指導記録」に記録する。

( 7 ) OH が実施できたか否かは、「OH 予定・実施状況」に記録する。

( 8 ) 「学生指導記録」及び「OH 予定・実施状況」は、半期毎に教務係に提出する。

( 出典 学生課資料 )

今後、教員個々の授業評価アンケート結果に対して、現在の授業内容・レベルを下げないで学生の自己達成度評価を向上させるために教員相互授業公開、保護者授業参観及び学生の授業評価アンケートを基に不断の授業改善対策を立てること、及び前出の補講・補習、OHの活用などを通して学生自ら達成度向上の努力をさせることが本校の意図する教育の成果や効果に寄与するものである。

( 分析結果とその根拠理由 )

学習達成度の評価は、授業評価アンケートや小テスト・学習ノート・理解度チェックテストなどから判断されるが、定期試験結果が何よりも学生の達成度評価となる。学生が自己達成度を把握するための手段としてシラバス記載方法の工夫や達成度の低い学生への支援対策を図り、教員の授業改善に取り組むシステムも構築して、学生自ら能動的に達成度向上へ向けて努力させている。その成果は授業評価アンケートからみて、学校の意図する教育効果は上がっている。

観点 6 - 1 - : 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。  
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

( 観点に係る状況 )

卒業生が身に付けた学力や資質・能力等に関する意見の聴取は、自己点検評価（資料 6 - 1 - - 1）や専攻科設置要望書（資料 6 - 1 - - 2）、卒業生（抽出2000名）に対する直接アンケートなどを実施している（資料 6 - 1 - - 3）。

# 釧路高専の現状と課題

—自己点検・評価報告書—

平成13年1月

釧路工業高等専門学校

(7) 教育改善充実に関する本校卒業生との懇談及びアンケート調査

平成11年度に本校の教育改善充実のため文部省から「教育研究活動高度化経費」の配分を受け「21世紀を展望した釧路高専の人材育成戦略の確立」というプロジェクトを実施した。その実施計画の一つとして、時代の変化に対応する教育課程、指導法の改善・充実を目指し、外部から見た評価の一つとして東京、横浜で活躍中の本校卒業生22名（機械工学科5名、電気工学科5名、電子工学科4名、情報工学科5名、建築学科3名）の協力によりアンケート調査を実施した。数年先を見越した提言があり、その概要は次の通りである。

「釧路高専の教育改善のためのアンケート調査」結果の概要

このアンケート結果は複数回答で整理しており、それぞれの項目の合計と全回答者数は一致していない。  
(全回答者数 22名)

- ① グローバル化の時代に入った現在の高等教育を考えると、「工学・技術の基本（基礎）」をしっかり教育せよという考えと「OJT (on the job training) の一部を先取りして実際に役立つ教育を学校で行う」という意見があるようですが、このことについてどのようにお考えでしょうか。  
(全回答者22名 全員回答)

回 答 内 容	機械	電気	電子	情報	建築	合 計
基礎教育が一番大切（基礎から応用へ）	3	5	2	3	4	17
職種により様々に変化するので、OJTは入社後で可	3				2	5
各分野共通事項に関してはOJTも必要	1					1
基礎とOJTの混合スタイル	1	1		1		3
基礎を踏まえた上で選択科目としてOJTを導入		1				1
基礎を押さえOJTにより特化した能力育成			1			1
OJTの内容が企業への志向研修ならば必要			1		1	2
OJTは重要（自分で考え整理する能力を得るために）		1	1			2

- ② 創造力のある人材の育成に向けた教育が求められておりますが、このことについてどのようにお考えでしょうか。  
(全回答者22名 全員回答)

回 答 内 容	機械	電気	電子	情報	建築	合 計
自らの頭脳で考え発想できる授業が必要	2		1			3
時間的余裕を与えることが必要	1		1			2
行動力（自発的な）のある授業が必要（受動から能動へ）			1	1		2
課題をドンドン出しそれを解決していく教育が必要			1			1
提案・発案する授業が必要		1		1		2
時代をリードするためには創造能力等の育成は最重要課題	1	1		1	1	4
企業も創造力のある人物を評価し求めている	1	1				2
創造力には困難な状況を打破する意志や努力が大事		2	1			3
数多くの事例検証をし見聞を広めることが有効					1	1
知識、興味をたくさん持つことが創造性の向上につながる					1	1
実用新案、特許等を紹介し創造力の重要性や実用性を教える					1	1
単なる課題ではなく物を作る楽しさを学んでほしい				1		1
手を動かす実験と考える姿勢を一連のものとして教育を行うことが必要				1		1



- ③ 産業界からコミュニケーション能力が強く求められておりますが、主として英語でのコミュニケーション力育成について、どのようにお考えでしょうか。（全国答者22名 全員回答）

回 答 内 容	機 械	電 気	電 子	情 報	建 築	合 計
英語全般が重要	2	1	2		1	6
会話能力が重要（英会話教育の充実）	2	4	2	1	3	12
読解能力が重要				2		2
英字新聞、手紙の読み書き等実践教育が必要	1			1		2
ヒアリングが重要	2	1				3
毎日のトレーニングが重要	1					1
試験にTOEIC、TOEFLを導入	1			1		2
英語に限らず日本語でのコミュニケーション力強化が必要	1					1
海外語学研修（ホームステイ）の実施	1	1				2
授業数少なすぎ、1年から5年の間に徐々に単位が減るのは問題			1			1
授業だけでなく英語に触れやすい環境の提供				1		1
語学力が学士との差	1					1

- ④ 一般（教養）科目、専門科目を含む全体の教育課程について、ご意見があればお書き下さい。（全国答者22名中 17名回答）

回 答 内 容	機 械	電 気	電 子	情 報	建 築	合 計
専門学科以外の専門科目も取り入れるべき	2					2
多数の科目ではなく少数の主要な科目をじっくり取り替えることが重要	1					1
社会の動向とリンクして ISO9000 や金融自由化、高齢化なども授業に取り入れるべき	1					1
特徴のある授業を取り入れ興味を持てる授業内容が必要			1			1
英語（英会話）を専門科目として導入		1	1	1		3
最新技術の基礎の導入			1			1
心の教育が不可欠		1				1
選択科目数の増加が必要		1		1		2
ネットワークに関する授業を全学科に導入		1				1
日本語授業の強化（文章を書く力、敬語等）				3	1	4
経済知識を身につける授業が必要					1	1
ドイツ語を削減し英語を増加					1	1
学士と同等レベルの授業	1					1
一般教科は学科別ではなく共通				1		1
国際、社会等を減らし芸術を増加				1		1

⑤ コンピュータ教育について、どのようにお考えでしょうか。

(全回答者22名 全員回答)

回 答 内 容	機 械	電 気	電 子	情 報	建 築	合 計
コンピュータ教育は基本で十分		1		1		2
CAD、CAMの操作、実習は必要	1				1	2
コンピュータに慣れることが必要	1			3	1	5
コンピュータ教育は重要	3	2			2	7
ハードではなくソフトを使いこなすことを重視	1	1			1	3
アプリケーションのみならず、より深いレベルの教育が必要				1		1
予算面での問題はありますが、パーソナルコンピュータのハード、ソフトともに最新のものを導入	1					1
COBOL等は時代遅れ、コンピュータリテラシーを重視			1			1
実務に役立つコンピュータ教育が必要		1	1			2
コンピュータ教育も重要だが高専生のプレゼンテーション能力育成も大事			1			1
論理代数、論理回路、加算回路などコンピュータの基本部分の理解は常識として必要		1				1
統計手法、データ解析等実社会で役立つものを導入		1				1

(平成13年1月 釧路高専の現状と課題 自己点検・評価報告書)

資料6 - 1 - - 2

企業経営者アンケート集計結果

調査対象 344社 (企業説明会アンケート対象企業 240社、釧路商工会議所議員89社、産官学共同研究・交流協議会構成員15社)

回答数 147社 (釧路市内 47社、釧路管内 5社、北海道内 26社、北海道外 69社)

回 答 率 43%  
(147/344)

Q1. 本校の専攻科設置について、どのようにお考えですか。

	釧路市内		釧路管内		北海道内		北海道外		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
(1) ぜひ設置するべきである	30	63.8%	3	60.0%	9	34.6%	17	25.0%	59	40.4%
(2) できたら設置するほうが良い	14	29.8%	2	40.0%	15	57.7%	33	48.5%	64	43.8%
(3) 設置してもしなくてもどちらでも良い	2	4.3%	0	0.0%	1	3.8%	11	16.2%	14	9.6%
(4) 設置する必要はない	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.9%	3	2.1%
(5) その他	0	0.0%	0	0.0%	1	3.8%	5	7.4%	6	4.1%
計	47		5		26		68		146	

Q2. 本校に専攻科が設置されたとして、専攻科修了生にどのような技術者像を期待されますか。3つまで選んでください

	釧路市内		釧路管内		北海道内		北海道外		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
(1) 基礎学力の備わった技術者	23	18.3%	1	7.1%	10	13.7%	40	20.5%	74	18.1%
(2) 応用能力に優れた技術者	28	22.2%	3	21.4%	18	24.7%	37	19.0%	86	21.1%
(3) 即戦力になってくれる技術者	26	20.6%	5	35.7%	16	21.9%	37	19.0%	84	20.6%
(4) 研究開発能力、問題解析・分析能力に優れた技術者	16	12.7%	2	14.3%	12	16.4%	30	15.4%	60	14.7%
(5) ひとつの専門分野に関して深い学力を身につけた技術者	7	5.6%	0	0.0%	3	4.1%	14	7.2%	24	5.9%
(6) 専門分野領域の幅広い知識を身につけた技術者	24	19.0%	3	21.4%	14	19.2%	34	17.4%	75	18.4%
(7) その他	2	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.5%	5	1.2%
計	126		14		73		195		408	

Q3. 本校に専攻科が設置されたとして、専攻科修了者の採用についてどのようにお考えですか。

	釧路市内		釧路管内		北海道内		北海道外		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
(1) ぜひ採用したい	7	14.9%	0	0.0%	7	26.9%	12	17.4%	26	17.7%
(2) 採用しても良い	7	14.9%	1	20.0%	8	30.8%	32	46.4%	48	32.7%
(3) 現段階ではわからない	29	61.7%	3	60.0%	11	42.3%	21	30.4%	64	43.5%
(4) 採用は見合わせたい	3	6.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.9%	5	3.4%
(5) その他	1	2.1%	1	20.0%	0	0.0%	2	2.9%	4	2.7%
計	47		5		26		69		147	

Q4. 専攻科は技術者再教育や生涯学習の一端を担うことが期待されています。卒業生や一般の技術社員の再教育の場として、どのようにお考えですか。

	釧路市内		釧路管内		北海道内		北海道外		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
(1) 該当者がいれば再教育の場としてぜひ活用した	11	23.4%	1	20.0%	1	3.8%	0	0.0%	13	8.8%
(2) 将来活用するかもしれない	16	34.0%	2	40.0%	4	15.4%	13	18.8%	35	23.8%
(3) 現段階ではわからない	19	40.4%	2	40.0%	20	76.9%	53	76.8%	94	63.9%
(4) その他	1	2.1%	0	0.0%	1	3.8%	3	4.3%	5	3.4%
計	47		5		26		69		147	

Q5. 専攻科が設置されることにより、本校での研究環境が向上します。本校との共同研究、本校への受託研究等、貴社と本校との連携について、どのようにお考えですか。

	釧路市内		釧路管内		北海道内		北海道外		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
(1) 共同研究、受託研究を積極的に推進したい	7	14.9%	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%	8	5.4%
(2) テーマによっては連携を取っていききたい	11	23.4%	2	40.0%	5	19.2%	5	7.2%	23	15.6%
(3) 将来活用するかもしれない	12	25.5%	1	20.0%	7	26.9%	11	15.9%	31	21.1%
(4) 現段階ではわからない	16	34.0%	2	40.0%	13	50.0%	53	76.8%	84	57.1%
(5) その他	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
計	47		5		26		69		147	

(出典 庶務課資料)

資料 6 - 1 - - 3

以下の設問について、別紙マークシート用紙に鉛筆で該当ナンバーをマークして下さい。

## 1. 卒業生の皆様について

(1) 卒業学科をお聞かせ下さい。

①機械工学科 ②電気工学科 ③電子工学科 ④情報工学科 ⑤建築学科

(2) 年齢をお聞かせ下さい。

①20代 ②30代 ③40代 ④50代

(3) 勤務先の所在地をお聞かせ下さい。

①釧路市近郊 ②札幌市近郊 ③その他道内 ④関東地区 ⑤関西地区  
⑥その他の地域

(4) 勤務先の業種をお聞かせ下さい。

①建設業 ②製造業 ③電気・ガス・水道業 ④情報通信業 ⑤運輸業  
⑥卸売・小売業 ⑦サービス業 ⑧公務員 ⑨その他

## 2. 卒業生の皆様の在学中の教育について

(1) 教育内容・時間に対する満足度についてお聞かせ下さい。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①大変満足    ②ある程度満足    ③どちらともいえない    ④少し不満  
⑤かなり不満

(2) 社会に出てから役立っていますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①非常に役立っている    ②ある程度役立っている    ③あまり役立っていない  
④全く役立っていない    ⑤どちらともいえない

## 3. 今回送付した JABEE プログラムについて

(1) 本校の教育プログラム名「生産情報システム工学」の理念は、理解できますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①よく理解できる    ②ある程度理解できる    ③どちらともいえない  
④あまり理解できない    ⑤全く理解できない

(2) 認定を受けようとする本校の教育プログラム「生産情報システム工学」の名称は適切であると思いますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①非常に適切である    ②ある程度適切である    ③どちらともいえない  
④あまり適切でない    ⑤全く適切でない

(3) 7つの学習・教育目標の内容はどう思いますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①大変良い    ②少しよい    ③どちらともいえない    ④少し悪い    ⑤悪い

#### 4. 卒業生の皆様の資格・検定試験等について

- (1) 社会人として活躍する上で、今後資格取得の重要度はどう思いますか。  
 ①かなり増す ②やや増す ③どちらともいえない ④やや減る ⑤かなり減る
- (2) 既に取得されている資格はありますか。別表よりお選び下さい。  
 (複数回答可、最大5つ重要と思われるもの)
- (3) 業務上取得した方が良いと思われる資格はありますか。別表よりお選び下さい。  
 (複数回答可、最大5つ重要と思われるもの)
- (4) 皆様の勤務されている会社で、実用英語検定と TOEIC のどちらを重要視していますか。  
 ①実用英語検定 ② TOEIC
- (5) 皆様の勤務されている会社で、専攻科修了の新入社員としては、(4)で選択した実用英語検定または TOEIC でどの位のレベルを期待されますか。  
 ①英検 2 級 ②英検準 2 級 ③英検 3 級 ④ 220 ～ 300 点程度  
 ⑤ 301 ～ 399 点程度 ⑥ 400 ～ 470 点程度 ⑦ 470 点以上 ⑧その他
- (6) 現在の皆様の立場で、専攻科修了新入社員に要求していること(されていること)があれば、お聞かせ下さい。(マークシートの自由記入欄に記入してください。)

お忙しい中アンケートにご協力ありがとうございました。このアンケート結果については、本校の社会から必要とされる学生教育の参考にさせていただきます。

以下の設問について、別紙マークシート用紙に鉛筆で該当ナンバーをマークして下さい。

## 1. 貴社について

(1) 貴社の所在地をお聞かせ下さい。

- ①釧路市近郊    ②札幌市近郊    ③その他道内    ④関東地区    ⑤関西地区  
⑥その他の地域

(2) 貴社の業種をお聞かせ下さい。

- ①建設業    ②製造業    ③電気・ガス・水道業    ④情報通信業    ⑤運輸業  
⑥卸売・小売業    ⑦サービス業    ⑧公務員    ⑨その他

## 2. 専攻科について

(1) 本校で専攻科が平成16年4月に発足したことをご存じですか。

- ①知っている    ②他の高専は知っている    ③専攻科を知らない

(2) 高専の専攻科修了生を採用したことがありますか。

- ①採用した    ②採用したことがない

(3) 今後、採用したいと思われませんか？

- ①採用したい    ②採用を検討    ③採用しない

### 3. JABEE について

(1) 日本技術者教育認定制度 (JABEE) をご存じですか。

- ①知っている ②知らない

(2) 日本技術者教育認定制度 (JABEE) のような高等教育機関の教育水準を認定する制度は必要と思われませんか。

- ①非常に必要 ②ある程度必要 ③どちらともいえない  
④あまり必要ない ⑤全く必要ない

(3) 貴社は、高専卒の新入社員を採用する際、日本技術者教育認定制度 (JABEE) の認定を受けた高専を優先的に考慮されますか。

- ①非常に考慮する ②ある程度考慮する ③どちらともいえない  
④あまり考慮しない ⑤全く考慮しない

### 4. 本校の教育プログラムについて

(1) 教育プログラム名「生産情報システム工学」の理念は、理解できますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①よく理解できる ②ある程度理解できる ③どちらともいえない  
④あまり理解できない ⑤全く理解できない

(2) この教育プログラム名は、適切なものと思われませんか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①非常に適切である ②ある程度適切である ③どちらともいえない  
④あまり適切でない ⑤全く適切でない

### 5. 本校の七つの学習・教育目標について

(1) 学習・教育目標①「(技術者として社会に貢献するために) 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する能力を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①水準よりかなり上 ②水準よりやや上 ③水準程度  
④水準よりやや下 ⑤水準よりかなり下



(2) 学習・教育目標②「(地域社会に貢献するために) 実践的な体験を通して、地域の産業や社会の抱える課題に対して対処できる能力を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①水準よりかなり上 ②水準よりやや上 ③水準程度

④水準よりやや下 ⑤水準よりかなり下

(3) 学習・教育目標③「(多様な技術的課題を解決できるように) 工学の幅広い基礎知識(数学、自然科学、情報技術、基礎工学など)を修得し、それを応用する能力を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①水準よりかなり上 ②水準よりやや上 ③水準程度

④水準よりやや下 ⑤水準よりかなり下

(出典 J A B E E 第 2 小委員会資料)

また、卒業生の教育成果の発表の場として本校が行う各学科の卒業研究発表会を企業・保護者など広く一般に公開することにより、企業からの意見等を聴取する機会にもなっている(資料 6 - 1 - 4)。

平成 17 年 1 月 日

釧路工業高等専門学校産官学  
共同研究・交流推進協議会委員 各位  
(送付先一覧 No.1~No.27)

釧路工業高等専門学校長  
木 谷 勝

卒業研究発表会の開催について (ご案内)

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。  
このたび本校では、昨年に引き続き卒業研究発表会を一般公開することと致します。  
本校の学生が5年間の高専生活で培った技術・知識の集大成としての卒業研究発表を市民の皆様や企業の方々にご覧いただき、高専の教育研究活動に対するご理解を深めていただくとするものです。  
学生にとっても、自分の研究を学外の多くの方々の前で発表することは、卒業後も実践的技術者として成長していく上で大変有意義なことと考えております。  
皆様には、企業人として、時には厳しい目で発表をご覧いただきたいと思っております。  
その中で、少しでもご参考になることがあれば取り上げていただき、今後の本校との産学連携の一層の発展・強化につなげていきたいと思っております。  
ご多忙中大変恐縮には存じますが、下記日程で開催いたしますので是非ご来校くださるようお願い申し上げます。

記

学科名・月日

電気工学科	平成17年2月1日(火)・3日(木)の2日間
機械工学科	平成17年2月4日(金)
建築学科	平成17年2月8日(火)
情報工学科	平成17年2月9日(水)
電子工学科	平成17年2月10日(木)

場 所 本校 大講義室

内 容 別紙のとおり

※ なお、発表順等の詳細については、後日HPへの掲載を予定しております。  
釧路高専HPアドレス <http://www.kushiro-ct.ac.jp/>

担当 釧路工業高等専門学校学生課教務係  
TEL 0154-57-7222  
FAX 0154-57-6256  
E-mail [gakusci@office.kushiro-ct.ac.jp](mailto:gakusci@office.kushiro-ct.ac.jp)

(出典 学生課資料)

これらの卒業生・企業からの提言・提案については将来構想(資料6-1--5)に反映されており、また、集計中のものについてもその結果がまとまり次第、今後の教育改善等に役立てていくこ

ととしている。

資料 6 - 1 - - 5

#### 4 本校の将来構想

(略)

##### (2) 教育研究組織の充実

###### 専攻科の設置

根釧及び十勝管内には工科系大学がなく、地域における工業系高等教育機関としての本校の役割は重要である。科学技術の高度化、技術者資格問題への対応など、より一層レベルの高い高等教育を望む地元学生の要望に対し、教育の継続性に優れ、教育効果の高い専攻科の設置は急務である。

(出典 平成13年1月釧路高専の現状と課題 自己点検・評価報告書9頁)

##### (分析結果とその根拠理由)

卒業生や進路先などの関係者から、卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しており、その結果は本校の将来構想、専攻科設置、J A B E E 受審への取組に反映され、教育方法の改善やカリキュラム編成、進路指導などに生かされている。その結果から判断するといくつかの改善点はあるものの、教育の成果は十分に上がっている。

##### (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・特になし。

(改善を要する点)

- ・卒業時の学生への本校の教育に対する満足度調査については、今後実施すべき項目である。

##### (3) 基準6の自己評価の概要

高専の目的に沿って、各課程に応じた学生が身に付けるべき学力や資質・能力、養成する人材像等について、達成状況を評価する方法がシラバスに記載されており、これに基づいて提出された成績一覧表を基に全教員による卒業認定会議が開催されて認定されている。

また、専攻科課程においては、専攻科委員会が達成状況を把握・評価し、修了要件が満たされたかを基に認定が行われることとなる。

以上の理由から、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力・資質・能力、養成する人材像などの達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業(修了)時の状況、資格取得の状況、卒業研究、卒業制作などの内容・水準から本校の教育成果や効果が十分に上がっている。

教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果は上がっているといえる。

学習達成度の評価は、授業評価アンケートや小テスト・学習ノート・理解度チェックテストなどから判断されるが定期試験結果が何よりも学生の達成度評価となる。学生が自己達成度を把握するため

の手段としてシラバス記載方法の工夫や達成度の低い学生への支援対策を図り、教員の授業改善に取り組むシステムも構築して、学生自ら能動的に達成度向上へ向けて努力させている。その成果は授業評価アンケートからみて、学校の意図する教育効果は上がっている。

卒業生や進路先などの関係者から、卒業生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しており、その結果は本校の将来構想、専攻科設置、JABEE 受審への取組に反映され、教育方法の改善やカリキュラム編成、進路指導などに生かされている。その結果から判断するといくつかの改善点の指摘はあるものの、教育の成果は十分に上がっている。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1- : 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

新入学生を対象に実施される新入生オリエンテーションにおいては、高専の目的と特色をふまえた上で履修単位、試験、成績評価、単位の認定等について、教務主事から説明がなされる(資料7-1-1)。

資料7-1-1	
[ 教務ガイダンス ]	
1. 高専の目的と特色	(学生便覧 扉)
2. 学期について	(学生便覧 5頁)
3. 履修単位について	(学生便覧 8頁)
4. 出欠について	(学生便覧 24~25頁)
5. 試験について	(学生便覧 42~46頁)
6. 成績の評価及び単位の認定について	( " )
7. 進級について	( " )
[ 学年ミ - ティング ]	
(出典 平成17年度新入生オリエンテーション実施要項) 5頁「教務ガイダンス」	

ほか、各科目の初回授業時には当該科目のシラバスを配布し、授業担当教員が履修上の注意や達成目標、学習法等について解説している。また、学級担任制度を導入し、その指導の一環として個人面談を通して、不得意科目の把握・学習法に関する助言等、学生の学習状況についての理解に努めている(資料7-1-2)。

資料7-1-2	
2.1 学生理解	
1. 資料によるもの	
・プライバシーに配慮して取扱いには注意する。	
(a) 学生調査書・・・入学時に記入のもの	
住所、家族構成など	
(b) 指導要録・・・9~10月にならないと手に入らない	
過去の素行、前歴、前年度までの担任所見など	
(c) 中学校の調査書・・・新入生の場合(1年担任のみ)	
2. 個人面談によるもの	
(a) 面談の方法	
全員を対象とするもの	

実施の回数と時期：

- ・ 年 2 ～ 3 回実施する例が多い。
- ・ 時期は定期試験の前後、保護者懇談会の前等
- ・ L H の後半を使って個人面談に利用する例も多い。

確認事項

- A . 家庭の状況の異動について（家族や氏名など）
- B . 健康状態（欠課に関係するので注意）
- C . 交友関係（学級内のグループ、校外、いじめ等の把握）
- D . 部活動
- E . 生活状況（起床、就寝、趣味、余暇の利用法）
- F . 学習状況（得意・不得意科目、学習法の助言）
- G . その他気になる点

特定の学生を対象とするもの

問題行動があったり、なんとなく気になる場合、早めの対処が必要。問題行動として、遅刻・欠課過多、授業態度不良、異常な行動など。

（ b ）個人面談実施上の留意点

緊張感を持たせて実施するのか、ざっくばらんに話をするのか意識しておきたい。

（生の声を聞くためには大切）

全員を対象とする場合、かなりの時間と労力を必要とするので余裕をもって実施したい。

実施直後に個人ファイルを作っておくと、保護者懇談会、成績通知書・指導要録の記入の際に便利である。

（出典 平成 17 年 4 月「学級担任の手引き」 3 頁）

さらに週に一回のオフィスアワ - を設け、始業式での教務主事による訓話や校内放送による告知等によって周知を図りつつ、学習に関する学生の相談に応じている（資料 7 - 1 - - 3 ）。

資料 7 - 1 - - 3

2 . 審議事項

（ 6 ）オフィスアワ - の実施方法等について

委員長から、J A B E E 小委員会からの提言を受け、学生への支援体制として、オフィスアワ - の実施について原案を資料 1 0 のとおり作成した旨の説明があった。また、時間の設定を原則月曜日の 8 ・ 9 時限目としたのは、各教員がバラバラに設定するより、学生への意識付けが容易であろうと考えたためである旨、あわせて説明があった。

澤柳委員から若干の補足説明がなされた後、審議が行われ、字句等を修正のうえ、全教員へ周知することで了承された。

なお、様式については、電子ファイルを H P に貼り付けることとした。

（出典 平成 17 年 4 月 4 日開催 教務委員会議事概要）

### 3. その他

・ オフィスアワ - , 補習・補講の実施状況について

委員長から、オフィスアワ - , 補習・補講の記録は半期ごとに提出することになっているが、現在、認証評価の自己評価書を作成中であり、その資料に取り入れるため、6 / 6 (月)までの「学生指導記録」「OH 予定実施状況」「補習願」及び「補講届」を6 / 10 (金)までに教、 , , , 務係へ提出願いたい旨の要請があった。

なお、J A B E E 第 8 小委員会から、月曜日の昼休みと 7 時限終了後に放送している内容を教室に掲示、HP に掲載してほしいとの要請があったが、第 8 小委員会で検討してもらうこととなった。

また、オフィスアワ - の時間に補習・補講が実施されているようだが、問題はないかとの質問があり、次のような意見交換があった。

・ オフィスアワ - は、原則、全教員が教官室で待機するべきである

・ 授業時間割上、月曜日しか補習・補講する時間がとれない

・ オフィスアワ - がまだ学生に十分定着していない状況なので、教官室で待機するという原則は守るべきである

、 , ・ 建築学科はオフィスアワ - の時間に学科の全教員が 1 年生に対して補習を行っているがその間、オフィスアワ - を利用して教官室を訪問した学生に対応することも可能である

・ 補講等を行う場合、居場所を掲示するなどして、教官室を訪れた学生へも対応できるようにしてはどうか

以上のような意見交換の後、委員長から、オフィスアワ - の時間に補習・補講を行う場合は各教員がその旨を教官室に表示するなど訪れた学生への対応を十分考慮した上で実施することとしてはどうかとの発言があり、了承された。

(略)

(出典 平成 17 年 6 月 3 日開催 教務委員会議事要録)

(分析結果とその根拠理由)

新入生に対しては新入生オリエンテーションでの教務ガイダンスにおいて、学習に関するガイダンスが実施され、全学生に向けては初回授業時にシラバスに基づいた適切な指導が行われている。また、担任による個人面談やオフィスアワ - での面談が実施されている。

以上のことから、学習を進める上でのガイダンスは整備され、適切に実施されており、また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制も整備され、機能している。

観点 7 - 1 - : 自主的学習環境(例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。)及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点到係る状況)

図書館は平日の開館時間が午後八時まで延長され、また、長期休業中を除きすべての土曜日と定期試験期間前と期間中の日曜・祝祭日にも開館しており(資料 7 - 1 - - 1)、閲覧室内の自主学習スペースのほか、図書館前の談話ホールも学生の自主学習の場として有効に利用されている。(資料 7 - 1 - - 2)。

資料 7 - 1 - - 1

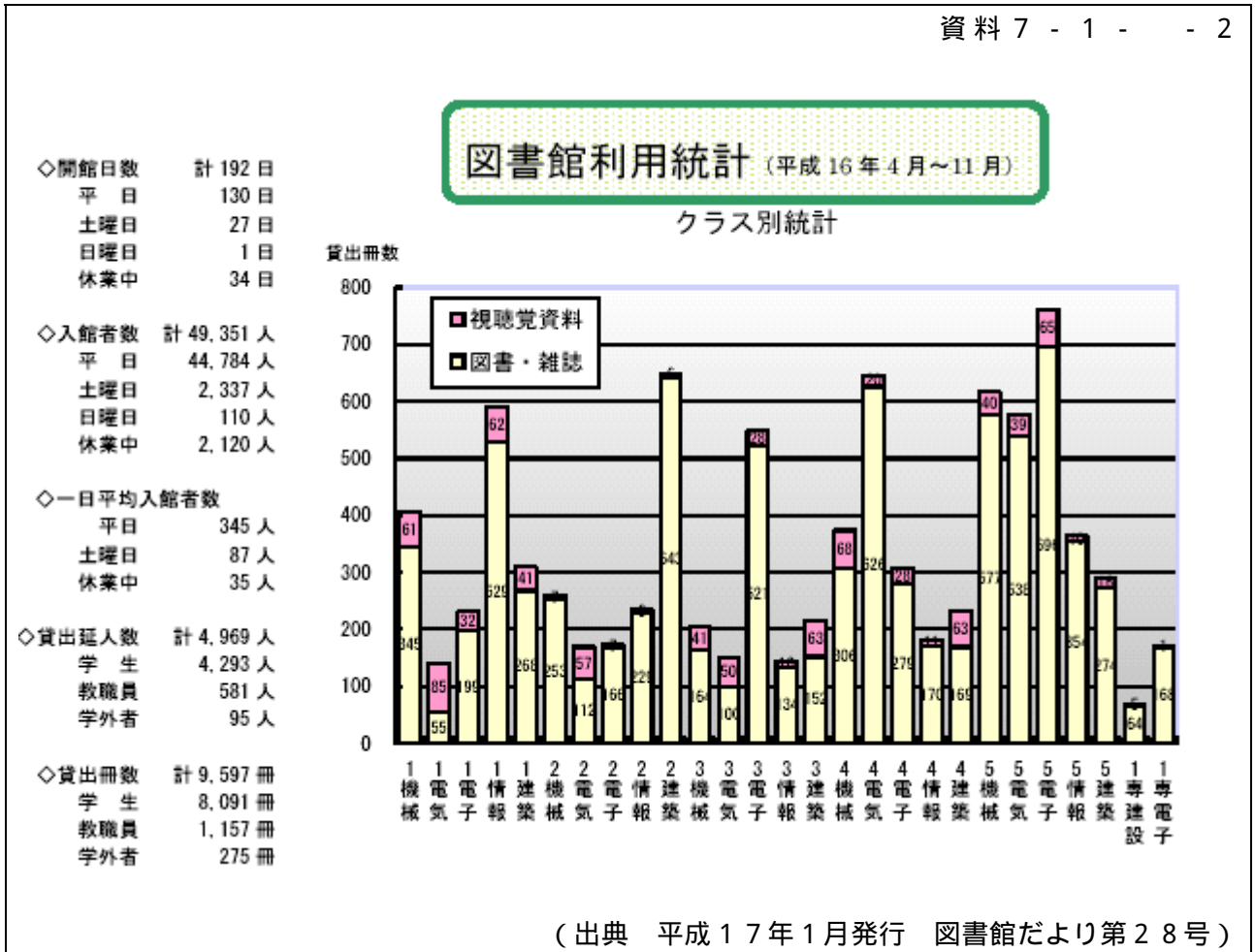
図書館の利用案内が掲載されている箇所

( <http://www.kushiro-ct.ac.jp/> )

( 出典 本校ウェブサイト )

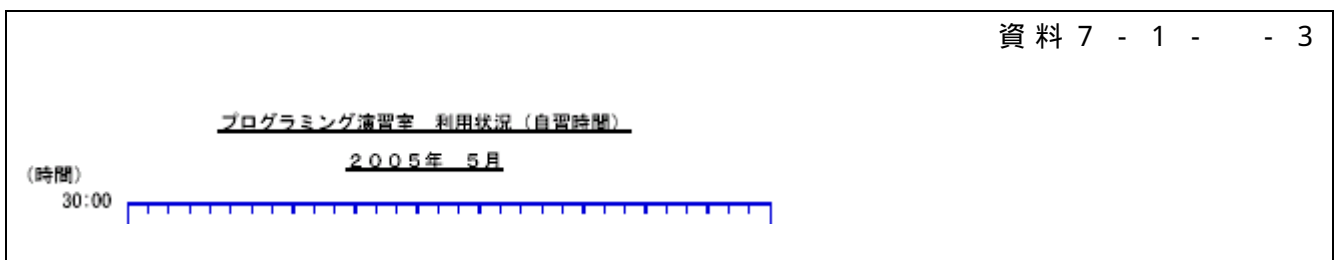
閲覧室内の自主学習スペースのほか、図書館前の談話ホールも学生の自主学習の場として有効に利用されている ( 資料 7 - 1 - - 2 )。

資料 7 - 1 - - 2

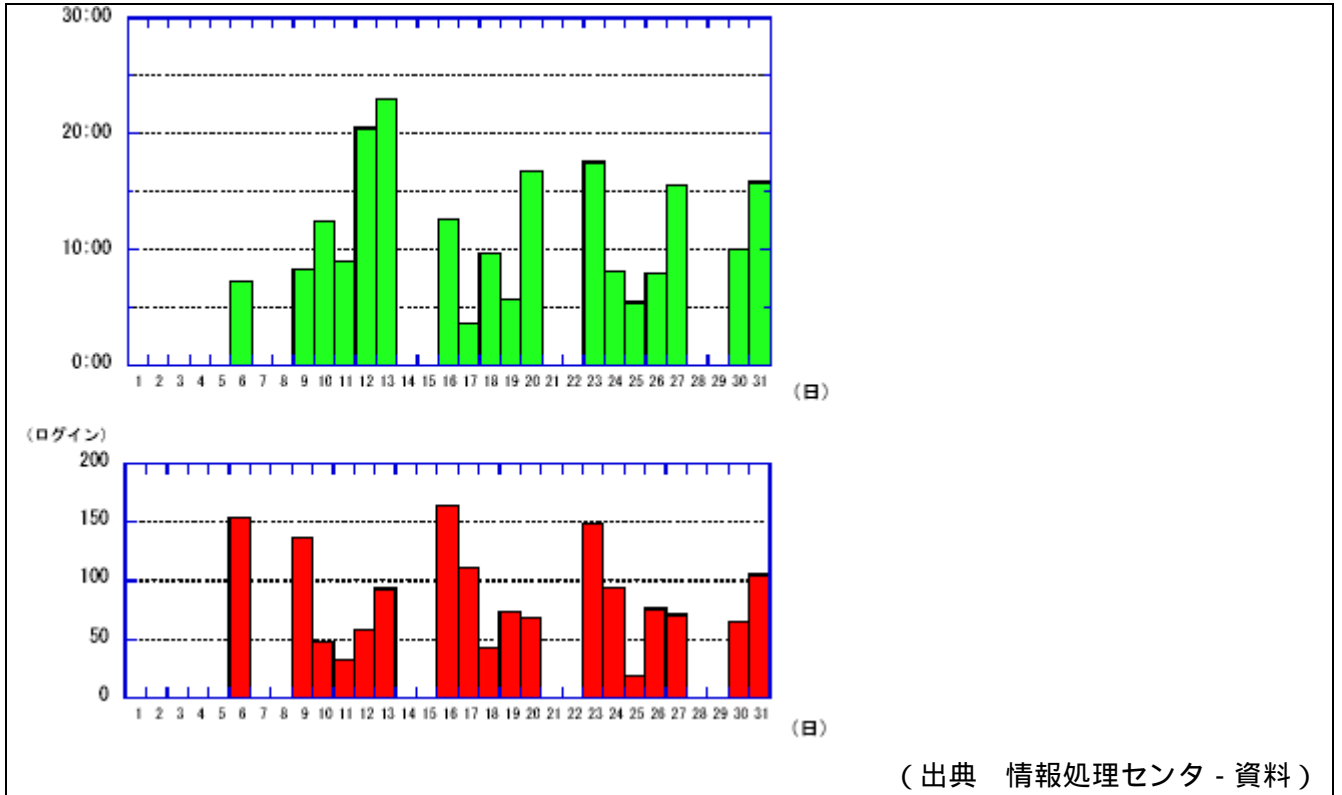


プログラミング演習室や実習工場も学生の自主学習に活用されている ( 資料 7 - 1 - - 3 , 資料 7 - 1 - - 4 )。

資料 7 - 1 - - 3







資料 7 - 1 - - 4

平成 1 6 年度 実 習 工 場 利 用 状 況

1 . 実習工場利用目的

利 用 目 的	利用件数	利用形態	利用人数	利用時間
工学実験テストピ - ス製作	41	15 : 30 ~ 17 : 00	41	61 時間 30 分
航空研	18	放課後	18	43 時間 40 分
ロボット研究会	23	放課後	27	64 時間 00 分
高専祭関連	11	放課後	17	28 時間 05 分
卒業研究	217	授業時間、放課後	271	749 時間 15 分
その他	3	放課後	3	9 時間 30 分
合計	312		373	956 時間 00 分

2 . 工作機器利用状況

工作機器名	台数	利用件数	工作機器名	台数	利用件数
汎用旋盤	11	115	直立ボ - ル盤	1	5
縦フライス盤	2	92	ラジアルボ - ル盤	1	4
横フライス盤	1	4	卓上ボ - ル盤	4	64
形削り盤	2	19	バンドソ -	3	53
歯切り盤	1		ア - ク溶接機	4	10
円筒研削盤	1		ガス溶接機	4	9

平面研削盤	1	9	エア - プラズマ切断機	1	5
CNC 旋盤	1		と石切断機	1	8
マシニングセンタ	1				

( 出典 技術室資料 )

また、教員室前のユ - ティリティ - スペ - スには机と椅子が配置され、必要に応じて教員の助言を受けながら学習できる環境が整えられ、利用されている。

( 分析結果とその根拠理由 )

図書館、プログラミング演習室、実習工場等、学生の自主的学習のために供与される施設・設備が整備されており、利用状況から判断して学生に有効に利用されていることが分かる。ユ - ティリティ - スペ - スは、自学用にも利用されているが、教員と学生のコミュニケーションを図る空間ともなっており、学生に対する懇切な学習支援の一助となっている。

以上のことから、学生のための自主的学習環境及びキャンパス生活環境は整備され、十分効果的に利用されている。

観点 7 - 1 - : 学習支援に関する学生のニ - ズ ( 例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。 ) が適切に把握されているか。

( 観点到に係る状況 )

授業内容に関して、学生の申し出により補講を実施する体制を整えているほか ( 資料 7 - 1 - - 1 )、学級担任制の採用 ( 前出 資料 7 - 1 - - 2 ) や授業評価アンケートに自由記述欄を設けることにより、学生のニ - ズを聴き取る体制が整備されている ( 資料 7 - 1 - - 2 )。

今年度から実施されているオフィスアワ - モニ - ズの把握に資するシステムとして機能している ( 資料 7 - 1 - - 3 )。

資料 7 - 1 - - 1

## 2. 審議事項

### ( 5 ) 補講・補習の実施方法について

委員長から、J A B E E 小委員会からの提言を受け、学生への支援体制として、補講・補習の実施方法等の原案を受け、資料 9 のとおり作成した旨の説明があり、澤柳委員から次のとおり補足説明があった。

- ・この案は、学生支援に係る活動を記録として残すことと、自ら学ぶ市政を養わせることを理念として作成したものである。
- ・用語の定義として、授業回数不足などにより、クラス全体を対象として行うものを「補講」、学生からの申し出によるものや、遅進学生と判断される者に対するものなど、一部の学生を対象として行うものを「補習」とした。
- ・「学習遅滞」であることの判断は、クラス担任または教科担当教員の判断によることにする。

この後、審議が行われ、字句及び様式について一部修正の上、全教員へ周知することで了承された。

なお、各様式については、電子ファイルを HP に貼り付けることとした。

( 出典 平成 17 年 4 月 4 日開催 教務委員会議事要録 )

## 釧路高専受講アンケート(講義・演習用)

- このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に生かされます。
- アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはありませんので、率直な回答をお願いします。
- 設問は全部で14問あります。自由意見欄がありますので、この授業に対する自由な意見を述べてください。

年 度	学 科	学 年	出 席 番 号	科 目 名	教 官 名	文 理 別
(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)
(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)
(5)	(5)	(5)	(5)	(5)	(5)	(5)
(6)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)
(7)	(7)	(7)	(7)	(7)	(7)	(7)
(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)	(8)
(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)	(9)

(記入上の注意)

- H B以上の鉛筆またはシャープペンシルを使用して下さい。
- 訂正する場合はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- 用紙を折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- 年度、学科、学年、出席番号、科目名(コード番号)、教官名(コード番号)、文理別の各欄は、担当教官の指示により正しくマークして下さい。

記入例 (良い例) ●  
(悪い例) ⊗ ⊙ ⊖ ⊕ ⊖

この授業(講義・演習)について、以下の各設問に対してどう考えますか。それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号をマークして下さい。  
その評価は、以下のとおり5段階とします。

5. 強くそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そうは思わない 1. 強くそう思わない

※体育については、\*印の設問のみ回答して下さい。

	5 強く そう 思う	4 そう 思う	3 ど ち ら と も い え な い	2 そ う は 思 わ な い	1 強 く そ う 思 わ な い
*1 シラバスは授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
*2 授業はシラバスに沿って行われていた。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
*3 教官の熱意が感じられた。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
*4 教官の話し方(声の大きさと明瞭さ)は聞き取りやすかった。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
*5 授業は良く工夫され、わかりやすかった。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
6 プロジェクタ、ビデオ、プリント、教科書等補助教材の利用が適切で理解に役立った。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
*7 教官は効果的に学生の参加(発言、作業、私語・居眠りに対する注意など)を促した。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
*8 教官は学生の質問・発言等に明快に答えてくれた。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
9 小テスト・演習・課題・定期試験の解説・添削は適切で理解に役立った。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
*10 自分にとって、この授業の難易度は適切であった。	適切 (0)	ほぼ適切 (0)	やさしい (0)	やや難しい (0)	難しい (0)
11 自分のこの授業の試験点数(素点)は、小テスト・定期試験合せて100点満点で平均( )であった。	100~90点 (0)	89~79点 (0)	69~59点 (0)	49~39点 (0)	29点以下 (0)
*12 自分にとって、この授業の理解の程度は( )程度であった。	100% (0)	80% (0)	60% (0)	40% (0)	20% (0)

*13 この授業の自分の欠席率は( )程度であった。	欠席なし (0)	5%以下 (0)	5~10% (0)	10~15% (0)	15%以上 (0)
*14 質問、発言、演習、宿題、予習などにより、あなたはこの授業に積極的に参加したと思いますか。	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

=自由意見欄=

### 3. その他

#### ・ オフィスアワ - , 補習・補講の実施状況について

委員長から、オフィスアワ - , 補習・補講の記録は半期ごとに提出することになっているが、現在、認証評価の自己評価書を作成中であり、その資料に取り入れるため、6 / 6 (月)までの「学生指導記録」「OH 予定実施状況」「補習願」及び「補講届」を6 / 10 (金)までに教務係へ提出願いたい旨の要請があった。

なお、J A B E E 第 8 小委員会から、月曜日の昼休みと7時限終了後に放送している内容を教室に掲示、HPに掲載してほしいとの要請があったが、第 8 小委員会で検討してもらうこととなった。

また、オフィスアワ - の時間に補習・補講が実施されているようだが、問題はないかとの質問があり、次のような意見交換があった。

#### ・ オフィスアワ - は、原則、全教員が教官室で待機するべきである

#### ・ 授業時間割上、月曜日しか補習・補講する時間がとれない

#### ・ オフィスアワ - がまだ学生に十分定着していない状況なので、教官室で待機するという原則は守るべきである

#### ・ 建築学科はオフィスアワ - の時間に学科の全教員が1年生に対して補習を行っているがその間、オフィスアワ - を利用して教官室を訪問した学生に対応することも可能である

#### ・ 補講等を行う場合、居場所を掲示するなどして、教官室を訪れた学生へも対応できるようにしてはどうか

以上のような意見交換の後、委員長から、オフィスアワ - の時間に補習・補講を行う場合は各教員がその旨を教官室に表示するなど訪れた学生への対応を十分考慮した上で実施することとしてはどうかとの発言があり、了承された。

#### ・ 中間試験日程の見直しについて

委員長から、今回の前期中間試験は5Mの試験科目数が多く、時間割上、7・8時限まで実施しなければ試験期間内に収まりきれない状況であり、中間試験日程を4日間から5日間に見直しはどうかとの発言があった。その際、1・2学年は試験実施科目が少ないため時間割上空き時間が生じるが、中間試験は授業回数に含まれることもあり、試験を実施しない座学の授業を入れることで対応する旨の説明があり、審議の結果、了承された。なお、後期中間試験から5日間の日程で実施することとなった。

#### ・ 委員長から、授業評価アンケートの改善案と、授業公開の「教員相互評価表」を未提出の者は早急に提出するよう、委員から学科へ伝えていただきたい旨説明があった。その後、委員長から、授業公開について各委員の意見を伺いたい旨の発言があり、意見は次のとおりであった。

#### ・ 評価方法は、5段階評価より、いくつかの項目に対してよい点、改善する点をチェックする形式の方がよい

#### ・ 今回、どの授業を参観するかは各人に委ねられていたが、ある程度、参観する授業を指定されたほうがよいのではないか

(出典 平成17年6月3日開催 教務委員会議事要録)

(分析結果とその根拠理由)

自己申請による補講制度を設け、学習支援のニーズを学生から汲み上げるシステムが構築されており、学習支援に関するニーズを教員に直接申し出ることを促す人間関係作り(学級担任制)や環境整備(授業評価アンケート・オフィスアワー)が図られている。

以上のことから、学習支援に関する学生のニーズは適切に把握されている。

観点7-1-1: 資格試験や検定試験受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

ラジオ・音響技能検定試験やデジタル技術者検定試験等の資格試験や検定試験を受験する学生のために、図書館にはそれらの試験に関連する図書を備えている(資料7-1-1-1)。

資料7-1-1-1

図書館にある資格に関する図書(17.6.1 調べ)

ラジオ・音響検定試験	90冊
デジタル技術者検定試験	87冊
情報処理技術者試験	100冊
電検関係	28冊
建築士関係	52冊
就職・進学関係	139冊

(出典 情報資料係資料)

また、多くの資格・検定試験が本校を会場として実施されており、学生の実験に伴う負担を軽減している(資料7-1-1-2)。

資料7-1-1-2

資格試験・検定試験の本校会場実施分(16年度)

釧路工業高等専門学校

検定試験の種類	実施日	時間	受講人数
デジタル検定試験	平成16年6月27日	9:00 - 16:00	18
英語検定試験	平成16年6月13日	9:00 - 15:30	34
数学検定試験	平成16年6月19日	9:00 - 17:00	86
漢字検定試験	平成16年6月18日	16:30 - 17:30	40

AR検定試験	平成 16 年 6 月 13 日	9:00 - 14:00	25
漢字検定試験	平成 16 年 11 月 12 日	16:30 - 17:30	23
英語検定試験	平成 16 年 10 月 14 日	9:00 - 15:30	247
AR検定試験	平成 16 年 11 月 14 日	8:30 - 14:00	21
工業英語検定試験	平成 16 年 11 月 14 日	9:00 - 11:30	50
デジタル検定試験	平成 16 年 11 月 28 日	9:00 - 12:30	7
音楽検定試験	平成 16 年 11 月 27 日	9:00 - 16:00	10
数学検定試験	平成 16 年 12 月 11 日	12:00 - 17:00	29
漢字検定試験	平成 17 年 1 月 22 日	10:00 - 11:00	52
英語検定試験	平成 17 年 1 月 23 日	9:00 - 15:30	91
工業英語検定試験	平成 17 年 1 月 29 日	9:00 - 12:30	28
TOEIC	平成 17 年 3 月 27 日	9:00 - 17:00	140

( 出典 学生課資料 )

前記検定試験及び実用英語技能検定試験，工業英語能力検定試験においては特別学修による単位認定制度を設けて学生の意欲を喚起している（資料 7 - 1 - - 3 ， 7 - 1 - - 4 ， 7 - 1 - - 5 ）。

資料 7 - 1 - - 3

## 第 1 章総則

第 1 条本校学生の学業成績の試験，評価の方法及び進級並びに卒業の認定について学則その他別に定めるもののほか、この内規の定めるところによる。

## 第 2 章試験

第 2 条試験は，定期試験，追試験，再試験及びその他の試験とする。

第 3 条試験は，次のとおり実施する。

### 一定期試験

- (1) 前期中間試験
- (2) 前期末試験
- (3) 後期中間試験
- (4) 学年末試験

( 略 )

第 5 条単位修得の認定は，学年成績が 60 点以上の科目について行うものとする。

第 6 条学則第 28 条の 2 に規定する文部大臣が定める学修（以下「特別学修」という。）に対応する本校の科目及び単位は、別表のとおりとする。

2 特別学修の単位の認定は、本人からの特別学修単位認定申請書（第 2 号様式）の提出に基づき、校長が認定する。

（出典 学業成績の試験・評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規）

資料 7 - 1 - - 4

## 第 5 章の 2 課程修了の認定、卒業等

第 2 7 条 全課程の修了の認定に必要な単位数は、167 単位以上（そのうち、一般科目については 81 単位以上、専門科目については 86 単位以上とする。）とする。

第 2 8 条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30 単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

第 2 8 条の 2 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて 30 単位を超えないものとする。

第 2 8 条の 3 前 2 条に関し、必要な事項は別に定める。

第 2 8 条の 4 各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、学生の平素の成績を評価して行うものとする。

第 2 8 条の 5 前条の認定の結果、原学年にとどめられた者は、当該学年に係る全授業科目を再履修するものとする。

第 2 9 条 全学年の課程を修了した者には、校長は、所定の卒業証書を授与する。

（出典 釧路工業高等専門学校学則）

資料 7 - 1 - - 5

## 2 . 審議事項

（略）

（ 2 ）特別学修の単位認定について

委員長から資料 5 に基づいて説明があり、審議の結果、了承された。

（略）

< 資料 5 >

特別学修単位認定申請者一覧

学年・学科	氏 名	検定試験名	合格年月日 (証明年月日)	単位認定科目	認定単位数
5		ラジオ・音響技能検定 試験 2 級	15年11月9日	電子機器	2 単位

（出典 平成 1 7 年 6 月 3 日開催 教務委員会議事要録）

英語の授業では3学年において習熟度別の指導形態を導入し、検定試験への合格を目指す効果的な学習支援を実践している(資料7-1-6)。

資料7-1-6

英語の授業では3学年において習熟度別の指導形態を導入の掲載箇所(木曜日 1・2時限目)

		月								火								水							
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
1学年	M	化学	地理	中国語	西化学	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	物理	工作	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	D	中国語	物理	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	J	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
2学年	M	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	D	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	J	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
3学年	M	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	D	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
	J	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語

2全学科 創造工学：成澤 龍 須田 悠々木 松本 戸谷 穂田 龍 大貫 天元 大塚 依田 三 井上





資料 7 - 1 - - 8

(目的)

第 1 海外語学研修(以下「研修」という。)は、釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)の学生が、本校の主催する研修に参加することにより、英会話の実践的能力を高めるとともに国際感覚を身に付けることを目的とする。

(申請)

第 2 研修を希望する者は、次の各号に該当する場合に申請できるものとする。

- 一 研修時期において第 3 学年以上に在学する学生で、生活指導上問題のない者
- 二 文部科学省認定英語技能検定準 2 級以上の合格者又は本校の英語の成績が各学年とも 80 点以上の者

(許可)

第 3 派遣の許可は、所定の審査を経て校長が決定する。

(期間)

第 4 研修期間は、長期休業期間中の 3 週間程度とする。

(成績評価及び単位認定)

第 5 成績の評価は、外国の大学等が発行した証明書等に基づき一般教科「英語」の教科代表教員が行う。

2 認定科目は英会話 (選択科目)とする。

(出典 釧路工業高等専門学校海外語学研修実施要項)

資料 7 - 1 - - 9

(事業)

第 3 条 前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- 一 学術に関する研究の推進事業
- 二 産学官協力事業
- 三 教職員・学生の海外派遣事業
- 四 外国人研究者の招へい事業
- 五 外国人留学生の受入事業
- 六 その他本校の教育研究事業及び国際交流事業

(出典 釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金規程)

4. 平成16年度釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金事業の採否について  
校長から、資料5に基づき説明があり、審議の結果了承された。

事業名	限度額	申請事由等	申請金額(円)	採択金額(予定)
学術に関する研究の推進事業	30万円	学会発表(全国大会で複数回発表)のため	165,100	校長裁量経費へ
教職員・学生の海外派遣事業	40万円	ブルガリアで開催される国際会議で発表を行うため	400,000	0
その他(教育方法・学生指導方法改善)	1人につき20万円	学生相談の実践的手法を学ぶため、日本ストレスマネジメント学会第8回大会に参加する	117,260	117,260
学術に関する研究の推進事業	30万円	学位取得を目的とした、学会参加等の研究活動のため	273,660	273,660
その他(教育業績賞補助)	1人につき20万円	平成16年度釧路高等専門学校教育業績賞受賞者への研究費・旅費等の補助	200,000	200,000
その他(学生の海外語学研修)	1人につき10万円	学生の海外語学研修のため(6名派遣)	600,000	600,000
教職員・学生の海外派遣事業	40万円	海外語学研修に参加する学生の引率	435,000	435,000
産学官協力事業	30万円	産学官共同研究・交流推進協議会の会議費及びローカルインターネットアクセスチャレンジのための電話回線使用料	300,000	300,000
その他(外国人留学生との交流)	1人につき5千円	留学生ガイダンスのため(参加者4名)	10,000	10,000
その他(教育方法・学生指導方法改善)	1人につき20万円	「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に応募するため、同プログラムの説明会に出席する(2名)	155,720	155,720
合 計 (円)			4,657,440	2,749,900

平成16年度釧路工業高等専門学校

番号	申請者	所属等	学歴
11	伊藤 敬之	一般教科・教授	教授
12	星野 裕一	機械工学科・助教	助教
13	松下 博志	一般教科・助教	その 他
14	渡邊 聖司	機械工学科・助教	教授
15	小山 幸弘	庶務課長	その 他
16	栗原 智	学生課長	その 他
17	林 幸利	一般教科・助教授	助 教
18	山崎 敏孝	地域共同センター長	教員
19	栗原 智	学生課長	その 他
20	栗原 智	学生課長	その 他

(出典 平成16年6月28日運営会議配布資料)

外国留学に関する規定も学校教育法施行規則に則って整備されている(資料7-1- -11)。

資料7-1- -11

### 第3章 入学、転科、休学、退学、転学及び留学

第26条の2 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 校長は、前項の規定により留学することを許可された学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、30単位を超えない範囲で単位の履修を認定することができる。

(略)

(出典 釧路工業高等専門学校学則)

(分析結果とその根拠理由)

学生の学習意欲やキャリア意識を喚起しながら、学生のニーズに即して各種資格・検定試験に向けての準備を効果的に進められる体制が整っており、外国留学についても経済的な面を含めた援助の体制がある。

以上のことから、これら支援体制が十分に整備され、機能している。

観点7-1- : 特別な学習支援が必要な者(例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害を持つ学生等が考えられる。)がいる場合には、学習支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

留学生の日常生活と学習活動を支援する目的でチュータ制度を設け、日本語によるコミュニケーション能力の向上や異文化への無理のない順応を促し、不安なく勉学に打ち込める環境作りに努めている(資料7-1- -1, 7-1- -2)。

チューターの皆さんへ

本年 4 月現在、釧路工業高等専門学校には、アジア・アフリカ地域から 3 カ国 5 名の留学生が在籍し、本校の教育システムの中で、優秀な専門技術者となるために日夜努力しています。

これらの留学生が本校を卒業するためには、本校のカリキュラムに沿って勉強するのはもちろんですが、日本語の勉強や衣食住についての理解を深め、日本の生活習慣に慣れてもらう必要があります。

そのため、3・4 学年の留学生には留学生と同じクラスの寮生の中からチューターを選定し、勉強や生活面で相談相手となってもらっています。

チューターを引き受けられた動機、理由はそれぞれ違うでしょうが、引き受けた以上、留学生のよき友人として献身的なお世話をしてほしいと思います。そして、指導教員や学生課との連絡を密にし、無事留学を終えるよう全面的な支援をお願いします。

皆さんは、これから 1 年間、外国人留学生のチューターとして職務を果たしていただくこととなります。以下に外国人留学生とはどのような学生であるか、また、チューターとはどのような役割を果たすべきかなどについて、簡潔に記してありますので、今後の留学生指導の参考にしてください。

平成 17 年 4 月

釧路工業高等専門学校学生課

(出典 平成 17 年 4 月 チュ - タ - の手引き)

チューター指導報告書

平成 17 年 5 月 30 日

釧路工業高等専門学校長 殿

チューター

学科 第 3 学年

氏名 \_\_\_\_\_

平成 17 年 4 月分の留学生課外指導を次のとおり行いましたので、報告いたします。

1. 指導した留学生 \_\_\_\_\_ 学科 第 3 学年 氏名 \_\_\_\_\_

2. 指導時間・内容等

日	曜日	指導時間	時間数	指導内容	印
8	金	16時30分~17時00分	0.5	自己紹介	( )
13	水	17時30分~18時30分	1	日本語指導	
14	木	15時00分~15時30分	0.5	都活プログラムの助言	
19	火	15時00分~15時30分	0.5	漢字の読みについて	
21	木	15時00分~15時30分	0.5	"	
28	木	16時00分~17時00分	1	漢字と日本語について	
		時 分~ 時 分			
		時 分~ 時 分			
		時 分~ 時 分			
		時 分~ 時 分			
		時 分~ 時 分			
		時 分~ 時 分			
指導時間数計			4		

指導教官名 山崎俊博 (印)

さらには個別時間割を設定し、個人指導を含めた学習支援を行っている(資料7-1--3)。

資料7-1--3

平成17年度 留学生前期時間割

3年電気

	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50~ 9:35	9:40~ 10:25	10:35~ 11:20	11:25~ 12:10	13:00~ 13:45	13:50~ 14:35	14:40~ 15:25	15:30~ 16:15
月	電子計算機		数 学		応 用 物 理		H R	

	野口	林義	松崎	須田	
火	電気回路	数 学	英 語		
	工藤(2E)	林義	吉田		
水	電気計測	電子工学	日 本 語	電気機器	
	工藤	須田	高井	高木	
木	英 語	数 学	生 物	体 育	
		林義	杉山	三島	
金	電気磁気学	電気回路	電気工学実験		
	松永	工藤	工藤・佐々木		

水曜日5・6時限「日本語」は国際交流室で行う。

3年情報

	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50~ 9:35	9:40~ 10:25	10:35~ 11:20	11:25~ 12:10	13:00~ 13:45	13:50~ 14:35	14:40~ 15:25	15:30~ 16:15
月	アルゴリズムグラフ 論		英 語		数 学		H R	
	本間		片岡		林義		山崎	
火	確 率 統 計		プログラミング言語		コピュ-タネットワーク			
	天元		高橋・中島陽(2年)		高橋・大貫			
水	プログラミング言語		数 学		日 本 語		電 気 回 路	
	天元・土江田		林義		高井		神谷・中島陽	
木	英 語		論 理 回 路		プログラミング言語			
			大槻典		天元・土江田			
金	体 育		応 用 物 理		数 学		情 報 工 学 実 習	
	三島		森		山崎		大槻典(個人指導)	

水曜日5・6時限「日本語」は国際交流室で行う。

4年情報

	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50~ 9:35	9:40~ 10:25	10:35~ 11:20	11:25~ 12:10	13:00~ 13:45	13:50~ 14:35	14:40~ 15:25	15:30~ 16:15
月	電磁気学		応用物理		応用数学A			
	大槻典		松崎		澤柳・佐藤穆			
火	体 育		英 語		情報工学実習		数 学	

	館岡	中村	本間 (個人指導)	林義
水	応用数学 A	コンピュータ・ネットワーク	オ・トマトン	電子回路
	澤柳・佐藤穆	大貫・高橋	高橋	本間
木	数値解析	情報工学実験	情報工学実験	
	神谷	本間	本間	
金	計測制御		情報工学実習	オペレーティングシステム
	大槻典		天元 (個人指導)	大貫

(出典 平成 17 年度 留学生前期時間割)

また、編入学生に対しては、英語と数学の入学前指導を実施しているほか、学習履歴に応じて他学年の授業も履修できるよう個別時間割を設定し、学習活動を支援している(資料 7 - 1 - - 4)。

資料 7 - 1 - - 4

平成 17 年度 編入学生前期時間割

4 年機械

	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50 ~ 9:35	9:40 ~ 10:25	10:35 ~ 11:20	11:25 ~ 12:10	13:00 ~ 13:45	13:50 ~ 14:35	14:40 ~ 15:25	15:30 ~ 16:15
月	機 械 材 料		C A D		数 学		コミュニケーション実践	
	岩淵		荒井		加藤雅 (3 年)		小田島	
火	材 料 力 学		流 体 工 学		数 学			
	成澤		丹		加藤雅 (3 年)			
水			電 気 電 子 工 学		熱 力 学		情 報 処 理	
			成澤		山岸		荒井	
木	応 用 物 理		ドイツ語	コミュニケーション実践		法 学		
	松崎		藤本	小田島		南須原		
金	システム設計工学		英 語		ドイツ語		工 学 実 験	
	渡邊		高村		藤本		山岸・丹・田中・渡邊・麓・小杉	

4 年電気

	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50 ~ 9:35	9:40 ~ 10:25	10:35 ~ 11:20	11:25 ~ 12:10	13:00 ~ 13:45	13:50 ~ 14:35	14:40 ~ 15:25	15:30 ~ 16:15
月	情 報 処 理		数 学		電 気 工 学 実 験			



	高木	林義(3年)	小林・高木	
火	(S)電気機器	電子回路		
	高木	野口		
水	制御工学	送配電工学	コミュニケーション実践	電気工学実験
	千田	山岡	館下	千田・佐藤英
木	ドイツ語	コミュニケーション実践	数 学	英 語
	藤本	小田島	林義(3年)	吉田
金	法 学	高電圧工学	応 用 物 理	ドイツ語
	南須原	小林	浦家	藤本

4年情報

	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50~9:35	9:40~ 10:25	10:35~ 11:20	11:25~ 12:10	13:00~ 13:45	13:50~ 14:35	14:40~ 15:25	15:30~ 16:15
月	電 磁 気 学		応 用 物 理		数 学			
	大槻典		松崎		林義(3年)			
火	確 率 統 計		英 語		コミュニケーション実践	ドイツ語		
	天元(3年)		中村		館下	南須原		
水	プログラミング言語		数 学		オ-トマトン		電 子 回 路	
	天元・土江田(3年)		林義(3年)		高橋		本間	
木	数 値 解 析		論 理 回 路		プログラミング言語			
	神谷		大槻典(3年)		天元・土江田(3年)			
金	計 測 制 御		コミュニケーション実践	ドイツ語	法 学		パレ-ティングシステム	
	大槻典		館下	南須原	南須原		大貫	

(出典 平成17年度 編入学生前期時間割)

学習上の支援が必要な障害を持つ学生は、現在は在籍していない。

(分析結果とその根拠理由)

個別的な学習計画の設定により、留学生や編入学生が学習上の問題に直面しないよう十分な配慮がなされている。

以上から、特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制は十分に整備され、機能している。

観点 7 - 1 - : 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

クラブ活動に関しては学生の自主的な参加による課外活動として定着しており、体育系・文化系を問わず活動場所が確保され、部・同好会ともに教員が顧問となって円滑な運営が図られている(資料 7 - 1 - - 1, 7 - 1 - - 2)。

資料 7 - 1 - - 1

平成17年度 学生会・クラブ(部・同好会)顧問名簿

◎学生会関係

委員会・クラブ名	顧問
評 議 会	井 上 圭 一
執 行 委 員 会	
監 査 委 員 会	成 澤 哲 也
選 挙 管 理 委 員 会	
行 事 委 員 会	加 藤 雅 也
会 計 委 員 会	
新 聞 委 員 会	* 小 田 島 本 有 務 片 岡

◎体育系クラブ

陸 上 部	* 林 幸 利
	依 田 有 康
	中 島 陽 子
	井 上 圭 一
男子バスケットボール部	* 西 澤 岳 夫
	浅 水 仁
	加 藤 雅 也
	柳 川 和 徳
男子バレーボール部	* 森 太 郎
	櫻 田 安 志
女子バレーボール部	* 舘 岡 正 樹
ソフトテニス部	* 浦 家 淳 博
	高 橋 晃 勝
	山 岡
卓 球 部	* 小 杉 淳
	加 藤 岳 人
柔 道 部	* 三 島 利 紀
剣 道 部	* 渡 邊 聖 司
バドミントン部	* 山 崎 俊 博
	舘 岡 正 樹

◎文化系クラブ

写 真 部	* 片 岡 務
	吉 田 茂
吹 奏 楽 部	* 山 田 昌 尚
	池 田 盛 一
美 術 部	* 麓 耕 二
	林 義 實
	山 岸 英 明
アマチュア無線部	* 松 永 繁 樹
	工 藤 信 博
茶 道 部	* 中 島 陽 子
	坂 田 篤
	大 槻 香 子
	土 江 田 織 枝

◎同好会

ドイツ語研究会	* 木 村 峰 明
	南 須 原 政 幸
	藤 本 一 司
軽音楽同好会	* 林 義 實
ロボット研究会	* 荒 井 誠
	中 村 隆
	梶 原 秀 一
基礎スキー同好会	* 千 田 和 範
	* 坂 口 直 志
スターリングエンジン同好会	* 柳 川 和 徳
	* 田 中 孝 二 郎
	山 岸 英 明
航空技術研究同好会	* 麓 耕 二
	* 小 杉 淳
RC(ラジコン)同好会	* 加 藤 岳 人
茶会同好会(休)	* 佐 治 裕

野 球 部	* 詔 岡 止 樹	英会話同好会(休)	* 佐 治 裕 樹
	* 丹 国 夫		林 幸 利
	千 葉 忠 弘		
アーチェリー部	成 澤 哲 也	スピードスケート同好会	* 三 島 利 紀
	* 佐 藤 英 樹	将棋同好会	* 高 橋 晃
	佐々木 敦	三 島 利 紀	
テニス部	須 田 潤	書道同好会	* 舘 下 徹 志
	* 松 崎 俊 明	マイコンカー同好会	* 坂 口 直 志
	中 島 敏	大 槻 典 行	高 木 敏 幸
サッカー部	松 本 和 健	映像研究会	* 中 島 陽 子
	* 三 森 敏 司	ステップ同好会	* 田 村 聡 子
	恐 神 邦 秀	チェス同好会	* 山 崎 俊 博
ハンドボール部	坂 口 直 志	フットサル同好会	* 森 太 郎
	* 本 間 宏 利	自転車同好会	* 大 貫 和 永
	草 苺 敏 夫		林 裕 樹
岩 渕 義 孝	土 江 田 織 枝		
空手道部	本 間 宏 利	トランポリン同好会	* 大 槻 典 行
	高 木 敏 幸		
	* 舘 岡 正 樹		
アイスホッケー部	* 荒 井 誠		
応援団(休)	佐 藤 彰 治		

\*印は、代表顧問

( 出典 平成17年度 学生会・クラブ(部・同好会)顧問名簿 )

資料 7 - 1 - - 2

(趣旨)

第1条 釧路工業高等専門学校福利施設(鶴峰会館と称する。以下「会館」という。)の管理運営については、この規程の定めるところによる。

(会館の目的)

第2条 会館は、学生の課外活動の発展を助長させるとともに、学生及び教職員の福利厚生に寄与することを目的とする。

(管理及び運営)

第3条 会館は、校長が管理する。

2 学生主事は、校長の命を受け、会館の運営に当たる。

3 会館の運営に関する必要な事項は、学生委員会において審議し、校長が決定する。

(事務)

第4条 会館に関する事務は、学生課学生係において行う。

(雑則)

第5条 この規程に定めるもののほか、会館の使用及びその他の必要な事項については別に定める。

( 出典 釧路工業高等専門学校福利施設管理規程 )

運営にかかる費用はその一部を学生会予算からの補助によってまかなっており、高等専門学校体育大会や高体連・高野連主催大会、高等専門学校の文化系クラブ交流会等への参加や高専祭における発表を通して、日頃の成果を発揮している(資料7-6--3)。

## 平成17年度学生会予算(案)

項目	小項目	16年度予算額	17年度予算額	差額
総額		5,740,000	7,603,000	1863000
内 訳				
クラブ活動費		3,197,000	3,977,000	780000
	新聞委員会	200,000	220,000	20,000
	応援団	20,000	20,000	0
	柔道部	20,000	30,000	10,000
	剣道部	40,000	50,000	10,000
	サッカー部	200,000	220,000	20,000
	野球部	250,000	270,000	20,000
	バスケットボール部	80,000	100,000	20,000
	ソフトテニス部	80,000	90,000	10,000
	男子バレー部	70,000	80,000	10,000
	女子バレー部	30,000	40,000	10,000
	卓球部	30,000	40,000	10,000
	羽球部	90,000	100,000	10,000
	陸上部	40,000	50,000	10,000
	アイスホッケー部	70,000	90,000	20,000
	空手部	40,000	50,000	10,000
	ハンドボール部	35,000	45,000	10,000
	アーチェリー部	65,000	75,000	10,000
	テニス部	85,000	95,000	10,000
	写真部	40,000	50,000	10,000
	吹奏楽部	120,000	140,000	20,000
	美術部	40,000	50,000	10,000
	アマチュア無線部	10,000	20,000	10,000
	茶道部	42,000	52,000	10,000
	施設借上費	300,000	300,000	0
	指導謝金	200,000	370,000	170,000
	登録料補助	300,000	330,000	30,000
	特別補助	700,000	1,000,000	300,000
高専祭運営費		1,985,000	2,800,000	815,000
	学科展	550,000	650,000	100,000
	クラブ展・発表	130,000	100,000	-30,000
	実行委員会	285,000	760,000	475,000
	クラス企画	300,000	300,000	0
	PR・保全等	545,000	490,000	-55,000
	予備	175,000	500,000	325,000
その他の行事		240,000	210,000	-30,000
	春季球技大会	70,000	55,000	-15,000
	冬季球技大会	70,000	55,000	-15,000
	予備	100,000	100,000	0
事務費		116,000	116,000	0
	執行部	100,000	100,000	0
	振込手数料	16,000	16,000	0
予備費		202,000	500,000	298,000

(出典 平成17年5月10日開催 学生委員会資料)

資料 7 - 1 - - 4

北海道地区国立高等専門学校体育大会 成績一覧の掲載箇所

( <http://www.kushiro-ct.ac.jp/> )

( 出典 本校ウェブサイト )

学生会は、担当学生主事補をはじめとする学生委員会の指導の下、各種行事の企画・運営にあたっている。学生会室は活動の場であると同時に、学生会執行部や各種委員・教員の協議の場として活用されている（資料 7 - 1 - - 5）。

資料 7 - 1 - - 5

( 目的 )

第 1 条 釧路工業高等専門学校学生会（以下「学生会」という。）は、学校の指導のもとに、学生の自発的な活動を通じて、その人間形成を助長し、高等専門学校教育の目的達成に資することを目的とする。

( 目標 )

第 2 条 学生会は、前条の目的を実現するために、次の各号に掲げる目標の達成に努めなければならない。

- 一 学生生活を楽しく、豊かで規律正しいものにし、良い校風をつくる態度を養う。
- 二 健全な趣味や豊かな教養をつちかい、個性の伸長をはかる。
- 三 心身の健康を増進し、余暇を活用する態度を養う。
- 四 学生生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに集団生活において協力し、義務と責任を自覚し、民主的に行動する態度を養う。
- 五 学校生活において自治的能力を養うとともに、公民としての資質を向上させる。

( 出典 釧路工業高等専門学校学生会準則 )

( 分析結果とその根拠理由 )

学生による自主的な活動である課外活動は活発であり、物心両面にわたる援助・助言も組織として十分に行われている。以上のことから、その支援体制は整備され、十分に機能している。

観点 7 - 2 - : 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

( 観点に係る状況 )

1 学年から 3 学年までの各学級においては始業前のショ - トホ - ムル - ムが実施され、学級担任が学生の状況の把握に努め、効果的、迅速な指導を行える体制を整えている。（資料 7 - 2 - - 1）。

資料 7 - 2 - - 1

臨時運営会議議事要録

日 時 平成 16 年 1 月 19 日 ( 月 ) 15 時 40 分 ~ 17 時 08 分  
 出席者 17 名  
 欠席者 2 名  
 配付資料 ・ クラス担任について

審議事項

校務分掌について（担任2人制について）

校長から、資料に基づき説明があり、審議が行われた。主な発言は以下のとおり。

1. 「クラス担任は、そのクラスの授業担当であることを前提としない。」ことについて
  - ・担任が授業を担当せず、毎朝のSHR、週1回のLHRを継続的に実施するのみでは、学生の状況把握（きめ細かな指導）には不十分ではないか。
  - ・授業を担当していないと、学生指導や保護者への対応の際に不足を生じるおそれがあるのではないか。
2. 「原則として1年から3年まで持ち上がりとする。」ことについて
  - ・3年間続くとマンネリ化するおそれがあるので、2年間（1年～2年または2年～3年）のほうが良いのではないか。
  - ・学生と担任の相性が悪い場合、それが3年も続くと不測の事態が起こるおそれがある。環境の変化も必要であり、2年間が限度ではないか。
  - ・低学年を3年連続で担任するのは負担が大きい。
3. 「1年～3年については主担任と副担任を置く。主担任は一般教官、副担任は当該専門学科の教官とする。副担任は、主担任の業務を補佐する。4年～5年のクラス担任は当該学科の専門教官1名とする。」ことについて
  - ・他の校務分掌とのバランスも考慮しなければならないので、4～5年も従来どおり校長が担任を決定したほうが良いのではないか。
  - ・副担任の任務が明確でないが、どの程度の仕事量なのか。
4. その他
  - ・学年会議を定常的に開催し、横の連携を強化することで、学習指導・進路指導などへの効果が期待できる。（教務主事）
  - ・SHRの実施にあたり、登校時間の規定、交通機関を利用している学生への配慮等については学生委員会で審議する。（教務主事）

以上の発言をふまえて、16年度以降のクラス担任については次のとおりとし、関連する学内規程の改正については、2月の運営会議で審議事項として取り上げることが了承された。

- ・1年～3年については各クラスに主担任と副担任を置く。原則として主担任は一般教官、副担任は当該専門学科の教官とし、副担任は、主担任の業務を補佐する。
- ・各クラスの主担任を決定する際には、授業担当者であることを考慮するが、必ずしもそのことを前提としない。
- ・4年～5年のクラス担任は当該学科の専門教官1名とする。
- ・1年～3年の主担任及び4年～5年の担任は校長が任命する。
- ・1年～3年の副担任は学科が決定し、助手を含めることができる。
- ・原則として、主担任は1年～3年のうち2年間の持ち上がり（1年～2年または2年～3年）とし、3年までの持ち上がりについては経過を見ながら検討する。なお、担任が2年連続したら1年休むという慣例は廃止する。

- ・ S H R を時間を定めて毎朝開催する。
  - ・ クラス担任の学年会議を定期的に開催し、学習指導、進路指導などの横の連絡を図る。
- （出典 平成 16 年 1 月 19 日運営会議議事要録）

学級担任は、このほか個人面談や清掃指導、行事における指導を通じて学生一人一人と接する機会を持っており、学生の生活全般にわたって相談がしやすい、信頼感に支えられた人間関係の構築が図られている。また、学生相談室が設置されており、相談員は非常勤カウンセラ - とともに新入生を対象に学生相談室ガイダンスを開き、ウェブ上でも広報活動に努め、メ - ルによる相談を含めた学生の悩みや不安に応える体制を整える一方、相談技法の向上を目的とした学外の研修会にも積極的に参加し日々の面談に備えている（資料 7 - 2 - - 2 , 7 - 2 - - 3 , 7 - 2 - - 4 ）。

資料 7 - 2 - - 2

（設置）

第 1 条 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。

（目的）

第 2 条 相談室は、学生の個人的諸問題について相談に応じ、問題解決のために必要な助言・援助を与えることを目的とする。

（業務）

第 3 条 相談室においては、次の業務を行う。

- 一 学生の個人的諸問題に関する相談及び助言
- 二 学生の精神衛生上の相談及び助言
- 三 学生相談の活動に必要な研究及び調査
- 四 その他学生相談に関し、必要な事項

（職員）

第四条 相談室に、次の職員を置く。

- 一 相談室長
- 二 相談員 若干名

2 相談員は、本校教官の中から校長が任命する。

3 相談員のうち一名を相談室長（以下「室長」という。）とし、校長が選任する。

4 相談員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による相談員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 校長は、必要に応じて本校職員以外の者を相談員として委嘱することがある。

（略）

（出典 釧路工業高等専門学校学生相談室規程）

資料 7 - 2 - - 3

学生相談室の活動が掲載されているウェブサイト

( <http://www.kushiro-ct.ac.jp/soudan/index.html> )

( 出典 本校ウェブサイト )

資料 7 - 2 - - 4

( 1 2 ) 学生相談室

学生相談室は、学生たちが抱えている様々な問題について、どうしたらいいのか、一緒に考えながら、学生が自分の力で解決のためのカギを見つけて成長していくことを第一の目的にし、それによって、より良い学生生活を送ることができるよう願って作られています。( 中略 )

学生相談室の開室時間帯は午後 2 時 3 0 分から午後 4 時 3 0 分ですが、学生相談室前の掲示板に貼り出す予定表を見てください。担当の先生が交代で皆さんの来室を待っています。

( 出典 平成 1 7 年度学生便覧 1 0 3 頁 )

経済面の支援体制としては、奨学生選考 ( 資料 7 - 2 - - 5 , 7 - 2 - - 6 ) , 授業料・入学金の免除及び徴収猶予に関する規定が設けられている ( 資料 7 - 2 - - 7 , 7 - 2 - - 8 , 7 - 2 - - 9 ) 。

資料 7 - 2 - - 5

1 日本育英会奨学生 ( 以下「奨学生」という。 ) の選考については、この基準の定めるところによる。

2 奨学生を選考する場合は、出願者の人物、家計状況及び学業成績を考慮して行う。

3 家計状況については、日本育英会の定める家計の基準によるものとする。

4 学業成績については、原則として次の基準によるものとする。

( 略 )

( 出典 釧路工業高等専門学校日本育英会奨学生選考基準 )

資料 7 - 2 - - 6

育英奨学制度の掲載箇所

( <http://www.kushiro-ct.ac.jp/> )

( 出典 本校ウェブサイト )



資料 7 - 2 - - 7

## 第 1 章 総則

(趣旨)

第 1 条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)学則第 36 条第 4 項の規定に基づく授業料の免除、徴収猶予(月割分納を含む。)及び寄宿料の免除の取り扱いについては、他の法令又は特別に定めるもののほか、この内規の定めるところによる。

### 第 2 章 授業料の免除

(免除の資格)

(略)

### 第 3 章 寄宿料の免除

(略)

### 第 4 章 授業料の徴収猶予

(出典 釧路工業高等専門学校授業料(寄宿料を含む。)の免除及び徴収猶予に関する内規)

資料 7 - 2 - - 8

- 1 釧路工業高等専門学校授業料(寄宿料を含む。)の免除及び徴収猶予に関する内規(昭和 41 年 4 月 1 日制定。以下「内規」という。)に定める授業料の免除については、この基準の定めるところによるものとする。
- 2 授業料免除の対象者を選考する場合は、申請者の家計状況及び学業成績を考慮して行う。
- 3 内規第 6 条の全額又は半額の区分は、授業料免除選考基準に関する文部省通知によるものとする。

(出典 釧路工業高等専門学校授業料免除基準)

資料 7 - 2 - - 9

- 1 釧路工業高等専門学校入学料の免除及び徴収猶予に関する内規第 5 条第 1 号に基づく入学料徴収猶予者の選考に関して必要な事項は、この基準の定めるところによる。
- 2 (略)

(出典 釧路工業高等専門学校入学料徴収猶予選考基準)

更に、授業料未納学生とその保護者に対しては、除籍を回避するための教育的な配慮をしている(資料 7 - 2 - - 10)。

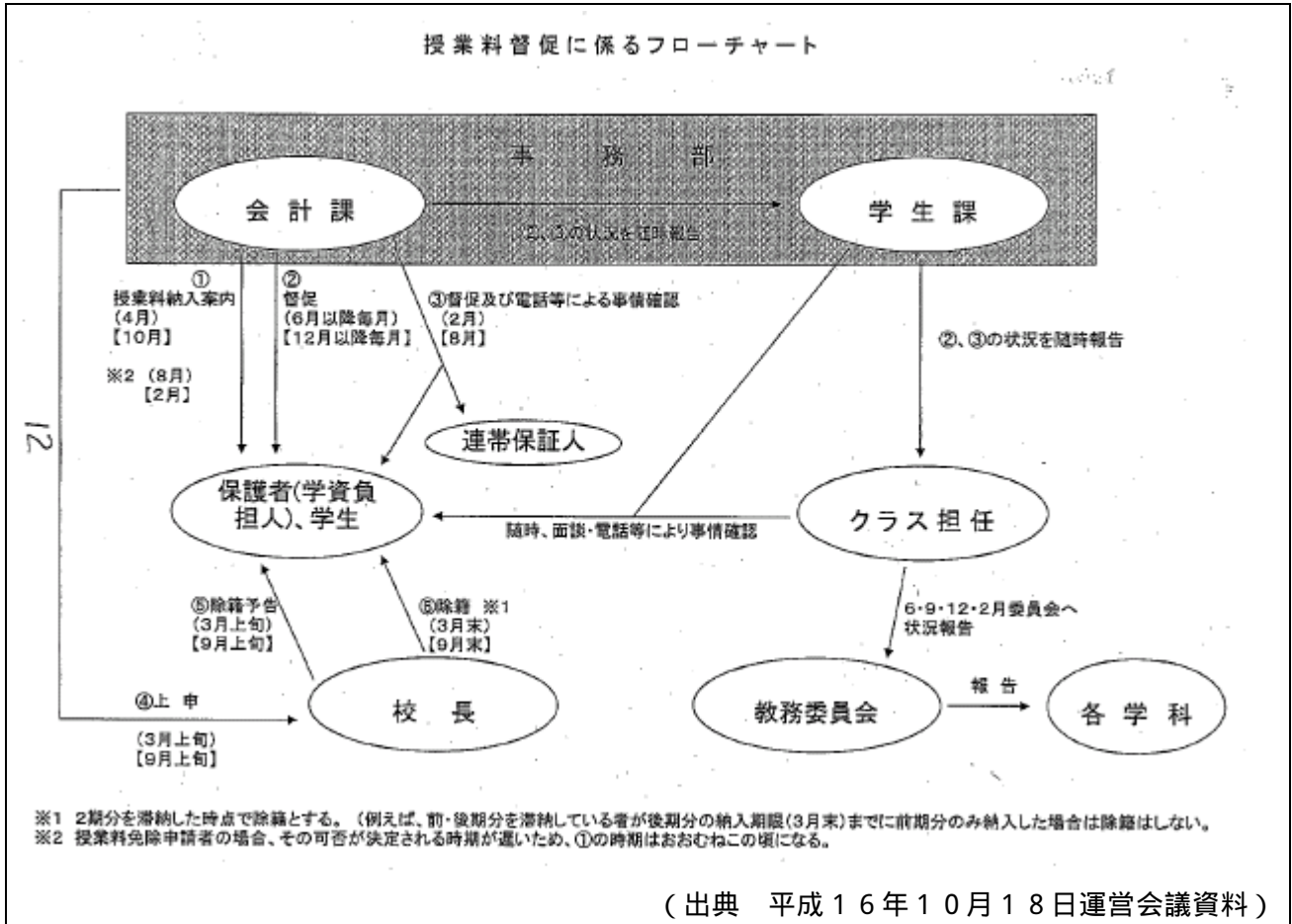
資料 7 - 2 - - 10

### 審議事項

- ・授業料滞納者の取り扱いについて

事務部長から発議の後、会計課長から資料に基づき説明があり、会計課及び学生課の提示した案のとおり取扱い要領を制定し、改善を行うことが審議の結果了承された。

< 資料 >



(分析結果とその根拠理由)

学級担任制の採用によって相互信頼に根ざした、学生に対する配慮の行き届いた指導が行われる体制が整い日々実践されているほか、学生相談室も学生の日常的な生活に係わる様々な相談に応じている。授業料等の免除及び徴収猶予など修学上の経済的な問題への支援体制も整い、適切に運営されている。以上のことから、学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が十分に整備され、機能している。

観点7-2- : 特別な支援が必要な者(例えば、留学生、障害を持つ学生等が考えられる。)がいる場合には、生活面での支援が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

学習活動のみならず留学生の日常生活における諸問題を支援するチュ-タ-制度を設け、異文化の中で留学生が安心して生活できる環境作りに努める(前出資料7-1- -1)

かたわら、「留学生ガイド」に基づいて新たに編入学した留学生へのガイダンスを行うとともに、留学生指導教員が相談に応じ、助言する体制を整えている(資料7-2- -1)。

留学生支援を示す資料

もく じ  
目 次

こうとうせんもんがっこう せいど もくてき	
1. 高等専門学校の制度と目的	1
こうせん とくしょく	
2. 高専の特色	1
くしろ こうせん えんかく がいよう	
3. 釧路高専の沿革の概要	1
がいこくじんりゅうがくせいうけい じょうきょう	
4. 外国人留学生受入れ状況	1
きょういくもくひょう	
5. 教育目標	1
きょうむかんけい きょういくかてい じゅぎょう	
6. 教務関係（教育課程，授業）	2
りゅうがくせいしどうきょうかん	
7. 留学生指導教官	2
りゅうがくせいそうだんいん	
8. チュ - タ - （留学生相談員）	2
けんがくりょこう がくねんけんがくりょこう りゅうがくせいじつちけんがくりょこう	
9. 見学旅行（4 学年見学旅行，留学生実地見学旅行）	3
がっこう きそく	
10. 学校の規則	3
こうせいほどう かんけい がくせいかい かつどうなど	
11. 厚生補導関係（学生会，クラブ活動等）	3
しょうがくきん	
12. 奨学金	4
けんこうかんり ていき けんこうしんだん ほけんしつ	
13. 健康管理（定期健康診断，保健室）	4
いりょうひ ほじょせいど こくみんけんこうほけん にほんこくさいきょういくきょうかい	
14. 医療費の補助制度（国民健康保険，日本国際教育協会，	
にほん しんこう	
日本スポ - ツ振興センター -	4
がくせいそうだんしつ	
15. 学生相談室	5
がくりょう きよしつ ほしょくしつ がくしゅうしつ せんめんしつ	
16. 学寮（居室，補食室，学習室，洗面室）	5

りゅうがくせい おも ぎょうじ	
17. 留学生の主な行事	6
けいひ	
18 経費について	6
がいこくじんとうろく がいこくじんとうろく ざいりゅうきかんこうしん いちじ きこく さいにゅうこく	
19. 外国人登録（外国人登録，在留期間更新，一時帰国・再入国）	7
りゅうがくせい しどう きょうかん めいぼ	
20. 留学生，指導教官，チュ - タ - 名簿	9
さんこう りゅうがくせい うけい じょうきょういちらんひょう	
(参考) 留学生の受入れ状況一覧表	10
(出典 平成17年4月 留学生ガイド)	

また，地域の各種団体が主催する国際交流行事や北海道内高専の外国人留学生交流会にも自主的な参加を促し，学校の枠を超えた国際的な交流の場で情報交換や異文化理解に努める機会を設けている（資料7 - 2 - - 2）。

資料7 - 2 - - 2

### 北海道内高専の外国人留学生交流会実施要項

#### 1 目 的

北海道内の各高専に在学中の外国人留学生が一堂に集まり，それぞれの自国の状況，在留中の勉学・生活状況等について情報交換を行うことにより，お互いの理解を深め，今後の留学生活に役立てると共に，国際社会における知財立国としての日本，及びアジア地域の各国の問題点・現状等について理解を深めてもらうことを目的とする。

また，札幌方面の企業及び工場等を見学することにより，日本の工業技術を学び理解を深めるとともに，スキ - やスノ - ボ - ドなどのウィンタ - スポ - ツを通じて，積雪寒冷地である北国北海道の生活・文化を体験し，留学生及び指導教員等との親睦を図る。

#### 2 開催期日

平成17年1月6日（木）～1月8日（土） 2泊3日

#### 3 講演会

「日本とアジア地域における知的財産権に関する諸問題」

講師：旭川工業高等専門学校  
一般人文科助教授 谷口牧子

#### 4 開催場所

[講演会・懇親会]

北広島プリンスホテル（北広島市中の沢450-1），TEL(011)373-1111

[企業・工場見学]

クロ - バ - 電子工業(株)北海道工場（恵庭市戸磯573-19），TEL(0123)34-5010

[ウィンタ - スポ - ツ体験]

真駒内スキ - 場（札幌市南区常盤383-6），TEL(011)592-1111

[宿泊]

北広島プリンスホテル（北広島市中の沢 450 - 1）, TEL(011)373 - 1111

4 行 程

別紙のとおり

5 参 加 者

旭川高専 11名（留学生6名，引率教職員3名，講演会講師1名，校長）

苫小牧高専 9名（留学生7名，引率教職員2名）

函館高専 8名（留学生6名，引率教職員2名）

釧路高専 7名（留学生5名，引率教職員2名）

合計 35名

（出典 学生課資料）

在学生にはいないが，過去に在籍した身体に障害を持つ学生のために，スロ - プや昇降機等，校内の施設を整備した（資料7 - 2 - - 3）。

資料7 - 2 - - 3

議題1 身障者対策について

委員長より、校舎の身障者対策については、今までの校舎改修工事棟にて随時整備し、また、平成15・16年度概算要求重点事項として施設整備要求を行っているところですが、先日、学生課より、年 工学科の学生が病気の進行により、この7月より車いすの使用を余儀なくされることとなったとの報告を受け、当該学生に現在、校内で不便を感じていることについてヒアリングをおこなった結果、講義室・実験室・便所・校舎以外の建物についても、緊急に対応しなくてはならない状況であるため、資料1のとおりに対応したい。また、予算については、前回の施設整備委員会です承された、平成15年度営繕工事に予定については、一部実施を先送りとし、身障者対策を優先的に実施することとし、今後、予算の状況をみながら進めていくこととしたい。これらについて意見交換の上了承願いたいとの発言があり、原案のとおり了承された。

< 資料1 >

身障者対策について（緊急対応事項）

1. 出入口について

校舎

・夜間及び休日の出入りについて

現在、職員玄関を使用しているが、学生玄関を利用できるよう運用を検討して対応

・身障者用駐車場から学生玄関までの間雨天時の利用について

・年教室出入口を引き戸に変更

・2階 工学科関係二重床実験室の段差解消

・プログラミング演習室の段差解消

図書館

・玄関前スロ - プの設置

鶴峰会館

・玄関前スロ - プの設置

第1・2体育館

・玄関前スロ - プの設置

2 建物移動について

- ・実験棟南側又は中央階段に階段昇降機設置  
(2階・3階に車いす設置)

3 便所について

- ・情報工学科等便所小便器手摺り設置
- ・校舎内に利用可能ブ - ス設置 (情報工学科棟 1 階・実験棟 2 階)

(出典 平成 15 年 7 月 28 日施設整備委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

留学生をその生活面において支援するチュ - タ - や留学生指導教員を配置し、他機関に所属する外国人との交流の場や異文化理解の機会を適切に提供している。身体に障害を持つ学生が直面する生活上の困難を軽減するための施設・設備が整備されている。

以上のことから、特別な支援が必要な者への生活面での支援は適切に行われている。

観点 7 - 2 - : 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

自宅からの通学が困難な学生のために修学の便宜を図り、共同生活を経験する過程で教育の目的にかなった人間形成を促す場として学生寮が運営されている (資料 7 - 2 - - 1)

資料 7 - 2 - - 1

学生寮 (鶴翔寮) の掲載箇所  
(<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>)

(出典 本校ウェブサイト)

交代制で宿日直にあたる教職員及び寮務係職員が常時、寮生の生活を見守り、基本的な生活態度に改善を要する寮生に対しては、朝・昼・夜の巡回指導を通して注意を喚起するとともに、夜間の在室確認を点呼により毎日行うなど、教育寮としての機能を維持している (資料 7 - 2 - - 2, 7 - 2 - - 3)。

資料 7 - 2 - - 2

(趣旨)

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構学生寮教員宿日直規則 (以下「教員規則」という。)及び独立行政法人国立高等専門学校機構職員宿日直規則 (以下「職員規則」という。)に基づく釧路工業高等専門学校 (以下「本校」という。)の学生寮における教 職員の宿日直勤務 (以下「宿日直」という。)を行わせる場合については、独立行政法 人国立高等専門学校機構教職員の労働時間、休暇等に関する規則その他法令等に特別の 定めのある場合を除くほか、この規程の定めるところによる。

(勤務体制)

第 2 条 宿日直は 2 名で行うものとする。うち 1 名は教員とし、他の 1 名は教員又は職員 とする。

(宿日直日)

第 3 条 宿日直を行う日は、各閉寮日を除く開寮期間とする。

(勤務時間等)

第4条 宿日直の勤務時間は、機構教員規則及び機構職員規則に定めるとおりとする。

2 勤務場所は、学生寮宿直室とし、宿日直者は、勤務時間を厳守し、巡視等必要がある場合を除き、みだりに勤務場所を離れてはならない。

(職務内容)

第5条 学生寮における教員による宿日直の職務内容は、機構教員規則第3条第1項に定めるほか、次のとおりとする。

一 寮生の生活指導に関すること。

ア 「寄宿舍管理規程」、「寮生心得」及び「日課表」に基づく指導、助言

イ 個人的相談に対する助言

二 寮生の健康管理に関すること。

ア 医薬品の管理

イ 急患の処置

三 寮生の学習その他の相談に関すること。

四 寮生の保護、安全に関する次の業務

ア 秩序の維持

イ 外来者の把握

ウ 戸締まり、火気取扱いについての指導

エ 災害時の処置

五 外部との連絡

六 文書等の収受

2 学生寮における職員による宿日直の職務内容は、機構職員規則第3条第2項に定めるほか、次のとおりとする。

一 前項第一号から第三号の業務の補助

二 前項第四号から第六号の業務

(出典 釧路工業高等専門学校学生寮教職員宿日直規程)

資料7 - 2 - - 3

第23条 寮務係においては、次の事務を分掌する。

(1) 学寮の管理及び運営に関すること。

(2) 学寮の入寮及び退寮に関すること。

(3) 学寮の給食及び栄養管理に関すること。

(4) 寮費に関すること。

(5) 寮生の福利厚生に関すること。

(6) 寮生の健康管理に関すること。

(7) 学寮宿日直勤務に関すること。

(8) 外国人留学生に関すること。

(9) その他学寮に関する事務を処理すること。

(出典 釧路工業高等専門学校事務組織規程)

資料 7 - 2 - - 4

#### 門限と点呼

男子玄関は 2 3 時に施錠し、朝 7 時に解錠します。また、点呼は毎日 2 2 時 3 0 分から 4 年生の点呼当番が 1 年生から 3 年生に対して行います。

女子玄関は 2 2 時に施錠し、朝 7 時に解錠します。点呼は男子と同様に毎日 2 2 時 3 0 分から 4・5 年生の点呼当番が全員に対して行います。寮生の安全を確認する大事な時間です。各自居室で点呼を受けてください。

点呼が終了した後は、外へは出られません。どうしても寮外へ出なければならないときは、当直教員に申し出てください。

( 出典 平成 1 7 年度 鶴翔寮生活のしおり )

資料 7 - 2 - - 5

#### 2 寮務委員による巡回について

委員による巡回は次のように朝、昼及び夜間に行う。

- ( 1 ) 夜間巡回 ( 火気点検 ) は原則として 2 0 時から、A B 棟、C D 棟、女子棟別に教員、寮生会役員による、全居室内の点検を行う。
- ( 2 ) 昼巡回は寮務委員が全寮内の居室を解錠して生活指導を行う。
- ( 3 ) 朝巡回は寮務委員が全寮内の居室を解錠して生活指導を行う。

( 出典 平成 1 6 年 4 月 寮務係申し合わせ類集 )

平成 1 4 年度に設置された女子寮も円滑に運営されている。また、寮内における自習や学生の交流の場となる学習室や談話室を設けている ( 資料 7 - 2 - - 6 )。



## 施設・設備の利用について

学寮には、教育・厚生施設と各種設備がありますので、気軽に利用してください。

次に、施設・設備の内容と利用方法を列記します。これらの使用に当たっては、寮生相互が注意し合って、きまりを守り、物品を大切にし、楽しい寮生活を送るよう努めてください。

### 大 学 習 室

男子寮生の学習及び寮生会活動等、多目的に使用できるようになっています。普段折りたたみ式の長テ - ブルと椅子が用意され、いつも学習できる態勢になっています。その他の備品として、製図台 1 2 台及び 1 0 0 インチプロジェクションテレビ等を用意しています。

#### 使用時間

平 日	1 7 時 3 0 分 ~ 2 2 時 3 0 分
休 日	1 0 時 3 0 分 ~ 2 2 時 3 0 分

使用の際は、以下の手続きに従ってください。

大学習室を使用する場合、当直室 A に置いてある使用名簿記入の上、鍵を借り受け開錠後、直ちに当直教員に鍵を返すこと。

使用後は、当直教員に届け出ること。ただし、最終使用者は窓の施錠と消灯を確認しドアを必ず施錠し、当直教員に鍵を返すこと。

製図機器を使用する場合、当直室 A に置いてある使用名簿に記入の上、当直教員からスケ - ル 1 組を借り受け使用後返却すること。

### 談 話 室

談話室は、D 棟にあり、テレビ、囲碁、将棋、マ - ジャン卓があります。居室でのマ - ジャンは禁止していますが、この部屋においては認めています。使用時間は、平日は 1 7 時から 2 3 時まで、休日は 9 時から 2 3 時までです。時間は厳守してください。

### 補 食 室

B 棟、D ~ F 棟に補食室があり、電子オ - プンレンジ・ガステ - ブル及び瞬間湯沸器、( E ・ F 棟には電磁調理器 ) が備え付けられています。ガス器具の使用後は必ず元栓を締めることを忘れないでください。なお、流し場に食器等を置いたままにしたり、汚したままにしないよう心がけてください。

#### 使用時間

平 日	1 3 時 3 0 分 ~ 2 3 時 3 0 分
休 日	9 時 0 0 分 ~ 2 3 時 3 0 分

以上の施設については、いずれのゴミも各自始末をきちんとしてください。退室の際は電気を消すことを忘れないでください。

### 談話コ - ナ -

男子玄関横に談話コ - ナ - があります。外部の方等との面会はこちらを使用してください。ただし、午後 8 時以後の女子寮生の出入りは禁止します。

### 浴 室

17時から21時30分まで入浴できます。なお、浴槽に入る際は、体を洗い、浴槽の中へタオルを持ち込まないでください。また、浴室の清潔維持を心がけるとともに、節水を心がけましょう。

#### 洗濯・乾燥室

洗濯・乾燥室には洗濯機とガス乾燥機を設置しています。使用時間は、23時30分までです。なお、洗濯・乾燥室は清潔・整頓を励行し、水の節約にも心がけてください。また、共同で使用する場所ですから、洗濯物を長い間放置しないよう注意してください。

#### 寮内ネットワーク

各居室には情報コンセントが備えられています。寮内ネットワークにコンピュータを接続する場合は、寮務係に置いてある鶴翔寮ネットワーク利用の手引きに従って、ネットワーク利用申請してください。

#### その他

##### (1) 自動販売機

男子玄関横の談話コナに自動販売機がありますので、利用してください。

なお、深夜の自動販売機の利用は、0時から午前6時までの間は使用できません。

##### (2) 公衆電話

男子玄関横の談話コナに国内・国際兼用、E棟1階談話コナに国内用の公衆電話が各1台ありますので利用してください。

##### (3) 新聞

男子寮及び女子寮の各談話コナには、新聞が備えられていますので利用してください。

(出典 平成17年度 鶴翔寮生活のしおり)

#### (分析結果とその根拠理由)

遠方からの就学者の支援のために設けられた学生寮が教育の目的に沿った形で円滑に運営されている。以上のことから、学生の生活及び勉学の場として学生寮が優れて有効に機能している。

観点7-2- : 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

#### (観点に係る状況)

1学年を対象にした進路指導ガイダンスや進学・就職に関するガイダンス、企業説明会を開催している(資料7-2- -1)。

資料7-2- -1

#### 進路指導体制を示す資料

##### (設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に進路指導委員会(以下「委員会」という。)を置く。

##### (目的)

第2条 委員会は、校長の諮問機関として、本校学生の進路指導について、企画、立案並びに事業の実施について審議する。

##### (審議事項)

第3条 委員会は次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学生の就職開拓に関する計画の企画立案及び就職指導に関すること。
- 二 進学希望者への指導計画の策定に関すること。
- 三 学外実習（インターンシップ）の実施に関すること。
- 四 その他学生の進路指導に関すること。

（出典 釧路工業高等専門学校進路指導委員会規程）

低学年（1～3学年）の学生には、ホ－ムル－ムを活用して進路学習の時間を設定し、4・5年生向けには「進路の手引き」に基づいた指導が行われている（資料7-2- - 2, 7-2- - 3）。

資料7-2- - 2

ホームルームでの進路指導を示す資料

審議事項

1. 進路指導に関する活動予定について

委員長から、本年度の活動予定（案）について資料4に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

なお、審議の中で、「進路のしおり」に関し、次のとおり取り扱うことが確認された。

原稿の「履歴書の記入例」が情報工学科を対象とした記述であることから、他学科の記入

例についても新たに加えることとし、執筆を各学科にお願いする。

配布時期については、4学年の早い時期に配布し進路指導に活用すべきとの意見や、進路選択に現実味を持つ4学年の後半に配布したほうが効果的であるとの意見など様々な考え方があることから、印刷・製本後速やかに各学科に配布し、学生への配布時期については各学科の判断に委ねることとする。

<資料4> 別紙

資料 4

進路指導活動予定(案)

項 目		H16年度の実施日時等
1	<p>インターンシップ事前説明会</p> <p>対 象 インターンシップ参加予定の第4学年</p> <p>実施時期 7月上旬</p> <p>内 容 第1日 制度の意義と単位認定及び諸注意伝達 第2日 受入企業担当者からのアドバイス 昨年度参加者の体験報告</p>	<p>第1日 7月5日(月) 15:30～17:00</p> <p>第2日 7月7日(水) 16:30～17:30</p> <p>参加学生 第1日99名 第2日105名</p> <p>講師(第2日) 〃氏 (朝野ユス・マツノミチシズ&amp;S)</p>
2	<p>進路指導ガイダンス</p> <p>対 象 第1学年</p> <p>実施時期 10月</p> <p>内 容 (1) 進路状況説明 (2) 就職内定者の体験報告 (3) 大学編入合格者の体験報告</p>	11月 1日(月) 7時限目
3	<p>進学ガイダンス</p> <p>対 象 第3・4学年の希望学生</p> <p>実施時期 11月</p> <p>内 容 (1) 進学状況説明 (2) 本校専攻科についての説明 (3) 大学編入合格者の体験報告 (4) 進学に関する留意点等の説明</p>	11月19日(金) 16:30～
4	<p>就職ガイダンス</p> <p>対 象 第4学年</p> <p>実施時期 12月(後期中間試験終了後)</p> <p>内 容 (1) 就職状況説明 (2) 講演 (3) 模擬面接</p>	<p>12月10日(金) 5～7時限</p> <p>講演講師 〃氏(朝野ユス2000)</p> <p>講演内容 ・就職試験に臨む心構え ・社会人に向けてのアドバイス</p>
5	<p>インターンシップ説明会</p> <p>対 象 第3学年</p> <p>実施時期 1月下旬</p> <p>内 容 インターンシップ制度の説明</p>	1月31日(月) 7時限
6	<p>企業説明会</p> <p>対 象 第4学年及び保護者(希望者)</p> <p>実施時期 2月26日</p> <p>内 容 企業担当者からの説明</p>	<p>2月26日(土) 9:30～15:10</p> <p>参加企業数 60社(計34社)</p> <p>保護者出席 4名(計18名)</p>
7	<p>ビジネスマナー講習会</p> <p>対 象 第4学年の希望学生</p> <p>実施時期 1月中旬</p> <p>実施方法 2日間で合計3時間程度。外部講師に依頼</p>	(新 規)

8	低学年の進路学習① 対 象 第1～3学年 実施時期 5月～1月のLHR	5月～2月のLHR
	低学年の進路学習② (職業ガイダンス) 対 象 第3学年 電子・情報 実施時期 12月 (後期中間試験終了後) 内 容 卒業生による講演	(新 規)
9	大学編入補習講座 別紙のとおり	4月～2月 年間27回 数学・物理
10	就職試験模擬テスト CAN-GTs 対 象 第4学年 実施時期 11月中旬	11月15日～19日の間 (学科主任の授業時間)
11	進路のしおり作成・配布 対 象 第4学年 配布時期	12月10日配布 就職ガイダンスで配布

(出典 平成17年4月26日進路指導委員会議事要録)

資料 7 - 2 - - 3

#### 4・5年生向けの進路指導を示す資料

##### 目 次

1	10年後を想像してみよう	1
2	高専と大学の比較	2
2.1	高専の利点	2
2.2	高専の欠点	4
2.3	高専という制度	5
3	10年後の自分を決める	6
4	持つべき職業観	7
4.1	生計の維持手段としての職業の機能	7
4.2	個性の発揮の場としての職業の機能	8
4.3	連帯の実現の場としての職業の機能	9
5	卒業後に所属する組織を決定することの意義	10
5.1	新卒時に職場で経験すること	11
5.2	ビジネスマナ - 研修	11
5.3	自己啓発講座	12
5.4	専門別研修	12
6	10年後理想の自分を目指して	14
6.1	体験しておくべき経験	14
6.2	資格の取得	15
7	進学に向けて	16
7.1	大学編入	16
7.2	専攻科への進学	18
8	就職に向けて	19

8.1 成績対策	19
8.2 面接対策	20
8.3 適性検査対策	20
8.4 健康	21
8.5 受験企業の決め方	22
8.6 公務員を目指して	23
9 4年生のうちにやっておくべき準備	24
9.1 試験対策	26
9.2 自分を知ってもらう	27
9.3 提出書類	28
9.4 自己紹介書の各欄の記入のポイント	29
10 Q & A	30
[ 就職直前対策 ]	38

( 出典 平成 17 年度 高学年 ( 4 ・ 5 年生 ) の学生用進路の手引き )

就労をめぐる社会の状況や職業についての理解を促し，職業・進路意識の喚起に努めている。学生の就職対策を目的とした企業訪問やインターンシップ受入企業を開拓する取組も活発に行われ（資料 7 - 2 - - 4 ， 7 - 2 - - 5 ），卒業生の進路実現に寄与している（資料 7 - 2 - - 6 ）。

資料 7 - 2 - - 4

16 年度就職対策・企業訪問実施状況

機械工学科	岩淵義孝	10/20 ~ 23	5 社 ( 京都・岐阜・座間・伊勢崎・東京 )
		2/24 ~ 26	3 社 ( 東京、東大阪、京都 )
		計	8 社
電気工学科	小林一義	6/20 ~ 23	6 社 ( 東京 )
		7/27 ~ 30	11 社 ( 札幌 )
		12/5 ~ 7	4 社 ( 大阪 )
		2/8 ~ 11	10 社 ( 札幌 )
		計	31 社
電子工学科	坂田 篤	6/20 ~ 23	12 社 ( 東京 )
		8/24 ~ 25	8 社 ( 札幌 )
		11/23 ~ 26	4 社 ( 大阪 )
		2/17 ~ 17	2 社 ( 帯広 )

		3/28～31	11社(東京・茨城・横浜)
"	中村 隆	3/23～25	6社(東京・横浜)
		計	43社
情報工学科	神谷昭基	7/27～28	3社(東京)
		8/24～28	5社(札幌・函館)
		計	8社
建築学科	依田有康	6/20～23	4社(東京)
		8/5～7	8社(札幌・旭川)
"	大楽隆男	3/24～26	9社(札幌)
		計	21社
(出典 学生課資料)			

平成 17 年度インターンシップ実施状況例の掲載箇所

企業名	実習期間	日数	実習時間	希望学生氏名
1 英建設(株)	7/18(月)～7/28(金)	10日間	8:00～17:00	DA OOOO 2A OOOO
2 フラウンエニブリング(株)	7/25(月)～8/5(金)	10日間	8:00～16:45	DM OOOO DM OOOO
3 阿部電気工業(株)	7/16(土)～7/28(水)	10日間		I OOOO
4 (株)石井電工	8/1(月)～8/12(金)	10日間	8:00～17:00	5D OOOO
5 (株)エドチーグループ	7/19(水)～8/1(木)	10日間	9:00～17:00	0J OOOO
6 NTT東日本(株)釧路支店	8/22(月)～8/26(金)	5日間	9:00～17:00	0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO
7 (株)榎本機械製作所	7/25(月)～8/5(金)	10日間	8:00～17:00	0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO
8 (株)農協テクノス	7/25(月)～8/4(水)	10日間	8:30～17:30	0M OOOO 0M OOOO M OOOO
9 共栄電気(株)	8/1(日)～8/5(金)	5日間	8:00～17:00	0E OOOO
10 (株)ツロウテクノロジー株式会社	7/19(水)～7/29(金)	9日間	9:00～17:00	0A OOOO
11 釧路ガス(株)	8/1(月)～8/5(金)	5日間	9:00～17:00	0D OOOO
12 (株)釧路衛生社	8/1(月)～8/5(金)	5日間	9:00～17:00	0E OOOO 0E OOOO 0E OOOO
13 釧路市農業協同組合	7/18(水)～7/29(金)	10日間	5:00～14:00	0M OOOO 0M OOOO 0M OOOO
14 (株)武田建設設計事務所 (会派)	8/17(水)～8/27(土)	10日間	8:45～18:00	0A OOOO
15 (株)道尾総合設計事務所 (会派)	8/21(日)を除く	10日間	9:00～17:00	A OOOO
16 (株)長谷川建築設計事務所	8/21(日)を除く	10日間	9:00～17:00	0A OOOO
17 (株)斉藤第一設計事務所	8/21(日)を除く	10日間	9:00～17:00	0A OOOO
18 釧路市エドチー運営部	7/31(日)～8/11(水)	10日間	9:00～17:00	0M OOOO 0M OOOO 0E OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO
19 釧路市水産加工開発センター	7/25(月)～7/29(金)	5日間	9:00～17:00	0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO
20 (株)釧路製作所製菓工場	7/25(月)～8/24(水)	10日間	9:00～17:00	0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO
21 一般建設士事務所 <9>エドチー	7/25(月)～7/29(金)	5日間	8:00～17:00	A OOOO
22 (株)コナテ建設	7/19(水)～7/25(月)	5日間	8:30～16:20	0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO 0A OOOO
23 太平洋建設工業(株)	8/1(月)～8/5(金)	5日間	8:30～17:30	0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO
24 中央防災システム(株)	7/19(水)～7/23(土)	5日間	8:00～17:00	0M OOOO 0M OOOO 0M OOOO 0M OOOO 0M OOOO
25 博通システムセンター工業(株)	7/25(月)～7/29(金)	5日間	8:00～17:00	0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO 0D OOOO
26 (有)トランスラム	7/25(月)～7/29(金)	5日間	10:00～17:00	0J OOOO 0J OOOO 0J OOOO 0J OOOO 0J OOOO

(出典 学生課資料)



資料 7 - 2 - - 7

「平成 1 6 年度卒業生の進路状況」の掲載箇所

( <http://www.kushiro-ct.ac.jp/> )

( 出典 本校ウェブサイト, 別添 学校要覧 3 6 頁 )

大学への編入学を希望する学生に対しては, 物理・数学の補習授業を行い, 受験準備の面で学習支援している(資料 7 - 2 - - 8)。

資料 7 - 2 - - 8

編入学希望者への補習授業を示す資料

( 別紙 )

平成 1 7 年度大学編入補習講座のお知らせ

今年度の大学編入補習講座を以下の予定で開講します。

大学進学を目指す学生、もっと実力をつけたい学生は、日程表をみて参加してください。

1 開講科目

物理と数学

2 . 担当教官・対象学生

数学林義実先生 4・5 年生

物理澤柳先生 4・5 年生

なお、時間割では 4 年生対象に設定されていますが、前期については、5 年生も可能ならば参加して構いません。

3 . 場所及び日時

選択教室 ( 教室の隣 ) 毎週木曜日 時間目 5D 8 - 9

4 . 開講日

前期

4 / 21 物理 5 / 12 数学 6 / 16 物理 7 / 14 数学

4 / 28 物理 5 / 19 数学 6 / 23 物理 9 / 1 数学

5 / 26 数学 6 / 30 物理 9 / 8 数学

6 / 2 数学 6 / 7 物理

後期

10 / 6 物理 11 / 10 数学 12 / 15 物理 1 / 28 数学

10 / 13 物理 11 / 17 数学 12 / 22 物理 2 / 2 数学

10 / 27 物理 12 / 1 数学 1 / 12 物理 2 / 9 数学

1 / 19 物理

注 1 : 2 週から 4 週連続して行います。途中を休むと分からなくなるので、できるだけ続けて出てください。

注 2 : 物理は教科書を持参して下さい。

( 出典 平成 1 7 年 4 月 2 6 日進路指導委員会資料 )

専攻科における進路指導体制も整備されている(資料 7 - 2 - - 9)。

専攻科の進路指導体制を示す資料

2. 審議事項

(1) 専攻科における進路指導体制について

委員長から、資料 1 に基づき、次のとおり説明があった。

- ・本資料は前々回の委員会で提示した案に対する意見棟を踏まえ、修正したものである。
- ・基本的には、進路調査は専攻主任が行い、その後、就職希望者については学科主任、進学希望者については指導教員が対応するという考え方である。

(略)

<資料 1> 別紙専攻科の業務分担(就職・進学体制)

(出典 平成 17 年 1 月 21 日専攻科委員会)

(分析結果とその根拠理由)

ガイダンスや進路学習を通して、学生の進路に関する意識を高めるとともに、就職・進学のための支援体制が整っており、取り組みの内容も充実している。本科卒業生の進路決定率は極めて高い。開設 2 年目の専攻科は進路指導体制を整えている。

以上のことから、就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、十分に機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

低学年から進路学習の時間を設け、進路意識を高める試みが行われ、学級担任制を活用したきめ細やかな進路指導が高学年まで体系的に組み入れられており、学生の進路実現に実績を上げている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 7 の自己評価の概要

新入生オリエンテーションにおける学習活動全般にわたるガイダンスや授業開講時のシラバスに沿った解説によって、学習を進める上での履修指導が丁寧に行われる一方、学級担任制やオフィスアワーを設けることで日常的な自主学習に関する相談を受け、助言を行う体制が整い、よく機能している。図書館や情報機器を活用できるプログラミング演習室、機械工作の設備が用意されている実習工場など、自主的な学習を可能にする環境が整備されており、利用率も高い。図書館前及び教員室前のコミュニティスペースも、自学自習やコミュニケーションの場として利用されている。

学生の申し出を受けて補講を実施する制度も設けられ、ニーズに合わせた学習支援の体制がある。また、学習の明確な目標の一つとなる各種資格・検定試験を受験する学生のために、図書館に関連図書を揃えているほか、特定の検定試験には特別学修単位を認定する制度を設け、検定受験の意欲を喚起している。オーストラリアのヴィクトリア工業大学との学術交流に関する協定に基づき、学生の海外語学研修も実施されており、その費用の一部を本校の教育研究・国際交流振興基金が負担し、学生を経済的にも支援している。

異文化圏で学ぶ留学生の学習及び生活面での支援は、チューターや指導教員による個別の取り組み

のほか、学外の協力も仰ぎつつ懇切に進められている。高等学校を卒業後、本校の4学年に編入学する学生に対しては、その学習進度に応じた個別的な指導を行い、学習上の円滑な移行を促す支援が行われている。

クラブ活動や学生会活動においては、体育系・文化系ともに活動場所が確保され、教員が顧問となって、学生の自主的な課外活動を支えている。各種体育大会や文化系クラブの交流会等への参加も活発であり、日頃の練習の成果を発揮する機会も多い。

1学年から3学年まで設定されている始業前のショ - トホ - ムル - ムの時間や個人面談、行事を通して学級担任が学生の状況を把握し、効果的かつ迅速な指導を行える体制が整っている。また、学生のような悩みや不安に応える学生相談室が校内に設けられており、非常勤カウンセラ - のほか、相談技法に関する研修を積んだ教員が相談室員として待機し、学生の来談に備えている。奨学金制度・授業料免除等、学生の経済面に係わる支援体制も整い、よく機能している。さらに、身体に障害を持つ学生の学習・生活上の支援のために、スロ - プや階段昇降機等、校内の施設が整備されている。

自宅からの通学が困難な学生のために、学生寮が設置されており、男女合わせて三百名を超える学生が寮生活を続けている。寮内には学習室や談話室などの自習と交流の場が設けられ、利用されている。教育寮としての機能を維持する目的で、教員による巡回指導や夜間の点呼が実施され、基本的な生活態度に問題のある学生に対しては、改善を求める指導が行われる。

1学年からの体系的な進路学習や就職・進学に関するガイダンスを通して、職業意識を育てるとともに、就労をめぐる社会状況への理解を促しており、就職対策を目的とした教員による積極的な企業訪問や大学編入学を希望する学生に対する補習授業の取り組みと相まって、卒業生の進路決定において十分な成果を上げている。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8 - 1 - : 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備(例えば,校地,運動場,体育館,教室,研究室,実験・実習室,演習室,情報処理学習のための施設,語学学習のための施設,図書館等,実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。)が整備され,有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校の配置図(資料 8 - 1 - - 1),平面図(資料 8 - 1 - - 2),面積:敷地及び建物等各施設・設備の概況を示す(資料 8 - 1 - - 3)。講義棟(管理棟を含む),実験棟,低学年棟,情報工学科棟,実習工場,図書館,体育館,武道場があり,その他屋外運動施設として,陸上競技トラック(サッカーコートを含む),野球場,テニスコート,ア・チェリ-場がある。校地面積,校舎面積は高等専門学校設置基準の10,400㎡,13,058㎡以上に対して,いずれも満たしている。

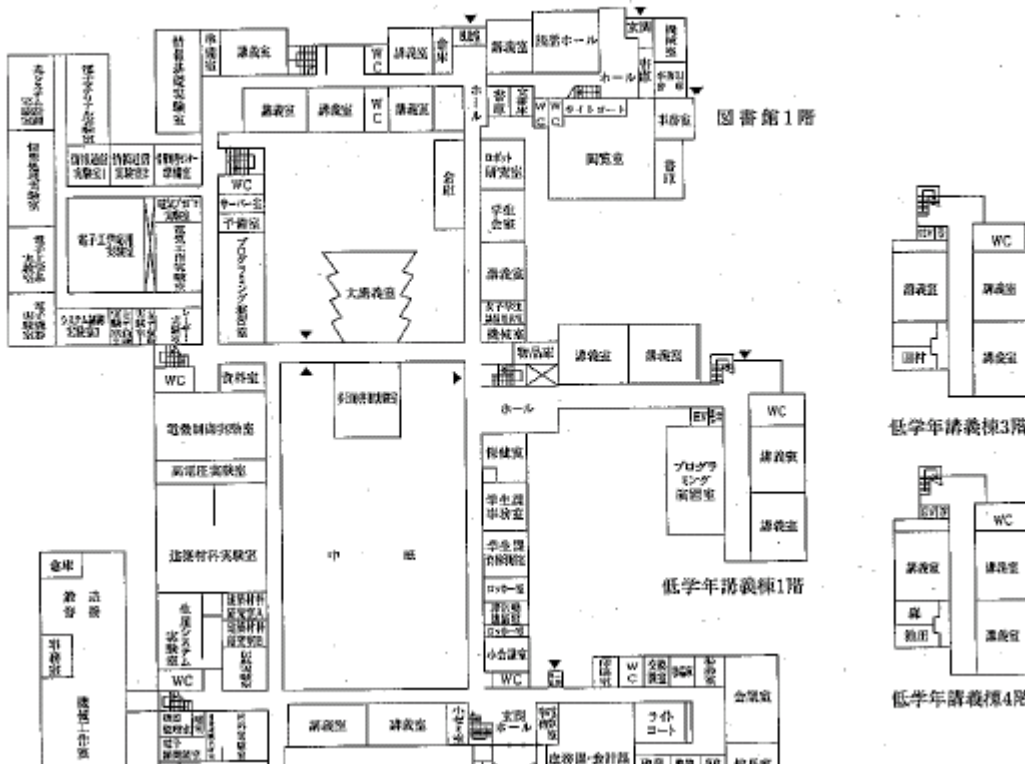
資料 8 - 1 - - 1

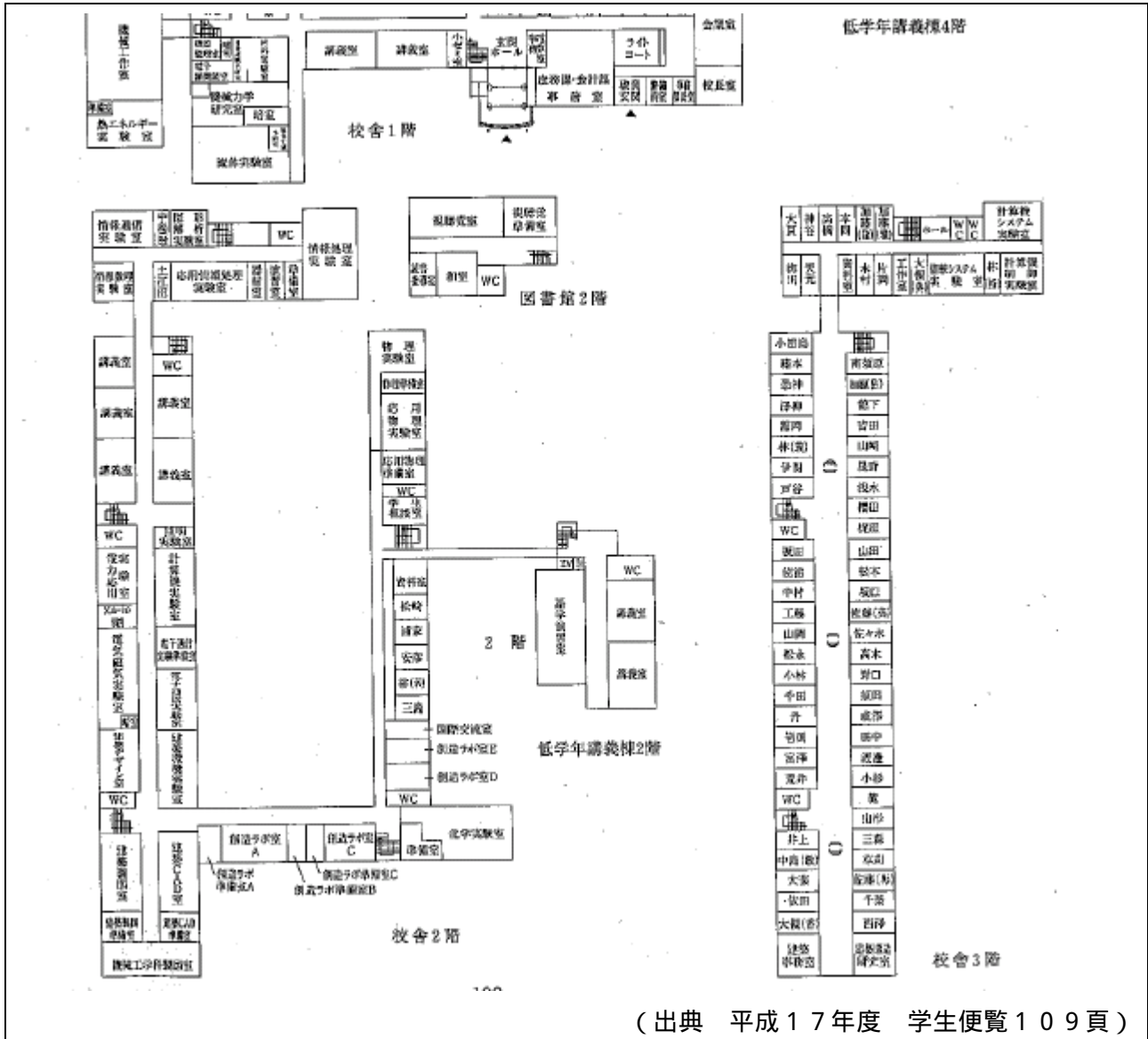
釧路高専配置図の掲載箇所

(出典 別添学校要覧 4 4 頁)

資料 8 - 1 - - 2

釧路高専校舎平面図





資料 8 - 1 - - 3

土地 Lands

平成17年5月1日現在 (As of May 1, 2005)

区分	Classification	面積	Area
校舎敷地	Building Site	59,310	m <sup>2</sup>
寄宿舎敷地	Dormitory Site	11,084	
屋外運動場	Grounds	48,571	
野球場	Baseball Ground	9,729	
陸上競技場	Track and Field Ground	18,201	
第1テニスコート	Tennis Court 1	2,732	
第2テニスコート	Tennis Court 2	2,281	
アイスホッケーリンク	Ice Hockey Rink	2,730	
洋弓場	Archery Ground	2,944	
その他	Others	9,954	
計	Total	118,965	

## 建 物 Buildings

平成17年5月1日現在 (As of May 1, 2005)

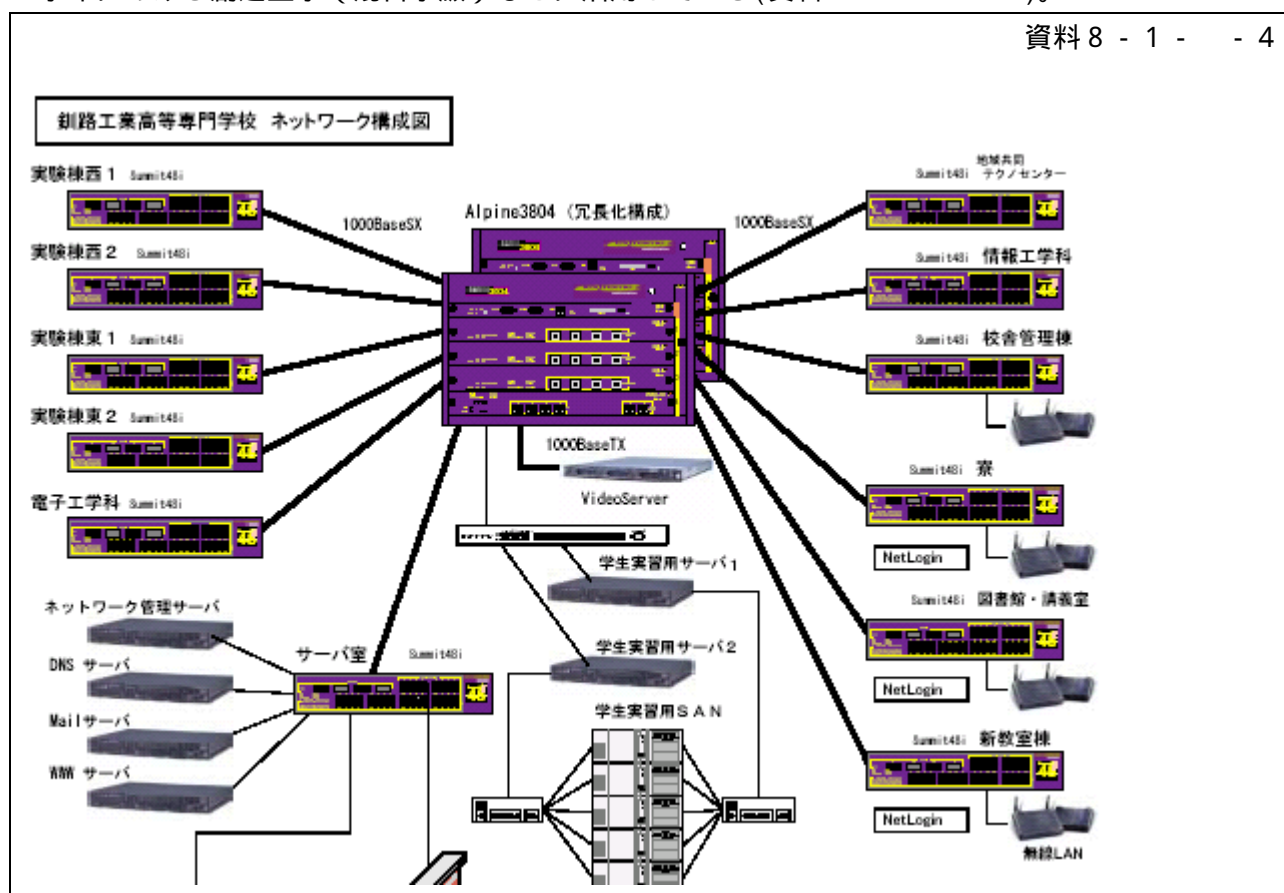
区 分	Classification	構 造 Structure	面 積 Area
校 舎	College Buildings	RC 4	16,262㎡
図 書 館	Library	RC 2	1,599
実 習 工 場	Machine Practice Workshop	S 1	624
ボ イ ラ ー 室	Boiler Room	RC 1	337
第 1 体 育 館	Gymnasium 1	S 1	996
第 2 体 育 館	Gymnasium 2	S 1	880
武 道 館	Judo-Kendo Gymnasium	S 1	214
鶴 峰 会 館	Welfare Facilities (Kakuho Kaikan)	RC 2	1,039
寄 宿 舎	Dormitory	RC 3	6,927
地 域 共 同 テ ク ノ セ ン タ ー	Cooperative Technology Center	RC 2	424
そ の 他 建 物	Others		770
計	Total		30,072

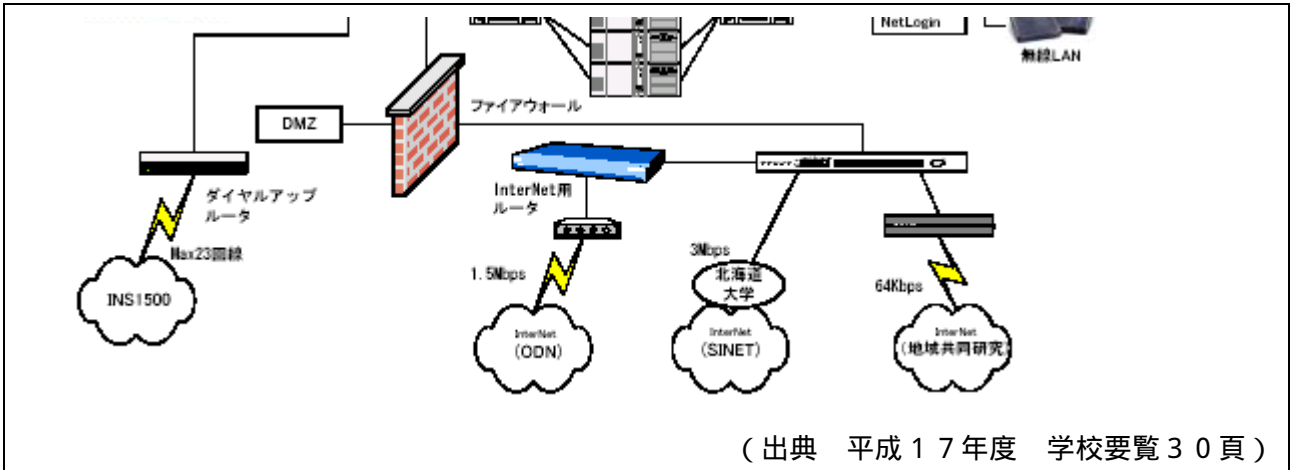
RC：鉄筋コンクリート造 Reinforced Concrete      S：鉄骨造 Steel Frame Work

(出典 平成17年度 学校要覧42頁)

すべてのホ - ムル - ム教室にはA V機器及び情報コンセント(無線LANを含む)を備え、授業方法改善に役立っている(資料8 - 1 - - 4)。また、低学年棟新築、実験棟改修により、教室の狭隘問題を解消した(資料8 - 1 - - 5)。混合クラスなどにより受講人数がクラス単位から変わる場合には、選択教室、大講義室、小ゼミ室を活用している。さらに、創造ラボ(A ~ E)を備え、2学年における創造工学(混合学級)などに活用している(資料8 - 1 - - 6)。

資料8 - 1 - - 4





資料 8 - 1 - - 5

平成13年12月14日 低学年棟新営工事完成  
 平成14年 3月18日 校舎改修1期工事完成

(出典 平成17年度 学校要覧2頁)

資料 8 - 1 - - 6

授業における創造ラボ教室，選択教室及び小ゼミ室使用一覧

室名	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50~9:35	9:40~10:25	10:35~11:20	11:25~12:10	13:00~13:45	13:50~14:35	14:40~15:25	15:30~16:15
ラボA	月							
	火					英語 5M	英語 5E	
	水					英語 5J	英語 5D	
	木			美術(小川) 1E-J		美術(小川) 1M-D		英語 5A
	金			美術(加藤) 1A				

室名	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50~9:35	9:40~10:25	10:35~11:20	11:25~12:10	13:00~13:45	13:50~14:35	14:40~15:25	15:30~16:15
ラボD	月							
	火							
	水	材料システム工学(岩瀬) 専攻科		日本文学(高井) 5年選択				
	木							
	金							

室名	1	2	3	4	5	6	7	8
	8:50~9:35	9:40~10:25	10:35~11:20	11:25~12:10	13:00~13:45	13:50~14:35	14:40~15:25	15:30~16:15
ラボE	月	新機工学特論(千田) 専攻科				デバイス材料工学特論(須田) 専攻科		
	火	情報数学特論(大槻) 専攻科						
	水	環境マネジメント(加藤雅) 専攻科		歴史と文化Ⅱ(赤坂) 5年選択			熱力学特論(山岸) 専攻科	
	木							
	金	ソフトウェア工学特論(大貫) 専攻科						

室名	1		2		3		4		5		6		7		8		
	8:50~9:35		9:40~10:25		10:35~11:20		11:25~12:10		13:00~13:45		13:50~14:35		14:40~15:25		15:30~16:15		
選択教室	月	寒冷地工学(藤) 専攻科				電磁波工学特設(工藤) 専攻科				内巻機関工学特設(田中) 専攻科							
	火	エネルギー変換工学(山岡) 専攻科				耐震構造(基町) 専攻科						数学Ⅱ(澤柳) 4年選択					
	水	コンピュータアーキテクチャ(坂田) 専攻科								信号画像処理Ⅰ(中村) 専攻科				数学Ⅱ(澤柳) 5M・E・D・J			
	木	統計学(澤柳) 専攻科				計測工学特設(松本) 専攻科											
	金	量子統計工学(坂口) 専攻科				技術科学英語Ⅰ(吉田) 専攻科								日本語表現技法(館下) 専攻科			

室名	1		2		3		4		5		6		7		8	
	8:50~9:35		9:40~10:25		10:35~11:20		11:25~12:10		13:00~13:45		13:50~14:35		14:40~15:25		15:30~16:15	
ゼミB	月															
	火															
	水			英会話Ⅲ(峯) 5年選択												
	木															
	金															

(出典 学生課資料)

専門学科実験室・研究室は、それぞれ学生実験，本科卒業研究，専攻科特別研究に利用し，必要な実験研究機材を備えている。各実験室の設備については，各種予算申請，校内の競争的資金により，学科ごとに改善努力をしており，十分な設備が備えられているが，科学技術の急速な発展に対応してその充実を図る必要がある（資料 8 - 1 - - 7）。専攻科棟は平成 18 年 3 月竣工予定である（資料 8 - 1 - - 8）。実験棟の南に接続する位置に建設される予定である（資料 8 - 1 - - 9）。

資料 8 - 1 - - 7

別添平成 16 年度校長裁量経費（特別設備充実費）の審査について

審査日時 平成 16 年 11 月 9 日（火）

場 所 校長室

審査員 校長、教務主事、校務主事、事務部長  
（会計課長、総務係長が同席）

申請一覧

機械工学科	流体震動実験装置	10,854 千円（担当 - 成澤，小杉）
電気工学科	電気材料シミュレーションシステム	7,350 千円（担当 - 須田）
電子工学科	電子計測テータ取得・解析システム	8,697 千円（担当 - 梶原，櫻田）
情報工学科	e - Learning 連携システム	9,847 千円（担当 - 大貫）
建築学科	赤外線放射温度計測システム	6,090 千円（担当 - 佐藤）

（中略）

予算の執行状況を調査した結果，別途 1,000 万円を特別設備等充実費に追加配分し，下記の通り採択することとした。（配分総額 2,000 万円）

情報工学科	e - Learning 連携システム	9,847 千円（全面採択）
-------	---------------------	----------------



機械工学科	流体震動実験装置	6,738千円（小杉分4,116千円を除く）
電子工学科	電子計測データ取得・解析システム	3,415千円（機器数を減する）

（出典 平成16年11月開催 審査会議議事要録）

資料8 - 1 - - 8

#### 議題1 平成16年度補正予算事業について

中村委員長から、平成16年度補正予算事業として専攻科校舎等の建設を行うことについて、事業の詳しい内容及び工事工程を山田会計課長から資料1に基づき説明後、意見交換のうえ了承願いたいとの発言があった。

山田会計課長から、平成16年度補正予算事業として第一体育館の耐震補強工事、専攻科校舎の新営工事、実習工場の耐震補強を含む改修工事を行うこと、工事工程等については、機構本部施設課において作業を進めており、工事発注が6月上旬、完成が来年3月中旬の見通しである旨、資料に基づき説明があった。

（中略）

委員長より、工程について資料1のとおり行いたいとの発言があり、了承された。

（以下 略）

（出典 平成17年5月12日 施設整備委員会議事要録）

資料8 - 1 - - 9

### 釧路工業高等専門学校専攻科校舎基本計画書

#### 1. 専攻科校舎の目的

研究開発能力を持った創造性豊かな研究開発型技術者の育成が必要となり、深い専門性に加え、学際領域に関する素養と国際化に対応できる能力を身につけた質の高い技術者を育成するための専攻科校舎を整備する。

釧路工業高専中期目標

専攻科教育

本科5年間の教育で培われた実践的技術者としての素養に加え、より高度な解析力を駆使する技術開発能力と研究開発能力を身につけた学際的な創造型技術者の育成を目標とする。

現在、専攻科生は校舎内の本科生が使用している既設実験室や共同利用施設である創造ラボ室等の本来、使用目的の違う部屋を使用して実験、ゼミ等をおこなっている状況である。

それらの状況を本来の姿に戻すべくまた、専攻科のより質の高い技術者の育成をおこなう舎としての専攻科校舎を整備する。

#### 2. 組織

設置年月日平成16年4月1日

定員専攻科1学年20人（完成定員40人）

- ・建設・生産システム工学専攻8人

- ・電子情報システム工学専攻12人

教員2人

### 3. キャンパス概要

#### (1) 敷地概要

団地名大楽毛団地

口座名校舎

住所表示釧路市大楽毛西2丁目32番1号

地名地番釧路市大楽毛西2丁目128番地7

敷地面積 118,965 m<sup>2</sup>

用途地域第1種中高層住居専用地域

防火地域指定なし

その他の区域法 22条区域、大気汚染・振動・騒音・悪臭・水質汚濁規制区域

容積率 200%

建ぺい率 60%

日影規制 3時間(10m以内)、2時間(10m超)

地震地域係数 1種

地盤種別 2種

給水市水

ガス都市ガス 6B

排水公共下水道分流方式

埋蔵文化財なし

#### (2) 既設校舎概要

建築年 昭和41年～平成15年

(出典 平成16年11月10日 施設整備委員会資料)

共同利用施設として、実験棟にプログラミング演習室(第1)、低学年棟にプログラミング演習室(第2)と語学演習室がある。情報処理センターの管理によるプログラミング演習室(第1及び第2)は合わせて100台のパソコンが設置され、プリンタ等とともにネットワーク接続され、コンピュータ教育を行うのに十分な環境を整えている(資料8-1-10)。

資料 8 - 1 - 10

本センターは、本校の情報処理教育、卒業研究及び教員研究のための学内共同利用施設です。教育用コンピュータシステムは、WindowsサーバとUNIXサーバに、100台のパソコン、プリンタ等がネットワークで接続され、音声・動画処理を利用したマルチメディア教育が可能です。

校内ネットワークシステムは、ギガビット・ネットワークシステムの構築により、高速な通信が可能です。更に、講義室や会議室では無線LAN及びNetLogin機能が利用可能です。

(出典 平成17年度 学校要覧30頁)

語学演習室は実践的な英語教育を行う施設として、本校に外国人教員が配置されたときに設置したが、現在のところ十分な活用状況とは言えない。

図書館は専門書、一般書、視聴覚教材を含め、88,000を超える蔵書がある。パソコン7台を設置し、蔵書検索、就職情報検索などに供している。また、閲覧だけではなく、談話ホールは学生の歓談

- ・自学自習に、またゼミ室、視聴覚教室等の施設を持ち、教育指導に利用されている(資料 8 - 1 - - 11)。

資料 8 - 1 - - 11

図書館の掲載箇所 ( <http://www.kushiro-ct.ac.jp/> )

( 出典 本校ウェブサイト )

実習工場は旋盤、フライス盤、NC旋盤等を備えている。機械工学科の工作実習・学生実験、創造工学等で利用されている。その他、学生の時間外利用、研究のための部品作製などに利用している(資料 8 - 1 - - 12)、(資料 8 - 1 - - 13)、(資料 8 - 1 - - 14)。

資料 8 - 1 - - 12

実習工場の掲載箇所 ( <http://www.kushiro-ct.ac.jp/> )

( 出典 本校ウェブサイト )

資料 8 - 1 - - 13

平成17年度前期		実習工場時間割								
時間 曜日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
月			創造工学							
火					2M工作実習			5M卒業研究		
					1k特別演習・研究					
水		1M工作実習				3M工学実験				
木					5M卒業実験					
					1k特別演習・研究					
金						4M工学実験				

創造工学、工作実習、工学実験以外での利用は「実習工場工作機械等使用願」を担当者に提出し許可を得てから利用すること。また、「実験室等利用記録簿」に記入してから利用すること。

( 出典 技術室資料 )

前出資料 8 - 1 - - 14

実習工場時間外利用状況の掲載箇所 ( 前出資料 7 - 1 - - 4 )

( 出典 技術室資料 )

地域共同テクノセンタ - は 4 研究室と 1 研修室により構成され、高度な試験研究を行うための実験装置を備えている(資料 8 - 1 - - 15)。

地域貢献が主目的であるため、教育での利用はそれほど多くないが、専攻科設置後は専攻科生の特

別研究としてより高度な研究を行うため、利用が増加している。同センタ - は十分に活用されている。

資料 8 - 1 - - 15
地域共同テクノセンタ - の掲載箇所 ( <a href="http://www.kushiro-ct.ac.jp/">http://www.kushiro-ct.ac.jp/</a> )
( 出典 本校ウェブサイト )

本校規程集目次(資料 8 - 1 - - 16)に示すように、施設に関する管理規定は整っている。

資料 8 - 1 - - 16
第 6 章 施設
( 略 )
福利施設管理規程
福利施設使用細則
地域共同テクノセンタ - 規程
地域共同テクノセンタ - 利用細則
情報処理センタ - 規程
情報処理センタ - 利用細則
施設活用の実態調査及び是正勧告規程
教育研究施設の有効活用規程
施設及び設備等に係る点検・評価等に関する取扱要項
( 略 )
第 1 0 章
図書館規程
図書館閲覧細則
図書館附属施設使用細則
( 略 )
( 出典 釧路工業高等専門学校規程集 目次 )

各施設の整備計画は施設整備委員会(資料 8 - 1 - - 17)において年度計画が策定・実施される。

資料 8 - 1 - - 17
( 設置 )
第 1 条 釧路工業高等専門学校に、校長の諮問機関として、長期的視野に立った本校の施設整備の整備運営並びに点検・評価及び環境整備に関する事項を審議するため施設整備委員会(以下「委員会」という。)を置く。
( 審議事項 )
第 2 条 委員会において審議する事項は、次のとおりとする。
一 長期的視野に立った施設の整備・運営に関する事項
二 施設整備計画に関する事項
三 施設及び設備等の利用状況の点検・評価に関する事項
四 施設及び設備等の効率的、弾力的、流動的利用に関する事項
五 校地及び施設等の環境整備に関する事項

六 その他施設及び設備等の整備に関する事項

(出典 釧路工業高等専門学校施設整備委員会規程)

施設の利用については、学生課が一般教室、各専門学科が実験室・研究室を管理し、それぞれ利用規則を定めている(資料8-1-18)。本校では、すべての施設の時間外利用について、利用記録を作成し管理している(資料8-1-19)。

資料8-1-18

第10章 施設・設備の使用

(施設・設備の使用)

第29条 学生及びその団体が、本校の施設・設備を利用しようとする場合には、その目的、施設・設備の名称等を記載した施設・設備使用許可願(第15号様式)を校長に提出し、その許可を受けなければならない。ただし、日常その使用を認められた施設・設備についてはこの限りではない。

第15号様式(略)(学生準則)

(出典 釧路工業高等専門学校学生準則)

資料8-1-19

利用記録簿

NO	月日	学年・学科・利用者名	使用目的	入室時間	退出時間	備考

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

施設配置図及び概要から、本校における教育にふさわしい施設・設備は整っている。低学年棟の新築、改修により教室面積、設備等は改善・充実しており、有効に活用されている。教室・実験室・研究室の利用は利用細則により適切に管理されており、学生の利用に十分なものである。実験研究設備は予算獲得等により順次整備されているが、更新時期については配慮が必要である。語学演習室は利用率が低く、有効活用について早急な検討が必要である。情報処理センター、図書館等の共同利用施設は教育目的に沿って十分な機器・蔵書を有しており、学生の時間外利用への体制も整っており、利用率が高い。以上から、本校の施設・設備は十分に整備され、十分に有効活用されている。

観点8-1-1 : 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校の学内ネットワーク整備状況を示す(資料8-1-1)。

資料 8 - 1 - - 1

学内ネットワーク整備状況（前出資料 8 - 1 - - 4）

（出典 平成 17 年度 学校要覧 30 頁）

学内はギガビットネットワークで接続され、各教室・実験室・研究室情報コンセントを備え、さらに無線 LAN の利用も可能である。学内においてネットワークに接続する端末はすべて情報処理センターへの登録が義務付けられており、平成 17 年 5 月現在で 826 台の端末が接続されている。プログラム演習室の端末を加えると、1000 台弱の端末が接続されている（資料 8 - 1 - - 2）。さらに、学内ネットワークは学生寮にも敷設されており、寮生の学習利用に供している。学内ネットワークは情報処理センター委員会が統括的な管理運営を行っている（資料 8 - 1 - - 3）。

資料 8 - 1 - - 2

パソコン等接続状況（2005.5）

機械工学科	57 台
電気工学科	88 台
電子工学科	102 台
情報工学科	235 台
建築学科	128 台
一般教科	48 台
事務部	66 台
情報処理センター	10 台
LL 教室	49 台
テクノセンター	43 台
合 計	826 台

（出典 情報処理センター - 資料）

資料 8 - 1 - - 3

（設置）

第 1 条 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報処理教育及び電子計算機システムの利用を円滑にすると共に、教育、研究及び事務等に関する情報処理の高度化を図るため、本校に情報処理センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第 2 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- 一 センターの管理、運営に関すること。
- 二 電子計算機（以下「電算機」という。）による情報処理教育の実施に関すること。
- 三 電算機による研究に関すること。
- 四 教育、研究及び事務等の情報処理に関する調査、研究、企画立案及び啓蒙に関すること。
- 五 校内の情報ネットワークの構築及び管理・運営に関すること。

- 六 校内・外の情報ネットワークの連絡・調整に関すること。
- 七 総合的情報処理化に関すること。
- 八 センタ - の事務に関すること。
- 九 その他電算機及び情報処理に関すること。

(出典 釧路工業高等専門学校情報処理センタ - 規程)

セキュリティポリシーは現在作成中である。セキュリティシステムの概要は(資料8-1-4)に示すとおり、十分な対策を施している。

資料8-1-4

#### セキュリティシステムの概要

- ・ 対外接続のセキュリティ(ファイアウォール)
- ・ 対外接続のセキュリティ(アプリケーションゲートウェイ)
- ・ VLANにおける各学科等サブネットのセキュリティ確保
- ・ DHCPによるネットワークホストの接続手順の管理
- ・ メールサーバによるウィルス対策
- ・ LDAP認証によるユーザ情報の管理
- ・ IEEE802.1Xによるリモートアクセスの認証管理
- ・ MACアドレス監視による不正アクセスの制御
- ・ NetLogIn機能による講義室LANの接続手続きの管理

(出典 情報処理センタ - 資料)

情報ネットワークの管理はネットワーク専門委員会が行い、その業務には、学生に対するネットワーク講習会や情報倫理教育の実施も含まれている(資料8-1-5)。

資料8-1-5

#### (趣旨)

第1条 この規程は釧路工業高等専門学校情報処理センタ - 委員会規程第8条第2項の規定に基づき、釧路工業高等専門学校情報処理センタ - 委員会ネットワーク専門委員会(以下「委員会」という。)の組織運営について定める。

#### (任務)

第2条 委員会は、次の各号に定める事項について、審議及び調査検討を行う。

- 一 情報処理に関する事項
- 二 校内の情報ネットワークの構築、管理、運営及び技術的支援に関する事項
- 三 校内・外の情報ネットワークの連絡調整に関する事項
- 四 その他情報ネットワーク及び電子計算機に関する事項

(出典 釧路工業高等専門学校情報処理センタ - 委員会ネットワーク専門委員会規程)

情報倫理教育として、コンピュータリテラシーを全学科の1学年に対して正規科目として実施している(資料8-1-6)。

平成 17 年度

機械工学科		コンピュータリテラシー			
学年	第 1 学年	担当教員名	荒井誠		
単位数・期間	1 単位	過当りの開講回数	1 回	後期	必修科目
授業の目標と概要	レポート作成などに必要となるコンピュータの操作に関する十分なスキルを体得する。内容はアプリケーション機能の解説を通してコンピュータ処理の利点や用法について演習主体に教授し、アプリケーション・ソフトウェアの基本的な理解と活用能力を養う。 釧路高専教育目標 (C-2) (F-1)				
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)	レポートはサーバー内の指定フォルダーに提出する。そのため、授業当初のユーザ登録やメール設定は確実にしておくこと。使用教室は情報処理センター第 2 演習室である。欠課や演習遅れの際は、放課後あるいは休みに補習を行う。				
到達目標	Mail などのインターネット環境を十分に利用でき、代表的アプリケーションソフトウェアである Microsoft 社 Office (Word, Excel) を、レポート類や各種発表における資料の作成に活用できる。				
成績評価方法	数回の単元におけるレポート (80%) と最終時間におけるプレゼンテーション (20%) にて、総合的に評価する。				
テキスト・参考書	各単元ごとに自作テキストを配布する。参考書は、一般的な Office 入門書 (たとえば、はじめての Microsoft Office シリーズ (工学社)、ひと目でわかる Microsoft Office シリーズ (日経 BP プレス) など)				
メッセージ	最初は、コンピュータ操作の経験によっては大きく差が生じます。しかし、遅れ気味な人でも、着実に演習を消化していけば、十分なスキルが身に付きます。休まない、授業中は集中する、演習に手を抜かないなどの基本的な学習姿勢が大切です。				
授業内容					
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標			
前期中間試験					
前期期末試験					
1. コンピュータ設定と利用方法 2. Word(1): 自己紹介文章作成 3. Word(2): 履歴書作成 4. Excel(1): 身体検査の表作成とグラフ	2 4 4 4	Mail が発信できインターネットにて検索ができる。 日本語文書を作成でき、的確な文書校正ができる。 写真があり、表形式の文書の作成ができる。 データの表を作成し、各種グラフに変換できる。			
後期中間試験	なし				
5. Excel(2): 三角関数、対数関数グラフの作成 6. 複合文書作成: 実験レポート 7. PowerPoint: プレゼンテーションの基礎 8. PowerPoint によるプレゼンテーション	4 6 4 2	数学問題によるグラフ作成の方法を身に付ける。 図表、グラフが混在する実験報告書を作成できる。 プレゼンテーションの要点を理解し、資料作成ができる。 具体的な題材を基にプレゼンテーションができる。			
後期期末試験	なし				



平成 17 年度

電気工学科		コンピュータリテラシー				
学年	第 1 学年	担当教員名	佐藤英樹, 工藤信博			
単位数・期間	1 単位	適当りの開講回数	1 回	後期	必修科目	
授業の目標と概要	コンピュータを使った文書作成能力とインターネット上での情報収集とコミュニケーション能力を養成する。内容は文書作成は MS-Office を使った文書作成を中心に演習を行い、情報収集とコミュニケーション能力は Internet Explorer と Outlook Express を使った演習を中心に行なう。 釧路高等教育目標 (A),(F),(G)					
履修上の注意 (準備する用具・前奏となる知識等)	授業場所は特に断らない限り、情報処理センター第 2 演習室を使用する。遅刻、欠席などに伴う演習の遅延には放課後などの補習で対処する。(その際、補習予定を組みますので学生諸君自ら、教員へ申告・予定打ち合わせをする様にしてください。) この授業では定期試験は行わないが、知識主体の箇所は小テストを行う。また、演習主体の箇所については各単元のまとめとして単元課題の提出を課す。					
到達目標	文書作成の標準的なアプリケーションソフトウェアである MS-Office を使って文書資料の作成が出来る事。インターネットを利用した情報収集やメールの送受信が出来、また、ネット利用の際の問題点を認知すること。					
成績評価方法	下記授業内容毎に 1) は小テスト 50%、単元課題 50%、2) は課題 50%、単元課題 50%、3) 小テスト 50%、単元課題 50%、4)・5)・6) は課題 50%、単元課題 50%として、総合成績は 1) 2) 3) 4) 5) を各 15%、6) を 25%として総合評価する。					
テキスト・参考書	テキスト：自作テキストを配布する。 参考書：各出版社より出版の一般的な MS-Office、インターネット関連入門書を推奨するが、参考書購入・使用は学生個人の判断に任せる。					
メッセージ						
授業内容						
授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験						
前期期末試験						
1) コンピュータとその基本的な利用方法 (2 回) 2) MS-Word を使った文書作成演習 (2 回) 3) ネットでのコミュニケーションと情報収集 (3 回)	4 4 6	1) コンピュータの歴史概要を知る。現在の PC 各部位とその役割を説明できる。MS Windows の起動と終了、キーボード・マウス操作、日本語入力、ファイル操作ができる。2) MS-Word を使った日本語文書(書式設定、文字修飾、図入り)作成ができる。3) ネット上での注意点と問題点、トラブル対処法を知る(学内ネットワーク利用事前講習を兼ねる)。電子メールの送受信とファイル添付ができる。インターネットで情報収集ができる。				
後期中間試験	なし					
4) MS-Excel を使った作表・計算とグラフ作成 (2 回) 5) MS-Powerpoint を使ったプレゼンテーション資料の作成 (2 回) 6) ワードプロ、表計算、プレゼンテーションソフトを用いた複合文書の作成 (4 回)	4 4 8	4) Excel を使ったデータ処理(作表と計算)とグラフ作成ができる。 5) Powerpoint を使った効果的な(アニメ効果などを用いた)プレゼンテーション資料が作成できる。6) 上記項目 2)、4) および 5) で習得した技術を利用して 3 種のソフトが持つ機能・特徴を複合した文書資料作成ができる。				
後期期末試験	なし					

平成 17 年度

電子工学科		コンピュータリテラシー			
学年	第 1 学年	担当教員名	山田昌尚, 浅水仁		
単位数・期間	2 単位	週当りの開講回数	1 回	通年	必修科目
授業の目標と概要	この講義の目標は次の 4 つである (カッコ内は釧路高専教育目標との対応) 1. コンピュータを操作するための基本的な技能を修得すること (C-2) 2. デジタル回路の基礎的な知識を習得すること (D-1) 3. コンピュータに関連する基本的な知識を幅広く習得すること (D-1) 4. 基本的なプレゼンテーション能力を習得すること (F-1, F-2)				
履修上の注意 (準備する用具・ 前妻となる知識等)	毎回の講義を大きく 2 つに分け、前半の時間に講義を、後半の時間にコンピュータを使用した演習を行う。				
到達目標	コンピュータの基本的な使用スキルを身につけるとともに、その仕組みと関連技術の基本について理解する。				
成績評価方法	試験 (60%) + 課題提出物 (20%) + プレゼンテーション (20%)				
テキスト・参考書	テキスト:「コンピュータの基礎知識」(配布) 「初級シスアドの教科書」(学習研究社)				
メッセージ	いまやコンピュータは私たちの身近なものとなっていますが、その利用方法や構造についての理解は充分とはいえないのではないのでしょうか。この講義を通じて、コンピュータをよりいっそう活用できるようになって欲しいと思います。				

### 授業内容

授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標
(講義) コンピュータと 2 進数 基数変換 算術演算 浮動小数点方式 (演習) タイピング ワープロ	14	(講義) コンピュータと 2 進数の関係を説明できる 2 進数, 10 進数, 16 進数の基数変換ができる 2 進数の算術演算 (加減算) ができる 浮動小数点方式について説明できる (演習) タッチタイピングができる ワープロの基本的な機能を利用することができる
前期中間試験	50 分	
(講義) 指数表現 論理演算 論理回路 (演習) 表計算	14	(講義) 指数表現を用いた減算ができる 基本的な論理素子の動作を説明できる 全加算器の動作を説明できる (演習) Excel を用いてグラフを作成することができる 絶対参照と相対参照の違いを説明できる
前期期末試験	50 分	
(講義) コンピュータの基本構成 CPU 記憶装置 (演習) プレゼンテーション	14	(講義) コンピュータの五大機能を説明できる CPU の役割を説明できる 記憶装置の速度, 容量に関する計算ができる (演習) PowerPoint を用いて資料を作成し, それにもとづいた発表ができる
後期中間試験	50 分	
(講義) 入力装置 出力装置 インターフェース ソフトウェア (演習) Web ページの作成	14	(講義) 各種入力装置の役割について説明できる 各種出力装置の役割について説明できる インターフェースの役割について説明できる ソフトウェアの役割について説明できる (演習) HTML を用いた簡単な Web ページの作成ができる
後期期末試験	50 分	

平成 17 年度

情報工学科	コンピュータリテラシー				
学年	第 1 学年	担当教員名	土江田織枝, 林裕樹		
単位数・期間	4 単位	週当たりの開講回数	2 回	通年	必修科目
授業の目標と概要	OS のインストール実習を通してコンピュータ内部のしくみや環境設定について理解する。正確なタイピング力を身につける。UNIX の基本操作を習得する。また、描画、作図、LATEX による文書作成が行えるようにする。Robolab キットでグループ実習を行い、物を作成することの難しさや面白さを体験する。実習結果をまとめることによってまとめる力も養う。 釧路高等学習教育目標：C-2				
履修上の注意 (準備する用具・ 前提となる知識等)	OS のインストール実習では、コンピュータを持っていない学生で希望者に限り指定のノートパソコンを購入させる。個人のパソコンの環境設定を学校の実習室と同じにすることにより、家庭における学習の効率の向上を計る。				
到達目標	実習内容をリンクすることにより、UNIX の基本操作等をしっかりと身に付くようにする。				
成績評価方法	試験 (80%) + レポートの提出 (10%) + 実習態度 (10%)				
テキスト・参考書	教科書：「UNIX コンピュータリテラシー」～ネットワーク時代の計算機利用とモラル 渡辺成良・若月光夫・織田健 共立出版株式会社				
メッセージ	UNIX の基本操作は何度も繰り返し行くと理解を深めます。 しっかり頑張りましょう。				

### 授 業 内 容

授業項目	時間	授業項目ごとの達成目標
OS のインストール実習 login logout パスワードの設定。 mail www の設定と使い方、マナー、電子メール TYPING の練習、エディタの使い方 UNIX の初歩、まとめ	8 2 4 6 8	Linux, Windows のインストールを行う。 login logout マナーを理解する。 mail と www の設定を行う。マナーを理解する。 エディタの使い方について理解する。 UNIX のコマンドについて理解する。
前期中間試験	50 分	エディタ、マナーについて理解している。
TYPING の練習・UNIX の基礎 検定試験の練習 検定試験 まとめ UNIX の応用 まとめ	8 4 2 2 12 2	UNIX のコマンドについて理解する。 検定試験用の練習 検定試験 まとめ UNIX のコマンドについて理解する。 まとめ
前期期末試験	50 分	UNIX のコマンドについて理解している。
xpaint による描画 tgif による作図 HP の作成 Robolab 実習	2 2 8 16	xpaint の使い方を理解する。 tgif の使い方を理解する。 HP を自由に作れるようになる。 Robolab に慣れる。基本的な動作をプログラムできる
後期中間試験	50 分	UNIX のコマンドを理解している。エディタの復習
Robolab 実習 Latex の使い方 Latex による文書作成	18 4 4	テーマに添った動作を実現するプログラムができる。 Latex の使い方を理解する。 Latex を使って文書作成が出来る。
後期期末試験	50 分	エディタの使い方、UNIX コマンドを理解している。

平成 17 年度

建築学科		コンピュータリテラシー			
学年	第 1 学年	担当教員名	井上圭一, 大槻香子		
単位数・期間	1 単位	週当りの開講回数	1 回	前期	必修科目
授業の目標と概要	コンピュータの基本操作や代表的アプリケーションソフトの操作を習得することにより、情報技術に関する基礎知識を身につける。また、WWWの利用により、効率や知的所有権などの問題を理解する。「情報」に対する正しい接し方を学び、さらに情報機器を利用した資料作成、発表説明の方法を習得する。 釧路高専教育目標 (C)(F)(G)				
履修上の注意 (準備する用具・ 前契となる知識等)	情報処理センター第 2 演習室を使用するので、移動時間を考慮しすみやかに集合待機すること。キーボード、マウスの使い方、文字入力程度の操作は出来る事を前提に講義を進める。パソコンによる演習課題が中心となるので各自パソコンでの予習復習を心がけ、不明点を残さない。				
到達目標	パソコンによる総合的な書類作成能力を身につけるとともに、釧路高専での情報機器利用のルール、ネットワーク上のマナーやトラブル対処方法、的確な情報収集の方法を知る。				
成績評価方法	建築学科の評価基準に基づき別に定める				
テキスト・参考書	速攻！パソコン講座 ウィンドウズ XP (毎日コミュニケーションズ)；教科書 速攻！パソコン講座 ワード (毎日コミュニケーションズ)；教科書 自作テキスト；教科書				
メッセージ	パソコンの基本的な操作とインターネットによる情報収集は、多くの講義にて必要となります。しっかりと基礎を身につけましょう。提出物は期限を守り、未提出課題を作らないように。				
授 業 内 容					
授業項目		時間	授業項目ごとの達成目標		
1) パソコンの基本 (3回) コンピュータリテラシーとは/計算機環境 パソコンの基本操作/日本語入力、タイピング ファイルの作成・編集・印刷 2) インターネット (3回) インターネットの仕組み WWW ブラウザ設定と利用方法/上手な情報検索 3) 電子メール (1回) 電子メールの設定と送信・受信/ファイルの添付		14	1) 授業目的が理解できる。使用するパソコンの部位名称と基本的な機能を説明できる。日本語入力により作成したファイルを印刷、保存、移動、複写できる。 2) インターネットの仕組みを理解できる。校内における情報処理センターの規約とサービスを知り、情報処理センターへのユーザ登録等の設定を行う。WWWを利用した情報検索ができる。 3) 電子メールの設定、仕組み、基本操作を知り、利用することができる。		
前期中間試験		50分	パソコン、インターネットの基礎知識を記述できる		
4) ネットワークのエチケット (1回) エチケットとは/メディアと知的所有権 5) ワープロ (4回) ワープロの機能/文章入力/表の作成/図形作図 6) プレゼンテーション (2回) スライドの作成と実行		14	4) インターネットを利用する上での注意点を理解し、ネット上でのトラブルとその対処方法を知る。 5) Microsoft Word を利用した文書作成、書式設定、文字編集および適切な図表が作成できる。 6) Microsoft PowerPoint でプレゼンテーション用スライドの作成とそれを使った発表ができる。		
前期期末試験		90分	word による文章作成ができる		
後期中間試験					
後期期末試験					

(出典 シラバス)

ネットワーク講習会は随時行っている(資料 8 - 1 - - 7)。学内ネットワーク利用規則は情報処理センタ - 利用細則として規定されている(資料 8 - 1 - - 8)。

資料 8 - 1 - - 7

(講習会の実施状況について)

ネットワーク講習会は要望により随時行っているが、今年度は専攻科(建設生産・電子情報)1年と機械工学科2年がネットワーク講習を実施している。

コンピュータテラシ導入後、授業の中でネットワーク講習の内容を実施しており今年度は情報工学科1年と建築学科1年が講習済み。

残りの機械・電気・電子工学科1年はこれから授業の中で実施される予定。

(講習会資料について)

ネットワーク講習会では以下のコンテンツを利用して実施している。

情報処理センタ - ユ - ザのペ - ジ

<http://sers.cc2.kushiro-ct.ac.jp/>

情報処理センタ - プログラミング演習室のペ - ジ

<http://fs1.cc.kushiro-ct.ac.jp/>

情報処理センタ - 利用細則

<http://sers.cc2.kushiro-ct.ac.jp/kiyaku/saisoku.html>

ネット社会の歩き方IPA,CEC

[http://www.info.kushiro-ct.ac.jp/Gaku-unit-v203k/MOKUJI\\_k/mokuji\\_zenko.html](http://www.info.kushiro-ct.ac.jp/Gaku-unit-v203k/MOKUJI_k/mokuji_zenko.html)

インタ - ネットのル - ルとマナ -

<http://www.netkun.com/manners/index.html>

情報モラルに関する基礎知識(動画)

<http://fs1.cc.kushiro-ct.ac.jp/literacy/index.html>

利用申請(2005年度)

<https://ipc21.gcc.kushiro-ct.ac.jp/ADM/sinsei.php>

(年度毎ネットワーク利用申請が必要 各学生がネットワーク利用について再認識)

(出典 情報処理センタ - 資料)

(趣旨)

第 1 条 この細則は、釧路工業高等専門学校情報処理センター規程第 7 条の規定に基づき、釧路工業高等専門学校情報処理センター（以下「センター」という。）及びセンター外ネットワークサービスの利用に関し、必要な事項を定める。

(利用者の範囲)

第 2 条 センターを利用できる者は、次のとおりとする。

- 一 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）の職員
- 二 本校の学生で、指導教官を経て、情報処理センター長（以下「センター長」という。）が許可した者
- 三 本校の教官を研究代表者として行われる共同研究の研究分担者
- 四 その他センター長が許可した者

(利用手続き)

第 3 条 センターを利用しようとする者（以下「利用者」という。）は、あらかじめ所定の「利用申込書」をセンター長に提出し、許可を受けるとともに、センターの機器に対する利用 ID とパスワードの交付を受けなければならない。

(利用日及び利用時間)

第 4 条 センター内に設置されている機器の利用日及び利用時間は、次の各号に掲げる日を除く、8 時 30 分から 17 時までとする。ただし、情報ネットワークの利用日及び利用時間は、制限を設けないものとする。

- 一 土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
  - 二 12 月 28 日から翌年 1 月 4 日まで
- 2 前項に定める利用時間以外に利用しようとする者は、あらかじめ所定の「時間外利用申込書」をセンター長に提出し、許可を受けなければならない。
- 3 保守点検、故障修理及びその他センター長が必要と認めた場合は、利用日時を制限し、又は延長することがある。

(情報発信の利用)

第 5 条 利用者は、交付を受けた利用 ID を用いてセンターにおいて、センターが提供するメール / ニュースサーバ、WWW / FTP サーバを用いて電子メール、ニュースグループ及び WWW 等によるネットワークサービスを利用することができる。

- 2 学科、事務部及び学寮等（以下「各学科等」という。）が管理する機器を用いて情報ネットワークを通して、情報発信を行う者（以下「センター外ネットワークサービス利用者」という。）は、当該設備を管理する責任者の許可を受けなければならない。
- 3 センター長は各学科等のネットワークに対して、IP アドレスの発行及びドメインネームサーバへの登録等のネットワーク管理業務を各学科等のネットワーク専門委員会委員（以下「委員」という。）に委譲する。委譲されたネットワークについては、センターの利用規定に反しない範囲で各学科等の独自の運用を行うことができる。各学科等の委員は、各学科等のネットワークを掌握し、センターへの相互接続のための調整を行う。

(遵守事項)

第 6 条 利用者及びセンター外ネットワークサービス利用者は、次の事項を遵守しなければならない。

- 一 教育、研究、事務及び職員・学生の福利厚生等に資することを目的に利用すること。
- 二 電子計算機システム及び情報ネットワークシステムの健全な維持・管理に努めて利用すること。
- 三 センター長の指示に従うほか、別に定める「釧路工業高等専門学校情報処理センター利用手引」に基づき利用すること。

2 利用者は、学内で実施するネットワーク講習会を受講するものとする。

(禁止事項)

第 7 条 利用者及びセンター外ネットワークサービス利用者は、次の事項を行ってはならない。

- 一 利用の許可を受けていない者に利用させること。
- 二 営利を目的として利用すること。
- 三 著作権を侵害するとみなされる行為
- 四 データベース著作権者等の定める使用条件に違反すること。
- 五 他人の名誉及びプライバシーを侵害するとみなされる行為
- 六 公序良俗に反する情報を流布すること。
- 七 その他センター長が禁止する事項

(利用許可の取消)

第 8 条 センター長は、利用者が前条の規定に違反した場合は、その許可を取り消し、又は利用を中止させることができる。

2 センター長は、センター外ネットワークサービス利用者が前条の規定に違反し、又は違反するおそれのある場合は、該当設備に属するネットワークのセンターへの接続を中止させることができる。

(損害賠償の義務)

第 9 条 利用者が、その責に帰すべき事由によりセンターの施設、設備、備品等を滅失し、若しくは損傷し、本校に損害を与えた場合は、これを賠償するものとする。

(費用の負担)

第 10 条 利用者は、次の各号に定める区分により、利用に必要な経費を負担するものとする。

- 一 第 2 条第 1 号及び第 2 号の定める利用者センター長の報告により、会計課において校費の振替えをもって処理する。
- 二 第 2 条第 3 号に定める利用者研究代表教官の負担とする。
- 三 第 2 条第 4 号に定める利用者別に定める料金を前納しなければならない。

(出典 釧路工業高等専門学校情報処理センター利用細則)

学生はネットワーク講習会を受講し、利用 ID とパスワードの交付を受けなければ学内ネットワークを利用できない。プログラミング演習室利用時間割から、2 つの演習室を合わせた利用率は 67.5% (校時換算) に上っており、非常に高い (資料 8 - 1 - - 9)。

資料 8 - 1 - - 9

平成 17 年度前期の情報処理センタ - 時間割 (<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>)

(出典 本校ウェブサイト)

さらに、情報工学科では、教育の性質上、学科内に独自の演習室を設けており、教育におけるネットワーク利用率はさらに高いと考えられる。自主学習等の時間外利用についても、利用率資料から学生が活用していることがわかる(資料 8 - 1 - - 10)。

資料 8 - 1 - - 10

情報処理センタ - (プログラミング演習室) 利用状況 (自習時間) (前出資料 7 - 1 - - 3)

(出典 情報処理センタ - 資料)

マイクロソフトキャンパスアグリ - メント契約を締結しており、学校関係者全員の利用が可能となるようなシステムを採用し、学生・教職員に便宜を図っている(資料 8 - 1 - - 11)。

資料 8 - 1 - - 11

084-0916 北海道  
釧路市大楽毛西 2丁目32-1  
国立釧路工業高等専門学校  
用度係

平成 15 年 4 月 吉日\*

渡辺 修 様

キャンパスアグリーメントをご契約のお客様各位

拝啓 時下ますますご隆昌のこととお慶び申し上げます。

この度は、弊社ボリュームライセンスプログラム「Microsoft® Campus Agreement(マイクロソフト キャンパスアグリーメント)」をご契約いただき誠に有難うございます。また、貴校情報システムにマイクロソフト製品をご採用いただき有難うございます。重ねて御礼申し上げます。

マイクロソフトのボリュームライセンスプログラムは、導入・運用コストの削減を目指す教育機関向けのソフトウェア導入プログラムで、ソフトウェアのスムーズな購入・管理を実現します。ボリュームライセンスプログラムのメリットを最大限にご活用いただければ幸いです。また、キャンパスアグリーメントでは、ご契約期間中に製品のアップグレードがあった場合、何度でも自由にアップグレードが可能です。新規にライセンスを購入される際に今後のアップグレードも検討されているお客様には、有効です。

弊社では次世代インターネットソリューションを実現するエンタープライズサーバー製品群「.NET Enterprise Servers(ドットネット エンタープライズ サーバー)」を中心として今後もお客様のニーズに合ったソリューションをご提供していく所存です。ご意見・ご要望等ございましたら是非お寄せくださいますようお願いいたします。今後とも倍旧のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

(出典 マイクロソフトキャンパスアグリ - メント契約書)



(分析結果とその根拠理由)

設備，管理体制，利用規則は十分に整備されており，学生の利用率が高く，十分に活用されている。セキュリティシステムが確立しており，学内ネットワークの安全性は高い。情報倫理教育がすべての学生を対象に実施されており，また，ネットワーク講習会受講とID及びパスワード交付を条件とするネットワーク利用許可の体制をとっていることから，学生のネットワーク利用について，倫理，セキュリティ両面での教育及び管理が十分に行われている。さらに，基本ソフトウェアを学校関係者全員で利用できる体制を整えるなど，ネットワーク利用促進の体制作りが行われている。以上から，本校の情報ネットワークは十分なセキュリティ管理の下で優れた整備・活用状況にある。

観点 8 - 2 - : 図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

専門分野ばかりではなく，一般教養も含めて約88,000件蔵書しており，教養教育，専門教育及び研究に必要な資料を十分に備えている(資料 8 - 2 - - 1)。

資料 8 - 2 - - 1

図書館の蔵書を示す箇所 (<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>)

(出典 本校ウェブサイト)

特に，工学専門図書の蔵書は道東地区最大であり，一般開放を行って地域の要望に込えている。なお，所蔵図書はすべて日本十進分類法により適切に分類され，開架閲覧方式により学生・教職員及び一般利用者に供している。図書館の運営は図書館委員会が行い(資料 8 - 2 - - 2)，蔵書充実のための予算配分を管理している。

資料 8 - 2 - - 2

(設置)

第 1 条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に図書館委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は，校長の諮問機関として，本校の図書館の管理，運営並びに研究紀要の発行に関する事項を審議する。

(審議事項)

第 3 条 委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 図書館の運営に関すること。
- 二 学生の図書の選択に関すること。
- 三 研究紀要の編集及び発行に関し必要なこと。
- 四 その他図書館に関すること。

(出典 釧路工業高等専門学校図書館委員会規程)

蔵書充実は，各学科の要望を主として決定するが，他に全学への一般募集，校長裁量経費の獲得

による専攻科用図書整備等は図書館委員会が主導する(資料 8 - 2 - - 3)。

資料 8 - 2 - - 3

1. 報告事項

1) 校長裁量経費採択結果について

情報資料係長から、資料 1 に基づき、すべて減額されることなく採択された旨報告があった。

(略)

<資料 1> (抜粋)

校長裁量経費採択結果について

今年度の申請

1	学生用図書の充実	図書館主事	60万円
2	専攻科生研究用図書の整備	専攻科長	60万円
3	IEEEコンソ - シアム契約代金	情報資料係長, 神谷教官	85万円
( 4	ScienceDirect契約代金	神谷教官	20万円 )

- ・すべて減額なしで採択
- ・IEEEコンソ - シアムは今年度契約し、来年度からの利用となる
- ・ScienceDirectコンソ - シアムは来年度も継続して契約、利用する。

(出典 平成 16 年 9 月 16 日 図書館委員会議事要録)

閲覧室への入室者数、貸し出し冊数の統計資料を(資料 8 - 2 - - 4)に示す。

資料 8 - 2 - - 4

図書館利用統計(平成 16 年 4 月 ~ 11 月)の掲載箇所(前出資料 7 - 1 - - 2)

(出典 平成 17 年 1 月発行 図書館だより第 28 号)

全学生の約 25% が 1 日に 1 度は図書館を訪れている。また、年間に学生一人 10 冊以上の貸出を受けている。利用促進へ向けての取組の第一として、新入生図書館利用ガイダンスを行い(資料 8 - 2 - - 5)、入学直後に利用について説明することにより、学生の図書館利用意識を高めている。

資料 8 - 2 - - 5

平成 17 年度 図書館オリエンテーション実施計画

1. 日時 平成 17 年 4 月 11 日(月) (3 - 4 時限; 10:35 ~ 12:10)

2. 場所・実施単位時間・実施内容

視聴覚室 30 分 図書館利用全般について

- ・ 図書館主事から
- ・ 読書指導教員から

閲覧室 30 分 図書館の具体的な利用方法について説明及び見学

- ・ 情報資料係長から

3. 実施単位人数・回数 100 名ずつくらいになるように二回に分け、入替え制

4. 時間割

学 科	担 任	人 数		時 間・場 所		
機械工学科	林 幸利	40 名	102 名	10:45 - 視聴覚室	移動 (15分)	11:30 - 閲覧室
電気工学科	浦家淳博	41 名				
電子工学科	加藤 隆	21 名				
情報工学科	田村聡子	20 名				
建築学科	森 太郎	41 名				

\*計 204 名(留年生を含む)

5. 説明資料 図書館利用案内、図書館だより

専攻科学生に向けて(H17年度)

電子情報システム工学専攻(7名)

建設・生産システム工学専攻(7名)

外部からの入学はなし

\*昨年度は、入学式翌日、オリエンテーションを行った後、外部からの入学生のみ施設案内あり  
その図書館見学の際に、簡単に利用案内をした

(出典 平成17年度 1学年担任会議資料)

第二に、読書指導教員の任命(資料8-2- -6)、読書レポートコンクールの開催、教員からの図書推薦等をまとめた図書館だよりを発行している(資料8-2- -7)。

資料8-2- -6

第10章 図 書

(読書指導)

第5条 図書館には、学生からの相談に応じ、助言のための読書指導教員を置く。

(出典 釧路工業高等専門学校図書館規程)

資料8-2- -7

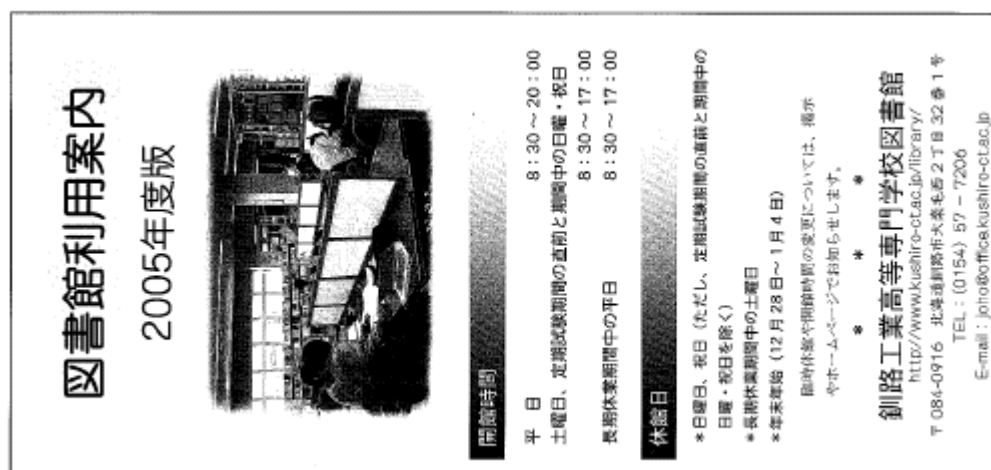
読書レポートコンクールの開催及び教員からの図書推薦の掲載箇所

目 次	
☆読書指導教員より	2 ☆推薦します
「何で本読むの?」一般教科 片岡 務	先生から
	「笑って仕事をしていますか?」電気工学科 千田 和範…6
	「人生と投資のパズル」電子工学科 浅水 仁…6
☆読書レポートコンクール	3 「時代と向き合う教育学」一般教科 田村 聡子…7
選 評 一般教科(国語科代表) 加藤 岳人…4	学生さんから
講 評 一般教科 小田島本有…5	「小川未明童話集」…7
佳作寸評 一般教科 館下 徹志…5	☆図書館よりお知らせ
	「電子ジャーナルを導入しました」…8
	☆図書館貸出統計…12

(出典 平成17年1月発行 図書館だより第28号)

また、一般開放は、パンフレットを作成・配布し利用促進を図っている(資料8-2--8)。

資料8-2--8



(出典 2005年度版 図書館利用案内)

第三の取組は、学生の意識を高めるための「ブックハンティング」の実施である。受入図書の設定について、学生の意見を集約するための取組として実施している(資料8-2--9)。

資料8-2--9

<資料2>

ブックハンティング実施報告

日時 6月28日(月)15:40~

行き先 コ-チャンフォ-釧路店

交通手段 高専バス

引率 片岡先生(読書指導教員), 横井(情報資料係長), 中島(情報資料係員)

参加人数 学生14名(既参加者12名, 初参加者2名)

\* 2名欠席, 1名当日参加

(出典 平成16年7月22日 図書館委員会資料)

その他の取組として、学内LAN経由での蔵書検索が可能であり、16年から電子ジャーナルを導入した(資料8-2--10、8-2-11)。

資料8-2--10

# 電子ジャーナルを導入しました

<図書館よりお知らせ>

## ○ 電子ジャーナルとは

学術雑誌を、冊子体（紙）ではなくインターネット経由で閲覧することができるものです。オンライン・ジャーナルとも言われます。

釧路高専では、長岡技術科学大学が取りまとめる「コンソーシアム」に参加する、という形で電子ジャーナルを導入しました。これにより、冊子体（紙）を個別に購入するよりはるかに安い金額で多くの雑誌（電子情報）を閲覧することができるようになりました。

## ○ メリットとデメリット

現在のところ電子ジャーナルは海外のものが主ですが、コンピュータ・ネットワークを通じて提供されるため、発行されてから受入までに時間のかかる冊子体に比べ、情報の入手がより早く便利になりました。また、複数の人が同時にアクセスできるため、貸出中で閲覧できない、ということがなくなります。

ただし、停電やネットワークの障害などが起こると閲覧できなくなります。

## ○ 利用できる電子ジャーナルとデータベース

平成16年1月より「AIP/APS」、4月より「Science Direct」、10月より「iDream」が利用できるようになりました。また、平成17年1月より「IEEE-ASPPOnline」「MathSciNet」が利用できます。他に、「KANON (JH SwesScan)」「NACSIS-IR」などのデータベースがあります。教員はもちろん、学生も利用できます。本科生・専攻科生の方は図書館にあるコンピュータをご利用ください。まず図書館のホームページにアクセスし、そこから各電子ジャーナルへと進みます。

※IPアドレスでアクセス制限されているため、学外からは利用できません。また、未登録された一般利用者の方も利用できません。ご了承ください。

（出典 平成17年1月発行 図書館だより第28号）

資料8 - 2 - - 11

## 審議事項

### 3. 図書館電子ジャーナル・データベース利用説明会実施計画について

庶務課長から、資料10に基づき卒業研究指導の一環として、毎年継続的に実施したい旨説明があり、審議の結果了承された。

なお、専攻科長から、学生も担当教員を通して、又は私費により文献複写申込が可能であることを周知してほしい旨発言があった。

<資料10>

#### 図書館電子ジャーナル・データベース利用説明会実施計画について

#### 説明会実施計画

#### 1. 平成17年度

1. 日時7月12日（火）9時間目（16：20～17：05）
2. 場所大講義室
3. 対象学生5年生（全員）、専攻科生（全員）
4. 講師情報資料係長
5. 内容ノートパソコン、プロジェクタを使用し、図書館ホームページより各電子ジャーナル・データベースを紹介する
6. 配付資料各電子ジャーナル・データベース紹介パンフレット、画面コピーなど

\* 同時アクセス制限があること、大勢使用するとネットワークが混雑し、スムーズな説明できなくなることが考えられることから、学生がコンピュータを使用しての説明はしない。

\* より詳細に聞きたい人、実際に使ってみたい人には随時図書館へ来てもらうことをアナウンスする。

## II. 平成18 年度以降

- ・新5 年生、外部からの専攻科新入生向けに、卒業研究第一回目（年度当初）の最終コマを利用して説明会を開催する
- ・開催方法、内容は平成17 年度と同様とする

### 【背景】J A B E E 第8 小委員会報告

#### 学生支援システムの構築

#### C . 研究支援に関して

- ・デ - タベ - ス検索手引書を作成すること
- ・デ - タベ - ス検索のための講習会を、年度当初に実施すること
- ・デ - タベ - ス検索を学生が利用できることを周知すること

『図書館だより』第28 号（2005.1.20 発行）において案内、簡単な手引書作成済、学生周知済

講習会は未実施

（出典 平成17年6月30日 運営会議議事要録）

#### （分析結果とその根拠理由）

教育研究に必要な図書，学術雑誌，視聴覚資料等は十分に整備されている。管理運営体制は整っており，新規図書の受入，利用促進の取組等について系統的・積極的な運営がなされている。図書館を利用する学生の人数，貸し出し図書数は十分であり，学生が図書館を有効に活用している。

以上から，教育研究上必要な資料が十分系統的に整備され，十分有効に活用されている。

#### （2）優れた点及び改善を要する点

##### （優れた点）

- ・施設のうち，低学年棟の新築，校舎改修により教室の狭隘が解消され，学習環境が整っている。また，全教室にA V機器が整備されおり，授業方法改善に役立っている。
- ・情報ネットワークが整備されており，セキュリティ対策が十分に施されている。また，学生への情報倫理教育，セキュリティ教育が確実に行われている。
- ・学内LAN経由での蔵書検索が可能であり，蔵書資料の電子情報資料化への対応が進んでいる。
- ・利用促進の取組として，継続的なブックハンティングの実施により，学生の参加を促している。

##### （改善を要する点）

- ・語学演習室，地域共同テクノセンタ - の利用率は十分とはいえない。今後，利用率の向上，有効利用の方策の策定が望まれる。

#### （3）基準8の自己評価の概要

低学年棟の新築，実験棟の改修により施設は十分に整備されている。専攻科棟は今年度内の竣工が決まっており，これにより一層の充実が図られる。設備は順次整備・充実が図られており，有効に活用されている。しかし，科学技術の急速な発展に対して，実験設備の改善状況には不十分な点がある。語学演習室，地域共同利用センタ - は一層の有効利用が望まれる。学内ネットワークは十分に整

備され、接続されるすべてのコンピュータ及び学生・教職員のネットワーク利用の管理体制が確実に機能している。2つの演習室が整備され、これらは授業、放課後ともに十分に活用されている。マイクロソフトとのキャンパスアグリメント契約により、学生及び教職員は基本ソフトウェアを自由に利用できる体制をとり、コンピュータ利用の促進を図っている。なお、セキュリティポリシーについては策定中である。図書館は一般図書、学術図書、学術雑誌、視聴覚資料などが適切に整備・分類され、学内ネットワークを利用した電子図書検索システムが稼働している。また、電子ジャーナルの利用が可能であり、教育研究に活用されている。一般開放、時間外利用の促進も行われている。さらに、ブックハンティングにより蔵書に学生の希望を取り入れる活動を行っている。

以上のとおり、施設・設備の整備・活用状況、学内ネットワークの整備・管理及び活用状況、図書館の蔵書及び視聴覚資料、図書検索及び電子ジャーナル整備状況等を総合的に判断すると、教育課程の実現に必要な施設設備は学生・教職員の利用のために十分に整備され、機能している。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9 - 1 - : 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到る状況)

平成 16 年度前期中間試験からすべての科目について、答案保管を始めている (資料 9 - 1 - 1)。

資料 9 - 1 - - 1

《教務主事から答案保管に関する全教員あてメール》

----- Original Message -----

From: "T.Miyazawa" <>

To: "tstaff" <>

Cc: "的野裕司" <>; "栗原学生課長"

<>

Sent: Wednesday, May 19, 2004 10:17 AM

Subject: 中間試験答案の保管について

> 教員各位

> 教務主事

> 過日の教務委員会において6月中間試験答案の保管に関して下記のように

> 議事録に記載されています。

> 以下議事録関連部分

> =====

> J A B E E 認定に必要な答案 (成績評価資料) の保管を, 前期中間試験より各

> 教員に保管願いたいこと, また電子化したものを保管するのか現物を保管するの

> かなど 具体的な保管方法については今後さらに検討していくこととし, とりあ

> えず前期中間試験についてはコピーを保管してもらいたい旨, 要請があった。

> なお保管場所については今後検討していきたい旨委員長から発言があり, 審議の

> 結果, 了承された。

> =====

> その後、中間試験以外の小テストの保管、レポートの保管などについての問い合わせがありますので、次のように対応してください。

>> JABEE対応の成績評価資料の保管は、今年度前期末分からですが、シラバス等

> に記載した成績評価方法に4回の定期試験の平均○○%、レポート○○%など

> としてある場合、これらの評価資料は原則的に保管しなければならないと

> 考えています。これらの保管方法は現在電子化の方向で検討中ですが、まだ

> 保管方法の詳細は決まっていません。前期末までには検討・提案いたします。

>> また、本科3年以下についても、認証評価としての教育点検があつて、

> 成績評価の根拠が明白であるような資料の提示が必要になると考えています。



- > そのためJABEEほど厳密ではないにせよ、成績評価方法・資料の保管は今後考えていかなければなりません。
- > そのための準備として全学年中間試験答案の保管をお願いしております。
- > 従って、小テスト、レポート等の保管も今後の課題です。
- > 現在はまだ、これらの保管は教務としてお願いしておりません。
- > 採点された評価点のデータだけでよいと思います。

>> 以上。

>> \*\*\*\*\*

> 宮澤 武 (Takeshi Miyazawa)

> 勤務先：釧路工業高等専門学校 機械工学科

> TEL : 0154-57-7290

> FAX : 0154-57-5360

> 住所 : 〒084-0916 釧路市大楽毛西2丁目32-1

> E-Mail :

> \*\*\*\*\*

( 出典 教務主事発信メール )

学生の出欠状況、定期試験の成績、学年末の卒業・修了認定等の関係資料は教務委員会が所管し、学生課教務係において収集保管される ( 資料 9 - 1 - - 2 )。

資料 9 - 1 - - 2

学生指導要録，最終学業成績一覧表  
( 現地での閲覧資料を参照 )

なお、本校では「教務事務システム」として、教務に関する情報を Web により操作するシステムを整備し、作業の効率化を推進している。教務事務システムにより、本校の教育活動に関する基本的データはすべて自動保管されている ( 資料 9 - 1 - - 3 ) ( 資料 9 - 1 - - 4 )。



## 目次

1. はじめに .....	2
(1) ブラウザの設定 .....	2
2. 教務事務システムの起動 .....	7
(1) システムの起動 .....	7
3. パスワード変更 .....	9
4. 成績入力 .....	10
(1) 入力手順 .....	10
(2) 成績入力 .....	10
(3) テキストでの登録 .....	12
(4) テキスト出力 .....	15
(5) 雛形出力 .....	17
5. 欠課入力 .....	19
(1) 入力手順 .....	19
(2) 欠課入力 .....	19
6. 成績照会 .....	24
(1) 照会手順 .....	24
(2) 成績照会 .....	24
(3) テキスト出力 .....	27
7. 欠課照会 .....	29
(1) 照会手順 .....	29
(2) 欠課時数照会 .....	29
(3) テキスト出力 .....	31
8. 学生照会 .....	33
(1) 照会手順 .....	33
(2) 学生照会 .....	33
(3) テキスト出力 .....	38
9. 履修照会 .....	41
(1) 照会手順 .....	41
(2) 履修照会 .....	41
10. 出席簿照会 .....	43
(1) 照会手順 .....	43
(2) 出席簿照会 .....	43
11. 履歴照会 .....	45
(1) 成績更新履歴照会 .....	45
(2) 欠課更新履歴照会 .....	46
12. 設定 .....	47
(1) 年度、期の設定 .....	47

（出典 学生課資料）

学生の福利厚生、課外活動等に関する事項は学生委員会が、また、教育寮に関する事項は寮務委員会が、その他教育に関する情報は本校の各委員会が分担し、これに関するデータは学生課担当係が収集・保管している（資料9 - 1 - - 5）。

資料9 - 1 - - 5

（学生係）

第21条 学生係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 学生の課外活動に関すること。
- (2) 学生及び学生団体の指導に関すること。
- (3) 学生の掲示、集会及び印刷物に関すること。
- (4) 奨学生及び奨学金に関すること。
- (5) 授業料、入学料及び寄宿料の減免猶予に関すること。
- (6) 学生の福利施設の管理運営に関すること。
- (7) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
- (8) 学生旅客割引証及び通学証明書に関すること。

- (9) 日本スポーツ振興センター及び学生傷害保険に関すること。
- (10) 学生の賞罰に関すること。
- (11) その他他の係に属しない学生課所掌事務を処理すること。

(略)

(寮務係)

第23条 寮務係においては、次の事務を分掌する。

- (1) 学寮の管理及び運営に関すること。
- (2) 学生の入寮及び退寮に関すること。
- (3) 寮生の給食及び栄養管理に関すること。
- (4) 寮費に関すること。
- (5) 寮生の福利厚生に関すること。
- (6) 寮生の健康管理に関すること。
- (7) 学寮宿日直勤務に関すること。
- (8) 外国人留学生に関すること。
- (9) その他学寮に関する事務を処理すること。

(出典 釧路工業高等専門学校事務組織規程)

以上のとおり、本校においては教育の状況、教育活動の実態を示すデータや資料は事務組織の管理のもとで収集・蓄積されており、教務委員会ほか各委員会における審議資料という形で日常的に提供されるシステムが機能している。

本校では、自己点検・評価を単独の目的とした委員会等の設置はしていない。しかし、教育に関する計画を審議し、また教育の実態を自己点検評価する機能は、運営会議の下、各種委員会がそれぞれの所管事項について審議することで行われていると位置づけている(資料9-1-6)。

資料9-1-6

運営会議が「評価」を統括することを示す資料

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という)に運営会議(以下「会議」という。)を置く。

(目的)

第2条 会議は、校長の諮問に応じ、教育研究その他本校の管理運営に関する重要事項を審議し、校務の円滑な運営を図るものとする。

(審議事項)

第3条 会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。(教育に関することの抜粋)

- 二 本校の教育、研究上の目的を達成するための基本的な計画に関すること。
- 五 自己点検評価・外部評価に関すること。

(出典 釧路工業高等専門学校運営会議規程)

また、平成18年度に予定している JABEE 認定に向けた取組は自己点検・評価と改善の重要な取組である。JABEE の取組は、運営会議の審議を経て設置された JABEE 準備ワーキンググループと JABEE 認定に向けた8つの小委員会が自己点検・評価活動と改善のための提言を行い、それを運営会議や教務委員会を初めとした各委員会が実現していくというシステムを構築し、進められている(資

料 9 - 1 - - 7 ) ( 資料 9 - 1 - - 8 ) ( 資料 9 - 1 - - 9 )。

資料 9 - 1 - - 7

JABEE 認定への取組が自己点検・評価活動として位置づけられることを示す資料 ( その 1 )

## 2. 教育改善のためのスパイラルアップシステムの構築について

校長から、標記の件について資料 3 に基づき提案があり、J A B E E 準備WGによる自己評価により抽出された課題に対し「課題ごとに問題解決の方策を立案するための、小委員会を必要数設置することとなった。この小委員会組織は、全教職員の参加意識と問題解決の効率性を図るという意味があり、また小委員会の立案する方策を実現する過程と今後計画される「評価委員会」や「学習・教育レビュー室」等と相まって、全体として本校のPDCAサイクルを構成する重要な要素となる旨の説明があった。なお、最初にJ A B E E 準備WGメンバーを中心とする第 1 小委員会を立ち上げ、第 2 小委員会以下の各小委員会のミッションや設置数等について早急に検討することとした。

( 出典 平成 1 6 年 6 月 2 8 日運営会議議事要録 )

資料 9 - 1 - - 8

JABEE 認定への取組が自己点検・評価活動として位置づけられることを示す資料 ( その 2 )

**資料 3**

## 教育改善のためのスパイラルアップシステムの構築について

1. 教育機関は、その使命を達成するため「教育方法の不断の改善」を図る必要があり、JABEE や認証評価への取組はそのための格好の契機である。(基本認識)
2. JABEE 準備WGでは、本校の教育システムに関し、JABEE の評価基準 1 ~ 6 に基づく自己評価を行った。
3. その結果、(このままではJABEEをクリアできない)多くの課題が抽出された。
4. 平成 1 8 年度の JABEE 受審は、本校の生き残りのため、必ずクリアしなければならない戦略的取組である。
5. 課題解決には、既存組織・従来手法による時間をかけた取組(委員会→学科→委員会→全学)では間に合わない。
6. そこで、「課題ごとに問題解決の方策を立案するための小委員会」を必要な数組織することとする。
7. 小委員会は、校長の直轄の組織とし、4 ~ 5 名程度の人数で、1 課題につき一定の期間を決めて問題解決の方策を立案する。
8. 小委員会の構成は、JABEE 準備WG委員 1 名 (JABEE の要請に関する知識がある) 及び教務委員会委員 1 名 (教務に関する知識がある) を中心に、これに校内の自薦・他薦のメンバーを加え、校長が決定する。
9. 小委員会の立案した方策は、校長の責任において、基本的にはそのとおりに委員会・学科等で実行に移される。

10. 課題を例示すれば、以下のとおり。

①学習・教育目標の継続的検討や評価・見直しの手法②学習・教育目標の公開・周知方法や理解を深めるための手法③アドミッションポリシーと選抜方法④学習・教育目標とカリキュラム、各科目の関連・対応の明確化⑤シラバス（成績評価基準、学習達成度等）のあり方⑥答案等証拠となる資料の保管に関する方策⑦学生支援システム（補習、オフィスアワー等）⑧FDの展開と効果の把握⑨教員間ネットワーク⑩外部資金獲得体制・・・・・・・・・・

11. 小委員会は、これらの課題に関し、全体的な取組の手順や緊急度により決められたミッションをそれぞれ割り振られることになる。

12. 当面の各課題に対しては上記の小委員会によりその方策を立案するが、全体としてのPDCAサイクルを構築するため、「評価委員会」、「学習・教育レビュー室」等の設置とその機能について早急に計画する。

（出典 平成16年6月28日運営会議配布資料）

資料9 - 1 - - 9

JABEE認定への取組が自己点検・評価活動として位置づけられることを示す資料（その3）

## J A B E E 情 報

### JABEEワーキンググループ議事概要

- ・ [平成17年度第2回 H17.5.9\(月\)](#)
- ・ [平成17年度第1回 H17.4.21\(木\)](#)
- ・ [第6回 H16.6.17\(木\)](#)
- ・ [第5回 H16.5.28\(金\)](#)
- ・ [第4回 H16.4.16\(金\)](#)
- ・ [第3回 H16.3.4\(木\)～22\(月\)](#)
- ・ [第2回 H15.12.18\(木\)](#)
- ・ [第1回 H15.11.11\(火\)](#)

### J A B E E 認定に向けての小委員会

#### 1. 活動の結果報告

第1小委員会	<a href="#">J A B E E 認定に向けての小委員会活動について(案)</a>
第2小委員会	<a href="#">社会ニーズ調査と学習教育目標の設定・改善</a>
第3小委員会	<a href="#">進級・卒業・J A B E E プログラムへの入学と編入学</a>
第4小委員会	<a href="#">カリキュラムの設計</a>
第5小委員会	<a href="#">公表と周知</a>
第6小委員会	<a href="#">記録保存</a>

第7小委員会	<a href="#">授業評価と改善</a>
第8小委員会	<a href="#">教育環境の整備</a>

2. 各小委員会の記録

第2小委員会 (社会ニーズ調査と学習教育目標の設定・改善)

[第6回\(平成16年11月17日\)](#)

[第5回\(平成16年10月27日\)](#)

[第4回\(平成16年10月13日\)](#)

[第3回\(平成16年9月24日\)](#)

[第2回\(平成16年9月13日\)](#)

[第1回\(平成16年8月12日\)](#)

第3小委員会 (進級・卒業・JABEEプログラムへの入学と編入学)

[第8回\(平成16年11月18日\)](#)

[第7回\(平成16年10月25日\)](#)

[第6回\(平成16年10月14日\)](#)

[第5回\(平成16年9月29日\)](#)

[第4回\(平成16年9月10日\)](#)

[第3回\(平成16年9月1日\)](#)

[第2回\(平成16年8月23日\)](#)

[第1回\(平成16年8月20日\)](#)

第4小委員会 (カリキュラムの設計)

[第8回\(平成16年11月22日\)](#)

[第7回\(平成16年11月15日\)](#)

[第6回\(平成16年10月29日\)](#)

[第5回\(平成16年10月15日\)](#)

[第4回\(平成16年9月24日\)](#)

[第3回\(平成16年9月17日\)](#)

[第2回\(平成16年9月10日\)](#)

[第1回\(平成16年8月23日\)](#)

第5小委員会 (公表と周知)

[第4回\(平成16年11月19日\)](#)

[第3回\(平成16年11月2日\)](#)

[第2回\(平成16年9月14日\)](#)

[第1回\(平成16年8月18日\)](#)

第6小委員会 (記録保存)

[第4回\(平成16年11月17日\)](#)

[第3回\(平成16年11月11日\)](#)

[第2回\(平成16年9月3日\)](#)

[第1回\(平成16年8月16日\)](#)

第7小委員会 (授業評価と改善)

[第7回\(平成16年11月12日\)](#)

[第6回\(平成16年11月5日\)](#)

[第5回\(平成16年10月15日\)](#)

[第4回\(平成16年10月6日\)](#)

[第3回\(平成16年9月22日\)](#)

[第2回\(平成16年9月13日\)](#)

[第1回\(平成16年9月3日\)](#)

第8小委員会 (教育環境の整備)

[第10回\(平成17年5月30日\)](#)

[第9回\(平成17年5月26日\)](#)

[第8回\(平成17年2月18日\)](#)

[第7回\(平成16年11月16日\)](#)

[第6回\(平成16年11月8日\)](#)

[第5回\(平成16年10月25日\)](#)

[第4回\(平成16年10月14日\)](#)

[第3回\(平成16年9月21日\)](#)

[第2回\(平成16年8月31日\)](#)

[第1回\(平成16年8月17日\)](#)

### 3. [J A B E E 認定に向けての小委員会調整会議](#)

(出典 本校ウェブサイト学内向け

<http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/kyosyoku/kyoumu/jabee/mukete.htm>)

(分析結果とその根拠理由)

教育の状況に関する資料は、各担当事務組織により十分に収集・蓄積されている。また、教務事務システムを導入することで、教務データの収集・蓄積の効率化が推進されている。自己点検・評価のみを目的とした委員会の設置はないが、運営会議において教育に関する計画、自己点検評価を審議し、運営会議の下で各種委員会が教育に関する状況について審議することが明確に定められ、それぞれを的確に実施する体制ができている。また、平成18年度のJABEE認定のための取組組織が設置され、ここでの活動を、自己点検・評価と改善の取組と位置づけている。

以上のことから、教育活動の実態を示すデータや資料は適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制は整備されている。

観点9-1- : 学生の意見の聴取(例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えら



れる。)が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

本校では平成11年度より、学生による授業評価アンケートが毎年度末に1回(高専ではほとんどの科目が1年間継続開講のため)すべての科目について実施されている(資料9-1-1)(資料9-1-2)。

資料9-1-1
関係教員各位
教務主事
平成16年度「学生による授業評価アンケート調査」(通年・後期科目分)の実施について(依頼)
標記の件について、別添のとおりアンケート用紙を配布しますので、「実施要領」に基づき調査の実施方よろしくをお願いします。
(出典 学生課資料)

資料9-1-2				
教員名 宮澤 武				
科目名 機械工作法				
2年				
	設 問	平 均	自己評価	講義平均
Q1	シラバスは授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。	3.81	4	3.43
Q2	授業はシラバスに沿って行われていた。	3.83	4	3.42
Q3	教員の熱意が感じられた。	3.74	3	3.67
Q4	教員の話し方は(声の大きさと明瞭さ)聞き取りやすかった。	3.44	3	3.66
Q5	授業は良く工夫され、わかりやすかった。	3.33	3	3.34
Q6	プロジェクタ、ビデオ、プリント、教科書等補助教材の利用が適切で理解に役立った。	3.8	4	3.48
Q7	教員は効果的に学生の参加(発言、作業、私語・居眠りに対する注意など)を促した。	3.72	4	3.56
Q8	教員は学生の質問・発言等に明快に答えてくれた。	3.56	3	3.63
Q9	小テスト・演習・課題・定期試験の解説・添削は適切で理解に役立った。	3.43	4	3.42
Q10	この授業の難易度は適切であった。 5.適切 4.ほぼ適切 3.やさしい 2.やや難しい 1.難しい	3.14	4	3.19
Q11	この授業の試験点数(素点)は、小テスト・定期試験含めて100点満点で平均( )であった。 5.100~90点 4.89~70点 3.69~50点 2.49~30点 1.29点以下	3.5	3	3.38
Q12	この授業の理解の程度は( )程度であった。 5.100% 4.80% 3.60% 2.40% 1.20%	3.25	3	3.18
Q13	この授業の自分の欠席率は( )程度であった。 5.欠席なし 4.5%以下 3.5~10% 2.10~20% 1.20%以上	4.33	4	4.38
Q14	質問、発言、演習、宿題、予習などにより、あなたはこの授業に積極的に参加したと思いますか。	3.51	3	3.32
(出典 学内向けウェブサイト)				

これらアンケート結果は集計データとして各担当教員にフィードバックされ、各教員は授業改善レ

ポートの作成及び教務委員会への提出が義務付けられている（資料 9 - 1 - - 3）。

資料 9 - 1 - - 3

(6) 授業評価アンケートについて

委員長から、先日配布したアンケートの集計結果に誤りがあったため後日配布し直してから、各教員に改善策を6月末までに教務係へ提出していただきたい旨発言があり、審議の結果、了承された。

（出典 平成16年5月10日教務委員会議事概要）

学生の意見をよりよく聴取するために、教務委員会において設問内容を継続的に検討し、改定を重ねながら授業評価アンケートを実施している（資料 9 - 1 - - 4）。

資料 9 - 1 - - 4

(5) 学生による授業評価アンケートについて

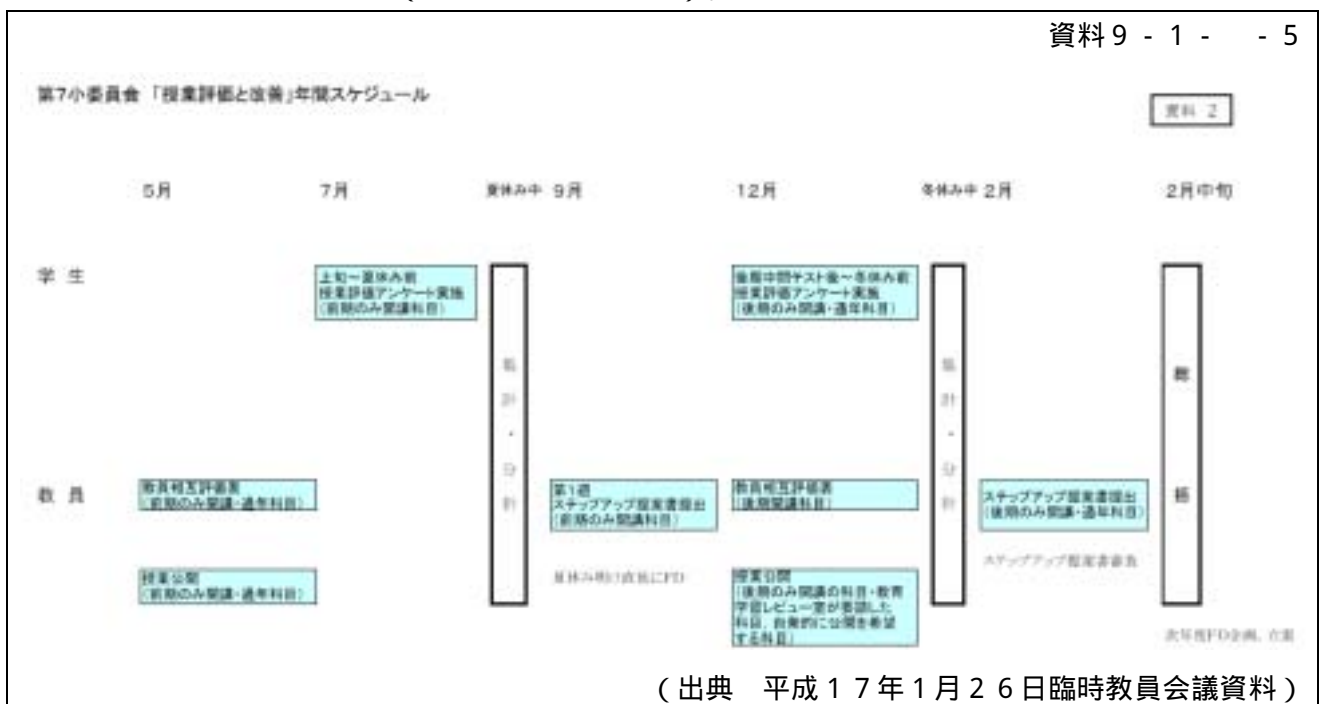
委員長から、本年度もアンケート調査を行う旨の説明があり、審議の結果、了承された。

なお、昨年度分アンケートに対する回答の公開方法及び本年度のアンケート項目については今後検討していくことで、了承された。

（出典 平成15年4月2日教務委員会議事概要）

さらに、平成17年度からは教育学習レビュー室の取組として、教務委員会に集約された授業改善レポートを同室が内容を精査し、教員のヒアリング、優秀モデルの公開授業実施等によって教育改善に反映するシステムを構築した（資料 9 - 1 - - 5）。

資料 9 - 1 - - 5



(分析結果とその根拠理由)

学生の意見聴取は授業評価アンケートとして毎年度末すべての科目について実施されている。また、その集計結果は各教員にフィードバックされ、教員による授業改善レポートに反映される。さらに、教育学習レビュー室においてレポートの内容を精査し、教員のヒアリング等によって教育改善に反映するシステムがある。

以上から、学生の意見聴取は適切に実施されており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切に反映されている。

観点9 - 1 - : 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）  
の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

本校では、平成13年度に自己点検・評価、外部評価を行い、さらに、外部評価の提言に対する取  
組みを表明する形での自己点検・評価報告書を作成し、公表した（資料9 - 1 - - 1）（資料9  
- 1 - - 2）（資料9 - 1 - - 3）。

資料9 - 1 - - 1

平成13年度実施の自己点検・評価報告書「釧路高専の現状と課題」

# 釧路高専の現状と課題

—自己点検・評価報告書—

平成13年1月

釧路工業高等専門学校

（出典 報告書）

平成 13 年度実施の外部評価報告書

# 外部評価報告書

平成13年3月

釧路工業高等専門学校

( 出典 報告書 )

資料 9 - 1 - - 3

平成 13 年度実施の自己点検・評価報告書「外部評価の提言に対する取組」

# 外部評価の提言に 対する取組

—自己点検・評価報告書—

平成14年3月

釧路工業高等専門学校

( 出典 報告書 )

平成14年度より保護者による授業参観を実施，また，J A B E E 認定に向けた小委員会の取組として、第2小委員会において、在校生・卒業生及び就職先企業等を対象に社会ニーズ調査を実施中である。本校卒業生の状況及び企業が求める教育等に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を基に、学習・教育目標に関する見直し・改定などを行う予定である。現在は、アンケートの回収を終え、集計作業を行っているところである（資料9-1- - 4）（資料9-1- - 5）。

資料9-1- - 4

### 平成16年度保護者授業参観実施要領

#### 1 . 目的

- 1 ) 保護者に高専の授業に対する認識を深めてもらう。
- 2 ) 授業公開による教官及び学生の緊張感を喚起し、FD の向上に資する。
- 3 ) 参観保護者のアンケートに基づいて授業方法改善の契機とする。

#### 2 . 実施要領

- 1 ) 実施日：平成16年11月6日（土）1～4時限目（特別時間割）
- 2 ) 保護者への「授業参観のお知らせ」
- 3 ) 当日受付にて

・校長挨拶文の配布

・「授業時間割」、「教室一覧」及び「参観についてのお願い」の配布

・アンケート用紙の配布

・外来者のネームプレートの着用

・講義内容に応じて、「授業に関する保護者へのメッセージ」\*（フォーマット自由、各教室5～10部程度準備）をA4版1枚程度にまとめたものを準備し、講義室入口に置く。また、入室に抵抗の無いように、教室入口は開放とする。

\* < メッセージの記載内容例 >

講師の名前、所属、担当教科、担当部活顧問、この授業について知ってほしいこと（授業の方針や目標、工夫している点など）を親しみやすい文章で説明。

・原則としてすべての授業を参観対象とする。（実験、実習、製図及び演習等を含む。）

・アンケート集計後、教務委員会において次回に向けての反省と検討を行う。

（出典 平成16年9月3日教務委員会議事概要）

以下の設問について、別紙マークシート用紙に鉛筆で該当ナンバーをマークして下さい。

### 1. 卒業生の皆様について

(1) 卒業学科をお聞かせ下さい。

①機械工学科 ②電気工学科 ③電子工学科 ④情報工学科 ⑤建築学科

(2) 年齢をお聞かせ下さい。

①20代 ②30代 ③40代 ④50代

(3) 勤務先の所在地をお聞かせ下さい。

①釧路市近郊 ②札幌市近郊 ③その他道内 ④関東地区 ⑤関西地区  
⑥その他の地域

(4) 勤務先の業種をお聞かせ下さい。

①建設業 ②製造業 ③電気・ガス・水道業 ④情報通信業 ⑤運輸業  
⑥卸売・小売業 ⑦サービス業 ⑧公務員 ⑨その他

### 2. 卒業生の皆様の在学中の教育について

(1) 教育内容・時間に対する満足度についてお聞かせ下さい。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①大変満足 ②ある程度満足 ③どちらともいえない ④少し不満  
⑤かなり不満

(2) 社会に出てから役立っていますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①非常に役立っている ②ある程度役立っている ③あまり役立っていない  
④全く役立っていない ⑤どちらともいえない

### 3. 今回送付した JABEE プログラムについて

(1) 本校の教育プログラム名「生産情報システム工学」の理念は、理解できますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①よく理解できる ②ある程度理解できる ③どちらともいえない  
④あまり理解できない ⑤全く理解できない

(2) 認定を受けようとする本校の教育プログラム「生産情報システム工学」の名称は適切であると思いますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①非常に適切である    ②ある程度適切である    ③どちらともいえない  
④あまり適切でない    ⑤全く適切でない

(3) 7つの学習・教育目標の内容はどう思いますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①大変良い    ②少しよい    ③どちらともいえない    ④少し悪い    ⑤悪い

#### 4. 卒業生の皆様の資格・検定試験等について

(1) 社会人として活躍する上で、今後資格取得の重要度はどう思いますか。

- ①かなり増す    ②やや増す    ③どちらともいえない    ④やや減る    ⑤かなり減る

(2) 既に取得されている資格はありますか。別表よりお選び下さい。

(複数回答可、最大5つ重要と思われるもの)

(3) 業務上取得した方が良いと思われる資格はありますか。別表よりお選び下さい。

(複数回答可、最大5つ重要と思われるもの)

(4) 皆様の勤務されている会社で、実用英語検定と TOEIC のどちらを重要視していますか。

- ①実用英語検定    ② TOEIC

(5) 皆様の勤務されている会社で、専攻科修了の新入社員としては、(4) で選択した実用英語検定または TOEIC でどの位のレベルを期待されますか。

- ①英検 2 級    ②英検準 2 級    ③英検 3 級    ④ 220 ～ 300 点程度  
⑤ 301 ～ 399 点程度    ⑥ 400 ～ 470 点程度    ⑦ 470 点以上    ⑧その他

(6) 現在の皆様の立場で、専攻科修了新入社員に要求していること(されていること)があれば、お聞かせ下さい。(マークシートの自由記述欄に記入してください。)

お忙しい中アンケートにご協力ありがとうございました。このアンケート結果については、本校の社会から必要とされる学生教育の参考にさせていただきます。



## 就職先企業等に対するアンケート

以下の設問について、別紙マークシート用紙に鉛筆で該当ナンバーをマークして下さい。

### 1. 貴社について

(1) 貴社の所在地をお聞かせ下さい。

- ①釧路市近郊    ②札幌市近郊    ③その他道内    ④関東地区    ⑤関西地区  
⑥その他の地域

(2) 貴社の業種をお聞かせ下さい。

- ①建設業    ②製造業    ③電気・ガス・水道業    ④情報通信業    ⑤運輸業  
⑥卸売・小売業    ⑦サービス業    ⑧公務員    ⑨その他

### 2. 専攻科について

(1) 本校で専攻科が平成16年4月に発足したことをご存じですか。

- ①知っている    ②他の高専は知っている    ③専攻科を知らない

(2) 高専の専攻科修了生を採用したことがありますか。

- ①採用した    ②採用したことがない

(3) 今後、採用したいと思われますか？

- ①採用したい    ②採用を検討    ③採用しない

### 3. JABEE について

(1) 日本技術者教育認定制度 (JABEE) をご存じですか。

- ①知っている    ②知らない

(2) 日本技術者教育認定制度 (JABEE) のような高等教育機関の教育水準を認定する制度は必要と思われますか。

- ①非常に必要    ②ある程度必要    ③どちらともいえない  
④あまり必要ない    ⑤全く必要ない

(3) 貴社は、高専卒の新入社員を採用する際、日本技術者教育認定制度 (JABEE) の認定を受けた高専を優先的に考慮されますか。

- ①非常に考慮する    ②ある程度考慮する    ③どちらともいえない  
④あまり考慮しない    ⑤全く考慮しない

### 4. 本校の教育プログラムについて

(1) 教育プログラム名「生産情報システム工学」の理念は、理解できますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①よく理解できる    ②ある程度理解できる    ③どちらともいえない  
④あまり理解できない    ⑤全く理解できない

(2) この教育プログラム名は、適切なものと思われませんか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①非常に適切である    ②ある程度適切である    ③どちらともいえない  
④あまり適切でない    ⑤全く適切でない

## 5. 本校の七つの学習・教育目標について

(1) 学習・教育目標①「(技術者として社会に貢献するために) 人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球規模で社会問題や環境問題を考える能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する能力を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①水準よりかなり上    ②水準よりやや上    ③水準程度  
④水準よりやや下    ⑤水準よりかなり下

(2) 学習・教育目標②「(地域社会に貢献するために) 実践的な体験を通して、地域の産業や社会の抱える課題に対して対処できる能力を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①水準よりかなり上    ②水準よりやや上    ③水準程度  
④水準よりやや下    ⑤水準よりかなり下

(3) 学習・教育目標③「(多様な技術的課題を解決できるように) 工学の幅広い基礎知識(数学、自然科学、情報技術、基礎工学など)を修得し、それを応用する能力を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①水準よりかなり上    ②水準よりやや上    ③水準程度  
④水準よりやや下    ⑤水準よりかなり下

(4) 学習・教育目標④「技術者としての自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

- ①水準よりかなり上    ②水準よりやや上    ③水準程度  
④水準よりやや下    ⑤水準よりかなり下

(5) 学習・教育目標⑤「多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする能力を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①水準よりかなり上 ②水準よりやや上 ③水準程度

④水準よりやや下 ⑤水準よりかなり下

- (6) 学習・教育目標⑥「文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①水準よりかなり上 ②水準よりやや上 ③水準程度

④水準よりやや下 ⑤水準よりかなり下

- (7) 学習・教育目標⑦「(技術の進展や社会の変化に対応できるように) 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。」を達成していれば、一般的に「社会の要請する水準」以上の学士と言えますか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①水準よりかなり上 ②水準よりやや上 ③水準程度

④水準よりやや下 ⑤水準よりかなり下

- (8) 全ての学習・教育目標を達成していれば、専攻科修了の技術者として貴社の新入社員の資質は十分満足していると思われませんか。また、何かご意見がございましたら、自由記述欄にご記入願います。

①十分満足 ②ある程度満足 ③どちらともいえない

④あまり満足できない ⑤不満

## 6. 英語・英会話能力について

- (1) 貴社は、実用英語検定と TOEIC のどちらを重要視しますか。

①実用英語検定 ② TOEIC

- (2) 貴社は、専攻科修了の新入社員として、(1)で選択した実用英語検定または TOEIC でどの位のレベルを期待されますか。

①英検 2 級 ②英検準 2 級 ③英検 3 級 ④ 220 ～ 300 点程度

⑤ 301 ～ 399 点程度 ⑥ 400 ～ 470 点程度 ⑦ 470 点以上 ⑧その他

## 7. 資格取得について

- (1) 貴社が専攻科修了新入社員を採用する場合、事前に取得してもらいたい資格はありますか。別表よりお選び下さい。(複数回答可、最大 5 つ重要と思われるもの)

- (2) 貴社が専攻科修了新入社員を採用する場合、採用後に取得してもらいたい資格はありますか。別表よりお選び下さい。(複数回答可、最大 5 つ重要と思われるもの)

## 8. その他に貴社で専攻科卒新入社員に要求することがありましたらお聞かせ下さい

お忙しい中アンケートにご協力ありがとうございました。このアンケート結果については、本校の社会から必要とされる学生教育の参考にさせていただきます。

( 出典 J A B E E 第 2 小委員会資料 )

平成 1 6 年度には、外部の有識者から意見を聞くための組織として運得諮問委員会を設置した(資料 9 - 1 - - 6 ) ( 資料 9 - 1 - - 7 ) ( 資料 9 - 1 - - 8 )。

資料 9 - 1 - - 6

( 設置 )

第 1 条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、釧路工業高等専門学校運営諮問委員会(以下「諮問委員会」という。)を置く。

( 目的 )

第 2 条 諮問委員会は、校長の諮問に応じ本校運営上の重要事項を審議し、校長に対し意見を述べる。

2 校長は、諮問委員会からの意見を、本校の運営に反映させるものとする。

( 審議事項 )

第 3 条 諮問委員会は、次の各号に掲げる事項について、審議する。

( 1 ) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項

( 2 ) 教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項

( 3 ) その他本校の運営に関する重要事項

( 組織 )

第 4 条 諮問委員会は、本校の教職員以外の者で、高等専門学校に関し見識を有する者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

( 委員長 )

第 5 条 諮問委員会に委員長を置き、その委員長は委員の互選をもって充てる。

2 委員長は、諮問委員会の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

( 任期 )

第 6 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

( 開催 )

第 7 条 諮問委員会は、委員長が招集し開催する。

( 委員以外の者の出席 )

第 8 条 諮問委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

( 審議状況の公表 )

第 9 条 校長は、諮問委員会の審議状況を、広く周知を図ることができる方法によって公表しなければならない。

( 事務 )

第 10 条 諮問委員会の事務は、庶務課において処理する。

( 雑則 )

第 11 条 この規則に定めるもののほか、諮問委員会の運営に関し必要な事項は、諮問委員会が定める。

( 出典 釧路工業高等専門学校運営諮問委員会規程 )

資料 9 - 1 - - 7

運営諮問委員会委員名簿

( 出典 別添学校要覧 6 頁 )

資料 9 - 1 - - 8

第 1 回運営諮問委員会の内容を示す資料

## 第 1 回運営諮問委員会

日 時 平成 1 7 年 2 月 2 3 日 ( 水 )  
1 4 時 3 0 分 ~  
場 所 会 議 室

### 協 議 題

「本校の現状と今後のあり方について」

### 配 付 資 料

1. 釧路高専の現状説明
2. 教育活動の現状 ー説明資料集ー
3. 釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画

### 参 考 資 料

1. 平成 1 6 年度学校要覧
2. 教員シーズ集 2 0 0 4 年度版

# 教育活動の現状

－ 説明資料集 －

平成17年2月23日

釧路工業高等専門学校

— 目 次 —

こんな「あなた」に来てほしい！（釧路高専アドミッションポリシー）	1
釧路高専志願倍率	2
入学志願状況	3
地域別志願者数	4
平成17年度学力検査による入学者の選抜志願状況	5
平成17年度推薦による入学者の選抜志願状況	6
釧路市内の中学校別志願者数（推薦志願者含む）	7
出身地別入学者状況	8
中学校訪問の実施状況	9
地域別入試説明会の参加者数	10
高専見学会の実施状況（平成12年度～16年度）	11
体験入学（平成16年度～ 全学科実施）	12
体験入学参加者数	13
平成16年度 地域貢献一覧	14
高等学校からの編入学者の推移	15
教育課程表（一般科目）	16
"    （機械工学科）	17
"    （電気工学科）	18
"    （電子工学科）	19
"    （情報工学科）	20
"    （建築学科）	21
専攻科教育課程表（建設・生産システム工学専攻）	22
"    （電子情報システム工学専攻）	23
学生による授業評価アンケート（例）	24
「授業評価と改善」年間スケジュール	25
シラバス（例）	26
原級・退学者一覧	27
入学から卒業までの学生数の推移	28
インターンシップ派遣実績	30
卒業生数	31
釧路高専卒業者の大学3年次編入学等の状況	32
卒業者の進路状況	33
学科別進路状況一覧	34

運営諮問委員会進行メモ（部長用）

進行めやす時刻 & 事項	部長発言（予定）内容
<p>14:30 (開会)</p> <p>(校長挨拶)</p>	<p>ただいまから、第1回釧路高等専門学校運営諮問委員会を開催させていただきます。私は、委員長選出までの間、進行を勤めさせていただきます事務部長の小松でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに開催に当たりまして本校校長木谷よりご挨拶を申し上げます。</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
<p>14:40 (委員紹介)</p>	<p>本日まで出席いただいております委員のみなさまをご紹介します。</p> <p>右手奥側から順にご紹介いたします。</p> <p>釧路市教育委員会教育長      上原 丈和      様です。</p> <p>釧路市小中学校校長会 中学校部会 事務局長 (釧路市立景雲中学校長)      近江 道郎      様です。</p> <p>釧路市副市長      折原 勝      様です。</p> <p>釧路高専同窓会長      財原 直人      様です。</p> <p>島本鉄工（株）代表取締役      島本 幸一      様です。</p> <p>北見工業大学長      常本 秀幸      様です。</p> <p>釧路商工会議所専務理事      濱屋 重夫      様です。</p> <p>釧路高専後援会長      藤田 勝      様です。</p>



14:45

つづきまして、本校の教職員を紹介いたします。

(あたらめて) 校長 木谷 勝 でございます。

副校長・教務主事 (機械工学科) 宮 澤 <sup>たけし</sup>武 教授です。

学生主事 (一般教科) 三 島 <sup>としき</sup>利 紀 助教授です。

寮務主事 (一般教科) 小田島 <sup>もとあり</sup>本 有 教授です。

校務主事 (電子工学科) 中 村 隆 教授です。

一般教科主任 <sup>おそがみ</sup>恐 神 <sup>くにひで</sup>邦 秀 教授です。

機械工学科主任 (代理) 山 岸 英 明 教授です。

電気工学科主任 小 林 <sup>がすよし</sup>一 義 教授です。

電子工学科主任 坂 田 <sup>あつし</sup>篤 教授です。

情報工学科主任 神 谷 <sup>あきもと</sup>昭 基 教授です。

建築学科主任 依 田 <sup>ゆうこう</sup>有 康 教授です。

(事務部長 小 松 忠)

庶務課長 小 山 幸 弘 です。

会計課長 佐 藤 満 晴 です。

学生課長 栗 原 智 です。

14:50  
(資料確認)

次に、本日お配りしております資料の確認させていただきます。

- ①「第1回運営諮問委員会」と書かれた本日のレジュメ、  
委員会委員名簿、本校側の出席者名簿、委員会規則、会場図  
の5枚をセットにしたもの
- ②「釧路高専の現状説明」と書かれたパワーポイント原稿
- ③「教育活動の現状—説明資料集—」
- ④「釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画」

なお、この②③④の3点の資料は、あらかじめ郵送させていただいていたものでありますが、本日あらためて配布させていただいております。

また、参考資料として

「平成16年度版学校要覧」と「教員シーズ集2004年度版」  
をお配りしております。

14:53  
(委員長選出)

それでは、次に委員長を選出いただきたいと存じます。規定によりますと「第5条 諮問委員会に委員長を置き、その委員長は委員の互選による。」となっております。どなたか、ご発言はありませんでしょうか。

**\*商工会議所 濱谷 氏 , 教育委員会 上原 氏 から  
北見工大 常本学長を推薦する旨の発言がある予定。**

14:55  
(委員長挨拶)

ただいま、北見工大の常本先生を委員長にというご発言がありました。他にご発言がなければ、委員長には常本先生を選出いたしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

それでは、常本先生、中央の議長席へ移動をお願いいたします。これ以降は、常本委員長の進行で議事を進めていただきたいと存じます。では、先生よろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

15:00  
(協議開始)

〈 以下は、常本委員長による進行 〉

本校の現状説明及び中期目標・中期計画に関する説明(宮沢副校長)

〔以下現状説明事項(骨子)〕

- 釧路高専の現状説明(教育を中心に)
  - 沿革、組織
  - 教育理念、養成すべき人材像、学習・教育目標
  - 教育活動の現状
    - ・ 学生の受け入れ
    - ・ カリキュラム編成
    - ・ 教育指導のあり方
    - ・ 教育内容の見直しと工夫・改善
    - ・ 成績評価、単位認定
  - ・ 卒業生の進路
- 中期目標・中期計画に関する説明
  - 釧路高専の中期目標・中期計画(中期目標・中期計画ってなに?)
  - 中期目標・中期計画(構成)
  - 当面の取組(いくつかの例)
  - ・ JABEE 受審
  - ・ 教員の質の向上(学位取得の取組)
  - ・ 運営諮問委員会の設置(これも中期計画中に折込ずみのこと)

15:30  
(意見交換)

16:30  
~17:00  
(校長挨拶)

『平成17年には、大学評価・学位授与機構による高専認証評価が本校を対象に行われる。このため、本校では来年度前半に「自己点検・評価」を実施する。第2回目の運営諮問委員会は、この「自己点検・評価」に対する検証を中心にご意見をいただくことを考えている。』  
こととお話する。&謝辞。  
終了(解散)

〔\*時間と希望者がいれば、学内施設案内〕 ←特に案内しない

- 4 -

(出典 運営諮問委員会次第・説明資料・庶務課資料)

運営諮問委員会における提言は、運営会議での審議を経て、適切な委員会やJABEEの小委員会または新たに設置するワーキンググループに付託して自己評価に反映させ、対応を企画・立案し実施に移すこととしている。第1回の同会議は本年2月に開催されており、現在はその記録を作成中である。

(分析結果とその根拠理由)

平成13年度の自己点検・評価では、外部評価とその提言に対する取組を取りまとめ、改善に資することができた。以降は、保護者による授業参観やJABEEの取組の一環として卒業生・就職先企業に対するアンケート調査を実施し、その意見を取り込むための取組を行っている。運営諮問委員会を設置し、有識者の意見を聴く仕組みを整備したが、現在はその取りまとめ最中で、自己点検・評価に反映させるまでには至っていない。

以上により、学外関係者の意見を教育の状況に関する自己点検・評価へ反映させる取組が行われている。

観点9-1- : 各種の評価(例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点到に係る状況)

本校では、運営会議の統括の下、各種委員会がそれぞれ分野ごとに責任を持って継続的な評価・改善を行っている。

教育学習レビュー室では、平成17年度より教員相互の授業参観によって相互評価を行うシステムを制定した。これにより、学生及び教員という異なる視点からの評価を総合して教育改善を行うシステムを構築した。(資料9-1--1)

資料9-1--1

授業公開実施要領

平成17年5月12日  
教育学習レビュー室第1部会

1. 目的

・学内で通常の授業を公開し、教員が互いに参観・評価し合うことで、それぞれの参考にし、授業の質的向上をはかることを目的とする。

2. 参観者

・本校教員及び技術職員

3. 実施期間

・平成17年5月16日 ~ 27日

4. 実施方法

・全教員の全授業(卒業研究を除く)を公開する。

・所属学科及び他学科の授業をそれぞれ1つ以上参観し、配布済みの「評価表」に記入し、学生課教務係へ提出する。

・教育学習レビュー室第1部会で評価表を集計し、結果を後日公開する。

5. 備考

・授業公開は教育レビュー室第1部会において企画し、教務委員会主体で実施する。

(出典 学内向けウェブサイト)

教育課程の見直しは教務委員会の所管事項である。平成14年3月にまとめられた自己点検・評価報告書「外部評価の提言に対する取組」（資料9-1-3参照）以降学科ごとにカリキュラム改定努力が続けられている。外部評価による提言の内容と、これに対する現在の状況との関連を次に示す（資料9-1-2）。（次頁）

資料 9 - 1 - - 2

提 言	学科名	対 応 策 等
留年退学者の減少策(ストレート卒業者の向上)	各学科共通	・放課後、土日等に個別に補習・補講を行っている。 ・学級担任が土日等にクラス全体で勉強会等を行っている。 ・平成17年度より毎週月曜日の8・9時限目にオフィスアワーを実施している。 ・1学年学生に対し、数学の補講を行っている。
	機械工学科	・毎年4月に機械工学科全学生に対しガイダンスを実施し、留年・退学者がでないよう注意喚起を行っている。 ・平成15年度頃より年2回、クラス担任を交えて機械工学科の連絡会議を行い、情報交換を行っている。 ・平成16年度よりオフィスアワーを実施している。
	電気工学科	・編入学生に対し、補講・補習を行っている。
	電子工学科	・平成17年度より2・3学年学生に対し、数学の補講を行っている。
	情報工学科	・前年度までは一年生の成績不振の学生に対して復習・補講を行っていたが、今年度より、復習と同時に前期末試験対策補習も行う。 ・今年度より、4学年の編入学生に対して夏季休業中に数学を中心とした補習を行う。
	建築学科	・平成17年度から1学年に対して学科独自で数学の補習を実施している。

提 言	対 応 策 等
シラバスに成績評価の仕方を明記すべき	・成績評価の方法は記載されていたが、提言後は定期試験・レポート・演習問題等の評価割合などを詳しく明記することとした。
シラバスに授業の目的と期待される効果の項を充実	・「授業の目的と期待される効果」の項を、「授業の目標と概要」と「到達目標」の2つの項に分け、より一層充実した内容を記載できるようにした。
シラバスに毎週実施する授業内容までは不要	・毎週実施する概要・内容欄を、4半期ごとに実施する項目、それに対する達成目標に止め簡略化を図った。

学科名	提 言	平成13年度現在における対応及び改善策	平成14年度からの対応及び今後の改善策
機械工学科	ロボット、メカトロニクス、コンピュータ関連科目の不足	コンピュータ関連科目も単位の観点からは、バランスが取れていると考えているが、内容については今後も少しずつ見直していく必要がある。特にコンピュータリテラシーが新年度1学年に開講するので、今年度までの情報処理のシラバスの変更が必要である。またロボット・メカトロニクスの充実に関しては、従来の専任教員の専門分野や非常勤講師の確保の困難さから直ちに対応できない。このために伝統的な分野の科目も含めて、開講科目の思い切ったスクラップ・アンド・ビルドが必要である。中期的な視野でこれらの科目の導入も含めて、機械工学科の教育体制と内容を刷新する予定である。	・平成14年度からソフトウェア関連科目として「コンピュータリテラシー」を1学年に開講。 ・平成17年度より、メカトロニクスの内容を4学年の「電気電子工学」の中で実施している。 ・ロボットの内容を1学年の実習の中に「ロボットの基礎」をテーマ設定し実施している。 ・平成13年度に報告をしていなかったが、3学年の「工学実験」の中で、メカトロ及びロボットの内容を実施している。
電気工学科	ソフト関連科目の不足、カタカナ科目	平成14年度からソフトウェア関連科目として「コンピュータリテラシー」を1学年に開設するほか、ソフト関連科目の不足については、現在「情報処理」の非常勤講師担当を電気工学科専任教員の担当科目に変更し、他の科目との連携強化をはかることを検討している。授業・実験実習・卒業研究などにおける創意工夫で、ソフト関連科目の不足な面も補っていきたい。 カタカナ科目についても、今後のカリキュラム編成過程の中で検討する。	・平成14年度からソフトウェア関連科目として「コンピュータリテラシー」を1学年に開講。 ・平成16年度から「情報処理」を電気工学科専任教員の担当科目とし、実習時間を増やした。 ・カタカナ科目は増えていないが、今後のカリキュラム編成過程の中で検討し、必要に応じて科目名の変更を行う。
電子工学科	カリキュラムにおけるソフトウェア科目の不足	ハードウェアとソフトウェアを総合した観点から全体のカリキュラムを構成しているため、現状においてもソフトウェア科目が不足しているわけではないと考えるが、今後も時代の変化に即応した内容展開などを検討し、より一層カリキュラムを充実するように努力したい。	・社会のニーズに即応した教育を行えるよう、今後も一層カリキュラムを充実するように努力したい。
情報工学科	ハード関連科目の不足	情報工学科の学生として、コンピュータのハードウェアにさらに親しめるよう、第1学年入学時にコンピュータの部品セット(4万円程度)を全員に購入させ、自ら組み立て、学校の実習を行える環境を作成させる実験を行う計画を立案している。 実験終了後は、学生が自宅に持ち帰り、ディスプレイを買い足すことにより、学校での実験・実習・の復習などに使えるようになり、情報の学生のハードウェアに対する興味を深められると考えている。 また、平成14年度第3年次の学生に履修させるコンピュータネットワークは、ソフトウェアとともに、ハードウェアが重要な科目であり、ハードウェアを利用した実習も行われるので、指摘に対する十分な改善を平成14年度以降に実施できると考えている。	・平成14年度より、ハードウェアにさらに親しめるよう、1学年入学時にコンピュータを購入させ、ハードウェアの組み立てとOSソフトウェアのインストールを行わせることにより、ハードウェアの教育を行う。 ・コンピュータネットワークの科目はソフトウェアとともにハードウェアが重要な科目であり、平成14年度に3学年にコンピュータネットワークを、H15年度に4学年にコンピュータネットワークIIを新規に開講した。

(出典 本自己評価のための作成資料)

また、現在本校では、JABEE認定のための小委員会による自己点検・評価に基づき、種々の教育システムの見直し・改訂を行っているところである。これにより、たとえばTOEICスコア目標の設定、JABEE認定のためのカリキュラム改定に伴う新科目（中国文化・韓国文化）の開講など、教育課程や教育方法の改善が行われている。

（分析結果とその根拠理由）

教員相互の授業参観が行われ、相互評価を行うことにより教育改善が行われている。これらは、改善のシステムとして定着し、整備されている。教育課程の見直しは自己点検・評価に基づき、毎年度継続的に行われている。さらに、現在は、JABEE 受審に関連して、JABEE 認定に向けての小委員会の取組として自己点検・評価が行われ、教育システムや教育課程の改善方策が継続的に講じられている。

観点 9 - 1 - : 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

学生による授業評価アンケートの集計、担当教員へのフィードバック、教員による授業改善レポートの作成・提出の義務付け等については前述のとおりである。（資料 9 - 1 - - 1）

これにより、各教員は継続的な教授技術の改善、授業内容、教材の検討・改善に努めている。今年度からは授業改善レポートを教育学習レビュー室において通読し、個々の教員の改善に対する取組状況を精査するシステムを構築している。教員相互の授業参観結果についても、各教員にフィードバックされるシステムがあり、各教員はこれをもとに教育方法改善を行っている。（前出資料 9 - 1 - - 3）

授業評価アンケートの集計及び各教員へのフィードバック作業、授業改善レポートの提出はすべて教務委員会及び教育学習レビュー室が指導・掌握しており、具体的には学生課教務係が事務作業を行っている。

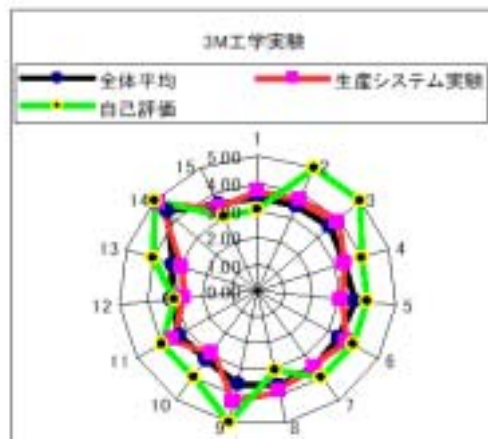
資料 9 - 1 - - 1

16年度授業評価アンケートに対する授業改善対策

担当教員 機械工学科 宮澤 武

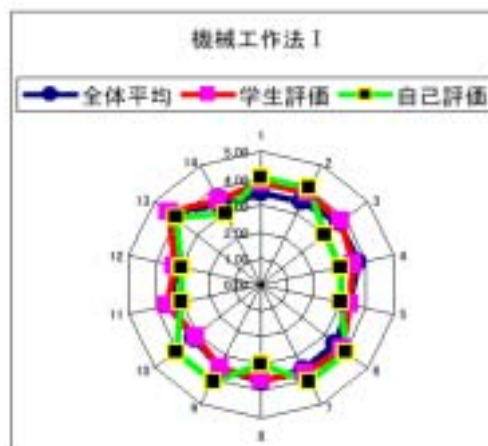
【 3M 工学実験 】

全体として学生評価は全体平均を上回っており、下回った項目は 5.助言、及び 12.難易度、13.理解度の 3 項目である。実験内容は、コンピュータプログラム作成及びメカトロニクスであるため学生にとっては慣れていないテーマであり、難しく感じるとともに、理解度が低い評価となったものと思う。また、5助言の点ではプログラミングというテーマから、出来るだけ助言よりも個人的な解決を指示していたので、助言を受けにくいと評価されたものと考えられる。しかし、実験内容はレポートのまとめによれば、おおむね高い評価を得ていると考えられ、学生の興味ある授業であったと思う。



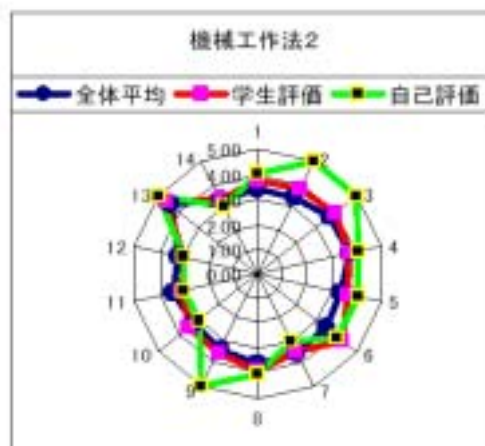
【 機械工作法 1 】

この科目の特殊性から、出来るだけ視聴覚機器を使用し説明は初学者向けに易しく説明することを心がけた。そのため、評価はおおむね全体平均を上回り、自己評価よりも学生評価が上回っている項目も多い。授業はプロジェクトを使用して教科書の内容をまとめる内容とし、資料もプリント配布した。しかし、授業中プロジェクトのみを注視させるのは学生にとって苦痛のようで、途中より、毎回授業内容の要点を学習ノートに記載させ、A-D ランクで評価することとした。そのため、学生の居眠りが少なくなり、集中してメモを取るようになったと思う。これが評価につながったと考えている。



【 機械工作法 2 】

工作法 1 と同様の手法で授業を行った。やはり全体平均を上回る評価が得られたが、11.試験点数、12 理解度で平均を下回る結果となっている。しかし、総体的に15年度のこの科目の評価に比べて大幅に評価が上昇した。この原因は、15年度不評であったプロジェクト資料の内容変更と、学習ノートによる要点をまとめる授業方法を取り入れたことにより、学生が授業時間内で、十分集中して授業を受けてくれたものと考えられる。しかし、学生への質問や課題の与え方でまだ改善の余地があり、17年度はこの点に注意して授業を進めている。



(出典 学内向けウェブサイト)



さらに、授業改善レポートのうち、内容が不十分なものについては、担当教員に対して、校長、教務主事、当該学科主任によりヒアリングを行い、指導する体制ができている（9 - 1 - - 2）。

資料 9 - 1 - - 2

教育学習レビュー室の設置と業務（案）

（略）

活動の内容 第 1 部会は授業改善について以下のことを行う。

授業改善について

- ・アンケート（学生アンケート、ステップアップ提案書）の配布と集計。
- ・教員相互評価表の配布と集計。
- ・ステップアップ提案書の配布と回収、及びその内容の確認を行う。
- ・ステップアップ提案書の記載事項が不足する教員のヒアリングを企画立案する。

（略）

活動の方法

- ・アンケートや教員の自己評価の取りまとめには事務スタッフとして学生課の職員を配置する。
- ・レビュー室の負担をあまり重くならないようにするため、授業公開については教務委員会に進言し、教務委員会主体で実施できる。
- ・ヒアリングの実施方法は以下とする。
- ・校長、教務主事、当該学科主任の 3 者がヒアリングを行う。
- ・ステップアップ提案書の体裁が不完全なだけなら、レビュー室から返却し、再提出してもらう。
- ・ステップアップ提案書の内容が前年度と全く同じであったり、改善策が書かれていない場合は対象者とする。

備考上記事項について変更の必要が生じた場合には、審議の上決定できる。

（出典 J A B E E 第 7 小委員会活動の結果報告）

（分析結果とその根拠理由）

評価結果に基づく改善作業が教務委員会および教育学習レビュー室の指導により各教員において継続的に行われている。また、教員の改善レポートは教務委員会・教育学習レビュー室が掌握している。さらに、校長等によるヒアリングにより教員を指導する体制をとっている。

以上により、個々の教員は、評価結果に基づく継続的な教育改善を十分に行っており、個々の教員の改善活動状況は学校として十分把握している。

観点 9 - 1 - : 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点到係る状況）

教員の研究活動の状況は、研究紀要において集計されている（資料 9 - 1 - - 1）。

資料 9 - 1 - - 1

研究活動の状況（集計）の掲載箇所

（出典 紀要巻末集計 <http://www.kushiro-ct.ac.jp/>）

（本校ウェブサイト）

教員の研究活動の教育への反映の主たる内容は、本科卒業研究、専攻科特別研究における研究指導

である．教員の研究活動とこれら研究指導テーマの一覧を以下に示す（資料 9 - 1 - - 2）。

資料 9 - 1 - - 2

卒業研究テーマ・キーワード・担当教員

第 3 6 期 機械工学科

担当教員	キーワード	氏 名	卒業研究テーマ
荒井 誠	CAD / CAM , FA , メカトロニクス (ロボティクス) , コンピュータ解析 , スケジューリング		AI - Motor を使ったメカトロニクス教材の開発
			MTS 法によるパターン認識に関する基礎研究
			岩盤調査ロボットの設計製作
			交通渋滞緩和のための信号表示の最適化に関するアプローチ
岩淵義孝	材料のエコロジー , 構造材料 , 強度 , 耐摩耗 , 靱延性 , リサイクル , 付加価値		軽量造粒体と廃棄アルミニウムの複合材料創製
			極低温加工熱処理を利用したアルミニウム合金の強靱化に関する研究
			軽量造粒体と廃棄アルミニウムの複合材料創製
			NiAl 系金属間化合物の諸特性
			VB を用いた振動実験装置の製作
			極低温加工熱処理を利用したアルミニウム合金の強靱化に関する研究
			NiAl 系金属間化合物の諸特性
			リッツ法を用いた偏平 FRP シェルの振動解析
			高強度軽量 FRP 構造材の実用化に関する研究
	高強度軽量 FRP 構造材の実用化に関する研究		
小杉 淳	風洞実験 , 乱流 , 大気拡散		大気乱流拡散に関する風洞実験

			容資
			LabView を用いた熱線風速計の構築
田中孝二郎	機関性能、エンジン，熱効率，潤滑，コージェネ		人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
			人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
			人間乗車スターリングエンジンカーの設計・製作
丹 国夫	構造物周辺の流れ，はく離，流体力，渦，鈍い物体		表面に凸部形状を有する円柱の抗力係数に関する研究
			表面に凸部形状を有する円柱の抗力係数に関する研究
麓 耕二	寒冷地技術と都市環境デザイン，着氷雪防除，海水氷製造機、着氷雪防除，冷熱エネルギー		フレーク状氷の連続生成装置の開発
			感温磁性流体を用いた小型熱輸送機器の開発
			過冷却液滴の物体衝突による急速凝固挙動に関する研究
			寒冷地域における氷冷熱貯蔵に関する基礎研究
宮澤 武	構造解析，3D-CAD，塑性加工，鍛造，ロボット，機械制御，有限要素解析		鍛造解析ソフト(Super Forge)による型鍛造解析に関する基礎研究
			MATLAB によるシーソー倒立振子の安定化制御
			メカニズムシミュレーションを主体とした3次元CAD教育システムの開発
山岸英明	対流熱伝，熱伝導，熱伝達，凍結対策，熱交換器		蓄冷、蓄熱カプセル装置の数値シミュレーション
			蓄冷、蓄熱カプセル装置の数値シミュレーション
渡 邊 聖 司	最適化、品質工学，SN比，感度，パラメータ設計，ロバスト設計		平面ローラバニシング加工の加工条件最適化
			難切削材の切削加工条件の最適化に関する基礎研究
第36期 電気工学科			

担当教員	キーワード	氏名	卒業研究テーマ
工藤信博	マイクロ波帯小アンテナ， 電磁界シミュレーション， FDTD法，設計性の改善		片側短絡型方形MSAのFDTD法による放射特性の解析
			方形マイクロストリップアンテナのFDTD法による放射特性の解析
			片側短絡型円形マイクロストリップアンテナのFDTD法による放射特性の解析
小林一義	海霧，海塩汚染，碍子絶縁特性		リビングの照明設計
			放電図形の研究
			教室の照明設計
			碍子の絶縁特性
佐々木敦	プラズマ，アーク放電，分光分析		交流高電圧プラズマ発生装置の製作
佐藤英樹	変圧器，電気機器		コアに粉末金属を使ったトランスの基礎研究圧力依存性測定装置の構想
須田 潤	格子力学，フォノン物性， ラマン分光，赤外分光，結晶構造解析，分光技術		光センサーの基礎研究 半導体レーザーを用いた場合のATR特性の評価
			光を用いた音波測定
			妨害電磁波の可視化
			BaWO4に関するフォノン特性シミュレーション
高木敏幸	粒子画像計測法，遺伝的アルゴリズム，神経回路網， 3次元再構築，コンピュータトモグラフィ		レーダ画像上の雲の陰影の除去
			遺伝的アルゴリズムと画像処理を用いたアイリスリングの測定
			強化学習を用いた氷海の最適航法の開発
			フリーストル牛舎における画像認識処理技術を用いた乳牛の運動量に基づく発情発見システムの構築
千田和範	人間機械系，知能機械，ロボット，遠隔制御系，力制御系，マスタ・スレーブシステム		ARCSモデルに基づいたシーケンス制御学習教材の開発
			全方向移動のための速度検出システム
			全方向移動台車の構築

			双方向通信可能な力覚提示装置の開発
野口孝文	学習支援, 再利用, オブジェクト指向, システムアーキテクチャ, ヒューマンインターフェイスサムネイル		ワンチップマイクロコンピュータ(PIC)学習支援システムの開発
			PIC を用いた制御実験のためのインターフェースの開発
			インテリジェントパッドを用いた文書画像のサムネイル作成
			円形マイクロストリップアンテナの FDTD 法による放射特性の解析
松永繁樹	電磁界解析, FDTD 法, シミュレーション, 導波管, 境界要素法, 有限要素法		FDTD 法によるマイクロストリップラインおよびパッチアンテナの解析
			FDTD 法による八木・宇田アンテナの解析
			FDTD 法による導波管の解析
			パルス変調伝送
山岡 勝	電力技術, 新エネルギー, 太陽光発電, 風力発電, バイオマスガス発電, 雷電防止		電力系統工学解析用プログラムの開発
			風力発電が電力系統に与える影響
			畜産廃棄物バイオマスの現状と展望
			災害対応型太陽光発電装置

第 3 1 期 電子工学科

担当教員	キーワード	氏 名	卒業研究テーマ
浅水 仁	デジタル信号処理, 画像情報処理, 画像符号化, 画像認識, 画像解析		定点カメラ映像のための動きを用いた物体認識
			離散コサイン変換を用いた画像への電子透かしの埋込み
			人間の流動量調査のための人物の頭部検出
			定点カメラ映像保存のためのカット点抽出
梶原秀一	移動ロボット, 劣駆動ロボ		CPLD によるモータ制御コントローラの製作

	ット, 二足歩行ロボット, アミューズメントロボット		自律移動型ロボットによるロボットトライアスロン
			光と音によるロボットの感情表現に関する研究
			USB カメラによる物体認識と動き検出
坂口直志	接触抵抗, 集積回路の配線材料, シリサイド, 温度差発電, 熱電半導体		熱電半導体を用いた煙突の廃熱を応用した温度差発電装置の研究
			Si や SiGe と、Ni と Zr の多層膜界面の評価
			熱電半導体を用いた温度差発電装置の研究
			高速ライントレースカーの精密制御
坂田 篤	J a v a 言語による P C 制御, インターフェイス, データ収集, C A I, シミュレータ, ネットワーク		OpenGL を用いたライントレースカーのシミュレーション
			J A V A による演算装置シミュレータの作成
			J a v a による S I M A C シミュレータの作成
櫻田安志	光学, 波動光学, 幾何光学, 統計光学, 量子光学, 光応用計測, 光情報処理		全方位視覚センサによる情報取得
			携帯電話を用いた学習システムの作成
			光散乱を用いた魚の雌雄判別法の開発
			Java を用いた生徒用教材の作成
			携帯電話用学習システムの開発
佐治 裕	デジタル画像処理, リモートセンシング, ステガノグラフィー, 位置合わせ, ステレオビジョン, コンピュタトモグラフィー		ISO データ法及び K-means 法によるカラー画像の領域分割
			オーディオアナライザーの設計と製作
			オーディオアナライザーの設計と製作
			SQUID 磁束計を用いた土壌インピーダンス測定のための低周波領域における磁気シールドの検討
中村 隆	レーザー, ロウ管, 光計測, 光加工, 構造色		ロウ管からの光学的音声再生装置の開発
			FDTD 法を用いた多層膜構造の光学特性解析

			分光スペクトルからの任意表色表現
			蝶翅の持つ構造色の分光特性測定装置の開発
松本和健	低温エレクトロニクス，薄膜，超伝導デバイス，磁気センサ，雑音除去技術，高感度磁場計測		PLD 法を用いた超伝導 MgB2 薄膜の作成
			Pulsed Laser Deposition (PLD) による YBCO 薄膜の作製
			MgB2 厚膜の超伝導回路化への検討
			Squid 磁束計を用いた土壌インピーダンスの測定
森山純臣	光 CDMA，M 系列，乱数，プライムコード，符号系列		未広方式を用いた CDMA 通信方式に関する研究
			DSP による IIR フィルタの作成と FIR フィルタとの比較
			M 系列による乱数の発生
			Delphi による周波数成分を考慮した立体的なイミタンスチャータの製作
山田昌尚	音楽情報処理，編曲，トランスクリプト		MusicXML を用いた楽譜処理
			Web 上での電子工学科 PR

第 15 期 情報工学科

担当教員	キーワード	氏名	卒業研究テーマ
大槻典行	デジタル信号処理，音声雑音除去，分析・合成，シグナルエンハンスメント		周波数領域における雑音除去の評価基準の提案
			JPEG 復号データの圧縮についての研究
			多脚型ロボットの姿勢制御に関する研究
			支点固定の倒立振子の制御
大貫和永	自立適応システム，ニューラルネットワーク，強化学習，人工知能		ネットワークシミュレートシステムの開発
			携帯型ゲーム機を用いた音楽演奏装置の開発
			携帯電話の Java を用いた学習システムの開発

			仮想マシンによる Linux カーネルの実習用材料の開発 発
			T-Engine プラットフォームでのミドルウェアの検討 と開発
神谷昭基	最適化, 遺伝的アルゴリズム, ソフトコンピューティング, 工業・社会システム		3次元空間マルチエージェントシステムの構築と考 察
			蟻の理論のシミュレーションと数学的考察
			釧路高専のボイラーの最適負荷配分制御
高橋 晃	LAN構築, 地域IX, 無線LAN, Web-DB連 携, サーバ構築, ネットワー クキューティリティ		部分的演奏から検索可能な楽曲検索システムの開発
			ルータ実習支援システム "EMERALD" の開発
			卒業研究論文支援アーカイブ "ZAcro" の開発
			有限オートマトン学習ツール FADraw 2004 開発
土江田織枝	OpenGL, 3次元コンピ ュータグラフィックス		OpenGL を用いた手話学習ソフトウェアの作成
中島陽子	音楽情報処理, リズム, 感 情		自己組織化モデルを用いた楽曲の分類
林 裕樹	対象認識、動画像解析, 動 画像解析, 全方位画像解析		ウェブカメラを用いた指し棒の指示動作抽出
			輝度成分に影響されない対象領域の抽出
			写真の汚損部位検出と修復
			認識候補保持ラティスを用いたオンライン手書き文 字列認識
本間宏利	並列アルゴリズム, アルゴ リズム, ネットワーク, グ ラフ理論, 最適化問題, N P完全問題, 計算量解析		Circular-arc Graph の最大マッチングアルゴリズム
			非協力的非ゼロ和 $2 \times 2$ 対称ゲーム(チキンゲーム) における最適複合戦略
			Bipartite Permutation Graph の最短路アルゴリズム
			Permutation Graph の最大独立節点集合アルゴリズム
			ハンドボール戦術シミュレーターの開発
柳 川 和	コンピュータグラフィック		動画像によるユーザインターフェイスの開発



徳	ス, 画像処理, 図形処理, 画像生成, 画像変換, 画像計測		風紋を利用した除雪道シミュレーション
			メタリック塗装のCG表現
			変化球の軌道シミュレーション
			Web アプリケーションによるネットワークカメラ制御
第36期 建築学科			
井上圭一	建築構造, 耐震構造, 地震応答, 振動解析, P- 効果, 有限要素法, 付着すべり		フーリエ変換を用いたプレキャストコンクリート接合面の形状分析
			2003年十勝沖地震における地震動特性に関する研究
			フーリエ変換を用いたプレキャストコンクリート接合面の形状分析
大槻香子	景観照明, 街路照明, ライトアップ, 街づくり, コミュニティ		環境工学実験明瞭度試験のための単音節リスト再生プログラム作成
草苺敏夫	地震, 耐震, 防災, 構造, 寒冷地, 建物		木造住宅における床面剛性が耐震性におよぼす影響
			地盤凍結が住宅の振動特性に及ぼす影響
			地盤凍結が住宅の振動特性に及ぼす影響
佐藤彰治	建築環境, 地域, 熱, 日射, ソーラーシステム, 省エネルギー		濃霧地域におけるサンルームの調湿効果に関する実験研究
			学校教室における照明環境改善のための実測調査
			濃霧地域におけるサンルームの調湿効果に関する実験研究
大楽隆男	コンクリート, 建築仕上げ塗材, 防水材, リサイクル材料, スケーリング, 耐久性, ガラスカレット		新多機能素材開発における耐久性の実験
			鉄筋拘束による高強度コンクリートの耐凍害性に関する研究
			ガラス廃材(カレット)の有効利用によるタイルブリックの開発
千葉忠弘	都市計画, 地域, 住民参加, まち作り学習, ネット社会, 地域問題解決		ing-store ~繋がる好奇心~
			北海道漁村の市街地空間構成に関する研究

			施設複合 ~ 地域住民が集う場の提案 ~
			自遊林 ~ 自然の声を聴く場所 ~
			北海道漁村の市街地空間構成に関する研究
中島 敏	気象, 大気汚染, 地球温暖化, 酸性雨, 硫黄酸化物, 窒素酸化物, 粒子状物質, 炭酸ガス		道内の気温変化について
			湿り空気の状態計算を行うプログラムの作成
			時間日影図の作成
西澤岳夫	日本近代, 明治, 大正, 昭和初期, 文化財, 保存と再生, 歴史的建造物, 伝統的街並み		昭和保育園建設案 ~
			Refine Architecture ~ 廃校舎再生へ向けての一試み ~
			集合住宅のかたち ~ 北方型集合住宅の提案 ~
三森敏司	建設材料, 凍害, 耐久性, 調合設計, 強度管理, リサイクル		軽量造粒品を用いたコンクリートの強度と凍害性
			軽量造粒品を用いたコンクリートの強度と凍害性
			新多機能素材開発における耐久性の実験
依田有康	高齢社会, 地域, 高齢人口, 家族形態, 養護施設, 自立生活, 住環境, 住意識		CUBE BOX ~ リバーサイドにおけるホテル計画 ~
			Base of Welfare
			The Place of the Life in area
			釧路駅と駅前の再生
			高齢者と若年者の日常生活に関する調査研究

注：本資料は、教員シーズ集 (<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>) で示されている各教員の研究上のテーマに関するキーワードと卒業研究テーマを比較分析するために作成した。

( 出典 本自己評価のための作成資料 )

特に、地域企業との共同研究は、特別研究のテーマとして、学生の研究指導に組み込み、社会のニーズの把握、地域社会貢献意識の涵養に役立っている（資料 9 - 1 - - 3）。

資料 9 - 1 - - 3

タイトル；「指導教員・指導教員の共同研究課題・専攻科特別研究テーマ」

指導教員	区分	研究課題	学年	学生氏名	特別研究テーマ
岩淵義孝	共同研究	P S 灰造粒物 - アルミニウム複合材料の創製	1 K		廃棄アルミニウム - P S 灰造粒体ハイブリッド材の創製
草苺敏夫	共同研究	既存特殊建物に対する保有耐震性能評価と耐震性向上のための方策に関する開発研究	2 K		角形鋼管柱・H形梁接合部パネル架構の強度関係について
大楽隆男	共同研究	ガラス廃材（カレット）の有効利用によるタイル・ブリックの開発	1 K		ガラスカレットの有効利用によるタイルブリックの開発
大楽隆男	共同研究	コンクリートのスケールングに及ぼす凍結防止剤の影響	2 K		凍結防止剤のコンクリート表層剥離（スケールング）に及ぼす影響
三森敏司	共同研究	P S 灰を使用したコンクリート用人工骨材の開発	1 K		P S 灰造粒品を用いたモルタル・コンクリートの性状
三森敏司			2 K		

K：建設・生産システム工学専攻

（出典 本自己評価のための作成資料）

教育方法等の研究については、高専研究集会等への参加や文部科学大臣賞の受賞、教育方法改善プロジェクトの主管などにみられるように、積極的な取組が行われており、これらの結果を教育改善につなげている（資料 9 - 1 - - 4）（資料 9 - 1 - - 5）。

資料 9 - 1 - - 4

教員研究集会等への参加状況一覧

平成 1 5 年度

教員研究集会等	
	国専協主催 高等専門学校教育教員研究集会（於：鈴鹿）に教員 2 名を派遣、研究成果発表を行う。1 名が文部科学大臣賞を受賞
	文部科学省主催高等専門学校教員研究集会（於：鶴岡）に教員 2 名を派遣

	北海道地区工業高等専門学校教員研究集会(於:函館)に教員2名を派遣
	高専・長岡技科大学(機械系)交流集会(於:長岡)に教員1名を派遣
平成16年度	
教員研究集会等	
	高専機構主催 高等専門学校教育教員研究集会(於:長野)に教員3名を派遣、研究成果発表を行う。1名が機構理事長賞を受賞
	高専機構主催 高等専門学校教員研究集会(於:釧路)を主催
	北海道地区工業高等専門学校教員研究集会(於:旭川)に教員2名を派遣
	高専機構主催 北海道地区国立高等専門学校教員研究集会(於:函館)に教員2名を派遣
(出典 本自己評価のための作成資料)	

資料 9 - 1 - - 5

教育方法改善共同プロジェクトの概要  
(次頁)

## 目 次

はじめに

目 次

本文編

### 第1章 プロジェクトの概要

1.1 プロジェクトの背景	1
1.2 プロジェクトの趣旨	1
1.3 プロジェクトの目的	2
1.4 観点別調査・研究の概要	2
1.5 プロジェクト実施計画	2
1.6 プロジェクト組織	3

### 第2章 現状分析

2.1 アンケート調査目的	7
2.2 アンケート調査項目	7
2.3 アンケートのまとめと考察	8
2.3.1 進路指導に関する組織的取り組みの実態	8
(1) アンケート集計結果	
(2) 考察	
2.3.2 低学年における進路指導（キャリア教育）の実態	14
(1) アンケート集計結果	
(2) 低学年における進路指導企画に関する自由記述	
(3) オリエンテーションにおける進路指導内容の自由記述	
(4) 考察	
2.3.3 1～4学年学生の意識調査結果と考察	24
2.3.4 5学年学生・卒業生の進路に関する意識調査結果と考察	42

### 第3章 進路指導システムの実態調査・視察

3.1	背景と目的	53
3.2	高校における進路指導	56
3.2.1	高校の進路指導形態	56
3.2.2	進路指導の実際と効果	57
3.2.3	高校における進路状況	62
3.2.4	福岡城南高校進路指導プラン ‘ドリカムプラン’の指導内容	63
3.2.5	ドリカムプラン —福岡城南高校の分析—	68
3.2.6	高専の場合	68
3.3	大学におけるキャリア教育の実態調査	69
3.3.1	大学の進路指導の形態	69
3.3.2	大学の進路指導例1（上智大学）	71
3.3.3	大学の進路指導例2（立命館大学）	73
3.3.4	大学の進路指導例3（広島大学）	75
3.4	社会人における進路指導形態	79
3.5	進路指導の大筋の流れと高専で実現可能な進路支援	82
3.5.1	進路指導の大筋の流れ	82
3.5.2	高専で実現可能な進路支援 —釧路高専の試み‘進路のしおり（低学年編）’を土台にして—	83
<b>第4章 進路指導改善のための試行</b>		
4.1	低学年における進路指導	87
4.1.1	釧路高専における従来の進路指導	87
4.1.2	低学年進路指導の必要性	87
4.1.3	進路指導の考え方1～自己理解の重要性	87
4.1.4	進路指導の考え方2～共感性の育成	88
4.1.5	具体的な進路指導内容	89
	（1）1年生での実践試行	
	（2）2年生での実践試行	
	（3）1～3年生での実践試行	
	（4）今後の展望（計画）	

4.2	高学年における指導のあり方	96
4.2.1	進路の手引きの作成と活用	96
4.2.2	進路の手引きの活用方法	97
4.2.3	情報提供と支援体制のあり方	97
	(1) 支援体制	
	(2) 情報提供	
	(3) 情報提供のための行事（道内高専の実践から）	
<b>第5章 進路指導FDの実践</b>		
5.1	低学年における進路指導に関するFD	99
5.2	進路指導実態調査報告会	100
5.3	特別講演 「専門的職業人をどう育てるか—進路発達の視点から」	101
<b>第6章 特別寄稿 「これからの進路指導」</b>		
	広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター 助教授 栗原 慎二	
<b>第7章 まとめ（プロジェクト中間報告にあたって）</b>		
<b>資料編</b>		
資料1	教務主事回答依頼項目	127
資料2	学生主事回答依頼項目	129
資料3	在校生（1-4学年）進路意識調査項目	130
資料4	5学年・OBの進路意識調査項目	132
資料5	進路の手引き	135
資料6	低学年進路指導教材	159
プロジェクト委員等名簿		

## 第1章 プロジェクトの概要

### 1.1 プロジェクトの背景

高専の5年一貫教育は中等教育の部分を含むことが特徴であり、くさび形カリキュラムの配置によって大学レベルの専門知識と実践力を備えた技術者の養成に大きな成果を残した制度であるといえる。

しかし、中学における初等教育の内容や社会情勢の変化に伴い、入学してくる学生資質は多様化し入学時に必ずしも技術者を目指す学生ばかりではなくなってきた。即ち、自分の将来像を描けぬまま、中学校の進路指導教諭や、両親・知人に薦められて受験し入学してくる学生が増加しており、また、志望した学科の授業内容について受験時からはっきり意識している学生も少なくなっている。

一方、科学技術の高度化や情報化、国際化の進展などにより、産業構造が変化し雇用形態の流動化も進みはじめている。そのため社会が要求する高専卒業生の資質としては、専門知識や実践能力もさることながら、他者との協調・コミュニケーションがとれ、自身の個性を集団の中で発揮していく基本的な素養が求められる。また、大学進学者についても、「皆が進学するからなんとなく進学する」あるいは、就職することに漠然とした不安感があって「とりあえず進学する」といった学生もみられる。大学院へは進学せず学部で就職する学生や、大学院で何を勉強すればよいのかさえ掴めずにいる学生もいる。

即ち、高専卒業後の進路選択に当たってしっかりした職業観や技術者意識を持たせ、自分の将来設計ができるような高専生を送り出すことが求められている。

このような、基本的な職業観や技術者意識の醸成は、必ず高専での学習意欲向上につながるものである。これまで高専低学年においては、組織的なキャリア教育(進路指導)を怠ってきたといっても過言ではない。4、5学年になって進路について考え始める前に、高専の技術教育への興味を失い、学習に身が入らない学生も多く現れる。それらの学生は3学年での修了退学や中途退学者となって現れるだけでなく、クラス全体の学習意欲を減退させる原因ともなっている。

このような学生を作らないためにも、技術者の魅力を伝え、技術者としての職業観や自分の将来を展望させるキャリア教育の重要性が急務となってきている。

## 1.2 プロジェクトの趣旨

従来、我々高専の教官は特別な進路指導の必要性を感じていなかった。それは5年間の技術教育を通して、学生自らが自分の適性や興味を生かした専門分野を見つけ出し、それが実現できる企業あるいは大学へと進学していくのが普通であったからである。しかし、近年5学年になっても、自分の将来を決めかねている学生が見受けられ、それは就職環境の厳しさと共に、就職面接においては自己表現が出来ない、技術者としての夢や目標を持っていないといった企業からの指摘や、実際に就職後1、2年で転職するものも見られる。また、大学進学者については、「大学でどのような研究がしたいのか」が決まらないまま、「就職するにはなんとなく不安である」などの理由だけで進学する場合も多くみられる。更に、低学年においては、中だるみと呼ばれる勉学に打ち込めない無気力、無目的な学生が、真剣に努力している学生をスポイルし、3学年での進路変更を選ぶものもある。

このような背景に対して、高専が実践的技術者教育を全面に掲げながら、実は最も大切な職業教育を怠ってきたのではないかという反省がある。そこで、本教育方法改善共同プロジェクトテーマとして、学生の進路指導(キャリア教育)をどの様に展開するべきかを考えるために「高専における進路指導のあり方について」をテーマに調査研究を行うこととした。このテーマは次の三つの観点から調査研究を行う。

1. 進路指導に関する制度的検討
2. 低学年における進路指導対策
3. 高学年における進路指導対策

## 1.3 プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、高専における進路指導のシステム化を模索することにある。各種教育機関における制度的な進路指導や職業教育の実践例を調査し、高専制度に最も適した進路指導システムを構築し提案することを目的とする。

## 1.4 観点別調査・研究の概要

### (1) 進路指導に関する制度的検討

- ・各種教育機関における進路指導・職業教育に関する答申・実践例調査
- ・卒業生に対する在学時の進路決定に関する意識調査
- ・在校生に対する進路意識調査
- ・技術教育と入試制度(学科を特定しない入試等)及び学科移行制度の実態調査
- ・高専における混合学級・転科制度の実態調査

### (2) 低学年における進路指導対策

- ・技術教育への興味を喚起する指導方法  
(学科横断型体験学習、創造学習、工場見学、OB特別講演など)
- ・学級編成のあり方(混合学級・転科制度の拡大)
- ・低学年における進路指導プログラムの構築



(3) 高学年における進路指導対策

- ・進路決定（適性と職種選定）のための支援体制のあり方
- ・インターンシップの効果的实施方法と実施体制
- ・高学年における進路指導プログラムの構築
- ・高専における資格取得指導のあり方

1.5 プロジェクト実施計画

(1) 平成15年度

- 1) 高等専門学校教育改善充実費（1年次）の要求
- 2) プロジェクトの結成及び分野別担当者等の決定  
北海道地区各高専の教務主事及び専門分野からなる実行委員会と、その下にWGを結成して実行する。
- 3) プロジェクトの作業  
[実行委員会]  
調査・研究・企画の策定、調査関係資料の収集、提言など  
[ワーキンググループ]  
調査資料による現状把握、分析、問題点の抽出、意見等の集約
- 4) ワーキンググループ合同会議開催
- 5) 年度末に中間報告書を作成

(2) 平成16年度

- 1) 高等専門学校教育改善充実費（2年次及び文部科学省主催高等専門学校教員研究集会）要求
- 2) 文部科学省主催高等専門学校教員研究集会開催（平成16年7月予定）し、問題提起と研究・討議を行う。
- 3) 関係資料の収集、問題点の抽出、意見等の集約を継続し、最終報告発表へ向けて最後の調整を行う。
- 4) 年度末に最終報告書を作成

1.6 プロジェクト組織

担当地区 : 北海道地区国立高等専門学校  
世話校 : 釧路工業高等専門学校

(1) プロジェクト組織図

組織図を図1.1に示す。

(2) プロジェクト名簿

組織名簿を表1.1に示す。

### (3) プロジェクト活動スケジュール

- 平成15年4月 世話校組織及び分担の決定  
 北海道地区担当者依頼  
 北海道地区各校担当者決定し全体組織確定  
 第1回世話校WG会議
- 5月 プロジェクト2年間の概略タイムスケジュール策定  
 教育改善充実費要求書提出  
 世話校各WGにおいて基礎調査・視察
- 6月 調査・視察結果の集計・整理
- 7月 第1回実行委員会において調査結果の検討
- 8月 第1回地区WG会議(世話校にて)  
 調査結果に基づいて全国高専に対する調査内容検討、  
 調査用紙検討
- 9月 調査用紙印刷、全国高専に調査アンケート郵送依頼
- 10月 OB、在校生の意識調査
- 11月 調査終了
- 12月 調査結果の整理
- 平成16年1月 第2回地区WGにおいて進路指導プログラムの骨子まとめ
- 2月 世話校において進路指導プログラム策定
- 3月 中間報告書、教員研究集会用資料作成
- 4月 印刷・製本
- 5月 第2回実行委員会において(研究集会資料確認、運営打合せ)
- 6月 準備
- 7月 教員研究集会開催
- 9月 研究集会結果の資料整理
- 10月 ♪
- 11月 研究集会報告書・資料作成
- 12月 印刷・製本、全国高専へ発送

(出典 国立高等専門学校協会 平成15・16年度教育方法改善共同プロジェクト中間報告書)

次に、教育方法等に関する研究活動の結果として、「高専教育」誌その他に掲載された本校教員の研究論文タイトルを示す(資料9-1- -6)。

資料 9 - 1 - - 6

紀要および高専教育掲載の本校教員研究論文タイトル一覧

教育方法改善に関する研究活動(15-16年度)

氏 名	論 文 名	発表誌・巻 - 号・頁
三島利紀	カウセリングを生かした心のあり方教育としての性教育 - 釧路市健康推進課のモデル授業に連携して -	論文集「高専教育」第27号 pp 97-102
岩淵義孝・荒井誠・佐々木 敦・西村浩一・松本和健・大貫和永・天元 宏・草苺敏夫・佐藤彰治	“ものづくり”による「全学的創造教育」の取り組み	論文集「高専教育」第27号 pp 423-428
片岡 努	新入生共通テストの得点とその後 の英語の成績との関連	論文集「高専教育」第27号 pp 429-434
浦家淳博	効果的な授業導入についての取 組み	論文集「高専教育」第27号 pp 435-439
宮澤 武他	教育方法改善共同研究プロジェクト 中間報告書「高専における進路指 導のあり方について」	著書(単著)
三島利紀・大槻香子	リレーション(人間関係)構築のため の新入生オリエンテーション	高専教育論文集pp275
草苺敏夫他	北海道内の高専・工業高校に対す る鉄骨技術教材の提案	工業教育vol 52 no1 pp99 - 103
草苺敏夫他	北海道内の高専・工業高校に対す る修正建築鉄骨技術教材の授業評 価	日本建築学会北海道支部研究報 告集No77 pp141 - 144
草苺敏夫他	北海道内の高専・工業高校で実施 した建築鉄骨模型教材の授業評価 結果	日本建築学会大会学術講演梗概 集 教育 E - 2 pp727 - 728
岩淵義孝他	全学科的創造教育の試み	工業教育vol 52 第5号 pp5 - 9

三島利紀・浦家淳博・大槻香子	新しい「新入生オリエンテーション」を求めて-構成的グループ・エンカウンター(SGE)の導入を試行して	釧路高専紀要 第38号 pp81-pp87
田村聡子	Significance Balanced Education in Technical Knowledge and the Heart: Proposal on Adopting Development Education topics in English Education	釧路高専紀要 第38号 pp89-pp94
田村聡子	A View on Introducing Development Education to English Education: Toward Balanced Education in Technical Knowledge and the Heart	論文集「高専教育」第28号 pp95-pp100
池田誠一	釧路・函館・旭川高専における第1学年数学共通テストの結果と分析	論文集「高専教育」第28号 pp375-pp380
土江田織枝	家庭学習環境のシステム構築指導について	論文集「高専教育」第28号 pp381-pp386
浦家淳博	高専低学年における進路指導のあり方	論文集「高専教育」第28号 pp607-pp612
三島利紀	教員のカウンセリング・マインドに基づく学生相談活動	論文集「高専教育」第28号 pp613-pp618
大槻香子	構成的グループ・エンカウンターを導入した学生相談活動	論文集「高専教育」第28号 pp619-pp624

(出典 本自己評価のための作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究活動は、主として卒業研究、特別研究の指導として教育内容の改善に寄与している。また、教育方法に関する研究活動は、各種研究集会への参加や文部科学大臣賞受賞の例に見られるように積極的に行われており、教育内容や教育方法の質の改善に大いに寄与している。

観点9-2- : ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

ファカルティ・ディベロップメント活動は、これまで教務委員会による実施体制であったが、平成17年度より教育学習レビュー室が教育に関するFD活動を統括するシステムとしている(資料9-2--1)(資料9-2--2)。

資料9-2--1

(審議事項)

第2条 委員会において審議する事項は、次のとおりとする。

(略)

五 教育内容及び教育方法等の改善のための研修に関する事項

(略)

(出典 釧路工業高等専門学校教務委員会規程)

資料 9 - 2 - - 2

教育学習レビュー室の設置と業務

目的 授業改善により学生の成績が向上することを目的とし、下記に示す業務をとり行う。

設置 本校の教育改善ワーキンググループとして設置する。

2つの部会を置き、第一部会、第2部会とする。

構成 第一部会、第2部会それぞれ以下のとおりとする。

一般教科から2名以上

専門学科各科から1名以上

事務職員(学生課)から1名

オブザーバー教務主事(兼任)

オブザーバーは発言権を有しない。ただし、要求に対し意見を述べることができる。

室長は互選で決定する。室長の任期は2年とする。

構成員の決定方法

- ・年度当初に公募する。応募は自薦により募ることとする。ただし、自薦により不足のある場合は、学科のバランスを考え、その不足している学科の主任に推薦を依頼することができる。
- ・任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。最大任期を2年とする。

活動の内容

第1部会は授業改善について以下のことを行う。

授業改善について

- ・アンケート(学生アンケート、ステップアップ提案書)の配布と集計。
- ・教員相互評価表の配布と集計。
- ・ステップアップ提案書の配布と回収、及びその内容の確認を行う。
- ・ステップアップ提案書の記載事項が不足する教員のヒアリングを企画立案する。
- ・FDの企画、必要な研修を企画立案し実施する。
- ・年度末に当該年度の教育改善活動についての総括を行う。
- ・年間活動について記録、公開する。

第2部会はシラバス及び定期試験について以下のことを行う。

シラバスについて以下をチェックする。

- ・週ごとの到達目標が明確であるか。
- ・評価方法が明確か。
- ・教育学習目標との関連が明確か。

定期試験(年4回)について

- ・素点が60点に満たない学生の数が、当該クラス総人数の4割以上である場合。
- ・当該クラスの科目の素点が全員同じ数値である場合。

- ・当該クラス全員の素点が80点以上である場合。
  - ・過去3年間に遡り、全く同じ試験問題である場合。
- 上記項目に1つ以上当てはまる教員については、改善を要求できる。
- ・アンケートや教員の自己評価の取りまとめには事務スタッフとして学生課の職員を配置する。
  - ・レビュー室の負担をあまり重くならないようにするため、授業公開については教務委員会に進言し、教務委員会主体で実施できる。
  - ・ヒアリングの実施方法は以下とする。
  - ・校長、教務主事、当該学科主任の3者がヒアリングを行う。
  - ・ステップアップ提案書の体裁が不完全なだけなら、レビュー室から返却し、再提出してもらう。
  - ・ステップアップ提案書の内容が前年度と全く同じであったり、改善策が書かれていない場合は対象者とする。

備考上記事項について変更の必要が生じた場合には、審議の上決定できる。

(出典 教員会議での報告のための事前配布資料)

最近2年間のFD活動の状況を以下に示す(資料9-2--3)。

資料9-2--3

FD活動の一覧(その1 講演・派遣関係)

H15年度

JABEE 関係		
1.27	講演会 (社)日本工学教育協会専務理事 椿原 治 氏 「技術者教育認定制度について」	教職員 86 名
2.26	講演会 徳山高専専攻科長 森野数博 氏 「JABEE 受審について」	教職員 81 名
	JABEE 関係各種研修に教員5名を派遣	
教育方法改善共同プロジェクト(高専における進路指導のあり方)関係		
9.8	FD 研修会「進路指導に関する予備調査報告	教員 43 名
12.3	FD 研修会 講演 広島大学大学院教育学研究科附属教育 実践センター助教授 栗原慎二 氏 「専門職業人を育成するために」	教職員 63 名
	進路指導に関する調査・視察に教員2名を派遣 派遣先:福岡県立城南高等学校、広島大学学 生支援センター	
教員研究集会等		
	国専協主催 高等専門学校教育教員研究集会(於:鈴鹿)に教 員2名を派遣、研究成果発表を行う。1名が文部科学大臣賞を 受賞	
	文部科学省主催高等専門学校教員研究集会(於:鶴岡)に教員 2名を派遣	

	北海道地区工業高等専門学校教員研究集会(於:函館)に教員2名を派遣
	高専・長岡技科大学(機械系)交流集会(於:長岡)に教員1名を派遣
その他科目別研修等	
7.26~28	道内高専数学フォーラム(於:日高町)に教員2名を派遣。
	高専国語の会(於:札幌)に教員1名が参加

H16 年度

JABEE 関係	
	JABEE 関係各種研修に教員5名を派遣
教育方法改善共同プロジェクト(高専における進路指導のあり方)関係	
3.2,3.3	道内高専の FD 活動に教員を派遣 函館高専 SD・FD 講演会 苫小牧高専 FD 講演会 内容「これからの進路指導について - 発達の視点から」 講師広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター 助教授 栗原慎二氏
教員研究集会等	
	高専機構主催 高等専門学校教育教員研究集会(於:長野)に教員3名を派遣、研究成果発表を行う。1名が機構理事長賞を受賞
	高専機構主催 高等専門学校教員研究集会(於:釧路)を主催
	北海道地区工業高等専門学校教員研究集会(於:旭川)に教員2名を派遣
	高専機構主催 北海道地区国立高等専門学校教員研究集会(於:函館)に教員2名を派遣
その他科目別研修等	
8.19~20	道内高専数学フォーラム(於:札幌)を主催(当番校)、教員4名が参加。
	高専国語の会(於:札幌)に教員1名が参加

F D 活 動 の 一 覧 ( その 2 学 生 相 談 室 関 係 )

2004 年度の活動と研修

学生相談室主催研修

開催日	研修名	対象
-----	-----	----

4/8	<a href="#">新入生オリエンテーション、学年ミーティング</a>	1 学年全員
4/21	<a href="#">創造工学ガイダンス</a>	2 学年
5/26	<a href="#">相談室ガイダンス</a>	1 学年全員
5/31	自己理解のための心理テスト	1・2 学年全員
6/24 ~ 12/9	禿カウンセラーによる女子学生対象個人面談	1 学年女子全員
12/13 ~ 12/14	<a href="#">ストレスマネジメント教室</a>	学生、教職員
2/23	<a href="#">H16 年度校内学生相談研修会</a>	教員

研修報告

開催日	研修名 / 主催	参加者
7/10 ~ 11	<a href="#">カウンセリング &amp; コンサルテーション研修</a> 学研	館岡、大槻 (三島)
7/23 ~ 25	<a href="#">日本ブリーフセラピー学会 第 14 回東京大会</a> 日本ブリーフセラピー学会	大槻
7/28	<a href="#">ステップアップセミナー2004</a> 釧路市教委活動推進事業実行委員	館岡、大槻 (三島)
7/29	<a href="#">平成 16 年度高等専門学校教員研究集会</a> 全国国立高専機構	館下、館岡、大槻
7/31 ~ 8/1	<a href="#">日本ストレスマネジメント学会第 3 回大会 (PDF)</a> 日本ストレスマネジメント学会	館下
8/6 ~ 8	<a href="#">2004 年度夏期教育カウンセラー養成講座 (PDF)</a> NPO 日本教育カウンセラー協会 北海道支部	館岡
12/21 ~ 23	<a href="#">第 42 回日本学生相談学会研修会 (学内からのみ参照可能)</a> 日本学生相談学会	土江田
2/22	<a href="#">思春期保健対策研修専門研修会 (学内からのみ参照可能)</a> 釧路市保健福祉部	館下、土江田、大槻
1/6 ~ 8	<a href="#">2004 年度冬期教育カウンセラー養成講座</a> NPO 日本教育カウンセラー協会、日本教育カウンセラー協会 北海道支部	大槻
1/14	<a href="#">第 20 回 学生相談セミナー</a> 釧路市保健福祉部	大槻
2/24	<a href="#">第 1 回 国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会</a>	大槻



全国国立高専機構	(鈴木)
----------	------

参加者 ( ) 内は相談室員以外の教職員参加者

2003 年度の活動と研修

学生相談室主催研修

開催日	研修名	対象
5/26	<a href="#">相談室ガイダンス</a>	1 学年
3/11	国立学校等セクシャル・ハラスメント防止研修参加報告	教職員
3/11	<a href="#">学生相談室 FD 研修会</a>	教官

研修報告

開催日	研修名 / 主催	参加者
7/18 ~ 20	<a href="#">日本ブリーフセラピー学会 第 13 回札幌大会 (PDF)</a> 日本ブリーフセラピー学会	館下
8/6 ~ 8	<a href="#">2003 年度夏期教育カウンセラー養成講座 (PDF)</a> NPO 日本教育カウンセラー協会、日本教育カウンセラー協会 北海道支部	館下 (三島)
8/13	<a href="#">ステップアップセミナー2003</a> 釧路市教委活動推進事業実行委員	館下、大槻 (大槻、山田、三島)
10/30 ~ 31	<a href="#">北海道・東北地区メンタルヘルス研究協議会 (PDF)</a> 文部科学省、国立大学等保健管理施設協議会	館下 (鈴木)
11/13	<a href="#">保護者対象思春期保健講座</a> 釧路市保健福祉部	大槻 (鈴木、館岡、三島)
12/5	<a href="#">国立学校等セクシャルハラスメント防止研修会</a> 文部科学省	大槻
12/8 ~ 10	<a href="#">日本学生相談学会研修会 (学内からのみ参照可能)</a> 日本学生相談学会	土江田
12/4	<a href="#">子供と共に歩む！カウンセリング講座</a> 北海道教育庁釧路教育局	館下 (三島)
12/13	<a href="#">平成 15 年度性教育関係職種研修会</a> 釧路市保健福祉部	館下、大槻 (浦家、館岡)
1/6 ~ 8	<a href="#">2003 年度冬期教育カウンセラー養成講座</a> NPO 日本教育カウンセラー協会、日本教育カウンセラー協会 北海道支部	大槻
1/14	<a href="#">精神保健福祉地域研修 (ひきこもりに関する関係職員研修)</a> 釧路市保健福祉部	大槻
2/24	<a href="#">思春期保健対策専門研修 (子どものうつ病について)</a> (PDF)	館下

北海道釧路保健所

参加者 ( )内は相談室員以外の教職員参加者  
 (出典 学生相談室のサイト～内部向け「学生相談室研修・活動一覧」)

F D 活 動 の 一 覧 (その3 新任教員研修関係)

平成16年度

校長・主事・先輩教員による講演

日 時	平成16年6月7日(月)	15:30~18:20
場 所	会議室	
内 容	「中期目標及び中期計画から本校及び教員に求められること」 15:30~16:15 <講演者:校長>	
	「教務関係事項について」 16:15~16:35 <講演者:教務主事>	
	「学生関係事項について」 16:35~17:05 <講演者:学生主事>	
	「寮務関係事項について」 17:05~17:25 <講演者:寮務主事>	
	「校務関係事項について」 17:25~18:00 <講演者:校務主事>	
	「私の教育経験・教育実践から」 18:00~18:20 <講演者:坂口先生>	

先輩教員の授業参観、先輩教員による新任教員の授業参観

新任教員名	所属学科	学科等教員の 授業参観実施日等	新任教員の授業参観 実施日等
田村聡子	一般教科 (英語)	片岡助教授 5月18日(火) 3・4時間目 1学年情報	片岡助教授 5月19日(水) 7・8時間目 2学年情報
森 太郎	建築学科 (兼) 一般教科 (物理)	浦家助教授 5月中3回  松崎助教授 5月中3回	浦家助教授 5月中3回  松崎助教授 5月中3回

山岡 勝	電気工学科	小林教授 5月24日(月) 1・2時間目 5学年 電気応用	野口教授 6月29日(火) 1・2時間目 4学年 送配電工学
		松永教授 5月27日(木) 4時間目 1学年 電気回路	工藤助教授 6月7日(木) 3時間目 5学年 電気回路
井上圭一	建築学科	大楽教授 5月24日(月) 5・6時間目 2学年 建築構造力学	大楽教授 6月25日(金) 3・4時間目 3学年 建築構造力学

新任教員研修会への派遣

平成16年度高等専門学校新任教員研修会

日	平成16年8月18日(水)～20日(金)	
会場	国立オリンピック記念青少年総合センター	
参加者	電気工学科 教授	山岡 勝
	一般教科(英語) 助教授	田村 聡子
	建築学科 助教授	森 太郎
	建築学科 助教授	井上圭一

平成17年度

校長・主事・先輩教員によるレクチャー

日時 平成17年5月19日(木)～5月23日(月)

場所 各主事研究室

内容 下記のとおり

1. 『中期目標及び中期計画から本校そして教員が求められること』

<講演者: 校長>

5月19日(木) 11:00～12:00(60分)

2. 『本校の各種体制について』

授業関係 < 講演者：教務主事 >

5月20日(金) 10:00～11:00(60分)

教育課程及び授業計画について

学生関係 < 講演者：学生主事 >

5月20日(金) 11:00～12:00(60分)

学生指導を中心に

学寮関係 < 講演者：寮務主事 >

5月23日(月) 13:30～14:30(60分)

学寮の位置付けと指導体制について

校務関係 < 講演者：校務主事 >

5月23日(月) 14:30～15:30(60分)

将来計画、広報、地域社会への協力貢献について

先輩教員の授業参観、先輩教員による新任教員の授業参観

授業日	時間	授業名	担当教員	参観教員
5月26日(木)	5	通信伝送工学(4D)	戸谷	小田島、坂口
5月19日(木)	5, 6	通信伝送工学(4D)	戸谷	校長
5月27日(金)	3	信号処理(4D)	中村	戸谷
5月26日(金)	4	数学(3D)	沢柳	戸谷

(出典 本自己評価のための作成資料)

観点9-1- で記述した教員相互の授業参観はFDの取組でもある(資料9-2- -4)。

教員相互評価実施結果(17.5.16~27実施分)

学科	参観者数	相互評価提出枚数			合計枚数	参観未実施者
		1枚提出者	2枚提出者	3枚以上提出者		
校長	1人		1		2枚	
一般教科	17人	3	11	3	43枚	恐神、三島、 館岡、林 (義)、安彦
機械工学科	10人		6	4	28枚	
電気工学科	10人		8	2	23枚	
電子工学科	7人	1	6		13枚	中村、浅水、 山田
情報工学科	9人	1	7	1	18枚	
建築学科	9人	1	8		17枚	西澤
合計	63人	6	47	10	144枚	

非常勤講師の授業を参観した評価表(2枚)含めず。

南須原、木村両名は参観を実施したが、評価基準が曖昧ということで白紙提出。

以下参観者の無かった

教員

恐神、館岡、吉田、田村、松永、佐藤(英)、佐治、浅水、大貫、神谷、三森、西澤

### 教員相互評価表

日時 月 日 ( ) 第 時限	クラス	科目
参観者名	授業者名	

※~~~~~ 部分は記入しなくて結構です。

#### A. 授業内容の明確さ

評 価

1. 前回とのつながりや今回の授業の視点を明らかにしている。		評価平均
2. 難解な語句や新しい概念を理解しやすい。		
3. 全体の流れが把握しやすい。		
4. 授業のまとめをしている。		

#### B. 授業方法

評 価

1. プリント、教科書、視聴覚メディア、その他の教材やツールが効果的に利用されている（実際に使われたものに対する評価のみ）		評価平均
2. 学生の興味、関心をひくように展開されている。		
3. 板書、図示、適切な事例の提示などでわかりやすく示している。		
4. 学生全体に対して授業への参加を促している。		

#### C. 学生との接し方

評 価

1. 声は聞き取りやすい。		評価平均
2. 学生の方を見ている。全体を見渡している。		
3. 学生の質問に対して適切に答えている（質問があった場合）。		
4. 授業を円滑に進めるため適切な注意を与えている。		

コメント欄（使用された教材やツール、発問、板書などに対する具体的な感想があればぜひご記入下さい。もちろん、その他のご意見もお願いします。）

参観者		参観クラス			A					B			
学科	氏名	学年学科	科目	教員氏名	A1	A2	A3	A4	A平均	B1	B2	B3	B4
				全体平均	4.2	4.24	4.14	4.03	4.12	4.36	4.16	4.36	4.18
M	成澤哲也	1 M	機械設計製図	渡邊聖司	5	5	5	4	4.75		4	5	
M	成澤哲也	1 A	物理	森太郎	4	5	4	4	4.25	5	4	5	3
M	成澤哲也	5 M	制御工学	宮澤武	5	5	5		5.00		5	4	5
M	成澤哲也	4 M	流体工学	丹国夫	5	4	5	5	4.75		5	4	5
M	丹国夫	4 M	電気電子工学	成澤哲也	5	5	4	5	4.75	4	5	5	5
M	丹国夫	4 A	建築設計製図	千葉忠弘	5	5	4		4.67	4	5	5	5
A	大柴隆男	3 A	建築構造力学	井上圭一	4	5	4		4.33	4	4	5	4
A	大柴隆男	4 E	高電圧工学	小林一義	4	4	5		4.33		5	5	4
M	荒井誠	4 E	情報処理	高木敏幸		3	3	4	3.33	5	3	4	4
M	荒井誠	3 M	材料力学	麓耕二		4	4	3	3.67	4	4	5	3
M	荒井誠	5 M	熱エネルギー工学	田中孝二郎	3	3	2		2.67	3	2	3	3
G	星野裕一	3 E	電子工学	須田潤	2	2	3	3	2.50				
G	星野裕一	2 J	英語	伊関敏之	4	4	5	4	4.25		4	4	5
G	星野裕一	3 J	応用物理	森太郎	2	3	2	1	2.00		2	3	
A	千葉忠弘	1 A	物理	森太郎	5	5	5	5	5.00	4	5	5	5
A	千葉忠弘	3 A	建築構造力学	井上圭一	5	5	4	5	4.75	4	5	5	5
M	渡邊聖司	3 M	材料力学	麓耕二	5	5			5.00	5	5	5	5
G	田村聡子	1 E	英語	林幸利	3	4	4	4	3.75	4	4	4	4
G	田村聡子	1 J	コンピュータテラシ	林裕樹	5	4	5	4	4.50	5	5	5	5
M	岩淵義孝	3 M	情報処理	荒井誠	4	4	4	4	4.00	5	4	4	4
M	岩淵義孝	4 M	コミュニケーション実践	小田島本有	4	4	3	3	3.50	4	4	3	5
M	渡邊聖司	3 M	機械設計製図	小杉淳	4	3			3.50	4			
M	渡邊聖司	3 M	機械設計法	田中孝二郎	2	2	2		2.00		2	2	2
E	佐々木敦	5 E	電気材料	小林一義	5	5	5		5.00	4	5	5	5
E	佐々木敦	3 M	機械設計法	田中孝二郎		5	4	4	4.33	4	4	5	4
G	吉田茂	2 M	英語	片岡務	4	5	5	4	4.50	5	4	4	4
J	大貫和永	2 J	プログラミング言語	高橋晃	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5

J	大貫和永	2 J	国語	加藤岳人	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5
A	依田有康	1 M	英語	林幸利	4	3	4		3.67	4	3	4	4
A	依田有康	3 A	建築計画	佐藤彰治	3	4	4		3.67	4	3	4	3
A	中島敏	5 A	土質基礎工学	大楽隆男	4	4	4		4.00		4	4	3
M	麓耕二	4 M	電気電子工学	成澤哲也	3	4	3		3.33	4	4	4	4
M	麓耕二	4 M	コミュニケーション実践	小田島本有	4	4	4	4	4.00	5	5	5	5
G	加藤岳人	2 M	設計製図	麓耕二		5	4	5	4.67	4	5	5	4
G	加藤岳人	1 D	国語	小田島本有	5	5	5	3	4.50	5	5	5	5
G	星野裕一	4 M	システム設計	渡邊聖司	3	2	3	2	2.50		2	3	3
G	星野裕一	5 M	流体力学	丹国夫			2		2.00		2	1	2
G	澤柳博文	4 D	電磁気学	松本和健	3		3		3.00		2	3	3
G	澤柳博文	3 A	物理	松崎俊明			2	3	2.50		2	3	4
G	加藤隆	1 D	英語	伊関敏之	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5
G	加藤隆	2 D	電子計算機工学	坂田篤	5	5	5		5.00	5	5	5	5
G	加藤雅也	2 E	機械工学概論	千田和範	5	4	4		4.33	4	5	4	4
G	加藤雅也	4 A	応用物理	松崎俊明		5	4		4.50	4	5	5	4
G	加藤雅也	3 A	数学	山崎俊博		5	5	4	4.67	4	5	5	5
G	加藤雅也	1 J	物理	森太郎		4	5	3	4.00	4	4	4	4
G	森太郎	1 M	国語	小田島本有	4	4	4		4.00		5	5	5
G	森太郎	2 J	物理	浦家淳博	4	5	5	5	4.75	5	5	5	5
E	千田和範	4 E	電子回路	野口孝文	5	5	5		5.00	4	5	5	4
E	千田和範	5 E	制御工学	梶原秀一	5	4	4		4.33	4	5	5	4
E	千田和範	3 J	数学	山崎俊博	5	5	5		5.00	5	5	4	5
M	小杉淳	4 M	材料力学	成澤哲也	5	5	4		4.67		4	4	4
M	小杉淳	1 M	数学	山崎俊博	3	5	4		4.00		3	5	5
M	宮澤武	5 M	振動工学	成澤哲也	5	4	4		4.33		5	4	4
M	宮澤武	5 M	計測工学	小杉淳	4	3	4		3.67	5	4	4	4
M	宮澤武	4 M	応用物理	松崎俊明	5	4	4		4.33	5	5	4	4
M	宮澤武	3 M	機械材料	岩淵義孝		4	3	3	3.33	5	3	5	3
M	宮澤武	5 M	熱エネルギー工学	田中孝二郎	2	2	2		2.00	2	1	1	1
D	櫻田安志	4 D	電磁気学	松本和健	4	3	4		3.67		3	4	3
D	櫻田安志	2 A	数学B	山崎俊博	4	5	4		4.33		5	5	5
G	藤本一司	2 E	国語	館下徹志	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5



G	藤本一司	3 M	機械材料	岩淵義孝		5	5	5	5.00	5	5	5	5
A	三森敏司	3 A	建築計画	佐藤彰治	3	4	3		3.33	3	3	4	3
A	三森敏司	3 A	応用物理	松崎俊明	3	4	4		3.67	4	4	4	4
E	山岡勝	4 M	熱力学	山岸英明	4	4	4		4.00	3	4	4	4
D	戸谷伸之	4 D	信号処理	中村隆	5	5	5		5.00	5	5	5	5
D	戸谷伸之	3 D	数学	澤柳博文	5	5	5	4	4.75	5	5	5	5
E	山岡勝	3 E	数学	林義實		4	4	3	3.67	3	4	4	5
E	山岡勝	3 D	数学	澤柳博文	4	4	4		4.00	3	4	4	4
E	山岡勝	5 E	電気回路	須田潤		4	4	3	3.67	4	4	4	4
G	舘下徹志	2 D	倫理社会	藤本一司	4	5	5	5	4.75	4	5	5	5
G	舘下徹志	1 A	コンピュータテラシ -	井上圭一 大槻香子	5	5	5	4	4.75	5	5	5	5
G	松崎俊明	1 M	機械設計製図	渡邊聖司	4	3	3	2	3.00	3	2	4	5
E	工藤信博	5 D	電磁波工学	櫻田安志	4	4	4	5	4.25	3	3	4	3
E	工藤信博	2 E	電子計算機	野口孝文	4	4	3		3.67	4	3	4	3
E	松永繁樹	1 E	物理	松崎俊明	5	5	5	4	4.75	5	5	5	5
E	松永繁樹	5 E	通信工学	須田潤	5	4	4		4.33	4	4	5	4
G	小田島本有	3 D	電子回路	坂口直志	5	4	5		4.67	5	5	5	4
G	小田島本有	3 M	機械工作法	宮澤武		3	4	4	3.67	5	4	4	3
G	小田島本有	1 M	物理	松崎俊明	4	5	5	3	4.25	5	5	5	5
G	小田島本有	4 E	コミュニケーション実 践	舘下徹志	5	5	5	3	4.50	5	5	5	5
G	小田島本有	1 D	保健体育	三島利紀	5	4	5	5	4.75	5	5	5	5
G	小田島本有	2 A	物理	浦家淳博	4		5	4	4.33	5	5	5	5
G	小田島本有	3 M	機械材料	岩淵義孝	4	5	5		4.67	5	5	5	3
G	小田島本有	5 A	耐震工学	井上圭一	4	4	4		4.00	4	4	4	3
G	小田島本有	4 A	鋼構造	草苅敏夫	3	4	4		3.67	4	4	3	3
G	小田島本有	2 A	国語	加藤岳人	5	5	5	5	5.00	4	5	5	5
G	小田島本有	4 D	通信伝送工学	戸谷伸之	3	4	3		3.33	4	4	4	4
J	林 裕樹	3 J	プログラミング言 語	天元宏	5	4	5		4.67	5	4	5	5
J	神谷昭基	4 J	コミュニケーション実 践	舘下徹志	4	4	5	4	4.25	4	4	5	4
J	神谷昭基	4 J	計測制御	大槻典之		4	4		4.00		4	4	3
J	大槻典之	1 J	コンピュータテラシ -	土江田織 枝	5	4	5		4.67	5	4	3	4
J	大槻典之	1 E	物理	松崎俊明	5	5	5	3	4.50	5	5	5	4
D	佐治裕	4 D	電子材料	坂口直志	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5

D	佐治裕	4 D	ドイツ語	木村峰明	5	5	5	4	4.75	5	5	5	5
E	小林一義	5 E	電気設計	佐々木敦	4	5	5	5	4.75	5	4	5	5
E	小林一義	5 A	土質基礎工学	大楽隆男	4	4	4		4.00		4	5	5
G	伊関敏之	1 M	機械工学概論	渡邊聖司	4	5	5	3	4.25	5	5	5	4
G	伊関敏之	1 D	物理	森太郎	5	4	4	3	4.00	5	5	5	4
M	渡邊聖司	1 M	国語	小田島本有	5	5	5		5.00	5	5	5	5
J	土江田織枝	1 J	物理	森太郎	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5
J	土江田織枝	3 J	論理回路	大槻典之	5	5	5		5.00	5	5	5	
A	大槻香子	5 A	都市計画	千葉忠弘	4	5	4	4	4.25	4	4	5	3
A	大槻香子	3 A	物理	松崎俊明	5	5	5		5.00	5	5	5	5
G	林 幸利	1 D	英語	伊関敏之	3	4	3		3.33	4	3	4	4
G	林 幸利	3 A	建築設計製図	依田有康					#DIV/0!				
M	山岸英明	3 M	機械設計製図	小杉淳	4				4.00			5	4
M	山岸英明	3 E	電気工学実験	工藤信博 佐々木敦	4				4.00				4
E	須田潤	3 E	数学	林義實	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5
E	須田潤	3 E	電気計測	工藤信博	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5
A	井上圭一	4 A	建築環境工学	中島敏		3	4		3.50	3	3	4	4
A	井上圭一	5 M	振動工学	成澤哲也		4	3		3.50		3	4	3
A	佐藤彰治	4 A	建築環境工学	中島敏	4	4	4		4.00	4	4	4	5
A	佐藤彰治	3 A	数学	山崎俊博	4	4	4		4.00	3	4	4	5
J	本間宏利	3 J	コンピュータネットワーク	高橋晃	4	3	4	4	3.75	5	4	5	4
J	本間宏利	3 J	英語	片岡務	3	3	4		3.33	4	3	4	2
J	本間宏利	2 J	情報工学基礎	中島陽子	5	5	4	4	4.50	5	4	5	5
G	山崎俊博	3 A	数学	加藤雅也	3	3			3.00		3	3	3
D	松本和健	4 D	応用物理	松崎俊明	4	4	3	4	3.75	3	4	4	3
D	松本和健	3 D	電気回路	中村隆	4	4	3	3	3.50	4	3	3	4
校長	木谷勝	4 D	法学	南須原政幸		3	3		3.00	4	3	3	3
校長	木谷勝	4 D	通信伝送工学	戸谷伸之	3	4	4	3	3.50	4	3	3	4
M	田中孝二郎	3 M	機械設計製図	小杉淳	4	5	4		4.33	5	4	4	4
M	田中孝二郎	2 M	倫理社会	藤本一司	4	5	5		4.67	4	4	5	5
J	天元宏	2 J	プログラミング言語	高橋晃 中島陽子		3	3		3.00	5	5	3	5
J	天元宏	2 D	日本史	木村峰明	5	3	3	5	4.00	5	5	5	5

D	坂口直志	4 D	通信伝送工学	戸谷伸之	4	4	3		3.67	3	3	4	3
D	坂口直志	2 D	国語	加藤岳人	4	5	4		4.33		4	5	4
E	佐藤英樹	5 E	電気設計	佐々木敦	4	5	5	5	4.75	5	4	5	4
E	佐藤英樹	4 J	情報工学実験	本間宏利		4	4		4.00	5	4	5	4
A	草苺敏夫	4 J	コミュニケーション実践	館下徹志	4	4	4	4	4.00	4	5	5	4
A	草苺敏夫	1 A	コンピュータテラシ-	井上圭一 大槻香子	4	4	4		4.00	4	4	4	4
G	片岡務	1 M	機械工学概論	渡邊聖司					#DIV/0!	4	4	4	4
G	片岡務	1 M	物理	松崎俊明					#DIV/0!	4	4	4	4
E	高木敏幸	4 E	コミュニケーション実践	館下徹志	4	4	4	3	3.75	5	4	4	4
E	高木敏幸	5 E	発変電工学	山岡勝	3	4	3	3	3.25		3	3	4
J	中島陽子	2 J	情報数学	本間宏利	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5
J	中島陽子	1 J	コンピュータテラシ-	土江田織枝	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5
E	野口孝文	4 E	制御工学	千田和範	4	5	4	5	4.50	4	5	5	5
D	野口孝文	5 D	制御工学	梶原秀一	4	5	4	4	4.25	4	5	4	4
J	高橋晃	1 J	コンピュータテラシ-	林裕樹	4	4	4		4.00	5	4	4	
J	高橋晃	5 M	生産システム	荒井誠	4	4	4		4.00	5	4	4	4
D	梶原秀一	4 E	制御工学	千田和範	4	3	3		3.33	3	3	4	5
D	梶原秀一	5 D	電子計測	松本和健	4	3	4		3.67	3	4	4	4
D	坂田篤	4 D	電子工学実験	梶原秀一 山田昌尚	5	5	5	5	5.00	5	5	5	5

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

ファカルティ・ディベロップメント活動の運営組織が規定により定められ、教育改善、教員の自己研鑽などを目的とした各種のFD活動が行われている。それぞれの活動には多くの教職員が参加している。活動の内容も、教員相互の授業参観を始め、JABEE や教育方法に関わる研修会・研究集会、個別科目の教育方法等に関する取組に対する教員の派遣、新任教員研修など多岐にわたり、学生相談室も独自の取組を展開している。

以上により、ファカルティ・ディベロップメントは組織として適切な方法で実施されている。

観点9-2- : ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点到に係る状況)

教育方法改善共同プロジェクトを主管し、進路指導プログラム策定のために行った視察及び試行の

報告会をFD研修会として開催した(資料9-2-1)。

資料9-2-1

## 第5章 進路指導FDの実践

### 5.1 低学年における進路指導に関するFD

第4章においてふれた低学年における進路指導のあり方を踏まえて、指導に当たる教官の指導力向上のために、低学年において試行している進路指導内容についての教官FD研修会を開催した。以下資料はFD研修会に使用されたppt資料である。

平成15-16年度 教育方法改善プロジェクト

### 高専における進路指導のあり方

— 低学年担当WGから —

釧路工業高等専門学校  
一般教科 三島利紀

### 教育方法改善プロジェクトの動き

[従来のプロジェクト]

- アンケートによる基礎調査・分析(約1年)
- 他校の実践をもとに討議(2年目)

[今回のプロジェクト]

- アンケートによる基礎調査・分析(約1年)
- 現段階での釧路高専の課題に基づく、新たな実践の試行とその発表
- 他校の実践をもとに討議(2年目)

### ◎今年度の学生委員会の取り組み

- 新入生オリエンテーションの改善  
→クラスづくりをメインテーマとした  
(グループワークを通してリレーションづくり)
- 学生相談室との連携による心理検査の実施  
[ロングHR活動の充実]
- 厚生補導関係講演の事後指導(感想文の提出)
- 学校祭の準備計画と反省  
→学生会によるアンケートの実施(反省)
- 11月に進路に関するワークの実施  
→各学年別にワークシートによる実施
- 2月に1年間の反省 →ワークシートによる

### ◎ 低学年WGの試行的な取り組み

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1学年実施 グループワークを通じた 集団づくり</li> <li>■ 2学年実施 「ゆれる自己実現」卒業生 の体験からと題した講演</li> <li>■ 3学年実施 エントリーシートについて リクルートによる講演と演習</li> </ul> <p>教師と学生、学生同士の 交流を促進する</p>	<p>[ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 半農集団(肯定的)の育成 新入生オリエンテーション との連携</li> <li>▶ 他者理解からの自己理解 心理検査や進路に関する ワークの実施</li> <li>▶ 自己・他者理解と受容に 表付けされた自己表現 心理検査や進路に関する ワークの実施</li> </ul> <p>学年・委員会との連携強化</p>
--	--

### 学生委員会の取り組みの理由

- 入学してから卒業するまでに1クラス分程度の学生が退学している実態がある。
- そのほとんどが、3年生までの修了退学である。
- 平成14年3月論文集「高専教育」、第25号「学生の進路変更願望とリレーション(人間関係)の動き」の中で論じている。
  - ・ 1年生の連休明けぐらいには、かなりの学生が辞めたいと思っている。
  - ・ 2年生では、高校組みの友人の進路決定から焦りを感じ、心が揺らいでいる。

### 4年生が完成年度

- 学年末試験が終わるや否や、就職試験がスタートし、その後、加速する(大学も同様)。
- 学生たちが4年終了時までには、就職進学への準備が整っているとは思えない。
- 4年進級時点で、進路に対する最終的な動機づけが必要。
- 学生に具体的な進路指導計画を提示し、その行事のねらいを明確にする。

定期的な面接指導、小論文指導、履歴書の書き方指導(自己分析)、補講指導等



## 5.2 進路指導実態調査報告会

本プロジェクトにおいて、各種教育機関における進路指導システムの視察を行った。その中から、NHKでも放映された福岡城南高校、及びキャリア教育を単位の一つとしてカリキュラムに組み込んで実践している広島大学学生就職センタの視察結果について、報告会を開催し進路指導の教官FDとした。この内容については、第3章について詳しく述べられているのでそちらを参照願いたい。

内 容：1) 福岡城南高校における進路指導状況報告

2) 広島大学学生就職センタ視察報告

講 師：WG1 坂口教官・小田島教官

(出典 国立高等専門学校協会 平成15・16年度教育方法改善共同プロジェクト中間報告書)

本プロジェクトの成果をもとに、特に低学年の進路指導において種々の改善策が施され、学生の進路に関する意識を高めることに役立てている(前出資料7-2-2, 前出資料7-2-3)。

(分析結果とその根拠理由)

種々のFD活動のうち顕著な成果を上げている最近の例は、教育方法改善共同プロジェクトにおける「低学年における進路指導」である。報告書の作成や教員研究集会の開催及び学内の報告会を通じて、成果が学内に広範にわたって認識され、各クラスのホームルームで実践に移されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育方法等改善共同プロジェクトを主管し、その成果を進路指導に反映させている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準9の自己評価の概要

本校では、点検・評価のみを目的とした委員会の設置はしていないが、運営会議において教育に関する計画、自己点検評価や外部評価について審議し、運営会議のもとで各委員会が教育に関する状況に関して実質的な評価と改善を行っていく体制があり、機能している。また、JABEE認定に向けてJABEE準備ワーキンググループ、教育学習レビュー室及び8つの小委員会が設置され、教育の状況を

はじめ必要な点検と改善の取組を行っている。教育活動の実態を示すデータや資料は、各担当の事務組織により体系的に収集、整理、蓄積され、審議資料として提供される。学生の意見は授業評価アンケートにより、また、学外者の意見は保護者授業参観や卒業生・企業向けアンケートにより聴取され、授業の改善や学習・教育目標の見直し・改定のために役立てている。また、運営諮問委員会を設置し有識者の意見を聞く取組を始めたところである。学生による授業評価アンケートの結果に基づき教員が作成する授業改善レポート（ステップアップ提案書）は、教育学習レビュー室が管理し、必要に応じ校長・教務主事等による指導が行われる。

研究活動は主に卒業研究・専攻科特別研究に反映される。また、教育方法に関する研究も積極的に行われ、平成15年度教育教員研究集会での研究成果発表が文部科学大臣賞を受賞する成果を上げている。平成15・16年度に本校が世話校となり行われた教育方法改善共同プロジェクト「高専における進路指導のあり方について」は、教育方法に関する研究であるとともにFDの取組でもあった。本校では、その成果が「低学年における進路指導」として各クラスのホームルームで実践に移されている。この他にも、本年度から全学的に開始された教員相互の授業参観や、学生相談室による研修会など様々な活動が行われ、授業や教育方法の改善に寄与している。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1- : 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校の校地、校舎等の資産は、平成16年4月の法人化に伴い独立行政法人国立高等専門学校機構法の規定に基づき国から高専機構に承継されたものであり、借り上げ等による施設はなくすべて自己資産である。債務に関しては、本校にその権限はなく、学校として債務を負うことは想定されない。

(分析結果とその根拠理由)

校地、校舎等の資産は法の規定に基づき高専機構に承継されたものであり、教育研究活動は安定して遂行できる。また、債務を負うことは制度上ない。

観点10-1- : 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

本校の経常的収入は、高専機構から交付される運営費交付金及び施設費 授業料・入学金・検定料・寄宿舎料その他の雑収入 産学連携等研究収入・寄附金収入 科学研究費補助金等の競争的資金の4種類に分類される。平成16年度の収入決算額と支出決算額を示す(資料10-1- -1)。

資料10-1- -1

収入決算額及び支出決算額(平成16年度)(上記 ~ )

(出典 別添学校要覧42頁)

運営費交付金及び施設費は、独立行政法人通則法第46条に基づき学校運営に必要な資金について財源措置されるものであり、運営費交付金は、高専機構の定める配付基準及び本校からの要求に基づき交付され、施設費は高専機構及び本校の施設整備計画に基づき計画的に示達される。次に、授業料収入の過去5年間の状況を以下に示す(資料10-1- -2)。

資料10-1- -2

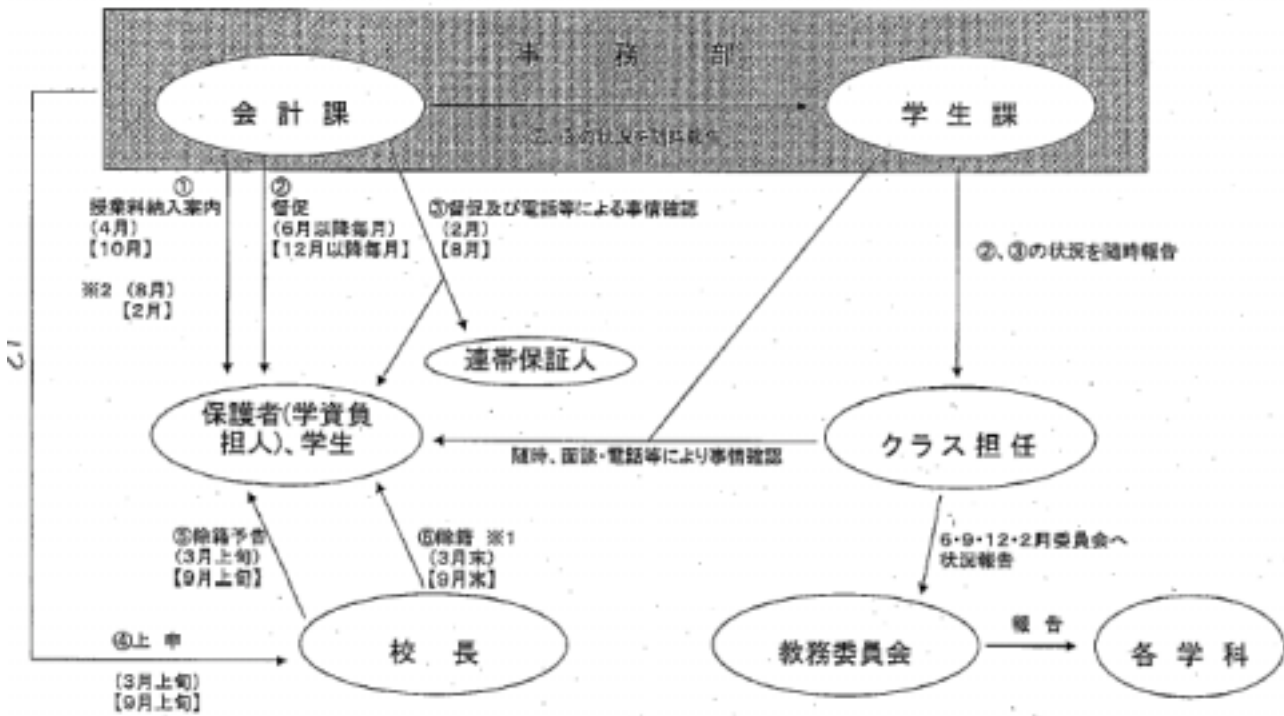
授業料等収入額状況(平成12年度～平成16年度)								
年度	当年度収入予定額	過年度未納額	収入予定額	収入額	授業料免除額	除籍者未納額	年度末未納額	年度末未納額内訳
平成12年度	227,491,900	203,400	227,695,300	211,858,500	15,631,000	0	205,800	H13納入(205,800)
平成13年度	210,007,800	205,800	210,213,600	193,841,550	15,833,550	0	538,500	H14納入(211,800), H15納入(217,800), H15除籍(108,900)
平成14年度	208,306,500	538,500	208,845,000	191,933,700	16,149,000	0	762,300	H15納入(544,500), H15除籍(217,800)
平成15年度	218,385,600	1,089,000	219,474,600	204,840,900	13,851,000	554,700	228,000	H16納入(228,000)
平成16年度	206,112,000	228,000	206,340,000	189,924,000	15,846,000	342,000	228,000	
			A	B	C			
			未納率: C/A-B			未納による除籍者数		
			0.18%			2 前後期1名(228,000)		

(出典 会計課作成文書)

授業料収入において各年度とも年度末に若干の未納者は存在するが、督促や学生指導によってほぼ満額が納入されている。平成15年度・16年度には授業料未納による除籍学生がでたことで予定の収入が確保されない事態となったが、当地域の経済状況等から鑑み入学定員1,000名に対し1.8名という未納率は致し方ない面がある。こうした事態を重く受け止め、授業料未納による除籍を防止するため平成16年10月には、運営会議で「授業料の徴収事務取扱要領」を定め、学生指導に努めるとともに収入の確保に万全を期している(資料10-1- -3)。

授業料の徴収事務取扱要領（説明資料）

授業料督促に係るフローチャート



※1 2期分を滞納した時点で除籍とする。（例えば、前・後期分を滞納している者が後期分の納入期限(3月末)までに前期分のみ納入した場合は除籍はしない。  
 ※2 授業料免除申請者の場合、その可否が決定される時期が遅いため、①の時期はおおむねこの順になる。

（出典 運営会議配布資料）

次に、上記収入分類 産学連携等研究収入・寄付金収入に係る過去5年間の状況を以下に示す（資料10-1-4）。

産学連携・寄付金収入一覧（単位：円）

	産学連携等研究収入	寄付金収入
平成12年度	11,193,100	17,127,000
平成13年度	7,557,000	15,490,000
平成14年度	3,247,700	12,390,000
平成15年度	3,662,650	10,272,000
平成16年度	8,077,090	7,468,000

（本自己評価のための作成資料）

産学連携等研究収入の実績は、民間企業との共同研究や受託研究の推進に伴い、毎年着実な収入を上げている。また、寄付金収入は、その大部分が在籍学生の保護者により組織されている「釧路工業高等専門学校後援会」からの寄付金が占めている。後援会は、毎年独自の事業計画を作成し、主とし



て学生の活動に対する支援を目的に寄附してくれており、本校にとって継続的な収入となっている。  
次に、過去10年間の科学研究費補助金獲得状況を以下に示す(資料10-1-5)。

資料10-1-5

科学研究費補助金採択状況 (※申請件数欄のカッコ内は継続課題(外数))

資料5

年度	申請件数	採択件数	研究種目	学科	氏名	採択額(千円)	備考
7	17	2	一般研究(C)	電気工	野口孝文	1,200	
			試験研究(B)	電気工	野口孝文	1,600	
8	35	4	基盤研究(B)	電気工	野口孝文	4,700	
			基盤研究(C)	電気工	西村浩一	2,100	
			奨励研究(A)	機械工	藤 耕二	1,000	
			奨励研究(A)	電子工	坂口直志	900	
9	34(1)	3	基盤研究(B)	電気工	野口孝文	500	継続
			奨励研究(A)	電気工	榊 守	1,300	
			奨励研究(A)	情報工	大槻典行	700	
10	25(2)	3	奨励研究(A)	電気工	榊 守	1,200	継続
			奨励研究(A)	情報工	大槻典行	1,400	継続
			奨励研究(A)	電子工	櫻田安志	1,300	
11	27(1)	3	基盤研究(B)	電気工	野口孝文	2,300	
			基盤研究(C)(1)	電気工	小林一義	1,700	
			奨励研究(A)	電子工	櫻田安志	1,000	継続
12	29(2)	3	基盤研究(B)	電気工	野口孝文	1,300	継続
			基盤研究(C)(1)	電気工	小林一義	400	継続
			基盤研究(C)(2)	建築	千葉忠弘	900	
13	28(2)	3	基盤研究(C)(1)	電気工	小林一義	300	継続
			基盤研究(C)(2)	建築	千葉忠弘	400	継続
			基盤研究(C)(2)	電子工	中村 隆	1,800	
14	25(3)	4	特定領域研究(2)	電子工	中村 隆	1,800	継続(代表者変更による)
			基盤研究(C)(1)	電気工	小林一義	300	継続
			基盤研究(C)(2)	電子工	中村 隆	1,800	継続
			萌芽研究	情報工	大槻典行	500	
15	33(1)	3	基盤研究(C)(2)	電気工	小林一義	500	
			基盤研究(C)(2)	建築	佐藤彰治	1,600	新規採択率 6.06%
			萌芽研究	情報工	大槻典行	1,000	継続
16	38(3)	7	基盤研究(C)(2)	電気工	小林一義	500	継続
			基盤研究(C)(2)	建築	佐藤彰治	500	継続
			基盤研究(C)(2)	電気工	野口孝文	1,400	新規採択率 7.89%
			基盤研究(C)(2)	電気工	高木敏幸	2,500	
			若手研究(B)	電子工	梶原秀一	400	
			若手研究(B)	建築	井上圭一	200	継続 前機関にて申請
			若手研究(B)	建築	森 太郎	2,300	前機関にて申請
17	48(6)	9	基盤研究(C)	電気工	小林一義	500	継続
			基盤研究(C)	電気工	野口孝文	600	継続
			基盤研究(C)	電気工	高木敏幸	700	継続
			基盤研究(C)	一般	三島利紀	500	新規採択率 8.25%
			基盤研究(C)	電気工	須田 潤	1,900	
			萌芽研究	電子工	中村 隆	2,500	
			若手研究(B)	建築	井上圭一	200	継続
			若手研究(B)	電子工	梶原秀一	500	継続
若手研究(B)	建築	森 太郎	700	継続			

(出典 H17.4 運営会議配付資料)

資料で明らかとなっており、これまでの資金獲得状況は、年度によりばらつきがあるものの、申請件数の増加とともに増加傾向にある。とりわけ、本校の中期計画において「専門科目を担当する教員のうち80%以上の者が科学研究費補助金の申請を行う体制を整える。」とした平成16年度以降は、申請件数及び採択額ともに増加し、運営費交付金が毎年一定の割合で削減される状況のなかで、重要な研究費財源となっている。また、科学研究費補助金に関する説明会を開催し(資料10-1-6)、外部資金の積極的な導入による研究資金の確保に努力している。

資料10-1 - - 6

科学研究費補助金に関する説明会開催状況

日時	場所	対象者	講師	テーマ	出席者数
H 14.10.15	本校 大講 義室	本校教官・事務官・技 官 釧路公立大・北海道教 育大 釧路校関係者	日本学術 振興会 研究助成 課長 松尾 淳 氏	科学研究費補助金 制度について	本校教員29名， 事務官11名， 技官10名 公立大教官4 名，教育大事務 官3名
H 16.10.13	同上	本校教員・事務職員・ 技術職員	校長・庶 務課担当 職員	1. 研究計画調書の 書き方のノウハ ウについて 2. 文部科学省によ る科学研究費補 助金説明会報告	本校教員36名， 事務職員6名， 技術職員9名
H 17.7.29 (予定)	同上	本校教員（主として電 気・電子・情報系）・ 事務職員・技術職員	北大 情 報科学研 究科教授 福井孝志 氏	上手な科研費申請 書の書き方	
H17.8.8 (予定)	同上	本校教員（主として機 械・建築系）・事務職 員・技術職員	北大工学 研究科機 械科学専 攻 教授 吉田静男 氏	上手な科研費申請 書の書き方	

(本自己評価のための作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校における教育研究活動を支える経常的収入は、およそ80%が運営費交付金である。運営費交付金は、施設費とともに高専機構から安定的・継続的に交付されている。また、自己収入の主要な要素となる授業料収入においては、督促と学生指導に関する取扱いを学内ルールとして定め、安定的に確保している。産学連携・寄附金収入及び科学研究費補助金などのいわゆる外部資金に関しても増加の傾向にあるとともに、説明会の開催など積極的な導入のための取組が行われており、経常的収入は継続的に確保されている。

観点10-2- : 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

本校の財務は、法人化により大きな制度上の変更があった。つまり、国による予算配当の廃止と、

これに変わる制度としての運営費交付金と授業料等の自己収入による自立的な学校運営への変更である。平成16年6月の運営会議では、この制度変更と今後の予算編成方針及び収支計画について詳細な説明が行われた。同会議の議事録（資料10-2- - 1）と説明資料（資料10-2- - 2）を以下に示す。

資料10-2- - 1

#### 審議事項

##### 1. 平成16年度学内予算配分（案）について

会計課長から資料2に基づき説明があり、審議の結果了承された。

会計課長説明の要点は以下のとおり。

##### （1）独法後の予算執行の特徴

- ・学校運営経費は運営費交付金と授業料等の自己収入で賄う。
- ・自己収入が運営経費に組み込まれたため、収入欠損の場合、直接、予算の減になる。
- ・運営費交付金は、人件費等の固定的経費を除いて、用途の内訳が特定されない。
- ・経費の使用に関して、説明責任が課せられた。
- ・運営経費について、財務諸表を作成・公表することにより学校の財務状況が公開される。
- ・高専機構本部ができたため、その運営経費を各高専が拠出することになった。

##### （2）学内予算各項目について

- ・予算総額の減、追加配当額の不明、自己収入額の不安定さにより、緊縮予算である。
- ・教員研究経費は、前年度比70%配当とする。その用途は、物件費・旅費の別はなく原則自由であるが、釧路高専として独自の用途制限事項を設けた。
- ・一般教科の教員研究経費について、実験・非実験で一人当たり単価に大きな格差がある。格差を設けた経緯は不明であるが格差を設ける特別な理由が見いだせないことまた旅費の使用において、格差による不平等が生じることを避けるため、実験・非実験での一人当たり単価を同額とした。

- ・学科経費は前年度比100%配当とし、その用途は物件費に限定する。

- ・校長裁量経費について、当初配当では「特別設備等充実費」を保留とした。

今年度より、旅費の申請も認められた。

- ・その他、予算の新規事項等の説明があった。

なお、校長から、学科経費の配分方法については、予算の効率的な配分と成果が強く求められていることを勘案し、これまでの教員数に応じた単純配分を改め、来年度からは各学科の教育現場で必要な費用・負担を基本に置いた配分方式への見直しを行いたい

旨の提案があり、併せて了承された。

（出典 平成17年6月30日定例運営会議議事要録）

## 平成16年度学内予算配分方針について

独立行政法人化に伴い、国立学校特別会計からの予算配当が廃止され、平成16年度から、運営費交付金+自己収入により学校運営を行う。

### 1. 独立行政法人後、運営費交付金における予算執行の特徴

予算執行上、従前と次の相違点がある。

- ① 学校運営は運営費交付金と自己収入（授業料、検定料、入学料、雑収入）で行う。
- ② 運営費交付金は「渡し切りの交付金」であり、使途の内訳は特定されない。従って、従前のように、物件費、旅費、謝金別の明細はない。  
(ただし、運営費交付金の金額を算定する上で、従前の予算科目別の金額計算とその積み上げは行っている。)
- ③ ②より、運営費交付金と自己収入からなる運営資金の使途は、一部例外を除いて、基本的に学校の判断で弾力的執行ができる。
- ④ ③の一部例外とは、常勤教職員人件費、退職手当、赴任旅費等の支出金額が決まっている固定的経費である。
- ⑤ ③により、運営資金の使途で学校の判断が認められたが、自由裁量が増えた分、その使用に関して対外的な説明責任が厳しく求められている。資金使用者は資金を教育研究上、どのような目的で使用し、どのような成果を得たかについて、妥当性のある説明をできるようにしておかなければならない。
- ⑥ 運営資金の会計処理は、複式簿記を中心とした企業会計原則（国立学校の特性を踏まえた修正は加えられている）にのっとって行われ、年度終了後、前年度の運営資金について、財務諸表を作成し、一般に公開される。
- ⑦ 財務諸表とは、貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類、キャッシュフロー計算書、行政サービス実施コスト計算書、付属明細書である。これらの一般公開により、学校運営でどれくらいの経費が使われたか、どの部分に費用がかかったか、年度末時点で学校にはどのくらいの財産があるかが、公表される。
- ⑧ 運営資金は、一般管理費、教育研究経費、教育研究支援経費、人件費と区分し、それぞれに振り分ける。支出がどの区分でされたかを明確にしなければならない。  
※教育研究支援経費とは図書館、実習工場等の特定の部署ではなく学内共通の教育研究に使用される場所の経費を言う。
- ⑨ 自己収入が運営資金の一部に組み込まれた。このため、授業料の未納などがあり、収入欠損に至った場合、直接、運営資金=予算の減につながる。
- ⑩ 高専機構本部ができたため、その維持・運営、高専共通経費が各高専より拠出される。  
16年度の高専機構拠出金は7,623,000円である。

## 2. 平成16年度学内予算配分について

別紙のとおり、平成16年度釧路高専の予算総額は1,234,351,000円である。

※高専機構拠出金7,623,000円が差し引かれている金額である。

※予算総額には自己収入266,459,000円が組み込まれている。このため、運営費交付金の純送金額は(1,234,351,000円 - 266,459,000円) = 967,892,000円である。

この予算総額は、当初予算としては、非常に厳しい金額である。

また、例年、追加配当されている予算事項は、今年度も追加配当扱いで残されているが、例年並みの金額が配当されるか、全く分からない状況である。

くわえて、授業料等の自己収入が予算に組み込まれたため、収入が予定額を下回った場合、直接、予算額の減につながるという不安定要素がある。

このため、平成16年度学内予算の当初配当は、以下の方針に沿って行う。

なお、配当された各予算は、その使用目的に応じて、一般管理費、教育研究経費、教育研究支援経費、人件費に振り分ける。

### ①教員研究経費（従前の教官研究旅費と教官研究費を合わせたもの）

#### ・旅費相当分

15年度配分額（教育方法改善共同プロジェクト及び全国高専テクノフォーラムの事前打ち合わせ旅費の不足分に充当した3%は控除しない）をベースとして、年度当初に70%を配分する。運営費の執行状況、高専への追加配分の金額をみながら、残額を追加配当する。

#### ・物件費相当分

15年度配分額をベースとして、年度当初に70%を配分する。  
運営費の執行状況、高専への追加配分の金額をみながら、残額を追加配当する。

※経費の用途について、弾力的運用が認められたため、旅費・物件費相当分をその金額に従い、厳密に使用する必要はない。極端ではあるが、研究経費全てを旅費に使用することも可能である。しかし、物件費相当分が従前の教育研究基盤校費（教員分）から来ていることを考えると、予算額の大部分を旅費で使用することは、対外的な説明が難しいと判断する。このため、釧路高専としては、当分の間、経費の用途を次のように設定する。

- 教員研究経費において、旅費使用額の上限は予算額の50%とする。
- 旅費相当額は少額であるので、物件費への流用は自由とする。
- 上記によりがたい場合は、会計課総務係に協議すること。

## ②学科経費

15年度配分額をベースとして、年度当初に100%を配分する。  
専攻科学生分として、15年度学生1人当たり積算額×定員数を配分する。

※経費の用途について、学科経費は従前の教育研究基盤校費（学生分）から来ていることを考え、教員個人の旅費に使用することは妥当ではない。このため、学科経費は全て物件費とし、旅費に使用することはできない。

## ③校長裁量経費

「特別設備等充実費」（教育研究環境の整備及び学生の実験・実習設備等の整備をはかる）は、当初配当では保留とし、運営費の執行状況、高専への追加配分の金額をみながら、優先的に追加配当する。

その他の経費については、15年度配分額をベースとして、年度当初に100%を配分する。

## ④学内共同利用施設の運営経費

学内共同利用施設（図書館、情報処理センター、地域共同テクノセンター、実習工場）の運営経費は、15年度配分額をベースとして、年度当初に100%を配分する。

## ⑤教官研究設備維持運営費（特殊装置維持費）

平成15年度文部科学省配当額をベースとして光熱水料相当額(25%)を控除して配分する。ただし納入後10年を経過した装置については配分しない。

マテリアルアセスメントシステム（機械工学科）が、今年度より新規配分される。

購入後年数経過または前年度実績額に応じた調整のため、予算が減額されている装置があるが、維持が難しい場合は必要に応じて追加配分を検討する。

## ⑥備品購入費

各委員会から要望のあった下記の備品を、優先して配分する。

- ・教務委員会「4年生5教室プロジェクター他一式」5,000,000円  
現在、教室にプロジェクターが整備されていないのは、4年生5教室だけである。校舎改修時に整備する予定であったが、2年続けて、改修予算が付かなかつたため他教室との整合も考慮し、今年度整備する。

- ・寮務委員会「学生寮A棟2階ベット、机等」4,000,000円

今年度、夏期休業中に学生寮A棟2階を改修することが決定されている。改修に合わせベット、机、ロッカー、キャビネットを、女子寮、A棟1階に整備されているベット等と同等品を購入する。なお、他の棟に関しても改修に合わせ、随時整備する予定である。

#### ⑦一般管理費

光熱水料等の一般管理費は、15年度使用実績額及び見込みをベースとするが、経費削減をはかるため、減額できるものは相当額減額して配当する。

運営費の執行状況、高専への追加配分の金額をみながら、不足が生じた場合は追加配分し、残額が生じた場合は他の経費に充当する。

#### ⑧その他の経費

入試経費、学生指導費、寄宿舎費、留学生経費等は15年度当初予算配当額及び使用実績をベースとして配当する。追加配分があった場合は、その都度、配当する。

#### ⑨新規項目

- ・一般管理費－損害保険料、支払手数料、労衛経費、マルチ学習システム保守
- ・教育研究経費－ジャビー経費、内地研究員旅費

また、インターシップ経費、学校開放事業経費は校長裁量経費、国際交流基金に分散していたものを集約する。

(出典 平成16年6月28日運営会議資料)

#### (分析結果とその根拠理由)

本校では法人化による財務制度の変更について、運営会議における学内予算審議に際して詳細な説明を行うとともに、収支計画を示し審議・決定を行っていることから、適切な収支に係る計画が策定され、教職員に明示されている。なお、学生に対する明示は行われていないが、教育研究活動を安定して遂行できる資産状況、経常的収入状況に鑑み当面その必要性は低いと考えている。

観点10-2- : 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

#### (観点に係る状況)

前出資料(資料10-1- -1)で明らかとなっており、支出超過はない。また、本校の支出は高専機構から交付される運営費交付金・施設費及び自己収入の範囲内に限られ、また借入金の権限もないことから、本校単独の収支の状況においては支出超過となることは制度上ない。

(分析結果とその根拠理由)

現在，支出超過はない。また，高専機構の設置する学校という制度上の位置づけから，将来においても本校単独の収支における支出超過はない。

観点10 - 2 - : 学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

学内予算において，教育研究活動に係る経費は，予算分類上「教育研究費」及び「教育研究活動支援経費」として予算全体の約35%を配分している。前者は教育研究活動全般に関する直接経費として，また後者は教育施設・設備の維持・整備及び施設の運営に係る経費として，必要な費用を計上している。平成16年度当初配分予算における学内予算配分案を以下に示す(資料10 - 2 - - 1)。

資料10 - 2 - - 1

平成16年度 学内予算配分総括表

項 目	平成15年度 予算額	平成16年度 予算額	増減額	備 考
	千円	千円	千円	
教育研究費	102,911	79,080	△ 23,831	
教員研究経費	31,275	22,304	△ 8,971	
学科経費	22,400	22,900	500	
外国人教師等経費	229	0	△ 229	
内地研究員旅費	0	521	521	情報 天元先生
非常勤教員旅費	2,087	1,835	△ 252	
校長教員経費	22,000	12,000	△ 10,000	
創造工学経費	1,000	1,000	0	
教育研究設備維持運営費	5,909	4,964	△ 945	
語学演習装置	200	200	0	図書種
校内LAN装置	1,503	1,000	△ 503	情報処理センター
ギガビットネットワークシステム	1,500	1,000	△ 500	情報処理センター
光造形システム	722	700	△ 22	機械工学科



マテリアルアセスメントシステム	0	360	360	機械工学科 16年度より新規
NC設備	335	84	△ 251	実習工場
電子デバイス開発評価システム	706	700	△ 6	電子工学科
情報処理・情報制御・設計制御システム	247	240	△ 7	地域共同テクノセンター
環境対策試験システム	413	400	△ 13	地域共同テクノセンター
寒冷地対応工機材料作成評価システム	284	280	△ 4	地域共同テクノセンター
学生経費	5,646	4,450	△ 1,196	
学生指導費	2,678	2,500	△ 178	
学生保健管理費	1,000	950	△ 50	
福利施設運営費	673	200	△ 473	
インターンシップ経費	60	300	240	追加配当額이지만, 計上
地区体系費	490	500	10	追加配当額이지만, 計上
運動機維持費	278	0	△ 278	一般管理費へ移行
体育施設開放経費	67	0	△ 67	一般管理費へ移行
障害学生学習支援経費	400	0	△ 400	追加配当後, 配分する。
留学生経費	970	765	△ 204	追加配当額이지만, 計上
教務経費	4,500	4,500	0	
入試経費	3,500	3,000	△ 500	追加配当額이지만, 計上
ジャビール経費	0	500	500	新規
印刷物他経費	1,000	1,000	0	追加配当額이지만, 計上
学生寮経費	5,980	2,200	△ 3,780	
寄宿舎費	2,200	2,200	0	
学寮給食業務委託費	3,780	0	△ 3,780	16年度1円入札のため, 配当せず。
学控開放事業経費	15	740	725	
公開講座	15	270	255	校長経費、基金配当を拠約。
出前事業	0	120	120	校長経費、基金配当を拠約。
子供開放プラン	0	350	350	校長経費、基金配当を拠約。
式典経費(入学・卒業式等)	900	900	0	一般管理費より移行
			0	
教育研究支援経費	11,135	9,000	△ 2,135	
地域共同テクノセンター経費	800	800	0	
情報処理センター経費	500	500	0	
徳穂覚教育維持費	400	400	0	
図書館経費	9,135	7,000	△ 2,135	
学生図書費	2,100	2,000	△ 100	
図書館維持費	1,800	1,500	△ 300	
図書館維持費(レイトタイム職員経費)	1,635	0	△ 1,635	人件費へ移行
紀要・別刷代	500	500	△ 100	
定期刊行物	3,000	3,000	0	
実習工場経費	300	300	0	
			0	
人件費	1,206,994	1,015,643	△ 191,351	
常勤教職員人件費	905,709	918,502	12,793	労働保険料 14,725千円が新規増
超過勤務手当	15,560	15,536	△ 24	
超過勤務手当(入試分)	1,000	1,000		
退職手当	244,503	47,699	△ 196,804	
非常勤教員人件費	24,799	20,415	△ 4,384	
非常勤職員人件費	15,423	12,491	△ 2,932	
			0	
一般管理費	120,892	121,628	736	詳細は別紙参照
			0	
4年生5教室プロジェクト		5,000	5,000	備品購入費
学生寮A棟2階ベット等		4,000	4,000	備品購入費
合計	1,441,932	1,334,351	△ 207,581	

## 平成16年度 教員研究経費配分表

項 目	平成15年度予算額			平成16年度予算額		
	人数	積算単価	金額	人数	積算単価	金額
	人	円	円	人	円	円
<b>旅費相当分</b>						
全教員一律額	75	68,000	5,100,000	76	70,000	5,320,000
A. 16年度 当初配分額 (予算額の70%)				76	49,000	3,724,000
<b>研究費相当分</b>						
校長	1	343,000	343,000	1	343,000	343,000
一般教科(非実験)	11	214,000	2,354,000	11	312,000	3,432,000
一般教科(実験)	14	389,000	5,446,000	14	312,000	4,368,000
専門学科(機械)	9	368,000	3,312,000	10	368,000	3,680,000
専門学科(電気)	10	368,000	3,680,000	10	368,000	3,680,000
専門学科(電子)	10	368,000	3,680,000	10	368,000	3,680,000
専門学科(情報)	10	368,000	3,680,000	10	368,000	3,680,000
専門学科(建築)	10	368,000	3,680,000	10	368,000	3,680,000
計	75		26,175,000	76		26,543,000
B. 16年度 当初配分額 (予算額の70%)				76		18,580,100
16年度 教官研究経費 合計(A+B)						22,304,100
<b>教員一人当たり当初 配分額(旅費+研究費)</b>						
校長				1		289,100
一般教科(非実験)				1		267,400
一般教科(実験)				1		267,400
専門学科				1		306,600

## 平成16年度 学科経費配分内訳

区 分	平成15年度予算額			平成16年度予算額		
	人 員	積算単価	積算額	人 員	積算単価	積算額
	人	円	円	人	円	円
1. 本省積算参考額						
一般教養	400	22,400	8,960,000	400	22,400	8,960,000
専 門	600	22,400	13,440,000	600	22,400	13,440,000
専 攻 科			0	20	22,400	448,000
計	1,000		22,400,000	1,020		22,848,000
2. 学内配分						
一般教科	25		7,470,000	25		7,470,000
専門学科	49		14,930,000	50		14,930,000
機械工学科	9		2,986,000	10		2,986,000
電気工学科	10		2,986,000	10		2,986,000
電子工学科	10		2,986,000	10		2,986,000
情報工学科	10		2,986,000	10		2,986,000
建築学科	10		2,986,000	10		2,986,000
専攻科			0			500,000
計			22,400,000			22,900,000

一般管理費 平成16年度予算

(単位:千円)

項目	経費区分	具体的内容	15年度 当初予算額	16年度 当初予算額	増減 16年度-15年度
一般管理費 合計			120,892	121,628	736
消耗品費	合計		2,943	3,143	200
	文房具・雑用品			2,000	
	紙類	コピー紙、図更等		1,000	
印刷製本費	合計		1,000	810	△ 190
	封筒類			400	
	一般印刷物			400	
水道光熱費	合計		45,146	42,540	△ 2,606
	電気料			16,000	
	上下水道料			8,000	
	ガス料			2,500	
	重油料			16,000	
通信運搬費	合計		11,317	11,150	△ 167
	郵便料	往納郵便料、切手、宅配便		3,000	
	電話料			2,800	
	ネットワーク接続料			3,350	
	その他			2,200	
賃借料	合計		11,136	11,660	524
	コピー・印刷機			500	
	その他	事務用電算、教育用電算、給湯サーバ		11,160	
自動車維持費	合計		700	700	0
	車両燃料費	ガソリン、軽油		400	
	雑益・雑品費	車検、自賠責保険料、点検、洗車、ワイパー、タイヤ		300	
職員厚生経費	合計		807	900	93
	保守費		14,386	16,800	2,414
	コピー・印刷機			1,000	
施設維持費	合計			12,000	
	用度分	行政文書、キガビット、マルチ学習、消防設備、証明書		3,800	
	施設分	ボイラ、自家用電気工作物、昇降機、地下タンク等		12,000	
損害保険料	合計		2,200	2,200	0
	施設分	ボイラ、自家用電気工作物、昇降機、地下タンク等		2,200	
	施設分	施設修繕費、施設検査・調査費等		2,200	
損害保険料	合計		0	347	347
	建物、自動車等の保険料			347	
	施設分	施設修繕費、施設検査・調査費等		2,200	
広告宣伝費	合計		1,300	1,800	500
	学校要覧、志願書			1,800	
	その他			0	
諸会費	合計		1,490	600	△ 890
	全学			600	
	その他			0	
支払手数料	合計		0	1,000	1,000
	銀行振り込み手数料等			1,000	
	自動車重量税、固定資産税、消費税等			0	
租税公課	合計		132	108	△ 24
	自動車重量税、固定資産税、消費税等			108	
	その他			24	
環境整備費	合計		11,874	11,950	76
	ガスキンマット料			600	
	塵芥処理費	塵芥処理、不要物廃棄、家電リサイクル		400	
	清掃費	清掃、臨時清掃、ワックス掛け、草刈り		10,000	
	除雪費			900	
雑務費	合計		6,244	5,170	△ 1,074
	その他	ガラスの集、し取手数料		50	
	整備業務費			3,170	
	ハイヤー借り上げ	勘定科目は旅費交通費		300	
	クリーニング			200	
汽笛維持費	合計		3,000	3,000	0
	汽笛油、塩、LPガス等			3,000	
	その他			0	
労働経費	合計		0	1,000	1,000
	産業医			252	
	消耗品、雑益費	マスク、手袋、コンサルタント経費、環境調査費、講習料		748	
旅費交通費	合計		6,660	6,250	△ 410
	職員分	事務管理分		3,600	
	講師分	事務分、学科割り振り分		600	
	赴任旅費			2,050	
諸謝金	合計		557	500	△ 57
	中央管理	事務分、学科割り振り分		500	

※平成16年度一般管理費増の要因  
 ・キガビットネットワークシステム保守が15年度は4ヵ月(1,021千円)だったが、16年度は12ヵ月(2,451千円)  
 ・新規事項-マルチ学習システムの保守(261千円)  
 ・独法化による新規事項-損害保険料、支払手数料、労働経費

出典 別紙平成16年6月28日定例運営会議配布資料)

「教育研究費」の内訳として 教員研究経費 学科経費 校長裁量経費を設け、教員の資質能力の向上に係る費用並びに教育環境等の充実に向けた費用として計上している。 と は個々の教員が教育研究活動を遂行していく上で又学科が学科として教育活動を継続していく上で最低限度必要な経費として、原則として均等に配分される。これに対し、 の校長裁量経費は、 . 校長裁量経費（教育方法等改善・支援経費，研究活性化経費，教育研究環境等充実費） . 教育研究重点化促進経費 . 特別設備等充実費にわけられる。以下に「校長裁量経費の取扱い方針」を示す（資料10-2- - 2）。

資料10-2- - 2

校長裁量経費の取扱い方針（次頁）

平成13年6月25日  
校長 裁 定  
平成14年7月10日一部修正

## 校長裁量等経費の取り扱い方針等について

釧路工業高等専門学校

校長裁量等経費は、本校の教育、研究の活性化及び円滑な組織運営を図るために予算措置するものであり、①校長裁量経費、②教育研究重点化促進経費、③特別設備費等充実費の三項目で構成し、その取り扱い方針等については、以下のとおりとする。

### 1. 校長裁量経費について

#### (1) 経費の目的

教育研究の重点課題等の支援及び校長のリーダーシップが発揮できるようにするため。

#### (2) 経費の種類

校長裁量経費については、以下の3種類とする。

##### ①教育方法等改善・支援経費

教育方法等の改善及び教育の活性化等を支援するための経費とする。

##### ②研究活性化支援経費

研究活動等のより一層の活性化を図るための経費とする。

##### ③教育研究環境等充実費

若手教員の育成、社会との連携、地域への貢献、国際貢献、共同研究の促進、研究開発、学位等の取得の促進、管理運営などを積極的に支援するための経費とする。

#### (3) 経費の申請方法

校長裁量経費の申請については、校長名で各教官、事務部等に対し、別途、照会を行うので、各申請者は「校長裁量経費申請書」を提出するものとする（申請は個人、グループ又は学科等单位でも可）。

#### (4) ヒアリング、配分基準及び配分方法等

校長裁量経費については、校長等が各申請者を対象にヒアリングを実施し、教育研究及び管理運営等の状況を勘案のうえ、①必要性、②緊急性、③効率性、④教育研究の高度化・活性化の促進、⑤社会性、⑥地域との連携、⑦国際性、⑧管理運営上の関連などの配分基準を考慮し、予算査定を行い、校長が配分する。

なお、校長が独自の判断で、教育研究及び管理運営上の観点から必要に応じて、予算配分できるものとする。

#### (5) 事業成果等の報告

校長裁量経費の配分を受けた者は、「校長裁量経費事業成果等報告書」を翌年度の5月31日までに、事務部会計課経由で校長に提出するものとする。

## 2. 教育研究重点化促進経費について

### (1) 経費の目的

教育研究に競争原理を導入し、教官の教育研究業績等を「ポイント制」で評価のうえ、教育研究の重点化を促進させるため。

### (2) 配分方法及び評価

各教官の教育、研究、地域社会、国際社会、管理運営等への貢献度などについて、各教官が「教育研究重点化促進調査表」に自己申告を行い、校長等又は「教育研究重点化促進審査委員会」等で審査を行い、①教育貢献度、②授業改善等貢献度、③研究貢献度、④学内貢献度、⑤社会貢献度、⑥国際貢献度、⑦学会活動等への貢献度、⑧その他の貢献度、など八分野の観点から評価のうえ、一定基準に達した教官に対して、校長が予算配分を行う。

### (3) 審査・基準・評価方法等

審査・基準・評価方法等の内容などについては、別途検討する。

## 3. 特別設備等充実費について

### (1) 経費の目的

校舎新営・改修に伴う教育研究環境の整備及び学生の実験・実習設備等の整備を図るため。

### (2) 経費の申請方法

経費の申請については、校長名で各学科・施設等に対し、別途、照会を行うので、各申請者は「特別設備等充実費申請書」を提出するものとする。

### (3) ヒアリング、配分基準及び配分方法等

特別設備等充実費については、校長等が各申請者を対象にヒアリングを実施し、教育研究等の状況を勘案のうえ、①必要性、②緊急性、③教育研究環境の整備状況、④学生の実験・実習の整備状況、⑤管理運営面などを考慮し、予算査定を行い、校長が配分する。

### (4) 決算報告

特別設備等充実費の配分を受けた者は、「特別設備等充実費決算報告書」を翌年度の5月31日までに、事務部会計課経由で校長に提出するものとする。

(出典 校長裁定文書)

「校長裁量経費」は「教員研究経費」，「学科経費」とは異なり，教員の教育研究上の実績や，当該年度における教育研究計画に基づき校長のリーダーシップのもとに決定され，いわば学内における競争的資金とすることができる。特に，の教育研究重点化促進経費は，教員の活動を（1）教育貢献度（2）授業改善等貢献度（3）研究貢献度（4）学内貢献度（5）社会貢献度（6）国際貢献度（7）学会活動等への貢献度（8）その他の貢献度の各評価項目により評価し，これにより重点的に予算配分を行うもので，学内ではポイント制による傾斜配分と呼ばれ，教員に対し教育研究上のインセンティブとなっている。以下には，このポイント制による自己申告用調査書を資料として示す（資料10-2- -3）。

平成16年度 教育研究重点化促進(ポイント制による傾斜配分)調査票 【記入例】

提出日：平成16年9月〇〇日
所属：〇〇〇科
氏名：〇〇〇〇

項目	点数	調査対象年度	記入欄	得点
(1)教育貢献度(貢献度配分係数 35)			※⑩～⑮について、教育と研究分野にまたがる場合は、(3)研究貢献度の同項目の、どちらか一方にのみ記入してください。	
①授業担当時間数(45分=1時間として)/週	6・5・4	16	本科:前期〇〇時間:後期〇〇時間 専攻科:前期〇〇時間:後期〇〇時間	
②補習授業の担当(遅進学生・大学編入学)	3	14～16	平成16年度 〇学年遅進学生に対して〇〇半補習授業担当(年間〇回)	
③課外活動(クラブ顧問・同好会顧問など)の支援	5・3・1	14～16	平成14年度～ 〇〇部顧問 【積極的に指導していると思う・普通と思う・名前だけ】	
④教育活動の表彰	5	14～16	平成16年度 〇〇〇により釧路市教育委員会から表彰	
⑤カリキュラム編成の企画立案	3	14～16	平成16年度 〇〇〇〇科カリキュラムの企画立案を担当	

⑥顕著な教育成果、教育業績評価	5	14～16	平成15年度 〇〇〇〇により〇〇〇〇を達成	
⑦教育研修会等への出席	3	14～16	平成15年度 〇〇研修会へ出席	
⑧独自の教材等の開発(工夫状況)	3	14～16	平成14年度 〇〇装置の開発、〇〇テキストの作成	
⑨公開授業の実施・評価及び参加	4	14～16	平成16年度 〇〇学公開授業の実施(〇回)	
⑩論文(査読付)の発表(第一著者、共著者、翻訳) 【上限5選】	4・3・2	14～16	平成14年度 第一著者〇選、共著〇選、翻訳〇選 平成15年度 第一著者〇選、共著〇選	
⑪紀要・その他月刊誌への掲載(第一著者、共著者) 【上限5選】	2・1	14～16	平成14年度 共著〇選 平成16年度 第一著者〇選、共著〇選	
⑫学会・研究会・セミナー等への出席(発表、参加) 【上限5回】	2・1	14～16	平成15年度 〇〇教育研究集會に参加 平成16年度 〇〇セミナーで発表	
⑬学会発表(国際学会、国内学会) 【上限5回】	3・2	14～16	平成15年度 国際〇〇学会で発表 平成16年度 〇〇学会で発表	
⑭著書の出版(第一著者、共著者、翻訳) 【上限5選】	5・4・3	14～16	平成14年度 第一著者〇選 平成16年度 翻訳〇選	
⑮教育への新たな取り組み	5	14～16	平成16年度 〇〇に関する新たな教育手法を実践	
⑯その他	2	14～16	その他特筆すべき教育指導・教育活動等	
(2)授業改善等貢献度(貢献度配分係数 5)				
①学生の授業評価結果に基づく教育方法の改善	5	14～16	板書方式・内容の改善、教育機器の導入による授業改善、 教材の見直しによる授業改善等(具体的に)	
②学生からの評価	3	14～16	良好な授業評価、教育指導評価等(具体的に)	
③その他	3	14～16	その他特筆すべき授業改善等	



(3) 研究貢献度(貢献度配分係数 25)			※⑬～⑱、⑲～㉑について、教育と研究分野にまたがる場合は、(1)教育貢献度の同項目の、どちらか一方にのみ記入してください。	
①学位の所持(取得見込)	5・3	提出日 現在	工学博士取得済(平成16年〇〇月) 理学博士取得見込(平成16年〇〇月)	
②プロジェクト研究担当	3	14～16	平成14年度 ○〇〇〇研究プロジェクト委員	
③研究開発の取り組み	3	14～16	平成14年度～ ○〇〇〇の研究開発に従事	
④科学研究費補助金の申請(代表者、分担者) 【上限5件】	2・1	14～16	平成16年度 萌芽的研究申請 代表者〇件 平成15年度 基礎研究C申請 分担者〇件 【上限5件】	
⑤科学研究費補助金の採択(代表者、分担者) 【上限5件】	5・3	14～16	平成16年度 萌芽的研究採択 代表者〇件 平成15年度 基礎研究C採択 分担者〇件 【上限5件】	
⑥奨学寄附金委任経理金の獲得	3	14～16	平成14年度 ○〇から 受入金額〇〇〇万円	
⑦その他の外部資金の獲得	3	14～16	平成15年度 ○〇から 受入金額〇〇〇万円	
⑧共同研究の取り組み(外国を含む)	5	14～16	平成15年度 (株)〇〇〇〇(研究題目:〇〇〇)	
⑨受託研究の取り組み	3	14～16	平成16年度 (株)〇〇〇〇(研究題目:〇〇〇)	
⑩著作権の所持	3	提出日 現在	件名:〇〇〇、平成〇〇年〇〇月～	
⑪特許権の所持	5	提出日 現在	件名:〇〇〇、平成〇〇年〇〇月～	
⑫研究活動の表彰、顕著な研究業績評価	5	14～16	平成15年度 ○〇〇〇により表彰	
⑬論文(査読付)の発表(第一著者、共著者、翻訳) 【上限5編】	4・3・2	14～16	平成14年度 第一著者〇編、共著〇編、翻訳〇編 平成15年度 第一著者〇編、共著〇編	
⑭紀要・その他月刊誌への掲載(第一著者、共著者) 【上限5編】	2・1	14～16	平成14年度 共著〇編 平成16年度 第一著者〇編、共著〇編	
⑮産学官連携事業等への参画(企画運営、参加)	5・2	14～16	平成14年度 産学官共同研究協議会の企画運営	
⑯技術相談の依頼	3・2・1	14～16	平成15年度 〇件(相手先:〇〇、〇〇、〇〇) 平成16年度 〇件(相手先:〇〇、〇〇、〇〇)	
⑰学会・研究会・セミナー等への出席(発表、参加) 【上限5回】	2・1	14～16	平成15年度 ○〇教育研究集会に参加 平成16年度 ○〇セミナーで発表	
⑱学会発表(国際学会、国内学会) 【上限5回】	3・2	14～16	平成15年度 国際〇〇学会で発表 平成16年度 ○〇学会で発表	
⑲著書の出版(第一著者、共著者、翻訳) 【上限5編】	5・4・3	14～16	平成14年度 第一著者〇編 平成16年度 翻訳〇編	
⑳その他	2	14～16	その他特筆すべき研究活動等	
(4) 学内貢献度(貢献度配分係数 10)				
①委員会委員の該当(委員長、委員)	3・2	14～16	平成15年度 ○〇委員会委員長 平成16年度 ○〇委員会委員	
②WG委員の該当(委員長、委員)	3・2	14～16	平成15年度 ○〇WG委員長 平成16年度 JABEE小委員会委員	
③役職該当(主事、主任、センター長、主事補、担任)	5	14～16	平成15～16年度 ○〇主事	
④管理運営の企画立案(5主事)	10	14～16	平成15～16年度 ○〇主事	
⑤学生相談室の担当	3	14～16	平成15～16年度 相談室員	
⑥その他	2	14～16	その他特筆すべき学内貢献等	
(5) 社会貢献度(貢献度配分係数 10)				

①出前授業の担当	5	14～16	平成15年度 釧路管内中学校〇校訪問	
②ボランティア活動	3	14～16	平成14年度～ 〇〇のボランティア活動へ参加	
③学校開放の支援	3	14～16	平成16年度 〇〇〇〇の支援 平成16年度 子供開放担当	
④公開講座の担当	3	14～16	平成16年度 〇〇を担当	
⑤社会活動(地域社会等)への参画(企画運営、参加)	5・3	14～16	平成14年度～ 「地域〇〇会」の〇〇役員として企画運営を担当	
⑥生涯学習のための参画(企画運営、参加)	4・2	14～16	平成15年度～ 「〇〇生涯学習会」に講師として参加	
⑦卒業生への支援	4	14～16	平成15年度～ 中途退学者への就職斡旋、〇〇に関する相談窓口担当	
⑧企業、民間団体等への支援	4	14～16	平成16年度 「〇〇協議会」へ〇〇〇〇の支援	
⑨社会からの表彰	3	14～16	平成14年度 「〇〇団体」から表彰	
⑩その他	2	14～16	その他特筆すべき社会活動	
<b>(6) 国際貢献度(貢献度配分係数 5)</b>				
①外国でのセミナーなどの参加	3	14～16	平成15年度 米国での「〇〇セミナー」に参加	
②国際交流への貢献	3	14～16	平成14年度 〇〇国〇〇大学との共同研究、技術支援 平成15年度～ 〇〇国〇〇大学との交流推進	
③留学生への支援	3	14～16	平成14年度～ 留学生の指導担当、留学生との交流事業の企画、実施	
④民間人、民間組織等への支援	3	14～16	平成14年度～ 「〇〇会」の支援、助言指導	
⑤国際教育活動	3	14～16	平成14年度～ 「〇〇教育研究会」の企画運営に参加	
⑥その他	2	14～16	その他特筆すべき国際活動	
<b>(7) 学会活動等への貢献度(貢献度配分係数 5)</b>				
①学会、研究会等の役員	3	14～16	平成15年度～ 日本〇〇学会北海道支部理事	
②学会賞等の受賞	5	14～16	平成14年度 「〇〇学会論文賞」受賞 平成15年度 「〇〇学会奨励賞」受賞	
③その他	2	14～16	その他特筆すべき学会活動	
<b>(8) その他の貢献度(貢献度配分係数 5)</b>				
①インターンシップ参加奨励	3	14～16	平成16年度 「〇〇会社」のインターンシップ推進	
②メディア等による本校PR活動等	5	14～16	平成14年度 「〇〇新聞」に〇〇研究に関する記事掲載 平成15年度 釧路市広報誌「〇〇」に本校PR記事を掲載	
③本校の広報活動	3	14～16	平成15年度 本校広報誌「〇〇」に〇〇〇〇を寄稿	
④その他自由記述	2	14～16	その他特筆すべきこと	
合 計				

(出典 会計課からの各教員あて文書)

(分析結果とその根拠理由)

学内の資源(予算)配分は、運営会議により審議され、学内合意に基づき適切に行われている。配分方法は、教育研究上最低限度必要な原則均等配分による「教員研究経費」及び「学科経費」と、当

該年度における教育研究の必要性や計画に基づく申請及び個々の教員の貢献度評価に基づく「校長裁量経費」に分類され、後者は学内における競争的な環境を醸成し、教育研究の活性化に寄与しており、適切な資源配分方法が実施されている。

観点10-3- : 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

高専機構は、通則法第38条に基づき財務諸表等を公表することとされている。本校単独の財務諸表等を公表する予定はないが、予算の用途に関する状況の概要は、(資料10-1--1)のとおり学校要覧で社会に公表している。

(分析結果とその根拠理由)

本校を含む高専機構全体の財務諸表等は、法令の規程により公表することとされている。本校の予算の用途に関する状況は、学校要覧で公表している。

観点10-3- : 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

高専機構は、内部監査について次のとおり定めている(資料10-3--1)。

資料10-3--1

## 第7章 内部監査及び責任

(内部監査)

第45条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則)

本校では、この規定に基づき「釧路工業高等専門学校会計監査実施規程」を定め、これに基づく内部監査を実施している。平成16年度の実施状況は次のとおり(資料10-3--2)。

資料10-3--2

(監査事項及び方法)

第3条 監査は、会計経理に関し、次の各号に掲げる事項について実地に行うものとする。

一 会計経理に関する規則等の適用に関する事項

二 予算決算に関する事項

三 収入支出に関する事項

四 債権に関する事項

五 物品に関する事項

六 不動産に関する事項

七 契約に関する事項

八 旅費に関する事項

九 外部資金に関する事項

十 帳簿及び証拠書類に関する事項

十一 その他校長が必要と認める事項


(出典 釧路工業高等専門学校会計監査実施規程 改正 平成16.4.1 釧高専達第27号)

(つづき)

監 査 報 告 書

平成16年12月1日

監 査 員 職 位

氏 名 会計課専門職員 浜谷 齊 

監査結果について、下記のとおり報告いたします。

監 査 事 項	学内監査要項に定める一般事項及び重点事項	監 査 対 象 期	平成15年10月31日から平成16年10月29日まで
補 助 員	総務係主任 田中 誠 用度係員 田中 祐司	立 会 者	出納係長 佐藤 上 総 施設係長 佐々木 津 祥
監 査 日 程	平成16年11月1日から平成16年11月26日まで	監 査 区 分	定 期 監 査
総 評	別紙のとおり		

監査事項	監査事項の細目	監査実施方法及び経過・概要	監査結果・意見	是正措置
一般事項	1. 会計経理に関する規則等の適用に関する事項  3. 収入支出に関する事項(支出)  6. 国有財産に関する事項  10. 帳簿及び証拠書類に関する事項	学内監査要領に基づき書類を精査した	適正に処理されていた。  適正に処理されていた。  適正に処理されていた。  適正に処理されていた。	

(出典 会計課監査報告書)

(分析結果とその根拠理由)

本校の定めた規程に基づき適正な監査が行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学内の資源(予算)配分において、均等配分による経費のほか校長のリーダーシップに基づく資金配分の仕組みを整備し、競争的な環境を醸成することで教育研究の活性化を図っている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校の校地・校舎等の資産は法人化により国から承継されたものであり、教育研究活動を安定して

遂行するに十分なものとなっている。また、債務を負うことは制度上ない。経常的な収入はその80%以上を高専機構から安定的・継続的に交付される運営費交付金に拠っており、残る20%弱は授業料等収入・産学連携等収入その他の自己収入である。授業料等収入を確保する学内ルールを定めているほか産学連携等収入や科学研究費補助金等の外部資金導入の取組も積極的に行っており、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行するための財政的基盤を有している。収支の状況は、学内の会議で教職員に示され、資源（学内予算）配分も教職員による会議で合意形成が行われており、教育研究に必要な最低限度の均等配分のほか競争的資金配分の仕組みを取り入れることで教育研究の活性化に寄与している。また、財務に対する会計監査は規則に基づき適性に実施され、予算の用途に関する情報を社会に公表し、説明責任を果たしている。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1- : 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

校長は、学校の目的を達成するための運営と管理を統括し、運営の基本方針、短期・中長期にわたる重点目標等を策定する。校長を補佐する体制としては、教務主事(副校長)、学生主事、寮務主事に加えて、新たに管理運営上必要となった事項を担当する校務主事(以上校長補佐)を置いているほか、事務部長も校長の学校運営に関する職務を補佐している(資料11-1--1)(資料11-1--2)。

資料11-1--1

校務主事(H15.1新設)の職務分掌

第9条 校務主事は、校長の命を受け、校務における次に掲げる事項を掌理する。

- 一 将来計画に関すること。
- 二 評価に関すること。
- 三 渉外に関すること。
- 四 広報に関すること。
- 五 地域及び社会への協力貢献に関すること。(地域共同テクノセンター規程第2条に掲げる業務を除く。)
- 六 研究推進に関すること。
- 七 その他、教務主事、学生主事、寮務主事、図書館主事及び各センター長の所掌に属さない事項に関し、必要と認められること。

(出典 釧路工業高等専門学校教員組織及び職務分掌規程)

資料11-1--2

○ 副校長、校長補佐の設置について

(平成13年11月30日 校長 裁定)

改定 平成14.12.20校長裁定

- 1 釧路工業高等専門学校に副校長を置き、釧路工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第9条に掲げる教務主事をもって充てる。
- 2 副校長は、校長が通知書をもって命ずる。
- 3 副校長は、学則第9条第2項並びに釧路工業高等専門学校教職員組織及び職務分掌規程第6条に掲げる職務のほか校長の職務を補助するとともにその一部を処理する。

- 4 釧路工業高等専門学校に校長補佐を置き、学則第9条に掲げる学生主事、寮務主事及び釧路工業高等専門学校教員組織及び職務分掌規程第2条第1号に掲げる校務主事をもって充てる。
- 5 校長補佐は、校長が通知書をもって命ずる。
- 6 校長補佐は、学則第9条第3項及び第4項並びに釧路工業高等専門学校教職員組織及び職務分掌規程第7条から第9条に掲げる職務のほか校長の職務を補助する。

(出典 校長裁定-副校長，校長補佐の設置について)

校長及び校長補佐による補佐会議(名称は特に規定していない)を適宜開催して、管理運営に関する検討を行っている。補佐会議には、事務部長のほか事務部3課長も出席し、主事が所掌する各委員会の活動状況を点検し、また、校長が必要と認める全学的な課題や取組について検討し、決定した方針は直ちに運営会議に提案するなどにより、機動的で迅速な意思決定の中心となっている。

本校の管理運営に関する重要事項を審議し、校務の円滑な運営のための合意形成を行う中心的な役割を担う機関は運営会議であり、校長，副校長，校長補佐，学科主任，専攻科長，事務部長等から構成されている(資料11-1-3)(資料11-1-4)。

資料11-1-3

(審議事項)

第3条会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本校の将来計画の企画立案に関すること。
- 二 本校の教育，研究上の目的を達成するための基本的な計画に関すること。
- 三 諸規則の制定及び改廃に関すること。
- 四 予算(概算要求を含む)に関すること。
- 五 自己点検評価・外部評価に関すること。
- 六 受託研究及び共同研究の受入れ，実施等に関すること。
- 七 寄附金の受入れに関すること。
- 八 発明に関すること。
- 九 国際交流に関すること(外国人留学生に関することを除く。)
- 十 釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金の運用に関すること。
- 十一 各委員会の審議事項のうちこの会議の議を経ることとなったものに関すること。
- 十二 その他本校の管理運営に関する重要事項。

(組織)

第4条会議は、次に掲げる者で組織する。

- 一 校長
- 二 主事
- 三 一般教科主任(副主任を含む)。
- 四 学科主任
- 五 専攻科長
- 六 センター長

- 七 事務部長
- 八 課長及び技術室長
- 九 校長が必要と認めた者若干名

( 出典 釧路工業高等専門学校運営会議規程 )

資料 1 1 - 1 - - 4

平成 17 年度運営会議日程

	運営会議日程	各センター長、各学科主任からの審議事項（報告事項）提案書提出締切日	校長補佐会（打合せ会議）開催予定日
4月	27日（水）16時25分	4月18日（月）	25日（月）17時15分
5月	25日（水）16時25分	5月16日（月）	20日（金）16時25分
6月	29日（水）16時25分	6月17日（金）	24日（金）16時25分
7月	22日（金）13時30分	7月15日（金）	20日（水）13時30分
8月	19日（金）13時30分	8月12日（金）	18日（木）10時00分
9月	21日（水）16時25分	9月12日（月）	15日（木）16時25分
10月	日（ ） 時 分	月 日（ ）	日（ ） 時 分
11月	日（ ） 時 分	月 日（ ）	日（ ） 時 分
12月	日（ ） 時 分	月 日（ ）	日（ ） 時 分
1月	日（ ） 時 分	月 日（ ）	日（ ） 時 分
2月	22日（水）15時00分	2月13日（月）	日（ ） 時 分
3月	17日（金）13時30分	3月 6日（月）	10日（金）13時30分

1. 前期8時限授業日の水曜日に開催する。（長期休業期間を除く）
2. 10月から1月までの運営会議日程等は、後期授業時間割が確定後に決定する。

( 出典 庶務課作成文書 )

運営会議で決定した事項は、各種委員会や校長が委嘱するワーキンググループにおいて検討され、実施に移される。常設の委員会（資料 1 1 - 1 - - 5）以外に必要なに応じて設置されたワーキンググループ等の最近の例は以下のとおりである（資料 1 1 - 1 - - 6）。



## 第 1 1 章 会議・委員会

- [運営会議規程](#) (H16.5.26 改正)
- [運営会議申し合わせ](#) (H16.5.26 改正)
- [教員会議規程](#) (H16.4.1 改正)
- [教務委員会規程](#)
- [学生委員会規程](#) (H16.4.1 改正)
- [寮務委員会規程](#) (H16.4.1 改正)
- [図書館委員会規程](#) (H16.4.1 改正)
- [進路指導委員会規程](#) (H17.3.17 改正)
- [情報処理センター委員会規程](#) (H16.4.1 改正)
- [情報処理センター委員会ネットワーク専門委員会規程](#) (H16.4.1 改正)
- [入学試験委員会規程](#) (H16.4.1 改正)
- [外国人留学生委員会規則](#) (H16.4.1 改正)
- [広報委員会規程](#) (H16.4.1 改正)
- [施設整備委員会規程](#)
- [情報公開委員会規程](#)
- [防災防火委員会規程](#)
- [事務情報化推進委員会規程](#)
- [専攻科委員会規程](#) (H16.4.1 改正)
- [安全衛生委員会規程](#) (H16.4.1 制定)
- [運営諮問委員会規則](#) (H16.9.21 制定)

( 出典 釧路工業高等専門学校規程集目次 )

名 称	設置時期	任 務	備 考
専攻科準備委員会	H15.9～H16.3	H16.4 専攻科設置のためのカリキュラムの検討その他必要な準備作業及び設置申請書作成作業等	16.4 専攻科委員会として常設
法人化WG	H15.4～H16.3	法人化に備え中期目標・中期計画等の検討作業	
教育方法改善共同プロジェクト	H15.4～H17.3	テーマ：高専における進路指導のあり方	
入試広報WG	H16.6～現在	アドミッションポリシー（案）の策定を中心とした入試広報誌の改善及び入試広報全般のあり方について検討	
ホームページWG	H16.4～現在	公式ホームページのリニューアル作業及び英	広 報 委 員

		文ホームページの作成検討	会のもとに設置
J A B E E 準備WG	H15.10～現在	平成18年度 JABEE 受審の統括，自己評価書の作成	
J A B E E 認定に向けての小委員会（第1～第8）までの8委員会	H16.6～現在	J A B E E 認定に向けて課題ごとの対応を検討 第1小委員会「総括」第2小委員会「社会ニーズ調査と学習教育目標設定・改善」第3小委員会「進級・卒業・JABEE プログラムへの入学と編入学」第4小委員会「カリキュラムの設計」第5小委員会「公表と周知」第6小委員会「記録保存」第7小委員会「授業評価と改善」第8小委員会「教育環境の整備」	
教育学習レビュー室	H17.2～現在	第1部会；授業改善について 学生による授業評価アンケート 教員相互評価 ステップアップ提案書 FDの企画立案 第2部会；シラバスと定期試験のチェック	常設組織に変更予定
40周年記念事業実行委員会	H16.4～現在	創立40周年記念事業（式典）の企画立案及び年史編纂	
認証評価WG	H17.3～現在	認証評価における自己評価書の作成	

（出典 本自己評価のための作成資料）

なお、観点に関連して以下の中期目標・中期計画を定めている。（資料11-1-7）

資料11-1-7

**【中期目標】**

業務運営の改善及び効率化に関する目標（ ）

1. 運営体制の改善に関する目標

- ・校長のリーダーシップのもと、迅速な意思決定システムを構築し、機能的で責任の所在が明確な運営体制を作り実施する。

**【中期計画】**

業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 運営体制の改善に関する目標

各国立高等専門学校の運営改善の具体的方策（校長の権限・補佐体制の強化など）

- ・校長は、釧路高専を代表し運営と管理を統括する。また、副校長・校長補佐の協力のもとに学校運営の基本方針、短期、中・長期にわたる重点目標を決定する。

- ・運営会議は、校長の諮問に応じ、基本方針、重点目標を審議し、校内コンセンサスを進める。

- ・各種委員会は、主事（副校長，校長補佐）の主宰のもと、基本方針，重点目標の具体的な実

施策を審議し、実施計画を立てる。

- ・校長は、これらを受けて、教職員の協力のもと実行する権限と責任をもつ。
- ・以上の体制は、平成 14 年度から制度的に明示され実施されているが、さらに一層の強化を図るため、各会議の審議事項の精選や実施事項のフォローアップを進める。

(出典 釧路工業高等専門学校中期目標・中期計画)

(分析結果とその根拠理由)

教務主事，学生主事，寮務主事のほかに，管理運営上の新しい課題を担当する校務主事が置かれ，校長の学校運営，重要事項についての意思決定を補佐している。管理運営に関する重要事項を審議し，校務の円滑な運営を行うための中心的な機関として，運営会議が置かれている。運営会議の決定事項は，各種委員会やワーキンググループに付託され実行に移されるようにしている。

以上のことから，学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，効果的な意思決定が行える態勢になっている。

観点11-1-1 : 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

運営会議のほか，施設整備委員会，安全衛生委員会，広報委員会などの管理運営に関する委員会が設置されており(資料11-1-1-5)，事務部には，管理運営に関する庶務課及び会計課が置かれている(資料11-1-1-1)。

資料11-1-1-1

## 第2章事務分掌

### 第1節課の事務分掌

(庶務課)

第10条庶務課においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の事務に関し，総括し及び連絡調整すること。
- (2) 機密に関すること。
- (3) 儀式，諸行事及び会議に関すること。
- (4) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
- (5) 学術団体等との連絡に関すること。
- (6) 渉外に関すること。
- (7) 法人文書の管理に関すること。
- (8) 文書類の接受，発送に関すること。
- (9) 公印の管守に関すること。ただし，会計機関に属するものを除く。
- (10) 構内警備取締に関すること。
- (11) 研究協力に関すること。
- (12) 地域連携及び産学連携の推進に関すること。
- (13) 国際企画に関すること。ただし，留学生に関するものを除く。
- (14) 個人情報の保護に関すること。
- (15) 特許の申請等に関すること。
- (16) 任免，給与，懲戒及び服務等の人事に関すること。

- (17) 出張に関すること。
- (18) 研修及び人事考課に関すること。
- (19) 教職員の健康管理，安全管理，福祉及び災害補償に関すること。
- (20) 共済組合の長期給付に関すること。
- (21) 栄典及び表彰に関すること。
- (22) 人事記録に関すること。
- (23) 退職手当に関すること。
- (24) 教職員宿舎の入居者の選考に関すること。
- (25) 情報資料の受入れ並びに整理及び保存等に関すること。
- (26) 情報資料の閲覧，貸出及び参考業務等のサービスに関すること。
- (27) 情報資料の目録データベースの利用者への提供及び維持管理に関すること。
- (28) 情報公開に関すること。
- (29) 広報に関すること。
- (30) 情報ネットワークに関すること。
- (31) 中期計画，年度計画に関すること。
- (32) 評価に関すること。
- (33) 調査統計及びその他諸報告に関すること。
- (34) その他他の課の所掌に属しない事務を処理すること。

( 会計課 )

第11 条会計課においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 予算及び決算に関すること。
- (2) 債権の管理に関すること。
- (3) 収入及び支出に関すること。
- (4) 学校資産の取得，管理及び処分に関すること。
- (5) 学校施設の維持管理に関すること。
- (6) 学校環境の整備保全に関すること。
- (7) 外部資金等の経理に関すること。
- (8) 共済組合に関すること。
- (9) 事務電算システムの維持管理及び運用に関すること。
- (10) 会計の監査に関すること。
- (11) 会計諸規定に関すること。
- (12) 会計機関の公印の管守に関すること。
- (13) その他会計経理及び営繕に関すること。

( 学生課 )

第12 条学生課においては，次の事務をつかさどる。

- (1) 学生の課外活動に関すること。
- (2) 学生及び学生団体の指導に関すること。

( 出典 釧路工業高等専門学校事務組織規程 改正平成17年4月1日釧高専達第1号 )

各種委員会と事務組織は，例えば，庶務課及び会計課が校長の方針に従ってそれぞれ規程や年度予算の原案を作成し，運営会議がこれらを審議することに示されるように，適切に役割を分担して効果

的に活動している。これらの実際については、基準 10 で示した（資料 1 0 - 2 - - 1）（資料 1 0 - 2 - - 2）（資料 1 0 - 2 - - 1）を参照されたい。他の委員会と事務組織の関係も同様である。事務部は各種委員会の決定事項の一部を執行する役割を担っている。なお、管理運営に関する委員会には、教員のほかに事務職員が委員として参画している（資料 1 1 - 1 - - 2）。

資料 1 1 - 1 - - 2

**【施設整備委員会】**

（組織）

第 3 条 委員会は次の各号に掲げる者で組織する。

- 一 主事
- 二 一般教科主任（副主任を含む）
- 三 学科主任
- 四 専攻科長
- 五 センター長
- 六 事務部長
- 七 課長及び室長
- 八 その他校長が必要と認めた者 若干名

（出典 釧路工業高等専門学校施設整備委員会規程）

**【広報委員会】**

（組織）

第 4 条 委員会は次の各号に掲げる者で組織する。

- 一 校務主事
- 二 専攻科委員会から 1 名
- 三 情報処理委員会委員から 1 名
- 四 地域共同テクノセンター委員会委員から 1 名
- 五 一般教科教員から 2 名
- 六 専門学科教員から各 1 名
- 七 校長が必要と認めた者 若干名
- 八 課長

（出典 釧路工業高等専門学校広報委員会規程）

**【安全衛生委員会】**

（構成）

第 3 条 委員会は、次に掲げる者で構成する。

- 一 安全衛生統括管理者
- 二 安全管理者
- 三 衛生管理者
- 四 産業医
- 五 安全管理担当者
- 六 衛生管理担当者
- 七 看護師

八 労働者の過半数代表者の推薦に基づき校長が指名した者

- 2 安全衛生統括管理者は校長をもって充てる。
- 3 安全管理者は，事務部長をもって充てる。
- 4 安全管理担当者は，会計課長をもって充てる。
- 5 衛生管理担当者は，庶務課長をもって充てる。

(出典 釧路工業高等専門学校広報委員会規程)

(分析結果とその根拠理由)

運営会議や管理運営に関する各種委員会の審議原案や資料を，校長の方針に従って事務部が作成して各種委員会で審議するという役割分担が行われ，効果的に活動している。

以上のことから，管理運営に関する各種委員会および事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動している。

観点11-1-1 : 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

学則をはじめ，組織，事務管理，人事，会議・委員会など管理運営の諸規定が定められ，規程集としてまとめられている。各規程はホームページに掲載され，教職員に公開されている(資料11-1-1-1)(前出資料11-1-1-5)。

資料11-1-1-1

釧路工業高等専門学校規程集目次

[第1章 学則](#)

[第2章 組織](#)

[第3章 事務管理](#)

[第4章 人事](#)

[第5章 会計](#)

[第6章 施設](#)

[第7章 健康・保安](#)

[第8章 教務・厚生補導](#)

[第9章 学寮](#)

[第10章 図書](#)

[第11章 会議・委員会](#)

[教職員向け情報へもどる](#)

## 第1章 学則

### 学 則

[附則別表](#)

[別表第1・第2・第3](#)

[別表第4](#)

## 第2章 組織

[副校長，校長補佐の設置について](#)

[事務組織規程](#)

[技術職員の組織等に関する規程](#)（H17.3.1 改正）

[教員組織及び職務分掌規程](#)

## 第3章 事務管理

[文書処理規程](#) [別表](#)

[行政文書管理規程](#) [様式1号](#) [様式2号](#) [別表1](#)

[情報公開取扱要項](#) [様式](#)

[情報公開に関する開示・不開示の審査基準](#)

[事務部関係ホームページ管理・運用要項](#)

## 第4章 人事

[学生寮教職員宿日直規程](#)（H16.4.1 制定）

[学生寮教職員宿日直規程の運用方針](#)（H16.4.1 制定）

[名誉教授称号授与規程](#)

[名誉教授称号授与規程の運用内規](#)

[教職員に対する給与の口座振込実施要項](#)（H16.4.1 改正）

[教職員の財形貯蓄等関係事務取扱要項](#)（H16.4.1 改正）

[教官の兼業に関する取扱いについて](#)

[教員の選考手続きについて](#) [第1号様式](#) [第2号様式](#) [第3号様式](#)

[教員選考基準](#)（H16.11.22 制定）

[科学研究支援者実施要項](#)（H16.4.1 改正）

[研究支援者実施要項](#)（H16.4.1 改正）

[産学連携研究員実施要項](#)（H16.4.1 改正）

[セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程](#)（H16.4.1 改正）

[教育業績賞実施要項](#)

[ティーチング・アシスタント実施要項](#)（H17.3.17 制定）

[ティーチング・アシスタント実施要項の取り扱いについて](#)（H17.3.17 制定）

## 第5章 会計

[会計監査実施規程](#)（H16.4.1 改正）

[毒物及び劇物管理規程](#)（H16.4.1 改正）

[受託材料試験に関する規程](#)（H16.4.1 改正）

[受託研究取扱規程](#)（H16.4.1 改正）

[共同研究取扱規程](#) (H16.4.1 改正)  
[寄附金取扱規程](#) (H16.4.1 改正)  
[教育研究・国際交流振興基金規程](#)  
[教育研究・国際交流振興基金事業実施要項](#)  
[会計機関等の補助者の指定に関する規程](#) (H16.4.1 改正)  
[入学料の免除に関する内規](#)  
[授業料\(寄宿料を含む。\)の免除及び猶予に関する内規](#)  
[授業料免除基準](#)  
[契約事務取扱要項](#) (H16.4.1 改正)  
[官用車使用内規](#)  
[被服貸与基準](#)  
[競争的資金の間接経費及び研究協力・インセンティブ経費の執行に係る取扱要項](#)  
[入学料徴収猶予選考基準](#)  
[「授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者」に係る取扱要項](#) (H16.10.18 制定)  
[授業料の徴収事務取扱要項](#) (H16.10.18 制定)  
[釧路工業高等専門学校における出納員の指定に関する要項](#) (H17.3.17 制定)  
[物品管理事務取扱規程](#) (H17.3.17 制定)

## 第6章 施設

[不動産管理事務取扱規程](#) (H17.3.17 制定)  
[防火管理規程](#) [別表2・3・4](#) (H16.4.1 改正)  
[福利施設管理規程](#)  
[福利施設使用細則](#)  
[地域共同テクノセンター規程](#)  
[地域共同テクノセンター利用細則](#)  
[情報処理センター規程](#)  
[情報処理センター利用細則](#)  
[施設活用の実態調査及び是正勧告規程](#)  
[教育研究施設の有効活用規程](#)  
[施設及び設備等に係る点検・評価等に関する取扱要項](#) (H16.4.1 改正)

## 第7章 健康・保安

- [災害対策要項](#) (H16.4.1改定)
- [自家用電気工作物保安規程](#) [別表第2](#) (H16.4.1改正)  
(出典 釧路工業高等専門学校規程集目次)

(分析結果とその根拠理由)

学則をはじめ管理運営に関する諸規定が定められ、規程集としてまとめてホームページに掲載されている。したがって、本校の管理運営の諸規定は十分に整備されている。

観点11 - 2 - : 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)



平成16年度に、校長の諮問に応じ本校の管理運営上の重要事項を審議し、校長に対し意見を述べる機関として、外部有識者から構成される運営諮問委員会を設置している（資料11-2-1）（資料11-2-2）。

資料11-2-1

釧路工業高等専門学校運営諮問委員会規則

（平成16年9月21日制定）

（設置）

第1条 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、釧路工業高等専門学校運営諮問委員会（以下「諮問委員会」という。）を置く。

（目的）

第2条 諮問委員会は、校長の諮問に応じ本校運営上の重要事項を審議し、校長に対し意見を述べる。

2 校長は、諮問委員会からの意見を、本校の運営に反映させるものとする。

（審議事項）

第3条 諮問委員会は、次の各号に掲げる事項について、審議する。

（1）教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項

（2）教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項

（3）その他本校の運営に関する重要事項

（組織）

第4条 諮問委員会は、本校の教職員以外の者で、高等専門学校に関し見識を有する者のうちから、校長が委嘱する委員をもって組織する。

（委員長）

第5条 諮問委員会に委員長を置き、その委員長は委員の互選をもって充てる。

2 委員長は、諮問委員会の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（任期）

第6条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（開催）

第7条 諮問委員会は、委員長が招集し開催する。

（委員以外の者の出席）

第8条 諮問委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（審議状況の公表）

第9条 校長は、諮問委員会の審議状況を、広く周知を図ることができる方法によって公表しなければならない。

（事務）

第10条 諮問委員会の事務は、庶務課において処理する。

（雑則）

第11条 この規則に定めるもののほか、諮問委員会の運営に関し必要な事項は、諮問委員会が定める。

附則

この規則は、平成16年9月21日から施行する。

(出典 釧路工業高等専門学校運営諮問委員会規程)

資料11-2-2

運営諮問委員会委員名簿

(出典 別添学校要覧6頁)

運営諮問委員会での提言は、運営会議の審議を経て、適切な委員会あるいは校長の委嘱するワーキンググループに付託して企画・立案し、実施に移すこととしている。運営諮問委員会が設立されて間もないために、現時点ではその提言が管理運営に反映されるには至っていない。第1回運営諮問委員会は、平成17年2月23日に開催され、本校の中期目標・中期計画全般に対する意見を聴取した。(資料11-2-3)その報告書を準備中であり、完成次第公表する予定である。

資料11-2-3

第1回運営諮問委員会の内容を示す資料(前出 資料9-1-4)

(出典 運営諮問委員会次第・説明資料)

運営諮問委員会の設置以前には、これと同等の役割を持つものとして、平成13年に外部有識者による外部評価を行い、報告書として公表した。また、その後約1年の時間をかけて提言に対する検討を行い、その結果を平成14年3月に「外部評価の提言に対する取組」として取りまとめ公表した(資料11-2-4)(資料11-2-5)。

資料11-2-4

## 外部評価報告書

平成13年3月

釧路工業高等専門学校

## まえがき

本校においては、平成4年に自己点検・評価委員会を設置し、教育研究活動の経過と現状問題点と課題についての検討、検証を開始し、平成5年7月「釧路高専の現状と課題」を公表した。その後も組織的に自己点検・評価を行い、平成8年8月「自己点検・評価報告書」を作成し、継続して課題の改善に努め、カリキュラム、入試選抜、学生指導等々いくつかの事項について改善を図るとともに、平成13年1月には、これらの点検や評価に基づく改善の実績と、今後更に検討すべきとされた事項をまとめた「釧路高専の現状と課題」を公表するなど、本校教育研究の活性化を進めてきた。

ところで、平成11年4月に高等専門学校設置基準の一部が改正され、点検・評価等について当該高専以外の者による検証を行うよう定められたことにもあるように、自己点検評価はあくまでも自らを中心とした評価であり、学外の有識者の方々からいただく率直なご意見が本校の将来への展望を開くための検討に取り組む上で必要不可欠なものであることから、「自己点検・評価報告書」等を検証のための資料として外部の識者に評価をお願いすることとした。

外部評価委員会委員は、高等教育機関、教育行政並びに地元産業界、経済界、教育界から8名の学識経験者にご委嘱し、平成13年2月27日に全委員をお迎えし、概要説明、施設視察、自己点検・評価を中心とした討論と、後日、書面による講評をいただくことにより実施した。この外部評価報告書は、外部評価委員から提出された講評及び委員会当日の概要により取りまとめたものである。

外部評価委員会委員を勤めていただいた方々には、ご多忙にもかかわらず評価の労をお取りいただき、改めてそのご協力に対し、感謝申し上げます。

本報告書にある批評並びに提言を今後の、釧路工業高等専門学校の運営の適正化と教育研究の活性化に生かす所存である。また、本報告書を基に、本校の教育研究の更なる発展のため、教職員全員の改善への取組に期待したい。

平成13年3月

釧路工業高等専門学校長

芳村 仁

## 目 次

## まえがき

## I 外部評価委員会概要

1 外部評価委員会日程及び次第 .....	1
2 外部評価委員名簿 .....	2
3 外部評価項目 .....	3
4 校内施設の視察 .....	4
5 自己点検・評価報告書の説明並びに質疑の概要	
(1) 教育理念と教育目標等、研究活動、地域社会との連携 .....	6
(2) 教育活動、各学科ごとの教育方針と状況、施設設備、国際交流 .....	8
(3) 学生生活 .....	11
(4) 寮生活 .....	13
(5) 図書館 .....	16
(6) 情報処理センター .....	17
(7) 地域共同テクノセンター .....	19
(8) 安全管理、学校運営・財政 .....	21
(9) 全体質疑 .....	23
6 外部評価委員の講評 .....	26

## II 外部評価委員評価報告

委員長 福 迫 尚一郎 .....	29
委員 鮎 田 耕 一 .....	33
委員 川 端 紀 一 .....	37
委員 佐久間 哲 郎 .....	40
委員 島 本 幸 一 .....	43
委員 菅 伸 之 .....	47
委員 土 谷 武 士 .....	51
委員 山 田 和 弘 .....	56

## 1 外部評価委員会日程及び次第

- (1) 開催月日 平成13年2月27日(火)
- (2) 開催場所 釧路工業高等専門学校会議室
- (3) 日程等
- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1) 開 会             | 10:30 |
| 2) 校長挨拶            | 10:30 |
| 3) 外部評価委員及び本校関係者紹介 | 10:33 |
| 4) 配布資料・日程説明       | 10:35 |
| 5) 本校概要説明          | 10:35 |
| 6) 校内視察            | 10:45 |
| - 昼 食 -            | 12:20 |
| 7) 外部評価委員会         | 13:00 |
| ① 自己点検・評価結果の説明     |       |
| ② 質疑応答             |       |
| 8) 校長挨拶            | 16:00 |
| 9) 閉 会             | 16:00 |

### 【配付資料】

- ① 釧路工業高等専門学校外部評価について(平成12年12月18日校長裁定)
- ② 外部評価委員会評価項目
- ③ 学校要覧(平成12年度)
- ④ 学生便覧(平成12年度)
- ⑤ シラバス(平成12年度)
- ⑥ 学校案内(平成12年度)
- ⑦ 相談室あんない
- ⑧ 「学生による授業評価」アンケート調査報告書(平成11年度)
- ⑨ 学外実習報告書(平成11年度)
- ⑩ 学生生活の意識に関するアンケート調査報告書(平成11年3月)
- ⑪ 鶴翔寮生活のしおり(平成12年度)
- ⑫ 地域共同テクノセンター
- ⑬ 教育環境改善計画書(平成12年6月)及び要約版

## 2 外部評価委員名簿

(五十音順)

鮎田 耕一	北見工業大学副学長
川端 紀一	釧路市中学校長会会長
佐久間 哲郎	苫小牧工業高等専門学校長
島本 幸一	釧路商工会議所工礦業部会長
菅 伸之 (代理) 二階堂 栄	北海道電力株式会社釧路支店長 北海道電力株式会社釧路支店電力部長
土谷 武士	北海道大学大学院工学研究科教授
(委員長) 福迫 尚一郎	北海道大学大学院工学研究科長
山田 和弘	釧路市教育委員会教育長



### 3 外部評価項目

- (1) 教育活動について
  - 1) 学生の受入れ（入学試験、広報活動等）
  - 2) 学生の教育（カリキュラム、シラバス、校外実習等）
  - 3) 授業改善への取組み
  - 4) 卒業生に対する進路指導
  - 5) 就職と進学
  
- (2) 学生生活について
  - 1) 学生の生活指導方針及び体制
  - 2) 課外活動等
  - 3) 学生寮の指導方針及び運営体制
  
- (3) 研究活動及び地域との連携について
  - 1) 研究活動
  - 2) 共同研究等
  - 3) 地域との連携（地域共同テクノセンター、公開講座、地域における活動等）
  
- (4) その他
  - 1) 将来計画
  - 2) 教育研究施設設備
  - 3) 国際交流
  - 4) 組織と運営



（出典 外部評価報告書（抄））

外部評価の提言に対する検討を示す資料

# 外部評価の提言に 対する取組

—自己点検・評価報告書—

平成14年3月

釧路工業高等専門学校



## まえがき

本校においては、平成4年に自己点検・評価委員会を設置し、教育研究活動の現状と課題についての検討を開始し、平成5年7月「釧路高専の現状と課題」を公表した。その後も組織的に自己点検・評価を行い、平成8年8月「自己点検・評価報告書」を作成し、継続して課題の改善に努め、カリキュラム、入試選抜、学生指導等いくつかの事項について改善を図ってきた。さらに平成13年1月には、これらの点検や評価に基づく改善の実績と、今後さらに検討すべきとされた事項をまとめた「釧路高専の現状と課題」を公表するなど、本校の教育研究の活性化を進めてきた。

自己点検評価はあくまでも自らを中心とした評価であり、学外の有識者の方々からいただく率直なご意見が、本校の将来への展望を開くために必要不可欠である。この認識のもとに、「自己点検・評価報告書」等を検証のための資料として、外部評価をお願いした。

外部評価委員は、高等教育機関、教育行政ならびに地元産業界、経済界、教育界から8名の学識経験者にご委嘱し、平成13年2月27日に全委員をお迎えし、概要説明、施設視察、自己点検・評価を中心とした討論と、後日、書面による講評をいただくことにより実施した。外部評価委員から提出された講評および委員会当日の概要は、「外部評価報告書」として取りまとめ、平成13年3月に公表した。

この「外部評価報告書」にある批評および提言を、今後の釧路工業高等専門学校の教育研究の活性化と運営の適正化にどのように生かすかについて、自己点検評価委員会を中心として検討を進めて来た。本報告書「外部評価の提言に対する取組－自己点検・評価報告書－」は、外部評価委員の提言に対する本校としての現状の分析と今後の対応および改善策について取りまとめ公表するものである。

末筆ながら、ご多忙中にもかかわらず評価の労をとられた外部評価委員の方々には深甚の謝意を表す。

平成14年3月

釧路工業高等専門学校長

木谷 勝

## 目 次

I	外部評価実施の経過	1
1	自己点検評価委員会の発足	1
2	自己点検評価の公表	1
3	外部評価委員会の発足と実施	1
4	外部評価の公表	1
II	外部評価委員による提言に対する本校の取組	2
III	外部評価委員の提言に対する現状分析と今後の対応及び改善策	3
1	教育活動について	3
(1)	学生の受入れ	3
①	出前授業及び面白実験体験会の充実	3
②	学力試験の公表	4
③	推薦選抜等学力選抜以外の入試方法について	5
④	編入学生の受入れの増加	5
⑤	入試方法の改善	5
(2)	学生の教育	6
①	留年退学者の減少策	6
②	シラバスについて	6
③	新規科目の必要性について	7
④	機械工学科：ロボット、メカトロニクス、コンピュータ関連分野 の科目の不足	7
⑤	電気工学科：ソフト関連科目の不足、カタカナ科目	8
⑥	電子工学科：カリキュラムにおけるソフトウェア科目の不足	8
⑦	情報工学科：ハード関連科目の不足	9
(3)	授業改善への取組	9
①	授業評価を教員の授業改善につなげるフィードバックシステムの 構築及び教官個人の評価結果の公表	9
②	日本工学教育協会・北海道工学教育協会主催研究会、講習会、 FDに関わる研修会への参加	10
③	成績不振学生の全教科の個別指導	10

2	学生生活について	11
(1)	学生の生活指導方針及び体制	11
	ボランティア活動の推進方針	11
(2)	学生寮の生活指導方針及び運営体制	11
①	ボランティア活動の推進方針	11
②	女子寮の設置	12
③	一部の居住人数	12
3	研究活動及び地域との連携について	13
(1)	共同研究等	13
	共同研究を行う教官数の増加	13
(2)	地域との連携	16
①	地域共同テクノセンターへの人的資源のサポート	16
②	公開講座を全学科で開講	17
③	公開講座の市民へのPRに工夫	18
④	各教官室で保管している図書などの学外者からの閲覧希望等への対応策	19
4	その他	20
(1)	将来計画	20
	学科再編、学科改組	20
(2)	教育研究施設設備	22
①	視聴覚設備の充実	22
②	教室・実験室が狭隘	22
③	地域への情報発信、情報交換	24
④	地元企業との連携強化	24
⑤	インターネットアクセス可能な端末設備の充実	24
(3)	組織と運営	25
①	各委員会の過多	25
②	定員にない講師の解消	25
③	教官総覧の作成	26
(4)	その他	26
	安全教育の徹底	26

## I 外部評価実施の経過

### 1 自己点検評価委員会の発足

平成3年に高等専門学校設置基準の改正で自己点検・評価システムが導入されたことに伴い、本校では、学問の進展や社会の要請に適切に対応し、学生の期待に応えるためには、教育研究の活性化を図り、教育・研究、組織運営の在り方の不断の検討、改善と、地域と連携した開かれた高専を目指した取組を推進するため、平成4年に「自己点検・評価委員会」を設置し、教育研究活動の経過と現状問題点と課題について検討、検証を開始した。

### 2 自己点検評価の公表

- 平成5年7月 「釧路高専の現状と課題」  
 内容：教育理念、教育活動、研究活動、施設設備、国際交流、生涯学習への対応、社会との連携、学校運営、自己点検評価体制
- 平成8年8月 「自己点検・評価報告書」(内部)  
 内容：教育理念と目標、教務関係、厚生補導関係、寮務関係、図書館、一般教科、機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報工学科、建築学科、視聴覚教育関係、情報処理センター関係、地域共同研究センター関係、
- 平成13年1月 「釧路高専の現状と課題」  
 内容：教育理念と教育目標等、教育活動、研究活動、厚生補導、教育研究施設、各学科ごとの教育方針と状況、施設設備、地域社会との連携、国際交流、安全管理、学校運営・財政、自己点検評価の在り方

### 3 外部評価委員会の発足と実施

平成11年4月に高等専門学校設置基準の一部が改正され、点検・評価等について当該高専以外の者による検証を行うよう定められた。

本校では、高等教育機関、教育行政並びに地元産業界、経済界、教育界から8名の学識経験者に外部評価委員として委嘱し、平成13年2月27日に外部評価委員会を本校において開催した。

外部評価委員会では、概要説明、施設視察、13年1月に公表した「釧路高専の現状と課題」を中心とした討論と、後日、書面による評価報告書をいただくことにより実施した。

### 4 外部評価の公表

- 平成13年3月 「外部評価報告書」  
 評価項目：教育活動、学生生活、研究活動及び地域との連携、その他

(出典 外部評価の提言に対する取組(抄))

上記資料で提言に対する本校の取組としてあげられた事項のうち管理運営に関係する事項をピックアップし、その現在の状況を点検してみると以下のとおりとなっている(資料11-2--6)。

資料 1 1 - 2 - - 6

整理 番号	大項目 (目次)	小項目 (目次)	H14.3における対応・改善策	現状分析
1	学生生活	女子寮の設置	女子寮運営検討WGにより審議。H14年度中に設置の見通し。	H 14.11.1 設置 (開寮)
2	研究活動 及び地域 との連携 について	公開講座の 市民へのP Rに工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞を情報源とするものが多いことから広告料を払ってでも情報の新聞掲載を実施する</li> <li>・情報源調査を引き続き実施する</li> <li>・図書館開放や地域共同研究等の推進に力をいれ、生涯教育と公開講座の有機的に結びつけ周知方法を改善する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務主事，庶務課専門職員の新設により広報体制を整備</li> <li>・ポスター作成，小中学校への案内等充実した広報活動を実施</li> </ul>
3	その他 (将来計画)	学科再編， 学科改組	学科ごとで見解に相違	中期計画中に記載(資料11-2--7)
4	その他 (教育研究施設設備)	視聴覚設備の充実	H13～16年度の4カ年の校舎改修計画により充実に努める	H16年度までで全教室にプロジェクタなどの視聴覚設備を設置済み
5	その他 (教育研究施設設備)	教室・実験室が狭隘化	H13～16年度の4カ年「教育環境改善計画書」に基づき施設整備を進める	H14年度までで左記の計画を完了
6	その他 (教育研究施設設備)	地元企業との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産官学共同研究・交流推進協議会の実施</li> <li>・わかりやすい研究内容・産業シーズの提供を推し進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記協議会を発展的に解消し，地域企業主体による「釧路高専地域振興協力会」を設置</li> <li>・教員シーズ集刊行(H14)，改定第2版の刊行(H16)</li> </ul>

7	その他 (教育研究施設設備)	インターネットアクセス可能な端末設備の充実	校内LANの更新により柔軟で安全なLANの導入と、無線LANアクセスポイントの本格的導入を予定	H14年度中で全学に無線LAN導入を完了
8	その他 (組織と運営)	委員会の過多	H14.4を目処に現行会議・委員会等について見直しと新設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主事主任会議を運営会議に改組</li> <li>・教官会議(現行教員会議)の位置づけを変更</li> <li>・30委員会を16委員会に整理統合(14.4.1実施)</li> </ul>
9	その他 (組織と運営)	定員にない講師の解消	重要課題である専攻科設置に当たっても、教員組織の充実のためにも、定員にない講師の解消に全校的な取組を進める。	講師のみに関わらずすべての定員流用を解消し、教員組織を充実させ、専攻科を設置した。(H16.4)
10	その他 (組織と運営)	研究者総覧の作成	国立情報学研究所によるデータベース及び国専協作成のCD-ROM版研究者総覧の活用により本校独自のものは作成しない。	左の理由により研究者総覧は作成しない。ただし、わかりやすい研究者情報の提供に努める。6欄の教員シーズ集の刊行参照。

(出典 本自己評価のための作成資料)

学科再編・学科改組に関する考え方を示す資料

【中期目標】

釧路工業高等専門学校の研究等の質の向上に関する目標（ ）

1. 教育に関する目標

(3) 実施体制等に関する目標

学科の配置等

・現行5学科のあり方について、学生のニーズや地域の要請、社会情勢の変化に見合った体制整備を検討する。

【中期計画】

釧路工業高等専門学校の研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 教育に関する目標を達成するための措置

(3) 目標に掲げる内容・水準を達成するための実施体制

学科の配置等

学科の構成・改組等についての方向性

- ・電気系3学科（電気・電子・情報）の大学科制への改組及び学生のニーズや適性に基づく学科内コース制の実施について検討する。
- ・5学科一括入試と、入学後における学生のニーズ、適性に基づく学科所属の可能性について検討する。

（出典 釧路工業高等専門学校中期目標・中期計画）

（分析結果とその根拠理由）

運営諮問委員会が設置されており、そこで提示された意見は運営会議での審議を経て、適切な委員会あるいは校長の委嘱するワーキンググループによって実行に移す体制となっている。運営諮問委員会が発足して間もないため、そこでの意見を管理運営に反映させることは今後の課題である。運営諮問委員会の設置以前には、外部有識者による外部評価を行い、その意見を管理運営に反映させている。以上のことから、外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映される体制が整備され、実際に反映されている。

観点11 - 3 - : 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

平成13年3月に本校全体の活動に対する自己点検・評価を行い、それに基づいて外部評価委員会による検証を受け、これを公表した。（資料1 1 - 3 - - 1）（資料1 1 - 2 - - 4）また、平成14年3月には、外部評価の提言に対する本校の取り組みを整理し、公表した（資料1 1 - 2 - - 5）。

自己点検・評価の内容と公表を示す資料

# 釧路高専の現状と課題

—自己点検・評価報告書—

平成13年1月

釧路工業高等専門学校



## ま え が き

本校は、昭和40年に機械工学科、電気工学科、建築学科の3学科で発足し、その後昭和45年に電子工学科、昭和61年に情報工学科が新たに設置され、現在は5学科1,000名の学生定員となっている。

しかし、開校時に対して、産業構造、社会環境の変化と科学技術の高度化・学際化に伴い、創造性豊かな、かつ高度な知識・能力を有する実践的人材育成が高等専門学校に求められ、これに対応した教育活動と研究活動の推進等が必要となっている。

このような状況の変化や新たな要請の中で、学問の進展や社会の要請に適切に対応し、学生の期待に応えるためには、教育研究の活性化を図り、教育・研究、組織運営の在り方の不断の検討、改善と、地域と連携した開かれた高専を目指した取り組みを推進しなければならない。

本校においては、平成4年に自己点検・評価委員会を設置し、教育研究活動の経過と現状問題点と課題についての検討、検証を開始し、平成5年7月「釧路高専の現状と課題」を公表した。その後も組織的に自己点検・評価を行い、平成8年8月「自己点検・評価報告書」を作成し、継続して課題の改善に努め、カリキュラム、入試選抜、学生指導等々いくつかの事項について改善を図ってきた。

今回の「釧路高専の現状と課題」は、これまでの点検や評価に基づく改善の実績と、今後更に検討すべきとされた事項の主なものを挙げ、本校教育研究の推進に寄与しようとするものである。

ところで、平成11年9月に高等専門学校設置基準の一部が改正され、点検・評価等について当該高専以外の者による検証を行うよう定められたことにもあるように、自己点検評価はあくまでも自らを中心とした評価であり、学外の有識者の方々からいただく率直なご意見が本校の将来への展望を開くための検討に取り組む上で必要不可欠なものであることから、本報告書を検証のための資料として外部評価を行うこととしている。

本校の在り方に関して、関係各位のご理解、ご教示とともに忌憚のないご意見、ご評価をお願いするものである。また、本報告書を基に、本校の教育研究の更なる発展のため、教職員全員の改善への取り組みを期待したい。

平成13年1月

釧路工業高等専門学校長

芳 村 仁

釧路高専の現状と課題 ー自己点検・評価報告書ー

目 次

まえがき

第一章 教育理念と教育目標等	1
1 沿革	1
2 教育理念と教育目標	1
3 教育研究に関する取り組みと実績	2
4 本校の将来構想	8
第二章 教育活動	
1 学生の受け入れ	10
2 カリキュラム編成	19
3 教育指導の在り方	26
4 教育内容の見直しと工夫・改善	38
5 成績評価、単位認定	39
6 卒業生の進路指導	40
第三章 研究活動	
1 研究活動の発表状況	44
2 共同研究等の実施状況	45
第四章 厚生補導	
1 学生生活	47
2 寮生活	55
第五章 教育研究施設	
1 図書館	64
2 情報処理センター	72
3 地域共同テクノセンター	75
第六章 各学科ごとの教育方針と状況	
・ 機械工学科	80
・ 電気工学科	82
・ 電子工学科	84
・ 情報工学科	87
・ 建築学科	89

## 第七章 施設設備

- 1 施設設備の将来計画…………… 92

## 第八章 地域社会との連携

- 1 産学官連携共同事業…………… 99  
 2 公開講座の開設状況……………103  
 3 教員の学外活動……………105  
 4 学校施設の開放方針と状況……………106

## 第九章 国際交流

- 1 留学生の受け入れ状況……………107  
 2 留学生の指導体制……………108  
 3 在学生の海外研修の方針と状況……………108

## 第十章 安全管理

- 1 安全管理体制……………110  
 2 放射性物質の安全管理と安全教育……………110  
 3 毒劇物の安全管理と安全教育……………110  
 4 防火管理と教育訓練……………111  
 5 学生に対する安全教育……………112

## 第十一章 学校運営・財政

- 1 機構……………113  
 2 定員及び現員……………114  
 3 各種委員会……………115  
 4 教官の兼業状況……………116  
 5 事務組織……………117  
 6 財政状況……………117  
 7 学外資金の導入状況……………118

## 第十二章 自己点検・評価の在り方

- 1 自己点検・評価の現状、今後の在り方……………119  
 2 評価をフィードバックするための仕組み……………119  
 3 自己点検評価体制……………119

(出典 自己点検・評価報告書(抄))

平成14年以降の自己点検・評価は、その名称のもとには行っていないが、平成16年度の専攻科設置に向けての管理運営の検討や改善、平成18年度に予定している日本技術者教育認定機構(JABEE)の

審査に向けての管理運営の検討や改善を，自己点検・評価の一環と位置づけている。これらの活動や成果は公表されていないが，適当な時期の運営諮問委員会に諮問し，結果を公表する予定である（資料11-3- -2）（資料11-3- -3）。

資料11-3- -2

JABEE認定への取組が自己点検・評価活動として位置づけられることを示す資料（その1）

## 2. 教育改善のためのスパイラルアップシステムの構築について

校長から，標記の件について資料3に基づき提案があり，JABEE準備WGによる自己評価により抽出された課題に対し，「課題ごとに問題解決の方策を立案するための小委員会」を必要数設置することとなった。この小委員会組織は，全教職員の参加意識と問題解決の効率性を図るという意味があり，また小委員会の立案する方策を実現する過程と今後計画される「評価委員会」や「学習・教育レビュー室」等と相まって，全体として本校のPDCAサイクルを構成する重要な要素となる旨の説明があった。

なお，最初にJABEE準備WGメンバーを中心とする第1小委員会を立ち上げ，第2小委員会以下の各小委員会のミッションや設置数等について早急に検討することとした。

（出典 平成16年6月定例運営委員会議事概要）

資料11-3- -3

JABEE認定への取組が自己点検・評価活動として位置づけられることを示す資料（その2）

## 教育改善のためのスパイラルアップシステムの構築について

1. 教育機関は，その使命を達成するため「教育方法の不断の改善」を図る必要があり，JABEE や認証評価への取組はそのための格好の契機である。（基本認識）
2. JABEE 準備WGでは，本校の教育システムに関し，JABEE の評価基準1～6に基づく自己評価を行った。
3. その結果，（このままではJABEE をクリアできない）多くの課題が抽出された。
4. 平成18年度のJABEE 受審は，本校の生き残りのため，必ずクリアしなければならない戦略的取組である。
5. 課題解決には，既存組織・従来手法による時間をかけた取組（委員会→学科→委員会→全学）では間に合わない。
6. そこで，「課題ごとに問題解決の方策を立案するための小委員会」を必要な数組織することとする。
7. 小委員会は，校長の直轄の組織とし，4～5名程度の人数で，1課題につき一定の期間を決めて問題解決の方策を立案する。
8. 小委員会の構成は，JABEE 準備WG委員1名（JABEE の要請に関する知識がある）及び教務委員会委員1名（教務に関する知識がある）を中心に，これに校内の自薦・他薦のメンバーを加え，校長が決定する。
9. 小委員会の立案した方策は，校長の責任において，基本的にはそのとおりに委員会・学科等で実行に移される。

10. 課題を例示すれば、以下のとおり。

①学習・教育目標の継続的検討や評価・見直しの手法②学習・教育目標の公開・周知方法や理解を深めるための手法③アドミッションポリシーと選抜方法④学習・教育目標とカリキュラム、各科目の関連・対応の明確化⑤シラバス（成績評価基準、学習達成度等）のあり方⑥答案等証拠となる資料の保管に関する方策⑦学生支援システム（補習、オフィスアワー等）⑧FDの展開と効果の把握⑨教員間ネットワーク⑩外部資金獲得体制・・・・・・・・・・

11. 小委員会は、これらの課題に関し、全体的な取組の手順や緊急度により決められたミッションをそれぞれ割り振られることになる。

12. 当面の各課題に対しては上記の小委員会によりその方策を立案するが、全体としてのPDCAサイクルを構築するため、「評価委員会」、「学習・教育レビュー室」等の設置とその機能について早急に計画する。

（出典 平成16年6月定例運営委員会配布資料）

なお、本校ではこれまで第三者評価を受ける機会はなく、当機関別認証評価がはじめてである。本「自己評価書」作成の作業は、本校の自己点検・評価活動の一部をなすものとして、認証評価終了後に社会に公表する予定である。また、平成18年度にはJABEE受審を予定しており、現在は管理運営面を含みそのための自己点検・評価と改善の取組を進めているところである。

（分析結果とその根拠理由）

平成13年度に学校全体の活動に対する自己点検・評価、外部評価を行い、その報告書及び提言に対する取組み方針を公表している。平成14年度以降の自己点検・評価は行われていないが、専攻科設置及びJABEE認定の取得に向けた管理運営の点検や改善策の検討は、実質的な自己点検・評価と位置づけられる。これらの活動と成果は適宜運営諮問委員会に諮問し、提言を公表する予定である。また、機関別認証評価自己評価書を自己点検・評価の一部として公表することとしている。以上のことから、自己点検・評価が活動の総合的な状況に対して行われており、それらの評価結果が公表されているか、または公表予定である。

観点11-3- : 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような、システムが整備され、有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価の結果、外部評価や運営諮問委員会の提言は、校長及び校長補佐による検討を経て、運営会議において審議し、各種委員会への付託あるいはワーキンググループの設置により、検討し実施に移す体制をとっている。（資料11-1- -6参照）この体制により、平成13年3月の自己点検・評価の結果及びこれに基づく外部評価の提言をフィードバックし、専攻科の設置や委員会の整理統合など（資料11-2- -6参照）学校全体の活動や組織のあり方に関する改善を実現している。今後は運営諮問委員会において、資源配分の在り方、定員削減への対応、学科の統合など、本校の中期目標・計画に示されている管理運営上の重要事項について諮問し、いただいた提言を検討の上実行に移す予定である。

（分析結果とその根拠理由）

自己点検・評価の結果及び外部評価や運営諮問委員会の提言を、校長及び校長補佐によって検討し、運営会議の審議を経て、各種委員会やワーキンググループに付託し実施に移す体制が整備されており、実際に改善が行われている。運営諮問委員会は設置されて間もないため、その提言を管理運営の改善

にフィードバックするのは今後の課題である。

以上のことから、評価結果がフィードバックされ、本校の目的達成に結びつけられるような、システムが整備され、有効に運営されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

特になし。

(改善を要する点)

運営諮問委員会が発足して間もないため、提言の聴取やその運営への反映がまだ十分ではない。今後の運営諮問委員会の活用が必要である。

(3) 基準11の自己評価の概要

校長は、学校の目的を達成するための運営と管理を統括し、運営の基本方針、重点目標等を設定している。校長の補佐体制としては、必要に応じて校長代理を務める副校長（教務主事）、校長補佐として学生主事及び寮務主事のほか、学校としての新しい課題を担当する校務主事を置いているほか、事務部長も校長の学校運営に関する職務を補佐している。目的を達成するための組織としては、検討課題に応じて、各種委員会で審議・検討後、校長が最終的な判断を行う意思決定体制がとられている。学校の運営に関する重要事項は運営会議で審議し、事項及び必要に応じて各種委員会、あるいは校長が委嘱するワーキンググループに付託して、機動的に企画・立案を行い、実施する態勢となっている。

管理運営に当たっては、教員組織及び職務分掌規程、事務組織規程を基本として、各種の諸規程が整備され、これらに基づく管理運営のための組織として、運営会議をはじめ各種委員会、これらを支援する事務部が設置されており、適切に機能している。

外部有識者の意見を取り入れるために、運営諮問委員会を設置し、そこで得られた意見を運営会議や各種委員会、ワーキンググループ等で継続的な改善に結びつけるべく検討し、管理運営に反映する体制がとられている。

平成13年度に自己点検・評価、これに基づく外部評価及び外部評価の提言に対する取組を公表している。外部評価における提言の中で、専攻科の設置、委員会の整理統合、女子寮の設置等の重要事項はすでに実施されている。すなわち、評価結果は管理運営に反映されている。平成16年度には運営諮問委員会を開催し、提言のフィードバックと公表のため現在取りまとめ中である。

専攻科が平成16年度に設置されたことに伴い、平成18年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受けることを決定し、本校の管理運営の総点検を行って改善すべき点を明確にし、平成17年度から改善策を実施に移している。これは平成14年度以降の自己点検・評価及びそれに基づく運営の改善と位置づけることができる。この活動の結果は、今後の運営諮問委員会に諮問し、提言を公表する予定である。

選択的評価基準 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点1 - : 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点到係る状況)

本校の研究活動は、地域の産業界と連携して、これまで地域が培ってきた技術の、高度化と融合を図り、新産業の創出に寄与する共同研究等を行うこと、この研究活動の成果を教育に還元することで、実践的技術者教育の質の向上を図ることを目的としている。

民間企業との共同研究など地域連携・産学連携に基づく研究は、地域共同テクノセンターを中心として行う体制がとられている。地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)には、委員会、その下部組織として専門分野ごとの部門が置かれている(資料1- -1)(資料1- -2)(資料1- -3)。

資料1- -1

センターの設置、業務、組織、委員会の設置・任務・構成等を示す資料

(設置)

第1条 釧路工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、工業に関する研究開発、教育研究の推進及び地域産業の振興に貢献することを目的とした共同利用施設として、釧路工業高等専門学校地域共同テクノセンター(以下「センター」という。)を置く。

(業務)

第2条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- 一 産官学交流に関すること。
- 二 共同研究及び研究交流等に関すること。
- 三 民間機関等に対する技術援助、技術相談及び学術情報の提供に関すること。
- 四 本校の学生及び地域社会に対する技術教育に関すること。
- 五 その他センターの目的を達成するために必要な事業に関すること。

(センター長及び副センター長)

第3条 センターに地域共同テクノセンター長(以下「センター長」という。)及び地域共同副センター長(以下「副センター長」という。)を置く。

(センター長)

第4条 センター長は、専任の教授又は助教授のうちから校長が任命する。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第5条 副センター長は、専任の教授又は助教授のうちから校長が任命する。

- 2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故ある時はその職務を代行する。
- 3 副センター長の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 副センター長が欠けた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会)

第6条 センターの円滑な運営を図るため、地域共同テクノセンター委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第7条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- 一 センターの運営の基本方針に関すること。
- 二 センターの設備等の利用計画に関すること。
- 三 センターの予算に関すること。
- 四 その他センターの運営について必要な事項

(組織)

第8条 委員会は、次に掲げる者で組織する。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 各学科及び一般教科の専任教官のうちから、校長が指名した者
- 四 事務部長
- 五 その他校長が必要と認めた者

(以下略)

(共同研究・交流推進協議会)

第12条 産官学の交流を推進するため、共同研究・交流推進協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 協議会について必要な事項は、別に定める。

(以下略)

(出典 釧路工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程)

資料1 - - 2

### 委員会の活動を示す資料

日時平成16年9月15日(水)15時40分～17時09分

場所会議室

出席者9名

欠席者2名

報告事項

1. 国立高専機構/産学連携・地域連携委員会について

岩淵委員長から、7月21日(水)開催の標記委員会について、第3回全国高専テクノフォーラムを長岡高専で行うことになった旨の報告があった。

2. 道内4高専テクノセンター長等会議について

岩淵委員長から、8月20日(金)開催の標記会議について、道内4高専の連携を進める上で(1)合同シーズ集改訂版の作成(2)機器インフォメーションの作成(3)研究開発助成事業への4高専合同での応募、を行うことが決定した旨の報告があった。

審議事項

1. 教育研究設備維持運営費の用途について

岩淵委員長から、標記経費について、特に購入を要する物品がなければ通常の設備維持に使用してもらいたい旨が述べられ了承された。

2. 平成16年度特別設備等充実費の申請について

岩淵委員長から説明があり、テクノセンターで特に購入を希望する大型設備等があれば、9月30日までに委員長に申し出てほしい旨が述べられた。

3. 公開講座の内容と担当及びパンフレット作成について

荒井委員から資料1に基づき説明があり、公開講座の担当日と内容については、各委員の希望を9月24日(金)までに委員長に報告し、調整した上で、9月30日(木)に最終決定する旨が述べられ、了承された。

4. 教官シーズ集(改訂版)の作成について

岩淵委員長から資料2に基づき説明があり(1)基本的なスタイルは変えない(2)「お役に立てること」と題し、協力可能分野等の記述を追加する(3)機器インフォメーション(審議事項5参照)を綴じ込む、という形で、資料に記載のスケジュールに従って新しいシーズ集を作成したい旨が述べられ、了承された。また、委員から、より統一感が出るよう記入書式についても修正を行った方がよい旨の意見があり、細部について広報担当委員(大槻、三森、加藤、技術室)と調整を行うこととした。

5. 機器インフォメーションの作成について

岩淵委員長から資料3に基づき説明があり、学内にある装置・設備を洗い出し、一覧を作成してシーズ集に綴じ込み、企業等に広く知ってもらいたい旨が述べられ、了承された。そこで、各学科が持つ主要な装置・設備について、各委員が所属学科分を取りまとめ、委員長に10月12日までに提出することとした。

6. 企業訪問について

荒井委員から説明があり、資料1のとおり12月初旬に実施したいこと、調査記録を必ず作成してもらいたいことが述べられた。その後岩淵委員長から(1)各学科から2名を選出し、企画担当委員(荒井、野口、坂口)が訪問先企業の割り振りを行う(2)企業の持っている技術を聞き出し「技術マ



ップ」を作成する旨が併せて述べられ、了承された。  
 7. テクノセンターニュース（第8号）発刊について  
 岩淵委員長から、資料4に基づき説明があり、10月中を目途に作成したいこと、3ページ目を新規的な内容にするため委員からアイデアを募りたいこと、原稿依頼があった際には快く引き受けてもらいたいことが述べられた。また、配布先については広報担当委員で検討することになった。  
 （出典 地域共同テクノセンター委員会議事概要）

資料1 - - 3

専門分野ごとの部門を示す資料

地域共同テクノセンターの組織と部門スタッフ  
 テクノセンターでは、企業等との共同研究及び技術協力する場合の目安となるように、専門分野を分類し、各部門を設け部門スタッフを配置しました。

部門名	部門長	グループ名	部門スタッフ
材料開発	岩淵義孝 （機械工学科） TEL:0154-57-7295 <a href="mailto:iwa@mech.kushiro-ct.ac.jp">iwa@mech.kushiro-ct.ac.jp</a>	構造材料	岩淵（機械）大楽（建築）三森（建築）草苺（建築）
		機能材料	坂口（電子）松本（電子）
電子情報	大槻典行 （情報工学科） TEL:0154-57-7354 <a href="mailto:ohtsuki@kushiro-ct.ac.jp">ohtsuki@kushiro-ct.ac.jp</a>	電気・電子	大槻典（情報）小林（電気）松永（電気） 工藤（電気）佐々木（電気）
		情報ソフトウェア	柳川（情報）野口（電気）高木（電気）千葉（建築） 大槻香（建築）大貫（情報）神谷（情報） 高橋（情報） 本間（情報）天元（情報）林（情報）土江田（情報） 中島陽（情報）
計測制御	荒井 誠 （機械工学科） TEL:0154-57-7294 <a href="mailto:arai@mech.kushiro-ct.ac.jp">arai@mech.kushiro-ct.ac.jp</a>	計測加工	中村（電子）櫻田（電子）小杉（機械）丹（機械） 須田（電気）
		メカトロニクス	荒井（機械）宮澤（機械）佐藤英（電気） 梶原（電子） 千田（電気）
環境システム	浦家淳博 （一般教科・物理） TEL:0154-57-7337 <a href="mailto:uraie@ippan.kushiro-ct.ac.jp">uraie@ippan.kushiro-ct.ac.jp</a>	環境試験	加藤（一般）佐藤彰（建築）渡邊（機械）
		エネルギー開発	浦家（一般）山岸（機械）麓（機械）

（出典 センターのウェブサイト <http://www.kushiro-ct.ac.jp/CTC/>）

委員会には、事務部長もメンバーとして参加し、センターを中心とした産学連携による研究活動をサポートしている。事務組織による支援体制は庶務課が担当する（資料1 - - 4）。

資料 1 - - 4

事務組織の支援体制を示す資料

第 2 章 事務分掌

第 1 節 課の事務分掌

( 庶務課 )

第 10 条 庶務課においては，次の事務をつかさどる。

( 略 )

( 12 ) 地域連携及び産学連携の推進に関すること。

( 略 )

( 出典 釧路工業高等専門学校事務組織規程 )

上記の学内における研究体制及び支援体制の他、産学連携を推進するための支援体制として「釧路工業高等専門学校産官学共同研究・交流推進協議会」（以下「協議会」という。）を学内規程に基づき次のとおり設置している。（資料 1 - - 1 第 1 2 条参照）。（資料 1 - - 5）（資料 1 - - 6）

資料 1 - - 5

学内規程により設置している産学連携のための支援体制を示す資料

( 設置及び目的 )

第 1 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）が行う産官学の交流を推進するため，本校に釧路工業高等専門学校産官学共同研究・交流推進協議会（以下「協議会」という。）を置く。

( 協議事項 )

第 2 協議会は，第 1 の目的を達成するため，情報の交換を行うとともに，次の事項について協議する。

- 一 地域企業等との共同研究の推進に関すること。
- 二 地域企業等の技術開発の促進，技術者の再教育に関すること。
- 三 地域産業の振興に関すること。
- 四 本校地域共同研究開発教育センター設置の推進に関すること。
- 五 その他，協議会の目的達成のために必要な事項。

( 組織 )

第 3 協議会は，別表に掲げる機関または団体の代表者若しくは関係者及び本校職員を委員として組織する。

( 協議会の開催 )

第 4 校長は，協議会を開催し，その議長となる。

2 協議会は，原則として年 2 回開催する。但し，必要がある場合はこの限りでない。

( 事務 )

第 5 協議会の事務は，庶務課において行う。

( 雑則 )

第 6 この要項に定めるもののほか，協議会に関し必要な事項は，校長が別に定める。

( 附則 )

この要項は，平成 7 年 2 月 2 3 日から施行する。

( 出典 釧路工業高等専門学校産官学共同研究・交流推進協議会要項 )

協議会の委員構成を示す資料

釧路工業高等専門学校産官学共同研究・交流推進協議会委員名簿

企業

企業名	職名	氏名
王子製紙(株)釧路工場	施設部長	
北海道電力(株)釧路支店	支店長付主幹	
釧路ガス(株)	専務取締役	
(株)釧路製作所釧路工場	取締役釧路工場長	
(株)ニッコー	代表取締役	
(株)富士計器	代表取締役常務	
(株)ポータス	専務取締役	
アジアエンジニアリング(株)	代表取締役	
萬木建設(株)	代表取締役	

団体

団体名	職名	氏名
釧路地域工業振興協会	会長	
〃 鉄工部会	理事	
〃 木工部会	部会長	
〃 造船部会	〃	
〃 船舶電機部会	〃	
〃 塗装部会	〃	
釧路市異業種交流プラザ	代表幹事	
北海道機械工業会釧路支部	支部長	
釧路市建設事業協会	会長	
釧根電気工事業協同組合	理事長	
釧路マルチメディア協会	副会長	
釧路商工会議所	中小企業相談所長	
北海道商工会連合会釧路支所	支所長	
北海道中小企業家同友会釧路支部	支部長	
北海道開発局釧路開発建設部	技術管理官	
釧路支庁	経済部長	
釧路市	経済水産部長	
(財)釧路根室圏産業技術振興センター	専務理事	

(出典 協議会名簿H17.3)

協議会の歴史は、施設（建物）として同センターが設置（H12.10）される以前の平成7年まで遡ることができる。民間からは地域の主要企業・主要産業団体及び商工会議所が、官からは国（北海道開発局）・北海道（釧路支庁）及び市が参加し、こうした産官学が一体となった組織の設置は、当時の国立高専において先進的な取組であった。これまでの活動例のいくつかを示す（資料1 - - 7）。

協議会の活動例を示す資料

**第1回「釧路工業高等専門学校  
産官学共同研究・交流推進協議会」**

◆平成7年3月1日  
(釧路パシフィックホテル新館)

- (1) 設立趣旨・設立経緯説明
- (2) 今後の取り組みについて
- (3) 5学科の研究分野・テーマ  
および実験設備について
- (4) 公開講座開設状況

**平成10年度／第1回「釧路工業高等専門学校  
産官学共同研究・交流推進協議会」**

◆平成10年12月16日(釧路プリンスホテル)

- (1) 地域との共同研究の推進について  
特別講演①：帯広畜産大学地域共同研究センター長  
美濃羊輔  
「地域との共同研究の推進について」  
特別講演②：テクノプラザ帯広代表 佐々木一司  
「十勝圏地場産業の活性化への取り組みについて」
- (2) 十勝型産業クラスター：十勝支庁地域政策課長
- (3) 産業界等との連携・協力

平成15年度第1回「釧路工業高等専門学校  
産官学共同研究・交流推進協議会」

◆平成16年2月20日(釧路キャッスルホテル)

- (1)釧路高専専攻科設置について
- (2)学外に開かれた卒業研究発表会について
- (3)産官学連携における学生の参画について  
(事例およびインターンシップについて)
- (4)釧路高専との産学連携について  
(工業技術センターとの連携活動)

(出典 平成17年3月29日開催協議会説明資料「釧路工業高等専門学校産官学連携の取組～釧路工業高等専門学校産官学共同研究・交流推進協議会のあゆみ～」)

センターの委員会と協議会を中心とした体制による共同研究等の取組は、10年近くにわたり本校の研究活動の中心を担い、平成12年度・13年度においては共同研究件数で全国高専のトップクラスとなるなどの成果を上げている(共同研究実績の詳細は観点1- に記述)。しかし、近年に至り、この体制による取組が、あくまでも学校が設置する組織に基盤を置いているという理由から、どうしても「学」中心の発想や活動になりがちで、民間のニーズや活力を反映しにくいという弊害が指摘されてきていた。そこで、本年、これまでの協議会を発展的に解消し、民間企業を主体とした支援・連携組織として新たに「釧路工業高等専門学校地域振興協力会」(以下、「協力会」という。)を設立する運びとなった(資料1- -8)(資料1- -9)(資料1- -10)。

資料1- -8

民間主体の新支援組織に関する資料(その1)

「釧路工業高等専門学校地域振興協力会規約」

(目的)

第1条 本会は会員相互の交流と協力により、釧路高専を活用・支援する産学連携事業に取組み、もって産業技術の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(名称)

第2条 本会は、釧路工業高等専門学校地域振興協力会(略称:釧路高専地域振興協力会)と称する。

(事業)

第3条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1)産学官の連携及び交流に関する事業
- (2)地域産業の発展に関する事業
- (3)教育研究の充実に関する事業
- (4)釧路高専の活用と支援に関する事業
- (5)その他本会の目的達成に必要な事業

る。

(省略)

(事務局)

第12条 本会の事務局は、釧路商工会議所内に置く。

(経費)

第13条 本会の運営は、会費、寄付金その他の収入をもって充てる。

2 会費は年会費とし、企業会員10,000円、個人会員2,000円とする。

(以下省略)

(出典 釧路工業高等専門学校地域振興協力会規約)

資料1 - - 9

民間主体の新支援組織に関する資料(その2)

「次第」

【第1部】記念講演(16:00~)

テーマ:モノづくりにも役立つ「鶴雅の経営戦略とITの取組みについて」

講師:株式会社阿寒グランドホテル

代表取締役 氏

【第2部】設立総会(17:30~)

1 開会

2 来賓紹介

釧路工業高等専門学校校長 木谷 勝 様

釧路市長 伊東良孝 様

釧路支庁長 高原陽二 様

釧路開発建設部長 神保正義 様

釧路商工会議所会頭 様

3 設立発起人会代表挨拶

4 議長選出

5 議事

議案第1号 釧路高専地域振興協力会規約(案)について

議案第2号 初年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について

議案第3号 役員の選出について

6 来賓挨拶

7 閉会

(出典 平成17年6月22日設立総会式次第)

資料1 - - 10

民間主体の新支援組織に関する資料(その3)

「初年度事業計画」

1. 事業

(1) 設立総会の開催(記念講演等)

(2) 技術セミナー, 技術交流会等の開催

(セミナー, 講演会, 技術懇談会, 研究交流会, 勉強会, 公開講座, 人材育成研修会

等)

(3) 企業訪問による技術相談の活用に関する計画づくり

(4) 釧路高専との共同研究の実施

(地域共同テクノセンターの活用と支援)

(5) インターンシップ受入に関する支援

- ( 6 ) 学生の研究発表会の開催及び表彰
- ( 7 ) 会員企業による特別講演の実施
- ( 8 ) 地域技術力等の情報発信（会報の発行）
- ( 9 ) 技術振興，地域社会の発展に関するイベントへの参加
- ( 10 ) その他本会運営に関する事業

## 2 . 諸会議

- ( 1 ) 役員会・幹事会等の開催
- ( 2 ) その他関係団体会議への参加

## 3 . 広報

- ( 1 ) 会報の発行
- ( 2 ) 釧路高専活動状況の提供
- ( 3 ) 地域振興協会の事業 P R と会員加入促進

（出典 釧路工業高等専門学校地域振興協会初年度事業計画）

協力会には、設立総会時点で企業会員 109 社、個人会員 126 名が加入した。個人会員は主に本校の教職員である。協力会の運営には、センターのセンター長と副センター長が幹事として参加し、事業計画の具体的な実施に参画する。協力会は、つい先ごろ「会報創刊号」を発行し活動を開始している。こうした協力会の諸活動により、本校の研究活動は、これまで以上に地域企業のニーズに基づいたものとして活性化が期待できる。

本校の研究活動におけるもう一方の重要な連携先に、「釧路工業技術センター」がある。同センターは、平成 14 年 10 月に設置されたものであるが、設置目的等について以下に示す（資料 1 - - 1 1）。

資料 1 - - 1 1

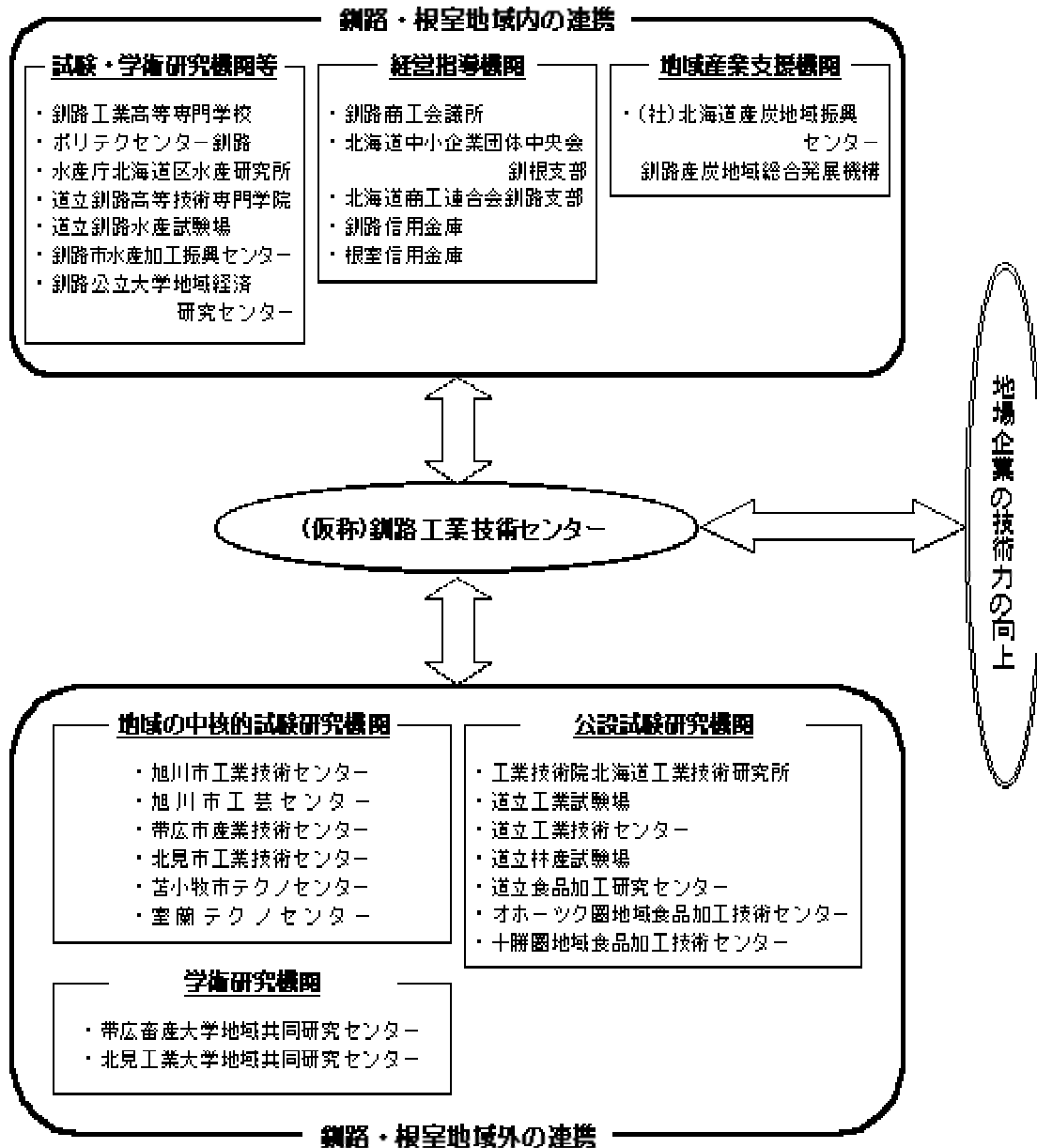
### 釧路工業技術センターの設置目的等を示す資料

## 1 . 工業技術センターの設置目的と必要性

### 1.1. 目的と利用対象

当センター設置の目的は、釧路市を中心とし、広く釧路・根室地域の地場中小工業の技術力の向上、並びに経営の安定など、総合的な工業振興を図ることにある。また、当センターの利用対象は、地域内の全ての事業所とするが、設置する機器、配置する人材、並びに提供できる機能の範囲から、金属・機械加工、木材加工を中心として、これらに関連のある事業を行っている事業者のニーズに応えるものとする。

図 工業技術センターの役割と他の機関との連携



(出典 平成12年3月 釧路市作成 (仮称) 釧路工業技術センター基本計画)

本校と同センターは定期的に研究交流会を開催している。同センターには、本校と同様に企業から多くの技術相談等が寄せられており、研究交流会を通じて技術相談の中から本校との共同研究に発展するケースもある。本校と同センターとの交流・連携の状況を示す(資料1- -12)。



釧路工業技術センターとの交流・連携を示す資料

第9回研究交流会

2004-3-31(釧路高専)

釧路高専と工業技術センターとの連携

項目	高専の取り組み	工業技術センターとの連携
情報発信	◆シーズ提供 ◆釧路高専教官シーズ集(We will do it!) ◆北海道地区高専教官シーズ集(CD-ROM版)	・ホームページのリンク ・情報の相互共有・発信
	◆釧路高専地域共同テクノセンターニュース ◆釧路高専だより	・記事の相互掲載、配布 ・情報交換
産学連携	◆学外卒業研究発表会	・発表会場提供、案内協力
	◆釧路高専振興・協力会総会、幹事会	・定期的交流会議
	◆共同研究 ◎企業巡回による強化	・企業訪問の連携
	◆技術相談よろず何でも相談	・技術相談・技術指導の連携
	◆受託試験材料試験・評価	・材料試験の協力・連携
	◆テクノセンターセンター主催の講座	・相互乗り合いの講座 ・会場の提供
	◆◎分野別勉強会の企画・実施 ◆◎分野別研究会の企画・実施	・相互協力・連携 ・会場の提供
	◆インターンシップ	・受け入れ先の開拓・コーディネート
	◆産業技術フォーラム(仮称)	・協力・支援
	◆中学校出前授業 ◆任意団体への出前授業	・リエゾン・コーディネート
科学技術教育支援	◆シーズ紹介講演会 ◆出前技術講演会 ◆招待講演	・相互協力・連携 ・会場の提供
	◆サイエンス屋台村(釧路市青少年科学館)	・相互協力・連携
地域社会交流	◆メイドイン釧路(釧路市地場産業ワールド) ◆みらいザウルス(マルチメディアワールド)	・相互協力・連携
	◆子ども開放プラン	・会場の提供
	◆教養セミナー	・相互協力・連携

(出典 研究交流会配布資料)

(分析結果とその根拠理由)

民間企業との共同研究など地域連携・産学連携に基づく研究の体制は、地域共同テクノセンターを中心に行われている。センターには、委員会が置かれ活動内容等を審議する。また、専門分野別の部門も設置されている。活動を支援する事務組織が定められ、委員会にも参加している。研究内容を地域企業等のニーズに基づくものとし、活動を活性化させるための連携組織を早くから設置して取り組んできたが、本年これを発展させ新支援・連携組織を立ち上げた。地域の総合的な工業振興を設置目的とする釧路工業技術センターとの連携体制も整備され、研究交流会等を通じて共同研究に発展する事例も出ている。

観点1 - : 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

はじめに過去5年間及び本年度の民間等との共同研究実績を示す(資料1 - -1)。

資料1 - -1

民間等との共同研究実績を示す資料

平成12年度

	研究課題	相手方(所在地)	研究担当者
1	暖房熱活用による制御電力自給タイプの暖房機器開発	サンポット(株) (埼玉県川越市)	電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志 一般教科 浦家淳博
2	路面凍結センサ - の開発と釧路での実装評価試験	サンポット(株) (埼玉県川越市)	電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志 一般教科 浦家淳博
3	太陽光集光熱と放射冷却熱を利用した温度差発電装置の研究開発	(株)太陽光研究所 (京都府京都市)	電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志 一般教科 浦家淳博
4	鹿よけ装置の研究開発	トーワ計装(株) (釧路市)	電子工学科 坂口直志 電子工学科 東藤 勇
5	簡易型太陽光追尾装置の研究開発	日栄電機工業(株) (釧路市)	電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志 一般教科 浦家淳博
6	ボイラの廃熱利用による温度差発電の研究	(株)釧路熱供給公社 (釧路市)	一般教科 浦家淳博 電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志
7	温度差発電の電力蓄積と供給システムの研究開発	(株)釧路熱供給公社 (釧路市)	一般教科 浦家淳博 電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志
8	道路標識及び周辺設備に対する着氷・着雪防除に関する研究	(社)北海道開発技術センター (札幌市)	機械工学科 麓 耕二 機械工学科 山岸英明
9	融雪剤の使用によるコンクリート構造物の劣化に関する研究	(株)構研エンジニアリング (札幌市)	建築学科 三森敏司
10	耐寒促進剤と断熱型枠を併用した無加熱養生による寒中コンクリートの施工	(株)構研エンジニアリング (札幌市)	建築学科 三森敏司 建築学科 大楽隆男

11	FA骨材を用いたコンクリート温度依存性に関する実験	釧路建設事業協会（釧路市）	建築学科 大楽隆男 建築学科 三森敏司
12	下地の種類による各種外装仕上塗材の耐久性	(株)蝦名塗装店（釧路市）	建築学科 大楽隆男 建築学科 三森敏司
13	寒冷地におけるマイクロガスタ・ピンの効率的利用研究	サンエス電気通信(株)（釧路市）	電気工学科 風間輝雄 機械工学科 田中孝二郎
14	釧路市内近郊路線バス利用情報案内システムの開発	くしろバス(株)(釧路市)	情報工学科 新井山
15	無線を用いたインタ・ネット地域IXの研究	(株)サンエス・マネジメント・システムズ	情報工学科 高橋 晃
16	光散乱を用いた簡易視程計の開発	(株)岩崎（札幌市）	電子工学科 中村 隆 電子工学科 櫻田安志
17	岩盤調査ロボットの機構・制御系に関する研究	計測技販(株)(札幌市)	電子工学科 梶原 機械工学科 荒井 機械工学科 岩淵
18	岩盤調査ロボットの観察系に関する研究	計測技販(株)(札幌市)	電子工学科 中村 電子工学科 櫻田安志
19	岩盤調査ロボットの通信系に関する研究	計測技販(株)(札幌市)	電気工学科 野口 電気工学科 高木
20	乾留燃焼による農業廃棄物の安全性評価分析	(有)岡林鉄工	機械工学科 岩淵

平成13年度

	研究課題	相手方(所在地)	研究担当者
1	暖房熱活用による制御電力自給タイプの暖房機器開発	サンポット(株)（埼玉県川越市）	電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志 一般教科 浦家淳博
2	路面凍結センサの開発と釧路での実装評価試験	サンポット(株)（埼玉県川越市）	電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志 一般教科 浦家淳博
3	太陽光集光熱と放射冷却熱を利用した温度差発電装置の研究開発	(株)太陽光研究所（京都府京都市）	電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志 一般教科 浦家淳博
4	鹿よけ装置の研究開発	トーワ計装(株)（釧路市）	電子工学科 坂口直志 電子工学科 東藤 勇
5	簡易型太陽光追尾装置の研究開発	日栄電機工業(株)（釧路市）	電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志 一般教科 浦家淳博
6	ボイラの廃熱利用による温度差発電の研究	(株)釧路熱供給公社（釧路市）	一般教科 浦家淳博 電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志

7	温度差発電の電力蓄積と供給システムの研究開発	(株)釧路熱供給公社 (釧路市)	一般教科 浦家淳博 電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志
8	道路標識及び周辺設備に対する着氷・着雪防除に関する研究	(社)北海道開発技術センター (札幌市)	機械工学科 麓 耕二 機械工学科 山岸英明
9	融雪剤の使用によるコンクリート構造物の劣化に関する研究	(株)構研エンジニアリング (札幌市)	建築学科 三森敏司
10	耐寒促進剤と断熱型枠を併用した無加熱養生による寒中コンクリートの施工	(株)構研エンジニアリング (札幌市)	建築学科 三森敏司 建築学科 大楽隆男
11	FA骨材を用いたコンクリート温度依存性に関する実験	釧路建設事業協会 (釧路市)	建築学科 大楽隆男 建築学科 三森敏司
12	下地の種類による各種外装仕上塗材の耐久性	(株)蝦名塗装店 (釧路市)	建築学科 大楽隆男 建築学科 三森敏司
13	寒冷地におけるマイクロガスタ・ピンの効率的利用研究	サンエス電気通信(株) (釧路市)	電気工学科 風間輝雄 機械工学科 田中孝二郎
14	無線を用いたインタ・ネット地域IXの研究	(株)サンエス・マネジメント・システムズ	情報工学科 高橋 晃
15	光散乱を用いた簡易視程計の開発	(株)岩崎 (札幌市)	電子工学科 中村 隆 電子工学科 櫻田安志
16	熱電半導体を用いた応用機器開発研究	(有)日本テクモ (福岡県北九州市)	電子工学科 東藤 勇 一般教科 浦家淳博 電子工学科 坂口直志
17	釧路市内近郊路線バス利用情報案内システム開発	くしろバス(株) (釧路市)	情報工学科 新井山亮
18	簡易型太陽光追尾装置の研究開発	日栄電機工業(株) (釧路市)	電子工学科 東藤 勇 一般教科 浦家淳博
19	路面凍結センサ - の開発と実用化の研究	サンポット(株) (埼玉県川越市)	電子工学科 東藤 勇 一般教科 浦家淳博 電子工学科 坂口直志
20	グリ - ンライト原料ゼオライトの特性・性能評価	(株)グローバル二十一 (釧路市)	機械工学科 岩淵義孝 機械工学科 渡邊聖司
21	送電線腐食の無停電診断法に関する基礎研究	北海道電力(株)釧路支店電力部 (釧路市)	電子工学科 坂口直志
22	融冰雪剤の性能評価に関する研究	(株)グローバル二十一 (釧路市)	機械工学科 岩淵義孝 機械工学科 山岸英明 機械工学科 麓 耕二

23	温度差発電装置の耐久性に関する研究	(株)日伸テクノ (札幌市)	一般教科 浦家淳博 電子工学科 東藤 勇 電子工学科 坂口直志
24	岩盤調査ロボットの実用化に関する研究	エースコンサルタンツ(株) (札幌市)	電子工学科 中村 隆 機械工学科 荒井 誠 電気工学科 野口孝文 電子工学科 梶原秀一
25	垂直航空写真合成のアルゴリズムの研究	(有)トマトシステム (釧路市)	情報工学科 林 裕樹 情報工学科 柳川和徳

注：表中の は、前年度からの継続課題であることを示す。

平成14年度

	研究課題	相手方(所在地)	研究担当者
1	融冰雪剤の性能評価に関する研究	(株)グローバル二十一 (釧路市)	機械工学科 岩淵義孝 機械工学科 山岸英明 機械工学科 麓 耕二
2	温度差発電装置の耐久性に関する研究	(株)日伸テクノ (札幌市)	一般教科 浦家淳博 電子工学科 坂口直志
3	岩盤調査ロボットの実用化に関する研究	エースコンサルタンツ(株) (札幌市)	電子工学科 中村 隆 機械工学科 荒井 誠 電気工学科 野口孝文 電子工学科 梶原秀一
4	垂直航空写真合成のアルゴリズムの研究	(有)トマトシステム (釧路市)	情報工学科 林 裕樹 情報工学科 柳川和徳
5	画像処理による昆布幅測定装置の開発	マリノサポート(株) (札幌市)	情報工学科 柳川和徳
6	送電線腐食の無停電診断法に関する研究	北海道電力(株)釧路支店電力部 (釧路市)	電子工学科 坂口直志
7	DME(ジメチルエーテル)を利用したマイクロガスタービンを利用した地域型活用の研究	サンエス電気通信(株) (釧路市)	機械工学科 山岸英明 機械工学科 田中孝二郎 機械工学科 麓 耕二
8	無線を利用したインターネット地域IXとそのセキュリティの研究	(株)サンエス・マネジメント・システムズ (釧路市)	情報工学科 高橋 晃

平成15年度

	研究課題	相手方(所在地)	研究担当者
1	画像処理による昆布幅測定装置の開発	マリノサポート(株) (札幌市)	情報工学科 柳川和徳
2	DME(ジメチルエーテル)を利用したマイクロガスタービンを利用した地域型活用の研究	サンエス電気通信(株) (釧路市)	機械工学科 山岸英明 機械工学科 田中孝二郎 機械工学科 麓 耕二

3	無線を利用したインターネット地域 IX とそのセキュリティの研究	(株)サンエス・マネジメント・システムズ (釧路市)	情報工学科 高橋 晃
4	熱伝達の特性改善による温泉利用の温度差発電装置の開発研究と現地調査	(財)釧路根室圏産業技術振興センター (釧路市)	一般教科 浦家淳博
5	シクロ(自転車タクシー)の操作性向上のための制御について	(財)釧路根室圏産業技術振興センター (釧路市)	情報工学科 大槻典行
6	携帯 Java アプリを利用した e-Learning システムの開発	(株)コムテック2000 (函館市)	情報工学科 大貫和永
7	木質構造材の耐力増強及び構造体の耐震補強用,プレストレス補強金物の開発 その1.耐震構法の開発	高橋林産株式会社 (阿寒町)	建築学科 草刈敏夫
8	木質構造材の耐力増強及び構造体の耐震補強用,プレストレス補強金物の開発 その2.補強用金物の強度解析	高橋林産株式会社 (阿寒町)	機械工学科 岩淵義孝

平成16年度

	研究課題	相手方(所在地)	研究担当者
1	空気層を介した輻射熱利用による温度差発電の検討	(有)インタースフィア (岩見沢市)	一般教科 浦家淳博
2	PS灰造粒物 - アルミニウム複合材料の創製	日本製紙(株)釧路工場 (釧路市)	機械工学科 岩淵義孝
3	PS灰を使用したコンクリート用人工骨材の開発	日本製紙(株)釧路工場 (釧路市)	建築学科 三森敏司
4	残土利用に関する研究	(有)シンアイ工業 (釧路市)	機械工学科 岩淵義孝 機械工学科 麓 耕二 電子工学科 坂口直志
5	組込みシステム向けオープンプラットフォームに関する研究	(株)コムテック2000 (函館市)	情報工学科 大貫和永
6	家庭用暖房炭の石炭灰再資源化に関する研究	釧路コールマイン(株) (釧路市)	機械工学科 岩淵義孝
7	PCM 蓄冷材を利用した蓄冷管による蓄熱と放熱に関する研究	(株)釧路製作所 (札幌市)	機械工学科 麓 耕二
8	自然冷熱を利用する冷熱コレクターの性能評価に関する研究	(株)釧路製作所 (札幌市)	機械工学科 麓 耕二
9	ロボット工学(走行制御)に関する研究	(株)乃村工藝社 (東京都)	機械工学科 荒井 誠 電気工学科 野口孝文 電気工学科 千田和範
10	ロボット工学(演出制御)に関する研究	(株)乃村工藝社 (東京都)	機械工学科 麓 耕二 電気工学科 野口孝文 電気工学科 千田和範 電子工学科 梶原秀一

11	ガラス廃材(カレット)の有効利用による タイル・ブリックの開発	(有)加賀谷ブリック (釧路市)	建築学科 大楽隆男 建築学科 三森敏司
12	コンクリートのスケーリングに及ぼす凍 結防止剤の影響	(財)釧路根室圏産業技術振興センター (釧路市)	建築学科 三森敏司 建築学科 大楽隆男

平成17年度

	研究課題	相手方(所在地)	研究担当者
1	ロボット工学(走行制御)に関する研究	(株)乃村工藝社 (東京都)	機械工学科 荒井 誠 電気工学科 野口孝文 電気工学科 千田和範 電子工学科 梶原秀一
2	ロボット工学(演出制御)に関する研究	(株)乃村工藝社 (東京都)	機械工学科 荒井 誠 電気工学科 野口孝文 電気工学科 千田和範 電子工学科 梶原秀一
3	PCM蓄冷材を利用した小型蓄冷熱シ ステムの開発に関する研究	(株)釧路製作所(釧路市)	機械工学科 麓 耕二
4	省エネルギー型冷熱コレクターの開発 に関する研究	(株)釧路製作所(釧路市)	機械工学科 麓 耕二
5	既存特殊建物に対する保有耐震性能 評価と耐震性向上のための方策に関す る研究	(株)ズコーシャ(帯広市)	建築学科 草苺敏夫

(出典 庶務課文書)

次に受託研究実績を示す(資料1- -2)。

資料1- -2

受託研究の実績を示す資料

研究課題	相手先	研究担当者
情報通信インターフェイスとしてのユビキタスパターン 認識	総務省大臣官房 会計課	情報工学科 天元、林

(出典 庶務課文書)

共同研究実績は、平成13年度をピークに一旦減少しているが、最近再び増加傾向を示している。実績数減少の理由としては、当地域の長期に渡る経済の低迷のほか、前出の釧路工業技術センターとの競合が考えられる。しかし、同センターと本校の連携により、地域全体としては産学連携による産業の振興が進展していると言える。

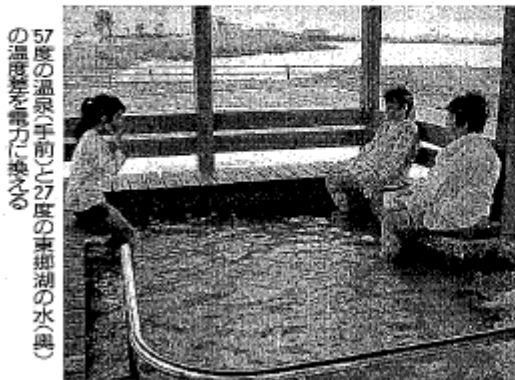
共同研究の成果として、次のような実用化や発明につながる事例が出ている(資料1- -3)(資料1- -4)。

共同研究の成果による実用化の例を示す資料

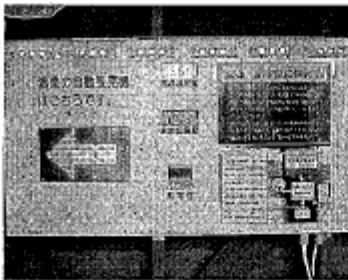
釧路新聞

平成16年(2004年)9月28日(火曜日)

# 温度差発電初の実用化



57度の温泉水前と27度の東御湖の水差の温度差を電力に変える。



温度差発電で稼働する案内板、説明にも活用されている。

## 釧路工技の東藤センター長

温度差発電の実用化が始まったのは、鳥取県東郷町の温泉街に25日開業した、日勝町、日勝町の湯の館、約30度の温泉水、隣接する東御湖の約27度の湖水の温度差を利用し、25ワット

釧路工業技術センターの東藤センター長が開発した温度差発電システムが、鳥取県東郷町の公園で、温泉と湖水の温度差を利用し実用化された。電力規模は小さなもの、同町では今後拡大も検討し、自然エネルギーも生み出す温泉街として、まちおこしにつなげる計画だ。東藤センター長は、温度差発電の国内第一人者。すでにモンゴルの未踏地域で実用化しているが、国内ではこれが第一号。地元温泉街をはじめとする、実用化の展開に弾みを与えることが期待される。(佐竹直子)

## 鳥取県東郷町の温泉と湖水利用

(毎時)の電力を発電。園内の、温泉水の自動販売機の電源と照明の電力を案内板と説明に活用する。25日の開業式には、釧路から東藤センター長も出席。運転開始のボタンを同町町長とともに押し、発電機が稼働する。同町は、人口約6500人。豊かな自然と温泉の街として知られる。釧路工業技術センターと東藤センター長前年の釧路工業技術センターで、昨年から、実証実験を始め、実用化につなげた。今後、発電状況により、温泉街へのイルミネーション活用など、規模の拡大も検討する予定だ。

電一は、特殊開発の半導体を用い、温泉と湖水の温度差を利用し、電力を生成する。東郷町の事例を、大規模な水などの温度差をエネルギーに変えて発電するシステム。97年から、日勝町、日勝町で開かれる「産業技術フェア」でも、展示されている。東藤センター長は、国内第一号の実用化について、東郷町から問い合わせが多数来ているが、東藤主体としてを築ける



共同研究の成果による発明事例を示す資料

発明事例 1 : PS灰造粒品・アルミニウムハイブリッド材の製造方法

発明事例 2 : PS灰造粒品を用いた軽量モルタル・コンクリート

(発明事例 1 の届出)

別紙様式 1

平成 17 年 2 月 16 日

発 明 等 届

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長 殿

所属 釧路工業高等専門学校機械工学科

職名 教授

氏名 岩 淵 義 孝



下記の発明等について、独立行政法人国立高等専門学校機構知的財産権取扱規則第 5 条の規定により、関係書類を添えてお届けします。

記

1. 発明等の名称

PS 灰造粒品・アルミニウムハイブリッド材の製造方法

2. 発明の経過

(1) 研究課題及び内容

PS 灰-アルミニウム複合材料の創製(日本製紙株式会社釧路工場との共同研究)

(2) 研究期間

平成 16 年 5 月 10 日～平成 17 年 3 月 31 日

(3) 研究経費

600,000 円

(4) 研究設備

特になし

(5) 共同発明者の有無(有の場合は、所属、職名、氏名)

日本製紙株式会社釧路工場 技術環境室技術調査役 保坂達巳

(6) その他参考となる事項

特になし

3. 発明の概要

補足資料：明細書

(出典 庶務課文書)

(資料1- - 3)の実用化事例は、本校教員が取り組んでいた研究で、同教員が釧路工業技術センターへ転出後も引き続き本校の教員と連携して研究を続けていたものである。また、(資料1- - 4)の発明事例は、職務発明として高専機構への承継手続きを終え、まもなく特許申請の予定であるため詳細は省略する。

(資料1- - 5)は、平成16・17年度の共同研究による成果で、本年7月オープンした釧路市の青少年のための人材育成・文化振興施設「こども遊学館」で活躍するロボットの事例である。また、(資料1- - 6)は、まだ途上にある研究であるが、新聞報道で取り上げられ、本校の取組を広く社会に伝えることに貢献している。

資料1- - 5

市の施設で活躍する共同研究の成果を示す資料

**北海道新聞**

---

2005年(平成17年)6月25日(土曜日) 釧路 26



愛称が「ハロット」に決まった遊学館のロボット。来場者を優しく出迎える

「こども遊学館」は、ハロットです。七月九日、釧路市幸町にオープンする科学体験施設「こども遊学館」(太田利光館長入り口で、訪れた人々を出迎えるロボット)の愛称が、「ハロット」に決まった。伊東良孝市長が二十四日の定例会見で発表した。

**大勢米てね**  
名付け親は、市内中継野の通制路小学校小学部六年の石塚龍君(こと、同級生)の主婦小林好美さん(こと)。同館が五月に募集し、館内から寄せられた二百十八通の中から選んだ。「ハロ(こども遊学館)」と「ロボット」を合わせた

**こども遊学館のロボット  
愛称は「ハロット」**

名前は「ハロット」という。愛称決定の審査員を務めた、同館を運営する特定非営利活動法人(NPO法)「こども遊学館市民ステーション」の荒井誠理事長は「呼びやすく、子供たちを元気に迎えてくれるような名前だ」と思い選びました」と話している。

**歓迎します**  
ハロットは身長約一メートル、人が入るとセンサーで感知し、近づくと赤や青の光と柔らかな電子音を出して歓迎する。釧路高専と東京のデザイン会社が共同開発した。同館の一階入り口近くに置かれる。(河相栄生)

本校の研究活動を紹介する新聞記事の例

北海道新聞

2003年(平成15年)3月7日(金曜日)

# 釧路高専・システム制御研究室

## 岩盤調査ロボット開発

あるある  
こんな研究

岩盤に亀裂が生じていないかをチェックするため、高さ目録もある断がいをもじえる。そんな、人間には困難な仕事を代わりにこなす岩盤調査ロボットの開発は約四年前から取り組んでいる。

開発中のロボットは現在、全長約一対、幅約三十センチ、重さ約三キログラム。本体部分から伸びた二本の長いアーム(腕)を手拍子のように振り回して動かし、本体を引き上げていく仕組み。アームと本体には、姿勢を支える

## 実用には軽量化カギ

# 登はんのメカほぼ確立

るかきがあり、現在、一分間に一五歩の速さで直直のフェンスを登る。旭川の企業から研究開発を持ちかけられた。海軍機の遠征行進で、岩などの崩壊を防ぐネットを登って行くロボットのイメージだ。最近では、ラジコンのハリコブターにカメラを搭載して新しい面所を調査する場

合もあるが、強風などで使えない時もあり、代わりが求められた。開発は、旭川第一助教授ら同校の教員グループが担当。ロボットの役割を調査地点にカメラを進めたいためのワイヤ敷設に絞った。ロボットはバッテリーやモーターで相当重くなってしまい、カメラなどの搭載は難しい。調査地点までよ



開発中の岩盤調査ロボットの仕組みなどを説明する梅原助教授

しかし、かきの数が多ければ、その分量は増す。アームも、複数備えて交互に動かした方が効率はいい、やはり重量が負担となる。軽量のアルミニウムを利用。ネットの端が目が比較的規則正しい所に着目し、アームと本体のかきは一本ずつにした。「複数のかきを持った場合、頼み目についたらからなにかきがある、反動ではしき飛ばされてしまう可能性もある」(梅原助教授)からだ。

こうして軽量化を図り、試作を繰り返した結果、三母機が初めてフェンスをゆくり登り、現在の五母機までに、当初は五キログラムの二キログラムに成功した。

次のステップは速度の向上。現状では約四分の一の時間でかかっている、実用には向かない。

解決策としては、アームをより長くして二ストロークで登る距離を長くする方法などがある。しかし、アームを延長する分、重くなる。ここでも重量という障壁が行く手を遮る。

さらに、スピードアップの先にはワイヤ敷設用装置の開発、取り付けという課題も待ち受ける。

それでも、梅原助教授は「困難を克服しながら、アイデア、ひらめきを一つひとつ形にし、社会に役立つ結果と結びつきたい」と話す。挑戦は続く。

(釧路報道部 町田理樹)

以上のように、本校の研究活動は多くの地道な成果を上げているが、その取り組みが認められ平成15年度には第1回全国高専テクノフォーラムを主催し、「産学官協力に向け全国高専はいかに連携するか」をテーマに釧路市において開催された。全国高専から200名を超える教職員が集まり熱気にあふれる議論や各高専の事例発表等が行われた(資料1- - 7)(資料1- - 8)(資料1- - 9)。

# 第1回全国高専 テクノフォーラム

—産学官協力に向け全国高専はいかに連携するか—



釧路湿原展望台(北斗)より釧路湿原を望む(平成15年8月)

期 日 平成15年8月26日(火)～平成15年8月27日(水)

会 場 釧路市観光国際交流センター

主 催 国立高等専門学校協会, 釧路工業高等専門学校

[ENTER](#)

“ENTER”をクリックして下さい目次を表示します。

(出典 第1回全国高専テクノフォーラム報告CD)

## 全国高専テクノフォーラム開催要項

### 1. 名称等

第1回全国高専テクノフォーラム  
サブタイトル「産学官協力に向け全国高専はいかに連携するか」

### 2. 主催

国立高等専門学校協会、釧路工業高等専門学校

### 3. 開催の趣旨

高等専門学校は、地域に根ざした工学系高等教育機関であり、地域の産学官連携に積極的に参画し社会の要請に応え、保持する知的資源や教育研究機能を我が国産業や地域の発展に役立てていくことを、重要使命として共通に認識しているところである。

本フォーラムは、各校で産学官連携や地域貢献の活動に中心に取り組んでいる教職員が、それぞれの経験を持ち寄り、意見交換を通じて高専間連携の方策をさぐるとともに、人的ネットワークを構築し、産学官連携の一層の推進を図ること、また、全国高専が共同して取り組むことにより、平成16年4月に予定される法人化によるスケールメリット発揮の方策を追求し、高専全体の活性化に資することを目的に開催する。

### 4. 参加対象

高等専門学校（国立高専、公立・私立高専）の教職員

### 5. 日程・内容

平成15年8月26日（火）～27日（水）＊開催の詳細は別紙のとおり

### 6. 実行委員会

委員長：釧路高専校長

実行委員会委員：北海道内各高専（釧路、函館、苫小牧、旭川）のテクノセンター長等及び久留米高専、鈴鹿高専の各テクノセンター長等で組織する。

### 7. その他

- (1) 参加費：2,000円
- (2) 予稿集：CD-ROMにより作成
- (3) フォーラムは、地域の市民・企業に開放する。

[目次へ戻る](#)

(出典 第1回全国高専テクノフォーラム報告CD)

全国高専テクノフォーラム日程表

去る、平成15年8月25日(月)から8月27日(水)までの間、釧路高専で開催された第1回全国高専テクノフォーラムの日程です。

会場: 釧路市観光国際交流センター (〒085-0017 釧路市幸町3-3)

日程:

日時	平成15年8月25日(月)	平成15年8月26日(火)	平成15年8月27日(水)
9:00		受付開始【1F・アトリウム内】	◆特別講演【1F・Aホール】 国専協会長 四ツ柳 隆夫 氏
9:30		●車列発表【1F・Bホール】 9件(各15分) [適時、休憩をとる]	●オーガナイズドセッション1 「地域協力」 基調講演 釧路工業技術センター長 (前釧路高専地域共同テクノセンター長) 東藤 勇 氏
9:45		受付	●オーガナイズドセッション2 「共同研究推進」 基調講演 久留米高専校長 柳 謙一 氏
10:30			●オーガナイズドセッション2 「産学連携の仕組みづくり」 基調講演 鈴鹿高専共同研究センター長 小倉 弘幸 氏
11:15			車列発表 3件(各15分)
12:00		◎テクノフォーラム運営委員会 【3F 会議室】	パネルディスカッション オーガナイザー:釧路高専 【1F・Bホール】
12:15		& 昼食	車列発表 3件(各15分)
13:00			★3セッション報告(各10分)【1F・Aホール】 閉会挨拶
13:30		★主催者挨拶【1F・Aホール】 (国専協会長、運営委員長、実行委員長)	
13:30		▼基調講演 (財)北海道科学技術総合振興センター 理事長 戸田 一夫 氏	
14:45		◆特別講演 釧路高専地域共同テクノセンター長 岩淵 義孝	
15:15		休憩(コーヒーブレイク)	
15:30		●車列発表 【1F・Bホール】 10件(各15分) [適時、休憩をとる]	●車列発表 【2F・視聴覚室】 10件(各15分) [適時、休憩をとる]
16:30	学内見学受付 (自由参加)		
17:00	釧路高専 学内見学 (自由参加)		
18:00	ウェルカムパーティ (自由参加)		
18:30		懇親会 (全日空ホテル)	
19:00		会費:5000円	
20:00			
20:30			

会場へのアクセス

- テクノフォーラム会場(釧路市観光国際交流センター)
- 懇親会会場(全日空ホテル)
- ウェルカムパーティ会場(釧路高専鶴峰会館)

(出典 第1回全国高専テクノフォーラム報告CD)

本校では、教員の持つシーズをわかりやすく市民や企業に伝え、企業等に共同研究への参加を呼びかけることを目的に、平成14年度に初めて教員シーズ集を刊行した。昨年度には内容を充実し改訂版を刊行した(資料1- - 10)。

教員シーズ集

<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>

(出典 本校ウェブサイト)

また、道内4高専の連携により北海道地域における産学連携を進める取組のリーダーシップをとっている。4高専合同による教員シーズ集の作成や、北海道地区高等専門学校テクノセンター長等会議

の設置などである（資料1- -11）（資料1- -12）。

資料1- -11
北海道地区・工業高等専門学校研究シーズ集に関する資料 <a href="http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/">http://www.kushi-ro-ct.ac.jp/</a> （出典 地域共同テクノセンターウェブサイト）

資料1- -12
北海道地区高等専門学校テクノセンター長等会議関係資料
<p>・北海道地区高等専門学校テクノセンター長等会議の運営について（釧路）                  釧路高専木谷校長から、本件に関するこれまでの経緯について次の説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月4日の校長会議で同会議の設置については既に決定済みであること</li> <li>・これは、高専機構の産学連携・地域連携委員会の要請に基づくものであること</li> <li>・同会議の運営については、3月25日開催のテクノセンター長等会議に原案作成を付託していたこと</li> </ul> <p>続いて、同会議設置の趣旨について次の発言があり了承された。なお、個別具体的な取組内容については今後も引き続き同会議において検討していくこととした。</p> <p>「道内各高専が、各地域において産学連携の取組を推進・強化していくために必要な情報交換や意見交換を行うことを基本的な性格とする。」</p> <p>引き続き、同会議の運営について、テクノセンター長等会議の作成した原案に基づき以下の提案があり了承された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会議は年1回定例として開催する。</li> <li>(2) 当番校は持ち回りとし、これまでの経緯から当面以下のローテーションによる。                  苫小牧（平成15年度既開催）、函館（平成16年度既開催）、旭川（平成17年度）、釧路（平成18年度）                  なお、会議の開催場所（学校所在地 or 札幌等）は、その時の状況により当番校の計画による。</li> <li>(3) 会議出席者は、テクノセンター長等各校の産学連携担当教員とする。ただし、各校の状況により担当事務職員又はその他の教員が出席することも可能とし、各校の判断による。</li> <li>(4) 会議の議長は、当番校のテクノセンター長等となる。また、当番校は議事概要等の記録を作成し、各校校長にその内容を報告する。                  なお、今後この取り組みを進めるうえで見直しが必要になった場合には校長会議で検討していきたい旨の発言があった。</li> </ol> <p style="text-align: right;">（出典 平成17年度第1回北海道地区工業高等専門学校校長会議議事録）</p>

（分析結果とその根拠理由）

共同研究の件数は増加傾向にあり、また、教員シーズ集の刊行や新たな支援組織の設置など地域に密着した積極的な取組から今後も引き続き充実するものと考えられる。研究の内容も多岐にわたっており、実用化や発明などに代表される成果が出ている。第1回全国高専テクノフォーラムの主催や道内高専間連携などにおいてリーダーシップを発揮し、それらがまた学内の研究活動の活性化に効果的につながっており、今後も成果が期待される。以上のことから、研究の目的に沿った活動の成果が十分に上がっている。

観点：1 - 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

（観点到る状況）

共同研究の受入は、その都度運営会議において審議され、本校にふさわしい研究テーマ、相手先かどうか及び教育活動への影響等について検討される。また、地域共同テクノセンター長は、運営

会議のメンバーとして活動状況を報告することとなっている。具体的な問題点の把握や改善策の検討は地域共同テクノセンター委員会が行う（資料1 - - 1）。

資料1 - - 1

地域共同テクノセンター委員会の活動を示す資料

日時平成16年5月13日（木）16時30分～17時50分

場所小会議室

欠席者なし

岩淵委員長から、資料に基づき、1の年度計画について提案があり、2のセンター委員会組織の各担当が職務を分担し、今後実施について検討することとなった。

1. 年度計画について

(1) 共同研究の推進

共同研究の件数は、14年度8件、15年度8件であり全国平均並であるが、企業訪問を活発に推進し、今年度は目標を10件以上に件数を増やしたい旨提案があった。

(2) 企業訪問の継続推進

市内を中心に白糠、阿寒ぐらいまでを対象とし、企画担当で企業訪問の計画を立案することとなった。

(3) 地域連携事業

テクノセンター委員会としては「メイドイン釧路「みらいザウルス」に依頼があれば参加協力したい旨提案があった。

(4) 教官シーズ集の改編

今のシーズ集は発行が平成14年10月であり、教官の異動もあったので作成したい旨提案があり、企画担当で検討することとなった。

(5) 地域連携・産学連携活動成果集の発行

共同研究、セミナー、技術相談、公開講座、子ども開放プラン、新聞記事等を、釧路高専地域連携・産学連携活動成果集として発刊してはどうかとの提案があり、今後発刊する方向で検討することとなった。

(6) 道内高専連携の強化

昨年度は、道内高専教官シーズ集をCD-ROM化して配布したが、今後とも引きつづき連携していきたい旨の報告があった。

(7) 全国高専テクノフォーラム

今年7月20日、21日の日程で、宮城高専が当番校で第2回全国高専テクノフォーラムが開催される旨報告があった。岩淵センター長が、パネル討論で発表することが確認され、また、ポスタープレゼンテーションへ応募がある場合は、庶務係に連絡してほしい旨報告があった。

(8) 工業技術センターとの連携

共同研究を推進するうえでも交流会等を通じ連携を図っていききたい旨発言があった。

2. テクノセンター委員会の組織について

岩淵センター長から、各担当ごとに職務分担することが提案され、下記のとおり各人が担当することが了承された。

(a) 企画担当： 荒井、野口、坂口

(b) 広報担当： 大槻、三森、加藤、技術室

(c) 渉外担当： 浦家、山岡、庶務課

3. 共同研究シーズ集刊行について

岩淵センター長から、共同研究シーズ集の刊行について提案があり、教官シーズ集の他に新規に作成する必要があるのか今後検討することとなった。

4. 公開講座について

岩淵センター長から、公開講座を開催する旨の提案があった。開催時期は冬休みを予定し、内容は先端技術の紹介として取り上げ「ニューテクノロジーセミナー（仮題）」と題し、テクノセンターに設置してある装置を活用して開催したい旨の発言があった。

5. その他

岩淵センター長から、昨年のテクノフォーラムの収支について、必要な方は庶務係で閲覧してほしい旨報告があった。また、釧路工業高等専門学校産官学共同研究・交流推進協議会を「協力会」として新



たな体制づくりをしたい旨発言があり、現在商工会議所に協力要請していることが報告された。  
 (出典 平成16年度第1回地域共同テクノセンター委員会議事概要)

研究活動に対する教職員からの意見は、構成員である学科主任や地域共同テクノセンター長、事務部長、技術室長を通して運営会議に報告される体制をとっている。外部からの意見は、釧路工業高等専門学校地域振興協力会(昨年度まで産官学共同研究・交流推進協議会)、釧路工業技術センターとの研究交流会において取り入れており、運営諮問委員会においても意見をお聞きする予定である。

学生の研究活動への参加は、専攻科における特別研究を挙げることができる。この点については、研究活動が教育の質の改善に寄与しているかという観点から基準9で記述したが、改めて以下の資料を示す(資料1- -2)。

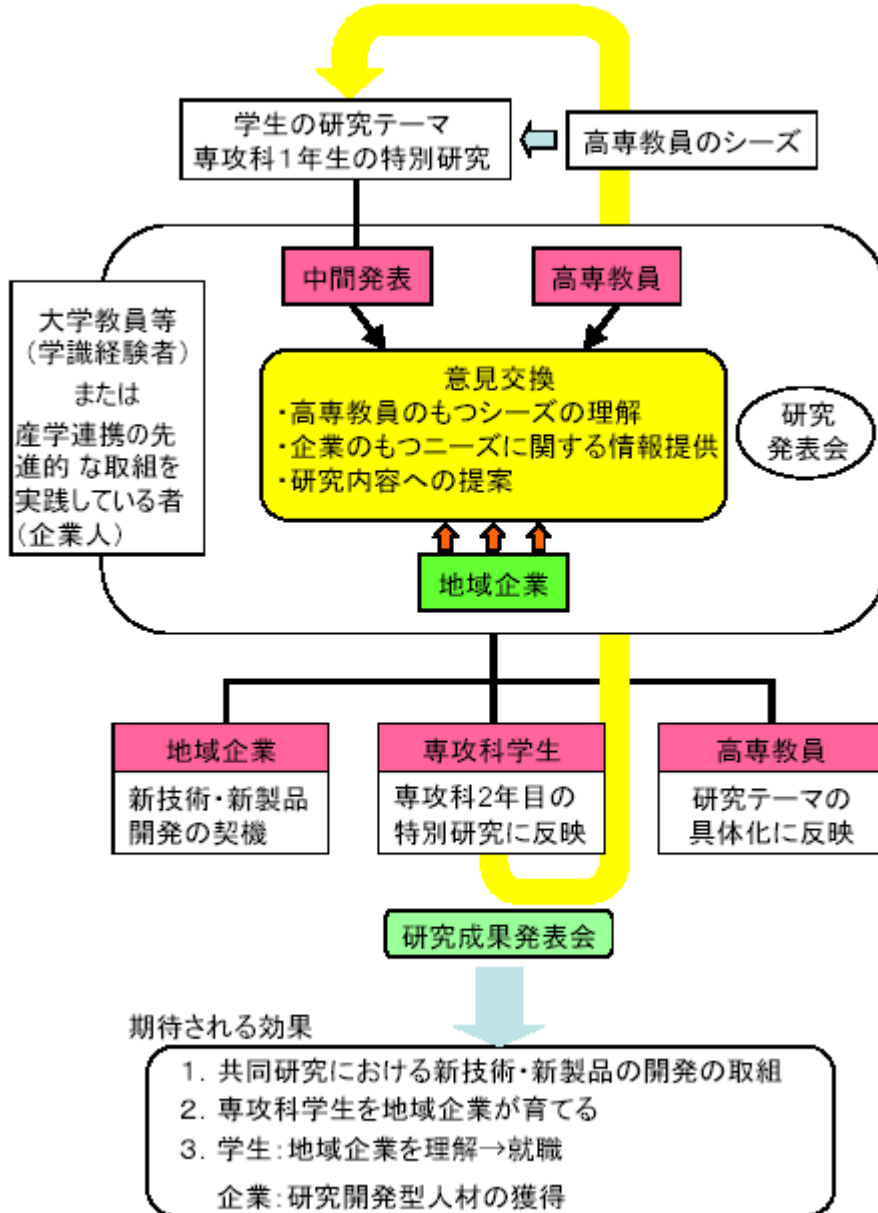
資料1- -2					
「指導教員・指導教員の共同研究課題・専攻科特別研究テーマ」					
指導教員	区分	研究課題	学年	学生氏名	特別研究テーマ
岩淵義孝	共同研究	P S 灰造粒物 - アルミニウム複合材料の創製	1 K		廃棄アルミニウム - P S 灰造粒体ハイブリッド材の創製
草苺敏夫	共同研究	既存特殊建物に対する保有耐震性能評価と耐震性向上のための方策に関する開発研究	2 K		角形鋼管柱・H形梁接合部パネル架構の強度関係について
大楽隆男	共同研究	ガラス廃材(カレット)の有効利用によるタイル・ブリックの開発	1 K		ガラスカレットの有効利用によるタイルブリックの開発
大楽隆男	共同研究	コンクリートのスケーリングに及ぼす凍結防止剤の影響	2 K		凍結防止剤のコンクリート表層剥離(スケーリング)に及ぼす影響
三森敏司	共同研究	P S 灰を使用したコンクリート用人工骨材の開発	1 K		P S 灰造粒品を用いたモルタル・コンクリートの性状
三森敏司			2 K		

K : 建設・生産システム工学専攻  
 (出典 本自己評価のための作成資料)

地域連携・産学連携に基づく研究活動に学生を参加させるため、現在、新たな計画に取り組んでいる。これは、北海道中小企業家同友会の補助金事業に採択され、今年度からの実施が決定しているものである。詳細で具体的な企画は未定の部分も多いが、イメージを示せば以下のとおりである(資料1- -3)(資料1- -4)。

研究活動への学生の参加（イメージ図）

技術者教育を地域企業が支援し、学校が地域企業に貢献する産学連携の取組



釧路地域振興・産業振興

(出典 北海道中小企業家同友会に対する産官学連携事業申込書説明資料)

研究活動への学生の参加（計画の概要）  
平成17年度産学官連携推進事業申込書

委員会名	釧路地域産学官連携推進実行委員会 委員長 木谷 勝（釧路工業高等専門学校長）
代表機関及び連絡先	釧路工業高等専門学校 住所 〒084-0916 釧路市大楽毛西2丁目3番1号 TEL/FAX TEL 0154-57-7203 FAX 0154-57-5360 E-mail shomu@office.kushiro-ct.ac.jp 担当者名 青山喜治
参加機関	釧路工業高等専門学校 釧路工業高等専門学校地域振興協力会 北海道中小企業家同友会釧路支部 釧路市 釧路工業技術センター
事業名	釧路高専専攻科学生研究発表会
事業の目的	技術者教育を地域企業が支援し、学校が地域企業に貢献する。 産学官連携の取組により、釧路の地域振興・産業振興を推進する。 （別紙添付）
実施予定時期	平成18年1月下旬～2月上旬
実施場所	釧路プリンスホテル
参加対象者及び参加予定者数	釧路高専専攻科学生（約20名）、釧路高専教職員（約30名）、 釧路高専地域振興協力会・北海道中小企業家同友会釧路支部（約80名）、 学生保護者及び一般参加者（約50名）
経費内訳及び経費配分	別添のとおり
事業概要	第1回釧路地域産学官連携推進事業 テーマ：「釧路高専専攻科学生研究発表会」 内容：研究発表、意見交換、講演、交流会 日時：平成18年1月下旬～2月上旬 場所：釧路プリンスホテル 参加者：約200名  本年度は、専攻科1年生の研究発表を行い各々について意見交換を実施する。また、来年度は専攻科2年生として研究成果発表会と専攻科1年生（本年度と同様）との研究発表会をそれぞれ開催したい。

（出典 北海道中小企業家同友会に対する産学官連携事業申込書）

こうした教員や地域企業と一体となった研究活動への学生の参加を通じて、研究活動に対する学生の意見は汲み取ることが可能であり、教員の研究活動にも効果的に反映されるものと考えている。

(分析結果とその根拠理由)

研究活動等の問題点等を把握し、改善のための具体的方策を検討する体制は主に地域共同テクノセンター委員会が担っている。運営会議も共同研究の受入等について総合的な審議を行っている。釧路工業高等専門学校地域振興協力会など学外の支援・連携組織との協力や一体的な取組を通じその意見を取り入れ改善を図る体制が整備され機能している。学生を研究活動に参加させる新たな計画が進行中であり、学生の参加によって意見を汲み取ることで、研究活動の改善に反映されることとなる。また、これにより教育の質の改善も効果的に行われる。以上のことから、問題点の把握と改善のための体制は十分整備され、機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・地域の産業界・自治体等との連携組織を早くから設置し、地域産業界のニーズに基づく研究活動を展開し多くの成果を上げている。

- ・第1回全国高専テクノフォーラムを主催するなど、産学連携に基づく研究活動において高専間のリーダーシップを発揮し、これが研究活動の活性化につながっている。

(改善を要する点)

特になし。

(3) 選択的評価基準の自己評価の概要

本校の研究活動は、地域の産業界と連携して、これまで地域が培ってきた技術の、高度化と融合を図り、新産業の創出に寄与する共同研究等を行うこと、この研究の成果を教育に還元することで、実践的技術者教育の質の向上を図ることを目的としている。

地域共同テクノセンターを中心とする学内の取組体制のもとで、産業界・自治体等との連携組織を早くから設置し、地元のニーズに基づく多くの共同研究を地域企業との間で実施し、実用化や発明などの成果を上げている。市の施設で活躍して市民から愛されているロボットの開発などの事例もあり、地域に密着した取組となっている。また、第1回全国高専テクノフォーラムを主催するなどの積極的な取組が、学内の研究活動の活性化に効果的につながっている。

研究活動に学生を参加させ、学生と企業との交流・意見交換会を行って、企業の意見を研究活動にフィードバックする新たな取組を計画しており、これにより研究活動の質の改善と、教育の質の向上を図ることとしている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。

選択的評価基準 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

(1) 観点ごとの分析

観点1 - : 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点到る状況)

本校の中期目標では、その前文に「教育理念」として次のとおり謳われている(資料1 - -1)。

資料1 - -1

(前文)

教育理念

釧路高専は北海道東部における唯一の技術系高等教育機関として、地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成、また、産業界への技術支援、技術者のキャリアアップ教育、地域住民の生涯教育や社会活動への支援を任務としている。これらの実現のため、「創造力、問題発見・解決能力をもち即戦力となる技術者を育成し、地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する」ことを理念とする。

(出典 釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画)

ここでは、本観点到る「正規課程の学生以外に対する教育サービス」を「正規課程学生に対する技術者教育(育成)」とは別に、技術者のキャリアアップ教育 地域住民の生涯教育や社会活動への支援という表現で明確に任務として掲げている。これを受け、中期目標・中期計画本文では次のとおり定めている(資料1 - -2)。

資料1 - -2

【中期目標】

4 その他の目標

・地域の高等教育機関の使命として、地域のニーズに応えた社会貢献に取り組む。

【中期計画】

4 その他の目標を達成するための措置(社会との連携、高専間または高専・大学間交流、国際交流等に関すること)

地域社会などとの連携・協力、社会サービスなどに係る具体的方策

(1) 全教員の研究内容をわかりやすく説明し、技術相談や各種団体の講師招聘などに寄与することを目的として平成14年度に作成した『教官シーズ集』の内容を充実、改定する。

(2) 公開講座を最低年5企画以上実施する。

(3) 公開講座の内容は、一般市民の生涯学習意欲に応えるもの、青少年の科学への興味喚起や理科離れに対応するためのもの、企業向けの先端技術に関するものなどを実施し、教育サービス面における社会貢献に努める。

(4) 公開講座では、参加者アンケート等により、その70%以上から良好な評価を得るよう内容を充実する。

(5) 中学校への出前授業を、最低年15クラス以上を対象に実施する。また、夏休みこども開放プランを毎年実施する。これらを通じ、子どもたちへ科学技術のすばらしさをわかりやすく伝える。

(6) 図書館の豊富な蔵書情報をより積極的に公開し、図書館開放における利用率を向上させ

- る。また、公立図書館・他大学等附属図書館との連携を進め、利用者への便宜供与を図る。
- (7) 青少年科学館の実験教室講師や科学の祭典、科学屋台村へのブース出店等を積極的・組織的に行い、地域社会へのサービスに努める。
- (8) 小中学校の「総合学習」への取り組み支援を検討する。
- \* 以上、観点に対する関係分のみを転記。中期計画中に記載はないが、以降の記述のための便宜上、各項目には番号を付した。

(出典 釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画)

以上のとおり、本校では地域社会に対する教育サービスの提供を、学校本来の任務として明らかにし、その達成のための計画や具体的な方針を、数値目標を設定しつつ定めている。教育サービスの目的は、「中期目標・中期計画」による公開のほか、広報活動の中でよりわかりやすい表現により明らかにしている。一例を挙げれば、次のような記載である(資料1- -3)。

資料1- -3

教育サービスの目的をわかりやすく伝える例を示す資料

釧路高専セミナー

LEGOで挑戦! ——光センサーを使って古いロボットを作ろう	7月 9日(土)~10日(日)	
パソコン入門~キーボード入力の基礎~	7月19日(火)	
第三種電気主任技術者試験対策講座	7月30日(土)~31日(日)	
「建物」としての「こども遊学館」を見よう!	9月10日(土)	※遊学館入場料
文学における愛の形(続編)	10月 8日(土)、15日(土)、 29日(土)	
PowerPointを使いこなしてプレゼンテーションの達人になろう	10月30日(日)	
高専ロボコン今昔よもやま話	11月19日(土)	※遊学館入場料
簡単な介助補助具を作ろう	11月26日(土)	

<http://www.kushiro-ct.ac.jp/office/hp/1koukat.htm>

★こども開放プラン★

小・中学生にもものづくりのおもしろさを知ってもらおうと本校で実施しています。

- 夏休み サーマカーを作ろう!!  
(氷とロウソクの火で動く車を作ろう)
- 夏休み 自分だけのトレカ・ケースを作ろう
- 夏休み 凧を作って遊ぼう!
- 冬休み コンピュータでロボットを動かそう
- 冬休み コンピュータでロボットを動かそう

<http://www.kushiro-ct.ac.jp/office/hp/kodomo.htm>

釧路高専セミナー  
こども開放プラン  
出前授業 問い合わせ先: 庶務課専門職員  
TEL: 0154-57-7240  
FAX: 0154-57-5360  
E-mail: kikaku@kushiro-ct.ac.jp

▼出前授業▲

実験を通して科学技術のおもしろさを体験してもらおうと、中学校へ訪問し授業を行っています。

▲テーマ▼

釧路と石川啄木  
人の心を動かす「言葉の力」とは?  
材料の不思議な世界  
新エネルギーと環境問題  
流れ学入門~流れの観察でわかること~  
コンピュータ設計の最前線  
エネルギーについて考えて見よう  
静電気とコロナ放電  
光はまっすぐ進むか?  
温度と電子の動き  
地震と建物  
コンピュータグラフィックスの世界  
建物の温熱環境

<http://www.kushiro-ct.ac.jp/office/hp/demae.htm>

20

釧路高専だより vol.80

(出典 高専だより第80号 2005.7.7 20頁)

上記の目的に基づいて本校で実施している教育サービスに関する事業は、以下の5種類に大別される。1. 公開講座 2. こども開放プラン 3. 出前講座 4. その他各種イベントへの参加 5. 図書館開放事業 以下に今年度の各事業の実施計画等について述べる。

1. 公開講座 平成17年度の実施計画は以下のとおり(資料1- -4)。

平成17年度公開講座(釧路高専セミナー)実施予定一覧

	講座名	担当教員	開催期間	開講時間	開講時間	開講場所	対象者	募集人数
1	LEGOで挑戦！光センサーを使って占いロボットを作ろう	土江田、大貫 他	7/9(土)昼食持参 7/10(日)昼食持参	9:30～15:00 10:00～15:00	4.5	釧路高専情報処理演習室	小学校高学年～中学生	各10
2	パソコン入門 ～キーボード入力的基础～	佐治、坂田、 山田、小清水	7/19(火)	13:00～16:00	3	釧路高専情報処理センター	一般市民	10
3	第三種電気主任技術者試験対策講座 (1科目のみの受講可)	工藤、山岡、 佐藤	7/30(土)理論・電力 7/31(日)機械・法規	9:00～16:00 (必要に応じて昼食持参)	12	釧路高専電気工学科 5年教室	一般市民、 学生	10
4	「建物」としての「こども遊学館」を見よう！(仮)	佐藤(彰)、千葉、 草苺、西澤、外部講師	9/10(土) 要遊学館入場料(大人500円)	13:00～16:00	3	釧路市交流プラザさいわいこども遊学館	一般市民	20
5	文学における愛の形(続編)	小田島	10/8(土)、10/15(土) 10/29(土)	18:00～20:00	6	釧路市生涯学習センター601号室	高校生以上	40
6	高専ロボコン今昔よもやまばなし	荒井 他	11月19日(土) 要遊学館入場料(大人500、小・中学生100)	14:00～16:00	2	こども遊学館	中学生以上一般市民	20
7	簡単な介助補助具を作ろう	伊藤、岩淵、 的野、石塚	11月26日(土)	9:00～12:00	3	釧路高専実習工場、創造ラボ室	作業療法士及び一般市民	10
8	パワーポイントを使いこなしてプレゼンテーションの達人になろう	小杉、渡辺、 籠、他	10月30日(日)	13:00～17:00	4	釧路高専情報処理センター	学生・一般	20

(出典 庶務課資料)

上記の事業計画は、すべて無料で開催され、「釧路高専セミナー」という名称により実施する。内容的には、一般市民の生涯学習意欲に応えようとするもの、青少年の科学への興味喚起や理科離れに対応しようとするもの及び技術者のキャリアアップに貢献するものとなっている。したがって、受講対象者も一般市民ばかりでなく、小中学生限定など多様な形態となっている。また、開催場所も本校の他、市内の施設を利用することで参加者の利便性に配慮している。

広報活動は、釧路市広報誌への掲載、ポスターの作成・配布、本校ホームページへの掲載、前年度受講者への案内(リピーターの確保)、近隣町内会への回覧板依頼を行っている。広報活動は、参加者確保のほかに本校の取組を広く社会に伝えるという意味で重要なものと位置づけ、積極的に行っている(資料1- -5)(資料1- -6)。

公開講座の広報ポスター配布先を示す資料

年間開催のポスター（全判）配布先

17年7月1日 持参して依頼する箇所

1、釧路市・釧路市関係

広報公聴課 記者クラブ分（17部）

都市計画課

市民生活課 コミュニティセンター（3ヶ所）地区会館（42ヶ所）生活館（5ヶ所）

生涯学習センター

児童家庭課 児童館（児童センター）（20ヶ所）

保健課 保育所（13ヶ所）

釧路市教育委員会・市民文化会館・図書館・博物館・こども遊学館・交流プラザさいわい

市立病院・観光国際交流センター ・道立芸術館

2、郵便局大楽毛 ・星が浦 ・鳥取 ・釧路西

3、病院 優心 星が浦 開成 労災

4、大楽毛周辺 大楽毛支所 セイコーマート セブンイレブン 藤田ストアー

5、書店 コーチャンフォー、FMくしろ（3） 大内 蔦屋

6、大学 教育大学（2枚）、公立大学

7、銀行 信用組合（大楽毛）市内11ヶ所 北陸銀行

8、 釧路公安委員会

9、 釧路商工会議所

（出典 庶務課文書）



釧路高専セミナー

受講無料  
随時受付中

**LEGOで挑戦！光センサーを使って  
占いロボットを作ろう**

LEGOブロックに光センサーを組み立て、  
パソコンを使って動くロボット作りに挑戦します。

7月9日(土) 9:30-15:00  
7月10日(日) 10:00-15:00  
対象：小学生(高学年)～中学生 各10名  
※ 道民カレッジ連携講座

**パソコン入門  
～ キーボードの基礎入力 ～**

ローマ字による日本語入力にトライ！  
キーボードにさわったことのない人もOKです。

7月19日(火) 13:00-16:00  
対象：パソコン初心者(年齢は問いません) 10名  
※ 道民カレッジ連携講座

**第三種  
電気主任技術者  
試験対策講座**

平成15、16年度の試験問題の解説を中心に進めます。  
一科目のみの受講も可能です。

7月30日(土) 理論・電力  
7月31日(日) 機械・法規  
9:00-16:00 対象：学生、一般市民 各10名  
※ 道民カレッジ連携講座

公開講座  
平成17年度

**「建物」としての  
「こども遊学館」  
を見よう！**

「こども遊学館」ができるまでを実際に見学しながら「建物」としての視点からアプローチします。

9月10日(土) 13:00-16:00  
場所：こども遊学館(入場料必要) 20名  
対象：中学生以上 ※ 道民カレッジ連携講座

**文学における愛の形 一統編**

「愛」のさまざまな形を日本の  
近代現代文学から浮き彫りにします。

10月8日(土)、15日(土)、29日(土)  
18:00-20:00 場所：釧路市生涯学習センター  
対象：高校生以上 40名  
※ 釧路市教育委員会後援

**パワーポイントを使いこなして  
プレゼンテーションの達人になろう！**

プレゼンテーションスライドの作り方や  
各種効果の使い方を習得しましょう。

10月30日(日) 13:00-17:00  
対象：一般市民 20名

**高専ロボコン今昔よもやまばなし**

今年のロボコン大会ロボットが登場。  
これまでのロボコンの歴史やアイデアのいろいろも紹介します。

11月19日(土) 14:00-16:00  
場所：こども遊学館(入場料必要) 対象：中学生以上 20名  
※ 釧路市教育委員会・(財)釧路市民文化振興財団後援

**簡単な介助補助具を作ろう！**

役に立つ福祉の話と、あると便利で簡単な介助補助具の手作りをします

11月26日(土) 9:00-12:00  
対象：一般市民 10名  
※ (社)北海道作業療法士会釧路支部連携講座

**お申し込み・お問い合わせ先**

釧路工業高等専門学校 庶務課専門職員 〒084-0916 釧路市大塚毛西2-32-1 TEL 0154-57-7240 FAX 0154-57-5360  
E-mail kikaku@kushiro-ct.ac.jp http://www.kushiro-ct.ac.jp/office/ho/koukai.htm

**\*図書館も利用できます。**

(出典 庶務課文書)

今年度の計画のうち、既に実施済みの「LEGOで挑戦！光センサーを使って占いロボットを作ろう」に関する広報活動は以下のとおり行った。対象者を小中学生に限定しているため、釧路管内の全小中学校へ案内するとともに、講座の内容をわかりやすく紹介したPRパンフを各学校の全クラスにいきわたる枚数配付した。その結果、当初は1日開催を予定していたが応募者多数のため急遽2日間開催と

-589-

してニーズに応えることとなった(資料1- -7)(資料1- -8)。

資料1- -7

平成17年6月9日

釧路管内各小中学校長 様

釧路工業高等専門学校長  
木 谷 勝

平成17年度公開講座について(お知らせ)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本校の諸行事に関しましては、日頃から格別のご理解とご協力をいただきお礼申し上げます。

さて、本校では、地域との連携・協力と地域社会貢献を積極的に取り組みたいと考えております。この度お知らせします公開講座もそのひとつであります。

つきましては、この公開講座を掲示等にて貴校児童・生徒への周知方について格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。

敬具

\*\*\*\*\*ここから別紙\*\*\*\*\*

#### 公開講座の内容

講座名 L E G Oで挑戦!光センサーを使って占いロボットを作るう

講座概要 まず、さまざまなL E G Oブロックを使って自分の好きなロボットの体を組み立てます。次にそのロボットを動かすために、パソコンでプログラムを作ります。そのプログラムをR C X(ロボットの頭脳となる黄色い箱C P Uが入っている)へ転送するとロボットが動きます。

プログラミングは命令のアイコン(絵)を並べて作るので初めての方でも簡単に作れます。

開講日 平成17年7月9日 土曜日

時 間 午前9時30分から午後3時まで(昼食が必要です)

会 場 釧路工業高等専門学校情報処理実験室

釧路市大楽毛西2丁目32番1号

受講料 無料

受講者 中学生、小学生(5,6年)10名

申込期限 定員になり次第締め切ります。

(出典 庶務課文書)

小中学校への案内を示す資料（その2）



**光センサーを使って  
占いロボットを  
作ろう!!**



ブロックを組み立てて、  
光センサーを組み込んで  
線の上を考えながら走る  
占いロボット作りに挑戦

\* 道民カレッジ連携講座



日にち：7月9日(土)

時間：9:30～15:00  
昼食を持参してください

対象：中学生、小学生(5, 6年)

場所：釧路高専 情報処理実験室

LEGOブロックで組み立てたロボットへ、パソコンで作ったプログラムを転送し、

募集人数：10名

受講料：無料

\* 定員になり次第締め切ります



色々な動きをする自分だけのオリジナルロボットを作ろう!!

連絡先：釧路工業高等専門学校  
庶務課専門職員  
TEL：0154-57-7240  
Fax：0154-57-7360  
E-mail：kikaku@kushiro-ct.ac.jp



待ってまーす

釧路工業高等専門学校 情報工学科

ポスター掲載写真は本学科2年生(1年次作成)の作品です。

(出典 庶務課文書)

以上の講座が、どちらかと言えば一般市民向け講座として無料で行われるのに対し、企業向けの

先端技術に関する講座は、有料で実施の予定である。現在、その内容・開催方法・開催時期等については、以下の理由でまだ計画中の段階にある。本年6月、釧路高専を活用し支援することを目的に、主として地域の民間企業が中心となって釧路工業高等専門学校地域振興協力が会が設立された。同会の事業は、産学連携を推進することにあるが、事業計画として技術セミナー・技術交流会等の開催が計画されており、本校の公開講座も同会の事業と連携する必要性がある。先端技術に関する有料の公開講座のあり方については、同会の活動を通じて民間企業と連携の上で決定する予定である（資料1-9）。

資料1 - - 9

釧路工業高等専門学校地域振興協力が会に関する資料

（目的）

第1条 本会は会員相互の交流と協力により、釧路高専を活用・支援する産学連携事業に取組み、もって産業技術の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（出典 釧路工業高等専門学校地域振興協力が会規約）

1. 事業

（1）略

（2）技術セミナー、技術交流会等の開催（セミナー、講演会、技術懇談会、研究交流会、勉強会、公開講座、人材育成研修等）

（以下略）

（出典 釧路工業高等専門学校地域振興協力が会初年度事業計画）

なお、本校の公開講座は、「道民カレッジ」連携講座に登録しており、北海道との連携事業として実施されている（資料1 - - 10）。

資料1 - - 10

「道民カレッジ」に関する資料

主催/北海道教育委員会（北海道立生涯学習推進センター）主管/（財）北海道生涯学習協会  
道民カレッジについて

道民カレッジは、産官学が連携して、道内各市町村で行われている様々な学習機会を体系化することにより、道民自らの意志によって学び、自立した北海道の創造に寄与する人材を育成することを目的としています。

道民カレッジ連携講座参加団体一覧（順不同）

1 市町村（35団体）（略）

2 高等教育機関等（61団体）

旭川医科大学、小樽医科大学・・・（略）・・・国立釧路工業高等専門学校・・・（略）・・・

3 各種団体・民間教育事業者・企業等（15団体）（略）

4 その他の関係機関（17団体）（略）

（出典 ガイドブック道民カレッジ平成16年度版）

2. こども開放プラン 平成17年度の実施計画は以下のとおり(資料1- -11)。

資料1- -11				
平成17年度こども開放プラン実施計画				
事業名称	担当者	実施日時	主な対象者	実施場所
自分だけのトレカ・ケースを作ろう (建築学科)	千葉・佐藤(彰)・大槻(香)	7月28日(水) 13:00~16:00	小学5年生以上10名程度	釧路高専 創造ラボ・建築CAD室
凧を作って遊ぼう (機械工学科)	丹・小杉的野(卓)	8月2日(火) 13:00~16:00	小学生15名	釧路高専 創造ラボA
サーモカーを作ろう!! (電子工学科) (氷とロウソクの火で動く車を作ろう、液体窒素を使った面白実験にもチャレンジ!!)	坂口	7月27日(水) 13:00~15:30	小学校高学年~中学生 10名	釧路高専 電子応用実験室
コンピュータでロボットを動かそう (電気工学科)	野口・梶原千田	8月12日(金) 10:00~15:00	小学校高学年~中学生 15名	釧路高専 創造ラボA
	梶原・野口千田	1月6日(金) 10:00~15:00	小学校高学年~中学生 15名	釧路高専 創造ラボA

(出典 庶務課文書)

こども開放プランは、主に夏休みの時期に開催する。企画は、5つの専門学科がそれぞれ1企画提供することとしている。( \*公開講座「LEGOで挑戦!光センサーを使って占いロボットを作ろう」は開催時期の関係で公開講座として開催したが、情報工学科の企画である。) おのおのの企画の内容は、各学科の専門分野と極めて密接な関係を持っている。つまり、こども達へ高専に入学したら「どんなことを学ぶか」を伝え、科学技術に対する興味や関心を喚起することはもとより、高専への関心も持ってほしいという内容となっている。これらの広報活動も、公開講座の例と同様に行われる(資料1- -7)(資料1- -8)参照。

3. 出前授業 平成17年度の実施計画は以下のとおり(資料1- -12)。



- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 3 材料の不思議な世界（岩淵）         | 10 温度と電子の動き（坂口）         |
| 4 新エネルギーと環境問題（麓）        | 11 地震と建物（草苺）            |
| 5 流れ学入門～流れの観察でわかること（小杉） | 12 コンピュータグラフィックスの世界（本間） |
| 6 コンピュータ設計の最前線（荒井）      | 13 建物の温熱環境（佐藤彰）         |
| 7 エネルギーについて考えてみよう（山岡）   |                         |

（出典 庶務課文書）

出前授業の案内・広報活動は、釧路・根室・帯広管内にある全中学校（139校）に対し行った。上記資料のとおりテーマを13例示し、各学校のニーズにより選択してもらう形式をとっている。その結果を取りまとめたものが上記の実施計画である。

なお、出前授業のテーマは、本校の広報誌「高専だより」に“シリーズ科学の読み物”として掲載し、管内中学校へ送付している。これも理科離れに対応する取組の一例である（資料1- -13）。

資料1 - - 13

出前授業テーマの広報誌掲載例を示す資料

科学の読み物

# 地震はなぜ道東に多い？

平成15年9月26日午前4時50分頃、大きな揺れが釧路を襲いました。  
 釧路沖地震からちょうど10年、北海道東方沖地震から9年目の大きな地震であります。  
 今回は、どうしてこのような地震が道東に多く発生するのか考えてみましょう。

## 地震の原因となるプレート移動

地球の表面は十数枚の岩板に分かれており、この岩板をプレートと呼びます。これらのプレートは、お互いに押しあったりして動き回っています。

プレートは海嶺で形成され、移動するにつれて冷えるために次第に厚く重くなり、陸のプレートと海のプレートが集まる境界では、より重い海のプレートが陸の下に沈み込むこととなります。(図1)

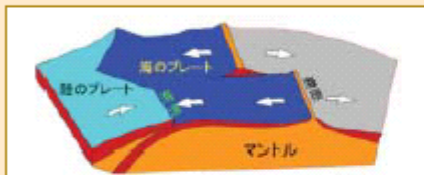


図1 プレートの移動

このようなプレート境界には海溝やトラフと呼ばれる谷状の地形が発達し、沈み込んだプレートに沿って地震が発生します。プレートは1年間に短いところで4cm、長いところで10cm程度動くことが宇宙測地技術による大陸間距離の測定に明確められています。

## 地震はプレートが破壊するために起こる

プレートが動くときプレート同士が押しあう事になり、それによって大きなエネルギーが貯まります。このエネルギーが大きくなり、プレートが溜えられなくなると岩板が破壊し、その一部がずれを生じます。この破壊現象が地震であり、ずれを断層といいます。

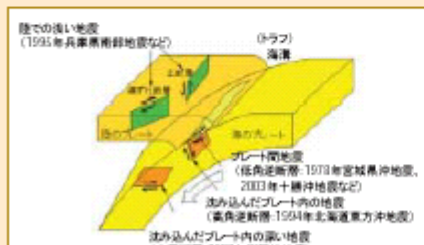


図2 断層の発生パターン

断層には図2に示すように色々な種類があります。

同じ断層が繰り返し地震を受けて段差がはつきりし、崖や急な坂となり、さらには平地と山地との境となったものを活断層といいます。現在、日本全国で主要な活断層として98個確認されています。

## 地震が多いのには理由がある

図3に北海道・東北周辺のプレートと主な地震を示していますが、釧路周辺ではここ10年の間に大きな地震が3回も発生しています。これは、太平洋プレートが日本列島の下に深く沈み込んでいるのが大きな原因です。

特に道東は千島海溝という太平洋プレートの沈み込み口が伸びています。これは北のアリューシャン海溝へと繋がっており、その総延長は2500kmにも及んでいます。

一方南では、襟裳沖で大きく方向を変えて日本海溝へと繋がっています。

太平洋プレートは、北西方向に年に10cm程度移動していますが、プレートに沈み込まれる海溝は場所によってあちこちの方向に向いています。特に千島海溝の南西域に位置する道東では、太平洋プレートがかかりの角度をもって西向きに斜めに潜り込んでおり、道東で地震が多いのはこのような複雑な地形による影響が大きいようです。



図3 東北日本周辺のプレートと主な地震

太平洋プレートの潜り込みは北海道を西北西あるいは西へ押ししていることになり、釧路、根室、十勝といった道東一帯を北海道中央部に対して相対的に西へ年に3cm程度移動させておきます。

これにより、釧路湖、弟子屈、阿寒帯付近では内陸直下型の地震が発生し、しばしば被害を生じさせておきます。(図4) この地域では1967年の地震を最後に目立った活動がありませんので、今後の活動に注意が必要でしょう。

いつ地震が発生しても大丈夫なように日頃の防災が重要です。

(建築学科教授 草野 敏夫)



図4 道東の内陸地震



4. その他各種イベントへの参加 平成16年度中の実績を示す(資料1- -14)。

資料1- -14

平成16年度地域貢献事業(各種イベント)一覧

平成16年度地域貢献事業一覧

事業名	期間	参加職員	参加学生	参加人数	場所	主催
夏休み特別展「ロボットと遊ぼう」	16. 7. 30-8. 5	野口, 中村, 荒井, 梶原, 千田	学生7名	2,964	釧路市青少年科学館	釧路市青少年科学館
「アメリカ伊能大図里帰りフロア展」 in 釧路	16. 7. 16-7. 19	依田	学生延べ41名	22,739	釧路市観光国際交流センター	釧路市教育委員会
青少年のための科学の祭典帯広大会	16. 10. 10	渡邊		2,347	帯広市児童会館	北海道科学の祭典実行委員
サイエンス屋台村	16. 10. 30-10. 3	浦家, 松崎, 岩淵, 小林,		3,326	釧路市青少年科学館	釧路市青少年科学館
くしろ雷明かりイルミネーション	16. 12. 23-12. 2	成澤	学生10名		本校学生玄関前	くしろ雷明かりの会
科学実験室	16. 11. 19	松崎, 浦家, 森		200	鷹臼小学校	ベーマー教育財団
わいわい何でも講座	16. 12. 28	荒井, 野口, 梶原, 千田		80	鶴居村総合センター	鶴居村教育研究所
さよなら科学館おもしろサイエンス	17. 1. 15	加藤, 松崎, 岩淵, 荒井, 渡邊, 野口, 千田, 中村, 坂口, 櫻田, 梶原, 井上, 小林		590	釧路市青少年科学館	釧路市青少年科学館
サオエンスハイスクール出前授業	17. 3. 7-3. 8	中村, 浦家, 松崎		40	釧路湖陵高等学校	釧路湖陵高等学校
平成16年度地場工業展示会出展	17. 2. 3-2. 4	梶原, 荒井, 坂口, 野口		4,800	釧路市観光国際交流センター	釧路地域工業振興会

(出典 庶務課文書)

各種のイベントへの参加は、教員の個人的な人的ネットワークが契機となっているものの他、学校として組織的な取組となっているものも多数ある。主催者からの依頼を受けて、教員を派遣する形式を取っているが、すべて校務として取り扱われる。

本校の教員が、どのような形で一般市民や企業のために役立つか、どういう研究を行っているか、どのようなシーズを持っているか、それらをできるだけわかりやすい表現で情報発信しようという意図で、教員シーズ集“釧路高専はやりますWe will do it!”を刊行している。シーズ集は平成14年度に初版を刊行し、平成16年度には内容を充実して改訂版を刊行した。このシーズ集は、市立の生涯学習センターや図書館その他の公共施設において一般の閲覧に供されているほか、市民サークルなどの希望があれば無料で配付され、市民や企業が実施する講座や研修の講師として本校教員が役立つよう意識して編集されている(資料1- -15)。

資料1- -15

教員シーズ集“釧路高専はやりますWe will do it!”

<http://www.kushiro-ct.ac.jp/>

(出典 本校ウェブサイト)

5 . 図書館開放事業

一般市民に対する学習機会の提供を図る目的で、図書館の開放が平成 8 年度から行われている。学生・教職員以外の利用実績を示す（資料 1 - - 1 6 ）。

資料 1 - - 1 6

平成 8 年度 5 月 7 日より学外開放開始

学外者入室者数

H.8	H.9	H.10	H.11	H.12	H.13	H.14	H.15	H.16
222	155	92	77	64	59	81	118	138

貸出（利用）冊数

	H.10	H.11	H.12	H.13	H.14	H.15	H.16
図書	64	101	154	94	73	137	364
雑誌	-	-	-	-	-	18	31
視聴覚	-	4	0	13	5	4	14

\*表中「-」は学生・教職員と合わせて集計されているため、単独では数字が出ないもの

（出典 庶務課資料）

利用者数、貸出冊数ともに顕著な増加傾向は認められないが、平成 1 4 年度には本校の図書館利用を呼びかける新聞折り込みを近隣地区 3 , 0 0 0 世帯に配布するなどの取組みを行っている（資料 1 - - 1 7 ）。

図書館の利用を呼びかける関係資料

# ご存じでしたか？

## 釧路高専図書館は、 一般の方も ご利用できます。

\*\*\*\* 最近の高専図書館では、

宮部みゆき「模倣犯」  
週刊ビジュアル日本の歴史  
村上春樹「海辺のカフカ」  
NHKプロジェクトX



こんな本も買っています \*\*\*\*

はなまるお弁当マニュアル  
千年王国の惨劇  
インターネットの基本  
知の再発見 双書 1～100

### ～公開時間～

月曜日～金曜日 9:00～20:00  
土曜日 9:00～17:00

### ～休館日～

日曜日、国民の祝日(振替休日を含む)  
年末年始(12月28日から1月4日)  
開校記念日(振替休業)  
春季・夏季・冬季及び学年末の長期休業期間中の土曜日

釧路工業高等専門学校図書館

〒084-0916

釧路市大楽毛西2丁目32-1

電話 0154-57-7206

FAX 0154-57-6257

E-mail tosho@office.kushiro-ct.ac.jp

(出典 実際に配付されたチラシ)

(分析結果とその根拠理由)

本校において、正規課程の学生以外に対する教育サービスは、教育理念の中で学校本来の任務とし

て明確に示されており、また、その実施計画や具体的方針が、数値目標を設定して明らかにされている。教育サービスの目的は、わかりやすい表現により社会に公表されている。公開講座、こども開放プラン、出前授業などの事業が多くの企画により実施され、その内容は、一般市民の生涯学習意欲に応えるもの、青少年の科学への興味喚起や子供たちの理科離れに対応するもの、企業向けの先端技術に関するものなど多岐にわたるが、いずれも本校の教育サービスの目的を十分に意識した内容となっている。また、各事業における広報活動は、単に参加者の確保を図る以外に、本校の取組を社会に広く伝えるための重要なものとして位置づけられ積極的に行われている。また、教員シーズ集を刊行し、一般市民や企業に対し教員の持つシーズがどのように役立つか情報発信を行っている。以上のことから、本校の教育サービスは、その目的や具体的方針が明確に定められ、計画的に実施されている。

観点1 - : サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

平成16年度における各事業の実施状況を示す(資料1 - - 1)(資料1 - - 2)(資料1 - - 3)。

資料1 - - 1

平成16年度公開講座の実施状況を示す資料

	講座名	開催期間	開講時間	開講時間	募集人数	受講者	有効回答数(A)	左の内満足回答者数(B)	満足度率(B/A)
1	LEGOブロックで動物ロボットを作ろう(土江)	7/4(日)	10:00~15:00		4	10	14	14	1
		7/3(土)			4	5	5	5	1
2	コンピュータへの入力の基本(佐治)	7/17(土)	14:00~17:00		3	15	13	12	1
3	釧路建築散歩(西澤)	8/21(土)	9:30~12:30		3	40	39	38	1
4	やさしい家づくり2004(千葉)	8/24(火)~25(水)	13:30~16:30		6	20	19	16	0.94
5	SambaとOpenLDAPで作るWindows(高橋)	8/28(土)、9/4(土)	9:00~16:00		12	5	2	2	1
6	文学における愛の形(小田島)	9/18(土)、10/2(土)	14:30~18:30		8	20	35	25	0.96
		10/16(土)、10/30(土)						24	
7	パワーポイントを使いこなそう(小杉)	10/31(日)	13:00~17:00		4	15	31	30	1
8	ホームページの作成(浅水)	11/13(土)、11/14(日)	9:00~12:00		6	15	22	21	1
9	年賀状作成講座(大貫)	11/21(日)	13:30~17:00		3.5	10	13	12	1
10	ためしてナットク理科実験(浦家他)	11/20(土)	9:00~12:00		3	20	17	14	1
11	ニューテクノロジーセミナー(岩淵他)	12/2(木)~12/7(火)	18:00~20:00		8		23	23	1
	1)金属材料の防食と耐食正評価(岩淵)	12/2(木)					9		
	2)新エネルギー発電(山岡)	12/3(金)					4		
	3)質量分析計の新しい手法(加藤)	12/6(月)					2		
	4)無線LANの構築とセキュリティ対策(大槻)	12/7(火)					8		

\* 満足度調査項目: A大変有意義、イまあまあ有意義、ウ有意義ではない、エどちらとも言えない  
上記項目の内、A及びイを「満足」として評価した。

(出典 庶務課文書)

資料1 - - 2

平成16年度こども開放プランの実施状況を示す資料

	事業名称	実施日時	主な対象者	参加者	有効回答数 (A)	左の内満足回 答者数(B)	満足度率 (B/A)
1	雷と氷の不思議発見	7月26日(月) 10:00~12:00	小学生10名	小学生 8名	8	8	1
2	ドラエもん・のび太の家を科学す	7月27日(火) 13:00~16:00	小学校高学年10名	小学生 11名	7	6	0.86
3	尿の製作	7月28日(水)・29日(木) 13:00~17:00	小・中学生15名	小学生 11名	9	9	1
4	コンピュータで映画を作ろう	8月3日(火) 9:30~12:30	小・中学生14名	小学生3名、中学生2名	5	5	1
5	液体窒素の不思議な世界と 温度差で電気を作ろう	8月6日(金) 13:00~16:00	小学校高学年以上10名	小学生 10名	11	11	1
6	コンピュータでロボットを動かそう	8月10日(火) 10:00~15:00	小学校高学年~高校生 15名	小学生9名、中学生6名	14	13	0.93
		1月7日(金) 10:00~15:00	小学校高学年~高校生 15名	小学生5名、中学生4名	9	7	0.78
7	エンジンを知らう「分解と組立」	1月10日(月) 10:00~15:00	中学生 12名	参加者なし	0	0	0

※ 満足度調査項目:ア大変楽しかった、イまあまあ楽しかった、ウ楽しくなかった、エどちらとも言えない

上記項目の内、ア及びイの回答を「満足」と評価した。

(出典 庶務課文書)

資料1 - - 3

平成16年度出前授業の実施状況を示す資料

No	中学校名	学級数	実施日時	テーマ	アンケート 回収枚数	満足度
1	標茶町立標茶中学校	1	6/30(水) 10:50~11:40	2	32	0.97
2	標茶町立標茶中学校	1	11/1(月) 10:50~11:40	2	30	1
3	阿寒町立仁々志別中学校	1	8/24(火) 11:30~12:20	4	5	1
4	釧路市立桜が丘中学校	1	8/26(木) 8:55~ 9:45	5	32	0.97
5	北海道教育大学 附属釧路中学校	1	8/26(木) 13:40~15:30	4	32	1
6	釧路町立遠矢中学校	1	9/13(月) 11:45~12:35	5	19	0.78
7	白糠町立底路中学校	1	9/14(火) 10:00~11:00	6	33	0.9
8	鹿追町立瓜幕中学校	2	9/17(金) 11:25~12:15 13:05~13:50	1	51	0.98
9	大樹町立尾田中学校	1	10/4(月) 13:05~14:55	1	5	1
10	釧路市立山花中学校	1	10/5(火) 13:15~14:55	4	16	1
11	根室市立厚床中学校	1	10/28(木) 14:00~15:00	6	28	0.86
12	帯広市立八千代中学校	1	10/29(金) 11:40~12:30	4	22	1
13	釧路市立大楽毛中学校	4	11/2(火) 13:15~14:55 11/9(火) 13:15~14:55	3	101	0.6
14	釧路市立鳥取西中学校	1	11/26(金) 9:55~10:45	2	15	0.8

421

〈テーマ〉

- 1 地震と建物                      4 温度と電子の動き  
 2 新エネルギーと環境問題      5 材料の不思議な世界  
 3 コロナ放電とその応用        6 コンピュータグラフィックスの世界

満足度調査項目: ア面白かった、イ少し面白かった、ウあまり面白くなかった、エつまらない

上記項目の内、ア及びイを満足と評価した。

(出典 庶務課文書)

公開講座の実績は、中期計画(2)を十分上回る数が企画され、内容も豊富なものとなっている。受講者数は募集人数をほぼ充足している。なかには、定員の2倍以上の参加者を集めた企画もあった。講座5は企業向け先端技術講座として有料で計画したもので、他はすべて無料の講座として実施した。有料講座の料金設定は、高専機構の定める規定により、5の場合7,200円と高額である。当地の経済状況から鑑み高額の講座は参加者を集めにくい事情にある。すべての講座で、受講者によるアンケート調査を実施し、次の企画へ反映させる取組を行っている(資料1- -4)。

資料1- -4

受講者に対するアンケート調査(例)を示す資料

## 公開講座(文学における愛の形)アンケート

9月18日、10月2日、16日、30日(土) 18:30~20:30

本校の公開講座を受講いただきまして、ありがとうございます。

今後、開催する公開講座の参考といたしますので、お手数ですが次のアンケートにお答えください。

1. 性別(男・女) 職業( ) 年齢( 歳)



資料 1 - - 5

サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業の概要を示す資料

これまでの取組等

本校では、子どもの科学技術、理科、数学に対する興味を引き出し、面白さを体験させようと、これまで子ども向けの公開講座、子ども開放プラン及び出前授業などに積極的に取り組んでいる。それらの成果は年々上がっており、子どもや小中学校の教員にも好評であり一定の成果を上げてきた。しかし、本校独自で開催してきた今までの事業では、予算面、広報活動及び人的広がり限界を感じてきている。それらを解決する一つの方策として、教育委員会と連携し、子ども達に実際に授業を教える小中学校教員に理科実験等の支援を行う。そして教員自身がより高いスキルを身につけることによって、実際の授業の質が高まり、子ども達の科学技術、理科、数学等に対する興味・関心と知的探究心をいっそう高める取組を行う必要性を感じている。

教員研修の名称 目の仕組みと光

教員研修のねらい

理科を専門としない小学校の教員にとっては、実験は苦手若しくは面倒という意識がある。そこで今回、釧路市教育委員会と連携して本校の教員が蓄積している実験技術や本校の実験器具を活かし、小学校の授業で展開できる理科実験を主体とした教員研修を実施することとした。興味深いと思われる演示実験や児童実験を、教員自ら体験し内容を理解することで、もっと気楽に実験を授業に取り入れてもらえることをねらいとする。また、ある程度高度な実験を体験することによって、児童には見せられなくても授業で話を膨らませられることを目的とする。また、本研修に参加した教員が、これを機会に実験を通して子ども達の理科に対する興味・関心と知的探究心を一層高めるための授業を展開することが可能となり、より広い範囲での児童への影響が期待される。

具体的な取組内容

1 日目：小学校学習指導要領「理科」第 3 学年で行う「B物質とエネルギー」で取り上げる光の性質に関する実験を行う。レンズのふくらみで結像位置が変化することを確認する。虫メガネでスクリーンに実像が得られることを確認する。LEDを用いて光の色によって屈折率が微妙に違うことを確認する。

2 日目：前日の実験より若干高度な内容を行い、授業を進める上での広がりを持たせることを目的とした実験を行う。こう彩の働きを鏡で確認する。豚の目の解剖を通じて水晶体を確認する。人間の目で感知できない光の性質として偏光現象を確認する。フラッシュ撮影の赤目とは何かを理解する。

(出典 サイエンス・パートナーシップ・プログラム実施申請書)

次に、出前授業は、中期計画(5)を上回る17クラスで実施した。受講した全クラスの中学生に対し以下のアンケートを実施した(資料1--6)。

資料 1 - - 6

平成 16 年度 釧路高専  
特別出前授業 アンケート



このアンケートは、今後、本校が行う各種事業の企画に当たって参考とさせていただくためにお願いするものです。どうぞご協力をお願いします。

学校名： \_\_\_\_\_

学 年： \_\_\_\_\_ 年（男・女）

Q 1 . 今回の授業は面白かったですか。

面白かった     少し面白かった     あまり面白くなかった     つまらなかった

Q 2 . 今回の授業は解りやすかったですか。

解りやすい     少し解かりやすい     少し難しい     難しい

Q 3 . 今回の授業内容に興味を持ちましたか。

とても興味を持った     少し興味を持った     あまり興味がわかなかった  
 全然興味がわかなかった

Q 4 . 今回の授業で特に印象に残ったことは何ですか。

Q 5 . 今回の授業以外に見てみたい（やってみたい）実験などがありますか？

ご協力ありがとうございました

（出典 庶務課文書）

満足度調査の結果では、1校を除き概ね好評を得ている。特に地方の小規模校でより高い評価を得ていることがわかる。満足度60%のケースは、テーマの難解さが原因となっていたと思われる。

事業の改善に資するため、翌年度の計画作りに着手する2月に中学校教員との意見交換会を開催した（資料1- -6）。

資料1 - - 6

### 中学校教員との意見交換会に関する資料

日 時 平成17年2月24日（木） 16時から17時15分

会 場 釧路市生涯学習センター703学習室

出席者 春採中学校

共栄中学校

景雲中学校

大楽毛中学校

桜ヶ丘中学校

美原中学校

鳥取西中学校

山花中学校

別保中学校

富原中学校

釧路高専校務主事 中 村 隆 釧路高専校務主事補 草 苅 敏 夫

〃 一般教科 松 崎 俊 明 〃 電子工学科 坂 口 直 志

〃 電子工学科 櫻 田 安 志 〃 情報工学科 神 谷 昭 基

〃 庶務課長 小 山 幸 弘 〃 庶務課 青 山 喜 治

意見交換会に入る前に、中村校務主事から、本校の諸行事への理解と協力に対する謝辞が述べられた。その後自己紹介（高専職員から中学校の先生の順で）があった。

意見交換会

1、本校の出前授業

草苅校務主事補から、現在の出前授業の実施方法について、次の説明があった。

- ・各中学校 1 テーマを実施している
- ・対象生徒数を約 20 名としている
- ・テーマ希望が多数重複した場合は、高専側で調整する。
- ・実施期間は、8 月から 10 月までの平日である。

## 2、出前授業を受けた感想

出前授業を受けた中学校の先生に感想を求めると、次の感想が述べられた。

(主な感想を記載)

・高専の出前授業は、授業内容も難しく講師がその内容を説明しても、理解できない生徒もいる。特に理科に興味のうすい生徒に多い。

・選択理科として受けている。生徒達は、実験装置等の視覚的に判断できるものを喜んで。また、毎年同一テーマで実施してもらえるものと思っていた。

・実施された出前授業の内容が、その時の 3 年生の授業内容と合致しており実施時期はとてもよかった。生徒達が実際に体験できるものの方が良いと思う。

## 3、来年度の出前授業

小山庶務課長から、本校の出前授業を中学校の年間スケジュールに入れてもらうためには、いつごろ案内をしたらよいのかとの質問があり、各先生からは、翌年度の年間スケジュール(素案)は 2 月中にほぼ決まるが、早い時期に案内があっても対応できない。また、実際に担当する授業(単元)は、4 月に入って決まるが、この時期に出前授業のテーマを知る機会があることは、他の理科の先生達と出前授業について話し合えるためよい等の回答があった。

今回提出した資料については、必修科目としてならば数個は、希望できるテーマがある回答があったが、高専側の実施時期からは外れてしまうものがある。

また、今後はテーマ毎に対応可能人数を明記して欲しい旨の要望があった。

## 4、実施に対する要望

中学校からの要望は、次のとおりであった。

- ・必修科目として同一テーマを全クラスで実施して欲しい。
- ・自分が担当する授業内容と同一テーマの出前授業を希望する。
- ・中学校の授業に合わせた時期で、実施して欲しい

草苅校務主事補から、中学校に希望するテーマ等のアンケートを行うこと、初めに出前授業の対象生徒数や実施期間並びに各中学校 1 テーマを実施している等の説明を行ったが、これらは高専から一方的に制限を示したものである。しかし、今後は、中学校のニーズに柔軟に対応するため個別の相談に応じる等の取り組みをしていきたいことの発言があった。

## 5、その他

庶務課長から、本日の意見交換会を、今後における高専と中学校の先生方とのネットワークづくりの契機としたい旨の発言があり終了した。以上

(出典 庶務課作成意見交換会記録)

意見交換会で示された中学校側の要望を生かし、平成 17 年度にはテーマ数を 6 テーマから 13 テーマに増やし改善を図った。

本校では、教育サービスに関する事業については校務主事・同主事補等の教員組織と事務組織の協働・連携の取組として実施している(資料 1- -7)。

校務主事及び庶務課の所掌事項を示す資料

第9条 校務主事は、校長の命を受け、校務における次の各号に掲げる事項を掌理する。

(略)

五 地域及び社会への協力貢献に関すること。(地域共同テクノセンター規程第2条に掲げる業務を除く。)

(以下略)

(出典 釧路工業高等専門学校教員組織及び職務分掌規程)

(庶務課)(専門職員(企画・調査担当))

第15条の2 専門職員は、次の事務を分掌する。

(略)

(8) 公開講座その他地域連携事業の実施に関すること。

(以下略)

(出典 釧路工業高等専門学校事務組織規程)

教員は、講座の内容やテーマに関し専門的識見を生かして計画に関与する。事務組織は、事業全体の企画や広報活動、アンケートの実施・集計・分析などを行う。

(分析結果とその根拠理由)

公開講座、こども開放プラン、出前授業の教育サービスに係る主要3事業ともに、中期計画で設定した数値目標を、実施回数、参加者数、満足度の面で十分達成しており成果が上がっている。全受講者に対し実施したアンケート調査、出前授業における中学校教員との意見交換会等の改善のためのシステムが機能しており、テーマ数の充実やサイエンス・パートナーシップ・プログラムの採択など改善に貢献している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

・教育サービスの目的を達成するための計画や具体的方針が数値目標を設定して明らかにされ、これを達成している。

・各事業の広報活動やシーズ集の刊行などが、高専の取組を広く社会に伝えるための重要なものとして位置づけられ積極的に行われている。

・全受講者に対して実施したアンケート調査など改善のためのシステムが機能した結果、サイエンス・パートナーシップ・プログラムの採択など新事業の実施に結びつき、成果を上げている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 選択的評価基準の自己評価の概要

正規課程の学生以外に対する教育サービスが、本校の教育理念のなかで学校本来の任務として明確に示され、その実施計画や具体的方針が数値目標を設定して明らかにされている。公開講座は、一般市民の生涯学習意欲に応えるもの、青少年の科学への興味喚起やこども達の理科離れに対応するもの及び企業向けの先端技術に関するものを豊富な内容で計画的に実施されている。こども開放プラン、出前授業も多彩なプログラムを用意し、小中学生のニーズに応える内容により数多く実施されている。各事業の広報活動は、参加者確保の目的以外に本校の取組を社会に広く伝えるための重要な位置づけとして積極的に行われ、また、教員シーズ集を刊行し一般市民・企業に役立つ情報を発信している。

平成16年度の実施状況は、公開講座、こども開放プラン、出前授業の3事業で開催回数、参加者

数、アンケート調査による満足度とともに目標を達成しており、十分な成果を上げている。アンケートは全受講者に対し行われ、また、出前授業の対象となる中学校教員との意見交換会の開催など改善のためのシステムがあり、サイエンス・パートナーシップ・プログラムの採択による新事業の実施など改善に結びついている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。